
遊戯王3G's

逸材

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王3G's

【Nコード】

N7715U

【作者名】

逸材

【あらすじ】

祝：お気に入り登録10件突破！感謝です！

第21話に挿絵を挿入しました！

何でかWikiに無い【ゲート・ガーディアン】を考えてみました！ムイミー

『神のカード』

それは人が好奇心だけで作った力の象徴。

その力を剣として傷つけるのか

あるいは盾として護るのか

それは、力を欲する者次第

逸材と申します。この小説については前書きと第0話プロローグを
ご覧ください。

前書き(前書き)

ちよくちよく変わる前書き、確認しておくこと！(え

前書き

はじめまして、逸材と申します。

題名変更しました！

遊戯王5D・sの神の戦争

遊戯王3G・s

最初に、この物語の注意です。

この物語は5D・sの世界観を利用したオリジナルストーリーです。

この物語の主要キャラは原作キャラを除きオリジナルキャラです。

遊戯王5D・s中心です。無印とGXの登場は少なめです。

後半になるにつれ出番は増えていきます。ぶっちゃけ登場は第4章のみ。

オリジナルカードは（下記の場合を除いて）完全未登場予定です。

注意1：仮にオリジナルカード登場の場合は「オリカありVer」
「オリカなしVer」のデュエルを分けて投稿します。

注意2：アニメオリジナルカードの登場を極少数登場します。何のカードか知りたい人は感想にて質問してください。（第2章で登場

予定)

デュエル脳です。

デュエル中心です。デュエルが長いつて事です。

デュエルごとにデッキ内容が結構に変わっています(辻褃あわせのカード、デッキコピセントに合わないカード)。

特に以下のカードはデッキを選ばず登場しますが、ご了承ください。
い。

《ガード・ブロック》 《貪欲な壺》 《マジック・プランター》等の
ドローカード

禁止・制限リストは第1章(0話)20話)までは2011年3
月1日の禁止制限を参考にしています。

それ以降は2011年9月1日を参考にしています。

更新が遅いです。理由は著者が忙しいから、本当に忙しいです。

以上のことが許せる人は読んでください！

そのほか、質問・要望は感想にて言ってください。

現状報告（11月21日更新）（前書き）

とりあえず作った現状報告。

意思表示を大事にしておきたいと思いましたが。

現状報告（11月21日更新）

現状報告

時間がまったくありません。

更新はだいぶ遅くなりそうです。

誤字やデュエルのミスの指摘、質問、文句だけでなく、とりあえず何か言ってみる、というだけでも著者のモチベは上がります。

ぜひとも、何か言ってくれと嬉しいです。

では、失礼します。

（8月13日より小説の修正点を掲載）

8月13日 一部の登場人物の名前の誤字があつたため修正。 申し訳ありませんでした。

8月14日 外伝にて、第1章は全18話を予定していると表記しましたが、変更するかもしれません。

8月15日 一部、ミスを修正。 申し訳ありませんでした。

8月23日 第14話のミスを修正。 申し訳ありませんでした。

9月1日 第17話の題名変更。それに伴い、16話の次回予告を変更。 申し訳ありません。

9月6日 第18話の投稿に伴い、16話・17話のデュエル内容を若干変更。 本来に申し訳ありません。

9月6日 題名変更！『遊戯王5D・S〜神の戦争〜』 『遊戯王3G・S』へ！

深い意味はない！

11月3日 『黒羽の宝札』のミス発覚。修正します（――）

11月21日 現在の物語に影響はありませんが、母親『黒田みつこの名前を（今後の都合上と個人的に名前が適当だったのが嫌だったので）』黒田幽美くろたゆうみ』に変更します。

第0話 プロローグ（前書き）

第1章での登場人物です。

第2章以降のものは2章開始時に投稿します。

…一部変更（オイ

注：さらに変更、遊戯王5D・sのキャラの年齢に間違いがありました。修正いたします。

第0話 プロローグ

ここは『ネオ・ドミノシティ』。

『不動遊星』と呼ばれる男がこの町を救ってからの物語だ。

(5D's 時間軸はZ' ONE戦後〜遊星VSジャック戦の間の物語)

この物語は、「神」と呼ばれる力をかけた「闇のゲーム」である。

この物語の主人公は「黒田 幽」

舞台はデュエルアカデミア

今ここに、神をかけた究極のゲームが始まる。

第0話END

人物紹介

黒田 幽

18歳。デュエルアカデミア3年生。

実力は5位。生徒会会長。

使用デッキは【ダークモンスター+?????】

黒田 亮

16歳。デュエルアカデミア1年生。
実力は1位。幽の弟。現在、サイバー流継承者。
使用デッキは【サイバー流+???】

氷炎 隼人

18歳。デュエルアカデミア3年生。
実力は2位。生徒会書記。幽の腐れ縁。
使用デッキは【ドラゴン族軸フロフレホルス】

高島 実

18歳。デュエルアカデミア3年生。
実力は普通。黒田家と家が近い。
使用デッキは【ローレベルシンクロ】

水面 綾香

18歳。デュエルアカデミア3年生。
実力は3位、生徒会副会長。
使用デッキは【リチュア】

如月 望

18歳。デュエルアカデミア3年生。
実力は4位。生徒会会計。
使用デッキは【天使族】

クロウ・ホーガン

19歳。『不動遊星』の親友。シグナー。現在セキリュティに居る。
最近物騒な事件が多いので監視として学校に居る。
使用デッキは【BF】

クロノス先生

41歳。デュエルアカデミア教師。
使用デッキは【アンティーク・ギア】

十六夜 いざよひ アキ

18歳。『不動遊星』の親友。シグナー。

最近は姿を見せないが…

使用デッキは【植物族】

ミスターT

正体不明の男。

使用デッキは【???】

ゴースト

黒田豪の死角。闇のゲームを挑んでくる。

使用デッキは【シンクロアンデ】【ネクロフェイス】【アームド・ドラゴン】【フルバーン】【メタビート】の5種類。

龍亞 りゅうあ

13歳。シグナー。

妹に双子の龍可りゅうかが居る。

使用デッキは【D】デュエフォーマー

龍可 りゅうか

13歳。シグナー。

龍亞の双子の妹。精霊が見える。

使用デッキは【ロック+ライフ回復】

ドラガン

??歳（想像にお任せします）。ルーンに瞳を持つデュエリスト。
RDで、ブレイブ・ハラルドと共にチームを組んでいる。

使用デッキは【極神皇トール】

ブレイブ

??歳（想像にry）。ルーンの瞳を持つデュエリスト。
RDで、ドラガン・ハラルドと共にチームを組んでいる。
使用デッキは【極神皇ロキ】

デュエルをしない人物たち

天保 神太郎

18歳。デュエルアカデミア3年生。

実力は1位。デュエルアカデミアでは他の生徒だけでなく教師よりもずつと実力がある。

使用デッキは【???】

不動 遊星

20歳。皆さんお馴染み主人公。シグナー。

通称：メ蟹ツク。機械には強く、何でもできる人。

使用デッキは【ローレベルシンクロ】

ジャック・アトラス

21歳。元キング、ニート。一応、シグナー。

最近バイトが見つかったらしい。

使用デッキは【ドラゴン族+リゾネーター+ゴーレム】

鬼柳 京介

22歳。＼（、´）＼デュエツ！な人。元ダークシグナー。

皆知っているように、「満足」が口癖。

満足街の復興作業が一通り終了したため、現在は遊星のところに居

る。

使用デッキは【インフェルニティ】

ハラルド

??歳。(想像ry)ルーンの瞳を持つデュエリスト。

RDで、ドラガン・ブレイブと共にチームを組んでいる、リーダー。

使用デッキは【極神聖天オーディン】

黒田 豪くろだ たけし

44歳。黒田幽と黒田亮の父親。

黒田 幽美くろだ ゆうみ

41歳。黒田幽と黒田亮の母親。

第0話 プロローグ（後書き）

次回予告

不動遊星「とりあえず俺からの次回予告だ。平凡な高校生と過去に暴動を起こしたゴーストとの戦い。第1話『闇の始まり』 神をかけた物語が今始まる。」

クロウ「俺からは次回のキーカードだ！次回は『極神皇ロキ』が活躍するぜ！楽しみにしてくれ！」

ジャック「（ブルーアイズマウンテンを）O K A W A R I
D A !」

クロウ「おい！またお前は人のお金で！」

不動遊星（…変わらないな…）

第1話 闇の始まり

デュエルアカデミア生徒会室

氷炎隼人「『ホルスの黒炎竜Lv8』で幽に直接攻撃！ブラック・メガフレイム！！」

黒田幽「墓地の『ネクロガードナー』の効果、墓地のこのカードを除外して相手の攻撃を無効にする。」

隼人「ちつ、カードを1枚伏せて、ターンエンド。」

現在、幽VS隼人、毎日の日課となっているこの勝負。

幽 LP2300 場・手札無し デッキ18枚

隼人 LP2300 ホルスLv8 伏せ 手札0 デッキ9枚

水面綾香「黒ちゃんはアドバンテージ的に不利…、だけど隼人もホルスを倒されたらそれは同じ。」

如月望「黒田さんがホルスを倒せれば勝ちなんだけどねえ…」

幽「いくか、俺のターン、ドロー」

幽 手札0 - 1

幽「来たか、俺は墓地に闇属性モンスターが5体以上存在するとき『ダーククリエイター』は手札から特殊召喚できる。」手札1 - 0

綾香「ここで、ダーククリエイターを引くなんて、流石黒ちゃんだな」

隼人「そうこなくては！さあ、こい！」

幽「遠慮なく行くぞ、『ダーク・クリエイター』の効果、墓地の『終末の騎士』をゲームから除外して墓地の『ダーク・ホルス・ドラゴン』を特殊召喚。」

幽「バトル、『ダーク・ホルス・ドラゴン』で『ホルスの黒炎竜LV8』に攻撃、ダークネス・メガフレイム！」

ダークホルス ATK3000 VS ホルス8 ATK3000

隼人「く…そつ…！」

幽「よし…、『ダーク・クリエイター』で直接攻撃！地獄の雷！」

クリエイター ATK2300 VS 直接 LP2300

望「この攻撃が通れば…！」

綾香（だけど…あの伏せカード…）

隼人「リバーズカード 『ガードブロック』！ダメージを0にしてカードを1枚ドロー！」

幽「……ターンエンド。」

14ターン目

幽 LP2300 ダークホルス クリエイター 手札0 デッキ17

隼人 LP2300 ホルスLv8 手札1 デッキ8

隼人「いくぜ！俺のターン！ドロー！」手札2

隼人（…きたか！）

隼人「いくぜ！スタンバイフェイズに墓地の『黄泉ガエル』の効果！自分の場に魔法・罠がないとき、このカードを墓地より特殊召喚！」

隼人「さらに『黄泉ガエル』をリリースし、『ホルスの黒炎竜Lv6』を召喚！」手札2-1

望「…？ここでホルス？」

幽「…だが、攻撃力は届かない…」

隼人「まだだ！墓地の『仮面龍』『炎龍』『ブリザード・ドラゴン』をゲームから除外して、手札より『氷炎の双竜』を特殊召喚！」手札1-0

幽「…！」

綾香「だけど『氷炎の双竜』の効果のための手札コストがない…！」

幽「…墓地の『ヴォルカニック・バレット』か…」

隼人「察しがいいな！『ヴォルカニック・バレット』の効果！墓地に存在するときLP500を払い、デッキより『ヴォルカニック・バレット』を手札に加える！」LP2300-1800手札0-1

幽「く…っ」

隼人「さらに『氷炎の双竜』の効果！手札1枚をコストにフィール

ド上のモンスター 『ダーク・ホルス・ドラゴン』を破壊！
手札1-0

隼人「バトルだ！『ホルスの黒炎竜Lv6』で『ダーク・クリエ
ター』を攻撃！ダーク・フレイル！」

クリエーター ATK2300 VS ホルス6 ATK2300

幽「…！」

綾香「これで黒ちゃんの場のモンスターは全滅…！」

隼人「これで終わりだ！『氷炎の双竜』で直接攻撃！カオスバレッ
ト…！」

幽「…」 LP2300-0

幽「おいおい、これで何連敗だよ…！」

隼人「まあ、これが俺の実力だよ。」

彼の名前は『氷炎隼人』。俺の親友でありライバルだ。

メガネは黒縁で全体的にまじめというイメージを受けるが、性格は
不真面目のムードメーカーというギャップ付きだ。

…よく生徒会には入れたって思うような奴だ。

最近は急に実力が上がって、中々勝てなくなった…

綾香「まあ、黒ちゃん仕方ないって。」

望「相手が氷炎さんだからねー」

そう言う二人は『水面綾香』と『如月望』だ。

水面は日本人には珍しい青色の髪（自毛）だ。

青色の髪のせいか、全体的に明るい感じの女性だ。

もう一人の如月は常に幸せそうな顔をして、何を考えているかわからないやつだ。

怒っているところは見たことがない。

幽「大丈夫、次は負けないからさ。」

隼人「次は、つて、それ何回目だと思ってる？」

幽「……」

幽がふうっ…とため息をつくとき、ドアが開いた。

クロウ・ホーガン「おい、この前のデュエル大会の結果が出たからまとめるってクロノス先生が言ってたぞ。」

綾香「あ、クロウー！」

彼の名前は『クロウ・ホーガン』。

フォーチュンカップ優勝者の現キング『不動遊星』の友達らしい。

今はセキリユティ代表者って事でデュエルアカデミアに居る。

マーカ趣味なのか顔にはマーカが多い。

幽「あ、クロウ…新しい仕事か…」

隼人「あー、面倒だな。幽、やっといてくれ。」

幽「文句を言うな、やるよ。」

望「黒田さん、働きすぎですねー」
綾香「望も、文句言わないで、早くやろう。」
望「……。 (ため息) 」

3時間後

綾香「うーん、やっと終わったー！」
隼人「お疲れ様ー…、過労死しそうだ…」

幽「後の片づけはやっとくよ、もう9時だから、みんな先に帰って。」
綾香「黒ちゃん、悪くない？手伝おうか？」
幽「いや、大丈夫。みんな疲れてるだろうし。」
望「綾香、あとは黒田さんに任せようよ。」
そういう望はすでに帰る準備をしている。

ちやつかり横で隼人も帰る準備を完了している。

綾香「そっか、じゃあお願いするね。ありがとう。」
幽「あ、気にしないで。それじゃ、お疲れ。」
そう言って3人は帰って行った。

もし、この時4人で帰っていたら、あの悪夢はあったのだろうか。
だが、考えても仕方ない。

闇は、すでに彼を捕えたのだから

さらに1時間後

幽は一人で自転車を走らせていた。

幽「結構長引いたな…、亮が心配してそうだ。」

近道をしようと、裏道に入る幽。

幽「……………なんだ？」

前方にバイクが一台止まっている。

この道を知っている人は非常に少なく、めったに人を見ることがないから、人がいること自体珍しいのだ。

幽「…まあ、いいか」

そう言って横を通り過ぎようとした時

????「黒田 幽……」

そのバイクの人が急に幽の名前を呼んだ。
その声は機械のような声だった。

幽は止まり、その男を見る。

外見は黒い服を着てよく見えない。眼は目立ち、光っている。が、ヘルメットをかぶっていてはやりよく見えない。
外見だけだと、普通に不審者に見える。

幽「あんた、誰だ……？」

そういうと、また、機械のような声で言った。

????「私の名は『ゴースト』……、黒田幽、私とデュエルだ。」

幽「……は？」

そりゃ、いくら世界的に人気だからって、見知らぬ人からデュエルしろよ、と言われたら誰だって焦る。

ゴ「もう一度言う、私とデュエルだ。」

幽「おいおい、最近の子供は『見知らぬ人とデュエルしてはいけま

せん』って教育を受けてるんだよ。」

そう言って幽はその場を離れようとする。
だが……………

ゴー「黒田 豪……………」

幽「…そいつがどうした？」

ゴー「私に勝てばこの男の事を教えてやろう。」

幽「……………何者だ、お前は……………」

そう言って自転車を降りる幽。

ゴー「どうする？黒田幽。デュエルするのか。」

ゴーストと呼ばれる男の目が闇に光る。

幽「ふん……………このデュエル脳が。」

そう言ってカバンの中からデュエルディスクを出す。

幽「…いいだろう、かかってこい。」

ゴー「フフフ……………貴様の命、ここで貰い受けよう。」

互いにデュエルディスクを構える。
辺りを闇が覆い、さらに暗くなる。

幽「…闇のゲームか。やはり豪の差し金か。」

ゴ「お前がそれを知ることには無い。この私が勝つからな。」
幽「……………」

幽・ゴ「デュエル!!」

幽LP8000 手札5
ゴLP8000 手札5

幽「俺の先攻、ドロー」
幽 手札5 - 6 デッキ34

ゴ「さあ、せいぜい私を楽しませ…」
幽「少し黙れ。」

幽「俺はリバースを2枚セットして、ターンエンドだ。」
1ターン目終了
幽LP8000 手札4 裏守備1 リバース1
ゴLP8000 手札5

ゴ「私のターン!!」

ゴ― 手札5 - 6 デッキ34

ゴ―「私は魔法カード『おろかな埋葬』を発動！デッキの『ゾンビキャリア』を墓地へ送る！」

ゴ― 手札6 - 5 デッキ33

幽「…【シンクロアンデット】か」

ゴ―「さらに私は、手札より『ゾンビマスター』を召喚！さらに手札を1枚墓地へ送り効果を発動！」

ゴ― 手札5 - 3

ゴ―「『ゾンビマスター』の効果により、墓地のレベル4以下のアンデット族モンスター1体を特殊召喚！私は『ゾンビキャリア』を蘇生！」

幽「チューナー…シンクロ召喚か。」

ゴ―「その通り！レベル4の『ゾンビマスター』に、レベル2の『ゾンビキャリア』をチューニング！」

ゴ―「冥界の魔王よ！死してなおその悪夢を敵に見せつけよ！シンクロ召喚！悪夢の象徴、『蘇りし魔王 ハデス』！」

幽「……………」

ゴ―「ハデスには破壊したモンスターの効果を無効にすることができる！さあ、バトルフェイズ！ハデスで」

幽「バトルフェイズ開始時に速攻魔法『月の書』を発動。このカードの効果によりモンスター1体を裏側守備表示にする。対象は『蘇

りし魔王 ハデス』。」

ゴ「何っ!?!」

幽「驚いている暇があったらさっさとしろ。」

ゴ「くっ、カードを1枚伏せてターンエンド!」

2ターン目終了

幽LP8000 手札4 裏守備

ゴLP8000 手札2 裏守備 (ハデス) リバース1

幽(…やつの伏せカードはおそらく攻撃無効系、しかも『聖なるバリア ミラーフォース』のような破壊系カードだろう…)

幽「俺のターン、ドロー」

幽 手札4 - 5 デッキ33

幽「反転召喚、『魔道雑貨商人』。このモンスターがリバースしたとき、デッキの上から魔法・罫が出るまでめぐり、そのカードを手札に加え、それ以外を墓地へ送る。」

ゴ「くっ、デッキ圧縮か…」

幽「俺のデッキの上から順に『ゾンビキャリア』、『終末の騎士』、『魔族召喚師』、『レベルステイラー』、『ダーク・アームド・ドラゴン』、『ダーク・グレファア』、『終末の騎士』、『グローアップ・バルブ』、『闇の誘惑』。俺は『闇の誘惑』を手札に加え、それ以外の8枚を墓地へ送る。」

幽 手札5 - 6 デッキ24

幽「さらに『闇の誘惑』、デッキからカードを2枚ドロ、その後手札の『ダークパーシアス』をゲームから除外。」
幽 デッキ22

幽「さらに手札より『ファントム・オブ・カオス』を召喚。効果により墓地の『ダーク・アームド・ドラゴン』を除外し、その攻撃力と効果を得る。」

幽 手札6-5

ファントムATK0-2800

ゴ「くっ、まさか…」

幽「『ダーク・アームド・ドラゴン』の効果、墓地の『終末の騎士』2体を除外してお前のフィールド上のカード2枚 裏側のカード2枚を破壊する。」

ゴ「くっ、ハデスとミラーフォースが…！」

幽「ふん、さらに墓地の『グローアップ・バルブ』の効果、デッキの上を1枚墓地に送り、墓地より特殊召喚。」

幽 デッキ21

幽「いくぞ、レベル1の『魔道雑貨商人』、レベル4の『ファントム・オブ・カオス』にレベル1の『グローアップ・バルブ』をチューニング」

ゴ「何っ、シンクロ召喚だど!？」

幽「屈指の戦士よ、今こそ力を発揮し、その槍で敵を打ち砕け

シンクロ召喚、貫け『大地の騎士 ガイヤナイト』」

幽「バトルフェイズ、ガイヤナイトで直接攻撃

ガイヤスバイラル
大地旋風!!!」

ゴ「ぎゃあああああ!」LP8000 - 5400

幽「ふん、この程度か、ターンエンド。」

3ターン目終了

幽LP8000 手札5 大地の騎士ガイヤナイトA

ゴLP5400 手札2

ゴーストは悲鳴を上げ、傷を負っているものの、その顔は薄笑いを浮かべていた。

ゴ「クッククック…貴様こそその程度か…」

幽「……」

ゴ「私のターン!」

手札2 - 3 デッキ32

ゴ「貴様が自分の『ゾンビキャリア』の効果を使わなかったことを後悔しろ!手札より『ゾンビマスター』召喚!」

ゴ 手札2

ゴ「さらに『ゾンビマスター』の効果により、手札の『馬頭鬼』をコストに蘇れ『ゾンビキャリア』!」

手札1

幽「……」

ゴ「私はレベル4の『ゾンビマスター』に、レベル2の『ゾンビキャリア』をチューニング!」

ゴ「腐敗した龍よ！絶望の姿とともにすべての死を超越せよ！シンクロ召喚！絶望の力『デスカイザードラゴン』！」

幽「…だが、攻撃力はガイヤナイトのほうが上だ。」

ゴ「その程度では終わらない！『デスカイザードラゴン』の効果。このカードがシンクロ召喚に成功したとき相手の墓地のアンデット族モンスター1体を特殊召喚することができる！」

幽「…！俺の『ゾンビキャリア』を使う気が…」

ゴ「その通り！さあ、いでよ、『ゾンビキャリア』！」

幽「ふん、とことん気に入らない野郎だ。」

ゴ「そういうのも今のうちだ！墓地の『馬頭鬼』の効果、このカードをゲームから除外して、墓地のアンデット族モンスターを特殊召喚！来い！『蘇りし魔王 ハデス』！」

幽「…まずいな、さらにシンクロ召喚をする気が…」

ゴ「さあ、貴様に悪夢を見せてやろう！レベル6の闇属性『蘇りし魔王 ハデス』にレベル2の『ゾンビキャリア』をチューニング
！！」

ゴ「絶対的な闇よ！その忌み嫌われし力を解き放て！シンクロ召喚！漆黒の龍！『ダークエンド・ドラゴン』！」

幽「何…っ、『ダークエンド・ドラゴン』だと！」

ゴ「これが私の切り札だ！見せてやろう、その力を！『ダークエンド・ドラゴン』の効果発動！このモンスターの攻撃力を500下げることです！フィールド上のモンスター1体を墓地へ送る！対象は『大地の騎士 ガイヤナイト』！」

ダークエンド ATK/2600 - 2100

幽「く…っ」

ゴ「さらに手札より魔法発動！『聖者の書 禁断の呪術』！」

幽「何…！そのカードは…！」

ゴ「このカードはアンデット族を自分の墓地より特殊召喚し、相手の墓地のモンスターをゲームから除外するカードだ！私が特殊召喚するのは『蘇りし魔王 ハデス』！そして、貴様の墓地から『ゾンビキャリア』をゲームから除外する！」

幽「ちっ…小賢しい真似を…！」

ゴ「その口を黙らせてやろう！バトルフェイズ！」

ゴ「『ダークエンド・ドラゴン』でダイレクトアタック！ダーク・フォッグ！」

幽「ぐ…はっ…」幽LP8000 - 5900

ゴ「まだまだ！『デスカイザードドラゴン』 ソンビブースト！」

幽「くっ…」幽LP5900 - 3500

ゴ「『蘇りし魔王 ハデス』 地獄の洗礼…！」

幽「ぐ…あぁっ…」幽LP3500 - 1050

ゴ「クッククック…闇のゲームではダメージが現実のものとなってプレイヤーを襲う！敗北者に待っているのは『死』だ！どうする、

黒田幽！」

4ターン目終了

幽LP1050 手札5

ゴールP5400 手札0 ハデスA デスカイザーA ダークエ
ンドA(2100)

幽「……………」

ゴー「どうした？死ぬのが怖くて何も言えないのか？」

幽「…お前の目的はなんだ？」

ゴー「ふん！冥土の土産に教えてやろう！」

ゴー「…知っているだろう！貴様も『神のカード』を！」
幽「……………やはり…か」

神のカード ペガサス・J・クロフォードが作り出した『究極
のカード』。

『三幻神』『三邪神』『三幻魔』『三極神』 強大な力を持つこの
カードは数々の伝説を残しながらも語り継がれているものもある。
逆にその存在を消したものもある。

ゴー「貴様も持っているのだろう！その強大な力を！」

幽「…だったらどうする。」

ゴー「ボスがその力を欲している！我はそのために貴様を殺し、ボ
スのために神の力を奪う！」

幽「……………」

ゴー「さあ！貴様のターンだ！せいぜい私を楽しませてみる！」

幽「…ドロー」

幽 手札5 - 6 デッキ21 - 20

幽「墓地の闇属性は5体以上、よって『ダーク・クリエーター』を特殊召喚。」

幽 手札6 - 5

ゴ「何だどつ?!」

幽「『ダーク・クリエーター』は1ターンに一度、俺の墓地の闇属性のモンスターを除外し、墓地から闇属性モンスターを特殊召喚する。」

ゴ「…だが、奴の墓地の闇属性で最高の攻撃力を持つのは『魔族召喚師』の2400。そう簡単には…」

幽「…効果により、『ファントム・オブ・カオス』を除外し、『魔族召喚師』を蘇生。」

ゴ「その程度のモンスターでどうするつもりだ！黒田幽！」

幽「……貴様に……」

幽「……貴様に……神を見せてやる……」

ゴ「な……っ……！」

その言葉を発した瞬間、闇のゲームにより発生した黒い霧が竜巻を起こすかのように周り始めた。

ゴ「（……！このガキはこれほどの……闇を持っているのか……！）」

幽「墓地の『レベルステイラー』の効果発動。自分フィールド上のレベル5以上のモンスターのレベルを一つ下げ、自身を特殊召喚する。俺は『魔族召喚師』のレベルを一つ下げ『レベルステイラー』を特殊召喚。」

魔族Lv6-5

幽「さらに、『レベルステイラー』をリリースし、来い。チューナーモンスター、『極星霊デッキアールヴ』！」

幽 手札5-4

ゴ「何だっ！そのモンスターは?!」

幽「……再び墓地の『レベルステイラー』の効果発動。自身を特殊召喚する。」

魔族Lv5-4

ゴ「まさかつ……っ……！」

幽「レベル1の『レベルステイラー』とレベル4となつた『魔族召喚師』にレベル5の『極星霊デッキアールヴ』をチューニング」

幽「世界を闇に沈めた暗黒の神よ、すべてを掌握し王として再び玉座を黒く染めよ！シンク口召喚　　降臨せよ！『極神皇ロキ』！」

ゴ「これが、神……！……クツクツクツ……これが貴様の神か！面白い！この力必ず手に入れる！」

幽「………神が舞い降りた今、貴様に勝機はない。」

ゴ「ふん！ならこの5400のLPを削りきつて見せよ！」

幽「…魔法発動『受け継がれる力』、自分フィールド上のモンスター1体をリリースし、エンドフェイズまでその攻撃力を別のモンスターに加える。俺は『ダーク・クリエーター』をリリースし、『極神皇ロキ』の攻撃力を2300上昇させる。」

幽 手札4 - 3

ロキ ATK / 3300 - 5600

幽「さらにLP1000を代償として、魔法発動『拡散する波動』、このターン自分フィールド上のレベル7以上の魔法使い族は相手モンスターに1回ずつ攻撃することができる。対象は当然『極神皇ロキ』。」

幽 手札3 - 2　LP1050 - 50

ゴ「なん……だと……！」

幽「神の怒りをつけよ。『極神皇ロキ』で『ダークエンド・ドラゴン』、『蘇りし魔王 ハデス』、『デスカイザードラゴン』に攻撃
ヴァニティバースト
虚無大砲!!」

ロキ ATK / 5600 VS ダークエンド ATK / 2100 (-
3500)

ハデス ATK / 2450 (- 3150)

(合計 - 9850)

デスカイザー ATK / 2400 (- 320

0)

ゴ「ぐわああああああ!!」
「ゴ LLP5400 - 0

幽「…闇の戦いで、の衝撃に耐えられなかったのか…」

ゴ「ストは先ほどの攻撃以来うんともすんとも言わない。

幽「ゴーストを調べてみる。

幽「…機械か、あいつも惨いことをする。」

幽「そう言いつつ、自転車に乗る幽。」

幽「帰ったら、亮と飯でも食いながら話すか…」

そう言って、自転車をこぎだした。

第1話END

第1話 闇の始まり（後書き）

望「皆さん！こんばんはー！」

綾香「望、今って夜なの？」

望「こんにちはー！」

綾香「…昼とも限らないけど…」

望「第1話どうでしたか？」

綾香「敵キャラのゴーストは当然大量生産です！」

望「大体【A・O・J】だった気がするけど…」

綾香「やつぱり使い捨て…酷いなあ…」

望「いいんじゃない？雑魚キャラって事で、私達の目立つ場所にしようよ」

綾香「それが一番手っ取り早いよね。」

望「ま、これ以上突っ込むと可哀想だから、やめておこうか」

綾香「そうだね…、では次回予告！」

望「次回！黒田家の秘密とは？ゴーストの魔の手が学校の一人の生徒に！第2話『狙われた少女』！」

綾香「次回のキーカードは『極神皇ツール』！お楽しみに！」

第2話 狙われた少女（前書き）

今週はデュエルはありません。

テキストに読み流しても大丈夫です。

第2話 狙われた少女

黒田家

幽「……ただいま」

亮「おかえりー、遅かったな」

家に帰ると、研究中の亮が返事をした。

黒田亮 俺の弟でデュエルアカデミア1年生のNO1だ。

幽「……話がある。豪の事だ。」

亮「……とりあえず飯にしよう。ご飯は？」

幽「……大丈夫。自分で盛る。」

30分

亮「成程ね。大体理解したよ。」

幽「……話が早くて助かる。」

亮「それで？これからどうする？」

幽「情報が少ないから、今はあっちの動きを待つ。」

亮「何だ、面白くないなあ……」

そういう亮は席を立ち、押し入れに向かった。

亮「ギャー！」

幽（…押し入れの雪崩か）

ため息をつき、幽も立ち上がり、押し入れに向かった。

さらに30分……………

幽「…あつたな、母さんの形見の『光のネックレス』」

亮「適当に入れすぎて探すのに苦労した…」

そういう二人の前には、白銀の宝石に飾られた美しいネックレスがあった。

母親の形見であり、特別な魔力がある宝石だ。

幽「…目立つと思うが、常に身に付けておけよ。」
亮「はいはい。」

幽「後は『あのカード』もデッキに入れてあるか？」
亮「…一応、入れてあるよ。出したことは無いけどね。」

そう言って、カードケースのエクストラデッキを確認する亮。

亮「…大丈夫、あるよ。」

その手にあるのは神のカードの1枚 『極神皇トール』

幽「…ならいい。」

そう言って幽は立ち上がる。

幽「ま、とりあえず、俺は風呂に入る。この山、片づけておいてな」

当然、この山というのは押し入れの雪崩の事だ。

亮「……………（膝を折りうなだれる〃OTL）」

そんな感じで掃除にはまた30分くらいかかった…

次の日 デュエルアカデミア

今は1時間目が終了したところだ

幽「…眠い。」

ただの寝不足だ。

大体彼は1時間目から3時間目までは機能していない。

幽「……………」

隼人「…おい、生きてるか？」

いつものように隼人が寄ってくる。

幽「天保…、久しぶり…」

隼人の横には『天保神太郎』がいる。

ボサボサの髪の毛、だらしが無い制服、外見不良な彼だが、このデュエルアカデミアで一番強い。

ちなみに、学校には稀にしか来ない。

ギャップ違いで隼人とは意気投合している。似た者同士なんだな。

天保神太郎「おう、黒田、相変わらず眠そうだな。」

隼人（…というか俺は無視？）

幽「…どうだった？この前の大会は。」

新太郎「ああ、軽かったよ。特に苦戦もせずってやつかな。」

幽「…流石。」

神太郎は高校生のデュエル大会や他の運動系の大会でかなり優秀な成績を収めている。
俗にいう『天性の才能』ってやつだ。

隼人「あ、そうだ。今日は生徒会の仕事休みだって、バカ殿が言っていた。」

因みにバカ殿はクロノス先生のあだ名だ。

昔、デュエルアカデミアで天性のデュエリストと呼ばれた『遊城十代』の教師であり、歴代最高の校長　クロノス・デ・メディツジの子孫らしい。
だから、バカ殿っていうのは失礼な気もする。

幽「…そっか」

隼人「これで久しぶりに『あいつ』と二人きりで帰れるんじゃないのか？」

神太郎「流石、隼人だな。そこまで考えてたとは」

2828（ニヤニヤ）しながら、二人が言ってくる。

幽「……………」

そのまま無視して寝る幽。

隼人「…図星か。」

新太郎「ま、隼人。とりあえずデュエルだ！」

隼人「彘？でも後2分で…」

新太郎「1ターンあれば十分だ！（顔芸的に）」

隼人「…（別の意味で馬鹿だ）」

当然、授業に入ってもデュエルしていた二人、寝ていた幽が怒られたのは言うまでもない。

6 時間目終了

幽「…さて、終わったか」

最終時間が終わり、みんなそそくさと帰る人や、話している人、こつちを見ている人（隼人）と色々居る。

因みに神太郎はバイトらしく、すでにいない。

幽「……」

高島実「幽君ー！！今日は生徒会の仕事無いのー？」

一人の少女が席に飛んで（いや、実際に飛んできたわけではない）きた。

幽「…あ……」

遠くから見ている人（隼人）の2828がうざい。

幽の幼馴染の『高島実』。

外見は比較のおしとやかだが、性格は元気というか、ドジというか、天然。

幽「うん…、今日は休みだって」

実「そっかー、ねえせつかくだし一緒に帰ろう！」

幽「……（汗）」

遠くでは、隼人が綾香と望に話している。だが、3人とも明らかに意識はこっちにある。

実「…どうしたの？」

幽「いや、なんでもない…、久しぶりに帰るか。」

実「やったー！幽君ありがとう！」

幽（…2828している人が増えた気がするの俺だけか？）

幽「…早く帰るか、周りの目が痛い…」

そう言っつて、荷物を持つ幽。

実「あ、はい」

そう言っつて、二人は教室を後にした。

綾香「…隼人」

隼人「ん？（2828しつつ）」

綾香「…黒ちゃんが抜けた分、しっかりと働いてもらうから」

隼人「…(OTL)」

そう言つて3人も微笑ましい二人をよそに生徒会の仕事をし始めた。

帰り道

二人の自転車の前を急にバイクが横ぎつた

実「わっ！危ない！」

幽「…大丈夫？」

実「うん、平気です。ありがとう、心配してくれて。」

微笑む実を直視できない幽はさっさと走り出す。

因みに、本当に微笑ましい限りの二人だが恋人ではないらしい。

隼人曰く「幽はああ見えて、シャイなんだよ」だそうだ。

そんな二人を横ぎつたバイクの男が見ていた。

全身黒づくめのお馴染み怪しい男 ゴーストだった。

ゴ「クッククックツ…あの小娘を殺したときの我を失った奴なら…」

そう言つて、バイクを走らせる。

その日の夜

実「ふー、勉強終わったー！」

真面目な実は予習だけでなく、復習もやっている。

実「今日、幽君と帰ったんだよなー。考えただけで……」
一人笑いしている少女はかえって不気味な絵だ。

その時

ガッ、という鈍い音にドサッ、という物が倒れる音が彼女の耳に入

った。

実「…？お母さん？どうかしたの？」

そう言って、リビングに出る実。

そこで見たものは

血を流して、倒れている両親

そこに鈍器（笑）を持って立っている男

実「…誰…」

その男を見ると、ヘルメットをしていて眼が光っている。

訳が分からないが、両親が倒れているのはこの男のせいだ。

ゴ「クツクツクツ…われの勝利のために死んでもらおう…小娘」

そういつた瞬間、男は鈍器を振り上げて襲いかかってきた。

実「えっ…ちょっと！」

ゴ「死ね！小娘！」

そう言って、鈍器を振り下ろすが

実が持った傘にいと也容易くはじかれた。

実「…一応、私は剣道2段なの。あんたのような不審者には負けはしないわよ!」

男は明らかに驚いている、そりゃ、あの細腕のどこにあんな力があるのか、機械でもわかるわけがない。

ゴ「…クツクツクツ、やはり奴の周りの小娘、一筋縄ではいかな
いか…」

実「…奴?」

そういつた男はデュエルディスクを構える。

ゴ「小娘!この私とデュエルだ!」

実「…彘?(某王様に)」

やっぱりデュエル脳は珍しい世の中なのだ。

実「…警察呼ぶよ?」

そう言つて携帯を持つ実。だが…

ゴ「ならば、黒田幽を殺してくるとしよう。」

そう言つて部屋を出て行くこととする男。

当然、実は驚いてゴーストに問い詰める。

実「…なんで…、なんでそこで幽君が出てくるのよっ!」

ゴ「簡単な話だ、貴様を殺し、我を忘れた奴も殺す。それだけの

ためだ。」

実「な…っ…」

ゴー「では、貴様が勝てば、黒田幽を殺さないでやる。どうする？小娘」

実「くっ…」

実（何かあるのか知らないけど…負けても私が竹刀で叩けばいいだけだし…。もし勝ったらそれはそれでいいし…）

実「何が目的か知らないけど。いいわよ。受けて立つわ。」

ゴー「クッククツクツ…デュエル万能説で助かる。」

実（それは言うてはいけない気もする…）

ゴー「さあ、いくぞ！小娘！」

実「不審者とデュエルなんて…気が乗らないけどかかってきなさい！」

実・ゴー「デュエル…！！」

第2話END

第2話 狙われた少女（後書き）

幽「話の流れがデュエル万能説すぎる……」

亮「まあまあ、仕方ないよ。」

幽「…そんなものなのか？」

亮「そういうものだよ。」

幽「と…とにかく…、次回予告だ…」

亮「はいはい、じゃあ次回予告！」

幽「実とゴーストの対決。命をかけた闇のゲームの決着は？第3話

『小さい結束』！」

亮「次回のキーカードは『ジャンクウォリアー』『ネクロフェイス』の2枚！」

第3話 小さい結束

実 LP 8000 手札 5 デッキ 35

ゴ LP 8000 手札 5 デッキ 40

実「あたしの先攻！ドロー！」

実 手札 6 デッキ 34

実「リバーズでモンスターとカードをセットしてターンエンド！」
1ターン目終了

実 LP 8000 手札 4 デッキ 34 裏守備・リバーズ

ゴ LP 8000 手札 5 デッキ 40

ゴ「私のターン！！！」

ゴ 手札 6 デッキ 39

ゴ「私は手札より『封印の黄金櫃』を発動！このカードはデッキのカード1枚をゲームから除外し、私のターンを数えて2ターン後に除外したカードを手札に加えるカード。」

実「デッキサーチ…！何をするつもりなの？」

ゴ「私が除外するのは…『ネクロフェイス』！」

実「な…！」

ゴ 手札 5 デッキ 38 除外 1

ゴ「このカードはゲームから除外されたときお互いのデッキの上から5枚をゲームから除外する！」

実「く…っ」

実 デッキ29 除外5

ゴ デッキ33 除外6

ゴ「さらに私は裏側でモンスターをセットし、さらにリバーカードをセットして、ターンエンド！」

2ターン目終了

実LP8000 手札4 デッキ29 除外5 裏 セット

ゴLP8000 手札3 デッキ33 除外6 裏 セット

実（…相手のデッキは【ネクロフェイス】軸のデッキ破壊…、相性悪いなあ…）

実「あたしのターン！」

実 手札5 デッキ28

ゴ「ドローフェイズ時！リバーカード発動！『マクロコスモス』

！これでお互いに墓地へ行くカードはゲームから除外される！」

実（…やっぱり、墓地を封じられた…！）

実「あたしは伏せられたモンスター『海皇の長槍兵』を反転召喚！

さらに手札よりチューナーの『ウィード』を召喚！」

実 手札4

実「いくよ！レベル2の『海皇の長槍兵』にレベル2の『ウィード』をチューニング！」

実 除外5-7

ゴ「…レベル4のシンクロ召喚か。」

実「同調して生まれた拳よ、今こそ仲間に力を貸して！シンクロ召喚！
来て！『アームズ・エイド』！」

実「バトル！『アームズ・エイド』でセットモンスターに攻撃！スクラップクラッシュ！」

ゴ「フッフ、伏せたモンスターは『ニードルワーム』！」

アームズ ATK1800 VS ワーム DEF650

ゴ 除外7

ゴ「『ニードルワーム』がリバーしたとき相手のデッキのカードを上から5枚を墓地へ送る！」

当然「マクロコスモス」によりゲームから除外されるがな！」

実「く…っ…」デッキ28 - 23 除外7 - 12

実「…ターンエンドです。」

3ターン目

実LP8000 手札4 デッキ23 除外12 アームズA セ

ット

ゴLP8000 手札3 デッキ33 除外7 マクロ

ゴ「私のターン！」

ゴ 手札4 デッキ32

ゴ「私は『手札抹殺』を発動！お互いに手札をすべて捨て、同じ枚数、デッキからドロウする！」

実 デッキ19 除外16 ゴ デッキ29 手札3 除外11

ゴ「さらに私はモンスターをセットし、リバーズカードを1枚伏せ、魔法発動！『太陽の書』！」

ゴ 手札0

実「『太陽の書』…、裏側モンスターを表側攻撃表示にするカード

…」

ゴ「私は先ほど伏せたモンスター『メタモルポット』を反転召喚！」

実「ここで『メタモルポット』！？」

ゴ「このカードの効果により互いに手札をすべて捨て、デッキから5枚ドロ―する！」

実「…！デッキが…」実 手札5 デッキ14 除外20 ゴ手札5 デッキ24 除外12

ゴ「フッフ…カードを1枚伏せてターンエンド。」

4ターン目終了(黄金櫃残り1ターン)

実LP8000 手札5 デッキ14 除外20 アームズA セット

ゴLP8000 手札5 デッキ24 除外12 メタモルA セット2

実(まずい…このままじゃデッキ切れで負けるかも…)

一方その頃、幽家。

幽「…」(デッキ調整中)

椅子に座ってデッキ改良をしている幽。

そこにパソコンをいじっていた亮が来た。

幽「…どうした？」

亮「レーダーに闇のゲームの反応が出た！誰かが闇のゲームをしている！」

幽「…！」

亮は意外にもメカニックで『闇のゲーム探索器』なんてものを作っている。

…どうやって作ったかは秘密だ。

幽「…で？場所は？」

亮「近くのマンション。ほら、窓から見える。」

亮が指差す先には茶色のマンション　　実の住んでいる家を指差した。

幽「…！まさか…」

今日、実と一緒に帰っている時のバイク　　すれ違いざまに見せたあの眼

ゴーストだと気づいてはいたがその時は実も一緒だからあえて無視をしたが…

幽「ち…っ…行ってくる。」

亮「え？ちよつと…急ぎすぎじゃないか？」

幽「問題ない、すぐ戻る。」

そう言つて母親の形見のペンダントとデッキを持って家を飛び出す

幽。

幽「…すまない…、実…」

実（幽君が関係してるんだ…負けるわけには…！）

実「あたしのターン！」

実 手札6 デッキ13

実「速攻魔法『異次元からの埋葬』！除外された『海皇の長槍兵』2体と『ウイード』を墓地へ戻す！」

実 手札5 除外18

実「さらに装備魔法『降格処分』を『アームズ・エイド』に装備！装備モンスターのレベルを2下げる！」

実 手札4 アームズLv4-2

ゴ「自分のモンスターのレベルを下げて何をするつもりだ？」

実「見せてあげる！あたしの切り札を！来て、『ジャンク・シンクロン』！」

実 手札3

実「『ジャンク・シンクロン』は召喚したとき墓地のレベル2以下のモンスター1体を効果を無効にして特殊召喚することができる！蘇生して『海皇の長槍兵』！」

ゴ「…先ほどの元埋ゲンマイはこのためか…」

実「まだよ！『海皇の長槍兵』の特殊召喚に、速攻魔法『地獄の暴走召喚』！」

実 手札2

ゴ「…何！」

実「『地獄の暴走召喚』は自分が攻撃力1500以下のモンスター特殊召喚に成功したとき、そのモンスターと同名モンスターを墓地・手札・デッキから特殊召喚します！」

ゴ「…そして相手が自身のフィールドの表側のモンスター1体を選択して同名モンスターを特殊召喚する…が『メタモルポット』は制限カード…」

実「そう！残念だけどこの効果はあたしだけが使っわ！墓地とデッキより2体の『海皇の長槍兵』を特殊召喚！」

実 デッキ12 除外19

ゴ「く…5体のモンスターだと…！」

実「これがあたしのコンボの最後！魔法発動！『サウザンド・エナジー』！」

ゴ「何ッ!？」

海皇の長槍兵 ATK1400 - 2400

実 手札1 除外20

実「このカードはフィールド上のレベル2以下の通常モンスターの攻撃力をターン終了時まで1000上昇する！ただし、効果を受けたモンスターはターン終了時に破壊されます！」

実「さらにレベル2『海皇の長槍兵』にレベル3の『ジャンク・シンクロン』をチューニング！」

実 除外22

ゴ「レベル5…しかもチューナーが『ジャンク・シンクロン』ということは…」

実「弱き力を集わせる戦士よ！今こそ沢山の仲間の力を借りて悪を滅ぼして！シンクロ召喚！ 集え！『ジャンク・ウォリアー』

！…！」

ゴ「やはり…！『不動遊星』の特攻隊長…！」

実「さらに『ジャンク・ウォリアー』の効果！シンクロ召喚時、フィールド上のレベル2以下のモンスターの攻撃力を自身の攻撃力に加える！」

ゴ「『海皇の長槍兵』2体の2400×2に『アームズ・エイド』の1800の合計…6600を攻撃力に加えるだど!？」

実「まだよ！その効果にチェーンして永続罫『エンジェル・リフト』

！墓地のレベル2以下のモンスターである『ウィード』を特殊召喚
！！」

ゴ「なんだと！？さらに攻撃力が上がるだ！」

実「そう！これでレベル2以下のモンスターの攻撃力の合計は（2
400+2400+1800+1200）7800！よつて『ジャ
ンク・ウォリアー』の攻撃力は10100！！！」

ジャンクATK2300 - 10100

実「これで終わりよ！バトルフェイズ！『ジャンク・ウォリアー』

で『メタモルポット』へ攻撃！スクラップ・フィスト！！」

ジャンクATK10100 VS メタモルATK700 LP -
9400

ゴ 除外13

ゴ「くっ、畏発動『ガードブロック』！戦闘ダメージを0にして
カードを1枚ドローする！」

ゴ 手札6 デッキ23 除外14

実「ならば、『海皇の長槍兵』2体でダイレクトアタック！ツイン・
ウェーブランス！！！」

ゴ「ぐわあああああ！！」ゴLP8000 - 3200

悲鳴と同時にゴーストから血しぶき（機械なのに？という突っ込み
はNG）が飛び倒れる。

その光景を見た実は息をのんだ。

実「…え？なんで急に…」

ゴ「クッククック…このゲームは『闇のゲーム』と言っただろう？」

笑いながら立つゴースト、機械なだけあって、丈夫そうだ。

実「まさか…っ、そんなの大昔の話じゃない！」

当然、歴史にも詳しい実は『闇のゲーム』についても知っている。だが、それは過去の人を作り出した迷信だとずっと思っていたのだ。

実「う…嘘…あたしが…闇のゲームを…」

ゴ「さあ、どうするのだ！デュエルに勝たないと黒田幽がどうなってもいいのか！」

実（あ…あたし…何も考えられない…）

実「…メインフェイズ…2へ移行…、『アームズ・エイド』の効果により…自身を『ジャンク・ウォリアー』に装備…、エンドフェイズ 『サウザンド・エナジー』の効果を受けたモンスターを…破壊します…」

実 除外25

5ターン目終了

実LP8000 手札1 デッキ12 除外25 ジャンクA11

100+アームズ ウィードA エンジェル

GLP3200 手札6 デッキ23 除外14 セット1

ゴ「フッフ…攻撃すらして来ないとは…私のターン！」ゴ 手札7
デッキ22

ゴ「スタンバイフェイズ、『封印の黄金櫃』の効果により『ネクロフェイス』を手札に加える！」ゴ 手札8 除外13

ゴ「さらに召喚！『紅蓮魔獣 ダ・イーザ』！！」ゴ 手札7
実「…！」

ゴ「このカードの攻撃力は自分の除外されたカードの枚数の400倍になる！よって攻撃力は5200！」

ダ・イーザATK?-5200

実「な…！」

ゴ「バトル！『紅蓮魔獣 ダ・イーザ』で『ウィード』を攻撃！デ
イメンジョン・インフィニティ！」

ダ・イーザ ATK5200 VS ウィード ATK1200 LP
- 4000

実 除外27

実「うわあああああああつ！」実LP8000 - 4000

ゴ「クツクツクツ…これでも迷信だと思えるか？」

実「か…はっ…」

予想外の衝撃にに倒れこむ実。

実（幽君…助けて…）

ゴ「クツクツクツ…すでに限界か、楽ににしてやるっ…」

ゴーストがそういつた瞬間

家の扉が勢いよく開き、息を切らした幽が立っていた。

幽「…ゴースト！…み…実…」

目の前で血を流しながら笑っているゴースト、倒れこんでいる実を
見て幽はすぐに状況を把握した。

幽「…ゴースト…、貴様…！」

ゴ「クツクツクツ…遅かったようだな。小娘はすでに戦意を失って
いるようだ。」

幽「…実…」

倒れている実のそばに駆け寄る幽。

実（…この声は幽…君？）

実（あ…諦めちゃだめだ…幽…君の…ために…）

実「…ま…まだ、諦めてません…！」

よろよると立ちあがる実。

幽「み…実…！」

ゴ「…！意識があるとは…、まだ死なぬか…」

実「…あたしは…幽君のためにあなたを…あなたを倒します…！」
意思を込めた声で叫ぶ実。

それを見たゴーストが再び薄笑いを浮かべた。

ゴ「いい意思だ、それでこそ死んだときの黒田幽を見るのが楽しみだ…！」

実「絶対に負けません！必ず勝ちます！」

ゴ「…残念だが、すでに勝利は確定してるのだよ！畏発動！『DD・ダイナマイト』…！」

実「…な…！」

幽「…ここで『DD・ダイナマイト』だと…！」

ゴ「このカードは貴様の除外されたカード1枚につき3000のダメージを与える！除外されたカードは27枚！よって8100のダメージだ！」

実「う…嘘…」

幽「実！」

そう言つて母親の形見を取り出し、実の前に仁王立ちになる。

実「幽君！」

ゴ「いいだろう！二人まとめて地獄へ行くがよい！」

実「幽君…っ…！」LP4000-0

幽「ぐおおおおおおおおお！」

巨大な爆発に巻き込まれる二人、それを満足そうにゴーストが見ている。

ゴ「…！？」

煙が晴れると、死んでいるはずの幽が実を担いて立っていた。

担がれている実は気を失っているが、死んではない。

ゴ「なぜだ…、一度に8000ものダメージを受けてなぜ生きている！」

幽「…『光のペンダント』…母さんの形見で…闇の力を軽減する光の力がある…」

首元から下がっているのは親の形見であるペンダントが輝いている。

幽「…さて、どうやら来たようだな…」

そう言うと、下が騒がしくなった。

ゴ「…セキリュティか…」

幽「さて…どうする？逃げるのか？」

ゴ「クツクツクツ…貴様の命は一時生かしておいてやる…、今は退散するでしょう。」

そう言うと、ゴーストは壊れた壁から外に出て夜の闇へと姿を消した。

ゴーストが消え、入れ替わりにセキリュティの人々が入ってきた。
牛尾哲「おい！お前ら、大丈夫か？」

幽「…俺は問題ないです…それより彼女を…」
牛「お…おう！おい！救護班！さっさと来い！」

そう言っつて幽に担がれていた実が救護班によって運ばれていく…

牛「お前も、色々聞きたいことがあるが、とりあえず病院へ行け。
話はそれからだ。」

幽「…わかりました。」

そう言っつて、幽も救急車に乗り込んだ。

幽（…実…、ごめん…。この敵は必ず…）

第3話END

第3話 小さい結束（後書き）

隼人「…仕事が…ようやく終わった…」

綾香「さっ、怪我した実ちゃんのお見舞いに行くよ！」

隼人「…休まして…」

望「氷炎さんも死にそうですね。とりあえず次回予告でもしましよ
うか。」

綾香「次回予告！見舞いに来たクラスメイトを襲うゴースト！幽の
かたき討ちが始まる！第4話『かたき打ち』！お楽しみに！」

隼人「…次回のキーカードは『極神皇ロキ』と『ユベルDas E
xtremier Trauring Drachen』…名前を読む
のがつかれる…」

望「とりあえずお楽しみに！」

第4話 かたき打ち

あの事件から1日

今日は土曜日なので学校はなかった。

病院では実がベットで寝ていた。

横では幽が細い目で見守っている。

彼も少し怪我をしているが、重症ではない。

幽(…俺がもっと早く気づいていれば)

幽(…本当にごめん…実)

幽がそんなことを思っていると、病室のドアが開いた。

綾香「…黒ちゃん!」

望「黒田さんも来ていたんだねー」

隼人「おう…幽か…」

隼人、綾香、望の3人が見舞いに来たようだ。

綾香「黒ちゃん!その傷どうしたの!?!」

幽「…いや、ちょっと怪我しただけで…」

隼人「…」

望「実さん、大丈夫なの?」

幽「…気を失ってるだけらしい。」

あの事件の後、学校経由でこの事は大体の人に伝わったらしい。だが、闇のゲームだったり、本当は死にかけだったりというのは内緒だ。

軽い火事ってことにしてあるらしい。

綾香「…だけどき、実ちゃんにしては珍しいよね。こんな不注意で大けがするなんて。」

幽「…そうだな…」

答えるのに少しだけ間が開いた。

隼人「…」

みんなが黙ってしまつと、隼人が口を開いた。

隼人「…幽。なんか隠してるだろ？」

幽「…いや、隠してないが。」

ポーカーフェイスで答える幽。

隼人「俺だって、お前と長い付き合いなんだ。お前の小さな変化にもすぐ気付く。」

幽「…」

隼人「幽…、昨日何があつたんだ？」

幽「…（殺し合いなんて言えるわけがない）」

綾香「…黒ちゃん？」
望「…黒田さん？」

みんなが見てくる中、良い誤魔化し方がないか悩んでいると

亮「幽兄！大変だ！外で昨日のゴーストが…！」

亮があわてて入ってくる、最悪のタイミングだ。
みんなにも言い訳が聞かなくなってしまったが、もうそんなことは
どうでもいい。

実を傷つけた相手 それが今近くにいる。

幽「…わかった、すぐ行く。」

綾香「ちょ…黒ちゃん！これはどういうこと？」

望「あつ、こら！途中で逃げるな！」

隼人「どういふことが説明しろ！」

あれこれ言う3人を無視して、亮に囁く。

幽「…3人を頼む。」

亮「はいはい。でも嘘は言わないからな。」

幽「…これを隠せる嘘はないだろ…！」

そう言っつて病室を出て行った。

綾香「あ、ちょっと待って！」

追いかけようとする3人を亮が止める。

亮「追いかけても無駄です。それより…3人とも、外を見てみてください。」

望「…？外にゴーストっていう人でもいるのかな？」

冗談っぽく望がそう言いつつ窓を開けて外を見ると…

望「…！何…あれ…」

絶句する望、それにつられ綾香と隼人も外を見る。

綾香「…うわ…何…」

隼人「…！」

3人が見たものは

デュエルディスクを掲げ、カードをセットするたびに爆発が起きる光景。

そしてデュエルディスクを掲げている男が叫んでいる。

ゴ「黒田幽！どこだ！さっさと出てこい！」

隼人「…亮君。いったい何が起きてるんだ？」

亮「…信じられないかもしれないけどあれは『闇のゲーム』の力…」

綾香「『闇のゲーム』って歴史の授業で習った、命をかけるデュエルってやつ？まさか…」

望「うんうん、流石に信じろ、っていうほうが無茶です…」

戸惑う3人に、亮が言う。

亮「…見ていればわかります…、兄の隠していたことが…」

病院外

ドンパチするゴーストと幽が対峙している。

ゴ「クツクツクツ…黒田幽。ようやく来たか…」

幽「…覚悟しろ…貴様はただじゃおかないからな…」
その言葉と同時に二人の周りを闇が覆う。

ゴ「面白い！貴様の命、ここで貰い受ける！」

幽・ゴ「デュエル！！！」

綾香「あの闇…！まさか本当に…」

亮「…幽兄…」

隼人「…亮君。」

亮「なんですか？」

隼人「『闇のゲーム』の敗者は魂を闇に喰われる、って言われてるけど、どうなるんだ？」

隼人の質問に顔をしかめる亮。

亮「…言いたくはないけど、簡単に言えば死ぬってこと。」

望「…え！じゃあ黒田さんが負けたら…」

亮「…大丈夫です。母さんが助けてくれます…」

そう言つて、亮は自分の『光のネックレス』を握りしめる。

亮「…大丈夫です、あの程度の闇では俺たちの光を凌駕できないですから…」

幽LP8000 手札5 デッキ35
ゴLP8000 手札5 デッキ40

幽「いくぞ…俺のターン。」

幽 手札6 デッキ34

幽「『終末の騎士』召喚！効果によりデッキより闇属性モンスター『レベルスティーラー』を墓地へ送る。」

幽 手札5 デッキ33

ゴ「1ターン目から『レベルスティーラー』を落とすとは…」
幽「カードを1枚伏せて、ターンエンド。」

1ターン目

幽 手札4 デッキ33 末騎士A セット

ゴ 手札5 デッキ40

ゴ「私のターン！」手札6 デッキ39

ゴ「手札より永続魔法『魂吸収』発動！これで私はゲームから除外されるたびにLPを500回復する！」手札5

綾香「…相手のデッキは【次元帝】か【ネクロフェイス】…」
隼人「どちらも墓地を封殺するデッキ、相性は悪いな…」

ゴ「さらに私は『封印の黄金櫃』を発動！デッキのカード1枚をゲームから除外し、2ターン後のスタンバイフェイズに除外したカードを手札に加える！」手札4

幽「…【ネクロフェイス】軸の【デッキ破壊】…」

ゴ「その通り！私は『ネクロフェイス』を選択！ゲームから除外する！そして『魂吸収』によりLPを500回復！」デッキ39 - 38 LP8000 - 8500

幽「…『ネクロフェイス』の効果は除外されたときに発揮する…」
ゴ「『ネクロフェイス』が除外されたとき互いのデッキの上から5枚ゲームから除外する！」

幽 デッキ33 - 28 除外5
ゴ デッキ38 - 33 除外6

ゴ「『魂吸収』により、除外されたカード1枚につきLP500回復！よってLPを5000回復する！」LP8500 - 13500
幽「…くっ」

ゴ「私はモンスターとカードをセットしてターンエンド！」

幽「エンドフェイズ、除外された『異次元の偵察機』の効果、このカードを表側攻撃表示で特殊召喚する。」
ゴ「ふん、さっきの『ネクロフェイズ』の効果が若干仇をなつたよ
うだな。」

2ターン目

幽LP8000 手札4 デッキ28 除外4 未騎士 偵察 セ
ット

ゴLP13500 手札2 デッキ33 除外6 裏守備 セット
魂

幽（…偶然にもリバースカードの発動条件を満たせた…だが…発動
すればデッキ破壊のもつながら…。どうする…）

幽「…ドロー」手札5 デッキ27

ゴ「ドローフェイズに罨発動！『マクロコスモス』！これで互いに
墓地へ行くカードはすべて、ゲームから除外される！」

幽「…ちっ」

望「…墓地封じ…厳しい状況になってきましたね…」

綾香「黒ちゃん…絶対に勝つてよ…」

幽（…あのリバースは…『ニードルワーム』『メタモルポット』…
どちらだ…

いや、『メタモルポット』なら魔法・罨の多い【デッキ破壊】
なら伏せている可能性が高い…（）

幽「手札より『ダーク・ヴァルキリア』を召喚」手札4
幽（俺の勘が間違っただけだ…『ニードルワーム』…）

幽「バトルフェイズ　『異次元の偵察機』で裏側守備表示モン
スターに攻撃　次元光線。」

望「攻撃力800でセットモンスターを攻撃するの！…危険すぎる
！」

隼人「いや…おそらくリバーズモンスターは【デッキ破壊】の要、
『ニードルワーム』と考えたんだろう…」

綾香「…黒ちゃん、いつもより戦っているときの顔が違うよね…」
隼人「…覚悟を決めた、って感じの眼だな。俺でもあんな幽、見た
ことないから…」

ゴ「ふん、私の伏せたモンスターは『メタモルポット』！」

偵察 ATK800 VS メタモル DEF600

ゴ 除外6 - 7 LP13500 - 14000

幽（…読み間違いか）

ゴ「『メタモルポット』の効果により、互いの手札をすべて捨て、
5枚をドローする！だが『マクロコスモス』により手札はゲームか
ら除外してもらおう！」

幽「ち…っ」

幽 手札4 - 0 - 5 デッキ27 - 22 除外4 - 8

ゴ 手札2 - 0 - 5 デッキ33 - 28 除外7 - 9

ゴ「『魂吸収』の効果！除外されたカードは6枚！よってLP30

00回復する！」LP14000-17000

幽「…攻撃続行だ。『終末の騎士』で直接攻撃、暗黒の一閃。」

ゴ「ぐおおおっ！」LP17000-15600

幽「『ダーク・ヴァルキリア』 ダーク・エンジェルダスト！

！！」

ゴ「ぐわあああっ！」LP15600-13800

幽「…ターンエンド」

3ターン目

幽LP8000 手札5 デッキ22 除外8 闇ヴァルキリア

末騎士 偵察機 セット

ゴLP13800 手札5 デッキ28 除外9 マクロコスモス

魂

綾香「…！ダメージが現実…」

望「じゃあ…本当に…『闇のゲーム』…」

隼人「…実在してたとは。」

3人が驚いていると、後ろで誰かが動いた。

実「…ここ…は？」

綾香「実ちゃん！気づいたんだ！」

望「ここは病院ですよ。」

実「あ…そっか…あたし…」

そうだった瞬間　　実の記憶が呼びかえる。

実（そうだ…あたし…『闇のゲーム』に負けたんだ…）

実「そうだ！幽く…ッ…痛っ…」

綾香「実ちゃん…そんな無理しないで。」

実「幽…君は？どこ…」

望「…（言っているのかな）」

亮「…外で、かたき討ちをしています。」

隼人「馬鹿っ！言っつなよ！心配をするだろっ！」

実「う…嘘…幽君…」

ふらり、と立ち上がり、窓のほうへ行く実。

窓から外を覗くと、幽とゴーストが戦っている。

実「幽君…あ…あたしのせいで…」

亮「…大丈夫ですよ、幽兄は必ず勝ちます…」

実「…亮君…」

亮（…負けるな…幽兄…）

さっきのダメージが何事もなかったかのように立ち上がる、ゴースト。

ゴ「この程度…私のターン！」手札5 - 6 デッキ27 封印1ターン目

ゴ（次のターンまで粘るしかしかない…）

ゴ「カードを2枚伏せ、モンスターをセットし ターンエンド」

4ターン目

幽LP8000 手札5 デッキ22 除外8 闇ヴァルキリア

末騎士 偵察機 セット

ゴLP13800 手札3 デッキ27 除外9 裏守備 セット

2 マクロコスモス 魂

幽「…ドロー」手札6 デッキ21

幽（残りは21枚…そして、あのリバーは…おそらく『ニードルワーム』か…）

幽「魔法発動『シールドクラッシュ』。守備表示モンスター1体を破壊する、対象はお前のリバーモンスター」手札6 - 5

ゴ「く…っ…『ニードルワーム』が…」

ゴLP13800 - 14800 幽 除外9 ゴ 除外10

幽「さらに『終末の騎士』と『異次元の偵察機』をリリース、来い『魔王ディアボロス』！」

幽 除外11 ゴLP15800 手札5 - 4

幽「バトルフェイズ、『魔王ディアボロス』『ダーク・ヴァルキリ

ア』で直接攻撃！ 魔王の活劇！！ダーク・エンジェルダスト
！！」

ゴ「くおおおおおつ！」 LP15800 - 13000 - 11
200

幽「…カードを1枚伏せて、エンドフェイズに『異次元の偵察機』
を蘇生し、ターンエンド。」 手札4 - 3

5ターン目

幽 LP8000 手札3 デッキ21 除外10 闇ヴァルキリア
ディアボロス 偵察機 セット2
ゴ LP11200 手札3 デッキ27 除外10 セット2 マ
クロコスモス 魂

ゴ「私のター…」

幽「『魔王ディアボロス』の効果、相手のドローフェイズ前に相手
のデッキトップを確認しそのカードをデッキの一番上か、一番下に
戻す。」

ゴ「く…っ…」

確認したカードは『D・D・R』

幽（…）

幽「一番下に戻してもらおう。」

ゴ「く…っ、私のターン！」 手札4 デッキ26

幽「『砂塵の大竜巻』発動 これによりフィールド上の魔法・
罫1枚を破壊する」

ゴ「何っ！」

幽「…『魂吸収』か『マクロコスモス』…どちらを破壊する…」
幽「『宮廷のしきたり』があるかもしれないが…これ以上の墓地封印は厳しい…やはりここは…」

幽「『マクロコスモス』を選択し、破壊する。」

ゴ「く…っ…だが十分貴様のカードは除外した。それに！」

ゴ「『封印の黄金櫃』の効果！2ターン経過したので『ネクロフェイス』を手札に加える！」

ゴ「手札4 - 5 除外9」

ゴ「私は『闇の誘惑』を発動！デッキから2枚ドローして、その後手札の闇属性を1枚ゲームから除外する！」

幽「く…っ…『ネクロフェイス』か…」

ゴ「その通り！2枚ドローし、『ネクロフェイス』を除外！」ゴ

デッキ24 除外10 LP11700

ゴ「さらに『ネクロフェイス』の効果によりデッキから5枚を除外！」

幽「デッキ21 - 16 除外10 - 15」

ゴ「デッキ24 - 19 除外10 - 15 LP11700 - 16700」

ゴ「まだ終わらない！リバースカード！『闇次元の解放』！ゲームから除外された『ネクロフェイス』を特殊召喚する！」

ゴ「除外14」

幽「…まさか…！」

ゴ「速攻魔法！『ダブル・サイクロン』！自分と相手の魔法・罫力

ードを1枚ずつ破壊する！対象は『閻次元の解放』と貴様のセットカード！」手札4

幽「…！」

幽（…発動するべきか…だが…『ネクロフェイス』の効果処理後の俺のデッキは11枚…だが…未だあのカードは手札になく、1枚も除外されていない…もし『ネクロフェイス』で3枚とも除外されたら…）

亮（幽兄は…何を悩んでいる…）

幽「やるしかない。チェーン発動！『活路への希望』…！」

ゴ「何っ！ここでだっ！」

隼人「おい！幽！自らデッキ破壊を早めるのは自殺行為だ！」

亮（おそらく狙っているのは…『極星霊デッキアールヴ』…かなりの賭けだな）

綾香「『活路への希望』の効果は自分のほうが1000以上LPが少ないときに1000LPをコストに発動できる罠。その後、LP2000差につき1枚、デッキからドローする。」

望「1000支払った後黒田さんのLPは7000、相手はLP16700　差は9700…4枚のドローができる…けど…」

実「…これで幽君の残りデッキは…7枚…」

幽「『活路への希望』の効果、デッキより4枚をドロー！」幽LP

8000 - 7000 手札3 - 7 デッキ16 - 12
幽(…来たか、『極星霊デッキアールヴ』…！)

ゴククククツツ…、『ダブル・サイクロン』の効果！『闇次元の解放』と『活路への希望』を破壊！」

ゴ 除外14 - 15 LP16700 - 17200

綾香「…『闇次元の解放』の効果で、『ネクロフェイス』は除外される…」

ゴ『ネクロフェイス』の効果により、互いのデッキから5枚を除外する！」

幽 デッキ12 - 7 除外15 - 20

ゴ デッキ19 - 14 除外15 - 20

ゴ『そして『魂吸収』の効果！除外されたカードが10枚なのでLPを5000回復！」

ゴLP17200 - 22200

ゴククククツツ…、私のLPは20000を超えた！貴様にもう勝ち目はない！カードを2枚伏せてターンエンド！」

6ターン目

幽LP8000 手札7 デッキ7 除外20 闇ヴァルキリア

ディアボロス 偵察機

ゴLP22200 手札2 デッキ14 除外20 セット3 魂

望「…黒田さん…、勝てるのかな…」

隼人「…厳しいかもな…、なんせ相手のLPは20000以上…」
望「でも…負けたら…」

不安そうな会話をする2人に対して亮が言う。

亮「兄は…おそらく活路を開きましたよ…。おそらく次に出るのは…『切り札』…」

幽「…ドロー」手札7-8 デッキ7-6

幽「『サイクロン』発動。『魂吸収』を破壊する。」手札8-7

幽「いくぞ…貴様に…神を見せてやる…」

ゴ「…！来るか。」

実「幽…君…何をするつもりなの？」

隼人「今…『神』って言ったよな…どういうことなんだ…」

綾香「…いつたい…何が起きるの…？」

亮（…幽兄…、やっぱり出すのか…）

幽「墓地の『レベルステイラー』の効果発動。フィールド上のレベル5以上のモンスター 『魔王ディアボロス』のレベルを1下げて、墓地より自身を特殊召喚！」

ディアボロスLv7-6

幽「『レベルステイラー』をリリースし、来い！チューナーモン

スター『極星霊デックアールヴ』！』手札7 - 6

ゴ「ふん、来たか、神の化身！」

幽「さらに『レベルステイラー』の効果により、『魔王ディアボロス』のレベルを1下げて再び特殊召喚！」
ディアボロスLv6 - 5

綾香「…チューナーってことは、シンクロ召喚…」

望「チューナーのレベルは5 ディアボロス以外のモンスターだとシンクロ召喚出来るのは6・8・9・10の4種類…」

隼人「…何をするつもりだ…」

幽「レベル4『ダーク・ヴァルキリア』とレベル1の『レベルステイラー』にレベル5の『極星霊デックアールヴ』をチューニング
！」

あたりの闇が渦をまき、雷鳴が轟く。

その渦の中心で闇に包まれた幽が立っている。

実「…幽君…」

隼人「レベルは10…『A・O・J』ディサイシブ・アームズ』か…？」

亮「…いや…神を呼ぶつもりだ…『星界の三極神』を…」

綾香「『星界の三極神』…？」

幽「世界を闇に沈めた暗黒の神よ、すべてを掌握し王として再び玉座を黒く染めよ！シンクロ召喚　　降臨せよ！『極神皇ロキ』！」

ゴ「く…っ…、すごい威圧感だ…！」

綾香「…あのモンスターは…伝説の神…！」

隼人「ああ、あのカードは古の戦争、『ラグナログ』でオーディンと対立したといわれるロキ　　」

望「…黒田さん…なんてカードを…！」

実「ゆ…幽君…！」

亮「…だが、問題は3枚の伏せカード、おそらくあの中に神を封じる手がある…！」

幽「…もう貴様に勝ち目はない…、見せてやろう、神の力を！」

ゴ「……………」

ゴ「……………クツクツクツ」

幽「…何がおかしい…！」

ゴ「…いや、ここまで上手く物事が運ぶと笑えてくるのでね…」

幽「…何？」

ゴ「貴様がここで神を出してくれたおかげでその厄介者を封じることがができる！」

幽「…！伏せカード…」

ゴ「畏発動！『奈落の落とし穴』！！」

幽「何っ！」

綾香「『奈落の落とし穴』…！攻撃力1500以上のモンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚されたとき、そのモンスターをゲームから除外するカード…！」

亮「…『極神皇ロキ』の再生効果は墓地で発動する…、ロキは完全に封じられた…！」

幽 除外21

幽「くそ…っ…、バトルフェイズ！『魔王ディアボロス』と『異次元の偵察機』で直接攻撃！ 魔王の活劇！！次元光線！」

ゴ「ぐおおおおっ！」 LP 22200 - 19400 - 18600

幽「カードを2枚伏せて…ターンエンド…」

ゴ「エンドフェイズ！速攻魔法『異次元からの埋葬』発動！ゲームから除外された『ネクロフェイズ』『酒吞童子』『次元合成師』を墓地へ戻す！」 除外20 - 17

幽「…また『ネクロフェイズ』か…」

7ターン目

幽LP8000 手札4 デッキ6 除外21 ディアボロス(L
5) 偵察機 セット2
ゴLP18600 手札2 デッキ14 除外17 セット1

幽「ドローフェイズ前 『魔王ディアボロス』の効果、デッキト
ップを確認し、そのカードをデッキの一番上か下に戻す。」

幽(…また『ニードルワーム』…)

幽「一番下に戻してもらおう。」

ゴ「く…っ…」

ゴ「私のターン！」手札2-3 デッキ14-13

ゴ(…！来た、私の切り札が…！)

ゴ「永続罠『死霊の巣』！墓地のモンスターを任意の枚数ゲームか
ら除外し、その枚数と同じレベルのモンスター1体を破壊する！」

幽「…さっき戻した3体を使つつもりか…『異次元の偵察機』はレ
ベル2…」

ゴ「クツクツクツ…墓地の『ネクロフェイズ』『酒呑童子』を除外
して『異次元の偵察機』を破壊！」除外19

実「また『ネクロフェイズ』の効果が！」

隼人「これで…幽のデッキは…1枚…」

綾香「…もう後がない…」

幽「ち…っ」幽 デッキ6 - 1 除外21 - 26 ゴ デッキ13
- 8 除外19 - 24

ゴ「クッククック…、来たぞ！私の切り札が！出だよ『紅蓮魔獣ダ
イザ』！…！」

手札3 - 2

綾香「えっ！ここでダ・イザ!?」

隼人「…デッキ破壊だけでなくビートダウンも可能なデッキだと…
！」

実「幽君！」

ゴ「このカードの攻撃力と守備力は自分のゲームから除外されたカ
ードの枚数の400倍になる！」

幽「…く…そっ…！」

ゴ「私の除外されたカードは24枚！よって攻撃力は9600!!
…！」

望「9600！なんて攻撃力なの！」

隼人「『闇のゲーム』はダメージが現実になる…あのダメージを受
けて生きていられるのか…！」

ゴ「バトル！『紅蓮魔獣ダ・イザ』で『魔王ディアボロス』に攻
撃…！ディメンジョン・インフィニティ…！」

ダ・イザ ATK9600 VS ディアボロス ATK2800
(- 6800)

幽「ぐわああああああああつ！」LP7000 - 200

実「ゆ…幽君っ！」

隼人「幽！死ぬな！」

綾香「黒ちゃん！」

望「黒田さん！」

亮（…幽兄…成程…そういう事か…）

ゴ「クツクツクツ…！私の勝ちだ！黒田幽！貴様の友人の前で無様に殺してやるっ！」

幽「……」

ゴ「そして貴様の神のカードも奪ってやるっ！」

ゴ「カードを2枚伏せてターンエンド！！！」

8ターン目

幽LP200 手札4 デッキ1 除外26 セット2

ゴLP18600 手札0 デッキ8 除外24 ダ・イーザ96

00 セット2

幽「…く…そ…」

実「…幽君……」

実は急に窓か身を乗り出し、幽に向かって叫ぶ。

実「お願い！幽君！諦めないで！」

幽「……………」

望「実ちゃん……」

綾香と望も実と同じように幽に叫んだ。

綾香「黒ちゃん！絶対に負けるな！」

望「黒田さん！絶対に死なないで！」

声こそ出していないものの、強い期待のまなざしで隼人も幽を見ている。

幽「……………全く……」

そう言つて、幽は立ち上がる。

幽「……諦めていない。この時点で俺の勝利は確定している。」

予想外な言葉に一同（亮以外）が驚く。

綾香「……黒ちゃん！」

実「幽君……頑張つて……！」

望「黒田さん……」

隼人「幽……」

ゴクククククツツ…もう少し頭のいい男かと思っていたのに…」

幽「…」

ゴ「この状況をどうやって覆すというのだ？貴様のデッキは1枚！それに対し私の場には攻撃力9600のダ・イーザがいる上にLPは18600！勝機などありはしないのだ！」

幽「…グダグダうるさいやつだ…、見せてやるよ、俺達の希望と可能性を…！」

実「幽君…」

幽「俺のターン！」手札4-5 デッキ1-0

幽「行くぞ！最後の希望を見せてやる！伏せカード『異次元からの帰還』を発動！」

ゴ「何だっ！」

綾香「『異次元からの帰還』…！」

亮（やはり…『活路への希望』で手札に加えていたか…）

幽「LP半分をコストに、ゲームから除外された俺のモンスターを可能な限り特殊召喚する！」LP200-100

ゴ「く…っ…私のデッキ破壊で貴様の除外ゾーンには大量のカードが…！」

幽「さあ…蘇れ！『ユベル』・『極神皇ロキ』・『ダーク・ホルス』

ドラゴン』・『ダーク・シムルグ』・『ダーク・ネフティス』！！
」

ゴ「く…そ…っ、一度に最上級モンスターを5体だと！」

望「す…すごい…！」

隼人「…だが、ダ・イーザの攻撃力は9600…『団結の力』があつても太刀打ちできない…！」

幽「『ダーク・ネフティス』の特殊召喚に成功したとき、魔法・罫カード1枚を破壊する。対象は貴様の伏せカードだ。」

ゴ「…！『次元幽閉』が…！」

ゴ（だが…もう1枚の伏せカードを守れた…これで私の勝利は確定した…）

幽「もう1枚の伏せカード『サンダーブレイク』発動。手札1枚をコストにフィールド上のカード1枚を破壊する。対象は『ユベル』」
幽 手札5 - 4

ゴ「な…っ、自分のモンスターをだと…！」

幽「『ユベル』の効果、このカードが自身の効果以外で破壊されたときデッキ・手札・墓地より『ユベル Das Abscheulich Rittter』を特殊召喚する！」（手札より特殊召喚）
手札4 - 3

ゴ「…！このモンスターは…！」

幽「さらに『ダーク・ネフティス』をリリースし、『邪帝ガイウス』

をアドバンス召喚！」手札3 - 2

ゴ「帝モンスターだと…！」

幽「『邪帝ガイウス』の召喚に成功したとき、フィールド上のカード1枚を除外し、閻属性だった場合は1000の追加ダメージを与える。」

ゴ「ま…まさか…」

幽「『ユベル Das Abscheulich Ritter』を除外し、1000のダメージを与える！」

ゴ「ぐ…お…っ」LP18600 - 17600

幽「『ユベル Das Abscheulich Ritter』の効果、このカードがフィールド上から離れたとき、デッキ・手札・墓地から『ユベル - Das Extremmer Trauring Drachen』を特殊召喚する！」（墓地より特殊召喚）

幽「歪みし愛の心を持つ悪魔よ、痛みという名の愛を相手に刻み、絶望を与えよ！ 絶望の魔龍 『ユベル - Das Extr

emer Trauring Drachen』！」

ゴ「…まさか…こんなことが…」

幽「いくぞ…バトルフェイズに入る、『ユベル - Das Extr
emer Trauring Drachen』で『紅蓮魔獣ダ・イ
ーザ』に攻撃！ ナイトメア・ペイン…！！」

ゴ「クツクツクツ…甘い！…畏発動！『聖なるバリア ミラーフォース』…！！」

隼人「何だと！最後の最後にミラーフォースだと！」

綾香「…そんな…最後の一撃が防がれるなんて…」

実「ミラーフォースの効果で、幽君の攻撃表示モンスターはすべて破壊される…」

幽「……………」

ゴ「残念だったな！貴様の負けだ！黒田幽！」

幽「…『極神皇ロキ』の効果発動！バトルフェイズ中に一度、相手の魔法・畏の発動を無効にして破壊する！」

ゴ「…なっ！」

幽「残念だが『聖なるバリア ミラーフォース』は無効にさせてもらっつ。」

ゴ「…く…」

幽「邪魔が入ったな、『ユベル・Das Extremerr Triggering Drachen』の効果、戦闘を行ったモンスターの攻撃力分のダメージを与えて、そのモンスターを破壊する！」

ゴ「ぐわああああああああああああつ！」LP17600-

8000

ゴ「が…はっ…ま…まさか…！」

幽「…『極神皇ロキ』の直接攻撃　　ヴァニティ・バレット！」
ゴ「ぐおおおおおおお！」 LP 8000 - 4700

ゴ「わ…私は…負けなど…」

幽「『ダークホルス・ドラゴン』で直接攻撃　　ダークネス・ギ
ガフレイム！」

ゴ「が…がああああああ！」 LP 4700 - 1700

ゴ「負ける…ことな…ど…認…めな…い…」

幽「最後だ…『ダーク・シムルグ』で直接攻撃　　ダークネス・
ゴットトルネード！」

ゴ「ぐおおおおおおおおお！」 LP 1700 - 0

幽「…」

実「幽君！」
窓から実が叫ぶ。

幽「実……」

そこへ病室から出てきた隼人、綾香、望、亮の4人が幽のもとへ走ってきた。

綾香「黒ちゃん！」

望「…よかった！生きてて…！」

幽「…皆…、迷惑をかけたな…」

綾香と望は心の底から心配してくれているようだったが、隼人だけは違った。

幽の胸ぐらをつかみ、睨みながら言う。

隼人「…どういう事が説明してもらおうか…」

綾香「ちょ…、隼人！いきなりそんなにがつつり聞かなくても…！」
そう言っつて止めようとするが、手を離さない。

隼人「…『闇のゲーム』だったのは見ればわかる。それは心配して
いない。だけど…」

幽「…」

隼人「だけど、お前が傷ついて、俺たちが心配しないわけじゃない
んだよ…」

そういう隼人の眼は真剣だ。

隼人「…俺たちを信頼してくれ。何でも相談してくれよ。」

望「氷炎さん……」

幽「……………」

亮「幽兄……」

幽は胸ぐらをつかんでいる手をほどき、言う。

幽「…信頼している。…だが……」

幽「…これは俺たちの家族の問題だ。関わらないでほしい……」

そう言って、3人に背中を向ける幽。
それを何も言わずに追う亮。

隼人「…幽!」

隼人は　　いや綾香も望も実もその背中を追いかけてなかった。

常に学校の中心で互いの力を尊重し、助け合っていた生徒会の会長。
その彼が、仲間を拒絶し、孤独で戦おうとしている。

その彼の心の闇を垣間見た4人はその背中を追いかけることができなかつた。

幽 (...うめ?...幽...)

第4話 END

第4話 かたき打ち（後書き）

隼人「…本格的になってきたな…」

望「本当ですね、この後どうなるんだろう…?」

綾香「そんなこと言ってる余裕ないよ！次回はゴーストの大群と戦うんだから！」

隼人「ま、ちよちよいのちよいと片づけてやるがな。」

綾香「こちらは出番はまだないけど…」

隼人「…OTL」

望「とりあえず、次回予告にしますか?」

綾香「次回予告！学校にゴーストの大群が！アカデミアの精鋭とゴーストの『闇のゲーム』が始まる！」

望「この事実を知った黒田さんに魔の手が…！次回、第5話『アカデミアの脅威』！」

隼人「次回のキーカードは『古代の機械究極巨人』と『ブラックフエザー・ドラゴン』！お楽しみに！」

第5話 アカデミアの脅威（前書き）

1ターンキルばかりです。

手抜きではないです（あ

嫌いな人は適当に読み飛ばしてください。

第5話 アカデミアの脅威

あの日以降、幽は学校に来なくなった。
だが、隼人・綾香・望の3人は、あの事件の事は誰にも話さなかった。

彼が言った「これは俺たちの家族の問題だ、関わらないでほしい」、
という言葉が他の人にあの事を話すことを拒ませている。

そして、事件から3日後の火曜日

新たな事件が起こった

ここは、デュエルアカデミア校長室
セキリュティのクロウと校長のクロノスが話している。

クロノス「セニョール、クロウ。最近はどうナノーネ？」

クロウ「はい、最近は比較的平和ですが、若干気になることが……」

クロウ「WRGPで事件を起こした『ゴースト』の事ですが……」
クロノス「ノーネ？」

クロウ「…最近一度だけ奴とデュエルをしました。この学校の『ある人物』に用があるそうです。」

クロノス「して？その人物とは？」

クロウ「…生徒会会長の『黒田幽』です…」

その言葉を同時に外で轟音が響いた。

その音は学校を揺らすほどの轟音だった。

クロノス「…！なんナノーネ！？」

クロウ「…！なんだ！？」

そう言つてクロウが外を見ると、ゴーストの大群がDホイールに乗つてこちらに向かつていた。

その数はWRGPの時よりは少ないもののそれでも多すぎる数だった

クロウ「…！まさか、こんな数のゴーストだと…！」

クロノス「Oh！いったい何が起きてるノーネ？」

クロウ「くっ…！クロノス先生！学校をお願いします！」

そう言つてクロウは校長室を出て行くこととする。

クロノス「セニョールクロウ！どこへ行くノーネ！」

クロウ「俺がゴーストの大半を相手します！引き付けられなかった相手をお願いします！」

普通は理由を聞くところだが、クロノスは

クロノス「了解したノーネ！」

理由を聞かず、了承するクロノス。

生徒を守らなければいけないという気持ちの強さの現れだ。

そして、クロウとクロノスが外に出て行った。

ゴ1「黒田幽！出てこい！」

ゴ2「出てこないなら、貴様の学校をしらみつぶしに探し当てるぞ！」

クロウ「へっ！今日は肝心の幽は学校に来てないぜ！どこからともなくクロウがDホイールに乗って現れる。

ゴ1「貴様は…！クロウ・ホーガン！」

クロウ「貴様ら程度におぼえられても嬉しくねーよ！」

やはりゴーストの中でも『クロウ・ホーガン』という人物は厄介と判断したらしい。

半数近くのゴーストがクロウに向かう。

クロウ「さあ、こっちにきやがれ！」

ゴーストが向かってきたのでクロウもDホイールを走らせ学校の外に逃げる。

残る半数のゴーストは学校の中に入ろうとする。だが、それを止めるようにクロノスが立ちふさがる。

クロノス「待つノーネ！ここはデュエルアカデミア！貴様らのように不審者を通すわけにはいかないノーネ！」

ゴ2「ふん！貴様一人にこの大群が止められるのか！」

そういうゴーストを無視して、クロノスは入り口近くのプラグを自分のデュエルディスクに差し込む。

クロノス「今、この扉はロックされたノーネ！ワタシとデュエルしてLPを0にすれば、この扉は開くノーネ！」

ゴ2「ふん！流石はデュエルアカデミア、すべての事をデュエルで決めようというのか！」

そう言いつつ、ゴーストがデュエルディスクを構える。

ゴ2「いいだろう、『闇のゲーム』で貴様を葬ってやろう！」

クロノス「生徒のためにここを通すわけにはいかないノーネ！」

ゴ・クロノス「いざ！デュエル！！」

ゴ LP8000 手札5 デッキ35

ゴ「私の先攻！ドロー！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

ゴ「手札より、召喚！『連弾の魔術師』！さらに永続魔法『悪夢の拷問部屋』発動！」手札6 - 5 - 4

ク（『連弾の魔術師』『悪夢の拷問部屋』ということは、デッキは【フルバーン】ナノーネ…）

ゴ「さあ、『闇のゲーム』の痛みを味わえ！魔法発動！『デス・メテオ』！」手札4 - 3

ク「くっ…やはり【フルバーン】だったノーネ…！」

ゴ「これにより相手に1000のダメージを与える！」

当然これは『闇のゲーム』、ダメージが現実になる。

ク「どわあちゃちゃ…」LP8000 - 7000

ゴ「さらに『連弾の魔術師』『悪夢の拷問部屋』の効果により700のダメージ！」

ク「…くっ…」LP7000 - 6300

ゴ「まだだ！『連弾の魔術師』の効果ダメージ発生により『悪夢の拷問部屋』の300の追加ダメージ！」

ク「Oh！」LP6300 - 6000

ク「ぐ…っ…これが『闇のゲーム』…！」

ゴ「教師にしては『闇のゲーム』を認めるのが早いんだな！」

そうゴーストが言うと、クロノスは薄笑いを浮かべ言った。

ク「『闇のゲーム』だろうと、なんだろうと、私の可愛い生徒に危害を加えるようならば許さないノーネ！」

ゴ「クツクツクツ…そう言っても貴様の敗北への道は続いているんだ！2枚目の『デス・メテオ』発動！」手札4-2

ク「Oh No！」LP6000-4000

ゴ「さらに3枚目！！そしてチェーンして速攻魔法『連鎖爆撃』を発動！発動時のチェーン×400の追加ダメージ！よって800のダメージだ！」手札2-0

ク「ウオウ！」LP4000-2200

ゴ「そして『連弾の魔術師』と『悪夢の拷問部屋』の追加ダメージの合計1300を受ける！（400+300+300+300+300）」

ク「ぐうううっ…」LP2200-900

ゴ「クツクツクツ…さあ、残りLPは900…どうするんだ、先生！」

1ターン目

ゴLP8000 手札0 デッキ34 連弾

クLP900 手札5 デッキ35

ク「…【フルバーン】がこの程度の痛みとは『闇のゲーム』もたいしたことないノーネ！」

ゴ「…何？」

ク「私が本物の1ターンキルを見せてあげるノーネ！ドロー！」手

札5 - 6 デッキ35 - 34

ク「生徒相手ではないから手加減無しナーネ！手札より『パワーボンド』を発動するナーネ！」手札6 - 5

ゴ「それは機械族専用の融合カード…！」

ク「その通り！手札の『古代の機械巨人』3体を融合するナーネ！手札5 - 2

ク「古の力を均衡する最強の巨人よ、すべての破壊のために究極の拳を開放せよ！YUGO召喚！ 『古代の機械究極巨人』！！！」

ゴ「な…1ターン目からだ…」

ク「『パワーボンド』の効果発動ナーネ！融合召喚したモンスター

はその攻撃力を自身の攻撃力分上昇させるナーネ！」

古代究極ATK4400 - 8800

ゴ「…なに…！」

ク「さあ、私の生徒に手を出そうとしたことを後悔するナーネ！『古代の機械究極巨人』で『連弾の魔術師』にアタック！！ スーパー・アルティメット・パウンド！！！」

ゴ「ぐ…だが…まだLPは残る…！」

ク「甘いナーネ！ダメージステップ時、速攻魔法『リミッター解除』！機械族の攻撃力を2倍にするナーネ！」

古代究極ATK8800 - 17600

ゴ「なんだとっ！」

古代究極 ATK 17600 VS 連弾 ATK 16000 (- 16000)

ゴ「ぐわあああああああああああああ！」 LP 8000 - 0

倒れ動かなくなるゴーストに対し、そして周りのゴーストに対し、
言い放つクロノス。

ク「私は生徒のためなら鬼にでもなんにでもなるノーネ！さあ、覚
悟あるものだけが私と刃を交えるノーネ！！！」

一方、クロウ

クロウ「へっ！そのスピードじゃあこのクロウ様には一生追いつけ
ないぜ！」

カーチエイズをしているがクロウのほう一枚上手で、ゴーストた
ちは全く追いつけない。

ゴ「…クツ、仕方がない！ならば『闇のゲーム』で貴様を止めるまで
！『スピード・ワールド』強制発動！」

そう言うと同時にクロウのほうの『スピード・ワールド』も発動す

る。

クロウ「ほお、俺とデュエルでケリをつけるのか…面白れえ！」

クロウ・ゴ「デュエル!!」

注意!この物語でのRDは普通のスタンディングと同じで魔法の制限はありません。

もうRDの魔法はいちいち面倒なので。

クLP8000 手札5 デッキ35
ゴLP8000 手札5 デッキ35

ク「俺のターン!」手札5 - 6 デッキ35 - 34
ク「モンスターをセット!ターンエンドだ!」

1ターン目

クLP8000 手札5 裏守 デッキ34
ゴLP8000 手札5 デッキ35

ゴ「私のターン!」手札5 - 6 デッキ35 - 34
ゴ「LP500をコストに『スター・ブラスト』発動!手札のモンスター
のレベルを1つ下げる!」手札6 - 5 LP8000 - 75
00

ク「ふーん、面白いカードを使うじゃねえか…」

ゴ「そしてレベル4に下がった『アームド・ドラゴンLv5』を召

喚！」手札5 - 4

ゴ「行け！裏側モンスターに攻撃！アームド・バスター！」
アームド5 ATK2300 VS ヴァーユDEF0

ゴ「ふん！守備0のモンスターを伏せるとは、相当事故っているのか？カードを2枚伏せて、ターンエンドだ！」手札4 - 2

ゴ「そしてエンドフェイズ！『アームド・ドラゴンLv5』は『アームド・ドラゴンLv7』へ進化する！」デッキ34 - 33

ク「へえ、すげえな…」

2ターン目

クLP8000 手札5 デッキ34

ゴLP8000 手札2 アームド7 セット2 デッキ33

ク「行くぜ！俺のターン！」手札5 - 6

ク「相手フィールド上のみモンスターが存在するとき手札の『BF - 暁のシロツコ』をリリース無しで召喚出来る！」手札6 - 5

ク「さらに手札の『BF - 黒槍のブラスト』と『BF - 疾風のゲイル』は俺の場に『BF』と名のついたモンスターが存在するとき手札より特殊召喚できる！」手札5 - 3

ゴ「何っ！さらに2体のモンスターだと！」

ク「まだだ！俺の場に『BF』と名のついたモンスターが3体存在するとき、罠カード『デルタ・クロウ アンチ・リバーズ』は手札から発動できる！」手札3 - 2

ゴ「何だっ！手札から罠だっ！」

ク「『デルタ・クロウ アンチ・リバーズ』の効果でてめえのフィールド上のセットされた魔法・罠をすべて破壊するぜ！」

ゴ「…！『次元幽閉』と『レベルダウン！？』が…！」

ク「へっ！小賢しい罠を！」

さらに『BF - 疾風のゲイル』の効果で『アームド・ドラゴンLv7』の攻撃力・守備力を半分にする！」

アームド7 ATK2800 - 1400 DEF1000 - 500

ゴ「ぐ…」

ク「おっと！『BF』の展開力はこんなものじゃないぜ！手札よりさらに手札の『BF - 黒槍のプラスト』を特殊召喚！」手札2 - 1

ク「さて、俺の切り札に倒されることを誇りに思うんだな！レベル5の『BF - 暁のシロツコ』にレベル3の『BF - 疾風のゲイル』をチューニング…！」

ク「黒き疾風よ！秘めたる想いをその翼に現出せよ！シンクロ召喚！
舞い上がれ『ブラックフェザー・ドラゴン』…！」

ゴ「く…『ブラックフェザー・ドラゴン』…！シグナーの証…」

ク「まだまだ！てめえが墓地に送った『BF 大旗のヴァーユ』の効果果！墓地のこのカードとチューナー以外のBF1体をゲームから除外し、そのレベルの合計と同じBFのシンクロモンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚できる！ただし、この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効になるがな。」

ゴ「何っ！墓地でのシンクロ召喚だっ！」

ク「いくぜ！墓地のレベル5の『BF - 暁のシロツコ』とレベル1の『BF - 大旆のヴァーユ』をゲームから除外！」

ク「漆黒の力！大いなる翼に宿りて、神風を巻きおこせ！シンクロ召喚！吹きすさべ」
『BF - アームズ・ウィング』！！」

ク「さあて、バトルフェイズだ！『ブラックフェザー・ドラゴン』！『アームド・ドラゴンLv7』に攻撃！
ノーブル・ストリーム！！」

BFD ATK2800 VS アームド7 ATK1400
(- 1400)

ゴ「ぐおおおおおおおつ！」 LP7500 - 6100

ク「いくぜ！『BF - 黒槍のブラスト』2体でダイレクトアタック！
ダブル・デス・スパイラル！」

ブラスト×2 ATK1700×2 VS 直接攻撃 (- 340)

ゴ「ぐ…がはっ…！」 LP6100 - 2700

ク「『BF - アームズ・ウィング』でダイレクトアタック！
ブラック・チャージ！！」

ゴ(…だが…まだ…残る…！)

ク「残念だったな！ダメージ計算時、手札の『BF - 月影のカルト』の効果！BFが攻撃するときにそのターンの終了時までそのBFの攻撃力を1400上昇させる！！」

アームズATK2300 - 3700

ゴ「な…ま…まさか…！」

ク「さあ、お前の出番は終わったんだよ！とつとと消えな！」

ゴ「ぐわあああああああ！」LP2700-0

デュエルが終わりゴーストはクラッシュ。

その残骸をよけ、多くのゴーストが追ってくる。

ク「面倒だ！てめえら束になってかかってきな！」

一方、学校

一番上の階層である3年生の教室

先ほどの轟音でクラス内は大騒ぎになっている。

生徒A「おい！今の轟音なんだ！？」

生徒B「わからないわよ、それよりあれ見て！」

その言葉で生徒達が一斉に窓の外を見る。

外では明らかな不審者の大群ゴーストが校舎のいろいろなところに大穴を開け、校舎内に侵入していた。

反面、入り口ではその不審者とクロノス校長がデュエルをしていた。

生徒A「畜生！ いったいあれってなんなんだよ！」

生徒B「だから私に聞いてもわからないって！」

こんな会話ばかりで教室は大騒ぎだ。

綾香「…あれってさ、この前のゴースト…だよね？」

少し離れたところで、隼人・綾香・望の3人が話している。

隼人「…そうだな、Dホールに乗っているけど、間違いない。」

望「…狙いは黒田さんかな？」

その言葉に3人は黙ってしまった。

綾香「…友達のためにうちらができることは…」

望「……………」

隼人「…行こうか、奴らを倒しに…！」

その言葉に2人は頷く。

綾香「そうだね、『闇のゲーム』だろうが黒ちゃんがあそこまで悩んでるんだから！」
望「うん、あたしたちも行くのか！」

そう言つて3人は教室を出て行つた

??一方、1年生の教室も大騒ぎだ。

だが、一人だけ教室を出ていった。

亮「……」

彼は携帯を取出し、電話をかける。

幽「…どうした？」

亮「おう、悪い知らせ。学校にゴーストの大群がきた。」
幽「…！」

幽「少し粘ってくれ、すぐに行く。」

亮「了解、こっちは出来るだけのことではやるよ。」

幽「…頼む。」

そう言って電話を切る。

亮「…もう、校内に侵入してきたのか…」

そう言って後ろを振り向く。

ゴ「黒田亮…、貴様にも今この場で死んでもらおうか！
やはり、というべきかゴーストがいた。」

その腕にはデュエルディスクが構えられている。

亮「…やれやれ、幽兄が来るまで掃除でもするかな。」

幽「…で、なんで俺のところにもゴーストが…？」

学校へ行こうとして外に出たところ、これまた当たり前のようにゴーストがいた。

ゴ「クツクツクツ…、私がここで今貴様を殺せば、手柄は私一人のもの！」

幽「…貪欲だな。」

機械にも意思があるのか、と疑問に思う幽であった。

幽「…来いよ、今は急いであるから速攻で勝負をつけさせてもらうけどな。」

ゴ「ふん！その威勢も今のうちだ！」

幽・ゴ「デュエル！！」

幽LP8000 手札5 デッキ35
ゴLP8000 手札5 デッキ35

ゴ「私の先攻！ドロー！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

ゴ「私は『王虎ワンフー』を召喚！このカードにより攻撃力1400以下のモンスターは召喚・特殊召喚された瞬間に破壊される！」

手札6 - 5

幽「…ふーん」

ゴ「さらに『強者の苦痛』！相手モンスターの攻撃力はそのレベル×100低下する！」手札5 - 4

幽「…【メタビート】か…」

ゴ「カードを1枚伏せてターンエンド！」

1ターン

幽LP8000 手札5 デッキ35

ゴLP8000 手札3 ワンフー 強者 セット デッキ34

幽「…ドロー」手札5 - 6

幽（…この手札では…1ターンキルか…）

幽「『未来融合フューチャーフュージョン』発動。融合召喚に決められたモンスターをデッキから墓地に送り、2ターン後の俺のターンに特殊召喚する。」手札6 - 5

ゴ「…何！」

幽「これにより俺は『F・G・D』を選択。デッキより『ダーク・ホルス・ドラゴン』3体と『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』『ダーク・アームド・ドラゴン』の5体を墓地へ送る。」デッキ34 - 29

ゴ「一度に最上級モンスター5体を落としたか…」

幽「墓地の間属性モンスターが5体なので手札の『ダーク・クリエイター』を特殊召喚。」手札5 - 4

ゴ「何ッ…！だが『強者の苦痛』により攻撃力は800下がり、攻

撃力は1500になる！」

ゴ「奴はおそらく『ダーク・クリエイター』の効果で『ダーク・ホルス・ドラゴン』を特殊召喚し、攻撃してくる。だが…セットカードは『魔法の筒』、攻撃してきたら大ダメージを与えてやる…！」

幽「『ダーク・クリエイター』の効果、墓地の『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』をゲームから除外し『ダーク・ホルス・ドラゴン』を蘇生。」

ゴ「……『強者の苦痛』により攻撃力を800下げる。」
ホルス ATK 3000 - 2200

幽「…セットカードは……攻撃反応系か…」

ゴ「…！」

幽「お前らの考えることなんてわかりやすいからな。」

ゴ「…だったらどうする、黒田幽…！」

幽「手札の『ネクロ・ガードナー』をコストに『死者転生』を発動、墓地のモンスター『ダーク・アームド・ドラゴン』を手札に戻す。」
手札 4 - 2 - 3

ゴ「な…！」

幽「手札に戻した『ダーク・アームド・ドラゴン』は墓地の闇属性が3体の場合のみ特殊召喚できる。」

今の俺の墓地には『ダーク・ホルス・ドラゴン』2体と『ネクロガードナー』が居る。よって、『ダーク・アームド・ドラゴン』を特殊召喚！」手札 3 - 2

幽「『ダーク・アームド・ドラゴン』の効果、墓地の闇属性モンスター1体？ 『ダーク・ホルス・ドラゴン』をゲームから除外し、フィールド上のカード1枚を破壊する。最初の対象はセットカードにするか。」

ゴ「ぐ…『魔法の筒』がつ…！」

幽「『ダーク・アームド・ドラゴン』の効果で『ダーク・ホルス・ドラゴン』を除外し、『強者の苦痛』を破壊！」

ゴ「くっ…これにより貴様のフィールド上のモンスターの攻撃力は戻る…！」

クリエイター ATK 1500 - 2300

ホルス ATK 2200 - 3000

アームド ATK 2100 - 2800

幽「再び『ダーク・アームド・ドラゴン』の効果、『ネクロ・ガードナー』を除外し『王虎ワンフー』を破壊。」

ゴ「ま…まさか…1ターンキル…！」

幽「バトル 『ダーク・ホルス・ドラゴン』 『ダーク・アームド・ドラゴン』 『ダーク・クリエイター』で直接攻撃！！
ダークネス・メガフレーム！ダークアームド・パニッシャー！・地獄の雷！」

ゴ「ぐおおおおおおお！！」 LP 8000 - 5000 - 2200

- 0

力なく倒れるゴースト、それを無視して自転車にまたがる幽

幽「…残り30分か…粘ってくれているかな…」

そう言っつて自転車を漕ぎだし、学校へと向かった

第5話 E N D

第5話 アカデミアの脅威（後書き）

綾香「ゴースト1ターンキルされてばかり…」

隼人「モブキャラだから、仕方ないさ。」

綾香「…そうなのかな…とりあえず次回予告をしようか」

隼人「…そうだな、というわけで次回予告！」

綾香「教師と生徒、それぞれが自分の思いと共にゴーストに『闇のゲーム』へと挑む！」

隼人「アカデミアとゴーストとの戦いの終幕！次回、第6話『仲間のために』！」

綾香「キーカードは『キメラテック・オーバー・ドラゴン』 『氷炎の双竜』です！お楽しみに！」

第6話 仲間のために

デュエルアカデミア

ゴースト侵入から早30分が経過した。

セキリュティも加わり、ゴーストの数は少しずつ減っていった。

デュエルアカデミア1年生の教室周辺？

亮LP8000	手札5	デッキ35
ゴLP8000	手札5	デッキ35

ゴ「私の先攻！ドロー！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

ゴ「私は『ライオウ』を召喚！」手札6 - 5

亮「…特殊召喚とサーチを封じるモンスターか…厄介だな…」
ゴ「クツクツクツ…ターンエンドだ」

1ターン目

亮LP8000 手札5 デッキ35

GLP8000 手札5 デッキ34 ライオウ

亮「随分ゆつたりしたスタートだな…、俺のターン！」手札5 - 6
デッキ35 - 34

亮「…『カードガンナー』を召喚！」手札6 - 5

ゴ「クツクツクツ…お前も大して変わらないではないか…」
亮「まあ、そう言うなって。」

『カードガンナー』は1ターンに1度、デッキの上からカードを3枚まで墓地へ送り、その数×500ポイントの攻撃力をターン終了時まで得る。

3枚を墓地へ送り、攻撃力を1500ポイントアップさせる！
デッキ34 - 31

ゴ「…相打ち狙いか…」

亮「『カードガンナー』で『ライオウ』に攻撃！
ガンナーシ
ヨット！」

ガンナー ATK1900 VS ライオウ ATK1900

ゴ「ちっ…」

亮「だが、『カードガンナー』は破壊され墓地へ送られたとき、デッキからカードを1枚ドロウする！」手札5 - 6 デッキ31 - 30
ゴ「…『ライオウ』を倒し、相打ちで『カードガンナー』でドロウする…」

流石、あの男の弟だけはある…)

亮「さて、カードを1枚セットして、ターンエンドしておくかな。」

2ターン目

亮LP8000 手札5 デッキ30 セット

ゴLP8000 手札5 デッキ34

ゴ「私のターン！」手札5 - 6 デッキ34 - 33

ゴ「『王虎ワンフー』を召喚！」手札6 - 5

亮「…召喚・特殊召喚された攻撃力1400以下のモンスターを破壊するカードねえ…」

ゴ「バトルフェイズ！『王虎ワンフー』でダイレクトタック！

タイガー・トラスト！！」

ワンフーATK1700 VS 直接

亮「『ガードブロック』発動、ダメージを0にして1枚ドロウする

！」手札5 - 6 デッキ30 - 29

ゴ「く…っ

だが、メインフェイズ2に『強者の苦痛』を発動！これで貴様のモンスターの攻撃力はレベル×100ダウンする！」手札5 - 4
亮「ほー、良いコンボだなあ。」

ゴ「カードをセットしてターンエンドだ！」

3ターン目

亮LP8000 手札6 デッキ29

ゴLP8000 手札3 デッキ33 ワンフー 苦痛 セット

亮「俺のターン、ドロー！」手札6 - 7 デッキ29 - 28

亮「『手札抹殺』発動！互いに手札をすべて捨て、同じ枚数だけドローする！」

亮 手札7 - 6 デッキ28 - 22 ゴ デッキ33 - 30

亮「さらに『闇の誘惑』！デッキから2枚をドローし、その後闇属性モンスターを手札よりゲームから除外する。」デッキ22 - 20

ゴ（…何のつもりだ…手札交換ばかり…、奴のデッキは【エクゾディア】ではないはず…）

亮（手札交換で揃った…これで…）

亮「『死者転生』発動！手札1枚をコストに、墓地のモンスターを手札に戻す！」手札6 - 4

ゴ「く…っ…、何を戻すつもりだ…」

亮「手札に戻すのは…『サイバー・ドラゴン』！」手札4 - 5

ゴ「…っ、『サイバー流』の象徴…！」

亮「行くぜ！手札より『融合』発動！」

このカードは手札・フィールドから融合モンスターによって決められたモンスターを墓地へ送り、エクストラデッキから融合モンスター1体を特殊召喚する！

俺は手札の『サイバー・ドラゴン』3体を墓地へ送る！」手札
5 - 1

ゴ「…！3体の『サイバー・ドラゴン』だと!？」

亮「サイバー流究極の竜よ！神を越す絶対的な力で、万物を無にせよ！融合召喚！
最強の象徴！『サイバー・エンド・ドラゴン』
!!--!」

ゴ「く…っ…、だが！『強者の苦痛』でレベル×1000の攻撃力を奪う！

『サイバー・エンド・ドラゴン』のレベルは10！攻撃力を1000下げる！」

サイバーエンド ATK4000 - 3000

亮「だが、お前のモンスターを倒すには十分！『サイバー・エンド・ドラゴン』で『王虎ワンフー』を攻撃！
エターナル・エヴ
オリュシオン・バアアストオオ!!」

ゴ「甘い！『ドレインシールド』を発動！攻撃を無効にして、攻撃モンスターの攻撃力分、LPを回復！」LP8000 - 11000

亮「あらら…LP回復か…」

ま、いいか、モンスターをセットしてターンエンド！」

4ターン目

亮LP8000 手札0 デッキ20 サイバーエンド 裏守

ゴLP11000 手札3 デッキ30 ワンフー 苦痛

ゴ「…私のターン！」手札3 - 4 デッキ30 - 29

ゴ「クツクツクツ…、私の勝ちだ！現れよ！『神獣王バルバロス』
！」手札4 - 3

亮「攻撃力を1900にして通常召喚できるレベル8モンスターか
…」

ゴ「バトルだ！『神獣王バルバロス』で『サイバー・エンド・ドラ
ゴン』に攻撃！ トルネード・シェイパー！！！」

亮「攻撃力差は1100…、これを打ち砕くのは…あのカードしか
ないな…」

サイバーエンド ATK 3000 VS バルバロス ATK 1900
ゴ「ダメージステップに『禁じられた聖杯』を発動！1体の効果を
無効にし、攻撃力を400上昇する！

『神獣王バルバロス』の効果が無効になったことにより、攻撃
力は3000に戻り、さらに『禁じられた聖杯』の効果でさらに4
00アップ！」手札3 - 2

サイバーエンド ATK 3000 VS バルバロス ATK 1900
- 3000 - 3400

亮「…っ、が…っ」LP 8000 - 7600

ゴ「さらに、『王虎ワンフー』で裏側モンスターへ攻撃！ タ
イガー・トラスト！！」

ワンフー ATK 1700 VS メタモル DEF 600

亮「『メタモルポット』の効果 互いに手札をすべて捨て5枚
をドローする！」

ゴ「く…っ、手札補充か…」

亮 手札 0 - 5 デッキ 20 - 15 ゴ 手札 2 - 5 デッキ 2
9 - 24

ゴ（予想外だった、まさか一気にアドバンテージを取られるとは…）

ゴ「…カードを2枚セットして、ターンエンドだ…」

5ターン目

亮LP7600 手札5 デッキ15

ゴLP11000 手札3 デッキ24 ワンフー バルバ 苦痛

セット2

亮「俺のターン！」手札5 - 6 デッキ15 - 14

亮「『ハリケーン』を発動！お互いのフィールド上の魔法・罫をすべて手札に戻す！」

ゴ「何だと…っ！」亮 手札6 - 5 ゴ 手札3 - 6

亮「罫だつて見え見えなんだよ。」

ゴ「…っ！」

亮「行くぜ！手札より『オーバーロード・フュージョン』を発動！

フィールド・墓地から、閻属性・機械族の融合モンスターによって決められたモンスターをゲームから除外し、融合モンスターを融合召喚する！

俺は墓地の『サイバー・ドラゴン』3体と『サイバー・エンド・

ドラゴン』『カードガンナー』、『死者転生』によって捨てた『プ

ロト・サイバー・ドラゴン』、『手札抹殺』で捨てた『サイバー・

ダーク・ホーン』『サイバー・ダーク・エッジ』の8体を融合素材

とする！」手札5 - 4

ゴ「な…8体融合だと!？」

亮「私の勝利のために サイバー・ドラゴンよ、その力を収束

せよ！ 融合召喚！絶対的な力？ 『キメラテック・オーバー・

ドラゴン』…!!!…!!!

このモンスターの攻撃力は融合召喚に使用したモンスターの数の800倍になる！よって攻撃力は6400！」

ゴ「そ…そんな馬鹿な…！」

亮「まだだ！手札より、『異次元からの埋葬』を発動！ゲームから除外されたモンスターを3体まで墓地へ戻す！この効果で『サイバー・ダーク・ホーン』『サイバー・ダーク・エッジ』、そして『闇の誘惑』で除外された『サイバー・ダーク・キール』を墓地へ戻す！さらに手札より『サイバーダーク・インパクト！』を発動！手札・フィールド・墓地のいずれかより、『サイバー・ダーク・ホーン』『サイバー・ダーク・エッジ』『サイバー・ダーク・キール』の3体をデッキに戻すことで、エクストラデッキより『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』を融合召喚する！」手札4-3-2
ゴ「な…さらに上級モンスターを呼ぶだと…！」

亮「暗黒に染まったサイバー流よ、その元凶の力を今こそ示せ！

融合召喚！ 対をなす切り札！『鎧黒竜 サイバー・ダーク・

ドラゴン』…！！

このモンスターの攻撃力は、俺の墓地のモンスター1体につき100上昇する！墓地には『ダークホルス・ドラゴン』『ネクロガードナー』『ハウンド・ドラゴン』『終末の騎士』『レベルステイラー』『極星獣グルファクシ』の6体のため、600上昇する！」
鎧黒竜 ATK1000-1600

ゴ「…！『王虎ワンフー』の効果を受けないだと…！」

亮「さらに、このカードの融合召喚時、俺の墓地のドラゴン族を装備し、その攻撃力を得る！『ダークホルス・ドラゴン』を装備し、攻撃力をさらに3000ポイントアップ！」

鎧黒竜 ATK1600-4500

ゴ「攻撃力6400と4500だと…！」

亮「さあ、行くぜ！『キメラテック・オーバー・ドラゴン』は融合素材の数だけモンスターへ攻撃できる！『神獣王バルバロス』と『王虎ワンフー』へ攻撃！！ エヴオリューション・レザルト・バアアストトトオオ！！二連打ア！！」

オーバーATK6400 VS バルバロスATK3000（-3400）

ワンフーATK1700（-4700）（計-8100）

ゴ「グオオオオオオオオオオ！！」LP11000-2900

亮「終わりだ！『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』でダイレクトアタック！ フル・ダークネス・バアアストオオ！！」

ゴ「ぐおおおおおつ！」LP2900-0

その衝撃は凄まじく、ゴーストは跡形もなくなった。それを横目で見て、その場を去る亮…

亮「さて…どうしようか…」

一方、外

壁を壊して、まさに侵入しようとしたゴーストたち。その時に後ろから声がした。

隼人「待てよ、機械共。」

振り向くゴースト。

そこには、隼人・綾香・望の3人が立っていた。

ゴ1「貴様ら、何者だ。」

隼人「いや、それは俺たちのセリフだが。」

ゴ1「…(一理ある)」

去れ、勇者気取りしても我らは止まらない。」

綾香「でも、黒田幽があなたたちの狙いなんじゃない？」

ゴ2「ほお…、成程、我らの事を知っているのか。」

その言葉で3体居たゴーストが同時にデュエルディスクを構える。

ゴ1「ならば、貴様たちを。」

ゴ2「生かすわけにはいかん。」

ゴ3「さあ、受けてもらおう。闇のゲームを！」

その言葉に対し、ゴーストと対峙する3人。

当然、デュエルディスクは構えている。

望「元より、そのつもりですけど。」

綾香「うちらだって、黒ちゃんの力くらいにはなりたいからね。」

隼人「面倒だから、まとめてかかってきな。」

ゴ「面白い！ならば、貴様らを葬ってやるっ！」

綾香・望・隼人・ゴx3「デュエル!!!」

隼人LP8000 手札5 デッキ35

ゴLP8000 手札5 デッキ35

ゴ「私のターン！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

ゴ「モンスターをセットして、ターンエンドだ！」

1ターン目

隼人LP8000 手札5 デッキ35

ゴLP8000 手札5 デッキ34 裏守備

隼人「行くぜ！俺のターン！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

隼人「俺は『ホルスの黒炎竜LV4』を召喚！」手札6 - 5

ゴ「フン、ホルスデッキか。」

隼人「行け！セットモンスターに攻撃！ ダーク・ブレス！」

ホルス4 ATK1600 VS タートルDEF1400

ゴ「私は、『ピラミッド・タートル』の効果発動！このカードが戦闘で破壊されたとき、デッキの守備力2000以下のアンデット1体を特殊召喚できる！」

隼人「く…っ、リクルーターだったか…！」

ゴ「この効果で出でよ！『真紅眼の不死竜』！！！」
「デッキ34 - 33」

隼人「攻撃力2400をいきなり呼び出したか…、カードを1枚セツトして、エンドフェイズに『ホルスの黒炎竜LV4』の効果発動！このカードを墓地に送り、『ホルスの黒炎竜LV6』をデッキから特殊召喚出来る！」
「デッキ34 - 33」

2ターン目

隼人LP8000 手札4 デッキ33 ホルス6 セツト

ゴLP8000 手札5 デッキ33 不死竜

ゴ「私のターン！」
手札5 - 6 デッキ33 - 32

ゴ「手札より、『ゾンビマスター』を召喚！」
手札6 - 5

ゴ「『ゾンビマスター』の効果発動！手札の『ゾンビキヤリア』を捨て、捨てた『ゾンビキヤリア』を蘇生する！」
手札5 - 4

隼人「ちっ…シンクロ召喚か…！」

ゴ「まだまだ！私は不死の楽園 『アンデット・ワールド』を発動！」

隼人「な…っ」

ゴ「これでフィールドと墓地のモンスターはアンデット族となり、アンデット族以外をアドバンス召喚出来なくなる！」

そして私はレベル4の『ゾンビマスター』にレベル2の『ゾンビキヤリア』をチューニング！

腐敗した龍よ！絶望の姿とともにすべての死を超越せよ！シン
クロ召喚！ 絶望の力『デスクイザードラゴン』！

『デスクイザードラゴン』の効果！特殊召喚成功時に相手の墓
地のアンデット族モンスター1体を特殊召喚する！」

隼人「今の俺の墓地は『アンデット・ワールド』ですべてアンデッ
ト族…！」

ゴ「貴様の墓地の『ホルスの黒炎竜LV4』はいただく！」

隼人「く…っ…！」

ゴ「バトル！『真紅眼の不死竜』で『ホルスの黒炎竜LV6』に攻
撃！ アンデット・メガ・フレイルム…！」

不死ATK2400 VS ホルスATK2300

隼人「が…っ…」LP8000-7900

ゴ「『真紅眼の不死竜』の効果！アンデット族モンスターを戦闘で
破壊したとき、そのモンスターを私のフィールド上に特殊召喚でき
る！」

隼人「…っ、だが、『ホルスの黒炎竜LV6』はフィールド上では
魔法の効果を受けず、アンデット族ではない！よって『真紅眼の不
死竜』では特殊召喚出来ない！」

ゴ「フン！ならば、『デスクイザードラゴン』でダイレクトアタッ
ク！ ゾンビ・ブースト…！」

隼人「リバーズカード！『ガードブロック』！戦闘ダメージを0に
してデッキからカードを1枚ドロウする！」手札5 デッキ33 -
32

ゴ「ならば味方の攻撃を受けよ！『ホルスの黒炎竜LV4』でダイ
レクトアタック！ アンデット・ブレス…！」

ホルスATK1600 VS 直接

隼人「ぐあああっ…」LP7900-6300

ゴ「カードをセットして、ターンエンドだ。」

3ターン目

隼人LP6300 手札5 デッキ32

ゴLP8000 手札3 デッキ32 不死竜 デスD ホルス4

セット

F アンデット・ワールド

隼人「ぐ…っ」

ゴ「ふん、この程度の痛みで息を切らしていたら闇のゲームを最後まで続けられないぞ。」

隼人「う…るせえな、俺のターン！」手札5 - 6 デッキ32 - 31

隼人（よし…これなら…）

隼人「魔法発動！『死者蘇生』！俺は墓地より『ホルスの黒炎竜LV6』を特殊召喚！」手札6 - 5

隼人「さらに、『ホルスの黒炎竜LV6』を墓地へ送り、手札より『レベルアップ！』を発動！この効果でデッキより『ホルスの黒炎竜LV8』を特殊召喚！」手札5 - 4 デッキ31 - 30

ゴ「『ホルスの黒炎竜LV8』…！魔法を封じる力を持つ竜…。」
隼人「そうだ！『ホルスの黒炎竜LV8』の効果は、魔法の発動を無効にし破壊することができる！

バトルフェイズ！『ホルスの黒炎竜LV8』で『デスカイザードラゴン』に攻撃！ ブラック・メガフレーム…！」

ゴ「甘い！リバーズカード発動！『炸裂装甲』！相手の攻撃モンスターを破壊する！」

隼人「な…っ…！」

隼人「…カードを1枚セットして、モンスターを守備表示…ターン終了だ…」

4ターン目

隼人 LP 6300 手札 3 デッキ 30 裏守 セット
ゴ LP 8000 手札 3 デッキ 32 不死竜 デスD ホルス4
F アンデット・ワールド

隼人（…流石に『炸裂装甲』は予想外だったな…、だけど…）

ゴ「私のターン！」手札 3 - 4 デッキ 32 - 31

ゴ「私は、手札のカード1枚をデッキの一番上に戻し、墓地の『ゾンビキャリア』を特殊召喚！ 手札 4 - 3 デッキ 31 - 32
さらに、レベル4でアンデット族となった『ホルスの黒炎竜 LV4』にレベル2の『ゾンビキャリア』をチューニング！！

冥界の魔王よ！死してなおその悪夢を敵に見せつけよ！ シンクロ召喚！ 悪夢の象徴『蘇りし魔王 ハデス』！」

隼人「く…っ…攻撃力2000以上のモンスターが3体…！」

ゴ「バトル！『真紅眼の不死竜』で裏側守備モンスターを攻撃！

アンデット・メガ・フレイルム…！！」

不死竜 ATK 2400 VS 魔導雑貨商人 DEF 700

隼人「『魔導雑貨商人』のリバース効果を発動！」

ゴ「『蘇りし魔王 ハデス』の効果！アンデット族が戦闘破壊したモンスターの効果は無効になる！」

隼人「…！ということは『魔導雑貨商人』の効果も無効に…！」

ゴ「さらに、『真紅眼の不死竜』の効果！このカードがアンデット

族モンスターを戦闘破壊したとき、そのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚出来る！」

隼人「く…っ…」

ゴ「バトルフェイズを続けるぞ！『魔導雑貨商人』でダイレクトアタック！　　雑貨殴り！」

雑貨 ATK200 VS 直接

隼人「痛っ！」 LP6300 - 6100

ゴ「行け！『デスカイザードラゴン』でダイレクトアタック！！
ゾンビブースト！」

デス ATK2400 VS 直接

隼人「ぐわわあああああああつ！！」 LP6100 - 3700

ゴ「さあ、死へのロードを味わえ！『蘇りし魔王 ハデス』でダイレクトアタック！！　　地獄の洗礼！！！」

隼人「ぐ…ああ…っ…！」 LP3700 - 1250

ゴ「クツクツクツ…メインフェイズ2になり、『魔導雑貨商人』をリリースし、『龍骨鬼』を召喚し、ターンエンドだ！」

4ターン目

隼人 LP1250 手札3 デッキ30 セット

ゴ LP8000 手札2 デッキ32 不死竜 デスD ハデス

龍骨鬼

F アンデット・ワールド

隼人「…ぐ…っ…」

ゴ「ふん、中々持つじゃないか、だが、諦めてサレンダーをすれば、楽になれるぞ？」

隼人「…フツ…この程度で諦める俺じゃないぜ。」

ゴ「ゴーストの言葉をあざ笑う隼人。」

ゴ「…面白い…、このデュエルで貴様の骨まで焼き尽くしてくれる
！！」

隼人「やってみろ、機械程度に負けはしないぜ！」

俺のターン！！」手札3 - 4 デッキ30 - 29

隼人「手札より永続魔法 『未来融合 フューチャー・フュージ

ョン』を発動する！」手札4 - 3

ゴ「！！」

隼人「エクストラデッキの融合モンスターを1体選択し、融合召喚
に決められたモンスター1組をデッキから墓地へ送る。そして、2
ターン後にその融合モンスターを融合扱いで得召喚する！」

俺はこの効果で『F・G・D』を選択！デッキより『青氷の
白夜竜』『ブリザードドラゴン』3体と『タイラント・ドラゴン』
の5体を墓地へ送る！」デッキ29 - 24

ゴ「貴様ら、揃いも揃っておなじカードを…！（詳しくは第5話の
幽VSゴースト参考）」

隼人「さらに！俺は墓地の水属性『青氷の白夜竜』『ブリザードド
ラゴン』と炎属性『タイラント・ドラゴン』の3体をゲームから除
外し」

隼人「混じること無き二つが生み出した産物よ！その常識を覆す咆
哮で敵をかき消せ！ 出でよ！我が切り札 『氷炎の双竜』
！！！！」

そして『氷炎の双竜』の効果発動！1ターンに一度、手札1枚
をコストに相手フィールド上のモンスター1体を破壊する！

俺は手札の『ヴォルカニック・バレット』を捨て、『蘇りし魔

王 ハデス』を破壊！」手札3 - 2 - 1

ゴ「ぐ…っ…！！」

隼人「そして墓地へ送った『ヴォルカニック・バレット』の効果発
動！LPを500支払い、デッキの同名カード1枚を手札に加える

！」手札1 - 2 LP1250 - 750

隼人（…だが、今の状況では動くには早すぎる…）

隼人「…カードを1枚セットして、ターンエンド…」

5ターン目

隼人LP750 手札1 デッキ24 双竜 セット2 未来融合
GLP8000 手札2 デッキ32 不死竜 デスD 龍骨鬼
F アンデット・ワールド

ゴ「クツクツクツ…切り札もその程度の働きか…」

私のターン！」手札2 - 3 デッキ32 - 31

ゴ「私は、『おろかな埋葬』を発動し、デッキの『馬頭鬼』を墓地へ送る！」手札3 - 2 デッキ31 - 30

隼人「く…っ…『馬頭鬼』を落とすは…」

ゴ「私は『馬頭鬼』を除外し、効果を発動！自分の墓地のアンデット族モンスター1体を蘇生する！蘇れ、『蘇りし魔王 ハデス』！

さらに私は手札より『邪神機 獄炎』を召喚！」手札2 - 1
隼人「上級モンスターをリリースなしで召喚しただと…！」

ゴ「クツクツクツ…このモンスターはリリースなしで召喚出来る！ただし、エンドフェイズにフィールド上にこのカード以外のアンデット族がない場合破壊され、攻撃力分のダメージを受けるがな。

もつとも、今は『アンデット・ワールド』の効果ですべてのモンスターがアンデット族となっているため、この効果で破壊されることはほとんどない！」

隼人「ち…っ…」

ゴ「さあ、バトルだ！『真紅眼の不死竜』で」
隼人「まだまだ！お前のメインフェイズ終了時にリバースカードを發動！『威嚇する咆哮』！これでお前は攻撃宣言ができない！」
ゴ「ふん、所詮1ターンの猶予が与えられただけ、ターンエンドだ。」

6ターン目

隼人LP750 手札1 デッキ24 双竜 セット 未来融合
ゴLP8000 手札1 デッキ30 不死竜 デスD ハデス
龍骨鬼 獄炎

F アンデット・ワールド

隼人（相手のフィールド上には、上級モンスターが5体…流石は【アンデット族】ってところか……

だが…）

隼人「俺の…ターン！！！」手札1 - 2 デッキ24 - 23

隼人「俺は手札の『ヴォルカニック・バレット』をコストに『氷炎の双竜』の効果で再び消え去れ！『蘇りし魔王 ハデス』！

そして、『ヴォルカニック・バレット』の効果！LP500を払い、同名カードをデッキから手札へ！」LP750 - 250
手札2 - 1 - 2

ゴ「く…っ…、次から次へと同じモンスターを…！」

隼人「さらに『貪欲な壺』！墓地の『ヴォルカニック・バレット』
2体と『ホルスの黒炎竜LV6』『ホルスの黒炎竜LV8』『魔導雑貨商人』をデッキに戻し、2枚をドロー！！」手札2 - 1 - 3
デッキ23 - 28 - 26

隼人（…来た！これで勝てる…！）

隼人「まずは、速攻魔法『サイクロン』で『アンデット・ワールド』を破壊！」手札3-2

ゴ「ぐ…っ、不死の楽園を消してきたか…」

隼人「行くぜ！俺はリバーズカード『異次元からの帰還』を発動する！LP半分をコストにゲームから除外された俺のモンスターを可能な限り特殊召喚する！」LP250-125

ゴ「な…なんだと！？また（幽と）同じカードだと！？」

隼人「異次元より帰還せよ！『青氷の白夜竜』『ブリザードドラゴン』『タイラント・ドラゴン』…！！」

そして俺はチューナーモンスター『炎龍』を召喚！」手札2

- 1

ゴ「ここでチューナーモンスターだと！？」

隼人「行くぜ！レベル8『青氷の白夜竜』にレベル2の『炎龍』をチューニング！！」

ゴ「く…LV10のシンクロ召喚…！！」

隼人「三つ首の龍！今生け贄を喰らいて、大群を殲滅する真の力を我らに見せつけよ！シンクロ召喚！ 焼き尽くせ！『トライデント・ドラギオン』…！！」

『トライデント・ドラギオン』の効果発動！シンクロ召喚時、自分のフィールド上のカードを2枚まで破壊できる！俺はこの効果で『ブリザードドラゴン』『未来融合』『フューチャー・フュージョ』を破壊する！」

ゴ「何ッ！自分のカードを破壊するだど！？」

隼人「そして、『トライデント・ドラギオン』はこのターン自身の効果で破壊したカードの枚数分、攻撃回数を増やす！

効果で破壊したカードは2枚！よってこのターン『トライデント・ドラギオン』は合計3回の攻撃が可能となる！」
ゴ「攻撃力3000で3回の攻撃だと!?」

隼人「バトル！まずは『タイラント・ドラゴン』で『邪神機 獄炎』に攻撃！
タイラント・ドラグーン!!!」

タイラント ATK 2900 VS 獄炎 ATK 2400

ゴ「ぐ...おっ...!」 LP 8000 - 7500

隼人「『タイラント・ドラゴン』の効果は、相手フィールド上にモンスターが存在するとき2回の攻撃が可能になる!」

ゴ「何だっ!」

隼人「『デスカイザードドラゴン』に攻撃！
タイラント・ドラ

グーン・ツヴァイ!!!」

タイラント ATK 2900 VS デスD ATK 2400

ゴ「ぐ...おおっ!」 LP 7500 - 7000

隼人「次は3連打で行くぜ!『トライデント・ドラギオン』の攻撃!!!
トライデント・エンド・ボルケーノ!!!」

トライデント ATK 3000 VS 不死竜 ATK 2400

龍骨鬼 ATK 2400

直接 (- 4200)

ゴ「ぐ...おお...おお...おおっ!」 LP 7000 - 2800

隼人「まだだ!『氷炎の双竜』でダイレクトアタック!
スバレット!!!」 カオ

双竜 ATK 2300 VS 直接

ゴ「ぐ...おお...おお...」 LP 2800 - 500

隼人「…エンドフェイスに『タイラント・ドラゴン』は異次元へと戻る。」

7ターン目

隼人LP125 手札1 デッキ26 双竜 トライデント

GPLP500 手札1 デッキ30

ゴ「くっ…あのフィールドを1ターンで制圧するとは…何者だ…！」

だが、私が次のターンで何らかの蘇生カードを引ければ…！」

ゴ「私のターン！」手札1 - 2 デッキ29

ゴ「…！くっ…ドロー出来ないだと…！」

ゴ「…モンスターを守備表示で召喚し、カードを1枚セットしてターンエンドだ。」

8ターン目

隼人LP125 手札1 デッキ26 双竜 トライデント

GPLP500 手札0 裏守備 セット デッキ29

隼人「…ドロー！」手札1 - 2 デッキ25

隼人「『氷炎の双竜』の効果で、手札の『ヴォルカニック・バレット』をコストに、セットモンスターを破壊！」手札2 - 1

ゴ「く…っ…、魂を削る死霊」が…！」

ゴ「だが…リバースカードは『聖なるバリア ミラーフォース』…、攻撃してきたら返り討ちにしてくれる…！」

隼人「小細工は通用しない！『ミラーージュ・ドラゴン』を召喚！」
手札1-0

ゴ「な…！そのカードは…！」

隼人「『ミラーージュ・ドラゴン』はフィールド上に存在するとき、
相手はバトルフェイズ中に罠カードを発動できない！」

ゴ「く…、ま…まさか…この程度の餓鬼に…！」

隼人「人を外見で決めつけないことだ！

バトルフェイズ！『氷炎の双竜』で相手プレイヤーにダイレクトア
タック！ カオスバレット…！！！」

双竜 ATK2300 VS 直接

ゴ「くそおおおおお！」 LP500-0

同刻、望とゴーストのデュエル

望 LP8000 手札5 デッキ35

ゴ LP8000 手札5 デッキ35

ゴ「私の先攻！ドロー！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

ゴ「手札より『悪夢の拷問部屋』を発動！効果ダメージ発生時に相手に300のダメージを与える！

さらに、『連弾の魔術師』を召喚！このカードは通常魔法発動時に相手に400のダメージを与える！」手札6 - 4

望（うわー、絶対に【フルバーン】だろうな…、相性はいいけど…闇のゲームだし、ダメージはあんまり受けたくないんだけどな…）

ゴ「通常魔法『デス・メテオ』！相手に1000のダメージを与える！」手札4 - 3

望（…やつぱり…）

望「わあああつ！」LP8000 - 7000

ゴ「さらに『悪夢の拷問部屋』を『連弾の魔術師』の効果で700の追加ダメージを与える！」

望「…うああ…っ…！」LP7000 - 6300

ゴ「さらに『連弾の魔術師』のダメージに対し、『悪夢の拷問部屋』で300のダメージを与える！」

望「う…あぐっ…！」LP6300 - 6000

ゴ「クッククック…小娘相手に大人げないかな？ターンエンドだ。」

1ターン目

望LP6000 手札5 デッキ35

ゴLP8000 手札3 デッキ34 連弾 悪夢

望「…っ、私のターン！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

望「…フィールド魔法『天空の聖域』を発動します！

さらに、『天空の泉』を発動します！」手札6 - 4

ゴ「天使族の戦闘ダメージを0にするカードに、戦闘破壊された自分のモンスターを除外することでLPを回復するカードか…、『フルバーン』には無意味だな、クツクツクツ…」

望「無意味ではないことを教えてあげます！」『コーリング・ノヴァ』を召喚！

このままバトルフェイズに入り、『コーリング・ノヴァ』で『連弾の魔術師』に攻撃！ 新星の波動！」手札4 - 3

ノヴァ ATK1400 VS 連弾 ATK1600

望「『コーリング・ノヴァ』はバトルで破壊され墓地へ送られたとき、デッキから攻撃力1500以下の光属性天使族のモンスター1体を特殊召喚することができます！

その効果にチェインして『天空の泉』の効果発動です！戦闘破壊された光属性の『コーリング・ノヴァ』をゲームから除外して、その攻撃力？ 1400のLPを回復します！」LP6000 - 7400

ゴ「LP回復の上にリクルーターか…、だが、『連弾の魔術師』は破壊できないぞ！」

望「ですが、『コーリング・ノヴァ』には、『天空の聖域』があるとき、デッキより『天空騎士パーシアス』も呼ぶことができます！」ゴ「何ッ！」

望「私は『コーリング・ノヴァ』の効果で『天空騎士パーシアス』を攻撃表示で特殊召喚！

バトルフェイズのため、『天空騎士パーシアス』で『連弾の魔術師』に攻撃します！ エンジェル・スラッシュュ！」デッキ

34 - 33

パーシアス ATK 1900 VS 連弾 ATK 1600

ゴ「ぐおおっ！」 LP 8000 - 7700

望「さらに『天空騎士パーシアス』の効果は戦闘ダメージを与えたとき、デッキからカードを1枚ドロップします！」 手札 3 - 4 デッキ 33 - 32

望「これで私のターンは終了です。」

2ターン目

望 LP 7400 手札 4 デッキ 32 パーシアス 泉

ゴ LP 7700 手札 3 デッキ 34 悪夢

F 天空の聖域

ゴ「私のターン！」 手札 3 - 4 デッキ 34 - 33

ゴ「手札より『ミスフォーチュン』を発動！相手フィールド上のモンスター1体の元々の攻撃力の半分のダメージを与える！

対象は『天空騎士パーシアス』！1900の半分の950のダメージを与える！」 手札 4 - 3

望「…うあああっ！」 LP 7400 - 6450

ゴ「さらに『悪夢の拷問部屋』の効果で300の追加ダメージ！」 望「…うう…」 LP 6450 - 6150

ゴ「闇のゲームの苦痛はこんなものではない！2枚目の『ミスフォーチュン』と『デス・メテオ』を発動！」 手札 3 - 2 - 1

望「…！」

ゴ「『ミスフォーチュン』のダメージ950と『デス・メテオ』の

ダメージ1000を再び受ける！」

望「…っ、うあああああああつ！」LP6150 - 5200

- 4200

ゴ「さらに『悪夢の拷問部屋』で600の追加ダメージを受ける！」

望「く…ぐう…っ…」LP4200 - 3900 - 3600

望「…はあ…はあ…っ」

ゴ「ククククク…辛そうだな。モンスターをセットして、ターンエンド。」

3ターン目

望LP3600 手札4 デッキ32 パーシアス 泉

ゴLP7700 手札0 デッキ33 セット 悪夢

F 天空の聖域

望「…私の…ターン…」手札4 - 5 デッキ32 - 31

望「…バトルフェイズです！『天空騎士パーシアス』でセットモンスターに攻撃…っ エンジェル・スラッシュュ…！」

パーシアスATK1900 VS メタモルDEF600

望「『天空騎士パーシアス』は…守備モンスターを攻撃したとき…貫通ダメージを与えます…！」

ゴ「ぐ…っ…！」LP7700 - 6400

望「さらに効果により1枚ドロします…！」

ゴ「その効果にチェインして『メタモルポット』の効果！互いは手札をすべて捨て、デッキから5枚をドロする！」

望 手札5 - 6 デッキ31 - 25 ゴ 手札0 - 5 デッキ3

3 - 28

望「手札より捨てられた『ホーリー・ジェラル』の効果が発動します！『天空の聖域』が存在するときに戦闘以外で墓地へ送られたとき1000のLPを回復します！」LP3600 - 4600
ゴ「フン…」

望「メインフェイズ2、カードを1枚伏せて…ターンエンドです。」

4ターン目

望LP4600 手札5 デッキ25 パーシアス 泉 セット1

ゴLP6400 手札5 デッキ28 悪夢

F 天空の聖域

ゴ「なかなか粘るようだな、無意味なことを…」

私のターン！」手札5 - 6 デッキ28 - 27

ゴ「…！クツクツクツ…」

望「…？何を笑って…」

ゴ「この勝負…私の勝利のようだ！」

望「…っ！」

望（いや…、私のLPは4600…、簡単に削りきれぬLPじゃないはず…！）

ゴ「クツクツクツ…、手札より『デス・メテオ』！相手に1000のダメージを与える！」手札6 - 5

望（来る…っ…！）

ゴ「さあ、行くぞ！チェーンして発動！『ご隠居の猛毒薬』を発動！

このカードは自分のLPを1200回復するか、相手に800のダメージを与える！

私はダメージを選択する！」

さらにチェーンして、『連鎖爆撃』を発動！このカードの発動時に
積み残しているチェーン数×400のダメージを与える！よって、こ
のカードは1200のバースカードとなる！」手札5-4-3

望「…！合計3000のダメージ…！」

ゴ「クッククツクツ…甘い！さらにもう1枚の『連鎖爆撃』を発動！
このカードの発動時のチェーン数は4！よってさらに1600のダ
メージを与える！」手札3-2

望「…う…嘘…っ…！」

ゴ「さあ！4600のダメージを受け、貴様の敗北だ！」

望「…っ！」

第6話 END

第6話 仲間のために（後書き）

幽「俺の出番がないとは、どういう事だ。」

亮「いいだろ、今までデュエルは幽兄が中心だったんだから。」

幽「そうだな…仕方ない…」

クロノス「そんなこと言ったら私の出番はどこへいったノーネ！」

クロウ「そうだぜ！おれの出番も全くないんだぞ！」

幽「……（汗）」

亮「と…とりあえず…次回予告…」

クロウ「そうだな！次回、ついにゴーストとの決着！そして、その後の関係にヒビが…！」

クロノス「第7話『戦いの果て』楽しみにナノーネ！」

亮「次回のキーカードは『天空勇士ネオパーシアス』『イビリチュア・ソウルオーガ』です！ぜひ見てください！」

幽「…（出番無）」

第7話 戦いの果て（前書き）

エクシーズ召喚登場です。

あんまり活躍はしません。

第7話 戦いの果て

ゴ「私は手札の『デス・メテオ』『ご隠居の猛毒薬』『連鎖爆撃』
2枚を手チェーンして発動！」

これにより合計4600のダメージを貴様に与える！」

望「…っ、私のLPはちょうど4600…！」

望VSゴーストの4ターン目？

状況は以下のとおりである

望LP4600 手札5 デッキ25 パーシアス 泉 セット1

ゴLP6400 手札1 デッキ28 悪夢

F 天空の聖域

チェーン メテオ||猛毒||連鎖||連鎖

ゴ「死ねええええええ！」

望「…っ、私は『メタモルポット』で墓地へ送った『ダメージ・イ
ーター』の効果で『連鎖爆撃』にチェーンして発動します！」

ゴ「何ッ！」

望「このカードをゲームから除外し、効果ダメージを回復へと変換
します！」

『連鎖爆撃』のダメージは1600！よってLPを1600回

復です！」LP4600 - 6200

ゴ「だが、残りのダメージ 合計3000を受けてもらう！」

望「あああああああつ！」LP6200 - 3200

ゴ「さらに『悪夢の拷問部屋』により、追加で900のダメージを
与える！」

望「あ…ぐ…っ…」LP3200 - 2900

望「だけ…ど、生き残った…！」

ゴ「…くっ、だが！所詮少しの延命に過ぎない！カードをセットし
てターンエンド！」

5ターン目

望LP2900 手札5 デッキ25 パーシアス 泉 セット1

ゴLP6400 手札0 デッキ28 セット 悪夢

F 天空の聖域

望（相手は手札を使い切った…、このまま押し切れれば…！）

望「…ドロー…っ」手札5 - 6 デッキ25 - 24

望（…来た！）

望「私は『ホーリー・ジユラル』を召喚します！」手札6 - 5

ゴ「2枚目か…だが、所詮フィールドではバニラモンスター、何が
できるというんだ！」

望「行きます！手札より『ライティング・チューン』！レベル4光

属性の『ホーリ・ジュラル』はチューナーとして扱います！

さらに、『リミット・リバース』を発動です！墓地の攻撃力1000以下の『ホーリ・ジュラル』を蘇生します！」手札5 - 4

ゴ「！シンクロ召喚か…！」

望「行きます！レベル4の『ホーリ・ジュラル』にチューナーとなったレベル4の『ホーリ・ジュラル』をチューニング！！

天空の騎士が同調し、正義の名のもとに復讐を誓う！神聖なる力を奮いて、悪を打ち滅ぼせ！
シンクロ召喚！裁け！『神

聖騎士パーシアス』！！！」

まずは、戦闘以外で墓地へ送られた『ホーリ・ジュラル』の効果です！LPを1000回復します！」LP2900 - 4900

望「さらに『リミット・リバース』『天空の泉』の2枚をコストに、速攻魔法『非常食』を発動します！

発動時にコストとして墓地へ送った魔法・罫カードの枚数×1000のLPを回復します！」LP4900 - 6900 手札4 - 3

ゴ「く…っ、次から次へとLPを回復を…！」

望「そして、私は自分フィールド上の『天空騎士パーシアス』をリリース！」

ゴ「何だどっ！まさか…！」

望「天空の聖域の力を得た天空騎士よ、真の姿を開放し、その勇姿を見せつけよ！
聖域の覇者『天空勇士ネオパーシアス』！！

！」手札3 - 2

ゴ「…！この状況で…このモンスターが出てくるとは…！」

望「『天空勇士ネオパーシアス』は『天空の聖域』が存在し、私の

LPが相手より多いとき、その差分だけ攻撃力を上昇させます！

私のLPは6900、あなたは6400！よって『天空勇士ネオパーシアス』は攻撃力を500上昇！」

ネオパーシアスATK2300 - 2800

望「バトルフェイズです！『神聖騎士パーシアス』でダイレクトアタック！
ホーリー・エンジェル・スラッシュュ！！」

神聖パーシアスATK2600 VS 直接

ゴ「ぐおおおおつ！」LP6400 - 3800

望「私とあなたのLP差が500から3100に広まったため『天空勇士ネオパーシアス』の攻撃力はさらに2600上昇します！」
ネオパーシアスATK2800 - 5400

ゴ「攻撃力：5400…！」

望「終わりです！『天空勇士ネオパーシアス』でダイレクトアタック！
パライム・ライト・スラッシュ
聖騎士閃光斬！！！」

ゴ「【フルバーン】を舐めるなあああ！『魔法の筒』発動！」
望「…！」

ゴ「貴様の攻撃モンスターの攻撃力分のダメージを与える！よって貴様に5400のダメージを与える！！」

ゴ（これで小娘のLPは1000、次のターンで1000以上のバインカードをドローすれば…！）

望「無駄です！手札の『紫光の宣告者』の効果を『コーリング・ノヴァ』と共に墓地へ送り発動します！」手札2 - 0

ゴ「手札からだっ！？」

望「相手の罠カードの発動を無効にします！」

ゴ「…！」

ネオパーシアス ATK5900 VS 直接

ゴ「くそおおおおおお！」 LP3800 - 0

さらに同刻

綾香 VS ゴースト

綾香 LP8000 手札5 デッキ35
ゴ LP8000 手札5 デッキ35

綾香「行くよ！私のターン！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

綾香（相手のデッキは……最初は様子見しようかな……）

綾香「モンスターをセットして、ターンエンド！」

1ターン目

綾香 LP8000 手札5 裏守 デッキ34
ゴ LP8000 手札5 デッキ35

ゴ「私のターン！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

ゴ「私は『アームド・ドラゴンLV3』を召喚！」手札6 - 5 デッキ35 - 34

綾香（…）【アームド・ドラゴン】…かな？

ゴ「カードを1枚セットして、ターンエンド！」

2ターン目

綾香LP8000 手札5 デッキ34 セット

GLP8000 手札4 デッキ34 アームド3 セット

綾香（もつと、序盤から飛ばしてくるイメージがあっただけど…
普通…）

綾香「私のターン！ドロー！」手札5 - 6 デッキ34 - 33

綾香「私は『リチュア・エリアル』を反転召喚！」

このモンスターのリバース効果は、デッキから【リチュア】と名のついたモンスター1体を手札に加える効果よ！

この効果で『リチュア・アビス』を手札に加えるわ！」手札6 - 7 デッキ33 - 32

ゴ「…【リチュア】か…」

綾香「さらに手札に加えた『リチュア・アビス』を召喚！」

『リチュア・アビス』は召喚・反転召喚・特殊召喚に成功したとき、デッキから【リチュア】と名のついた守備力1000以下のモンスター1体を手札に加える！

この効果で、デッキより儀式モンスター
『イビリチュ
ア・ガストクラーケ』を手札に加えるわ！」手札7 - 6 - 7 デッ
キ32 - 31

ゴ「くつ…儀式モンスターのサーチだと…！」

綾香「行きます！手札より『リチュアの儀水鏡』を発動！」手札7

- 6

ゴ「…儀式魔法…！」

綾香「このカードは【リチュア】専用の儀式魔法！

フィールド・手札より、儀式モンスターと同じレベルになる
ようにリリースし、手札の儀式モンスターを特殊召喚する！」

ゴ「貴様の手札には…レベル6の『イビリチュア・ガストクラーケ』
…！」

綾香「私は儀式降臨のためにフィールドのレベル2『リチュア・ア
ビス』とレベル4『リチュア・エリアル』をリリース！

狂気に満ちた邪悪の魔女よ、呪われた身体の恐怖を、海を荒
らす者に存分に示せ！ 降臨せよ！『イビリチュア・ガストク
ラーケ』…！」手札6 - 5

ゴ「くつ…序盤から儀式モンスターを出すとは…！」

綾香「『イビリチュア・ガストクラーケ』は、儀式召喚に成功した
とき、相手の手札をランダムで2枚まで確認し、そのうち1枚をデ
ッキに戻す！」

ゴ「ちつ…ハンデスか…！」

ランダムで選ばれた2枚のカードをゴーストが見せる。

綾香（『聖なるバリア ミラーフォース』と『レベルアップ』
…か

やっぱりミラーフォースはやっぱりかな…）

綾香「『聖なるバリア ミラーフォース』をあなたのデッキに戻すわ！」

ゴ「ち…っ」手札4 - 3 デッキ34 - 35

綾香（だけど相手はミラーフォースを伏せていなかった…）

相手は次のターンで『アームド・ドラゴンLV3』を進化させるはず…

おそらく、あのリバーズカードは…）

綾香「バトルよ！『イビリチュア・ガストクラーケ』で『アームド・ドラゴンLV3』へ攻撃！ 邪悪粉碎術！！」

ゴ「畏カードオープン！『和睦の使者』！このターン私のモンスターは戦闘で破壊されず、ダメージも受けない！」

綾香「くっ…：やっぱり…」

カードを1枚セットして、ターンエンドよ！」

2ターン目

綾香LP8000 手札4 デッキ31 ガストクラーケ セット

ゴLP8000 手札3 デッキ35 アームド3

ゴ「私のターン！」手札3 - 4 デッキ35 - 34

ゴ「このスタンバイフェイズに、私は『アームド・ドラゴンLV3』の効果を発動！」

このカードを墓地へ送り、デッキ・手札より『アームド・ドラゴンLV5』を特殊召喚できる！」デッキ34 - 33

綾香「攻撃力2400か…『イビリチュア・ガストクラーケ』と同

じね…

けど…手札には…」

ゴ「さらに『レベルアップ!』を発動!『アームド・ドラゴンLV5』を墓地へ送り、そのモンスターに記されている『LV』と名のついたモンスターを1体、デッキ・手札から召喚条件を無視して、特殊召喚する!

私はデッキより『アームド・ドラゴンLV7』を特殊召喚!」
デッキ33 - 32

綾香「攻撃力2800か…」

ゴ「『アームド・ドラゴンLV7』の効果!手札のモンスター1体を墓地へ送り、その攻撃力以下の相手表側モンスターすべてを破壊する!

私は『アームド・ドラゴンLV5』を墓地へ送り、攻撃力2400以下のモンスターを破壊!」手札4 - 3

綾香「…っ、『イビリチュア・ガストクラーケ』が…!」

ゴ「バトル!『アームド・ドラゴンLV7』でダイレクトアタック!
アームド・ヴァニッシャー!」

アームド7 ATK2800 VS 直接

綾香「うあああああっ!」LP8000 - 5200

ゴ「クッククック…、カードを1枚セットして、ターンエンド。」

3ターン目

綾香LP5200 手札4 デッキ31 セット

ゴLP8000 手札2 デッキ32 アームド7 セット

綾香「…っ、私のターン！」手札4 - 5 デッキ31 - 30

綾香「私は『リチュア・ビースト』を召喚！

このカードの召喚・反転召喚・特殊召喚成功時に、墓地のレベル4以下の【リチュア】1体を守備表示で特殊召喚出来る！

『リチュア・エアリアル』を蘇生！」手札5 - 4

ゴ「ふん、またお得意の儀式召喚か！だが、それは許さん！

永続罫『生贄封じの仮面』を発動！」

綾香「な…『生贄封じの仮面』…？」

ゴ「このカードの効果により、すべてのリリースを封じる！

儀式召喚はリリースのため、使うことはできない！」

綾香「…く…っ…」

ゴ「クツクツクツ…、諦めてサレンダーを認めてやってもいいんだぞ？」

綾香「…」

綾香「…【リチュア】の勝ち筋が儀式召喚だけなんて思わないでよね！」

ゴ「…何？」

綾香「本当はもう少しとっておきたかったんだけど…行くわよ！

私はレベル4の『リチュア・ビースト』とレベル4の『リチュア・エアリアル』の2体をオーバーレイ！」

ゴ「な…オーバーレイだと…！まさか…」

綾香「美しき人魚の幽霊よ！邪悪なる力を使い、この海域に嵐を巻き起こせ！ エクシーズ召喚！ 制圧せよ！『イビリチュ

ア・メロウガイスト』！！！」

ゴ「な…エクシードズモンスターだと…！」

「ここ最近開発され、その存在すら知らぬ者も沢山居ると言われている、新たなモンスター…！」

綾香「さらに手札より『エクシードズエナジー』を発動するわ！フィールド上のエクシードズモンスターのエクシードズ素材一つを取り除き、相手の表側表示のモンスター1体を破壊する！『リチュア・エリアル』を取り除き、『アームド・ドラゴンLV7』を破壊！」手札4

- 3

メロウガイスト 素材2 - 1

ゴ「ぐ…っ…！」

綾香「バトル！『イビリチュア・メロウガイスト』でプレイヤーにダイレクトアタック！ 邪悪槍鋭断…！」

メロウガイスト ATK 2100 VS 直接

ゴ「ぐ…っ…！」 LP 8000 - 5900

綾香「…ターンエンドよ…っ」

4ターン目

綾香 LP 5200 手札3 デッキ30 メロウガイスト(1)

セット

ゴ LP 5900 手札2 デッキ32 生贄封じ

綾香(だけど…『生贄封じの仮面』がある以上、決して良い状況とは言えない…)

ゴ「私のターン！」手札2 - 3 デッキ32 - 31

ゴ(ぐ…っ…【リチュア】だと思って『生贄封じの仮面』を張ったが…甘かったか…)

ゴ…私はモンスターをセットし…ターンエンドだ…」

5ターン目

綾香LP5200 手札4 デッキ31 メロウガイスト(1)
セット

GLP5900 手札2 デッキ31 裏守 生贄

綾香(…息切れか…、行けるわ…)

綾香「私のターン！」手札4 - 5 デッキ31 - 30

綾香「スピリットモンスター『リチュア・エミリア』を召喚するわ！」手札5 - 4

ゴ…スピリットモンスター？」

綾香「このカードは召喚成功時に私の場に他の【リチュア】が居る時、エンドフェイズまでフィールド上の畏カードの効果を無効にする！」

ゴ「な…『生贄封じの仮面』の効果を無効にするだど！？」

綾香「行くわよ！『リチュアの儀式水鏡』を発動！同時に手札の『シヤドウ・リチュア』の効果を発動！」

ゴ「！？」

綾香「『シヤドウ・リチュア』は1体で水属性儀式モンスターのためのリリースとして扱うことができる！」手札4 - 2

ゴ「何ッ！？」

綾香「儀式の呪いで姿形を失いし魔女よ！^{ヴァイロン}観測者と^{イビリチュア}邪悪の力を示せ！
君臨せよ！『イビリチュア・テトラオーグル』！！」手札2-1

綾香「私は『イビリチュア・テトラオーグル』の効果を発動するわ！
カードの種類を選択し、互いにデッキからそのカード1枚を墓地へ送る！私はモンスターカードを宣言！

相手はこの効果を手札を1枚捨て、無効に出来るけど、どうする？」

ゴ「……くっ……」
ゴ（…私の手札は2枚…。私は特に墓地へ送りたいモンスターは居ないが…これ以上のハンド・アドバンテージを失うのは厳しい…）
ゴ「…無効にはしない。」

綾香「ナルホド、じゃあ私はデッキから『イビリチュア・ソウルオーダー』を墓地へ送るわ。」デッキ30-29

ゴ「…『アームド・ドラゴンLV3』を墓地へ送る…」デッキ31
- 30

綾香「バトルよ！『イビリチュア・メロウガイスト』でセットモンスターに攻撃！
邪悪槍鋭断！！」

メロウガイスト ATK2100 VS 仮面竜 DEF1100

ゴ「く…っ、『仮面竜』の効果を発動！このカードが戦闘破壊で墓地へ送られた時、デッキより攻撃力1500以下のドラゴン族モンスターを特殊召喚できる！」

綾香「…だけど、それは墓地へ送られた時だけよ！」
ゴ「…？何を…」

綾香「『イビリチュア・メロウガイスト』の効果！戦闘破壊した時このカードのエクシーズ素材を1つ取り除き、戦闘破壊したモンス

ターを墓地へ送らずデッキに戻す！」

メロウガイスト素材1 - 0

ゴ「な…！リクルーター封じだと!?」デッキ30 - 31

綾香「さあ、まだ続くわよ！」リチュア・エミリア』でダイレクトアタック！
流水魔術!!」

エミリア ATK1600 VS 直接

ゴ「ぐおおつ！」LP5900 - 4300

綾香「『イビリチュア・テトラオーグル』でダイレクトアタック！

邪悪閃光波!!!」

テトラオーグル ATK2600 VS 直接

ゴ「ぐご…っ…」LP4300 - 1700

綾香「…エンドフェイズ、スピリットである『リチュア・エミリア』は手札に戻るわ。」

6ターン目

綾香 LP5200 手札2 デッキ29 メロウガイスト(0)

テトラオーグル セット

GLP1700 手札2 デッキ31 生贄封じ

ゴ「く…っ…ドロー!!」手札2 - 3 デッキ31 - 30

ゴ「く…」マジック・プランター』を発動する!

『生贄封じの仮面』を墓地へ送り、2枚ドロー!!」手札3 -
4 デッキ30 - 28

ゴ(…!この手札なら…!)

ゴ「行くぞ！『死者蘇生』を発動！墓地より『アームド・ドラゴン
LV5』を蘇生する！」手札4-3

綾香「…っ、またか…」

ゴ「再び『レベルアップ！』で『アームド・ドラゴンLV5』を『
LV7』に進化させる！」手札3-2 デッキ28-27

ゴ「そして！私は『アームド・ドラゴンLV7』をリリース！」

綾香「な…攻撃力2800のモンスターをリリース!？」

ゴ「現れる！鎧竜最強の力！『アームド・ドラゴンLV10』!!

！手札2-1

綾香「…本当に出してくるなんて…！」

ゴ「『アームド・ドラゴンLV10』の効果！手札1枚を墓地へ送
り、相手のフィールド上の表側表示のモンスターすべてを破壊する
！」手札1-0

綾香「うわ…っ…！私のモンスターが全滅…！」

ゴ「さあ、私に楯突いた事を後悔させてやる！『アームド・ドラゴ
ンLV10』でダイレクトアタック!!! アームド・ビッグ・
バニッシャー!!!!」

アームド10 ATK3000 VS 直接

綾香「きゃあああああっ！」LP5200-2200

ゴ「クツクツクツ…この状況を覆せるわけがない！ターンエンド！」

7ターン目

綾香LP2200 手札2 デッキ29 セット

ゴLP1700 手札0 デッキ28 アームド10

綾香「は…あつ…」

ゴ「クツクツクツ…貴様に勝ち目はない！諦めて、そのまま死ね！」

綾香「…！そう簡単に死なない！私のターン…っ！！」手札2 - 3

デッキ29 - 28

綾香（…やった…！これで発動条件がそろった…！）

綾香「私は墓地の『リチュアの儀水鏡』の効果を発動するわ！」

ゴ「何っ！？墓地から魔法カードだと!?」

綾香「墓地のこのカードをデッキに戻し、墓地の【リチュア】の儀式モンスター1体 『イビリチュア・ソウルオーガ』を手札に加えるわ！」手札3 - 4 デッキ28 - 29

ゴ「サーチの次はサルベージだと…！」

綾香「まだよ！私は手札の儀式魔法『リチュアに伝わりし禁断の秘術』を見せて罫カード『儀水鏡の瞑想術』を発動！」

墓地の【リチュア】2体 『シャドウ・リチュア』 『リ

チュア・エリアル』を手札に戻すわ！」手札4 - 6

ゴ「く…手札6枚だと…！」

綾香「さらに私は『シャドウ・リチュア』を手札から捨て、効果発動！」

デッキの【リチュア】と名のついた儀式魔法を手札に加える

！『リチュアの儀水鏡』を手札に加える！」

ゴ「ぐ…儀式召喚の準備を…！」

綾香「行くわよ！『リチュアの儀水鏡』を発動！」

手札のモンスターをレベル8になるように墓地へ送るわ！

『リチュア・エリアル』 『リチュア・エミリア』を儀式の供物とする！」手札6 - 5 - 3

ゴ「レベル8の…儀式召喚…！」

綾香「邪悪の儀式の生贄となった最強の魔物！万物を海に沈める津波を呼び、敵を押し流せ！！」
邪悪の産物：『イビリチュア・

ソウルオーガ』！！！」手札3 - 2

ゴ「く…攻撃力2800…！だが、『アームド・ドラゴンLV10』には届かない！！！」

綾香「甘いわ！『イビリチュア・ソウルオーガ』の効果発動！1ターンに一度、手札の【リチュア】と名のついたモンスター1体を捨て、相手のフィールド上のカード1枚をデッキに戻す！

この効果で手札の『リチュア・チェイン』を捨て、『アームド・ドラゴンLV10』をデッキに戻す！！」手札2 - 1

ゴ「な…そんな馬鹿な…！」デッキ28 - 29

綾香「終わりよ！『イビリチュア・ソウルオーガ』でダイレクトアタック！！」
邪悪激流葬！！！」

ソウルオーガ ATK2800 VS 直接

ゴ「ぐわあああああああつ！！！」LP1700 - 0

隼人「ふう…二人とも…大丈夫か？」

3人のデュエルが終わる。

『闇のゲーム』だけあって、1戦だけで、3人とも肩で息をするほど疲れている。

綾香「うん…、なんとか…大丈夫…よ」

望「あたしは相性が良かったから…結構平気だよ」

隼人「…よか…っ…」

全ての言葉を言わず、倒れこむ隼人。

望「ちよつと！氷炎さん！大丈夫？」

隼人「…少し厳しいな…、かなりダメージを受けたからな…っ…」

綾香「…まずい…、こんな状態…ゴーストに見つかったら…」

そう言ってる矢先にゴーストがこちらを向き、叫ぶ。

ゴ「貴様ら、仲間は何をした!？」

横たわり動かない仲間、その近くで明らかに『闇のゲーム』を行っていたであろう3人。その光景を見て、3人が仲間を倒したことは明らかだった。

ゴ「面白い！貴様らも黒田幽の仲間と言つならデュエルだ！」

反射反応のようにデュエルディスクと構えるゴースト。

隼人「…こんな…とき…に…っ」

望「…私が行くよ。3人中だったらまだ元気だし…」
フラフラと立ち上がり、ゴーストに対峙する望。

綾香「望…、まって…っ！」

ゴ「小娘といたぶる趣味は無いのだが、じっくりといたぶってやる
う…クツクツクツ」

望「……っ」

まさにデュエルが開始されようとした、その時

？「待てよ、俺とのほうがもっと楽しめるぜ。」

望「…！」

ゴ「…何者だ。」

隼人「…遅えぞ…、遅刻だ…」
綾香「…黒ちゃん…！」

そう、そこにはゴーストの狙い 黒田幽が居た。

ゴ「…ようやく現れたか…黒田幽…！」

幽「…遅れてスマン。結構な妨害があつてな…」
望「…黒田さん…」

幽「ゴースト、悪いがお前の仲間は壊滅したぜ。」

ゴ「…！」

幽「残りはお前だけだ。」

ゴ「く…！」

ゴ「デュエルだ！貴様の首のみが目的！それさえ達成できれば私は構わない！」

幽「…残念だが…一人は無理なようだ…」

ゴ「…な…！」

クロウ「悪いな！後はお前だけだからな！さっさと消えてもらうぜ！」

クロノス「私の生徒達に手を出すとは…覚悟は出来てるノーネ？」

牛尾「残念だな、ゴースト！お前の逃げ場はどこにもねえ！」

亮「ようやく最後に1人か、面倒なことだ。」

ぞくぞくと集まってくる人達。

ゴ「く…っ」

幽「悪いが5VS1だ、覚悟しろよ。ゴースト」

ゴ「…っ！いいだろう！望むところだ！かかって来い！」

ゴ・幽・クロノス・クロウ・亮・牛尾「デュエル！！！」

注意！

この物語の複数人デュエルは主にTFのルールを採用します。
もともと今回はデュエルは描写する気は無い（オイ）ので無関係で
すが。

数分後

亮「バトル！ 『キメラテック・オーバー・ドラゴン』でダイレ
クトアタック！！！ エヴォリユーション・レザルト・バアア
アアアストオオオ！！！」

オーバーATK43200（27体融合+リミッター解除）
ゴ「くそおおおおっ！！」LP8000-0

一瞬で塵になるゴースト

亮「ふう…満足。」

ニコニコする亮。

幽「…やりすぎだ…」

別の場所では牛尾とクロノスが話している。

牛尾「クロノス先生、これでいいんですか？」

クロノス「ありがとうナノーネ。セキリユティの皆様、助かりましたノーネ。」

牛尾「ええ、それじゃあ後の片付けは問題ないんですね？」

クロノス「これくらい、私たちで十分ナノーネ」

牛尾「わかりました、それじゃあ俺たちは失礼します。」

おい！クロウ！行くぞ！

別の場所に居るクロウに対し呼びかける牛尾。

クロウ「おう！わかった！すぐ行く！」

そういつて、牛尾・クロウは学校を後にした。

幽「…みんな…」

幽は隼人・綾香・望の元へと来ていた。

見ていたら病気になるのでは？と思うくらい心配そうな顔をしている。

隼人「…ったく、この程度平気だって！」

綾香「そうだって！結構ゴーストって普通だったし！」

望「私は相性良かったし！」

幽「…ごめん。本当に…」
頭を下げる幽。

隼人「…気にすんな。大丈夫だ。」

綾香「黒ちゃんに何にも無くて安心したって！」

望「そうそう！終わりよければすべてヨシ！だってっ！」

幽「…みんな…」

クロノス「…ちつともよくないノーネ！」

後ろに居たクロノスが言う。

幽「…クロノス先生…」

クロノス「黒田幽・黒田亮の二人には、しっかりと話しを聞く必要があるノーネ！」

幽「……………」

亮「…………おっしゃるとおりです。」

クロノス「…後日、校長室に呼び出すので、覚悟しておくノーネ！」

そういつてクロノスもその場を去った。

第7話END

第7話 戦いの果て（後書き）

幽「ふう、大変なことになったな」

亮「うん…、どうやって言い訳しようか…」

幽「無理だろう（キツパリ）」

亮「…ですよー」

幽「それに隼人たちも理解してくれないだろう。」

亮「…どうなるんだろう…」

幽「…ま、力を示して、黙ってもらうしかないよな。」

亮「そうだね…」

幽「次回、俺たちの力を示すために、クロノス先生と刃を交える…！」

亮「機械頂上決戦の結末は？遊戯王第8話『教師と生徒』！」

幽「キーカードは『サイバー・エンド・ドラゴン』、『古代の究極機械巨人』だ。待っててくれ！」

第8話 教師と生徒（前書き）

1話書くのに10日はかけすぎですよね…

モウシワケアリマセン…

今週は「なんで主人公たちが極神持つてるの？」という疑問が解決すると思います。

うん、結構掘り下げていくことが多いと思いますがよろしくお願ひします。。

追記：ミス発覚（イリアステルが）修正しましたっ。

・・・嘘です。

第8話 教師と生徒

デュエルアカデミア校長室

そこには幽・亮の兄弟と、机に座ったクロノス先生。
そして後ろには隼人・綾香・望の3人もいた。

クロノス「さて、昨日の物事の説明を、してもらいますノーネ」

幽「……」

亮「…（幽兄…）」

幽「…わかりました…すべてをお話しします…」

幽「奴らは知っている通り過去のWRGPでイリアステルと呼ばれる連中が作り出した『ゴースト』と呼ばれるデュエルロボ…」
クロノス「ならば今回もイリアステルの仕業と？」

幽「…いえ、今回の黒幕は…」

今から、4年前…俺の母親…『黒田幽美』は死んだ。

…殺されたんだ…、『闇のゲーム』に…父親に…

父の殺害理由は…『母親が持っていたあるカード』…

父は母と結婚後、あることが原因で、闇に堕ちた。

俺達にも一度『仲間にならないか?』という誘いも来た。

この物語の…すべての理由は、『星界の三極神』にある…

父は甘やかされて育った。属に言うワガママだ。

何でも思い通りにできる　父は、次は自分が世界で一番偉くならうと子供でも考えつかないような馬鹿なことを考えた。

そこで、父は古に消えた『神のカード』を復元させ、世界を思い通りに動かそうとした。

そして、現在に生きている唯一の神　WRGP3位のチーム『ラクナログ』が手にしている『星界の三極神』をベースにダミーに作った…

だが、ダミーでも力は十分だった。

そのカードはあまりにも危険とされ、母親が隠れて処分しようとした。

…だが、強大な神の力はたとえダミーでも強すぎた。

処分不可能と悟った母は、カードの存在をこの世から消そうと、自分がそのカードの所有者となり、孤独の中で息を引き取るうとした。

…だが、父親？ 『黒田豪』は甘くなかった。

母親に闇のゲームを挑み…、殺した。

それでも、母は諦めなかった。

母が手元に持っていた『極神皇トール』『極神皇ロキ』を事前に俺たちに渡していた。

父は母が持っていた『極神聖帝オーディン』のカードを奪った。

そして…、俺たちが持っていることを突き止めた父は…当然…

幽「…俺たちを殺し…神のカードを奪おうとした…」

亮「…親父が手間をかけて殺そうとしているのは…事故に見せるため…父が直接手を下すと、ばれたとき大変らしいから…」

幽「…話は以上です。」

クロノス「……」

隼人「……」

綾香「……」

望「……」

一同黙っている。

それほど衝撃的だったのだろう。

クロノス「……わかったノーネ」

立ち上がるクロノス先生。

幽「……何がわかったんです？」

その言葉に対し、ビシッ！と指をさし、クロノス先生は言う。

クロノス「私は教師！生徒が困っているのを助けるのは教師の役目
ナノーネ！」

私が君たちを助けるノーネ！」

意思の強い目をしているクロノス先生。

隼人「……クロノス先生……」

綾香「……そうよ！私たちも手伝うから！一緒にお父さんを倒そう！」

望「そうですよ！一緒にがんばりましょう！」

後ろの3人も意志の強い声で叫ぶ。

…だが、二人は…

幽「…これは…俺たちの問題です…」

亮「…そうです。手伝えることはありません。」

その言葉に対し、デュエルディスクを構え、言い放つクロノス。
クロノス「…ならば私たちの『強さ』と『覚悟』をこの場で証明するノーネ！」

幽「…アカデミアでは、強さがすべてか…」

デュエルディスクを構える幽。

幽「いいでしょう。先生が納得してくるなら。」

気持ちには嬉しいですが『気持ち』だけでは闇のゲームを乗り越えることはできない。

…それを教えてあげます。」

亮「…幽兄…」

幽「ん？」

亮「…俺が行くよ。先生と戦えるなんて、めったにないし。」

幽「……わかった、別に勝てばいいからな。」

何も言わずにつこりして、デュエルディスクを構える亮。
それに入れ替わり、下がる幽。

幽「任せる、弟よ。」

亮「任せて。俺たちの『誇り』を見せてあげるから。」

クロノス「…面白いノーネ！デュエルアカデミア校長として、生徒を危険な遠足に行かせるわけにはいかないノーネ！！！」

亮・クロノス「デュエル！！！」

亮LP8000 手札5 デッキ35
クLP8000 手札5 デッキ35

ク「先攻は譲るノーネ！」

亮「わかりました、俺のターン！」

モンスターをセットして、リバースカードを1枚セット！
ターンエンド！」手札5 - 6 - 4 デッキ35 - 34

1ターン目

亮LP8000 手札4 デッキ34 裏守 セット
クLP8000 手札5 デッキ35

ク「私のターン、ドロ！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

ク「私は、フィールドマジック『歯車街』を発動するノーネ！」手札6 - 5

亮「…フィールド魔法…」

隼人「たしか…【アンティーク・ギア】と名のついたモンスターのリリースを軽減するフィールド魔法だったな…」

ク「行くノーネ！手札1枚をコストに私は『THEトリッキー』を特殊召喚するノーネ！」手札5 - 3

亮「…【アンティーク・ギア】に『THEトリッキー』…？」

綾香「…シナジーはほとんど無いはずなのに…」

ク「ノンノン！常識に捕らわれては、デュエルを進化させることはできないノーネ！」

幽「…そんな感じでもないと思うが…」

ク「見せてあげるノーネ！私の常識を超えたデュエルを！」

私は『THEトリッキー』をリリースし、『古代の機械巨人』をアドバンス召喚するノーネ！」手札3 - 2

亮「…『古代の機械巨人』…だと…っ」

望「…1ターン目からこのモンスターを出すなんて…！」

ク「バトル！『古代の機械巨人』でセットモンスターにアタック！

アルティメット・パウンド…！ここで、『古代の機械巨人』

の効果ナノーネ！攻撃宣言時にはマジック・ドラップカードは発動できないノーネ！」

亮「…！」

機械巨人ATK3000 VS 雑貨商人DEF700

ク「『古代の機械巨人』の効果で貫通ダメージを与えるノーネ！」

亮「ち…っ…！」

だが、『魔導雑貨商人』のリバース効果！デッキから魔法・罫カードが出るまでめぐり、出た魔法・罫カードを手札に加え、それ以外のカードをすべて墓地へ送る！」LP8000-5700

『魔導雑貨商人』の効果でカードをめくる亮

亮「デッキの上から順に『サイバー・ダーク・ホーン』『D・HERO デディアポリックガイ』『レベルステイラー』『極星獣グルファクシ』『ダーク・ホルス・ドラゴン』『サイバー・ダーク・エツジ』『オーバーロード・フュージョン』『オーバーロード・フュージョン』を手札に加え、それ以外を墓地へ送る。」デッキ3
4-27 手札4-5
ク「：良い墓地肥やしナノーネ。」

カードを2枚セットして、ターンエンドナノーネ！」

2ターン目

亮LP5700 手札5 デッキ28 セット
クLP8000 手札0 デッキ34 古代巨人 セット2
F 歯車街

亮「：俺のターン！」手札5-6 デッキ28-27

亮「見せてあげますよ、先生。俺の神の力を！」

ク「：：！」

隼人「：星界の三極神：！」

亮「現れる！チューナーモンスター 『極星獣グルファクシ』

！」手札6-5

綾香「：【極星】のチューナーモンスター：！」

亮「さらに墓地の『D・HERO デディアポリックガイ』の効果で、

自身を除外して発動！

デッキより『D・HERO デイアボリックガイ』を特殊召喚する！

墓地の『レベルステイラー』の効果！自分フィールド上のレベル6以上のモンスター1体のレベルを1下げ、自身を特殊召喚する！
デッキ27 - 26 デイアLv6 - 5

望「合計レベル…10…！」

ク「…何が出てくるノーネ…！」

亮「行きますよ、先生！レベル5『D・HERO デイアボリックガイ』とレベル1『レベルステイラー』にレベル4『極星獣グルフアクシ』をチューニング…！！

星界の巨人よ、古の支配を打ち砕くその鎚で裁きの鉄槌を下せ
！！ シンクロ召喚！ 降臨せよ！『極神皇トール』！！
！！

ク「…！！『極神皇トール』…！」

隼人「…これが、亮君が持つ…切り札…！」

幽（…だが、先生相手にどこまで通用するか…）

亮「バトル！『極神皇トール』で『古代機械巨人』に攻撃！
サンダー・パイル…！」

ク「甘いノーネ！『ゲットライド！』を発動するノーネ！

このカードは自分の墓地のユニオンモンスター1体を自分の装備可能なモンスター1体に装備するノーネ…！」

亮「…でも、先生の墓地にユニオンモンスターはいないはず…！」

幽「…『THEトリック』の効果で墓地へ送っていたのか…！」

ク「当たりナノーネ！墓地の『強化支援メカ・ヘビーウェポン』を
『古代の機械巨人』に装備し、攻撃力を500ポイントアップする
ノーネ！」

古代機械 ATK3000 - 3500

亮「…！『極神皇トール』と攻撃力が並んだ…！」

ク「向かうつノーネ！『古代の機械巨人』！」

トール ATK3500 VS 古代巨人 ATK3500

綾香「相打ち…！」

ク「ノンノン！相打ちではないノーネ！速攻マジック『リミッター
解除』を発動するノーネ！」

亮「な…っ！」

隼人「…機械族の攻撃力を2倍にするカード…！」

トール ATK3500 VS 古代巨人 ATK3500 - 7000

亮「ぐああああっ！」 LP5700 - 2200

ク「残念ナノーネ、神がこの程度では戦いにならないノーネ。」

亮「…エンドフェイズ！『極神皇トール』の効果発動…！」

ク「？」

亮「墓地の【極神獣】と名のついたチューナー 『極星獣グル

ファクシ』をゲームから除外し、『極神皇トール』を墓地より蘇生
させる！」

さらに、この効果で特殊召喚の成功したとき、相手に800の
ダメージを与える！」

ク「ぐ…っ…！」 LP8000 - 7200

亮「さらに『リミッター解除』の効果を受けた『古代の機械巨人』
はこのターンのエンドフェイズに破壊される！」

ク「しかし、『強化支援メカ・ヘビーウェポン』の効果で装備モン
スターが破壊されるとき、代わりに装備カードとなっているこの力

ードを破壊するノーネ！」

亮「…ですが、『リミッター解除』の効果は切れ、攻撃力は3000に戻ります」

3ターン目

亮LP2200 手札5 デッキ26 トール セット

クLP8000 手札0 デッキ34 古代巨人

F 歯車街

ク「私のターン、ドロー！」手札0 - 1 デッキ34 - 33

ク（自己再生効果…予想外なノーネ…）

しかし、その程度では私に勝てないノーネ…！）

ク「モンスターをセット！ターンエンドナノーネ！」

4ターン目

亮LP2200 手札5 デッキ26 トール セット

クLP7200 手札0 デッキ33 古代巨人 裏守

F 歯車街

亮（…ここで『古代の機械巨人』を倒せば相手の手札は0。勝てる

…）

亮「…ドロー！」手札5 - 6 デッキ26 - 25

亮「『極星獣グルファクシ』召喚！」手札6 - 5

隼人「…！まさか、2体目か！？」

幽「…生憎、俺たちは、三極神は1枚ずつしか持っていないから、2体目は来ない」

隼人「…じゃあなぜ…？」

亮「墓地の『レベルステイラー』の効果！『極神皇トール』のレベルを9に下げて、自身を蘇生！」トールLv10 - 9

ク「…レベル5のシンクロ召喚ナローネ…！」

亮「そうです！いきます！

レベル1『レベルステイラー』にレベル4の『極星獣グルファクシ』をチューニング！

光を無にする力を持つ未来の殺戮兵器で敵に絶望を見せよ！

シンクロ召喚！ 打ち消せ！『A・O・Jカタストル』！！

このままバトルフェイズ！『A・O・Jカタストル』で『古代の機械巨人』に攻撃！ ノンリミット・ブレイク…！」

望「…『古代の機械巨人』の守備力は3000のはずなのに…？」

幽「『A・O・Jカタストル』は閻属性以外の戦闘の場合ダメージ計算を行わず破壊する効果を持つ…！」

望「…！『古代の機械巨人』は地属性だから…守備力に関係せず破壊される…！」

亮「まだまだ！『極神皇トール』で裏側守備表示モンスターに攻撃！

！ サンダー・パイル…！」

トール ATK3500 VS メタモル DEF600

亮「な…『メタモルポット』…！？」

ク「勝利を過信しすぎナローネ！『メタモルポット』の効果発動ナローネ！手札をすべて捨て、デッキから5枚をドロウするナローネ！」

亮「…ハンド・アドバンテージが…」

亮 手札5 - 0 - 5 デッキ25 - 20 ク 手札0 - 5 デッキ
33 - 28

ク（…！セニヨール亮の墓地に『ネクロガードナー』が…！）

亮「ち…っ、ターンエンド！」

5ターン目

亮LP2200 手札5 デッキ20 トール カタストル セット

クLP7200 手札5 デッキ28

F 歯車街

ク「私のターン！ドローナノーネ！」手札5 - 6 デッキ28 - 27

ク「マジックカード『古代の整備場』発動ナノーネ！墓地の【アン
ティーク・ギア】と名のついたモンスター 『古代の機械巨人』

を手札に戻すノーネ！」

亮「くっ…またか…！」

ク「…生徒相手にこれを見せる時が来るとは思わなかったノーネ…
！」

亮「…？何を…」

ク「行くノーネ！手札よりマジック発動！『融合』！」手札6 - 5

亮「『融合』！？」

綾香「…先生、何を召喚する気なんですか…？」

ク「私は手札の『古代の機械巨人』と【アンティーク・ギア】と名
のついた『古代の機械獣』『古代の機械合成獣』を融合するノーネ

！！！！

古の力を均衡する最強の巨人よ、すべての破壊のために究極の拳を開放せよ！YUGO召喚！ 『古代の機械究極巨人』！！

！」手札5 - 2

亮「…！攻撃力4400だと…！」

幽「…これはまずいな…、こんな切り札を隠し持っているとは…！」

ク「バトルナノーネ！『古代の機械究極巨人』で『極神皇トール』に攻撃ナノーネ！ スーパー・アルティメット・パウンド！！

！」

究極巨人ATK4400 VS トールATK3500

亮「…つ、まさか…また倒されるなんて…」LP2200 - 1300

ク「カードを1枚セットして、ターンエンドナノーネ！」手札2 - 1
亮「ですが、このエンドフェイズに墓地の『極神皇トール』は『極神獣グルファクシ』を除外して蘇る！

そして、相手に800のバーンダメージを与える！」LP72

00 - 6400

6ターン目

亮LP1300 手札5 デッキ20 トール カタストル セット

クLP7200 手札1 デッキ27 究極巨人 セット

F 歯車街

亮「俺のターン！」手札5 - 6 デッキ20 - 19

亮（攻撃力4400…だが地属性、『A・O・Jカタストル』に効

果破壊されることはわかってはいるはず…。

あのリバーズカードは『A・O・Jカタストル』を破壊するカードに違いないだろう…

浅はかな畏だ、一気に攻める…！)

亮「手札より『サイバー・ダーク・インパクト!』を発動!墓地の『サイバー・ダーク・ホーン』『サイバー・ダーク・エッジ』、そして『メタモルポット』で捨てられた『サイバー・ダーク・キール』の3体をデッキに戻し、融合召喚を行う!」手札6 - 5 デッキ19 - 22

ク「…この特別な召喚方法は…!」

亮「暗黒に染まったサイバー流よ、その元凶の力を今こそ示せ!

融合召喚! 対をなす切り札! 『鎧黒竜 サイバー・ダーク・

ドラゴン』!!!

『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』は俺の墓地のモンスターの数×100ポイントの攻撃力を得る!

俺の墓地には、『D・HEROディアボリックガイ』『レベルステイラー』『極星獣グルファクシ』『カードガンナー』『ダーク・ホルス・ドラゴン』『プロト・サイバー・ドラゴン』が居る! よって攻撃力は600アップ!

鎧黒竜 ATK1000 - 1600

亮「さらに『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』は融合召喚時、俺の墓地のドラゴン族モンスター1体を装備カードとして自身に装備し、その攻撃力を得る!

『ダーク・ホルス・ドラゴン』を装備し、さらに3000の攻撃力を得る!」

鎧黒竜 ATK1600 - 4500

隼人「…攻撃力4500…、『古代の機械究極巨人』を超えた!」

亮「バトル！『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』で『古代の機械究極巨人』に攻撃！！フル・ダークネス・バアアアストオオオオオ！！！！」

幽「通るか…？」

ク「甘いノーネ！『聖なるバリア ミラーフォース』！相手の攻撃表示モンスターすべてを破壊するノーネ！！」

亮「な…っ、ミラーフォースだと！？（…読み間違えたか…！）」

綾香「…このデイスアドバンテージは大きい…！」

望「ハンドアドは亮君のほうに勝っているとはいえ、攻撃力4400で貫通持ちを前に流石に積んだかもね…」

亮「…エンドフェイズ、3体目の『極星獣グルファクシ』を除外し、『極神皇トール』を蘇生、800のダメージを与える…」

7ターン目

亮LP1300 手札5 デッキ22 トール セット

クLP5600 手札1 デッキ27 究極巨人

F 歯車街

ク「ドローナノーネ！」手札1-2 デッキ27-26

ク（…『サイクロン』…これを使えば、『歯車街』を破壊してデッキの『古代の機械巨竜』を召喚できるノーネ…

しかし、相手の墓地には『ネクロガードナー』…未だ温存しているノーネ…

ここは、動かないほうがいいノーネ)

ク「バトル！再び『古代の機械究極巨人』で『極神皇トール』に攻撃ナノーネ！ スーパー・アルティメット・パウンド！！！！」
究極巨人 ATK 4400 VS トール ATK 3500

亮「…まずい、LP 400か…」 LP 1300 - 400

ク「カードを2枚セットして、ターンエンドナノーネ！」

8ターン目

亮 LP 400 手札5 デッキ22 セット

ク LP 5600 手札0 デッキ26 究極巨人 セット2

F 歯車街

ク（さあ、切り札の『極神皇トール』も消えたノーネ…これで私の勝利はほぼ…）

亮「俺のターン！！！」 手札5 - 6 デッキ22 - 21

亮（…これならいける…！）

亮「手札より『プロト・サイバー・ドラゴン』を召喚！」 手札6 - 5

望「…攻撃力1100？いまさらなんで…？」

隼人「…『プロト・サイバー・ドラゴン』はフィールド上で表側表示で存在するとき『サイバー・ドラゴン』として、扱う効果があるが…どうするつもりだ…？」

亮「行きます！！俺は『プロト・サイバー・ドラゴン』と先生のフ

「イールドの『古代の機械究極巨人』を融合素材として、墓地へ送る！……！」

ク「Wow！……私の『古代の機械究極巨人』を融合素材にするナンテ！」

綾香「相手モンスターとの融合！？しかも『融合』の魔法カードを使用せずに！？」

亮「今宵、サイバー流最後の力を開放せよ！すべての機械をその身に宿し、破壊の衝動のままに敵を蹴散らせ！！」

融合召喚！

キメラテック・フォートレス・ドラゴン！！！！

このモンスターは『融合』を必要とせず、自分及び相手のフィールド上のモンスターすべてを融合素材とできる！そして、攻撃力は融合素材の数×1000となる！」

フォートレスATK0-2000

ク「……相手のモンスターを融合素材にするとは……見事……ナノーネ。ク（……やはり動いてきたノーネ、前のターンで私が動いていたら負けていたノーネ……）」

亮「まだです！手札より『融合』を発動！手札の『サイバー・ドラゴン』2体を融合！」

サイバー流の力、ここに垣間見せる！2つの口より放たれる咆哮で敵を粉碎せよ！

融合召喚！最強への布石！『サイバー・

ツイン・ドラゴン』！手札5-4-2

綾香「……すごい……、さっきの状況から一気にここまでモンスターを並べるなんて……！」

幽「……勝負あったか……！」

亮「バトル！サイバー・ツイン・ドラゴン』でダイレクト
ク「リバーズカードオープン！サイクロン』！『歯車街』を破壊
するノーネ！」

亮「…自分のカードを!？」

幽「…『歯車街』のもう一つの効果は破壊され墓地におかれたとき、
デッキ・手札・墓地から【アンティーク・ギア】と名のついたモン
スター1体を特殊召喚出来る…」

ク「その通りノーネ！デッキより『古代の機械巨竜』を特殊召喚
するノーネ！」

綾香「…なんで前のターンに『サイクロン』を発動しなかったんだ
ろっ?」

幽「…亮の墓地には『ネクロガードナー』がいる。たぶん破壊でき
ないとふんだんだろう。」

隼人「保険つてことか…、なんとも用心深いことだ。」

望「…これで亮君は攻撃を中断せざるおえない…」

亮「『サイバー・ツイン・ドラゴン』 エヴォリューション・
ツイン・バアアアアストオオオオ!!!」

望「…攻撃力が低いのに…攻撃を続けた!？」

綾香「手札に攻撃力増減のカードがあるっていうの…?」

サイバー・ツイン ATK 2800 VS 機械巨竜 ATK 3000

亮「速攻魔法！『リミッター解除』！『サイバー・ツイン・ドラゴ
ン』攻撃力を2倍にする！」

隼人「攻撃力5600だと!？」

ク「…見事ナノーネ…」

しかし!私も教師!デュエルは常に全力ナノーネ!カウンター
ドラップ『魔宮の賄賂』!相手にドローさせる代わりに、マジック・
トラップの発動を無効にし、破壊するノーネ!!」

幽「な…っ!」

亮「う…嘘…だろ…」

サイバー・ツイン ATK 2800 VS 機械巨竜 ATK 3000
亮「…ま…まさか…っ!」 LP 400 - 200 手札 1 - 2

幽「…ここで…『魔宮の賄賂』だと…」

隼人「…召喚権を使って壁モンスターを出せず、『古代の機械巨竜』
は攻撃時の魔法・罫の発動も封じる…、亮君の負けだな…」

綾香「…先生には勝てないってことだね…」

亮「…ターンエンド…」

9 ターン目

亮LP200 手札2 デッキ21 キメラテックATK2000

セット

クLP5600 手札0 デッキ26 機械巨竜

ク「諦めない闘志は見事ナノーネ…ドロー。」手札0-1 デッキ26-25

ク「私は『古代の機械兵士』を召喚するノーネ！」手札1-0

ク「バトル！」古代の

亮「まだ終わらない！『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』をエクストラデッキに戻し、速攻魔法『次元誘爆』を発動する！！」
ク「…『次元誘爆』ですト！？」

綾香「『次元誘爆』！？」

隼人「…ブラフではなかったか…」

幽「…まさかあんな魔法を伏せているとは…」

亮「『次元誘爆』は自分の融合モンスターをエクストラデッキに戻し、互いにゲームから除外された自分のモンスター2体、特殊召喚できる！俺は『D・HEROディアポリックガイ』『極星獣グルフアクシ』の2体を特殊召喚する！」

ク「私のモンスターは除外されていないノーネ…」

望「…壁モンスターを召喚した…！」
幽「…だが、時間稼ぎにすぎない…」

ク「ならば、『古代の機械巨竜』で『極星獣グルファクシ』にアタ
ツク！ ガジェット・ブレイク…！」

機械巨竜 ATK 3000 VS グルファクシ DEF 1000
ク「まだナローネ！『古代の機械兵士』で『D-HEROディアボ
リックガイ』でアタツク…！ プレシヤス・ブリット…！」

機械兵士 ATK 1300 VS デイアボリックガイ DEF 800
ク「ターンエンドナローネ…！」

10ターン目

亮 LP 200 手札 2 デッキ 21

ク LP 5600 手札 0 デッキ 25 機械巨竜 機械兵士

亮「…流石先生です…！」

ク「…時に諦めることも大事ナローネ」

亮「…そうかもしれませんが、俺は…」

幽「……………」

亮「…俺は諦めません！俺たちの『誇り』を示すために！

行きます！俺のターン…！」手札 2 - 3 デッキ 21 - 20

亮「『貪欲な壺』を発動！墓地のモンスター5体をデッキに戻し、

2枚をドローする！

『極神皇トール』 『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』 『サイバー・ツイン・ドラゴン』 『D・HEROディアボリックガイ』 『極星獣グルファクシ』の5体を戻し、2枚をドロー！

さらに『融合回収』を発動！融合召喚し使用した『サイバー・ドラゴン』と『融合』を手札に戻す！」デツキ20-22-20 手札3-2-4-3-5

綾香「一気に融合召喚の準備を整えた!？」

望「すごい…」

隼人「…だが、『サイバー・ツイン・ドラゴン』 『サイバー・エンド・ドラゴン』でも先生のLPを削りきることはできない…」

亮「まだまだ！手札より『死者蘇生』を発動！俺は墓地より『サイバー・ドラゴン』を特殊召喚！」手札5-4

ク「…！まさか、また…『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』を…！」

亮「…いえ、俺は…俺たちは認めてもらわないといけない…、先生たちに…」

だからこそ、俺は自分の切り札で、純粋な力で先生に勝利する

！

ク「…！」

亮「行きます！手札より『融合』を発動！！手札の2体とフィールドの1体を『サイバー・ドラゴン』を融合する！！

サイバー流究極の竜よ！神を超す絶対的な力で、万物を無にせよ！融合召喚！ 最強の象徴！『サイバー・エンド・ドラゴン』

「！！！」手札4-1

隼人「…『サイバー・エンド・ドラゴン』…！」

綾香「サイバー流の象徴…、攻撃力4000…！」

亮「バトル！！『サイバー・エンド・ドラゴン』で『古代の機械巨竜』に攻撃！！
エターナル・エヴォリユーション・バアアア
アアストオオオオオオ！！！！」

サイバー・エンド ATK 4000 VS 機械巨竜 ATK 3000

ク「ぐ…っ…！」 LP 5600 - 4600

亮「速攻魔法『融合解除』…！」

ク「WOW！」

望「…『融合解除』…だって…！」

幽「『サイバー・エンド・ドラゴン』をエクストラデッキに戻し、
3体の『サイバー・ドラゴン』を特殊召喚する…、決まったな」

亮「『サイバー・エンド・ドラゴン』の融合を解除！現れる！『サイバー・ドラゴン』…！」

バトル！『サイバー・ドラゴン』で『古代の機械兵士』に攻撃
！ エヴォリユーション・バアアストオオ！！ダイイチダア！！
！

サイバー・ドラゴン ATK 2100 VS 機械兵士 ATK 1300
ク「ぐ…っ」 LP 4600 - 3800

亮「『サイバー・ドラゴン』でダイレクトアタック！！ エヴ
オリユーション・バアアアストオオ！！ダイニダアア！！」
サイバー DATAK 2100 VS 直接

ク「…これが彼らの覚悟…、残念だけど、私の負けナノーネ…」
LP3800-1700

亮「『サイバー・ドラゴン』でダイレクトアタック！　エヴ
オリユウシヨン・バアアアアアストオオオオオオオオ！！！！ダイ
サンダアアアアアアア！」

ク「…」 LP1700-0

亮「…俺の勝ちです…、約束は守ってくださいよね…？」
ク「…っ、わかったノーネ…、今後、ゴーストの件には一切関わら
ないノーネ…」
亮「…ありがとうございます…」

そう言い、校長室を後にする幽・亮の二人。

仲間を、学校を　　そして、信頼を

置き去りにして、彼らは戦いに挑む

第8話
E N D

第8話 教師と生徒（後書き）

幽「…とりあえず、申し訳ない」

亮「第7話ではキーカードが『サイバー・エンド・ドラゴン』になったり、『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』になったり…申し訳ないことをしました…」

幽「後、更新遅れた原因として『歯車街』の事だ…」

亮「…『砂塵の大竜巻』でタイムング逃す…これ一つに悩みに悩んだ…」

幽「…最終的に『サイクロン』にしてしまった…正直発動して追い打ちかけてもよかったのでは？と思う人もいるだろうに…」

亮「ラストターンもなんで『サイバー・エンド・ドラゴン』？と思っただろうに…『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』と『サイバー・ツイン・ドラゴン』でよかっただろうに…」

幽「…申し訳ない…」

亮「…とりあえず、次回予告です！」

幽「兄弟だけで戦う決意をした二人　そのことを知ったクロウ

亮「仲間として戦おうとするクロウ　それを避ける幽との戦い

！」

幽「次回！遊戯王第9話『力を示せ』です！」

亮「キーカードは『極神皇ロキ』と『BF 孤高のシルバー・ウィンド』、そして『ブラック・フェザー・ドラゴン』です！」

幽「多くない？」

亮「…どれもあんまり目立った活躍をしていないっていうね…」

幽「…次回のデュエルもグダグダになるかもしれない…」

第9話 力を示せ（前書き）

高速書き上げしました。疲れました（弱

というわけでデュエルに不具合があるかもしれません。

あった場合、感想で言ってくれると嬉しいです。

あ、あと…クロウのキャラが書きにくい…

微妙に違和感あるかもしれませんがすみません；

第9話 力を示せ

黒田家

幽はデスク調整、亮はパソコンでなにやらやっていた。

幽「……………」
亮「……………」

1時間後……………」

幽「……………」
亮「……………」

3時間後……

幽が立ち上がり、冷蔵庫を覗く。

冷蔵庫を閉めた手には、お茶が握られている。

幽「……」

亮「……俺にも頂戴」

黙ってお茶を投げる幽。
取り損ねて落とす亮。

亮「……」

幽「……」

さらに6時間後

時計が鳴る。午後10時を告げた。

幽「……どうだ？」

亮「……全然、無理」

今はGPS等を利用して、敵の基地
黒田豪の場所を探っている。

『ゴースト』はそれなりに精密な機械、ある程度の場所がなければ製造できない。

ということは工場である可能性が高い。

しかも、相当巨大の。おまけに所有者がない
そんな工場を調べている。

亮「……ダメだ。あれ以来1週間ずっと調べてるけど、まったくわからない」

幽「……うーん、そうか……」

幽「……手詰まりか……？」

亮「……もう少し探してみる」

幽「……頼む……」

こんな感じで毎日が過ぎていく

…だが、運命が動く日は意外にも早く来た。

ある日、一人の訪問者が来た。

幽「……………」

黙って扉を開ける そこには

クロウ「よお、幽、久しぶりだな」

幽「…クロウか…、何の用だ？」

クロウ・ホーガン、しかもセキリュティの格好をしていない。

クロウ「何の用って、ゴーストの件に決まってるだろ」

幽「…悪いが、話すことは無い、帰れ」

クロウ「おいおい、いきなり帰れはないだろ！」

無視して、扉を閉めようとする

クロウ「…ゴーストの製造工場を調べてるんだって？」

そう言うと、再びドアが開く。

幽「何でそれを…？」

するとクロウは呆れたような顔をして、

クロウ「流石になあ、Yahoo!知恵袋でハンドルネームが『サイバー流』で質問が『人探しをしています。廃工場の場所を教えてくださいませんか?』なんて質問があつたら誰でもわかるだろ！」

幽「……………(亮…、あいつは馬鹿なのか?)

…と、とりあえず…、何の用だ…」

クロウ「…まず、一つだけいいか？」

幽「…なんだ」

クロウ「何で学校の連中を裏切ったんだ」

幽「…邪魔だったからだ…」

幽(この答えに嘘はない、神を持たない皆ではどうしても力不足だ。…ある男は言っていた、『所詮、力なき正義では人を救うことはできない』…、心だけでは足りないからな…)

クロウ「…力がないからか？デュエルが弱いからか？みんなの気持ちを踏みにじっておいて！」

幽「…『闇のゲーム』はそんな心だけでどうにかできるほど、甘くはない。クロウもよく知っているはずだ」

クロウ「……」

クロウ（…こいつの気持ちが痛いほどにわかる。大切な仲間を守るために…わざと仲間と離れたんだ…）

幽「…で、なんだ？お前の用件は？」

クロウ「…決まってるだろ、俺達もゴーストをブツ潰しに行くんだよ」

幽「…さっきの話を聞いていなかったのか？」

クロウ「力があればいいんだろ、俺がデュエルで勝ったら一緒に連れて行くと約束しろ！」

幽「……断る」

クロウ「はあ！？なんで断るんだよ！」

幽「…そんな、俺だけ損するデュエルはする気がない」

クロウ「…ちっ…」

考えた末に、クロウが言う。

クロウ「わかった、じゃあデュエルを条件にゴーストの居場所を探す手伝いをしてやる。」

幽「…俺が勝っても負けても教えてくれるんだな？」

クロウ「ああ、遊星に頼めば見つけてくれるぜ」

幽「…わかった…、待ってる…」

少し経つと、幽が玄関に戻って来る。
その手にはデッキ、デュエルディスクが握られていた。
ついでに後ろから亮も来ていた。

幽「外に行こう、こんな場所じゃデュエルできないからな」
クロウ「わかった」

亮（…しかし、なんで俺、幽兄に拳骨されたんだろう…？
しかも二人が何でデュエルするんだろう？）
疑問だらけの亮であった。

外

幽「行くぞ…、手加減はしない」
クロウ「手加減されちゃ、むしろ困るからな！かかってこい！」

幽・クロウ「デュエル!!!」

幽LP8000 手札5 デッキ35

クロウLP8000 手札5 デッキ35

幽「…先攻は貰おうか、ドロー！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

幽「…モンスターをセットし、ターンエンド」

1ターン目

幽LP8000 手札5 デッキ34 裏守

クロウLP8000 手札5 デッキ35

クロウ「俺のターン！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

クロウ「行くぜ！俺は永続魔法『黒い旋風』を発動！

このカードは俺が【BF】を通常召喚したときにデッキからその【BF】より攻撃力の低い【BF】1体を手札に加える効果を持つ！」手札6 - 5

幽「お馴染み…速効性の高い【BF】か…」

クロウ「さらに相手フィールド上のみにもンスターが存在するとき俺の手札の『BF 暁のシロツコ』はリリースなしで召喚出来る！そして『黒い旋風』の効果で攻撃力が2000より低い『BF 黒槍のブラスト』を手札に加える！」手札5 - 4 - 5 デッキ34 - 33

幽「いきなり動くか…」

クロウ「一気にたたみかけるぜ！手札の『BF 黒槍のブラスト』は俺のフィールド上に『BF 黒槍のブラスト』以外の【BF】が存在するとき、特殊召喚できる！」手札5 - 4

幽「…たしか『BF 黒槍のブラスト』は貫通能力が…」

クロウ「バトルフェイズ！」「BF 黒槍のブラスト」で守備モンスターに攻撃！！ ブラック・スパイラル！！

ブラストATK1700 VS 雑貨DEF700

幽「『魔導雑貨商人』の効果！デッキからカードをめくり、最初に出了魔法・罫カードを手札に加え、それ以外を墓地へ送る！

俺のデッキは上から順に『終末の騎士』『ネクロガードナー』

『魔導雑貨商人』『ダーク・クリエーター』『ダーク・シムルグ』

『魔導雑貨商人』『D・HEROディアボリックガイ』『神の柩楛』

グレイプニル』俺は『神の柩楛グレイプニル』を手札に加え、

それ以外の8枚を墓地へ送る！」LP8000 - 7000 手札5

- 6 デッキ34 - 26

クロウ「…『神の柩楛グレイプニル』…！神を呼ぶ気満々だな…。

とりあえず『BF 暁のシロツコ』でダイレクトアタック

！ ダークウイングスラッシュ！！

幽「…っ！」LP7000 - 5000

クロウ「俺はカードを1枚セットしてターンエンド！」

2ターン目

幽LP5000 手札6 デッキ26

クロウLP8000 手札3 デッキ33 シロッコ プラスト
旋風 セット

幽「流石だな、俺のターン！」手札6 - 7 デッキ26 - 25
クロウ（…墓地も肥えてる、おまけに『神の桎梏グレイプニル』…
ライフアドがあるといえど、厳しい状況だな…）

幽「俺の墓地の闇属性は5体以上！よって手札より『ダーク・クリ
エイター』を特殊召喚！
さらに『ダーク・クリエイター』の効果で墓地の『終末の騎士』を
除外し、墓地より『ダーク・シムルグ』を蘇生させる！」手札7 - 6
クロウ「いきなり攻撃力2300と2700だと！？インチキ効果
も大概にしゃがれ！」

幽「お前が言うな、さらに『終末の騎士』を召喚！このカードの召
喚に成功したとき、デッキの闇属性 『レベルステイラー』
を墓地へ送る。」手札6 - 5 デッキ25 - 24

幽「行くぞ、バトルフェイズ！『ダーク・シムルグ』で『BF 暁
のシロッコ』に攻撃！ ダークネス・ゴットトルネード！！」

シムルグATK2700 VS シロッコATK2000
クロウ「ちっ…」LP8000 - 7300

幽「『ダーク・クリエイター』で『BF 黒槍のプラスト』に攻撃

！ 地獄の雷！！」

クリエイター ATK 2300 VS ブラスト ATK 1700

クロウ「くそ…っ、あっさり全滅かよ…！」 LP 7300 - 6700

幽「『終末の騎士』でダイレクトアタック！ 暗黒の一閃！」

末騎士 ATK 1400 VS 直接

クロウ「ぐあああつ！」 LP 6700 - 5300

幽「…カードを1枚セットして、ターンエンド」

3ターン目

幽 LP 5000 手札 4 デッキ 24 クリエイター シムルグ

末騎士 セット

クロウ LP 5300 手札 3 デッキ 33 セット 旋風

クロウ「(ちっ！)『ダーク・シムルグ』は俺のセットを封じる効果がある…、これじゃあ守りに徹することもできねえ…」

俺のターン！」手札 3 - 4 デッキ 33 - 32

クロウ「行くぜ！俺は『BF 黒槍のブラスト』を召喚！そして『黒い旋風』の効果で『BF 疾風のゲイル』を手札に加える！

さらに『BF 疾風のゲイル』は俺の場に『BF 疾風のゲイル』

以外の【BF】が存在するとき、特殊召喚できる！」手札 4 - 3 -

4 - 3 デッキ 32 - 31

幽「ちっ…なんて展開力だよ…！」

クロウ「俺は『BF 疾風のゲイル』の効果を発動！1ターンに一度、相手のモンスター1体の能力を半分にする！対象は『ダーク・シムルグ』だ！」

シムルグ ATK 2700 - 1350 DEF 1000 - 500

クロウ「そして、俺はレベル4『BF 黒槍のプラスト』にレベル3『BF 疾風のゲイル』をチューニング!

黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ!

シンクロ

召喚! 『BF アーマード・ウイング』!」

幽「…攻撃力2500! …しかも戦闘破壊耐性付きか!」

クロウ「さーで、トリックスターのクロウ様の戦術を披露してやるぜ! 手札から『シンクロキャンセル』を発動! 場のシンクロモンスターをエクストラデッキに戻し、俺の墓地にそのシンクロ素材が揃っている場合、その素材を特殊召喚できる!」手札3-2

幽「…シンクロ版の『融合解除』というところか!」

クロウ「俺はこの効果で『BF アーマード・ウイング』をエクストラデッキに戻し、『BF 黒槍のプラスト』と『BF 疾風のゲイル』を攻撃表示で特殊召喚!」

幽「…そうか! 『BF 疾風のゲイル』の効果の再利用が目的か!」
クロウ「そうだ! 『BF 疾風のゲイル』の効果はフィールドを離れたためもう一度使用できる! 俺は『ダーク・クリエーター』の能力を半分にするぜ!」

クリエーター ATK 2300 - 1150 DEF 3000 - 1500

幽「くっ…インチキ効果はどっちだ!」

クロウ「立派な戦術だ! バトル! 『BF 疾風のゲイル』で『ダーク・クリエーター』に攻撃!!」
ブラック・スクラッチ!」

ゲイル ATK 1300 VS クリエーター ATK 1150

幽「あっさり倒されたな!」LP 5000 - 4850

クロウ「次は『BF 黒槍のプラスト』だ! 『ダーク・シムルグ』に攻撃!!」
ブラック・スパイラル!」

プラスト ATK 1700 VS シムルグ ATK 1350

幽「…くっ…厳しいな!」LP 4850 - 4500

クロウ「おっと、まだ俺のバトルフェイズは終了してないぜ！トラップ発動！『緊急同調』！！」

幽「なっ…！」

クロウ「このカードの効果で俺はバトルフェイズ中のシンクロ召喚が可能となる！」

レベル4『BF 黒槍のプラスト』にレベル3『BF 疾風のゲイル』をチューニング！

黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ！ シンクロ

召喚！再来せよ！『BF アーマード・ウイング』！

バトル！『BF アーマード・ウイング』で『終末の騎士』に攻撃！！ ブラック・ハリケーン！！」

アーマードATK2500 VS 末騎士ATK1400

幽「ぐあああつ…！」 LP4500 - 3400

クロウ「ターンエンド！」

4ターン目

幽LP3400 手札4 デッキ24 セット

クロウLP5300 手札2 デッキ31 アーマード 旋風

幽「俺のターン！」 手札4 - 5 デッキ24 - 23

幽「行くぞ！畏発動！『神の桎梏グレイプニル』！デッキより【極星】と名のついたモンスター1体を手札に加える！ 『極星霊デッキアールヴ』を手札に！」 手札5 - 6 デッキ23 - 22
クロウ「…！【極星】のチューナー…！」

幽「俺は墓地の『D・HEROディアボリックガイ』を除外して効果を発動！デッキより『D・HEROディアボリックガイ』を特殊召喚！

さらに墓地の『レベルスティーラー』の効果！自分フィールドのレベル5以上のモンスターのレベルを1下げて自身を特殊召喚する！

そして、『レベルスティーラー』をリリース！『極星霊デッキアーヴ』をアドバンス召喚！

再び『レベルスティーラー』の効果で『D・HEROディアボリックガイ』のレベルを下げ蘇生！」手札6-5 デッキ22-21
ディアLv6-4

クロウ「くっ…ソリティアみたいなことをやってんじゃねーよ！」

幽「だから、『BF』使いのお前にはいわれたくない！」

クロウ「くっ…」

幽「行くぞ！レベル4となった『D・HEROディアボリックガイ』とレベル1『レベルスティーラー』にレベル5『極星霊デッキアーヴ』をチューニング！！

世界を闇に沈めた暗黒の神よ、すべてを掌握し王として再び玉座を黒く染めよ！シンクロ召喚 降臨せよ！『極神皇ロキ』！」

クロウ「くっ…星界の三極神…！」

だが！『BF アーマード・ウィング』は戦闘では完全な耐性を持っている！攻撃しても無駄だ！」

幽「…バトルフェイズ！『極神皇ロキ』で『BF アーマード・ウィング』に攻撃！！ ヴァニティ・バレット…！！」

ロキ ATK3300 VS アーマード ATK2500

クロウ「くっ…何を考えてるんだ！？」

幽「…ダメージステップに速攻魔法『禁じられた聖杯』を発動！攻

撃力400上昇の代わりにそのモンスターの力を封じ込める！対象は『BF アーマード・ウィング』だ！」手札5・4
クロウ「な…っ！」

ロキ ATK3300 VS アーマード ATK2500 - 2900
クロウ「ぐあああっ！」 LP5300 - 4900

幽「…カードをセット、ターンエンドだ」

5ターン目

幽 LP3400 手札3 デッキ21 ロキ セット
クロウ LP4900 手札2 デッキ31 旋風

クロウ「くっ…流石に強ええな…」

俺だつて負けに来てるわけじゃねえんだ！ドロー！」手札
2・3 デッキ31 - 30

クロウ（…！これなら…）

クロウ「『おろかな埋葬』！デッキのモンスター1体を墓地へ送る！」手札3・2

幽「…、【BF】で落とすモンスターと言えば…」

クロウ「よくわかってるな！俺はデッキから『BF 大旆のヴァーユ』を落とすぜ！」デッキ30 - 29
幽「…くっ…」

幽（…いや、むしろ悪手だ…）【BF】のシンクロの最高攻撃力は『

B F 孤高のシルバー・ウィンド』：『極神皇ロキ』には及ばない
…)

クロウ「行くぜ！墓地の『B F 大旆のヴァーユ』はこのカードと共に墓地の【B F】1体を除外し、合計レベルと同じ【B F】のシンクロモンスター1体を特殊召喚できる！

俺はレベル7の『B F アーマード・ウィング』とレベル1の『B F 大旆のヴァーユ』をゲームから除外！

吹き荒べ嵐よ！鋼鉄の意思と光の速さを得て、その姿を昇華せよ！
シンクロ召喚！『B F 孤高のシルバー・ウィンド』

！！！！

幽「…攻撃力2800…そして効果無効…どうするつもりだ？」

クロウ「こうするんだよ！『B F 孤高のシルバー・ウィンド』で『極神皇ロキ』に攻撃！
パーフェクト・ストーム！！！！

ロキ ATK 3300 VS 孤高 ATK 2800

クロウ「ダメージ計算時、手札の『B F 月影のカルート』の効果を発動！俺のエンドフェイズまで1体の【B F】の攻撃力を1400上昇させる！」

幽「何ッ！カルートだと!？」

ロキ ATK 3300 VS 孤高 ATK 2800 - 4200

幽「…っ！だが甘い！『極星宝レーヴァテイン』！このターン戦闘破壊をしたモンスター1体を選択し発動！そのモンスターを破壊する！」 LP 3400 - 2500
クロウ「な…っ！

ちっ…カードをセットして、ターンエンドだ！」

幽「エンドフェイズ！『極神皇ロキ』は墓地の『極星霊デッキアールヴ』を除外することで特殊召喚できる！そして、この時俺の墓地の罠カード1枚を手札に加える！
『極星宝レーヴァテイン』
を手札に！」

6ターン目

幽LP2500 手札4 デッキ21 口キ

クロウLP4900 手札0 デッキ29 旋風 セット

幽(…俺の手札は…『最後の進軍』『拡散する波動』『極星宝レーヴアテイン』『ガード・ブロック』の4枚…次のターンで勝負をつけるには…攻撃力1600以上のモンスターを…！)

幽「…ドロー！！」手札4-5 デッキ21-20

幽(……)

『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』…！俺の墓地は…『終末の騎士』『D・HEROディアボリックガイ』『ダーク・シムルグ』『ネクロガードナー』『レベルステイラー』『ダーク・クリエイター』の6体…！

…もし、前のターン…『極神皇ロキ』の蘇生効果を使っていなかったら…俺は勝っていた…

…まさか、神は…俺に負けさせようとしているのか…？

…考えすぎだ、相手の手札は0、俺の勝利に揺るぎはない…(

幽「…バトルフェイズ！『極神皇ロキ』で直接攻撃！
ヴァニ
テイ・バレット！…！」

ロキ ATK 3300 VS 直接

クロウ「ぐあああああつ！」 LP 4900 - 1600

幽「…カードを3枚セットし ターンエンド」

7ターン目

幽 LP 2500 手札 2 デッキ 20 ロキ セット 3

クロウ LP 1600 手札 0 デッキ 29 旋風 セット

クロウ（…あいつのバツクは3枚…内1枚は間違いなく『極星宝レ
ーヴァテイン』…

手札は0…、このドローで奇跡を起こすしかねえ…！）

クロウ「いくぜ！俺のターン！ドロー！！！」手札 0 - 1 デッキ
29 - 28

幽（…動くか…！）

クロウ「手札より『貪欲な壺』を発動！」手札 1 - 0

幽「…嘘だろ…、ここで手札補充をするなんて…」

クロウ「俺は墓地の『BF 孤高のシルバー・ウィンド』『BF
黒槍のブラスト』を2枚、『BF 暁のシロツコ』『BF 月影の
カルート』の5枚を戻し、デッキから2枚をドローする！」手札 0
- 2 デッキ 28 - 32 - 30

クロウ（…！これなら…）

幽（…何を…何をドロ―した…！）

クロウ「俺は相手フィールド上のみモンスターが存在するので『BF 暁のシロツコ』をリリースなしで召喚！！

『黒い旋風』の効果で『BF 黒槍のブラスト』を手札に加える！
手札2-1-2

幽「…2ターン目と同じ状況かよ…」

クロウ「さらに手札から『アゲインスト・ウインド』を発動！墓地の【BF】を手札に戻し、その攻撃力分のダメージを受ける！

俺はこの効果で『BF 疾風のゲイル』を手札に加えるぜ
！ LP1600-300

幽「くっ…、今の手札の2体の【BF】は…！」

クロウ「そうさ！この2体は自分フィールド上に同名モンスター以外の【BF】が存在するときに特殊召喚できる！来い！『BF 黒槍のブラスト』！『BF 疾風のゲイル』！

『BF 疾風のゲイル』の効果で『極神皇ロキ』の攻撃力・守備力を半減させる！手札2-0 ロキ ATK3300-1650 D
EF3000-1500

幽「…！神の力が…」

クロウ「行くぜ！『BF 暁のシロツコ』で『極神皇ロキ』に攻撃！！
ダークウィングスラッシュ！！」

幽「…甘い！墓地の『ネクロガードナー』をゲームから除外し、相手の攻撃を無効にする！」

クロウ「な…っ、『ネクロガードナー』だつて！？

くっ…『魔導雑貨商人』で墓地へ落していたか…！」

幽「…さあ、どうする…？」

クロウ「だが、俺のモンスターはまだ攻撃が残っている！『BF
黒槍のプラスト』で『極神皇ロキ』に攻撃！！ ブラック・ス
パイラル！！」

ロキ ATK1650 VS プラスト ATK1700

幽「…くっ…『極神皇ロキ』が…！

だが…、『極星宝レーヴァテイン』発動！『BF 黒槍のプラスト』
を破壊！」 LP2500 - 2450

クロウ「まだだ！『BF 疾風のゲイル』でダイレクトアタック！

！ ブラック・スクラッチ！！」

ゲイル ATK1300 VS 直接

幽「『ガード・ブロック』発動！ダメージを0にして、カードを1

枚ドロー！」 手札2 - 3 デッキ20 - 19

幽（…！『ハリケーン』…これで…確実に勝った…！）

クロウ「……………」

幽「諦める、俺の勝ちだ」

クロウ「…リバーズカードオープン！！！」緊急同調！！！」

幽「なっ…！」

クロウ「このカードの効果で俺はバトルフェイズ中にシンクロ召喚が行える！」

レベル5『BF 暁のシロツコ』にレベル3『BF 疾風のゲイル』をチューニング！！！」

黒き疾風よ！秘めたる想いをその翼に現出せよ！シンクロ召喚！ 舞い上がれ『ブラックフェザー・ドラゴン』！！！」

バトル！！『ブラックフェザー・ドラゴン』でダイレクトアタック！！！ ノーブル・ストリーム！！！」

BFD ATK2800 VS 直接

幽「く…くそおおっ…！」LP2450-0

亮「…幽兄…」

幽「…俺の負けだ…」

クロウ「…約束通り、一緒に戦ってもらっせ」

すると亮が首をかしげる。

亮「…？約束って？」

スルーされる亮。

幽「わかってる…」

そう言っただけで家へ戻る幽。

クロウ「…負けたのがショックだったのか、結構豆腐メンタルだな」

亮「…あのー、よく話がかかってないんですけども…」

クロウ「あ？ああ、じゃあ簡単に説明してやるぜ」

説明を5分ほど

亮「ふーん…、そんなことが…」

少し考えた末に言う。

亮「クロウさん、ありがとう。」

幽兄もこれで少しは楽になると思うよ「」

クロウ「…そうだな…、あいつは自分たちだけで背負おうとしてる…」

俺も結構似てるからな、わかる気がする」

亮「…似た者同士なんですね」

クロウ「あんまり嬉しくないがな」

笑いながら腕時計を見る亮。

亮「ああ、もう8時か…、クロウさん、飯でも食べていく?」

クロウ「おお!じゃあ頼むぜ!」

そう言って二人も黒田家の家に戻っていった。

第9話 E N D

第9話 力を示せ（後書き）

クロウ「うおー！これ旨いなあ！」

亮「そりやどうも、人に御馳走するのは初めてだったから……」

幽「……おい……」

亮「お、白米のおかわりいる？」

クロウ「おう！じゃあ頼むぜ！」

幽「……面倒だ、俺が次回予告をしよう。

場所を調べるために遊星に会いに行く幽。一人になった亮の元へ、魔の手が迫る。

次回、遊戯王第10話『不意打ち』。キーカードは『キメラテック・オーバー・ドラゴン』と『機皇神マシニクル』だ。楽しみに待っていてくれ！

……しかし、亮とクロウは嫌い……、というかなんでクロウが家で飯食ってるんだ？」

外伝 場つなぎと休息（前書き）

最近、レポートががが、部活ががが、テストががが…

ってことで未だ第10話がほとんど描けてません。

今回は場つなぎ兼疑問解消回にしようと思います。

未だ、質問はありませんが、これ以外の質問がありましたら、ぜひとも感想で言ってください。

…さぼって申し訳ありません。

外伝 場つなぎと休息

〈第0話 プロローグ〉

・デュエルアカデミアってアキや流亞や流可が通っていた場所とは？
違います。デュエルアカデミア ネオ・ドミノ校とは別の学校です。
強いて言えば、舞台はネオドミノシティではなく、別の都市（…あ
あ、名前考えてない）です。

・黒田亮君のサイバースタリッシュ継承者って、どついうこと？

黒田家の母親の旧姓は『丸藤』（という設定）です。
彼らは『丸藤翔』『丸藤亮』の血統です。
…別に設定を掘り下げるつもりはありません。

・じゃあ、なんで兄がサイバースタリッシュ継承しなかったの？

嫌いだからです（オイ

・遊星は？元キンは？

第1章ではデュエルしないので紹介しません（第2章ではデュエル
します）

〈第1章 闇の始まり〉

・いきなりデュエルって？

彼らのデッキ紹介、兼日常と言う感じでしょいか。

幽は主人公のわりに対して強くない、って印象付けをしたかったっていうのもあります。

因みに幽のデッキは墓地肥やし軸の【ダークモンスター+極神皇ロキ】

隼人のデッキは【フロフレホルス】（氷炎の双竜+ホルスの黒炎竜）

・クロウがなんで居る？

わざわざ遠い場所から通っています。

セキリュティは大変なのです。

因みに服装はセキリュティの物。仕事だし。

・ゴーストってイリアステルしか作れないのでは？

そういうわけではありません、元々治安維持局が作る予定だったので（アニメ参照）。

イリアステルのごとく、勝手に情報を奪ったのではないしょうか？

（テキトー）

・デュエル脳（笑）

ゴーストはデュエル脳です。

・閻属性デツキなのに『大地の騎士ガイヤナイト』に『グローアツ
プ・バルブ』？

彼のデツキは墓地肥やしを主軸としたデツキなので、『グローアツ
プ・バルブ』を採用。

『大地の騎士ガイヤナイト』は基本的なシンクロ、って事をお願いします。

・ロキ！？ブレイブさんドコいった？

後々参照。

〈第2話 狙われた少女〉

・彼らの家は？

2人暮らし、兄弟でバイトしてます。
描写する気無し。

・光のネツクレスって？

オリジナル。流石グオレンダアさんの血筋。何でも出来ますね。

・天保さん、出番無さすぎ

彼は強いからいいのです（そういう問題ではない気がする）

・恋愛描写はあるの？

そこまで無い予定です。実はヒロイン役です。

微笑ましい二人ですが、主もあんまり考えてません。

・ゴーストリアルファイト（笑）

女性相手にはこれで十分だと思ったのでしよう。

・実さん、リアルファイトできるの？

彼女は強いです。ハイ。

因みに幽・亮は地下デュエルの変な機械（ビリビリ〜ってくるやつ）で鍛えられています。

隼人は元々。テキトーに強いのです。幽よりも強い。

綾香は意外に強い。望はあんまりです。天保はこれまた強い。なんでもできるからですね。

・実さん、幽君大好きなんです

はい、大好きなんです。彼の名前出せば大体オツケーなんです（オイ

・デュエル脳（笑）

突っ込まないください…

〈第3話 小さい結束〉

・実のデッキは？

低レベルモンスターで『ジャンク・ウオリアー』を強化するデッキ。通常モンスターの展開力や、低レベルの優秀モンスターを利用します。

一応、他の【ジャンク】も入っています。夢無い…

・【ジャンク】は遊星だ！まさか、遊星他のデッキ？

いえ、別に【ジャンク】≠遊星ってわけではありません。遊星より、『ジャンク・ウオリアー』寄りのデッキです。

・闇のゲーム探索機（笑）

メ蟹ツクですね、わかります。

流石グオレンダさんの（ry

・ゴーストなのに血？

…リアリティでないし…、ゴメンナサイ

〈第4話 かたき討ち〉

・題名：かたき打ち

…OTL

主は漢字苦手です。

・隼人、心読める？

…いいえ、彼は直感で分かる人です。

・ゴースト、相変わらず常識ハズレ（笑）

彼らに常識を求めてはダメです。

・ゴースト、LP20000オーバーって…

こんな都合良くは回りません。

主人公補正（笑）なんてよく言われますが、敵も十分チートドロ―
ですよね。

・ガイウスでユベル？除外したらタイミング逃さないの？

逃しません、一応ですが。

除外とダメージは同時扱いです。

・そもそも【ダークモンスター】にユベル？

ロマンがあるじゃないですか。

↳第5話 アカデミアの脅威

・クロノス先生なんで居る？

GXアカデミアのクロノス先生の…孫あたりでしょうか？
とりあえず彼の子孫です。

・ハイトマンどこ行つた？

イリアステルが抹消しました（嘘）

彼程度が【アンティーク・ギア】を使うなんてこの世の【アンティーク・ギア】使いに謝罪しなければなりません。

…辻褃合わないけど…、仕方ないと思つてください、謝罪します。

・クロノス先生1ターンキル（笑）

彼の強さを誇示する丁度いい機会なので。

・ってパワーボンド!?

別に単なるレアカード、っていう扱いでしょうし、イイカナーと思
いました。

サイバー流しか使えん! って人、申し訳ありません。

そういう人はLPもアレですし、脳内補正で『巨大化』って事でお
願います。

・RDが(笑)

ぶつちやけ、俺ルールだし。面倒なので普通にしました。

↳ 第6話 仲間のために

・亮のデッキは?

【サイバー・ドラゴン】を主軸としたデッキと【サイバー・ダーク】
を主軸としたデッキ(アニメ版カイザー亮)に『D・HERO デイ
アボリックガイ』と『レベル・ステイラー』等を組み込み、『極
神皇トール』を出しやすくしたデッキ。正直カオスすぎる。

・望のデッキは?

【天空の聖域】を主軸とした【天使族】です。

ライフ回復して、『天空勇士ネオパーシアス』等の攻撃力を上昇する戦術が主軸です。

他にもLPが多いので『死皇帝の陵墓』や『神の居城ヴァルハラ』を使った上級モンスターの展開も得意とします。相変わらずカオスですね。

〜第7話 戦いの果て〜

・綾香のデツキは？

見てのとおり純粋な【リチュア】です。

・【アームド・ドラゴン】に『生贄封じの仮面』？

辻褄あわせ。(うわ、妥協だ)

・エクシーズってこの時代あったの？

逆にこの時代にエクシーズが無かった、という証拠が無いので出してもいいかと思ってしまいました。

シンクロ全盛期だったので出番が無く、日の目を見るのはゼアルの時代から、って言い訳しておきます。

・実はダ・イーザの4000で気絶しそうになつたのに、隼人は7000近く、望もLP回復してるとはいえ7000近く、綾香も5800のダメージを受けていて、普通に戦ってますがなぜ？

実は精神異常でまともに考えられてなくて焦っていたので精神的に折れたって事です。

他の人たちも緊張しているし、焦っているけど、精神的に安定していたのでなんとか耐え抜いた、って感じですよ。

・亮オーバーキル（笑）

サイバー流、当たり前（オイ

）第8話 教師と生徒

・父親がガキ（笑）

はい、精神的にガキです。

・母親なぜ処分できないの？

忘れては困る。この時代のカードは拳銃をとめたり（逆転の女神）、人の肌に刺さったり（青眼の白龍）、銃をはじいたり（BF 疾風のゲイル）…

ゴキポール程度は破れるとしても、神の力は運命さえ超越するから無理なのだ！

…すみません、適当に言い過ぎました。

理由としては、破ろうとしたら（神の力で）色々起きて、妨害され破けなかったのです。

例えば、破ろうとしたら急にフライパンが落ちてきて手に当たったり、燃やそうとしてもコンロ（マッチやライターも）がつかなかったり、ゴミ箱に捨てても次の日になぜか家にあったり…むしろ怖いですね。でも遊戯王ではよくあること。

・黒田兄弟って頑固？

はい、母親も頑固です。父親は適当（父親設定酷い）

・なんで亮は自分から志願を？

実は『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』狙いです。メタする気満々です。

・トール過労死（笑）

この程度では過労死ではありません。（ネオスやスタダ・スピード・ウォリアーを見ているのです）

・ミラフォが働いた！

かませ役の彼が遂に働きましたね。先生にかかればこんなものです。

〈第9話 力を示せ〉

・亮は馬鹿なの？

はい、名前を隠す気が無いんです。ネット上でも堂々と。
…皆さんはいけませんよ？

主な疑問は以上でしょうか？

では、後書きで次回予告！

当然外伝の予告は彼らだっ！

外伝 場つなぎと休息（後書き）

「元キン、キングは一人、この俺だ！！！」

遊星「…ジャック、次回予告だ」

元キン「おおう、そうだったな」

遊星「次回、第10話は前回同様『不意打ち』だ。キーカード等は前話を確認してくれ」

元キン「次回の外伝は第1章終了時にやるぞ！因みに第1章は第0話と第18話を予定している！ある程度左右するかもしれないが了承してくれ！」

遊星「内容は第10話以降の不明な内容の補足。感想で質問があればここで紹介する。他はオリキャラの名前の由来、そして裏話だ」
元キン「この俺の活躍を待っておけ！では、次回を楽しみにしておけ！」

遊星（…実際、ジャックのデュエル数は第1章では0…、ジャックファンの皆、すまない…）

って、俺も0だったか…、クロウが少し羨ましいな）

第10話 不意打ち（前書き）

ようやく投稿です。

待ち望んでいる人居ないかもしれませんが、お待たせしました

第10話 不意打ち

黒田家

幽「…それじゃあ…いつてくる」

亮「おっけー、じゃあいい情報よろしくねー」

幽「……」

クロウ「まあ、遊星の事だ、いい情報は得られるぜ」

亮「期待してまーす」

手を振りながら亮が答える。

約束通り、幽達はクロウ達と戦うことを条件に、遊星の力を借りて、ゴーストの製造工場を探すことにした。

今日は、その遊星に会いに行く日。

なぜ亮が行かないか？

理由は簡単。家事が残っているからである。

亮「なんで、俺はじゃんけんがこんなに ブツブツ…」

文句を言っているが、嫌がってはいなさそうだ。

因みにじゃんけんで決めた。

男は黙ってデュエルだあ！と思う人もいるかもしれないが、5戦5引分では笑えない。

引き分けの原因は『破壊指輪』だったり、『メタモルポット』での同
時デッキ切れだったり

幽「出来るだけ早く帰る」

亮「いや、ゆっくりしてきてもいいよー」

幽「……とりあえず……行ってくる……」

そう言ってクロウのDホイールに乗る幽。

彼はまだDホイールの免許は持っていない。

Dホイールに乗り遠ざかっていく二人。

やがてその背中は見えなくなった。

亮「……さてと、どっしょっかなー」

遊星家

クロウ「戻ったぜー！」

幽「…失礼する…」

遊星「帰ったか、クロウ」

満足「…クロウ、邪魔してるぜ」

クロウ「鬼柳！久しぶりだな！満足街はもういいのサテイスワフアクションタウンか？」

満足「ああ…一応一通りの仕事は終わったからな。久しぶりに満足しに来たんだ」

クロウ「そうだったのか、悪いな、今はちょっと客人がいてな」

クロウが幽を指差す。

遊星「クロウ、彼が昨日話していた黒田幽か？」

クロウ「ああ、そうだ。ま、色々頼むぜ」

幽「…よろしくお願いします…」

遊星「ああ、俺は『不動遊星』だ。よろしくな。

早速だが…」

と、遊星、いきなり話を始める。

当然、幽もそれについていく。

クロウ「…遊星、最近せつかちになっただな…」

満足「…『おい、デュエルしろよ』とか言ってるからな」

なんか取り残された二人。

クロウ「…ん？鬼柳、ジャックは？」

満足「…バイトが見つかったそうだ。しかもデュエル関連の」

クロウ「おー！これであいつもニートからおさらばか！ようやくつてところか…」

だが、会話の止まる二人。

正確に言えば鬼柳があんまり話さないのである。

満足「…クロウ…」

クロウ「ん？」

満足「…デュエルで満足しようぜ…」＝おい、デュエルしろよ」

クロウ「よっしゃー！じゃあ表でいっちょやるっぜー！」

話すことがないならデュエルで満足するしかねえ！

これがチーム サティスファクションの掟である。

しばらくして

午後6時ごろ

黒田家

亮「…暇だ」

なんだかんだで家事も終わらせ、ぼーっとしていた亮。

亮「……ふう……」

その時、カチャ、と音がした。
その音は遠慮しているよう、少なくとも幽で無いことは明らかだった。

亮「……ゴーストか……？」

デュエルディスクを持つ、念には念を入れて包丁も。現実だと、強盗の可能性もあるからである。

亮「……………」

扉の近くで息を潜める。

扉が開く、それと同時に

亮「動くな」

包丁の首元に突き立てる。

平気でやるか？普通…？という突っ込みは×

？「ふっ…気づいていたか、黒田亮」

亮「誰だ」

相手はゴーストではなく人間だった。

…いや、人間とは言い難いが、一応ゴーストのような機械ではなかった。

サングラスに変な黒い服。肌さえ肌色ではない。これを人間と思えというほうが無茶だ。

T「申し遅れた。私はミスターT。君が知っている『ゴースト』と取りまとめている男だ。」

亮「…ふーん、てことは神のカードが目的か」

T「勿論だろう」

亮「……」

睨み合っていると、ミスターTと名乗る男の後ろから声がした。

？「何をやっている。さっさと神のカードを奪いなさい」

亮「…二人いたのか…」

T「仕方ないだろう。こうやって首元に包丁を突きつけられては私も動けない」

もう一人は仮面とマントで性別すらわからない。

だが、顔にかかっているのは若干赤い髪の毛、しかも長い。

女性の可能性が高い。

？「…小僧、貴様もわかっているだろう。さっさとデュエルだ。」

本当は力づくで奪いたかったが、この状況では仕方ない」

亮「…そっちの条件は…？」

変な条件言ったら、喉切るよ？」

リアルファイトでもいいんじゃないかね？という突っ込みはNG

？「…わかった、私たちはこのカードをアンティとして渡そう」

懐から一枚のカードを出す

亮「…っ！」

流石の馬鹿親父もやりすぎじゃないかな…」

明らかに焦っている亮。

見せたカードは

亮「いいよ、だけど1対1ね」

？「いいだろう。ミスターT、あんたの責任だ、さっさと戦いなさい」

T「ふん、新入りの分際で、私に命令するとは…、まあ良い。

黒田亮、私が相手をしよう」

亮「…わかった

とりあえず外だ。こんな場所で戦ったらとんでもないことになる」

そう言っつて外に出る三人

T「さて、神のカードを貰おうか、黒田亮」

亮「…それは勝つてから言え」

T・亮「デュエル!!!」

亮LP8000 手札5 デッキ35
TLP8000 手札5 デッキ35

T「専攻は貰う、ドロ」手札5・6 デッキ35・34

T「モンスターをセット、ターンエンド」

1ターン目

亮LP8000 手札5 デッキ35
TLP8000 手札5 デッキ34 裏守

亮「(様子見か)俺のターン!ドロ!」手札5・6 デッキ3
5・34

亮「『終末の騎士』召喚!そのモンスターでデッキの閻属性

『ハウンド・ドラゴン』を墓地へ送る！

バトル！『終末の騎士』でセットモンスターに攻撃！

漆黒の

一閃！」手札6-5 デッキ34-33

末騎士 ATK1400 VS スキエル兵 DEF1000

T「『機皇兵スキエル・アイン』の効果発動。戦闘破壊されたとき、デッキより【機皇兵】1体を特殊召喚できる、私は『機皇兵ワイゼル・アイン』をデッキより特殊召喚する！」デッキ34-33
亮「…【機皇】だって…！？それは…」

機皇、それは絶望が作り出した産物と言われる。

未来ではシンクロの 希望の正反対を意味する。

亮「(なぜ、【機皇】を…、あのカードは本来ならイリアステルしか持っていないはず…)

…くっ…、カードを2枚セットして、ターンエンドだ」

2ターン目

亮 LP8000 手札3 デッキ33 末騎士 セット2

T LP8000 手札5 デッキ33 ワイゼル兵

T「行くぞ、私のターン！」手札5-6 デッキ33-32

T「現れる、『機皇兵グランエル・アイン』！」手札6-5
亮「…！新たなる機皇兵か…」

T「私は『機皇兵グランエル・アイン』の効果発動！召喚成功時、相手の表側モンスター1体の攻撃力をターン終了時まで半分にできる！対象は『終末の騎士』だ！」
末騎士ATK1400-700

T「そして【機皇兵】達は自身以外の【機皇】の数×100の力を得る！よって双方の機皇兵の攻撃力は100ずつアップ！」

ワイゼル兵ATK1800-1900 グランエル兵ATK1600-1700

亮「く…っ、まずいな」

T「バトル！『機皇兵ワイゼル・アイン』で『終末の騎士』に攻撃！
クオークカーブ！！」

ワイゼル兵ATK1900 VS 末騎士ATK700

亮「ぐあああつ！」

つ「…ゴーストよりも大分強い一撃だな…っ」LP8000-6800

T「ふん、私をあの程度の雑魚と一緒にしてもらっては困る

バトル続行だ、『機皇兵グランエル・アイン』でダイレクトアタック！ グラビティブラスター！」

グランエル兵ATK1700 VS 直接

亮「2度目は受けない！『ガード・ブロック』発動！ダメージを0にしてデッキから1枚ドロー！」手札3-4 デッキ33-32

T「私はカードを2枚セット、ターンエンド」

？「ミスターTの奴、序盤から飛ばしすぎないといいが…」

相手はサイバー流…注意すべきモンスターもいるというのに…
T「ふん、この程度の小物、さっさと倒してしまえばいいのだ」

3ターン目

亮LP6800 手札4 デッキ32 セット

TLPP8000 手札3 デッキ32 ワイゼル兵 グランエル兵
セット2

亮「俺のターン！」手札4 - 5 デッキ32 - 31

亮「相手フィールド上にもみモンスターが存在するとき、『サイバ
ー・ドラゴン』は手札より特殊召喚できる！」手札5 - 4
T「ふん、そうこなくてはな」

亮「余裕な顔も今のうちだ！

手札より『サイバー・ダーク・ホーン』を召喚！そして、効果
を発動！

このモンスターは召喚成功時に俺の墓地のレベル3以下のドラ
ゴン族モンスターを装備してその攻撃力を得る！『ハウンド・ドラ
ゴン』を装備し、攻撃力を1700アップさせる！」手札4 - 3
キールATK800 - 2500
T「いきなり攻撃力2000超えが2体だと!?!」

亮「バトルだ！『サイバー・ドラゴン』で『機皇兵ワイゼル・アイ
ン』に攻撃!! エヴォリューション・バアアストオオ!!」

サイドラATK2100 VS ワイゼル兵ATK1900
T「ぐ…、流石はサイ」LP8000 - 7800

亮「黙れ！『サイバー・ダーク・ホーン』で『機皇兵グランエル・
アイン』に攻撃!! ダーク・スピアアアア!!」

キールATK2500 VS グランエル兵ATK1600
T「…リバーズカード『ガード・ブロック』発動！ダメージを0に
して、デッキから1枚ドロロー！」手札3 - 4 デッキ32 - 31

亮「…ターンエンドだ」

4ターン目

亮LP6800 手札3 デッキ31 サイバード キール+ハウ
ンド セット

TLP7800 手札4 デッキ31 セット

T「ぐ…、私のターン!!」手札4-5 デッキ31-30

T(…!このカードは…!)

T「行くぞ!私はフィールド魔法『機動要塞フォルテシモ』を発動する!」手札5-4

亮「フィールド魔法か…!」

T「私は『機動要塞フォルテシモ』の効果を発動する。1ターンに一度自分の手札から【機皇兵】と名のついたモンスター1体を特殊召喚できる。守備表示で『機皇兵スキエル・アイン』を特殊召喚!」手札4-3

亮「…さっきのリクルートモンスターか」

T「さらに私は手札より『機皇兵グランエル・アイン』を召喚し、その効果でお前の『サイバー・ドラゴン』の攻撃力を半分に!そして、リバースカードを発動、『カオス・インフィニティ』!」

手札3-2 サイバード2100-1050

亮「…カオス・インフィニティ…?」

T「このカードは発動時にフィールド上のモンスターをすべて表側表示にする。その後デッキか墓地より【機皇】と名のついたモンス

ター1体を特殊召喚できる。ただし、この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズに破壊されるがな。

私はこの効果でフィールドの『機皇兵スキエル・アイン』を攻撃表示にして、デツキより『機皇兵ワイゼル・アイン』を特殊召喚する！」デツキ30-29

亮「くっ…一気に3体のモンスターを揃えたか…」

T「そして【機皇兵】達はフィールドの【機皇】の数だけ力を得る！『機皇兵スキエル・アイン』はその数×200の攻撃力を得る！
ワイゼル兵ATK1800-2000 スキエル兵ATK1200
-1600 グランエル兵ATK1600-1800

亮「生憎、攻撃力が届いていないが？」

T「甘いな、【機皇】の究極の力を見せてやろう！私は自分フィールド上に3体の【機皇】が存在するので手札の『機皇神龍アステリスク』を特殊召喚する！」手札2-1

亮「…！いきなりレベル10のモンスターを特殊召喚だと!?!」

T「見せてやろう、最高の機皇の力を！このモンスターの特殊召喚成功時に私の場の【機皇】を墓地へ送り、そのモンスター達の元々の攻撃力を得る！私は攻撃力1800の『機皇兵ワイゼル・アイン』と『機皇兵スキエル・アイン』、『機皇兵グランエル・アイン』を墓地へ送り、その攻撃力の合計を『機皇神龍アステリスク』の攻撃力に加える！」

アステリスクATK0-4600

亮「…攻撃力4600だと…!」

T「バトル！『機皇神龍アステリスク』よ、『サイバー・ドラゴン』を粉碎せよ！ インファイニティ・ネメシス・ストリーム!!!」
亮「甘い！畏発動！『アタック・リフレクター・ユニット』を『サイバー・ドラゴン』をリリースして発動！デツキか手札より『サイバー・バリア・ドラゴン』を特殊召喚する！」デツキ31-30

T「…サイバー・バリア・ドラゴン」だと!？」
亮「さて、バトルフェイズの巻き戻しが起きるが…サイバー・バリア・ドラゴン」は相手の最初の攻撃を無効にできる。残念だが攻撃は通させない」

T「…ぐ…、ターンエンドだ…」

5ターン目

亮LP6800 手札3 デッキ30 サイバーバリアD キール
+ハウンド

TL7800 手札1 デッキ29 アステリスク4600

F フォルテシモ

亮(…【機皇】…、予想外な攻撃力が出てきた…、流石に低攻撃力を並べるのはまずいか…)

亮「俺のターンだ!」手札3 - 4 デッキ30 - 29

亮「現れる!」プロト・サイバー・ドラゴン!」手札4 - 3

T「ふん、攻撃力1100か。何をするつもりだ?」

亮(…奴は無視して…)

ここで「キメラテック・フォートレス・ドラゴン」を融合召喚するが、問題は融合素材に攻撃力2500の「サイバー・ダーク・キール」を選択するかどうか…

ダメージを優先するなら残すべきだが、次のターンで攻撃力3000以上のモンスターを出されたら攻め手を失う…

手札に「リミッター解除」か「パワーボンド」があれば良かったんだが…)

亮「…仕方ない、俺はフィールド上の『プロト・サイバー・ドラゴン』『サイバー・バリア・ドラゴン』『サイバー・ダーク・キール』、そしてお前の『機皇神龍アステリスク』を融合する！」

T「何だと!？」

? (この召喚方法は…!) 『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』!

全く…、調子に乗って展開するからこうなるのよ…)

亮「今宵、サイバー流最後の力を開放せよ!すべての機械をその身に宿し、破壊の衝動のままに敵を蹴散らせ!!」

融合召喚!」

キメラテック・フォートレス・ドラゴン』!!!

『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』の攻撃力は融合素材にした機械族の数×1000!よって攻撃力は4000だ!」

フォートレスARK0-4000

T「な…こちらのモンスターの除去の上に攻撃力4000だと!？」

亮「バトル!『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』でダイレクトアタック!!」

エヴォリユーション・リザルト・アーティ

レリイイイ!!!」

フォートレスATK4000 VS 直接

T「ぐおおおおおおおおおつ!」 LP7800-3800

亮「所詮、この程度か…。ターンエンド」

6ターン目

亮LP6800 手札3 デッキ29 フォートレス4000

TLP3800 手札1 デッキ29
F フォルテシモ

? 「ミスターT、負けは許さないわよ」

T 「ちつ…、新参者が。少し黙ってる。」

私のターンだ」手札1 - 2 デッキ29 - 28

T 「私は『機動要塞フォルテシモ』の効果で『機皇兵スキエル・アイン』を手札より特殊召喚！」手札2 - 1

亮（同名モンスター3枚…、【機皇兵】は数が少ないのか？）

T 「さらにモンスターをセットして、ターンエンドだ」

7ターン目

亮LP6800 手札3 デッキ29 フォートレス4000
TLP3800 手札0 デッキ28 スキエル兵 裏守
F フォルテシモ

亮 「…ドロー」手札3 - 4 デッキ29 - 28

亮 「『おろかな埋葬』発動。デッキよりモンスターを選択して墓地へ送る。」

俺は『レベルスティーラー』を墓地へ送る」手札4 - 3 デッキ28 - 27

T 「くつ…『レベルスティーラー』を墓地へ送ったか…」

亮 「さらに墓地へ送った『レベルスティーラー』の効果、自分フィールド上のレベル5以上のモンスター1体のレベルを1下げ、自身を特殊召喚する！」

そして『極星獣グルファクシ』を召喚！」手札3 - 2 フォー

トレスLv9 - 8

T「…シンク口召喚…！」

亮「行くぞ、レベル1『レベルステイラー』にレベル4『極星獣
グルファクシ』をチューニング！」

光を無にする力を持つ未来の殺戮兵器で敵に絶望を見せよ！

シンク口召喚！ 打ち消せ！『A・O・Jカタストル』！！

バトル！『A・O・Jカタストル』で『機皇兵スキエル・アイ
ン』に攻撃！ ノンリミット・ブレイク！！

そして『A・O・Jカタストル』の効果！闇属性以外のモン
スターと戦闘するとき、そのモンスターをダメージ計算前に破壊する
！！

T「くっ…、効果破壊のため『機皇兵スキエル・アイン』のリクル
ートが封じられたか…！」

亮「まだだ！『キメラツテック・フォーオレス・ドラゴン』でセッ
トモンスターに攻撃！！ エヴォリユーション・リザルト・ア
ーティレリイイイ！！！！」

フォートレスATK4000 VS メタモルDEF600

T「残念だが、『メタモルポット』の効果発動。互いに手札をすべ
て捨て、5枚をドローする」

亮「…くっ…！」

亮 手札2 - 0 - 5 デッキ27 - 22 T 手札0 - 5 デッ
キ28 - 23

亮「…ターンエンド」

8ターン目

亮LP6800 手札5 デッキ22 フォートレス4000 カ

タストル

TLP3800 手札5 デッキ23

F フォルテシモ

T「…私のターン！！」手札5 - 6 デッキ23 - 22

T「…見せてやろう、闇より生まれた絶望の力を！」

亮「…！何を…っ」

？（…出すのか…、流石に仕方ないか）

T「『機皇兵グランエル・アイン』を召喚する！

効果により『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』の攻撃力を半分にする！」手札6 - 5 フォートレスATK4000 - 2000

亮「…だが、『機皇兵グランエル・アイン』は攻撃力1600…、破壊はできない」

T「問題はない！手札1枚をコストに『死者への手向け』を発動する！フィールド上のモンスター1体を破壊！『機皇兵グランエル・

アイン』を破壊する！」手札5 - 3

亮「…！まさか…」

T「ようやくわかったか！私のモンスターが効果破壊されたとき手札より『機皇帝ワイゼル』を特殊召喚する！」手札3 - 2

T「生命を支配し3つの絶望の力の欠片を見せよ！

現れる、

『機皇帝ワイゼル』！！！」

亮「…【機皇帝】…なぜお前が持っているんだ！」

T「…貴様が知る理由はない。

私は『機皇帝ワイゼル』の効果を発動する！1ターンに一度、相手のシンクロモンスター1体を吸収し、その攻撃力を得る！

対象は『A・O・Jカタストル』だ！」

ワイゼル ATK 2500 - 4700

亮「攻撃力4700…これがシンクロキラーの力…！」

T「バトル！『機皇帝ワイゼル』で『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』を攻撃！ ノンリミット・インフィニティ・スラッシュー！」

ワイゼル ATK 4700 VS フォートレス ATK 2000

亮「ぐあああああつ！」 LP 6800 - 4100

T「私のターンは終了だ」

9ターン目

亮 LP 4100 手札5 デッキ22

T LP 3800 手札2 デッキ22 ワイゼル+カタストル

F フォルテシモ

亮（…なぜ…、なんであいつが【機皇帝】を持っているんだ…

あのカードは…WRGP準優勝のチームニューワールドのカードだったはず…）

亮「…俺の…ターン…！」 手札5 - 6 デッキ22 - 21

亮「『死者蘇生』！墓地のモンスター 『サイバー・ドラゴン』

を蘇生させる！」 手札6 - 5

亮（所詮、相手は機械族。これで再び『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』を出せば…）

T「甘い！『機皇兵ワイゼル』の効果発動！1ターンに一度、相手の魔法カードの発動を無効にし、破壊する！」

亮「何ッ！」

T「残念だったな、無知故に敗北するとは…」

亮「ぐ…っ、モンスターを守備表示で召喚し、カードをセットして…ターンエンド」

10ターン目

亮LP4100 手札3 デッキ21 裏守 セット

TLP3800 手札2 デッキ22 ワイゼル+カタストル

F フォルテシモ

T「私のターン！」手札2-3 デッキ22-21

T「『機動要塞フォルテシモ』の効果で『機皇兵ワイゼル・アイン』を攻撃表示で特殊召喚する！」

そして、バトルフェイズだ！『機皇帝ワイゼル』でセットモンスターに攻撃！ ノンリミット・インフィニティ・スラッシュ！！

この瞬間『機皇兵ワイゼル・アイン』の効果を発動！」手札3

- 2

亮「！？ただのアタッカーじゃなかったのか！」

T「残念だがその通りだ。『機皇兵ワイゼル・アイン』は1ターンに一度【機皇】が守備モンスターの攻撃時、そのモンスターに貫通効果を付与できる！」

亮「貫通効果だと！？」

ワイゼル ATK4700 VS タングリス二DEF800

亮「…っ、『ガード・ブロック』発動！これにより戦闘ダメージを0にして、デッキから1枚ドローする！」

そして『極星獣タンギリスニ』は戦闘破壊で墓地へ行つたとき、『極星獣トークン』（獣族・地・星3・攻/守0）を2体、特殊召喚する！」手札3-4 デッキ21-20

T「ふん、モンスターを残したか、『機皇帝ワイゼル』は私の場の他のモンスターの攻撃宣言を封じる効果がある。よって『機皇兵ワイゼル・アイン』は攻撃できない。

カードを1枚セットして、ターンエンド」

11ターン目

亮LP4100 手札4 デッキ20 極獣トークン×2

TLP3800 手札1 デッキ23 ワイゼル+カタストル W

イゼル兵 セット1

F フォルテシモ

亮「…俺のターン！！」手札4-5 デッキ20-19

亮（『極神皇トール』を呼ぶのは今しかない…！

『機皇帝ワイゼル』は1ターンに一度しか魔法を封じれない
…ならば…）

亮「手札より、『貪欲な壺』を発動！墓地のモンスター5体 『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』 『サイバー・ドラゴン』 『プロト・サイバー・ドラゴン』 『極星獣グルファクシ』 『極星獣タンギリスニ』の5体をデッキに戻し、2枚をドローする

…が、『機皇帝ワイゼル』は1ターンに一度だけ魔法の効果
を無効にするんだつたな。さて、どうするんだ？」手札5-4

T（…奴は何を考えている…？

…冷静になれ。普通、無効にしてほしくて発動するわけがない。奴は私の『機皇帝ワイゼル』の効果を発動させようとしている…
…ということ、次の魔法カードが本命か…？

…誰でもここまでは考えつく。そして、普通なら無効にしない…。だが、それが奴の策略だったら？

奴のデッキに戻すカードには『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』に『極星獣グルファクシ』がいる…、簡単に戻させるのは危険だ…

私のリバーズカードは自分のフィールド上のモンスターを手札に戻す『撤収命令』…。

だから、『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』は怖くはない、問題は『極神皇トール』だ。

…奴の手札に『極星獣グルファクシ』がいるなら発動する必要はないはずだ…。

ならば…！)

T「…私は『機皇帝ワイゼル』の効果で、『貪欲な壺』を無効にし、破壊する」

亮「…！」

T(さあ…どう動く…！)

亮「手札より…手札1枚をコストに、『死者転生』を発動！墓地のモンスター、『極星獣グルファクシ』を手札に戻す！」手札4-2
- 3

T「な…なんだと!？」

亮「随分思考時間が長かったが、深読み過ぎだったな

『極星獣グルファクシ』を召喚する！

レベル3の『極星獣トークン』2体にレベル4『極星獣グルファクシ』をチューニング!

星界の巨人よ、古の支配を打ち砕くその鎚で裁きの鉄槌を下せ
！！ シンク口召喚！ 降臨せよ！ 『極神皇トール』！！
！』手札3 - 2

T「く…神の召喚を…許してしまったか…」

亮「俺は『極神皇トール』の効果を発動！1ターンに一度、フィールド上のモンスター1体を選択して、そのモンスターの効果をターン終了時まで無効にする！対象は『機皇帝ワイゼル』だ！」

T「ぐ…『機皇帝ワイゼル』の効果が無効にされたため、装備カードである『A・O・Jカタストル』は破壊され、攻撃力は2500に戻る…」

ワイゼル ATK 4700 - 2500

亮「バトル！『極神皇トール』で『機皇帝ワイゼル』に攻撃！

サンダアア・パイルウウウ！！！！

T「ぐ…リバーカードオープン！『撤収命令』！『機皇兵ワイゼル・アイン』と『機皇帝ワイゼル』を手札に戻す！」手札1 - 3
亮「ならば攻撃対象をダイレクトアタックに変更する！行け！『極神皇トール』！！ サンダアア・パイルウウウ！！！！」

トール ATK 3500 VS 直接

T「ぐおおおおおおおつ！！」LP 3800 - 300

亮「…ターンエンドだ」

遊星宅

遊星「これで大丈夫だったか？」

幽「…ああ、情報感謝する」

幽の手には地図がある。

手が加えられていて赤丸が描かれている。

クロウ「それで？いつ乗り込むんだ？」

幽「…また、後日連絡する」

クロウ「わかった、っと帰る準備もできたか？こっちはいつでも出
発できるぜ」

幽「…そうだな、そろそろ帰らないと…」

そう言つて、家を出る幽。

幽「…遊星さん、感謝します」

遊星「…気にするな。当然のことをしたままでだ

…それに…」

幽「…それに？」

遊星「…いや、今日は遅い。この話は今度しよう」

幽「…ええ、それでは、失礼します」

そう言っつて扉を閉める。

遊星「…アキ…どこに居るんだ…」

一方、幽とクロウは家を出て、ハイウェイを快調に走り、まさに幽宅に到着しようとしているとき

クロウ「…ちっ、工事かよ」

幽「…朝はやってなかったが…面倒だな」

帰る途中の道で道路工事をやっていた。

当然、「一般車両の通行禁止」と書かれた看板もある。

クロウ「どうする？遠回りなら乗せて行ってやるぜ」

幽「…いや、あと5分もあれば着く。残りは歩く」

クロウ「そうか、じゃあここで失礼するぜ」

幽「…ああ、ありがとうな」

クロウ「…気にするな」

幽「遊星さんと同じこと言っってるな」

クロウ「あ？そついえばそつだな。」

なんだかんだで似たもの同士ってことだな

幽「…ふっ…」

それじゃあ、後日に連絡する」

クロウ「ああ、それじゃあな！」

そう言っつてクロウはDホイールに乗って去っていく。

幽「…帰るか…」

12ターン目

亮LP4100 手札2 デッキ19 トール

TLP300 手札3 デッキ23

F フォルテシモ

T「ぐ…雑魚の分際で…」

亮「その言葉、返すぜ。雑魚の分際で、神のカードを奪おうとしても無駄だ」

T「…ぐ…」

?「…ミスターT、失敗は許さない」

T「黙れ、小娘」

?「…ふん、じゃあさつさと勝つのね」

T「…生意気な」

私のターン！」手札3・4 デッキ23・22

T「『貪欲な壺』を発動！墓地より『機皇兵スキエル・アイン』3

体と『機皇兵グランエル・アイン』2体をデッキに戻し、シャッフル。そして2枚をドロロー！」手札4 - 5 デッキ22 - 25

T「…！来たか、私の切り札が！」

亮「…顔つきが変わった…？」

T「…残念だが、この勝負は私の勝ちだ！」

亮「…ハツタリにしか聞こえんな」

T「これを見た後でもこれを言えるかな？」

私は手札のモンスターの召喚条件のために、『機皇兵ワイゼル・

アイン』、『機皇帝グランエル』、『機皇帝ワイゼル』の3体を墓

地へ送る！」手札5 - 2

亮「…『モンタージユ・ドラゴン』か？だが合計レベルは6…わず
か1800の攻撃力だがな…」

T「ふん、凡人にはその程度しか考えられないか。見せてやろう！
私の切り札を！」

スキエルグランエロイゼル

T「3つの絶望、天・地・人を今ここに束ねる！無限の力を得て、
希望無き世界を見せる！」 『機皇神マシニクル』「……！」

手札2 - 1

亮「…『機皇神マシニクル』…？なんだ…このモンスターは…」

T「見せてやろう！絶望を！」 『機皇神マシニクル』は1ターンに
一度、相手フィールド上のシンクロモンスター1体を吸収し、その
攻撃力を得る！」

亮「…つ、『機皇神ツール』が…っ！」

T「『極神皇ツール』の攻撃力は3500！その攻撃力を自身の攻
撃力4000に加え、その攻撃力は7500だ！」

マシニクルATK4000 - 7500

亮「な…なんだとっ…！」

T「さあ、絶望を見よ！『機皇神マシニクル』でダイレクトアタック！　　ザ・キューブ・オブ・デイスペアー……！」
亮「……ぐ……、俺は『死者転生』で捨てた『ネクロガードナー』をゲームから除外し、その戦闘を無効にする！」
T「ちつ……、小賢しい」

カードをセットして、ターンエンド」

13ターン目

亮LP4100 手札2 デッキ19

TLP300 手札0 デッキ25 マシニクル+トール セット
F フォルテシモ

亮（攻撃力7500……、このモンスターを少ない手札で倒せるのは……『サイバー・ドラゴン』による融合と『オーバー・ロード・フュージョン』のみ……！

俺の手札は『手札抹殺』と『パワーボンド』……ここでドロートしないと、勝ち目はない……）

亮「行くぞ！俺のターン……！」手札2 - 3 デッキ19 - 18

亮（……っ……、だが……可能性はある……！）

亮「モンスターをセットし、ターンエンド……！」

14ターン目

亮LP4100 手札2 デッキ18 裏守

TL P300 手札0 デッキ25 マシニクル+トール セット
F フォルテシモ

T「ふふふ…残念だったな、デッキにまで見放されて
私のターン！」手札0 - 1 デッキ25 - 24

T「バトル！『機皇神マシニクル』 ザ・キューブ・オブ・
デイスペアー！！！」

マシニクル ATK7500 VS 雑貨商人 DEF700

T「…何？」

亮「…『魔導雑貨商人』のモンスター効果、デッキをめくり、最初
に出た魔法・罠カードを手札に加え、それ以外を墓地へ送る」

T「…カードをめくれ」

亮「…1枚目：『サイバー・ドラゴン』…墓地へ送る

2枚目『ハウンド・ドラゴン』…これも墓地だ…

3枚目『サイバー・ダーク・エッジ』…

…4枚目『D・HEROディアボリックガイ』…

…5枚目『プロト・サイバー・ドラゴン』…

…6枚目『サイバー・ダーク・キール』…7枚目『ダーク・ホルス・

ドラゴン』…8枚目『プロト・サイバー・ドラゴン』…9枚目『サ

イバー・ドラゴン・ツヴァイ』…10枚目：『ダーク・アームド・

ドラゴン』…」

T「…待て…貴様…いつまでやるつもりだ…」

亮「…俺の血が言ってくる…勝て…と。俺の血が、俺のデッキにそ
うさせている…」

見せてやる、俺の血を…俺のヘルカイザーの血を…！」

T「ぐっ…ヘルカイザーだと…！」

亮「11枚目『サイバー・ドラゴン』、12枚目『極星獣グルファクシ』、13枚目『D・HEROディアボリックガイ』、14枚目『極星獣ダングリスニ』、15枚目『終末の騎士』、16枚目『極星獣グルファクシ』…17枚目：『オーバー・ロード・フュージョン』…、俺は16枚のカードを捨て、『オーバー・ロード・フュージョン』を手札に加える…！」手札2 - 3 デッキ18 - 1

T「な…そんな…バカな…！」
く…、私は、トラップカード『マインドクラッシュ』を発動！カード名を宣言し、そのカードが相手の手札にあるなら、すべて墓地へ送る！ 『オーバー・ロード・フュージョン』を宣言！」

亮「…っ！」手札3 - 2
T「黒田亮！絶望したか！貴様の最後の一つの希望も打ち砕いてやった！

カードをセットしてターンエンドだ！さあ、貴様のラストターンだ！」

15ターン目

亮LP4100 手札2 デッキ1

TLP300 手札0 デッキ24 マシニクル+ツール セット

亮「…最後の1枚か…」

俺は絶望なんてしない…！」

T「…ふん、デッキを信じているからか？そんな綺麗ごとが通用すると思ってるのか！」

亮「…俺はデッキを信じている…だが、16枚のカードを捨てた…俺のデッキは信じてくれてはいないかもしれない…」

…だからこそ、俺はカードだけでなく、俺は自分の心を！血を！信じていく！サイバー流の全力を見せてやる！ドロー！！」手札

2 - 3 デツキ1 - 0

T (...なんだ...この感覚は...

... 『機皇神マシニクル』 から流れてくる...なんだ...この記憶は...)

その記憶とは、3つの絶望の合体した姿 対峙する男・少年・

少女

何も無い腕が赤く光りだす 攻撃力が8600の『機皇神龍ア

ステリスク』 それを打ち倒す黄色の竜、青と白の美しい竜、

そして紅蓮の炎に包まれた竜

3つの絶望が、消える その顔は、希望に満ちたような

T (...!なんだ、この...記憶は...っ、カードが見せているとでも...
っ!)

亮「...手札を2枚捨て、『魔法石の採掘』!墓地の魔法カード

『オーバー・ロード・フュージョン』を手札に加える!!!」手

札3 - 1

T「な...!」

亮「見せてやる!俺の祖先が作り上げた最強の力を!母と兄の...俺への希望を!」オーバー・ロード・フュージョン』を発動!

墓地の闇属性・機械族の融合モンスターによって決められたモンスターをゲームから除外し、融合召喚を行う!俺は『キメラテック・オーバー・ドラゴン』を宣言し、墓地に眠る『サイバー・ドラゴン』と『サイバー・バリア・ドラゴン』 『サイバー・ダーク・ホーン』 『プロト・サイバー・ドラゴン』 『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』 『A・O・Jカタストル』そして『魔導雑貨商人』

…私も昔はそう思った。力で上回れば絶望しかないのだと…
だが、圧倒的な力を見せ、LPを0にしようとしても…立ち上がる少年もいた。

…必要なのは、信じる心。強さでは証明できない、特殊な力だ。
T「そんなもの信じない！私は貴様の絶望の力の手助けをしてやっているというのに！」

私は闇より生まれし力！光のいう事など聞かん！（
きほつ

T「リバースカード！『リミッター解除』！機械族の攻撃力を2倍にする！！」

亮「…！」

T「絶望しろ！希望を私の闇が呑み込んでやる！」

オーバードラゴン ATK10400 VS マシニクル ATK75
00-15000

亮「…だが、希望の力はつながった…」

T「…何を言っている！貴様のLPは0！もう負けは決定している！」

亮「…正直に言う…」

お前が【機皇】を使ってくる時点で、俺は負けを…この状況になると確信していた」

T「…！？」

亮「…時間稼ぎだったんだよ…幽兄が来るまでの…」

T「な…何を言って…！」

驚き言葉をなくすミスターT。その後ろには

幽「…亮」

亮「…幽兄…、勝てなかつたけど…任せられる？」

幽「…ああ、お前の小さな光を輝かせる…！」

亮「…任せるよ…」

…幽兄」LP4100-0

攻撃を受け、気絶する亮。
その体を幽が受け止める。

幽「…さあ、殺ろうか…人の弟に手を出した罪…高くつくぜ…！」

T「ふん…、1枚の神のカードを手に入れた…私がこのカードを使
つて貴様に勝ち目があると思っっているのか？」

『機皇神マシニクル』に装備されていた『極神皇ツール』を見せ
ながら言うミスターT。

幽「貴様程度に使いこなせるわけがないだろう…」

T「面白い…試してやる…ウ…ッ！」

急に倒れこみ頭を抱えるミスターT。

幽「…？」

T「ぐ…ぐおおお…っ」

T（なんだ…この頭痛は…）

その時、また声が聞こえてくる

T（…アポリアとやら…っ、貴様…またでて…っ）

…見る、貴様程度の力では…いや…私たちの【機皇帝】程度の力で

は誰も絶望させることはできない。

T「っ…！」

その頭痛は…私たちとはじめとする…希望の力が引き起こしている…。

絶望のみでできている…貴様には何を考えられまい…

T「ぐ…これき…し…っ…！！」

T「…こ…小賢…しい…い…、デュ…」

デュエルだ！と言おうとした時、後ろから声がする。

？「交代よ、ミスターT。私、その男の言うことが気に入らない」

T「…な…」

？「それに貴様の闇は消えかかっている。このまま全力を出せず負けるのかしら？」

T「…小娘…っ」

？「下がれ、雑魚」

T「ふざ…」

その瞬間、女はデュエルディスクにカードを置く。

そしてソリットビジョンでモンスターが出る。

そのモンスターがミスターTを吹き飛ばす。

吹っ飛ばされて、壁に叩きつけられるミスターT。

T「ぐ…貴様こそ…負けたら…許さんぞ…」

？「私は負けない」

そう言って幽と対峙する。

幽「…あなた…、さっき…なぜモンスターが実体化した？」闇のゲ

ーム』はデュエルのみのはず…」

？」

幽「それに…さっきのモンスター…まさか…あなた…『十六夜アキ』か…？」

十六夜「…だったらどうした？」

幽「……」

さつきミスターTを吹き飛ばしたモンスターは 『ブラック・ローズ・ドラゴン』。シグナーの証の竜だ。そのカードを持っているのは、当然シグナーである『十六夜アキ』のみである。

幽「…なんでこんなことを…」

十六夜「…黙れ、デュエルだ」

幽（質問に答えるよ…）

幽「…さっきの変な男は動けないみたいだし、貴様を倒して…亮の『極神皇トール』を…返してもらおうかな…」

十六夜「…勝てるなら…」

幽「…面白い」

十六夜・幽「デュエル……！」

第10話
E
N
D

第10話 不意打ち（後書き）

遊星「…あ」

元キン「どうした？遊星？」

遊星「…」

1枚の紙を見せる。

そこには、『チーム満足様へ』の文字と『黒田幽』の文字が。

元キン「…中身は…？」

遊星「…俺たちが次回予告をやるそうだが、台本もある」

元キン「…面倒だが…仕方ない」

遊星「次回、黒田豪の死角2人目のアキと幽のデュエル、その結果は…？」

元キン「第11話『黒薔薇の魔女』だ。キーカードは『ブラック・ローズ・ドラゴン』と『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』の2枚だ！カードを洗って待っている！」

遊星「ジャック、カードを洗ったら使えなくなってしまうのでは？」

元キン「……………」

遊星（これは言うてはいけなかったことだな）

第11話 黒薔薇の魔女（前書き）

皆さん大好き。DS女王の登場です。

・・・今回は正直につまらない。オチが特に・・・

でも、こうしたいから満足なのさ！（

追記：途中のモンスター名にミスがありましたので変更いたします。

第11話 黒薔薇の魔女

黒田家前

亮が横たわる傍で、幽と十六夜のデュエルが始まった。

幽LP8000 手札5 デッキ35
十LP8000 手札5 デッキ35

幽「先攻は俺だ、ドロー！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

幽「…『ダーク・グレファア』を召喚！

『ダーク・グレファア』の効果を発動、手札の闇属性モンスターを墓地へ送り、デッキの闇属性モンスター1体を墓地へ送る。

この効果で手札より『レベルステイラー』、デッキより『D
- HEROディアボリックガイ』を墓地へ送る」手札6 - 4 デッ
キ34 - 33

十「……」

幽「…カードをセット、ターンエンドだ」

1ターン

幽LP8000 手札3 デッキ33 闇変態 セット

十LP8000 手札5 デッキ35

十「ドロー」手札5 - 6 デッキ35 - 34

幽「…素っ気ねえな」

十「『ローンファイア・ブロッサム』召喚、そしてモンスター効果。自分のフィールド上の植物族モンスターをリリースし、デッキの植物族モンスター1体を特殊召喚する。『ローンファイア・ブロッサム』をリリースし、『椿姫ティタニアル』をデッキより特殊召喚」手札6 - 5 デッキ34 - 33

幽「攻撃力2800を1ターンで召喚しただと…！」

十「バトル、『椿姫ティタニアル』で『ダーク・グレファア』を攻撃 クイーン・ローズ・ウィップ…！」

闇変態ATK1700 VS ティタニアルATK2800

幽「ぐ…あああああつ…！」LP8000 - 6900

十「カードをセットし、ターンエンド」

2ターン

幽LP6900 手札3 デッキ33 セット

十LP8000 手札4 デッキ33 ティタニアル セット

幽「ぐつ…、なんだ…この力は…」

何も言わない十六夜。

幽「十六夜アキ…、なるほど…サイコパワーか…」
十「…お前のターンだ」

幽「ちっ…俺のターンだ！」手札3 - 4 デッキ33 - 32

幽「リバーズカード、『神の桎梏グレイプニル』発動！デッキより【極星】と名のついたモンスター1体を手札に加える！この効果で『極星霊デックアールヴ』を手札に加える！」手札4 - 5 デッキ32 - 31

十「…神の化身…！」

幽「行くぜ、墓地の『D - HEROディアボリックガイ』の効果自身を除外し発動！

デッキより『D - HEROディアボリックガイ』を特殊召喚する！」デッキ31 - 30

幽「さらに墓地の『レベルステイラー』の効果！自分フィールド上のレベル6以上のモンスター『D - HEROディアボリックガイ』のレベルを1下げ、このカードを墓地より特殊召喚する！『レベルステイラー』をリリースし、『極星霊デックアールヴ』をアドバンス召喚！

まだまだ！再び『レベルステイラー』の効果で『D - HEROディアボリックガイ』のレベルを4に下げ、再度蘇生させる！」手札5 - 4 デディアボリックガイLv6 - 5 - 4
十「…！【極星】のチューナーでレベルは10…！」

幽「行くぞ！レベル4となった『D - HEROディアボリックガイ』とレベル1の『レベルステイラー』にレベル5『極星霊デックアールヴ』をチューニング！

世界を闇に沈めた暗黒の神よ、すべてを掌握し王として再び玉

座を黒く染めよ！シンクロ召喚

降臨せよ！『極神皇ロキ』！

十「邪魔だ、速攻魔法『月の書』発動、『極神皇ロキ』を裏側守備表示にする」

幽「なっ…小賢しい真似を…カードをセットしてターンエンドだ」

3ターン

幽LP6900 手札3 デッキ30 裏守（ロキ） セット

十LP8000 手札4 デッキ33 ティタニアル

十「私のターン、ドロ」手札4 - 5 デッキ33 - 32

十「…！」

幽「…なんだ…？」

十「行くわよ、手札より『夜薔薇の騎士』を召喚！」手札5 - 4

幽「『夜薔薇の騎士』だと…！レベル3のチューナー…、まさか…！」

十「『夜薔薇の騎士』の効果、召喚に成功したとき手札のレベル4以下の植物族モンスター1体を特殊召喚する 『ロードポイズン』を特殊召喚する！」手札4 - 3

幽「…合計レベルは7…！」

十「レベル4『ロードポイズン』にレベル3『夜薔薇の騎士』をチューニング！」

冷たい炎が世界のすべてを包み込む…漆黒の花よ、開け！シンクロ召喚！
現れる『ブラック・ローズ・ドラゴン』…！！！」

幽「『ブラック・ローズ・ドラゴン』…！シグナーの竜の証…！」
十「『ブラック・ローズ・ドラゴン』の効果、墓地の植物族を除外し、相手フィールド上の守備表示モンスター1体を攻撃表示にし、その攻撃力を0にする！墓地の『ロードポイズン』をゲームから除外し、裏側守備表示の『極神皇ロキ』を攻撃表示にし、攻撃力を0にする！
ローズ・リストラクション…！！」
ロキATK3300-0
幽「な…なんだと…っ！」

十「バトル、『ブラック・ローズ・ドラゴン』で『極神皇ロキ』に攻撃！
ブラック・ローズ・フレア…！！」
ブラロATK2400 VS ロキATK0

幽「ぐわあああああああっ…！！」LP6900-4500

十「さらに『椿姫ティタニアル』でダイレクトアタック クイーン・ローズ・ウィップ…！！」
ティタニアルATK2800 VS 直接
幽「っ…、『ガード・ブロック』…！ダメージを0にして、カードを1枚ドロウする！」手札3-4 デッキ30-29

十「ターンエンドよ」

幽「このエンド…フェイズ、相手によって破壊され墓地へ送られた『極神皇ロキ』の効果…！墓地の『極星霊テックアールヴ』をゲームから除外し、墓地の…このカードを蘇生させ、墓地の…畏カード
『ガード・ブロック』を手札に加え…る…っ」

4ターン

幽 LP 4500 手札 5 デッキ 30 ロキ
十 LP 8000 手札 3 デッキ 32 ティタニアル ブラロ

幽「…まずい…、一撃が重すぎる…」

流石はサイコデュエリスト…、って関心している場合じゃないか…)

幽「…俺の…ターンっ」手札 5 - 6 デッキ 30 - 29

幽「…バトル！『極神皇ロキ』で『椿姫ティタニアル』で攻撃っ…」

！ ヴァニティ・バレット！！」

ロキ ATK 3300 VS ティタニアル ATK 2800

十「…」LP 8000 - 7500

幽「…反応なし…かよ…」

メインフェイズ2、『終末の騎士』を召喚し、効果を…発動する…、デッキより…、『ユベル』を…墓地へ送る…」手札 6 - 5
デッキ 29 - 28

十「…『ユベル』を墓地へ送った…！」

幽「…さらに、カードを…2枚セットして…ターンエンドだ」

5ターン

幽 LP 4500 手札 3 デッキ 28 ロキ 末騎士 セット 2
十 LP 7500 手札 3 デッキ 32 ブラロ

十「私のターン、ドロー」手札 3 - 4 デッキ 32 - 31

十「速攻魔法『エネミーコントローラー』発動、相手フィールド上のモンスターを守備表示に変更する」（社長専用ではない）手札4

- 3

幽「なつ…！また、表示形式変更の…カードだと…！」

十「私は『極神皇ロキ』を守備表示に変更する」ロキATK330
0-DEF3000

幽「守備表示に…変更…、ということは…まさ…か…」

十「『ブラック・ローズ・ドラゴン』の効果発動！墓地の『ローン
ファイア・ブロッサム』を除外し、『極神皇ロキ』の攻撃力を0に
する！ ローズ・リストラクション…！」

ロキATK3300-0

幽「…くつ…、まさか2度も効果を…使ってくるとは…」

十「さらに『ボタニカル・ライオ』を召喚、このモンスターの攻撃
力は自分の場の植物族の数×300ポイントアップする。私の場の
植物族は『ボタニカル・ライオ』のみなので攻撃力は300ポイン
トアップする」手札3-2

ライオATK1600-1900

十「バトル！『ボタニカル・ライオ』で『終末の騎士』に攻撃！

 鬣の竜巻…！」

ライオATK1900 VS 末騎士ATK1400

幽「ぐあああ…ああつ」LP4500-4000

十「まだよ、『ブラック・ローズ・ドラゴン』で『極神皇ロキ』に
攻撃！ ブラック・ローズ・フレア…！」

ブラロ ATK2400 VS ロキ ATK3300 - 0
幽「…再び『ガード・ブロック』を発動！」手札3 - 4 デッキ2
8 - 27

十「神のカードもその程度なのね。ターンエンドよ。」

幽「…エンドフェイズ、リバースカード…『リミット・リバース』
を発動！俺の墓地の攻撃力1000以下のモンスター1体を選択し、
特殊召喚する！蘇れ 『ユベル』！」
十「…！」

6ターン

幽 LP4000 手札4 デッキ27 ユベル リミリバ
十 LP7500 手札2 デッキ31 ブラロ ライオ

十（…まずい…、たしか『リミット・リバース』は対象モンスター
が守備表示になった時には破壊される…、そして『ユベル』は破壊
されたときに進化するモンスター…

奴の狙いは確実に…！）

幽「…俺のターンだ！」手札4 - 5 デッキ27 - 26

幽「『ユベル』を守備表示にし、『リミット・リバース』の効果で
『ユベル』は破壊される！」

十（…来る…！）

幽「行くぞ！『ユベル』の効果！このカードが破壊され墓地へ送ら
れたとき、デッキ・手札・墓地のいずれかから『ユベル Das
Abscheulich Ritter』を特殊召喚する！」

俺はデッキより『ユベル Das Abscheulich Ritter』を特殊召喚！」手札26 - 25

十（くっ…処理に厄介なモンスターが来たものね…）

幽「…俺のターンのエンドフェイズ、『ユベル Das Abscheulich Ritter』の効果…発動…！フィールド上のこのカード以外のモンスターすべてを破壊する！」
十「くっ…『ブラック・ローズ・ドラゴン』と『ボタニカル・ライオ』が…！」

7ターン

幽LP4000 手札5 デッキ25 ユベル？

十LP7500 手札2 デッキ31

十「…ドロー」手札2 - 3 デッキ31 - 30

十（…『ユベル Das Abscheulich Ritter』…毎ターン『ブラック・ホール』の効果を発揮するモンスター…しかもフィールドから離れると『ユベル - Das Extramer Trauring Drachen』を特殊召喚する効果を持つ…！

…だが、弱点はある…！）

十「カードをセットして、ターンエンド」

8ターン

幽 LP4000 手札5 デッキ25 ユベル？
十 LP7500 手札2 デッキ30 セット

幽「…俺の…ターン…！」手札5 - 6 デッキ25 - 24

幽（…ライフアドを除き…俺のほうが圧倒的に有利…！このアドバ
ンテージを保ちながら…一気に攻める！）

幽「『クリッター』を召喚し、バトルフェイズに入る！

『クリッター』でダイレクトアタックだ！！ 悪魔の三連爪

！」手札6 - 5

クリッター ATK1000 VS 直接

十「…っ！」LP7500 - 6500

幽「…さらに速攻魔法『手札断殺』を発動！互いのプレイヤーは手
札を2枚墓地へ送り、その後デッキより2枚をドロウする！」

十「…手札交換カード！」

幽「さあ、さつさとカードを墓地へ送れ」

十「…」

幽 手札5 - 4 デッキ24 - 22 十 手札2 - 2 デッキ3
0 - 28

幽「そして、エンドフェイズ、『ユベル Das Abscheu
lich Ritter』の効果だ。このカード以外のフィールド
上のモンスターをすべて破壊する。」

十「…ただ、私の場にモンスターはいない」

幽「…破壊されるのは『クリッター』だけか…、だが『クリッター』

の効果！フィールド上から墓地へ送られたとき、デッキより攻撃力1500以下のモンスターを手札に加える！」

十「…それを待ってたわ」

幽「…何？」

十「『クリッター』の効果にチェーンして、トラップ発動、『サンダー・ブレイク』！手札1枚をコストにフィールド上のカード1枚を破壊する！」

幽「な…チェーン発動だと…！」

十「私はこの効果で『ダンディライオン』を捨て、あなたのフィールドの『ユベル Das Abscheulich Ritter』を破壊する！」手札2-1

幽「…ぐっ、逆順処理で俺は…『終末の騎士』を手札に加える。

…この後、フィールドから離れた『ユベル Das Abscheulich Ritter』の効果を発動…

するはずだが…」手札4-5 デッキ22-21

十「…わかっているようね、『ユベル Das Abscheulich Ritter』は任意効果。さっきの状況じゃタイミングを逃すわ」

幽「ちっ…、弱点を突いてくるとは…！」

十「残念ね、だけど、私の『ダンディライオン』はタイミングを逃さない

『ダンディライオン』が墓地へ送られたとき、2体の綿毛トーン（植物族・風・星1・攻/守0）を特殊召喚するわ」

幽「…一応言うが、この一連の処理はエンドフェイス…
俺のターンは終了だ…」

幽(まずい…ここまで容易く『ユベル Das Abscheul
ich Ritter』を処理されるなんて…！

ハンドアドを勝っていても、ボードアドが厳しいな…
…だが、次のターンまでつなげれば…)

9ターン

幽LP4000 手札5 デッキ21
十LP6500 手札1 デッキ28 綿毛×2

十「…残念だけど、あなたに次のターンを渡す気はない」
幽「…！言ってくれるじゃねえか…」

十「行くわよ、私のターン！」手札1 - 2 デッキ28 - 27

十「私は『手札断殺』で墓地へ送った『スポーア』のモンスター効果を使う！

このカードが墓地に存在する場合、デュエル中に一度だけ、私の墓地の植物族を1体ゲームから除外して、このカードのレベルに除外したモンスターのレベルを加え、特殊召喚する！

私は、『ボタニカル・ライオ』を除外して『スポーア』を特殊召喚！」

スポLv1 - 5

幽「ちつ…合計レベルは7…2枚目の『ブラック・ローズ・ドラゴン』とか言うんじゃないやねえだろうな…！」

十「…安心しなさい、シグナーの竜はこの世に1枚しか存在しない。

2枚目の『ブラック・ローズ・ドラゴン』は来ないわ」

幽「……」

十「だけど、甘いわ。

私は『コピー・プラント』を召喚！」手札2-1

幽「『コピー・プラント』…！」

十「『コピー・プラント』は1ターンに一度、フィールド上の植物族モンスターのレベルと同じにできる。この効果で『コピー・プラント』を『スポーア』と同じレベル5にする」

コピーLv1-5

幽「な…レベル5のチューナーを2体も召喚してくるなんて…！」

十「レベル1綿毛トークンにレベル5『コピー・プラント』をチューニング。

聖なる森に潜みし華麗なる棘の狩人よ、戒めの鞭を持ちて今こそ姿を現せ！シンクロ召喚！

現れる、『スプレディット・ローズ』…！」

十「そして、私はレベル1綿毛トークンにレベル5『スポーア』をチューニング。

その花を見たものは後悔するほど美しい女王よ、この世界で、その美しき姿を薔薇のように咲かせよ！シンクロ召喚！

現

れる、『ヘル・ブランブル』…！」

幽「1ターンで2体のシンクロ召喚だと…！植物族とは思えない強さだな…っ！」

十「これで終わりよ、『ヘル・ブランブル』でダイレクトアタック
！ 妬みの棘！」

ブランブルATK2200 VS 直接

幽「ぐあああああああつ！！」LP4000 - 1800

幽「が…はっ…、き…貴様…っ」

十「…フフフ…」

幽「…笑っている…よな…」

十「ええ…、あなたを苦しむ姿を見ていると…楽しくなってしまう…」

さあ、もつと苦しみなさい！『スプレンドイット・ローズ』で
ダイレクトアタック！ クロス・ローズ・ウィップ！！」

幽「…くっ…！」

遊星宅

クロウ「ただい」

遊星「クロウ、幽の家へ案内してくれないか？」
クロウ「ハア？」

帰ってきて「ただいま」という前にいきなり来た道戻れ、と言われるクロウ。

クロウ「…なんでだ？」

遊星「デュエル探知機に反応が出た」

クロウ「へえ、誰のだ？つて、ジャックと鬼柳がいねえが…二人のか？」

遊星「…アキのだ、場所は…隣街だ、幽に聞こうと思ってな」

クロウ「アキのか！？全く、あいつはどこほつつき歩いていたんだか…」

遊星「…頼めるか？」

クロウ「ああ、行こうぜ」

遊星「…すまない」

そう言っつて、家を出る二人

クロウ（まったく…遊星の奴、アキの心配をしすぎだ…）

遊星（…アキ、お前はなんで…居なくなってしまうんだ…）

十「『スプレンドイット・ローズ』でダイレクトアタック！
クロス・ローズ・ウィップ！！」

幽「…くっ…！」

『手札断殺』で…墓地へと送った『ネクロガードナー』の…効
果！このカードをゲームから除外し、戦闘を…無効にする！」

十「…！まさか、防がれるなんて…！」

幽「…生憎、負けるわけにはいかないんでな」

十「…仲間のために…戦うお前に、私は負けない！

ターンエンドよ！」

10ターン

幽LP1800 手札5 デッキ21

十LP6500 手札1 デッキ27 スプレンドイット ブラン
ブル

幽（状況が悪すぎる…『ヘル・ブランブル』には植物族以外のモン
スターの召喚・特殊召喚に1000のLPを要求する効果がある…）。

この効果で俺は現在の状況、1度しかモンスターを召喚出来ない…。
おまけに『スプレンドイツト・ローズ』には墓地の植物族を除
外して俺のモンスターの攻撃力を半減させる…。今の手札なら対処
ができないわけではないが…。この効果だと俺のデッキだと『F・G・
D』でも出さないと戦闘破壊される…

… ついでに意識まで失いそうなほど…。最悪だな…)

幽「…とりあえず、俺のターンだ！」手札5 - 6 デッキ21 - 20

幽「…！」

十(…表情が変わった?)

幽「…行くぞ！俺は墓地の『D・HEROディアボリックガイ』、『
極神皇ロキ』、『終末の騎士』、『ダーク・グレファア』、『ユベル』、『
ユベル Das Abscheulich Ritter』、『ユベ
ル-Das Extremier Traurig Drachen』
の7種類…のモンスターをゲームから除外する！」
十「…な！何をするつもり…！」

幽「一筋の虹と暗き闇の世界、ここに交わりて最強の輝きと絶対的
な暗黒の象徴を召喚せよ！！ 七色の輝きと共に現れよ！！」
究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン！！！！」手札6 - 5

十「『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』…！攻撃力40
00…！」

… だけど、『ヘル・ブランブル』の効果よ、特殊召喚のコスト
としてLPを1000支払ってもらっわ」

幽「…ぐう…っ…」LP1800 - 800

幽「…バトルフェイズ！『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴ

ン』で…『ヘル・ブランブル』に攻撃！！！！
レインボー・
リフレクション！！！！」

レインボーダーク ATK4000 VS ブランブル ATK2200

十「…っ！！」 LP6500 - 4700

幽「…ようやく、まともなダメージを与えられたか…、カードをセ
ットして、ターンエンドだ」

11ターン

幽 LP800 手札4 デッキ20 レインボーダーク セット

十 LP4700 手札1 デッキ27 スプレンドイット

十「私のターン！」 手札1 - 2 デッキ27 - 26

十「…なぜ、奴は『スプレンドイット・ローズ』を残してきた？

おそらく、奴のリバースカードは攻撃反応系か、効果無効系…

でも、攻撃しなくても次のターンで倒されるのは確実…

ならば…ここは…！）」

十「『スプレンドイット・ローズ』のモンスター効果、墓地の『ス
ポア』をゲームから除外し、エンドフェイズまで『究極宝玉神レ
インボー・ダーク・ドラゴン』の攻撃力を半分にする！」

幽「…攻撃してくるつもりか。…来いよ」 レインボーダーク AT
K4000 - 2000

十「…あの自信…、確実に畏を張っている…！」

…だけど、勝つためにはここであのカードを消費させる！)

十「…っ、バトル！『スプレンドイット・ローズ』で『究極宝玉神
レインボー・ダーク・ドラゴン』に攻撃！ クロス・ローズ・
ウィップ！！」

幽「本当に攻撃してくるなんてな…！リバースカードオープン！『
聖なるバリア ミラーフォース』！」

十「な…っ」
幽「残念だが、『聖なるバリア ミラーフォース』の効果でお前の
攻撃表示モンスターをすべて破壊させてもらう」

十「…ぐっ…」

十(だけど…これで厄介な罫は消えた…、形成を立て直せば…！)

十「メインフェイズ2 『増草剤』を発動！通常召喚権を放棄
することで、墓地より植物族モンスター1体を蘇生させる！私は『
ダンディライオン』を守備表示で特殊召喚！」

幽「ぐっ…決められるかと思ったのに…」

十「…ターンエンドよ」

幽「…このエンドフェイズ、『究極宝玉神レインボー・ダーク・ド
ラゴン』の攻撃力は元に戻る」

12ターン

幽LP800 手札4 デッキ20 レインボーダーク

十LP4700 手札1 デッキ26 ダンディ 増草剤

幽「俺の…ターンだ！」手札4 - 5 デッキ20 - 19

幽（好機…、一気に攻める！）

幽「手札より…『終末の騎士』を召喚！効果によりデッキより闇属性モンスター『ゾンビヤリア』を墓地へ送る！」手札5-4
デッキ19-18

十「…『ゾンビヤリア』…！」

幽「そして、手札1枚をデッキトップに戻し、墓地の『ゾンビヤリア』を蘇生させる！」

さらに、墓地の『レベルスティーラー』の効果！『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』のレベルを1下げ、自身を特殊召喚！
手札4-3 デッキ18-19 レインボーダークLV10-9

十「一気に3体のモンスターを…！」

幽「バトルだ！『終末の騎士』で『ダンディライオン』に攻撃する！
暗黒の一閃！」

末騎士ATK1400 VS ダンディDEF300

十「『ダンディライオン』が破壊されたので『増草剤』も破壊される…」

「ただし、墓地へ送られた『ダンディライオン』の効果！綿毛トーカーン2体を特殊召喚するわ！」

幽「…『レベルスティーラー』と『ゾンビヤリア』で綿毛トーカーンに攻撃！ スタータックル！デス・パンチ！」
スティーラーATK600 VS 綿毛DEF0
キャラリアATK400 VS 綿毛DEF0

十「くっ…綿毛トークンが全滅…！」

幽「行くぞ！」究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』でダイレクトアタック…！

レインボー・リフレクション…！！」

レインボーダーク ATK 4000 VS 直接
十「っあああああっ！」 LP 4700 - 700

幽「…メインフェイズ2…」

レベル1『レベルステイラー』とレベル4『終末の騎士』にレベル2『ゾンビキャリア』をチューニング！

鋼の悪魔が今ここに降臨、最強の力で敵を薙ぎ払え！シンクロ召喚！
叩き潰せ！『スクラップ・デスデーモン』…！！」

十「…攻撃力2700のシンクロモンスター…」

幽「…ターンエンドだ」

13ターン

幽 LP 800 手札3 デッキ19 レインボーダーク スクラップ
デスD

十 LP 700 手札1 デッキ26

十（…手札は1枚、すべてのアドバンテージで完全に負けている…

このドローで…どうにかするしかない…）

幽（…相手のエクストラデッキには『ブラック・ローズ・ドラゴン』

も居ない…、この勝負…俺の勝ちだな…！)

十「私のターン！」手札1 - 2 デッキ26 - 25

十「…『貪欲な壺』を発動！墓地のモンスター5体をデッキに戻して、2枚をドローする！」手札2 - 1

幽「手札補充…！」

十「私は『ブラック・ローズ・ドラゴン』『スプレンドイット・ローズ』『ヘル・ブランブル』『椿姫ティタニアル』『夜薔薇の騎士』の5体をデッキに戻してシャッフル！」

そして2枚をドロー…！」手札1 - 3 デッキ25 - 27 - 25

十(…このカードは…！)

幽(…？ドローしたカードを見てから様子が変わった？)
十六夜は1枚のカードをじっと見ている。

十(な…なんなの…このカードは…とても…懐かしい…)

十六夜の頭に断片的に繰り返される記憶

ある一人の男がいる。
その男とデュエルして負ける。
その男から渡される1枚のカード。
自分も渡す1枚のカード。

そして…、その男と話している、自分の嬉しそうな顔

十（な…なんなの…この記憶…、このカードは…）

幽「…どうした…？お前のターンだが…？」
スルーされる幽。

十（くっ…このカード…この気持ち…
私はいつたい…）

その瞬間、十六夜の頭に大きな頭痛が起きる。

十「…っ！」

うづくまる十六夜。

幽「お…おい…、どうしたんだ？」
当然、スルーされる。

十「…私の頭に…流れ込んでくる…
記憶が…」

誰の顔も見えない。
だが、温かく、仲間に包まれた自分がいる。

十「ゆ…せ…」

幽「ん？今…なんて…？」

そういつた瞬間、十六夜の横に一人の男が現れた。

どういう方法でもない、瞬間的に。

まるでテレポートのようにその男は十六夜の横に現れた。

その外見はサングラスにコート、変なハットまで付けた、変人。
ふつうあんな格好するか？
おまけに髪の毛まで変な形。

？「…アキ、心配なくていい。君はただ…目の前の敵を倒せばいい」

十「…ディバイン…」

ディバインと呼ばれた男は十六夜の耳元で囁く。

もつとも幽には男の背中しか見えていない。

次の瞬間、十六夜の銀色の髪留めが取れて、彼女を中心に大きな風が吹く。

マントが飛び、普段通りのドレスを着た十六夜の姿が現れる。だが、先ほどと違い、髪留めがなくなり、髪がほどけている。

幽「な…なんだ…っ！」

ディ「さあ、アキ。その男をお前のサイコパワーで叩き潰すのだ」

十「私は…『デブリ・ドラゴン』を召喚！」手札3 - 2

幽「…『デブリ・ドラゴン』…だと…！」

十「『デブリ・ドラゴン』は召喚に成功したとき、墓地より攻撃力500以下のモンスター1体を特殊召喚する！蘇れ
『ダンデ
イライオン』！」

幽「…合計レベルは7…！まさか…っ」

十「レベル3『ダンディライオン』にレベル4『デブリ・ドラゴン』をチューニング

冷たい炎が世界のすべてを包み込む…漆黒の花よ、開け！シンク口召喚！
現れる『ブラック・ローズ・ドラゴン』…！！」

幽「…『ブラック・ローズ・ドラゴン』…！！」

十「私はまず、強制効果である『ダンディライオン』の効果を発動！そして、その効果にチェインして、『ブラック・ローズ・ドラゴン』の効果を発動！」

幽「ちっ…逆順処理で『ブラック・ローズ・ドラゴン』の効果から発動する…」

十「『ブラック・ローズ・ドラゴン』はシンク口召喚に成功したとき、フィールド上のすべてのモンスターを破壊する！
ブラック・ローズ・ガイル…！！」

そして、『ダンディライオン』の効果で、綿毛トークン2体を特殊召喚！」

幽「リセット効果の上に…トークンまで生み出すなんて…」

十「…カードを1枚セットして、ターンエンドよ」

14ターン

幽LP800 手札3 デッキ19

十LP700 手札1 デッキ25 綿毛×2 セット

幽（まさか…2度目のブラロが出てくるなんて…）

おまけにリセット効果…ディスプレイが大きいすぎる…）

幽「…行くぞ！俺のターン！」手札3 - 4 デッキ19 - 18

幽（と言っても、俺の引いたカードは『ゾンビキャリア』で戻したカードなわけで…）

幽「『手札抹殺』発動！手札をすべて捨て、デッキより同じ枚数をドローする！」

十「…だけど、私の手札は0…捨てるカードはないわ」

幽「別にかまわない、俺が捨てただけだから」手札4 - 3 デッキ18 - 15

幽（…来たか！）

幽「悪いが、俺の勝ちだ、俺の墓地は『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』『終末の騎士』『レベルステイラー』『クリッター』の他に『手札抹殺』で捨てた『ダーク・ホルス・ドラゴン』と『極星霊デックアールヴ』が居る！合計6体の閻属性が居るので『ダーク・クリエーター』を手札より特殊召喚！」手札3 - 2

十「…甘いわ、『ポリノシス』を綿毛トークンをリリースして発動。『ダーク・クリエーター』の特殊召喚を無効にし、破壊する！」

幽「なっ…！」

ならば…『キラール・トマト』を召喚し、バトルフェイズ！『キラール・トマト』で綿毛トークンに攻撃！ キラールスピン！」

トマト ATK1400 VS 綿毛 DEF0

幽「カードを1枚セットして、ターンエンド」

15ターン

幽LP800 手札0 デッキ18 トマト セット

十LP700 手札1 デッキ25

幽「…十六夜アキ…」

十「…何だ」

幽「…一つ聞かせてくれ」

十「…」

幽「…なぜあんたが黒田豪の元についている？」

十「…貴様には関係ない」

幽「…ふう…」

「質問を変えよう、お前はチーム5D'sを…不動遊星を裏切ったのか？」

すると十六夜アキは意外な反応をした。

十「不動遊星？チーム5D's？私はそんなもの知らない」

幽「…え？」

十「私が信じるのはデイバインだけ。

貴様のように不特定多数の人に浅はかな笑顔を振りまく奴とは

違う」

幽「…」

十「私は貴様のような男には負けない」

幽「…そうか…」

勝てるものなら勝ってみろ」

十（私の手札は…『椿姫テイタニアル』のみ…

…勝つためには…このドローにかけるしかないわね…）

十「私のターン！」手札1-2 デツキ25-24

十「…行くわよ、手札より、装備魔法『薔薇の刻印』を発動！」手札2-1

幽「何っ！」

十「墓地の植物族『コピー・プラント』をゲームから除外し、相手フィールド上のモンスター1体に装備し、装備モンスターのコントロールを得る！『キラー・トマト』のコントロールを得る！」

幽「くっ…」

…俺は…負けるわけには行かないんだ！！トランプ発動！『破

壊指輪』！」

十「な…に…っ」

幽「このカードは、俺のフィールド上のモンスター1体を破壊し、互いに1000のダメージを受ける！」

だが、俺のLPは800、十六夜のLPは700…」

十「…引き分け…」

幽「…：負けないためには…これしか…ないからな…」

十「…：く…くそっ…」LP700-0

幽「…：亮…すまな…い…っ…」LP800-0

その場に倒れこむ幽。

十六夜も膝をつき、うなだれる。

その横を通過するディバイン。

そして幽のデッキから『極神皇ロキ』のカードを取る。

十「ディバイン…！待って、このデュエルは引き分けよ！

私たちがそいつからカードを奪う権利はないわ！」

そういう十六夜に手を向けるディバイン。

その瞬間、十六夜は意識を失ったように倒れこむ。

第11話 黒薔薇の魔女（後書き）

実「病院、退院しましたああああ！」

綾香「おめでとう！実ちゃん！」

望「よかったです〜」

隼人「…うん、それはいいけど、次回予告…」

実「…あ、その前に…」

綾香「相変わらず、遅い更新で申し訳ありませんでした」

望「…理由はラストターンにあります…」

隼人「…まず、著者の勘違いその1…『ドツペル・ゲイナー』がモンスター効果以外でも可能だと思っていたんだ…」

綾香「そうそう、それで『魔法の筒』による引き分けを狙おうと思っただけだ…」

隼人「…その2、やっぱり『ドツペル・ゲイナー』のミスだ…、当然かもしれないが…『ドツペル・ゲイナー』では…引き分けは発生しない…」

望「そうそう…、著者も困ったものです」

実「最終的に『破壊指輪』で引き分けさせてもらいました…

べたですいません…」

隼人「…もう一つの理由は…当然、著者が悪い…」

綾香「…忙しくてごめんなさい」

望「…本当にごめんなさい」

実「…そもそも引き分けでごめんなさい…」

隼人「だな…幽にさっさと負けてもらえばよかったんだが…」

望「二人そろって…敗北っていうのも…」

綾香「…とりあえず、予告にします？」

隼人「…そうだな…」

望「次回、遊戯王第12話！」

実「力の無さを痛感した二人…、ベタすぎる展開だけど、特訓しま

す！
」
綾香「…その特訓の相手は…あの二人！次回遊戯王第12話『戦い
のための戦い』」
隼人「キーカードは『D・ボードン』だ。楽しみに待っていてくれ
！」

第12話 戦いのための戦い（前書き）

12話投稿です。

忙しさ満載で今回は若干短めです。

ジャックネタが多い気がする。

彼のネタのし易さは異常（笑）

追記：ご指摘を受けて誤字修正です。

・・・実は言われるまで気づいていなかったとか（汗）

修正した誤字 流亞 龍亞 流可 龍可

他にも（他の話でも）間違いがあればどんどんご指摘お願いします。

第12話 戦いのための戦い

……ここはどこだ

…俺は…十六夜との戦いで意識を失ったのか…

…何か聞こえる…誰の声だ？

元キン「アブソリュート・パワーアアアアフオオオオオス!!!」

その言葉と同時に、顔にとんでもない衝撃。

幽「…何をする…」

当然、目が覚める幽。

元キン「ふん、このジャック・アトラスに不可能なことは無い！」

よくわからないのに、目の前の男 『ジャック・アトラス』が
叫ぶ。

クロウ「ジャック！てめえ、もう少し常識を考えろ！」

元キン「今の行動に不可解な点があるというのか！」

クロウ「大有りだろ！怪我した人起こすのに、顔面パンチはないだ
ろ！」

元キン「起きないこいつが悪いんだ！」

目の前でよくわからない口喧嘩をし始める二人。

幽「あ…あのー…（汗）」

その時、2階から遊星が下りてきた。

遊星「幽、起きたか」

幽「…遊星か…いろいろ質問したいんだが…」

遊星「わかっている、今から順に説明するつもりなんだが…大丈夫
か？」

幽「あ…ああ…（うーん、せっかちなな）」

そう言って、遊星の説明が始まった。

昨日の晩、隣街　俺の街で、十六夜アキのデュエルディスク反応があつたので、俺に探すのを手伝ってほしくて、俺の家に来たそうだ。

…だが、到着すると二人揃って、しかも地べたで気絶している。家に帰そうかと思つたが、十六夜の事も聞きたくて、俺たちをここへ連れてきたそうだ。

幽「…そうか…、大体想像できそうな展開だな」

遊星「…

それで、なんであんな場所で気絶していたんだ？」

幽「…言いにくいんだが…

十六夜アキだ、サイコデュエルのおかげで気絶しちまつたんだ」

遊星「な…アキとデュエルしたのか！」

急に焦る遊星。

幽「…そうだ…」

遊星「なんでそうなつたんだ！」

幽「…順に説明する」

俺がクロウに送ってもらった後、家の前に戻ると、亮が変なサンゲラス男とデュエルをして…負けた。

奴のデッキはWRGPの準優勝チーム 『ニューワールド』の3人が使用していた…【機皇】だった。

負けたから、当然、神のカードは奪われた。

俺はそれを取り返そうとして、デュエルをした…十六夜と…

結果は引き分け、だが、問題は十六夜自身だった。

あの人は噂ではサイコパワーを失ったと聞く。

だが、あの力はサイコパワーそのものだった。

しかも、チーム5D'sの事を聞いても、何も覚えていない。

…当然、遊星の事も。

遊星「…」

幽「偽りはない、真実だ」

遊星「…そうだな…」

アキに変わったところはなかったか？」

幽「…いや、さつき話したところ以外はなかったな」

遊星「……アキ……」

十六夜を心配する遊星。

…さつきから心配しすぎでは？

幽「…そうだ、デイバインってやつは知っているか？」

遊星「…！デイバイン……」

遊星の顔が再び戻る。

…こんな男だったか？

幽「…その男は、十六夜とのデュエル中に、いきなり割って入ってきて……」

遊星「…説明は大丈夫だ」

途中で話をさえぎられる。

遊星「…おそらく、アキはデイバインに操られているんだろう」

幽「…操られる…って、サイコパワーか？」

遊星「おそらくな…、アキはサイコパワーを失い、それに対する抵抗もなくなっている。」

だから、可能性はある」

幽「…成程……」

その時、思い出したように幽は自分のデッキを見た。

幽「…！」

遊星「どうした？」

幽「…神のカードを奪われた…」

そう言うと、立ち上がる。

幽「…すまないが、豪の元に三極神が揃った。

今すぐにでも、昨日調べた廃工場に行きたいんだが」

遊星「…そうか」

だが、そのあと遊星は驚くことを言った。

遊星「気にするな。その件ならばらくは問題ない」

幽「何を言ってるんだ！あのバカオヤジは今すぐにも騒ぎを起こす男なんだ！

早くいかないと…」

遊星「…それは三極神が揃ったらだろうか？」

幽「だから…揃ったって…」

遊星「…安心しろ、本物の三極神はまだ…チーム『ラグナログ』が持っている」

幽「…！だけど…」

遊星「…ここからは俺の推理だが…

おそらく、お前の父親は三極神だけでは、足りないと言ったんだらう」

幽「…足りないって…」

遊星「…それに、所詮は偽物のカード。

本物には届かない」

幽「…じゃあ…」

遊星「…たしかに、奪われたことは問題だが、今の時点でそれを奪い返す必要はない」

幽「…よかった…！」

いい報告だったのだが、ゆうせいはさらに深刻な顔になり、言った。

遊星「…だが、問題はある。

最近、『ラグナログ』のリーダーである『ハラルド』が、ゴースト30体と複数人のD・ホイラーに襲撃され、『極神聖天才

「ーデイン」を奪われる事件があった」

幽「…まさか…」

遊星「…本物の『極神皇トール』と『極神皇ロキ』は他のメンバーが持っているが…」

『極神聖天オーデイン』だけは…奪われた」

幽「…」

遊星「そこで、だ」

何も起きない。

遊星「…クロウ」

未だ、言い合いをしていたクロウに言う。

遊星「…二人への連絡は？」

幽か亮が起きたら連絡してくれと…」

クロウ「…悪い…」

遊星「…ジャックも…、言い合いしないで亮を起こしてくれ」

元キン「…わかった」

電話するクロウ。

「アブソリュート・パワーフォース！」と叫びながら亮に顔面パンチを決める元キング。
ため息をつく遊星。

幽「…そういえば、もう一人…あの水色の髪の男は…？」

遊星「ああ、鬼柳か…」

…今は、サテイスファクシオンタウン満足街に戻って、荷物をまとめている。

…どうやら復興作業は鬼柳なしでも大丈夫らしくてな。手伝つてくれるそうだ」

幽「…そうか…」

遊星「…それじゃあ、お前の弟にも説明をしてくる」

幽「…大変だな…」

そう言って、説明をし始める遊星。

軽く30分が経過した。

扉が開き、そこには3人の男が立っていた。

見間違えるはずがない。彼らは…、『ラグナログ』の3人だ。

遊星「ドラガン、ブレイブ、ハラルド、来てくれてありがとう」

ハ「ああ、一大事らしいな」

遊星「…それはお互い様だ」

遊星「…彼らが、神のコピーカードを使い来ないしていた二人だ」

鮮やかに紹介してくれる遊星。

幽「…黒田幽です…、一応『極神皇ロキ』のコピーを使っています」

亮「弟の亮です、『極神皇トール』のコピーの所持者でした」

そう言うと、ドラガンとブレイブは二人揃って、同じ言葉を口にした。

ド・ブ「こいつらは強いのか？」

当然、遊星に対しての質問。

遊星「ああ、少なくともダミーとはいえ、神のカード所持者だったからな。

腕は保証しよう」

ド「…だが、信用は出来んな」

ブ「全くだ、神の力はそこらのガキに使えるものじゃねえからな」

幽「…俺達には力がないと？」

ブ「そついう事だ、黒田幽」

幽「…流石にそこまで言われると我慢ならんな。」

ド「…では、力を証明するか？」

亮「…そうしてくれ、決めつけられるのは気分が悪い」

ブ「それじゃあ、お前たちの強さを…見せてもらうか？」

幽「…そつだな…、人数的にもタッグデュエルがいいだろう」

険悪な雰囲気なる4人。

それを見かねた遊星が割って入る。

遊星「ドラガン、ブレイブ、来てくれて悪いが、彼らは闇のゲーム戦後でな、少し休ませたいんだ」

黙る二人。だが、納得はしていない。

ハ「二人とも、遊星の言うとおりだ。

元々、今日は様子見の予定だったはずだ」

ブ「…そうだったな」

ド「…悪い、流石に信じられなくてな」

ハ「遊星、今日はこれで失礼する。

…この後は別の大会の予定もあるからな」

遊星「ああ、時間がない中、ありがとう」

出ていくラグナログ。

緊迫した空気が緩む。

遊星「…彼らは、自分の神に誇りを持っている。

流石にダミーがあります、なんて言われて落ち着くことではできないだろうからな」

幽「…そうだな」

亮「…だけど、俺達で勝てたかな？」

幽「…微妙だな…」

うーん、と考えていた二人。

その二人に遊星が言う。

遊星「…勝てないなら、強くなればいい。

…俺の知り合いに丁度良い二人がいる、タッグデュエルを鍛えてもらおうといい」

幽「…大丈夫なのか？」

遊星「ああ、タッグデュエルだと俺達よりも強い」

亮「…その人たちは、今どこに？」

遊星「…おそらく、家だが、今は体を休めることが重要だ。

明日、二人に連絡しよう」

幽「…わかった」

会話が終わる。時計を見ると、14時だった。

遊星「…飯にするか？ジャックが奢ってくれるそうだ」

幽「…そうだな、飯だな」

亮「…そう言えば、腹減ったな」

この会話を聞いていたジャックが叫ぶ。

元キン「M A T T E ! 遊星、俺には金がないんだぞ！」

遊星「問題ない、ジャックには大量のカップラーメンがある」

元キン「M A T T E ! 俺のカップラーメンに手を出すつもりか！」

遊星「…客人にはもてなすのがキングじゃないのか？」

遊星が『キング』というと、急に機嫌がよくなる元キング。

どうやら、彼は遊星にキングと言われると機嫌がよくなるらしい。

…他の人だと「俺はキングではない！」と怒られるが。

(注：これはオリジナルです、実際は知らない)

元キン「その通りだったな！さあ、たつぷりと食うがいい!!」

ドン！と出される『ピリ辛レッドデーミンズヌードルハバネ口味』。

…どこにこれがあったんだ？

遊星「久しぶりのまともな食事だ。たつぷりと食べようじゃないか」

幽(…どうい生活してるんだ？)

この人たち、デュエルでも私生活でもすごいな…)

気になりつつ、カップラーメンを食べる幽・亮であった。

次の日の昼

クロウ「ああ…、それじゃあ、今から来るんだな？」

…それじゃあ、あとでな」

電話を切るクロウ。

クロウ「今から来るそうだけ」

遊星「…だ、そうだ」

幽「…わかった」

亮「…りょーかいです」

二人揃って、デッキ改良中。

しばらくして、ドアが開く。

龍亞「遊星　！来たよー！」

龍可「遊星、こんにちはー」

遊星「きたか、龍亞、龍可」

来たのは、水色の髪の少年少女。
似ているため、双子に見える。

遊星「幽、亮、彼らは龍亞と龍可。今日のタッグデュエルの相手だ」

龍亞「よろしくー！」

龍可「よろしくお願いします」

幽「…ああ、よろしく…」

亮「…」

龍可「あ、子供だってバカにしたでしょ」

龍亞「そんな甘いこと言ってる後悔するぞ！」

幽「…そういうわけではないが…」

どっかで見えたことある気がしてな

亮「そうだったよね、どこだったっけ…」

すると遊星が口を開く。

遊星「これだな、『デュエルアカデミアネオドミノ校小等部の双子
がタッグデュエルトーナメント優勝』って書かれた記事に二人の写
真があるからな」

幽「…まさか、こんな有名人だったとは…」

亮「たしかに、子供だからって甘く見ると後悔するな」

龍亞「よし！やる気出たならさっそくデュエルしようよ！」

幽「…わかった、外へ行こう」

そう言つて、外に出る4人と遊星。

…ジャックとクロウは相変わらず口喧嘩ばかり。

龍亞「じゃあ、行くよ！」

龍可「よろしくお願いします！」

幽「…手加減はしないぞ」

亮「よっしゃ、行くぞ！」

亞・可・幽・亮「……デュエル……！」

注：ターン順は亞 幽 可 亮です。ルールはタッグフォーエクスを採
用します。

ターンプレイヤーには マークをつけます。

亞 手札5 デッキ35 可 手札5 デッキ35

幽 手札5 デッキ35 亮 手札5 デッキ35

亞「先攻は俺だ！ドロー！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

亞「俺は『D・モバホン』を召喚！」手札6 - 5

幽「…【D】か…」
ダイフオーマー

亞「攻撃表示の『D・モバホン』は1ターンに一度、ダイヤルの指定した数字の数だけデッキからカードをめくり、その中の【D】1体を特殊召喚できる！」

出た数字は5。

亞「よし！デッキから5枚めくる！」

幽「…『D・マグネンU』を守備表示で特殊召喚し、他のカードはデッキに戻す！」デッキ34 - 33

幽「…『D・マグネンU』は守備表示の時に攻撃対象を自分のみにするカード…」

亞「そうだよ！これで攻撃力100の『D・モバホン』は攻撃できない！」

カードをセットして、ターンエンド！」

1ターン

亞 手札4 デッキ33 可 手札5 デッキ35 LP8
000

モバホン(A) マグネンU(D) セット
幽 手札5 デッキ35 亮 手札5 デッキ35 LP8
000

無し

幽「…俺のターン！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

幽「…その程度で攻撃を封じることができないぞ！

俺は『シールドクラッシュ』を発動！相手の守備表示モンスター1体を破壊する！この効果で俺は『D・マグネンU』を破壊！」

手札6 - 5

亞「うわっ！『D・マグネンU』が破壊された！」

幽「『終末の騎士』を召喚！その効果で俺はデッキより闇属性モンスター『レベルスティーラー』を墓地へ送る！」手札5 - 4

デッキ34 - 33

幽「バトル！『終末の騎士』で『D・モバホン』に攻撃！ 暗

黒の一閃！」

亞「甘いよ！トラップ発動『ディフォーム』！『D・モバホン』を守備表示にして、攻撃を無効にする！」

幽「…くっ、止められたか…ターンエンドだ」

2ターン

亞 手札4 デッキ33 可 手札5 デッキ35 LP8

000

モバホン(D)

幽 手札4 デッキ33 亮 手札5 デッキ35 LP8

000

末騎士(A)

可「私のターン、ドロ！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

可「…私は『エレキリン』を召喚します」手札6 - 5
幽「…ダイレクトアタックモンスターか…」

可「さらに私は『エレキユア』を発動します。雷族モンスターが戦闘ダメージを与えたとき、その数値だけ私のLPを回復します

バトルです！『エレキリン』でダイレクトアタック！ ラ

イトニング・ネック！」手札5 - 4

キリンATK1200 VS 直接

幽「…ちっ…」LP8000 - 6800

可「私は『エレキユア』の効果で1200のLPを回復します」LP8000 - 9200

遊星（…来たか、流可のコンボ…

ロックをしつつ、相手のLPを削り、自分のLPを回復する…

おそらく、メインフェイズ2には…）

可「私は『平和の使者』を発動します！この効果で攻撃力1500以上のモンスターの攻撃を封じます！」手札4 - 3

幽「くっ…！」

可「カードを1枚セットして、ターンエンドです！」

3ターン

亜 手札4 デッキ33 可 手札2 デッキ34 LP9
200

モバホン(D) キリン(A) セット エレキユア 平和

幽 手札4 デッキ33 亮 手札5 デッキ35 LP6

800

末騎士（A）

幽「…亮のデッキには攻撃力1500以下のモンスターは…ある程度いる…なんとかなるはずだ…」

亮「すごいロックだな…ドロー！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

亮「現れる！『プロト・サイバー・ドラゴン』！」手札6 - 5

亞「うわっ、攻撃力1100かー、『平和の使者』にかからないじゃないか」

亮「行くぞ！『終末の騎士』で『エレキリン』に攻撃！ 漆黒の一閃！」

可「トラップ発動！『ドレインシールド』！相手の攻撃を無効にして、その攻撃力の数値だけLPを回復するわ！」LP9200 - 10600

亮「…なら、『プロト・サイバー・ドラゴン』で『D・モバホン』に攻撃！ プロト・エヴォリユーション・バースト！」

プロトATK1100 VS モバホンDEF100

可「ごめん、流亞…っ」

亞「気にするな！大丈夫だって」

亮「…カードをセットして、ターンエンドだ」

4ターン

亞「手札4 デッキ33 可「手札2 デッキ34 LP1
0600

麒麟(A) エレキユア 平和

幽「手札4 デッキ33 亮「手札4 デッキ34 LP6

800

末騎士(A) プロト(A) セット

亞「よっしゃ！俺のターンだ！」手札4 - 5 デッキ33 - 32

可「このスタンバイフェイズ、私の発動した『平和の使者』の維持コスト、LP100を払う必要があるわ。

流亞、払うかどうか選択して」

亞「払うにきまつてるよ！俺はLP100を維持コストとして支払う！」LP10600 - 10500

344

亞「俺は『ジャンクBOX』を発動！墓地のレベル4以下の【D】1体を特殊召喚する！戻ってこい、『D・モバホン』！」手札5 - 4
幽「…また、そいつか…」

亞「俺は『D・モバホン』の効果で再びダイヤルの数字分カードをめくり、その中の【D】1体を特殊召喚する！」

再び『D・モバホン』がダイヤルの数字を選択する。

出た数字は2・

亞「うーん、2か…居るかなー。

…やった！俺は『D・ボードン』を攻撃表示で特殊召喚！」デッキ
32 - 31

幽「ちっ…またダイレクトアタックモンスターかよ…」

亞「まだだ！俺は『D・ラジオン』を召喚！」

このモンスターの攻撃表示の時の効果は俺の場の【D】すべての攻撃力を800アップさせる！」手札4-3

ポードン ATK 500 - 1300 モバホン ATK 1000 - 900
ラジオン ATK 1000 - 1800

亮「ぐ…、『平和の使者』をギリギリですり抜けるモンスターが多いな…！」

亞「行くよ！『エレキリン』でダイレクトアタック！ ライト
ニング・ネック…！」

亮「ちつ…俺は『アタック・リフレクター・ユニット』を『サイバ
ー・ドラゴン』となった『プロト・サイバー・ドラゴン』をリリー
スして発動！デッキか手札より『サイバー・バリア・ドラゴン』を
特殊召喚する！」デッキ34-33（デッキより特殊召喚）

亞「うわっ…、だけど、巻き戻しが起きても攻撃対象は変わらない
よ！『エレキリン』でダイレクトアタックだ！」

亮「だが、『サイバー・バリア・ドラゴン』は最初の攻撃宣言を防
ぐ！」

亞「…！じゃあ『D・モバホン』で『サイバー・バリア・ドラゴン』
に攻撃だ！ ダイヤル・クラッシュ…！」

モバホン ATK 900 VS バリアD ATK 800

亮「…くっ」LP 6800 - 6700

亞「最後に『D・ポードン』でダイレクトアタックだ！ 口ー
ラー・タックル…！」

ポードン ATK 1300 VS 直接

亮「ぐあ…っ！」LP6700 - 5400

亞「へっへー！どうだー！」

俺はカードを1枚セットして、ターンエンドだ！」

亮「だが、エンドフェイズに『ジャンクBOX』で蘇生した『D・モバホン』は破壊される！」

亞「わかってるよ！でも、攻撃力900の『D・モバホン』を残しておくのも危険だし、むしろ好都合だよ！」

5ターン

亞 手札2 デッキ31 可 手札2 デッキ34 LP1
0500

麒麟(A) ラジオン(A) ボードン(A) エレキユア 平
和 セット

幽 手札4 デッキ33 亮 手札4 デッキ33 LP5
400

末騎士(A)

幽「ちっ…、すごいチームワークだな…」

亮「予想外だよな…俺達も頑張らないと…」

亞「俺たちが子供だからって甘く見ると痛い目見るぞ！」

可「そうですね！本気で来てください！」

亮「わかってるよ、はじめっから本気だよ」

幽「…行くぞ！俺のターンだ！」手札4 - 5 デッキ33 - 32

第12話
E
N
D

第12話 戦いのための戦い（後書き）

ド「…あの二人どう思う？」

ブ「さあな、でも特訓中らしいぞ。」

チーム5D'sの双子と

ド「…そうか、楽しみだな」

ブ「あの双子に勝てたら、俺達の出番かな」

ド「そうだな、俺達も気を抜いてられんな」

ハ「…楽しく話しているところ悪いが、次回予告だ」

ド「おっと、そうだったな。」

次回、遊戯王第13話『双子の強さ』だ！

ハ「最強の双子に挑む黒田兄弟…、その決着がつく！」

ブ「キーカードは『パワー・ツール・ドラゴン』、『ライフ・ストリ

ーム・ドラゴン』、『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』の3体

だ！次回のトリックキーなデュエルを期待していてくれ！」

第13話 双子の強さ（前書き）

・・・次回のデュエルから考えていません。

ちよつと更新をオヤスミして、デュエルの原稿を作りたいと思います。

読んでくださる皆様、ぜひとも応援よろしく願います。

第13話 双子の強さ

5ターン

亞 手札2 デッキ31 可 手札2 デッキ34 LP1

0500

麒麟(A) ラジオン(A) ボードン(A) エレキユア 平

和 セット

幽 手札4 デッキ33 亮 手札4 デッキ33 LP5

400

末騎士(A)

幽「行くぞ、俺のターンだ！」手札4 - 5 デッキ33 - 32

幽「まずはそのロックを崩させてもらおう！『ハリケーン』を発動！手札5 - 4

亞「えっ？」

幽「その効果でフィールド上の魔法・罠カードをすべて手札に戻す！」

亞「くそーっ！だけど次のターンでまたロックすれば…！」手札2 - 5

幽「それをさせる気はない。」

手札より『手札抹殺』を発動！互いの手札をすべて捨て、お互いに同じ枚数分ドロする！」手札4 - 3

亞「な…、ロックパーツを捨てさせられた…！」

幽 デッキ32 - 29 亞 デッキ31 - 26

幽「…行くぞ、バトルフェイズだ！『終末の騎士』で『エレキリン』に攻撃！ 暗黒の一閃！」

末騎士 ATK1400 VS キリン ATK1200

亞「うわあっ…！」 LP10500 - 10300

幽「モンスターを裏側守備表示で召喚、カードを2枚セットして、ターンエンド」

6ターン

亞 手札5 デッキ26 可 手札2 デッキ34 LP1

0300

ラジオン(A) ボードン(A)

幽 手札0 デッキ29 亮 手札4 デッキ33 LP5

400

末騎士(A) 裏守 セット2

可「私のターン！」手札2 - 3 デッキ34 - 33

可「私は『サンライト・ユニコーン』を召喚！」

『サンライト・ユニコーン』は私のメインフェイズに一度、デッキの一番上のカードをめくり、そのカードが装備カードだった場合、私の手札に加える！」手札3 - 4

カードをめくる龍可。

可「装備魔法、『光の角』よ！よって、手札に加えるわ！」手札2
- 3 デッキ33 - 32

幽「…運がいいな」

可「行くわよ！『サンライト・ユニコーン』で」

幽「『威嚇する咆哮』！このターンの攻撃宣言を封じる！」
可「くっ…、」

私は『D・ラジオン』と『D・ボードン』を守備表示に変更。

『D・ラジオン』の守備表示の効果は、場の【D】の守備力を1000ポイントアップさせ、『D・ボードン』は【D】に戦闘破壊耐性を持たせるわ！

これで私はターンエンド！」

7ターン

亜 手札5 デッキ26 可 手札3 デッキ32 LP1

0300

ラジオン(D) ボードン(D) ユニコーン(A)

幽 手札0 デッキ29 亮 手札4 デッキ33 LP5

400

末騎士(A) 裏守 セット

亮「一気に攻める！俺のターンだ！」手札4 - 5 デッキ33 - 32

亮「『魔導雑貨商人』を反転召喚する！」

そして『魔導雑貨商人』のリバー効果発動、デッキから魔法・罫カードが出るまでめぐり、そのカードを手札に加え、それ以外を墓地へ送る」

これまたカードをめくる亮。

亮「…デツキの上から順に『サイバー・ダーク・エッジ』『魔導雑貨商人』『サイバー・レーザー・ドラゴン』『サイバー・ダーク・ホーン』『融合呪印生物 光』『ネクロ・ガードナー』『サイバー・ダーク・キール』『ダークゾーン』
俺は7体のモンスターを墓地へ送り、『ダークゾーン』を手札に加える！」手札5 - 6
デツキ32 - 24
可「閻属性専用のフィールド魔法ね…」

亮「さらに俺は手札より『サイバーダーク・インパクト！』を発動！手札・フィールド・墓地より『サイバー・ダーク・エッジ』『サイバー・ダーク・キール』『サイバー・ダーク・ホーン』をデツキに戻し、『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』を融合召喚する！」手札6 - 5 デツキ24 - 27

亮「暗黒に染まったサイバー流よ、その元凶の力を今こそ示せ！

融合召喚！ 対をなす切り札！『鎧黒竜 サイバー・ダーク・

ドラゴン』！！！！

『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』の攻撃力は俺の墓地のモンスターの数×100ポイントアップする！

墓地のモンスターは『魔導雑貨商人』で墓地へ送ったモンスター4体の他に『レベルステイラー』『プロト・サイバー・ドラゴン』『サイバー・バリア・ドラゴン』、幽兄の『手札抹殺』で『ユベル』『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』『魔導雑貨商人』の合計10体がいる！よって攻撃力は20000！」
サイバー・ダーク・ドラゴン ATK10000 - 20000

亞「すっげーモンスターが出てきたと思ったら所詮攻撃力20000かよ！

そんなモンスターじゃ逆転なんてできないぜ！」

亮「安心しな、龍亞。期待は裏切らないぜ。」

『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』は融合召喚時、墓地のドラゴン族モンスターを装備し、その攻撃力を得る！『究極宝玉 神レインボー・ダーク・ドラゴン』を装備し、その攻撃力である4000を得る！」

サイバー・ダーク・ドラゴン ATK2000 - 5900

亞「攻撃力5900だつて!？」

亮「まだまだ!『ダークゾーン』発動!場の闇属性モンスターの攻撃力を500上昇、守備力を400低下させる!」手札5 - 4

サイバー・ダーク・ドラゴン ATK5900 - 6400 末騎士 ATK1400 - 1900

亮「この程度じゃ終わらない!『レベルステイラー』の効果!『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』のレベルを1下げて、自身を特殊召喚する!

そしてチューナーモンスター『極星獣グルファクシ』を召喚! レベル1『レベルステイラー』・『魔導雑貨商人』、レベル4『終末の騎士』にレベル4の『極星獣グルファクシ』をチューニング!!

光に対する殺戮兵器よ、決戦の時はきた!絶対的な力を駆使して敵の首謀者を叩き潰せ!シンクロ召喚! 無に帰せ!『A・O・Jディサイシブ・アームズ』!!!!

シンクロ召喚によって墓地のモンスターが3体増加したため『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』の攻撃力を300ポイントアップ!」手札4 - 3

サイバー・ダーク・ドラゴン ATK6400 - 6700 LV8 - 7

亮「バトルだ！『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』で『サン
ライト・ユニコーン』に攻撃！！ フル・ダークネス・バ
アアアアストオオオオオオオオ！！！！」
サイバー・ダーク・ドラゴン ATK 6700 VS ユニコーン A
TK 1800

可「いやあああああつ！！」 LP 10300 - 5500
亞「貴様！よくも龍可をー！」

亮「…手加減は無しと言ったからな。大人げないかもしれないが…。
カードをセットして、ターンエンドだ！」

8ターン

亞 手札 5 デッキ 26 可 手札 3 デッキ 32 LP 5
500

ラジオン(D) ボードン(D)
幽 手札 0 デッキ 29 亮 手札 2 デッキ 27 LP 5
400

アームズ(A) サイバー・ダーク・ドラゴン(A:6700) +
レインボー・ダーク セット 2
Fダークゾーン

亞「龍可、大丈夫！？」

可「うん、平気よ。気にしないで」

亞「よかったー」

亞「行くぞ、龍可の敵だ！俺のターン！」手札 5 - 6 デッキ 26

可「…龍亞…、私、生きてるから…」

亞「俺は『D・ラジカツセン』を召喚！」

攻撃表示の『D・ラジカツセン』は2回攻撃ができる！」手札
6 - 5

亮「攻撃力は所詮1200だ。その程度ではこのモンスター達は倒
せない！」

亞「倒す必要はないぜ！俺は『D・ラジオン』と『D・ボードン』
を攻撃表示に変更！」

これですべての【D】の攻撃力が800アップして、ダイレク
トアタックができるようになる！」

ラジオン ATK1000 - 1800 ボードン ATK500 - 13
00 ラジカツセン ATK1200 - 2000

亮「な…」

亞「これで全モンスターのダイレクトアタックの合計攻撃力は71
00！俺の勝ちだ！」

『D・ラジカツセン』でダイレクトアタック！ サウンド・
バースト！！」

亮「ぐ…っ…！」

幽「…亮、リバーズカードだ！」

亮「…！そうか…。」

俺は幽兄が伏せた『魔法の筒』を発動！戦闘を無効にし、相手にそ
の攻撃力分のダメージを与える！」

亞「うわああああっ！」LP5500 - 3500
可「龍亞っ！」

亮「…助かったよ、幽兄…」

幽「…大丈夫だ、気にするな」

亞「くっ…だけど、『D・ラジカッセン』は2回の攻撃ができる！
もう一度ダイレクトアタックだ！ サウンド・セカンド・
バースト！」

亮「墓地の『ネクロ・ガードナー』の効果！このカードをゲームから除外し、相手の攻撃を一度だけ無効にする！」

亞「げっ…、墓地からのモンスター効果か…！」

ならば『D・ラジオン』でダイレクトアタックだ！ イヤ
ホーン・シユート！」

ラジオンATK1800 VS 直接

亮「ぐあ…っ！」 LP5400 - 3600

亞「…そして俺は『D・ボードン』で『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』に攻撃！
ローラー・タックル！」

亮「な…攻撃力の差は5400だぞ！魔法・畏カードで埋められるものじゃない！」

亞「…だけど、その強力モンスターの最大の弱点は守備力が低いことだ！『月の書』を発動！」手札5 - 4

亮「な…っ！」

亞「俺は『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』を裏側守備表示にする！」

この時装備された『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』は装備対象を失い、破壊される！」

亮「くっ…『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』の守備力は『ダークゾーン』によりわずか600…！」

ボードンATK1300 VS サイバー・ダーク・ドラゴンDE
F600

亞「よっしゃー！『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』を倒したぜ！

俺はカードを2枚セットして、ターンエンドだ！」

9ターン

亞 手札2 デッキ25 可 手札3 デッキ32 LP3
500

ラジオン(A) ボードン(A) ラジカッセン(A) セット2

幽 手札0 デッキ29 亮 手札2 デッキ27 LP3

600

アームズ(A)

Fダークゾーン

幽「…流石だな」

亞「へっへー！そうでしょ！俺たちは子供だけど、タッグデュエルならだれにも負けないよ！」

可「龍亞…、調子に乗りすぎよ…」

亞「別にいいじゃん！」

幽「…さて、俺のターンだ！」手札0 - 1 デッキ29 - 28

幽「俺は『A・O・Jディサインプ・アームズ』の効果を発動！相手フィールド上に光属性モンスターが存在するとき、手札1枚

『ダーク・パースィアス』をコストに、相手フィールド上の魔法・

罨カードすべてを破壊する！」手札1 - 0

亞「うわっ！そんな効果があったのか！『ディフォーム』と『次元

幽閉』が破壊された！」

幽「…やっぱり攻撃反応系だったか…」

俺は『レベルステイラー』の効果を発動！『A・O・Jデイスイシブ・アームズ』のレベルを1つ下げ、攻撃表示で特殊召喚！
アームズLv10-9

幽「バトルだ！『A・O・Jデイスイシブ・アームズ』で『D・ラジオン』に攻撃！
アルティメット・ライト・バースト！」
アームズATK3800 VS ラジオンATK1800

亞「うわあああああつ！」LP3500-1500

幽「『D・ラジオン』がフィールド上から消えたことにより、『D・ラジカッセン』と『D・ボードン』の攻撃力は元に戻る！」

ラジカッセンATK2000-1200 ボードンATK1300
-500

幽「『レベルステイラー』で『D・ボードン』に攻撃！
ス
タータツクル！」

ステイラーATK1100 VS ボードンATK500
亞「く…っ」LP1500-900

幽「…これで俺のターンは終了だ」

10ターン

亞 手札2 デッキ25 可 手札3 デッキ32 LP9
00

ラジカッセン(A)

幽 手札0 デッキ28 亮 手札2 デッキ27 LP3

600

アームズ(A) スタイラー(A)
Fダークゾーン

亞「ごめん…龍可…、かなり厳しい状況になっちゃった…」

可「大丈夫、私はなんとかする。」

私のターン！」手札3 - 4 デッキ32 - 31

可「…あなたたちなら…、私も思いつきり戦えます。」

行きます！私の全力で！」

亮「…何か仕掛けてくるのか…？」

可「手札より『ダンディライオン』をコストに『ワン・フォー・ワン』を発動！デッキか手札よりレベル1モンスター 『サニー・ピクシー』を特殊召喚します！」手札4 - 2 デッキ31 - 30

幽「…チューナーか…、しかも『ダンディライオン』は…」

可「『ダンディライオン』の効果は、墓地へ送られたとき2つの綿毛(綿毛トークン 植物族・風・攻/守0)を残します！」

亞「合計レベル7のシンクロ召喚だ！」

遊星「レベル7…、やるんだな、龍可…」

可「私はレベル1の綿毛トークン2体とレベル4の『D・ラジカッセン』にレベル1『サニー・ピクシー』をチューニング！」

聖なる守護の光、今交わりて永久の命となる！シンクロ召喚！

降誕せよ！『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』！！」

幽「…『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』…、シグナーの竜…！」

亮「これがシグナーの竜か…、初めて見たな…」

可「私はシンクロ素材として墓地へ送られた『サニー・ピクシー』の効果を発動！光属性のシンクロモンスターとして墓地へ送られたとき、私のLPを1000回復！

さらに『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』の効果！1ターンに一度、フィールド魔法を破壊し、LPを1000回復できる！

ブレイン・バツク！」LP900 - 1900 - 2900

幽「ぐっ…一気にLPを2000も回復したか…」

亮「…流石というべき…かな」

可「さらに破壊に成功したとき、デッキよりフィールド魔法カード1枚を手札に加える！ 『聖域の歌声』を手札に加える！

そして『ダークゾーン』が消えたことにより、あなたのフィールド上の闇属性のモンスターの攻撃力は500ポイントダウン！」手札

2 - 3 デッキ30 - 29

アームズATK3800 - 3300 スタイラーATK1100

- 600

可「そして私はフィールド魔法『聖域の歌声』を発動！そして装備魔法『光の角』を『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』に装備！

『聖域の歌声』はフィールド上の守備モンスターの守備力を500アップさせ、『光の角』は装備モンスターの守備力を800ポイントアップさせる！」

幽「くそっ…、これで『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』の守備力は…！」

エンシエントフェアリーDEF3000 - 4300

可「最後にリバーズカードを1枚セットして、ターンエンド！」

11ターン
亞 手札2 デッキ25 可 手札1 デッキ29 LP2
900
エンシエントフェアリー(D) + 光の角 セット
幽 手札0 デッキ28 亮 手札2 デッキ27 LP3
600
アームズ(A) スタイラー(A)
F 聖域

亮「行くぜ！俺のターン！」手札2 - 3 デッキ27 - 26

可「『サンダー・ブレイク』を発動します！手札1枚を捨て、『A・O・J』ディサインプ・アームズ』を破壊します！」手札1 - 0
亮「…えげつねえ…」

亮（…さて、予定が狂った…）。

俺の手札にはまともなモンスターがない…。

…『サイバー・エンド・ドラゴン』さえ出せれば…、って今言ってもダメか…）

亮「とりあえず…布石だけでも出すか…手札より『死者蘇生』を発動！墓地に存在するモンスター1体を蘇生！ 蘇れ！『プロト・サイバー・ドラゴン』！」手札3 - 2

幽「…亮…？」

亮「…悪い、幽兄…」。

今の手札じゃ布石を打っておくことしかできないんだ」

幽「…そうか…」

亮「…俺は『リビングゲットの呼び声』を発動する！」

墓地に存在する『融合呪印生物 光』を特殊召喚する！」

可「『融合呪印生物 光』…?」

亮「このモンスターはあらゆる融合モンスターの素材となれ、このモンスターを含む融合素材モンスターをリリースして、『融合』のカードなしで融合召喚ができる！」

亞「嘘だろー! 『融合』のカードなしで上級モンスターを呼べるなんて…!」

亮「…俺は『融合呪印生物 光』を『サイバー・ドラゴン』をして扱い、同じく『サイバー・ドラゴン』扱いの『プロト・サイバー・ドラゴン』と共にリリース！」

サイバー流の力、ここに垣間見せる! 2つの口より放たれる咆哮で敵を粉碎せよ! 融合召喚! 最強への布石! 『サイバー・ツイン・ドラゴン』!」

亮「…悪手かもしれない…、でもあの守護神を倒すためには…『サイバー・エンド・ドラゴン』を…!」

亮「…モンスターをセット! 『レベルスティーラー』を守備表示に変更して、ターンエンド!」

12ターン

亞 手札2 デッキ25 可 手札0 デッキ29 LP2

900

エンシエントフェアリー(D)+光の角

幽 手札0 デッキ28 亮 手札0 デッキ26 LP3

600

ステイラー(D) サイバーツイン(A) 裏守 リビング
F聖域

亞「つくぜー！俺のターンだ！」手札2-3 デッキ25-24

亞「…龍可だけに頑張らせるわけには行かないな！兄として、俺も全力を出すぜ！」

『D・チャツカン』を召喚！」手札3-2

幽「攻撃力1200のモンスター…、今さら何を…？」

亞「龍可が残してくれた力を借りる！俺は龍可が『サンダー・ブレイク』で墓地へ送った『スポーア』の効果を発動！」

亮「…！こんな都合よくカードが来るなんて…！」

亞「『スポーア』はデュエル中に一度だけ墓地の植物族1体を除外して特殊召喚ができる！その時、『スポーア』のレベルは除外した植物族のレベルだけアップする！」

俺は『ダンディライオン』を除外して『スポーア』をレベル4として特殊召喚！」

スポーアLv1-4

幽「合計レベル7…！まさか…！」

亞「行くぜ！レベル3『D・チャツカン』にレベル4となった『スポーア』をチューニング！」

世界の平和を守るため、勇気と力をドッキング！シンクロ召喚！
愛と正義の使者、『パワー・ツール・ドラゴン』…！」

幽「ちつ…、シンクロモンスターが2体…！非常にまずい状況だな…」

亞「『パワー・ツール・ドラゴン』の効果、パワーサーチを発動する！1ターンに一度、装備魔法3枚をデッキから選択し、相手に見せる。そして、その中からランダムで1枚選択し、手札に加える！

俺が見せるのは…『ダブルツールD&C』3枚だ！」

亮「ちょ…、つてことは…」

亞「そう！俺は必ず『ダブルツールD&C』を手札に加える！」手札2 - 3 デッキ24 - 23

亮「ぐつ…装備魔法で攻撃力を強化してくるつもりかよ…」

亞「まだまだ！『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』の効果！1ターンに一度、フィールド魔法を破壊！LP1000を回復し、デッキより『ガイヤパワー』を手札に加える！ プレイン・バツ

ク！」手札3 - 4 デッキ23 - 22 LP2900 - 3900

亮「サーチばかり…、本当にうらやましい限りだ…」

亞「仕方ないだろ！そういうデッキなんだから！

俺は手札に加えた『ガイヤパワー』と『ダブルツールD&C』を発動！

『ガイヤパワー』は場の地属性モンスターの攻撃力を500ポイントアップさせ、守備力を400ポイントダウンさせる！そして『ダブルツールD&C』は俺のターンの場合、装備モンスターの攻撃力を1000ポイントアップさせ、攻撃したときに相手モンスターの効果を無効にするんだ！」手札4 - 2

パワーツール ATK2300 - 2800 - 3800

亮「…厄介な効果を…！」

亞「バトル！『パワー・ツール・ドラゴン』で『サイバー・ツイン・ドラゴン』に攻撃！ クラフティ・ブレイク！！」
パワーツール ATK 3800 VS サイバーツイン ATK 2800

亮「しま…つた…っ！『サイバー・ツイン・ドラゴン』が…！」
P 3600 - 2600

亞「これで俺のターンは終了だよ！」

13ターン

亞 手札2 デッキ22 可 手札0 デッキ29 LP3

900

エンシエントフェアリー(D) + 光の角 パワーツール(A) + D
& C

幽 手札0 デッキ28 亮 手札0 デッキ26 LP2

600

ステイラー(D) 裏守 リビング
Fガイヤパワー

亮「く…くそっ…」

幽「…亮、焦るな」

亮「幽兄…！」

幽「…これは俺たち兄弟の戦いだ。俺も一緒に戦わせる。

…お前だけで背負おうとするな…」

亮「幽兄…」

…ごめん、そうだったな」

幽「…それじゃあ、次のお前のターンにつなげるために…」

行くぜ！俺のターンだ！」手札0 - 1 デッキ28 - 27

幽「…お前の力、借りるぜ！俺は亮が伏せた『メタモルポット』を
反転召喚！

この効果で互いに手札をすべて捨て、デッキから5枚をドロ
ーする！」

幽 手札1 - 5 デッキ27 - 22 亞 手札2 - 5 デッキ2
2 - 17

幽「そして、俺は『バイス・バーサーカー』を召喚！」手札5 - 4

遊星「『バイス・バーサーカー』か…、あのモンスターはシンクロ
召喚したとき2000のダメージを受けるが、シンクロモンスター
の攻撃力を2000も上昇させる強力モンスターだ。

…だが幽の場にはチューナーモンスターはいない…」

幽「…俺は『メタモルポット』で墓地へ送った『ゾンビキャリア』
の効果を使う！

カード1枚をデッキトップに戻し、このカードを自己再生させ
る！」手札4 - 3 デッキ22 - 23

亞「げっ…一気にチューナーモンスターまで特殊召喚してきた…」
可「合計レベルは…色々あるわね、レベル5・6・7・8・9とシ
ンクロ召喚出来るわ」

亮（幽兄…、何をシンクロ召喚するつもりだ…？）

幽「俺はレベル2『メタモルポット』・レベル4『バイス・バーサーカー』の2体にレベル2『ゾンビキャリア』をチューニング！」

光を見る者よ！僅かな光すら探し出し、すべての光を吸収せよ！シンクロ召喚！
光の観察者、『A・O・Jライト・ゲイザー』！

俺は『バイス・バーサーカー』のモンスター効果で2000をダメージを受け、『A・O・Jライト・ゲイザー』の攻撃力を2000ポイントアップさせる！

さらに『A・O・Jライト・ゲイザー』は相手の墓地の光属性1体につき、200ポイントの攻撃力を得る！」LP2600-600

亞「嘘っ！？俺たちの墓地の光属性は『エレキリン』『D・ラジオン』『サンライト・ユニコーン』『サニー・ピクシー』の4体が…！」

幽「ならば、『A・O・Jライト・ゲイザー』の攻撃力はさらに800ポイントアップだ！」

ライト・ゲイザー ATK2400 - 4400 - 5200

亞「く…攻撃力が5200だって…！」

幽「…行くぞ！『A・O・Jライト・ゲイザー』で『パワー・ツール・ドラゴン』に攻撃！！
ライトニング・レーザー！！」
ライト・ゲイザー ATK5200 VS パワーツール ATK2800

亞「だけど、『パワー・ツール・ドラゴン』は装備された装備魔法を墓地へ送ることで破壊を無効にする！」

幽「だが、ダメージは受けてもらう」

亞「うわああああああっ！」LP3900 - 1300

幽「俺はカードを3枚セットして、ターンエンドだ」

ライト・ゲイザー ATK5400 - 3400

14ターン

亞 手札5 デッキ17 可 手札0 デッキ29 LP1

300

エンシエントフェアリー(D) + 光の角 パワーツール(A)

幽 手札0 デッキ23 亮 手札0 デッキ26 LP6

00

ステイラー(D) ライト・ゲイザー(A:3200) セット

3 リビング

Fガイヤパワー

幽(…勝てそうだ…)

だが、俺のデッキトップのカードは…『魔法ディアボロス』…

次のターンが回ってきててもほぼ腐るだけだろう…

…次のターンで亮に決めてもらわないと…！)

可「行くわよ！私のターン！」手札0 - 1 デッキ29 - 28

可(龍亞…、この状況は…)

本来なら『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』の効果で『

ガイヤパワー』を破壊し、『聖域の歌声』をサーチするけど…

…相手を倒すために…、ここはこのまま耐える…！)

可「私は『パワー・ツール・ドラゴン』の効果を使うわ！
ワーサーチ！

私は選択するのは『光の角』、『一角獣のホーン』、『レアゴールド・アーマー』の3枚を選択し このカードを手札に加えるわ！」手札1 - 2 デッキ28 - 27

幽「…何を…手札に加えた…」

可「私は装備魔法『レアゴールド・アーマー』を『エンジエント・フェアリー・ドラゴン』に装備！これであなたたちは『エンジエント・フェアリー・ドラゴン』以外攻撃できない！」

幽「ちつ…、厄介な効果だ…、そのカードを手札に加えていたか…」
可「さらに私はカードを1枚セットして、『パワー・ツール・ドラゴン』を守備表示に変更して、ターンエンド！」

15ターン

亜 手札5 デッキ17 可 手札0 デッキ27 LP1

300

エンジエントフェアリー(D) + 光の角・レアゴールド パワーツール(D) セット

幽 手札0 デッキ23 亮 手札0 デッキ26 LP6

00 スタイラー(D) ライト・ゲイザー(A:3200) セット

3 リビング

Fガイヤパワー

亮「行くぞ、俺のターン！」手札0 - 1 デッキ26 - 25

亮（…このリバーズカードは…！

幽兄は確実にあのカードの召喚を狙っている…

ならば…、俺がここでできることは…）

亮「バトル！『A・O・Jライト・ゲイザー』で『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』に攻撃！ ライトニング・レーザー！」
可「『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』の守備力は3800なのに、攻撃してきた！？」

亮「俺は自分の攻撃宣言と発動トリガーとする『ストライク・シヨット』を発動させる！

このカードは俺のモンスターの攻撃宣言時、そのモンスターの攻撃力を700ポイントアップさせ、さらに貫通効果を与える！」

ライト・ゲイザー ATK3200 - 3900

可「嘘…、『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』の守備力を上回った…！」

ライト・ゲイザー ATK3900 VS エンシエントフェアリー
DEF3800

可「くっ…、『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』が…！」

P1300 - 1200

亮（今の俺にできることは…）

亮「『マジック・プランター』を発動！『リビングデットの呼び声』

を墓地へ送り、2枚ドロー！」手札1 - 2 デッキ25 - 23

亞「げっ…、一気に手札を増やした…！」

亮「…俺は…、カードを1枚セットして…ターンエンドだ」

16ターン

亞 手札5 デッキ17 可 手札0 デッキ27 LP1

200

パワーツール(D) セット

幽 手札0 デッキ23 亮 手札1 デッキ23 LP6

00

ステイラー(D) ライト・ゲイザー(A:3400) セット3

Fガイヤパワー

亞(ここでリバースカード…、おそらく攻撃反応系…また『魔法の筒』とか言っんじゃないだろうな…

…ここは…)

亞「…俺のターン！」手札5 - 6 デッキ17 - 16

亞「『パワー・ツール・ドラゴン』の効果！ パワーサーチ！

俺がデッキより選択するのは『魔道師の力』2枚と『デーモンの斧』だ！」

亮「…狙いは『魔道師の力』…かな？」

亞「…そしてこの3枚から1枚を選択して、手札に加える！」手札

6 - 7 デッキ16 - 15

幽(…何を加えた…?)

亞「…行くぞ！俺はレベル1チューナー『D・ライトン』を召喚！」
手札7-6

亮「またチューナー…、つてまさか『パワー・ツール・ドラゴン』をシンクロ素材にするつもりか！？」

亞「そうだよ！見せてやる、俺のシグナーの証を！

レベル7『パワー・ツール・ドラゴン』にレベル1『D・ライトン』をチューニング！！

世界の未来を守るため、勇気と力がレボリユーション！シンクロ召喚！
進化せよ！ 『ライフ・ストリーム・ドラゴン』！

！！」

幽「…まさか…、ここでシグナーの竜だと…！」

遊星（龍亞…、前に比べ成長したな…。

最高のタイミングで『ライフ・ストリーム・ドラゴン』を召喚した…！）

亞「『ライフ・ストリーム・ドラゴン』はシンクロ召喚に成功したとき、自分のLPを4000にすることができる！」LP1200

-4000

亮「くそっ…、ライフアドが…！」

幽「…だが、『A・O・Jライト・ゲイザー』は攻撃力3400！そのモンスターじゃ攻撃力が足りない！」

亞「違う！『ライフ・ストリーム・ドラゴン』は『パワー・ツール・ドラゴン』の力を受け継ぐ！その身に最強の装備を宿せ！手札より手札の装備魔法1枚をコストに『アームド・チェンジャー』、手札1枚をコストに『閃光の双剣 トライズ』、『魔道師の力』、『デモンズの斧』の4枚の装備カードを装備！」手札6-4-2-1-0

幽「…ちよつと待て…、なんだ…その装備カードの数は…」
亮「ぐ…本気でやばいぞ…！」

亞「『アームド・チェンジャー』は装備モンスターが戦闘で破壊したとき、墓地より装備モンスターより攻撃力の低いモンスター1体を手札に加える！」

『閃光の双剣 トライズ』は装備モンスターの攻撃力を500下げるけど2回攻撃できる！

そして『魔道師の力』は、俺の場の魔法・罠カード1枚につき500ポイント、『デーモンの斧』は攻撃力を1000ポイント上げる！

そしてフィールド魔法である『ガイヤパワー』の効果も得る！
ライフストリーム ATK 2900 - 6400 (ガイヤ+500、魔道師+2500、デーモン+1000、トライズ 500)

亞「終わりだ！『ライフ・ストリーム・ドラゴン』で『A・O・J ライト・ゲイザー』に攻撃！！
ライフ・イズ・ビューティ
ーホール！！！」

亮「幽兄…悪い、リバースカードを使うよ！『サンダー・ブレイク』！」

可「えっ！そのカードは…！」
亮「さつき使われたからな、仕返しだ！」

手札1枚をコストに、『魔道師の力』を破壊する！「手札1 - 0
亞「だけど、『ライフ・ストリーム・ドラゴン』は攻撃力3900
だよ！『A・O・J ライト・ゲイザー』を倒せる！」

ライフストリーム ATK 6400 - 3900 VS ライト・ゲイ
ザー ATK 3400

亮「ぐつ…紙一重で生き残ったか…！」LP600 - 100

亞「まだまだ！『アームド・チェンジャー』の効果で俺は墓地より攻撃力3400以下のモンスター1体を手札に加える！

俺は『D・ボードン』を手札に加える！」手札0 - 1

幽「ダイレクトアタッカー…！」

亞「そして『閃光の双剣 トライス』の効果で2回目の攻撃だ！『レベルステイラー』に攻撃！
ライフ・イズ・ビューティ
ホール…！」

ライフストリーム ATK3900 VS ステイラー DEF0

亞「『アームド・チェンジャー』の効果で『エレキリン』を手札に加える！」手札1 - 2

亞「俺は龍可のリバースカード『泉の精霊』を発動！墓地の装備力
ード 『魔道師の力』を手札に戻す！」手札2 - 3

亮「けど…、そのカードはこのターン使用することができない」

亞「わかってる！けどセットはできる！カードをセットして、ターンエンド！」

亮「俺はこのエンドフェイズ『リミット・リバース』を発動させる！墓地より、攻撃力1000以下のモンスター1体を特殊召喚する

！蘇れ 『ユベル』！」

幽「亮…！」

亮「…ごめん、『サンダー・ブレイク』を使っちゃった…。」

こんなことになるなら初めから使っておけばよかったな…」

幽「…気にするな…。」

俺がお前の最後の遺志を受け継ぐ！」

17ターン

亞 手札2 デッキ15 可 手札0 デッキ27 LP4
000

ライフストリーム(A:3900) + アームド+トライス+デーモン
セット

幽 手札0 デッキ23 亮 手札0 デッキ23 LP1
00

ユベル(A) リミット セット
Fガイヤパワー

幽「行くぞ…、俺のターン！」手札0 - 1 デッキ23 - 22

幽(くっ… 『魔王ディアボロス』…この状況じゃ…)

亮「幽兄、これはチーム戦だったこと、忘れないでよね」

幽「亮…」

生意気な口を…、だが…そうだったな…」

幽「リバーズカード、『闇の誘惑』！デッキからカードを2枚ドロ
ーし、その後手札の闇属性を1枚、ゲームから除外する！」

亞「まさか…、さっきの亮のターンの時に伏せられていたのか！」
可「…すごいチームワークね…」

幽「…俺はカードを2枚ドローし、手札の『魔王ディアボロス』を
ゲームから除外！」手札1 - 3 - 2 デッキ22 - 20

幽「俺は『ユベル』を守備表示に変更！

そして『リミット・リバーズ』の効果で対象モンスターが守備表示になった時、破壊される！」

亞「なんで自分のカードは!?!」

遊星「…なるほど、自破効果をメリットにしたか…」

幽「『ユベル』は破壊されたとき、デッキ・手札・墓地より、『ユベル Das Abscheulich Ritter』を特殊召喚する！（デッキより特殊召喚）」デッキ20-19

亞「攻撃力0だったって？何をたくらんでいるんだ？」

幽「さらに手札より『ブラック・ホール』を発動！

フィールド上のモンスターすべてを破壊する！」手札2-1

亞「げっ！元禁止カードだった！」

だけど、『ライフ・ストリーム・ドラゴン』は墓地の装備魔法をゲームから除外して、破壊を無効にする！俺は『レアゴールド・アーマー』を除外して、『ライフ・ストリーム・ドラゴン』を『ブラック・ホール』による破壊から守る！」

幽「…だが、『ユベル Das Abscheulich Ritter』はフィールドを離れたとき…デッキの最終形態を呼ぶ…！」
デッキ19-18

幽「歪みし愛の心を持つ悪魔よ、痛みという名の愛を相手に刻み、
絶望を与えよ！ 絶望の魔龍 『ユベル・Das Extr

emer Trauring Drachen』！」

亞「また、攻撃力0…」

可「気を付けて、絶対に何かをたくらんでるわ！」

亞「…そうだな！普通、こんなに手間をかけて出すモンスターじゃないし！」

幽「ご察しのとおりだ。

『ユベル - Das Extremier Traurig Drachen』はバトルするとき、自分へのダメージは0になり戦闘でも破壊されない。

そして、戦闘したモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与え、そのモンスターを破壊する効果を持つ！」

亞「だけど、『ライフ・ストリーム・ドラゴン』は効果ダメージを0にして、破壊も装備魔法1枚を除外すれば免れる！

その効果じゃ、俺の切り札は倒せない！」

幽「…試してみるか？」

『ユベル - Das Extremier Traurig Drachen』で『ライフ・ストリーム・ドラゴン』に攻撃！
ナイトメア・ペイン！！」

ユベル 3 ATK 0 VS ライフストリーム ATK 3900

幽「…ダメージステップ…」

手札より『禁じられた聖杯』を発動！」

亮「…！」

亞「何だって！」

可「あのカードは…！」

遊星「なるほど…、そういう事か…！」

幽「『禁じられた聖杯』は対象モンスターの攻撃力を400ポイントアップさせ、その特殊能力を封じる！」

これで『ライフ・ストリーム・ドラゴン』の効果ダメージ無効と破壊耐性の効果をとにも無効にする！」

ユベル3 ATK0 VS ライフストリーム ATK3900 - 4300

亞「うわあああああああつ…！」 LP4000 - 0

龍亞「くっそー！負けちゃったかー」

龍可「惜しかったね、龍亞」

幽「…良いデュエルだった。

タツグデュエルの勉強にあつた」

亮「うん、もつといろいろ勉強させてもらわないとな」

龍可「ええ、これからもよろしくお願いします」

龍亞「また俺達とデュエルしようぜ！」

幽「ああ…、こちらからもよろしく頼む…龍亞」

握手する幽と龍亞。

それを横から見る亮と龍可。

遊星（…良い兄弟だな。二組とも…

…だが、彼らに本当に本物の神のカードを扱えるのだろうか…

…だが、今は彼らに強くなってもらうことが重要だな…）

遊星「幽、亮、お疲れのところ悪いが、俺ともタツグデュエルをしないか？」

龍亞「お、じゃあ、俺もー！」

龍可「…龍亞には疲れがないのかしら…」

幽「…ああ…、いいぜ」

亮「だけど、今の俺達にはそう簡単には勝てないからな」

そう言つて、4人とも構える。

幽・亮・星・亞「……デュエル!!!」

可「……でも、著者の力がないからこのデュエルは省略するわ」

第13話 END

第13話 双子の強さ（後書き）

実「出番がほしい…」

隼人「…そうだよな…」

綾香「…三沢大地になんかなりたくない…」

望「…大丈夫…、多分…」

天保「…俺はすでに空気化している気がするんだが…」

実「…そんな暗いこと言わないで…」

隼人「…次回予告だな、とりあえず…」

綾香「そうだね！次回、遊戯王第14話『極神の壁』！」

望「ついに神のカードとの戦い！そして一方で動き出す人たちも…」

天保「次回のキーカードは…実は決まっていない。

申し訳ないな、原稿が未完成なんだ。

…多分…ん？」

実「はい！追加原稿だよ！」

天保「お、どうやら原稿が完成したようだな。

次回のキーカードは『極神皇ツール』だ！楽しみにしてくれ！」

第14話 極神の壁（前書き）

第14話投稿です。

遅くなつてすいませんです。

第15話は早々と書き上げたいと思います。

追記：一部ミスを修正しました。

第14話 極神の壁

デュエルアカデミア、生徒会室。

生徒会長がいない今でも氷炎隼人、水面綾香、如月望の3人は必死に働いていた。

隼人「仕事はこれで全部か？」

綾香「ええ、これで夏休み前の仕事をすべて終わらせたわ。

二人とも、ご苦労様です」

望「疲れたー、全く…黒田さんは…、帰ってきたら仕事させまくってやるんだから…」

綾香「でも、私たちはこれで生徒会引退でしょ？」

望「…そうだよね、寂しくなるよね…」

綾香「でも、2年生後期から1年間楽しかったからいいんじゃない？」

望「そうだよねー、あの頃からもう1年かー」

楽しく話している女子二人を余所に、電話をかける隼人。

望「氷炎さん？どこに電話かけるの？」

綾香「多分、天保君のところだろうね」

望「成程、あの件ね。」

珍しい、あの人があんなに仕事をするなんて」

綾香「仕方ないでしょ、黒ちゃんの事だから」

隼人「…天保か？氷炎だけど…。」

ああ、仕事終わったから…、じゃあ、今すぐ来てくれ。

…そういえば頼まれた情報は？…ああ、流石だな。

それじゃあ、生徒会室に…」

電話を切る隼人。

綾香「どうだった？天保君」

隼人「…しつかり調べておいたそうだよ…」

『黒田幽』『黒田亮』のデュエルディスクのデュエル履歴を」

望「…流石ですよね…、KC社にハッキングしたらいいでしょ？」

綾香「本当、こんなことする人居るなんて思わないよね」

どっかの蟹頭もやっていたという突っ込みはNG。

隼人「…そういえば、高島は？」

綾香「あ、実ちゃん？メールがあったけど、やっぱり二人は家に居ないそうだよ」

隼人「…そうか」

ここで、状況を詳しく説明しよう。

クロノス先生が負けた後、彼らも引き下がるつもりだったが、当然のごとく引き下がらず、彼らにもう一度会いに行くつもりだったが。

唯一、黒田家の場所を知っている実が退院し、黒田家に行ったときは、すでに家は無人だった。

そこで隼人が天保に連絡を取り、力を借りることに。

ピッキング（M A T T E !）で家に侵入。家の様子を見たが、特に荒れている感じもなく、二人が家を出たわけでもないと考えたので、現在、何をやっているか調べようと、とりあえずデュエルディスクデータにハッキングをして、彼らが誰と、どんなデュエルをしているか、調べようとしたのだ。

望「…本当、あの浸りはどこをほつつき歩いてんだらうねー」

隼人「…さあな」

綾香「あ、来たようだよ、実ちゃんも一緒だ」

窓から外を見る綾香。外には歩いている天保と実の二人。

この光景を見たら、幽はなんて思うんだろう？

天保「おつす、生徒会連中」
実「こんにちはー」

扉を開け、見慣れたぼさぼさ頭と黒髪の少女が入ってくる。

隼人「おつす、二人とも」

天保「早速だが、これが頼まれた資料だ。

これが黒田…、じゃなくて幽のやつだ」

渡された資料には、びっしりと文字が敷き詰められていた。

7 / 2 1 6 : 1 7 N O ・ F - 4 1 2 3 0 0 (L O S E)
7 / 2 2 2 : 2 4 N O ・ J - 0 0 9 8 1 1 (W I N)
7 / 4 1 4 : 1 3 N O ・ J - 0 0 9 8 9 9 (W I N)

：

隼人「…これって…？」

天保「ああ、『N O ・ F - 4 1 2 3 0 0』は隼人、お前のデュエル
ディスクN Oだ。

で、黒田は『N O ・ F - 4 1 2 3 0 0』であるお前に敗北

LOSEしたわけだ(第1話参考)」

隼人「…なるほど…、これは解析が面倒だな」

天保「そう言うと思うてな、ほれ」

もう一枚の紙が手渡される・

天保「これを簡単に訳しておいた。わかりやすいと思っぜ」

隼人「…ああ、どうも…」

なんで、こいつこんなことできるんだ？という突っ込みはNG。

隼人「…うーん」

綾香「あ、この人知ってる！『十六夜アキ』ってチーム5D'sの人でしょ？」

望「…クロウさんとデュエルしてるんだね、負けているけど」

実「最近デュエルの回数が多いね、ほとんどがタッグデュエルなんだ！」

覗き込んでくる女子。集中してみれない隼人だが、文句は言わない。

天保「ああ、『不動遊星』『ジャック・アトラス』『クロウ・ホー

ガン』…といった面々とのデュエルの回数、しかもタッグデュエルが多い。

で、もう一つの黒田の弟…亮のほうの結果と照らし合わせる
と…」

隼人「…チーム5D'sと関係を持っているのか？」

天保「ああ、おそらくタッグデュエルの特訓だろう。理由はわからないが。」

それを考えれば、家に帰っていないのも理由が見つく

実「でも…なんでチーム5D'sの人たちなんだろう？」

天保「おそらく、俺達とではなく、そいつらと一緒に決着をつけに行くんだろうよ。」

お前らが巻き込まれた『ゴースト』や父親との戦いに

綾香「…そっか…」

望「…私たち…邪魔ってことかな…？」

天保「そうだとしても、手伝いたいなら行くしかねえぜ。」

俺も、あいつとはそれなりに仲が良かったからな。無理と言われてもついていくつもりだ」

隼人「…そうだな、俺たちは仲間だ…、今も…そして…未来も…」
綾香「…そうだったね！」

望「よし、そうと決まれば…！」

…どうしようか？いつ二人が帰ってくるかわからないし…？」

沈黙する生徒会…

その空気を壊すかのように天保が話し出す。

天保「…考えがある。だけど、それには高島の助けも必要だが…大丈夫か？」

実「うん！出来ることなら手伝います！」

天保「…じゃあ、説明するぞ…」

幽「バトル！『ダーク・ホルス・ドラゴン』3体でダイレクタアタック！
ダークネス・ギガフレイルム！！三連打！」

元キン「B A K A N A A A A A A A A A A！！！！（ばかなあああああ
あ！！）「LP8000-0」

幽「…最近、ジャックさんの扱いがひどくないか？」

元キン「ふ…ふん！キングの生活はエンターテイメントでなければならぬ！」

幽「…そついう問題かな？」

同じ時間 遊星宅前、相変わらずデュエルの特訓中だ。

流石兄弟と言うべきか、最近はほとんど負けがない。

因みにあの子の幽・亮VS遊星・龍亜のタッグデュエルは遊星と龍亜の勝利だった。

敗因は疲れ、終盤の戦術ミスが敗北を招いたようだ。

亮「…なんだこの無限ループは…」

遊星「亮、それを言ってはダメだ」

亮「はい…」

遊星の言葉に黙らされる亮。

そこにスケートボードに乗った子供が来た。

言わずと知れた、龍亞・龍可の二人だ。

龍亞「やつほー！遊びに来たよ！」

龍可「違うでしょ龍可。」

こんにちは、ドラガンさんとブレイブさんのデュエルは今日だったよね？」

幽「ああ、今日の12時な…、因みに今は11時45分だ」

龍亞「応援してるぜ！頑張って、幽、亮！」

亮「ああ、感謝する。」

手伝ってもらったし、頑張るぜ」

遊星「ところで幽、あと15分ほどだが、どうするつもりだ？」

幽「…デッキ調整だな、亮、手伝ってくれ」

亮「おう、わかった」

幽「そういうわけだ、ちょっと部屋借ります、遊星さん」

遊星「ああ、わかった」

そう言っただけで家に入る幽と亮。

龍亞「遊星！せっかくだし俺とデュエルしようぜ！」

遊星「…ああ、いいぞ」

龍可「ちよつと、龍亞！」

龍亞「大丈夫だって！時間あるし！」

龍可「まったくもう…」

そんなこんやで15分経過

幽と亮もデツキ調整を完了し、外でデュエルディスクを腕にはめ、待機している。

遊星はジャック、龍亞、龍可と共に見ている。
因みにクロウは仕事、鬼柳は前話に言った通り満足街サティスファクションタウンに居る。

12時の鐘が鳴る。

その時計は過去に大家のゾラの息子　レオが直したらしい。

3台のD・ホイールが来る。
ヘルメットで顔が見えないが間違いなくチームラグナロクの3人だ
ろう。

ド「来たぜ」

亮「…どうも」

ブ「よお、少しは準備をしたか？」

幽「…おかげさまで、負ける気はないぜ」

早速対立する4人。

その二人をよそに遊星の横に立つハラルド。

ハ「彼らはどうだ？」

遊星「ああ、俺とジャックのタッグに勝てるまで成長したからな」

ハ「…二人に勝てるのか？」

遊星「…正直、微妙だが…」。

だが、勝算はあるだろう」

ハ「…そうか」

遊星「…しかし、お前らは目立つな」

ハ「…そうか？」

彼らは有名なチーム。周りにはギャラリイもできている。

亮「…にぎやかだけど、神のカードを出しても大丈夫なのか？」

ド「…気にするな、黒田亮。」

だが、お前らと戦うのが目的だ。周りの眼は気にしない」

亮「…変な質問をしてすまなかった」

しばらく無言だったが、デュエルディスクを構えてブレイブが言う。

ブ「準備はいいか？」

幽「…構わない」

ド「ああ、いつでも来い」

亮「こつちも準備万端だ」

幽・亮・ブ・ド「デュエル!!!」

幽 手札5 デッキ35 亮 手札5 デッキ35 LP80

00 無し
ド 手札5 デッキ35 ブ 手札5 デッキ35 LP80
00 無し

ルールはTFルール(WCSルール)です。
ターンプレイヤーには 印を付けます。
ターンはドラガン(ド) 亮 ブレイブ(ブ) 幽です。

ド「俺の先攻だ、ドロー！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

ド「俺は『極星獣タングリスニ』を召喚する！」手札6 - 5
亮「…トークンを生み出すモンスターか…」
ド「ほう効果を知っているようだな。」

俺はカードを1枚セットして、ターンエンドだ」

1ターン目

幽 手札5 デッキ35 亮 手札5 デッキ35 LP8
000

無し

ド 手札4 デッキ34 ブ 手札5 デッキ35 LP8
000

タングリスニ(A) セット

亮(…攻撃力1200のモンスター…、そしてリバースカード…)

『極星獣タングリスニ』には戦闘破壊されたとき、トークンを2体残す…。

だからリバースカードが罠とは考えにくい…。
ならばなぜ裏側守備表示で召喚しなかった？)

ド「どうした？さつさと来いよ」

亮「…良いだろう、俺のターンだ！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

亮「俺は『ハウンド・ドラゴン』を召喚！

バトル！『ハウンド・ドラゴン』で『極星獣タングリスニ』に攻撃！
ハンター・スラッシュ！」手札6 - 5

亮(まずはこのモンスターで様子を見る)

ド「甘い！トラップ発動！『極星宝ブリージング・メン』！」

亮「【極星】のトラップカード…！」

ド「このカードは自分及び相手のモンスターを選択して発動する！
俺は『極星獣グルファクシ』と『ハウンド・ドラゴン』を選択する！

選択した自分のモンスターの攻撃力をエンドフェイズまで、相
手のモンスターの元々の攻撃力と同じにする！」

ハウンド ATK1700 VS タング ATK1200 - 1700

亮「…相打ち…、だが『極星獣タングリスニ』には…」

ド「そう！このモンスターが戦闘によって破壊され墓地へ送られた
とき、俺の場に極星獣トークン（獣族・地・星3・攻/守0）を2
体特殊召喚する！」

だが、それだけで済むと思うな！」

亮「…!?」

ド「俺はこの効果にチェーンして手札の『極星獣タングニョースト』
の効果を発動！」

自分のモンスターが戦闘破壊によって墓地へ送られたとき、こ
のカードを手札から特殊召喚できる！」手札4 - 3

亮「ぐっ…、そんな【極星獣】まで居たなんて…」

ハ「流石はドラゴン、戦術に無駄がない」

遊星（勝てるのか？二人とも…？）

亮「…ターンエンドだ」

2ターン目

幽 手札5 デッキ35

亮 手札5 デッキ34

LP8

000

無し

ド 手札4 デッキ34 ブ 手札5 デッキ35 LP8

000
極星獣トークン(D) タングニョースト

亮「……………」

ブ「おいおい、そんなに身構えるなって」

幽「……………」

ブ「…おいおい。」

ま、いいや。俺のターン！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

亮(来るか…、『極神皇ロキ』が…！)

ブ「…とりあえず、カードを3枚セット。」

ターンエンドだ」

3ターン目

幽 手札5 デッキ35 亮 手札5 デッキ34 LP8

000

無し

ド 手札4 デッキ34 ブ 手札3 デッキ34 LP8

000
極星獣トークン(D) タングニョースト セット3

幽「…？モンスターは召喚しないのか？」

ブ「これがトリックスター、ブレイブ様の戦術ってことだぜ」

幽「…そうか、折角のチャンスを逃すなんてな。

後悔することになるぞ」

ブ「へっ、ご忠告ありがとうございます」

幽「…俺のターンだ！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

幽（見え見えの罠 、だが次のターンで『極星獣グルファクシ』
を持っていたら…

あの『極星獣タングニョースト』はどんな効果を持っているが
知らないが…、今は攻めるべきだろう）

幽「相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上に
モンスターが存在しないとき、手札の『バイス・ドラゴン』は元々
の攻撃力・守備力を半分にして特殊召喚できる！」手札6 - 5

龍亞「『バイス・ドラゴン』！あれて、ジャックが使ってた…」

遊星「ああ、おそらく幽はシンクロ召喚が狙いだ」

幽「さらに『グローアップ・バルブ』を召喚！」手札5 - 4

幽「このままバトルだ！『バイス・ドラゴン』で極星獣トークンに
攻撃！ バイス・バースト！！」

バイスATK1000 VS 極星獣トークンDEF0

幽（罠がない…？）

幽「…『グローアップ・バルブ』で極星獣トークンに攻撃！
種子砲！」

バルブATK100 VS 極星獣トークンDEF0

幽「…メインフェイズ2。」

レベル5『バイス・ドラゴン』にレベル1『グローアップ・バルブ』をチューニング。

屈指の戦士よ、今こそ力を発揮し、その槍で敵を打ち砕け
シンクロ召喚、貫け『大地の騎士 ガイヤナイト』！」

龍亞「ねえ、遊星。なんで幽はシンクロ召喚する前に攻撃したの？
遊星「『大地の騎士 ガイヤナイト』をシンクロ召喚した場合、2
体のモンスターが残る。」

おそらく次のターンの『極神皇トール』の召喚を避けたかつ
たんだろう」

龍亞「なるほど！そういうことか」

幽「…俺のターンは終了だ」

4ターン目

幽 手札4 デッキ34 亮 手札5 デッキ34 LP8
000

ガイヤナイト(A)

ド 手札4 デッキ34 ブ 手札3 デッキ34 LP8
000

タングニョースト(D) セット3

ド「俺のターン！」手札4 - 5 デッキ34 - 33

ド「リバースカードオープン！『神の柩楛グレイプニル』！」

幽「…そのカードは…！」

ド「効果は知っているようだな！このカードの効果で俺はデッキの【極星】1体を手札に加える！
『極星獣グルファクシ』を手

札に加える！」手札5-6 デッキ33-32

幽「神の化身か…！」

ド「そして俺は『極星獣タンゲニヨースト』を攻撃表示に変更！」

幽「…？」

ド「その表情だと効果は知らないようだな！『極星獣タンゲニヨースト』は守備表示から攻撃表示になった時、デッキより『極星獣タンゲニヨースト』以外の【極星獣】を守備表示で特殊召喚できる！俺はデッキより『極星獣タンゲリスニ』を守備表示で特殊召喚！」
デッキ32-31

亮「レベル3のモンスターが2体揃った…！」

ド「見せてやろう！本物の神を！」

相手フィールド上のみシンクロモンスターが存在するとき、

『極星獣グルファクシ』を特殊召喚！」手札6-5

ハ「早速出すか、ドラガン…！」

龍可「こんなに早く神のカードを…！」

ド「レベル3『極星獣タンゲリスニ』とレベル3『極星獣タンゲニヨースト』にレベル4『極星獣グルファクシ』をチューニング！！

星界の扉開くとき、古の戦神いくさのみがその魔鎧を振り上げん。大地を揺るがし轟く雷鳴とともに現れよ！シンクロ召喚！
光臨せ

よ！『極神皇トール』…！！！」

遊星「出たか…星界の三極神…！」

龍亞「すっげー…、やっぱり神のカードは違うな…！」

元キン「…あの二人はこの状況でどう対応するつもりだろうか」

幽「出やがったか…、『極神皇トール』…！」

亮「本物の神のカード…、威圧感が偽物とは違う…！」

ド「俺は『極星將テュール』を召喚する！このカードは神を守る戦士！このカードを存在するとき相手は『極星將テュール』以外の【極星】を攻撃できない！」

幽「神の防御さえ万全ときたか…！」

ド「バトル！『極神皇トール』で『大地の騎士 ガイヤナイト』に攻撃！ サンダーパイル…！」

トール ATK 3500 VS ガイヤナイト ATK 2600

幽「ぐっ…ぐわあああああああつ！」 LP 8000 - 7100

幽「がは…っ、なんで…ダメージが現実に…！」

ド「これが本物の神の力だ。神こそソリットビジョンだが、神の鉄槌は本物の一撃だ。」

「この程度で諦めるわけではないよな？」

幽「…冗談！この程度…！」

ド「ふん、だが、神の力を操るのなら当たり前だ！」

バトルフェイズ続行！『極星將テュール』でダイレクトアタック！ 極星幻影斬！」

テュール ATK 2000 VS 直接

幽「ぐっ…！」 LP 7100 - 5100

ド「これで俺のターンは終了だ」

5ターン目

幽 手札4 デッキ34 亮 手札5 デッキ34 LP5

100

無し

ド 手札4 デッキ31 ブ 手札3 デッキ34 LP8

000

トール(A) テュール(A) セット2

亮「…俺のターンだ！」手札6 - 5 デッキ34 - 33

亮「来い！『サイバー・ダーク・キール』！」手札6 - 5

龍亞「出た！サイバー流のモンスター！」

亮「『サイバー・ダーク・キール』のモンスター効果、召喚に成功したとき、俺の墓地のレベル3以下のドラゴン族モンスターを装備し、その攻撃力を得る！」

『ハウンド・ドラゴン』を装備し、攻撃力を2500まで上昇する！」

SDキール ATK800 - 2500

亮「バトル！『サイバー・ダーク・キール』で『極星将テュール』に攻撃！
ダーク・ウィップ！」

SDキール ATK 2500 VS テュール ATK 2000

ド「ぐおっ……」 LP 8000 - 7500

亮「さらに『サイバー・ダーク・キール』は戦闘破壊したとき、相手に300の追加ダメージを与える！」

ド「ぐあぁ……」 LP 7500 - 7200

亮「…俺はカードを1枚セットして、ターンエンドだ」

6ターン目

幽 手札 4 デッキ 34 亮 手札 4 デッキ 33 LP 5

100

SDキール(A)+ハウンド セット

ド 手札 4 デッキ 31 ブ 手札 3 デッキ 34 LP 7

200

トール(A) セット 2

ブ「いくぜ！俺のターンだ！」 手札 3 - 4 デッキ 34 - 33

ブ「『極神皇トール』のモンスター効果！1ターンに一度、相手フィールド上のモンスター1体の効果をターンエンド時まで無効にする！ エフェクトアブソーバー！」

亮「くっ…、『サイバー・ダーク・キール』の効果が無効になったため、装備モンスターである『ハウンド・ドラゴン』は墓地へ送られる……」

SDキール ATK 2500 - 800

ブ「頂戴するぜ！お前の命を！」^{ライフ}極神皇トール』で『サイバー・ダーク・キール』に攻撃！　　サンダーパイル！！」

亮「残念だが、トラップ発動！『次元幽閉』！攻撃モンスターをゲームから除外する！

『極神皇トール』の蘇生効果は墓地で発動する！当然、除外されたらその効果は発動できない！」

ブ「何っ！これじゃあ神のカードが封じられるじゃねえか！くっそ
おおおお！

なーんてな　そんなに除外してほしいならしてやるぜ！チェー
ン発動、『極星宝グングニル』！
亮「な…に…！」

ブ「このカードは俺の場の【極星】あるいは【極神】を除外し、フ
ィールド上のカード1枚を選択して発動する！

俺は『極神皇トール』をゲームから除外し、『サイバー・ダー

ク・キール』を選択！選択したカードを破壊する！」

亮「くっ…、だけど、それだとどっちにしてもゲームから除外される！」

ブ「甘いぜ、『極星宝グングニル』で除外したモンスターは2回目の自分のエンドフェイズに戻ってくる！」

亮「…そんな効果が…！」

ハ「流石はトリックスター、ブレイブ。必要とあれば神さえ手玉に取る」

元キン「ふん！あんな小細工で勝利をしても嬉しくともならない！」

ブ「俺はカードを1枚セット！壁モンスターをセットして、ターンエンドだぜ！」

7ターン目

幽 手札4 デッキ34 亮 手札4 デッキ33 LP5
100

ド 手札4 デッキ31 ブ 手札2 デッキ33 LP7
200

裏守 セット2 (エンドフェイズ1回目)

幽「…流石は、トリックスターだな」

ブ「お褒めの言葉として受け取っておくぜ！」

幽「流石だ、だが、負ける気はない！」

俺のターンだ！」手札4-5 デッキ34-33

幽「俺の墓地に存在する闇属性モンスターは『サイバー・ダーク・キール』『ハウンド・ドラゴン』『バイス・ドラゴン』の3体！よって、手札より、『ダーク・アームド・ドラゴン』を特殊召喚する！」手札5-4

ブ「ちつ、除去効果を持ったダークモンスターか！

だが、その効果は使わせないぜ！『禁じられた聖杯』！モンスターの攻撃力を400ポイントアップさせ、効果を無効にする！」
幽「除去効果を封じられたか…」

ダムドATK2800-3200

幽「ならば、俺は『終末の騎士』を召喚！そのモンスター効果により、デッキの闇属性モンスター『レベルステイラー』を墓地へ送る！

さらに、デッキトップのカードを墓地へ送り、『グローアップ・バルブ』を墓地より特殊召喚！」手札4-3 デッキ33-32-31

幽（…『グローアップ・バルブ』で落ちたカードは『スナイプストーカー』か…。

惜しいカードを落としたな…、仕方ないか）

幽「レベル4『終末の騎士』にレベル1『グローアップ・バルブ』をチューニング！

光を無にする力を持つ未来の殺戮兵器よ！その力で希望の光さえ消し飛ばせ！ シンクロ召喚！ 光を消せ！『A・O・

Jカタストル』！！」

ブ「ちつ、上級モンスターが2体もいるじゃねえか…！」

幽「バトル！『A・O・Jカタストル』で裏側守備モンスターに攻撃！ ノンリミット・デストロイ！」

カタストル ATK 2200 VS クリッター DEF 600

ブ「残念だったな！『クリッター』はフィールド上から墓地へ送られたとき、デッキより攻撃力1500以下のモンスター 、『極星霊ドヴェルグ』を手札に加えるぜ！」手札2 - 3 デッキ31 - 30

幽「だが、この攻撃は止められないはずだ！！」

『ダーク・アームド・ドラゴン』でダイレクトアタック！！！

ダーク・アームド・パニッシャー！！！！」

ブ「ちっ…！！」LP 7200 - 4000

龍亞「すごい！幽達が一気に相手のLPを半分まで削った！」

遊星「…これでデュエルの流れが彼らに戻りつつあるな」

ブ「たしかにすげえな！だが、その程度じゃ俺たちの神を操ることなんてできねえぜ！」

トラップ発動！『フリッグのリンゴ』！！」

幽「なんだ？そのカードは…！！」

ブ「『フリッグのリンゴ』は俺の場にモンスターが存在せず、戦闘ダメージを受けたとき、そのダメージ分LPを回復し、このカードの効果で回復した数値と同じ数値の攻撃力と守備力を持つ邪精トーン（悪魔族・闇・星1・攻/守3200）を特殊召喚する！！」LP 4000 - 7200

幽「何だとっ！」

亮「くっ…、もはやインチキレベルじゃねえかよ…！！」

ブ「残念だが、これがトリックスター様の戦術ってことだぜ！」

幽「くそっ！ターン終了だ！」

8ターン目

幽 手札3 デッキ31 亮 手札4 デッキ33 LP5
100

ダムド(A) カタストル(A)

ド 手札4 デッキ31 ブ 手札3 デッキ32 LP7
200

邪精(A:3200) (エンドフェイズ1回目)

遊星「…流石だな、ブレイブは」

ハ「ああ、『禁じられた聖杯』で攻撃力を上げるデメリットを、『フリッグのリング』によって、逆にメリットへと変える…、これこそブレイブの実力だ」

遊星「……」

龍亞「遊星！大丈夫だって！幽と亮も強いじゃん！負けないって！」
龍可「そうだよ！一緒に応援しよう！」

遊星「…そうだな」

ド「行くぞ！俺のターンだ！」手札4 - 5 デッキ31 - 30

ド「バトル！邪精トークンで『ダーク・アームド・ドラゴン』に攻撃する！」

邪精 ATK3200 VS ダムド ATK2800

幽「くそっ…！」LP5100 - 4700

ド「そして俺はカードを1枚セットして、エンドフェイズ！」

『極星宝グングニル』で除外された『極神皇トール』が俺の場へと戻ってくる！」

9ターン目

幽 手札3 デッキ31 亮 手札4 デッキ33 LP5
100

カタストル(A)

ド 手札4 デッキ30 ブ 手札3 デッキ32 LP7
200

邪精(A:3200) トール(A) セット

亮「…俺のターンだ！」手札4 - 5 デッキ33 - 32

亮「…『魔導雑貨商人』…、このモンスター効果で大量の墓地肥やしをして、手札の魔法カード『オーバーロード・フュージョン』で一気に勝負をつけられる…！」

そして…手札の罠カードのために…)

亮「俺はカードを2枚セットして、モンスターをセット ター
ンエンドだ」

幽（『A・O・Jカタストル』は攻撃表示か…、リバースカードで
のカウンターを狙っているのか？）

10ターン目

幽 手札3 デッキ31 亮 手札2 デッキ32 LP5
100

カタストル(A) 裏守 セット2

ド 手札4 デッキ30 ブ 手札3 デッキ32 LP7
200

邪精(A:3200) トール(A) セット

ブ「行くぜ！俺のターンだ！」手札3 - 4 デッキ32 - 31

ブ「…ようやくだ！ようやくもらいものの神ではなく自分自身の神を呼ぶことができるぜ！」

幽「な…、『極神皇ロキ』を…このターンで呼ぶというのか…！」

ブ「トラップ発動！『神の桎梏グレイプニル』！ 『極星霊デ

ックアールヴ』を手札に加える！」手札4 - 5 デッキ31 - 30

幽「…！ついに『極星霊デックアールヴ』が…！」

ブ「そして、『極星霊ドヴェルグ』召喚！このモンスターの召喚に成功したターン、俺は通常召喚とは別に、もう一度だけ【極星】のモンスターを召喚できる！ 『極星霊リヨースアールヴ』を召喚するぜ！」手札5 - 3

幽「1ターンで2体の【極星】だと…！」

亮「だけど、召喚権はもう無い！手札の『極星霊デックアールヴ』を呼ぶことはできない！」

ブ「甘いぜ！『極星霊リヨースアールヴ』は召喚に成功したとき、自分フィールド上のこのモンスター以外のモンスター1体を選択して発動することができる効果がある！俺は『極神皇トール』を選択して『極星霊リヨースアールヴ』の効果を使う！」

幽「な…、いったいどういう効果なんだ…？」

ブ「選択した『極神皇トール』のレベル以下　レベル10以下の【極星】と名のついたモンスター1体を手札から特殊召喚することができる！現れる！『極星霊デックアールヴ』！」手札3-2

龍亞「えつと…、『極星霊ドヴェルグ』はレベル1で…『極星霊リヨースアールヴ』はレベル4…チューナーの『極星霊デックアールヴ』はレベル5だから…」

合計レベル10!？」

龍可「ついに来るわね…、2体目の三極神が…！」

ブ「行くぜ！レベル1『極星霊ドヴェルグ』とレベル4『極星霊リヨースアールヴ』にレベル5『極星霊デックアールヴ』をチューニング！…！」

星界より生まれし気まぐれなる神よ。絶対的な力を我らに示し世界を笑え！シンク口召喚！

幽「く…くるか…！」

亮「…星界の三極神…！」

ブ「光臨せよ！」「極神皇口キ」！！！！」

第14話 END

第14話 極神の壁（後書き）

ニコ「鬼柳さん、まだ行かなくていいんですか？」

満足「ああ、遊星からの連絡が入るまでは、ここで満足させてもらうぜ」

ウエスト「流石はチームサティスアクションのリーダーだ！どんな場所でも満足してる！」

満足「ああ…、だから、今回の次回予告も満足させてもらうぜ…！」

ニコ「うーん…、話のつながりがおかしい気もするけど…」

満足「それでも満足するしかねえ！」

ウエスト「えつと…、それじゃあ、次回予告！遊戯王第15話『認める者』！」

ニコ「ついに『極神皇ロキ』も召喚される！幽と亮の全力は神のカードを打ち倒すことができるのか？」

満足「次回のキーカードは『極神皇ロキ』だ。

あいつらの満足はこれからだ！」

第15話 認める者（前書き）

だいぶ遅れました。15話投稿です。

この調子だと16話の投稿も少なくなりそうです。

今週より日本未発売カード登場。

効果は後書きに記入しています。

追記：後書き変更しました。

第15話 認める者

11ターン目 途中

幽 手札3 デッキ31 亮 手札2 デッキ32 LP5

100

カタストル(A) 裏守 セット2

ド 手札4 デッキ30 ブ 手札2 デッキ30 LP7

200

邪精(A:3200) トール(A) ロキ(A)

幽「…『極神皇ロキ』…!」

亮「…まさか、1つのフィールドに2体の神が出るなんてな…っ」

ブ「墓地へ送られた『極星霊ドヴェルグ』のモンスター効果!墓地の【極星宝】のカード1枚を手札に加えるぜ! 『極星宝ブリ

ージンガ・メン』を手札に加えるぜ!」手札2-3

亮(『極星宝ブリージンガ・メン』か…)

幽(…大丈夫だ。畏とわかっていれば怖くはない…、恐れることは無い…!)

ブ「でも、畏だってわかっているからな。このカードを伏せてもあまり意味をなさないし、こっちのモンスターの攻撃力は3000代

ばっかりだしなあ…

そこで…手札より『手札断殺』を発動するぜ!」手札3-2
亮「なつ…!」

ブ「てめえが神のカードを使うつもりなら、この状況で守勢にはならないだろうからな!よって、そのセットモンスターは間違いなくキーカードへの布石!

さあ、手札のキーカードを捨ててもらおうか?」

亮「ぐっ…!」

亮 デッキ32-30 ブ デッキ30-28

亮(…まさか、戦術を読まれていたなんて…)

ブ「さあ、頂戴するぜ!お前の命を!

ライフ

邪精トークンでセットモンスターに攻撃!

邪精 ATK3200 VS 雑貨 DEF700

亮「『魔導雑貨商人』のリバース効果!デッキよりカードをめくり、最初に出た魔法・罫カードを手札に加え、それ以外のカードを墓地へ送る!」

ブ「ほお、それでもう一度キーカードを手札に加え、ついでのデッキ圧縮をするつもりか…!」

亮「…デッキの上から順に『サイバー・ダーク・ホーン』『サイバー・ドラゴン』『ハウンド・ドラゴン』『サイバー・レーザー・ドラゴン』『カード・ガンナー』『パワーボンド』…、俺は『パワーボンド』を手札に加え、それ以外のカードを墓地へ送る!手札2-3
デッキ30-24

ブ「次に『極神皇ロキ』で『A・O・Jカタストル』を攻撃!

ヴァニテイ・バレット!」

ロキ ATK3300 VS カタストル ATK2200

亮「…『ガード・ブロック』発動！これで俺への戦闘ダメージを0にして、カードを1枚ドロウする！」

幽（…ここで発動したということは…『極神皇ロキ』の効果発動を狙っている…、次のカードが本命ということか…）

ブ「『極神皇ロキ』の効果を…」

発動してほしいんだろ？」

亮「…！」

ど…どうかな？」

ブ「…俺は『極神皇ロキ』のモンスター効果を使用しないぜ。

お前の考えていることなんて手に取るようにわかる、もう1枚のリバースカードは『聖なるバリア ミラーフォース』のような、切り札級のカードだろう」

亮「……」手札3 - 4 デッキ24 - 23

ブ「そして『極神皇トール』でダイレクトアタックだ！ サン

ダーパイル！！！」

トール ATK3500 VS 直接

亮（…まだ、『極神皇ロキ』の向こう効果は残っている…、リバースカードは発動できない…！）

亮「ぐあああああああああつ!!」LP5100-1600

幽「亮っ!」

亮「…っ、平気だ」

ブ「さあ!この絶望的な状況を打破してみな!ターンエンドだ!」

11ターン目

幽 手札3 デッキ31 亮 手札4 デッキ23 LP1

600

セット

ド 手札4 デッキ30 ブ 手札2 デッキ30 LP7

200

邪精(A:3200) トール(A) ロキ(A)

幽「くっ…、俺のターンだ!」手札3-4 デッキ31-30

幽「俺の墓地の存在する閻属性は10体!よって手札より『ダーク・クリエイター』を準備表示で特殊召喚!

『ダーク・クリエイター』のモンスター効果!1ターンに一度、墓地の閻属性モンスター1体をゲームから除外し、墓地の閻属性モンスター1体を特殊召喚する!

『ダーク・アームド・ドラゴン』を除外し、『A・O・Jカタストル』を蘇生させる!」手札4-3

ド「…『極神皇トール』は地属性…、効果破壊を狙うつもりか…!」

亮「だけど、【極神】には自己再生効果がある…、幽兄、どうするつもりだ？」

幽「…俺は墓地の『レベルステイラー』の効果を発動！『ダーク・クリエイター』のレベルを1つ下げ、自身を蘇生させる！」

クリエイターLv8-7

幽「『レベルステイラー』をリリースし、『極星霊デックアールヴ』をアドバンス召喚する！」手札3-2

ブ「『極星霊デックアールヴ』だと！？だが、お前のデッキに『極星皇ロキ』は居ない！どうするつもりだ！」

幽「どうするって、シンクロ召喚に決まっているだろ！俺は再び『レベルステイラー』の効果を発動！『A・O・Jカタストル』のレベルを1つ下げ、自身を再度蘇生！」
カタストルLv5-4

遊星（…幽…『レベルステイラー』がつかれているぞ？

少し休ませてやればどうだ？）

そう思っている本人も『スピード・ウォリアー』の使い方はひどい気がする。

幽「俺はレベル4『A・O・Jカタストル』とレベル1『レベルステイラー』にレベル5『極星霊デックアールヴ』をチューニング！

光に対する殺戮兵器 今、決戦の地に降り立つ！圧倒的な力で光を打ち消せ！シンクロ召喚！ 無に帰せ！『A・O・Jデイスアイシブ・アームズ』！！！！」

ド「攻撃力3300だと!？」

幽「『A・O・Jディサイシブ・アームズ』で邪精トークンに攻撃!
アルティメット・ライト・ブレイク!!」

アームズ ATK 3300 VS 邪精 ATK 3200

ブ「ちつ、まさかそんな大型モンスターを出してくるとはな!」
LP 7200 - 7100

幽「…カードをセットして、ターンエンドだ」

12ターン目

幽 手札1 デッキ30 亮 手札4 デッキ23 LP1
600

クリエイター(D) アームズ(A) セット2

ド 手札4 デッキ30 ブ 手札2 デッキ30 LP7
100

トール(A) ロキ(A)

ハ「…流石は偽物とはいえ、神のカードの所持者だった男たちだ。

あの二人と互角に渡り合うとは…」

遊星「…ハラルドはどっちが勝つと思う?」

ハ「…わからない…、がこのまま戦えば…『知識』の面で差が出る
だろう…」

遊星「そうか…」

ド「俺のターン！」手札4 - 5 デッキ30 - 29

ド「…臆さず攻める！『極神皇トール』よ！『A・O・Jディサイ
シブ・アームズ』を粉碎せよ！ サンダーパイル！」

トール ATK3500 VS アームズ ATK3300

幽「ぐあああああつ…」LP1600 - 1400

ド「そして『極神皇ロキ』で『ダーク・クリエイター』に攻撃！

ヴァニテイ・バレット！」

ロキ ATK3300 VS クリエイター DEF3000

ド「これで俺はターンエンドだ」

13ターン目

幽 手札1 デッキ30 亮 手札4 デッキ23 LP1

400

セット2

ド 手札5 デッキ29 ブ 手札2 デッキ30 LP7

100

トール(A) ロキ(A)

亞「す…すげえ…、どっちも上級モンスターが途切れてない…！」
可「だけど…自己再生できる『極神皇ロキ』と『極神皇トール』が
フィールド上に存在するドラゴンさんとブレイブさんのほうが有利
ね…」

亞「大丈夫だって！二人なら絶対に負けないよ！」

可「…そうね！二人とも頑張った！」
亞「がんばれー！」

亮「…二人とも…、ありがとうな！」

行くぜ！俺のターン！！！」手札4 - 5 デツキ23 - 22

亮「幽兄の伏せたりバースカードを発動する！『リビングデットの呼び声』！自分の墓地のモンスター1体を攻撃表示で蘇生させる！蘇れ 、『サイバー・ドラゴン』！」
ド「くっ…『魔導雑貨商人』で落ちていたか…！」

亮「手札より『パワーボンド』発動！手札と場の『サイバー・ドラゴン』を融合する！」

サイバー流の力、ここに垣間見せる！2つの口より放たれる咆哮で敵を粉碎せよ！ 融合召喚！最強への布石！『サイバー・ツイン・ドラゴン』！」

『パワーボンド』の効果！このカードで融合召喚した機械族モンスターの攻撃力を、自身の攻撃力分上昇させる！」手札5 - 3
サイバーツイン ATK2800 - 5600

ブ「な…なんだとお!？」
ド「攻撃力3300の次は…攻撃力5600だど！」

亮「そして『サイバー・ツイン・ドラゴン』は一度のバトルフェイズで2回の攻撃が可能！」

『極神皇ツール』と『極神皇ロキ』に攻撃!!! エヴォ
リューション・ツイン・バアアアアストオオオオ!!!」
サイバーツイン ATK5600 VS ツール ATK3500

VS ロキ ATK3300 (計 - 4400)

ド「ぐおおおおおおおつ！」LP7100 - 2700

亞「やったあー！一気に逆転だぜ！」

可「だけど、『パワーボンド』のリスクはエンドフェイズに融合モンスターの攻撃力分だけ、ダメージを受けるわ、このままじゃ……」

遊星（二人の言うとおりだ、亮。この状況で2800のダメージだけでなく、『極神皇トール』のバーン効果800もある……、これはむしろ悪手に……）

亮「……気にするな、龍可。」

もう一枚のリバースカード 『レインボー・ライフ』発動！手札の『プロト・サイバー・ドラゴン』を捨て、このターンのダメージを回復にする！」手札3 - 2

ド「な……なんだと！」

ブ「ちっ……、なんてトリッキーな戦術だ……」

幽「……亮、流石だな」

亮「いや、これくらい当然だ！幽兄の足を引っ張らないようにしないとな！」

幽「……ああ！」

亮「俺はモンスターをセットして エンドフェイズ！」

『パワーボンド』の効果が発動され、『サイバー・ツイン・ドラゴン』の攻撃力 2800のダメージを受けるが……」

ド「……『レインボー・ライフ』で2800の回復に……」

亮「そういう事だ、これでライフアドも逆転したぜ！」LP140
0-4200

ド「だが、このエンドフェイズ 『極神皇トール』と『極神皇ロキ』のモンスター効果を使う！」

『極神皇トール』は墓地の【極星獣】のチューナー『極星獣グルフアクシ』、『極神皇ロキ』は【極星霊】のチューナー『極星霊デックアールヴ』をゲームから除外し、自身を特殊召喚する！

そして『極神皇トール』はこの効果で特殊召喚したとき、相手に800のダメージを与える！」

亮「だが、『レインボー・ライフ』の効果で800の回復となる！」
LP4200-5000

ド「そして、『極神皇ロキ』の効果で墓地の畏カード 『神の桎梏グレイプニル』を手札に加える！」手札5-6

14ターン目

幽 手札1 デッキ30 亮 手札1 デッキ22 LP5
000

サイバーツイン(A:5600) 裏守 リビング

ド 手札6 デッキ29 ブ 手札2 デッキ30 LP2
700

トール(A) ロキ(A)

ブ「……いいぜ！お前ら！」

幽「何だ、急に……」

ブ「こんな緊張感のあるデュエルは久しぶりだ！」

亮「…いきなり何を言ってるんだ…」

ブ「ドラガン！お前のすっげー楽しいだろ！」

ド「そうだな、お前らとのデュエルはチーム5D、sとも違う、自分たちと似たデュエル」だ。

こんなデュエルは今までやったことがない！」

亮「…たしかに」

ブ「もう神のカードの事なんてどうでもいい！

純粹にお前たちに勝ちに行くぜ！」

幽「…来い！」

ハ「…あんなにデュエルを楽しんでいる二人を見るのは初めてかもしれない…。

私たちは今まで『使命』のために戦っていたからな」

遊星「そうだな、最近は命がけのデュエルばかりだったからな」

遊星（…楽しむ気持ち…か、過去に…パラドックスと戦った時の…十代さんが言っていた…。

俺も忘れていたのかも…しれないな…）」

ブ「俺のターン…！！」手札2 - 3 デッキ30 - 29

ブ「俺はカードを2枚セットしてターンエンドだ！」

15ターン目

幽 手札1 デッキ30 亮 手札1 デッキ22 LP5

000

サイバーツイン(A:5600) 裏守 リビング

ド 手札6 デッキ29 ブ 手札1 デッキ29 LP2

700

トール(A) ロキ(A) セット2

幽「行くぜ！俺のターンだ！」手札1 - 2 デッキ30 - 29

幽(…あの伏せカードは間違はなく「サイバー・ツイン・ドラゴン」に対するカード…！

だが、この互いに消耗しきっている状況だ。本当に「サイバー・ツイン・ドラゴン」にのみ対策を絞っているだろう…、ならば…！)

幽「『死者蘇生』を発動！墓地より蘇れ！」A・O・Jデイサイシブ・アームズ「！！」手札2 - 1

ド「くっ…またそのモンスターか…！」

幽「バトル！「サイバー・ツイン・ドラゴン」で」

ブ「甘いぜ！「極神皇トール」をゲームから除外し、「極星宝グングニル」発動！これによりフィールド上のカード1枚 「サイバー・ツイン・ドラゴン」を破壊する！」

幽「くっ…ならば、「A・O・Jデイサイシブ・アームズ」で「極神皇ロキ」を攻撃する！ アルティメット・ライト・ブレイク…！」

ブ「向かい打て！ ヴァニティ・バレット…！」

アームズATK3300 VS ロキATK3300

幽「今、墓地に【極星霊】のチューナーは存在しない！これで「極神皇ロキ」は封じた！」

ブ「ちっ…」

幽「メインフェイズ2、俺は『メタモルポット』を反転召喚！互いに手札をすべて捨て、デッキからカードを5枚ドロウする！」

ブ「…！だが、ここでお前にアドバンテージを与えるわけには行かない！」

手札の『オーデインの眼』をコストに『天罰』を発動！相手のモンスター効果を無効にする！」

幽「な…んだと…！」

くっ「…ターンエンドだ！」

16ターン目

幽 手札1 デッキ29 亮 手札1 デッキ22 LP5

000

リビング

ド 手札6 デッキ29 ブ 手札0 デッキ29 LP2

700

(グングニル：0)

ド「俺のターン…！」手札6・7 デッキ29・28

ド(くっ「…手札が悪い…！ここにきて手札のモンスターが『極星獣
グルフアクシ』2体だけとは…！」)

ド「俺はカードを1枚セットして、『手札抹殺』を発動！互いに手札をすべて捨て、同じ枚数だけドロウする！」

ド 手札7 - 6 - 5 デッキ28 - 23 幽 デッキ29 - 28

ド (...この手札は...!)

ド「俺はカードを3枚セットし、モンスターをセット...ターンエン
ドだ!」

ド(このモンスターを...次のターンまで守りきれば...!)

17ターン目

幽 手札1 デッキ28 亮 手札1 デッキ22 LP5

000

リビング

ド 手札1 デッキ23 ブ 手札0 デッキ29 LP2

700

裏守 セット4 (グングニル:1)

亞「...展開がないね...」

可「もうデュエルも終盤...、みんな、モンスターが途切れはじめた
のね...」

亞「でも、さっきのドラガンの手札は7枚もあつたんだよ!」

ハ「...ドラガンのデッキは当然だが『極神皇ツール』を主軸とする
デッキだ。

逆に言えば、切り札の『極神皇ツール』がゲームから除外され
ている彼は、攻め手を失っている...。

反面、手札が少ないとはいえ、攻め手が多い黒田家の二人は…
神が居ない今、勝機が生まれてきたのかもしれないな」

亞「なるほど…、でも…」

ハ「ああ、『極星宝グングニル』の効果で『極神皇トール』が戻っ
てくる前に、勝負をつける必要がある。」

そうしないと、かなり厳しい戦いになる」

ブ「さあ！神は消えたぜ！この状況で攻めてこい！」

亮「…わかっている。このターンでこの激戦に終止符を打つ！」

亮（…俺の手札は『パワーボンド』のみ…。

…勝負をつけるには…ここで…起死回生の切り札さえドロ―出来れ

ば…！）

亮「ドロ―！！！！」手札1 - 2 デツキ22 - 21

ブ「…来るか！」

遊星「このターン、亮はどう動く…！！」

亮「……………」

……ターン……エンド」

18ターン目

幽 手札1 デッキ28

亮 手札2 デッキ21

LP5

000

リビング

ド 手札1 デッキ23

ブ 手札0 デッキ29

LP2

700

裏守 セット4 (グングニル:1)

ブ「…！」

ド「まさか…、何も動かないとは…！」

幽「…亮」

亮「…ごめん」

幽「…まだまだ、勝負はついていない」

幽（…俺のターンまで持ちこたえられれば…！

ブレイブの手札は0…、この状況なら…！）

ブ「俺のターンだ！」手札0 - 1 デッキ29 - 28

ブ「リバーズカードを3枚発動する！『神の柩楛グレイブニル』2枚と『死者転生』！」

幽「なっ…！」

亮「ここで『神の柩楛グレイブニル』だと…！」

ブ「俺は『神の柩楛グレイブニル』の効果でデッキより『極星霊リヨースアールヴ』2枚を手札に加える！」

『死者転生』の効果で手札1枚をコストに墓地のモンスター

当然『極神皇ロキ』を手札 エクストラデッキに戻す！」

手札1 - 3 - 2 デッキ28 - 26

幽「…？何をするつもりだ…！」

ブ「決まってるだろ！『極神皇ロキ』のシンクロ召喚だ！」

幽「チューナーもないのに…どうやって…！」

ブ「見せてやるぜ！トリックスターの最高の戦術を！

ドラガンが伏せたモンスターを反転召喚する！ 『Mare

of the Nordic Alfarr』！！」

幽「…え？」

亮「まさか…海外のカードだと…！」

幽「だが…ドラガンのデッキに入っていたなら、そのモンスターは

【極星獣】のはず！ 『極神皇ロキ』のシンクロ素材にはできない！」

ブ「残念だが、このモンスターは『the Nordic Alfarr』！すなわち…【極星霊】のチューナーモンスターだ！」

幽「な…、なんで【極星霊】のチューナーが…ドラガンのデッキに！」

ド「これはタッグデュエルだ、俺のデッキはモンスターが少ないからな。ブレイブの補佐としてこのカードをデッキに入れておいたのさ」

亮「まさか…」

幽「…トリックキーってレベルじゃないぞ…！」

幽「…だが、そのモンスターのレベルは2だ！手札のレベル4の『極星霊リョースールヴ』2体をシンクロ素材にするつもりだろうが、その前に…！」

ブ「甘いぜ！『Mare of the Nordic Alfarr』はシンクロ召喚するとき、このモンスター以外のモンスターは手札の【極星】2体でなければならぬ！」

幽「…な…！」

亮「手札の『極星霊リヨースアールヴ』のレベルは4…、『Mar
e of the Nordic Alfarr』はレベル2…」
幽「…合計レベル10か…！」

ブ「俺は手札のレベル4の『極星霊リヨースアールヴ』2体にレベ
ル2の『Mare of the Nordic Alfarr』
をチューニング…！」

星界より生まれし気まぐれなる神よ。絶対的な力を我らに示し
世界を笑え！シンクロ召喚！

光臨せよ！『極神皇ロキ』

！…！」手札2-0

幽「…せつかく倒したのに…まさか、もう一度シンクロ召喚してく
るなんて…！」

ブ「バトル！『極神皇ロキ』でダイレクトアタック！！ ヴァ

ニティ・バレット…！」

ロキ ATK3300 VS 直接

亮「ぐあああああああつ…！」 LP5000 - 2700

ブ「そしてこのエンドフェイズに『極神皇トール』は攻撃表示で戻
ってくる…！」

幽「…つ、くそ…っ！」

ブ「このまま頂戴するぜ！お前の命を！」

19ターン目

幽「手札1 デッキ29 亮 手札2 デッキ21 LP2

700

リビング

ド 手札1 デッキ28 ブ 手札0 デッキ26 LP2

700

トール(A) ロキ(A) セット

亮「…ぐっ…」

幽「…大丈夫だ、この勝負…俺が終わらせる！」

俺のターン!!!!」手札1 - 2 デッキ29 - 28

幽「俺は墓地の『ハウンド・ドラゴン』『バイス・ドラゴン』『スナイプストーリーカー』『サイバー・ダーク・ホーン』『サイバー・ダーク・キール』『レベルステイラー』『終末の騎士』…この7体をゲームから除外する!!!」

ド「な…自らカードを除外するだ」と!

遊星「…だが、この条件を満たした場合のみ、特殊召喚することができるモンスターが1体だけいる…!!」

幽「一筋の虹と暗き闇の世界、ここに交わりて最強の輝きと絶対的な暗黒の象徴を召喚せよ!!!!」 七色の輝きと共に現れよ!

! 『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン!!!!』」手札2 - 1

ド「『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』…!!」

ブ「攻撃力4000だと…!!」

幽「『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』は自分の墓地の
闇属性モンスターをすべてゲームから除外し、1体につき、自身の
攻撃力を500ポイントアップさせる！」

俺の墓地には『ハウンド・ドラゴン』『ダーク・クリエイター』
『A・O・Jデイサイシブ・アームズ』『A・O・Jカタストル』
『極星霊デックアールヴ』の5体！この5体をゲームから除外し、
『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』の攻撃力を2500
ポイントアップさせる！！」
レインドードークATK4000 - 6500

幽「終わりだ！『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』で『
極神皇ロキ』に攻撃！！！！」
レインボー・リフレクシオン！！
！！」

レインボードークATK6500 VS ロキATK3300

ブ「…見事だ…。」

だが…トラップ発動！！『極星宝メギンギョルズ』！！！！！！」

幽「…！なんだそのカードは！？」

ブ「このカードの効果により、フィールドの【極神】か【極星】1体を選択し、発動ターン中のみ、そのモンスターのダイレクトアタックを不可能にする代わりに、攻撃力・守備力を2倍にする！！」

幽「な…なんだと…っ！」

レインボーダーク ATK6500 VS ロキ ATK3300 - 6600

幽「くそおおおおおっ！」 LP2700 - 2600

幽「…だが…、俺のカードはまだ…！」

カードを1枚セットして…ターンエンド…だ！」

20ターン目

幽 手札0 デッキ28 亮 手札2 デッキ21 LP2

600

リビング セット

ド 手札1 デッキ28 ブ 手札0 デッキ26 LP2

700

トール(A) ロキ(A)

ド「行くぞ！俺のターン！！」手札1 - 2 デッキ28 - 27

ド「まず、『貪欲な壺』発動！墓地の『極星獣タングリスニ』2体、

『極星獣タングリヨースト』 『極星霊ドヴェルグ』 『極星將テユール』をデッキに戻し、2枚をドロ―！』手札2-3 デッキ27-32-30

ド「手札より装備魔法『極星宝ドラウプニル』を『極神皇トール』に装備！これにより攻撃力を800ポイントアップ！』手札3-2 トールATK3500-4300

幽「くっ…、攻撃力4300…！』

ド「残念だが、目的は攻撃力アップではない！手札より『ダブル・サイクロン』を発動！

これによりお前らのリバースカードと『極星宝ドラウプニル』を破壊する！』手札2-1

幽「…！チェインして発動！『異次元からの帰還』！LP半分をコストに俺はゲームから除外されたモンスターを可能な限り特殊召喚する！』LP2600-1300

ブ「ちっ！フリーチェインのカードだったか！』

幽「『異次元からの帰還』によりゲームから除外された『A・O・J・デイサイシブ・アームズ』 『A・O・Jカタストル』 『終末の騎士』 『ダーク・クリエーター』 『レベルステイラー』を異次元より帰還させる…！

特殊召喚した『終末の騎士』の効果！デッキより闇属性モンスター 『ネクロ・ガードナー』を墓地へ送る！』 デッキ28

- 27

ド「くっ！万全の防御か！

だが、カード効果で破壊された『極星宝ドラウプニル』の効果でデッキより【極星宝】と名のついたカード 『極星宝メギンギョルズ』を手札に加える！』手札0-1 デッキ30-29

幽「そのカードは…！」

ド「こちらも対策は万全にさせてもらおう！カードを2枚セットして、ターンエンドだ！」

幽「『異次元からの帰還』で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズに除外される…」

21ターン目

幽 手札0 デッキ28 亮 手札2 デッキ21 LP1

300

リビング

ド 手札0 デッキ29 ブ 手札0 デッキ26 LP2

700

トール(A) ロキ(A) セット2

ド「ぐ…、神のカード相手にここまで持ちこたえるとはな…！」

幽「ここまでやったんだ、褒めてほしいよ、本当にな」

亮「…次のターンを…今度こそ、このデュエルのラストターンにする！」

ブ「そうはさせるかよ！俺達も絶対に負けねえぜ！」

亮「…俺の手札は『パワーボンド』とさっきのターンにドロした『ダーク・ホルス・ドラゴン』…。」

本当に…次のドロにすべてがかかっている…！（）

亮「俺の…ターン!!!」手札2 - 3 デッキ21 - 20

亮「…手札より、『闇の誘惑』を発動する!デッキからカードを2枚ドローし、手札の『ダーク・ホルス・ドラゴン』をゲームから除外する!」デッキ20 - 18

ブ「くっ、ここで手札入れ替えをしてきたか!」

亮「手札より『貪欲な壺』を発動!墓地の5体のモンスター『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』『サイバー・レーザー・ドラゴン』『サイバー・ツイン・ドラゴン』『メタモルポット』『カード・ガンナー』の5体をデッキに戻し…さらに2枚ドロー!」手札3 - 4 デッキ18 - 22 - 20

亮「そして『マジックプランター』を発動させる!自分フィールド上の永続罫である『リビングデットの呼び声』を墓地へ送り、2枚をドロー!!!」手札4 - 5 デッキ20 - 18

ド「なんだと!手札を一気に5枚まで補充しただと!」
ブ「くっ…!」

だが知っているよな!場の伏せカードは『極星宝メギンギョルズ』!場の【極神】の攻撃力を2倍にする!手札が5枚あっても、この状況を打破できるはずがねえ!」

幽「…亮!行け!」

亮「見せてやるぜ!俺の切り札を!『死者蘇生』を発動!墓地より

『プロト・サイバー・ドラゴン』を蘇生させる！

そして、手札より通常召喚『プロト・サイバー・ドラゴン』！
手札5 - 3

遊星「…！あのモンスターは！」

龍亞「いつけー！亮！」

亮「『プロト・サイバー・ドラゴン』は表側表示で存在するとき名前を『サイバー・ドラゴン』をして扱う！」

ド「…『サイバー・ドラゴン』だと…！」

ブ「くつ、まさか融合召喚を行うつもりか！」

亮「手札より…『パワーボンド』発動！手札の『サイバー・ドラゴン』と場の『プロト・サイバー・ドラゴン』2体を融合！！

サイバー流究極の竜よ！神を surpass 絶対的な力で、万物を無にせよ！融合召喚！
最強の象徴！『サイバー・エンド・ドラゴン』
！！！！

『パワーボンド』の効果で攻撃力を4000ポイントアップさせる
！「手札3 - 1

サイバーエンド ATK 4000 - 8000

ド「攻撃力8000だとお！」

ブ「くつ、最後にこんな大型モンスターを召喚してくるなんて！

だが！『パワーボンド』の効果はターンエンド時に『サイバー・エンド・ドラゴン』の攻撃力 4000のダメージを受ける！
このターンが終わればお前たちの負けだ！」

亮「ならば、このターンで終わらせる！バトルフェイズだ！『サイバー・エンド・ドラゴン』で『極神皇ロキ』に
ド「トラップ発動！『デストラクション・ポジション』！場の『極

幽「亮！」

龍可「…！『リミッター解除』…機械族の切り札…！」

龍亞「『リミッター解除』の効果で『サイバー・エンド・ドラゴン』の攻撃力は…2倍になる…！」

ハ「…攻撃力16000か」

遊星「…二人の…勝ちだな」

ド「くっ…俺達が負けるだ…！」

サイバーエンド ATK 8000 - 16000 VS トール ATK

3500 - 7000

ド・ブ「ちくしょおおおおおおおおお！…！！」
6000 - 0

第15話
E
N
D

第15話 認める者（後書き）

T「…おい」

十「…なに？」

T「…次回予告だ」

十「……………」

T「……………」

十「…次回、遊戯王第16話『プライド』」

T「…いきなりやるか…」

十「神のカードを受けついで二人…、決戦に挑む前に…」

T「…短いな…、今日の台本は適当なのか？」

十「…読者に楽しみにしてもらうためよ」

T「なるほど…とりあえず次回のキーカードは…書いていないな…」

十「言ったでしょ、楽しみにしてもらうのよ」

T「…決して手抜きではないんだ、許してくれ」

M a r e o f t h e N o r d i c A l f a r

チューナー（効果モンスター）

星2 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻1000 / 守 500

このカードをシンクロ素材とする場合、

他のシンクロ素材モンスターは

手札の「極星」と名のついたモンスター2体でなければならない。

今回登場したもう一枚の未発売【極星】のカードである『極星宝メ
ギンギョルズ / Nordic Relic Megingjorð』
や【極星】のフィールド魔法『極星の輝き / The Nordic

Light's』はEXTRA PACK 4で登場するのだが、このカードは登場しないのだろうか？

8月26日現在だと、このカードだけ登場していないが、おそらくこのカードもEXTRA PACK 4に入る可能性は高い。

因みに日本語訳は『極星霊マーラ』と予想。あくまで勘なんですけど)

だがこのカードが既出の【極神皇ロキ】に入る可能性は少ない。

手札でシンクロ召喚する場合、手札のモンスターはレベル4の【極星】で『極星霊リヨースアールヴ』『極星獣ガルム』『極星将テュール』の3種類のみ。

『極神皇ロキ』を召喚するならば『D-DEROディアボリックガイ』や『魔轟神ソルキウス』、『簡易融合』を使用し、『レベルステイラー』のレベル調整で召喚するの普通。(小説で幽が使用している戦術)

【極星】縛りでも『極星霊ドヴェルグ』+『極星霊リヨースアールヴ』でのシンクロなので、いまひとつ使いにくい。

反面、小説だと魔法、罫を使用せずにいきなりシンクロ召喚を行うため、それなりに使いやすい。

第16話 プライド(前書き)

珍しく早く投稿です。

第17話も結構書き終わっているので早めに投稿したいです。

第16話 プライド

遊星宅前

元キン「…決着がついたか…」
龍亞「幽と亮が…勝った…！」

周りの（関係のない）人々が歓喜の声で叫ぶ。

黒田幽・黒田亮VSドラガン・ブレイブのデュエル

一進一退のデュエルを決した幽・亮に周りの（関係のない）人々が
歓喜の声で叫ぶ。

遊星「おめでとう、二人とも」

遊星が近寄り、言う。

幽「…、ああ…、これも遊星さんのおかげだ、本当に感謝していま
す」

亮「…だけど、かなり疲れたな…、やっぱり神の力はすごいな…」

地面に座り、肩で息をする二人。

そこにドラガンとブレイブも近寄ってくる。

ド「完敗だ、お前たちはすごい」

亮「…いや、全然ギリギリの勝負だっただろ」

ブ「本当は負ける気はしなかったんだけどな。」

「ただ、負けは負けだ。おめでとう、お前たちの勝ちだぜ」

幽「…ああ、俺達も勝てるとは思ってなかったぜ」

座り込んでいた二人が立つ。

向かい合う幽・亮・ドラゴン・ブレイブ。

ドラゴンとブレイブが1枚のカードを取り出す。

ド・ブ「…今ここで、汝らに神の力を授ける」

幽「…ありがたく受け取られていただきます」

亮「ありがとうございます」

二人がカードを受け取る。

その瞬間

幽「っ…、なん…だっ…！」
亮「ぐああ…っ、目が…っ」

二人が目を抑え、うずくまる。

ジャックが驚き、龍亞と龍可が近寄ろうとするが、ハラルドにとめられる。

遊星が焦った口調で叫ぶ。

遊星「おい！これはいったい何が起きているんだ！」

ハ「…これは神の力がドラゴンとブレイブから移っているんだ。

気にするな、少しすれば痛みも治まるだろう」

数分後

幽「はあ…はあ…、さっきまでデュエルで殺されかけていたのに…、次はなんだよ…」

亮「…死ぬかと思った…」

荒い息を上げているが、痛みは治まったであろう二人が言う。

ド「よく耐えた、それが耐えなかったら死んでいたぞ」

亮「…先に言ってくれ…」

ブ「でも、お前らは耐えた、これでお前らは本当に神の継承者だ」

幽「…そうか…」

そこに龍亞と龍可が寄ってくる。

亞「大丈夫？」

つて、うわっ！眼が！」

幽「ん？眼がどうかしたのか？」

可「自分で見たほうが信じやすいと思うわ。

はい、鏡」

幽「ん？」

…つて、眼が…！」

亮「これは…いったい…！」

彼らの眼には異様な模様が浮かび上がり、光っている。

光っている色も違い、亮の眼は緑色、幽の眼は赤色に光っている。

ブ「それが【極神皇】の証　『ルーンの瞳』だぜ」
可「へえ…これが『ルーンの瞳』…」
亞「すっげー！シグナーの痣みたいな感じか！」

自分の眼を鏡越しで見ている幽と亮。

幽「…これが…俺たちの証か…」

亮「伝説の瞳か…、なんか実感はないな」

ド「そんなものだ、実感なんてないだろう」

ブ「だけど、お前らの神は本物だ。」

その力の使い方だけは気をつけるよ」

幽「…わかった」

亮「気を付けます」

全員真面目な雰囲気になり、黙ってしまったが…

ブ「つてことで、今のお前らじゃ神の力は使いこなせないだろうから、俺達からプレゼントだ！」

幽「…彘？」

雰囲気が一変し、ついていけない。

ブ「『彘？』じゃねえよ！お前のデッキなんて既出の【ダークモンスター】に『極星霊デッキアールヴ』を入れてるだけじゃねえか！俺がしつかりと最大限『極神皇口キ』を使いこなせるようにデッキ改良をしてやるよ！」

幽「…あ…ああ、ありがとう」

ド「お前にも必要か？」

亮「…ぜひ…お願いします…」

4人は他に人を無視して、その場に座り込み、話し出す。

さっきまで対立していたそんな4人をぼーっと見ている人たちもいた。

可「…あの人たち、仲がいいんだか、悪いんだか…」

亞「そっくだよね…」

遊星「これからどうするんだ？」

ハ「…ドラガンもブレイブもあの二人の力を認め、力を貸している。

流石の私もこんな状況で『帰るぞ』とは言えない」

遊星「そっか…。」

飯でも食っていくか？カップ麺でよければ、だが」

八「…御馳走してもらおうか」

元キン「おいしい！遊星！まさか、また俺のカップ麺を使ってもらいか
ああ…！」

遊星「ジャック、キングはカップ麺一つを出し惜しみするような人
柄では、なれないと思うが？」

元キン「ぐぐぐ…、わかった！

思いつきり食うが良い！」

泣きながらカップ麺を出すジャック。

…どこにあつたんだ？という突っ込みはダメ。

遊星「…ジャック」

元キン「どうしたあ！遊星！」

遊星「外で食うのか？」

元キン「…！」

しまったっ！と言いたげな顔をするジャック。

遊星「…運ぶぞ」

元キン「ああ…！」

遊星「龍亞、龍可、すまないが、あの4人を呼んできてくれ」

亞「わかった！」

可「はい」

その日の夜

幽「…いいのか？こんなにカードを貰っても？」

ブ「ああ、大丈夫だぜ」

デッキ改良をして、何回かデュエルをして、夕食を食^{カッブライメン}べて…
すでに夜10時を過ぎていた。

ブ「…それじゃあ、俺たちは行くぜ。

しっかり戦ってこいよ！」

ド「お前らはすでに神の力を手に入れている。

負けたら許さんぞ！」

亮「…はいはい」

幽「…最後までお世話になりました」

遊星「ハラルド、今日はありがとう」

ハ「こつちこそ、面白いデュエルを見た。

遊星、ありがとう」

そう言つて、Dホイールに乗る3人。

ハ「遊星」

遊星「どうした？」

ハ「…いつ、行くのだ？」

どこへいくか？

決まっている。決戦へ

黒田豪の元へ。

遊星「…明日だ」

ハ「…そうか」

ブ「幽！絶対に勝つてこいよ！」

幽「…ああ！」

ド「お前らなら勝てる。

自信を持って戦つてこい！」

亮「わかっている。二人から貰った力で勝つてみせる！」

そう言つと、走り出す3人。

ブレイブは手を挙げ振つていて、ドラガンは親指を突き立てている。それに対し、手を振つてこたえる幽・亮・龍亞・龍可。

遊星「…今日はもう遅い、泊まっていくな？」

幽「心遣い感謝する。だけど、準備もあるし、今日は帰ろうと思う」

遊星「そうか、ならば送ろう」

幽「…ありがとうございます」

そうして仕事から戻ったクロウを呼び出す。

文句を言いながらもクロウは遊星と共に、二人をDホイールに乗せて走り出した。

幽「…明日、8時に、ここ集合でいいか？」

遊星「ああ、わかった」

亮「最後までお世話になりました」

クロウ「それじゃあ、しっかり寝ろよ！」

幽「…あ、ああ…」

妙な言葉を残してその場を去る遊星とクロウ。

幽「…久しぶりの家だな」

亮「そうだな…」

この二人も妙な言葉を残して、家に入り、床に就く。

チーム5D、そして黒田幽と黒田亮。

それぞれが、それぞれの想いを胸に…

誰かを護るために　　誰かを闇から救い出すために
仲間として、友人として、肩を並べ

…そして、動き出す…、「彼ら」

決戦当日

時刻は午前7時55分。

すでに黒田家に4台のDホイールと2台スケボーに乗った男女が居た。

不動遊星、ジャック・アトラス、クロウ・ホーガン、鬼柳京介、龍亞、龍可の6人だ。

幽「…早いな」

亮「お待たせしましたー」

そこへ、家から出てきた、幽・亮が来る。

遊星「…いや、大丈夫だ」

元キン「キングを待たせるとは、いい度胸だ！」

亮（…元キングのくせに…）

元キン「『元』キングだとおおおおおお！！！！！」

亮「げっ！なんで俺の考えていることが分かったんだ！」

元キン「黙れええええええ！！アブソリュート・パワーアアアアアアオオオオオオオオス！！！！！」

Dホイールでタツクルしてくる元キング…自称キング。

クロウ「ジャック！それはまずいだろ！」

満足「…元キングじゃ満足できねえぜ…」

元キン「何イ！！鬼柳！お前までそんなことを言うのかああああ！」

亮に直撃する直前に、反転して鬼柳にタツクルしてくる元キング。

擬音語「ドガシャーン」(笑)

ある程度の騒ぎはあったが、落ち着く。

龍可「全く…、みんな騒ぎすぎよ」

元キン・鬼柳・亮「」「ごめんなさい」「」

12歳の少女に頭を下げる20歳・21歳・16歳。
なんともありえない絵である。

遊星「…準備はできたか？」

幽「俺たちはばっちりだ」

クロウのDホイールに乗りつつ返答する幽。

クロウ「…最近、重量オーバーでブラックバードが音をあげているんだが…」

その咳きは誰にも聞きとられなかった。

流石、苦勞人クロウである。

元キン「さあ、俺はいつでもいいぞ！」

龍亞「よし！俺も頑張るぞー！」

龍可「頑張ろう！幽さんと亮さんのために！」

満足「…さあ、満足させてもらおうか？」

亮「黒田豪…、母さんの敵…」

幽「この戦いで…俺たちの、因縁の鎖を断ち切る！」

クロウ「よっしゃ！いつでもいけるぜ！」

遊星「…アキ…。」

行くぞ！みんな！！」

その言葉と同時にDホイールが走り出す。

…はずだった。

「待て!」「待って!」「待てよ」

この言葉が聞こえるまでは

振り向く一回。

そこに立ってこのは...

幽「…お前ら…」

クロウ「…隼人、綾香、望、実、…神太郎」

突き放したはずの仲間が立っていた。

元キン「亮、あいつらは？」

ジャックのDホイールに乗っている亮に聞く。

近くの龍亞と龍可も亮を見ている。

亮「…デュエルアカデミア3年生、幽兄の同級生であり、同じ生徒会の仲間…。」

いや、親友と言ってもいい」

満足「…仲間のために、駆け付けた…って感じだな。

へっ、満足させてくれる仲じゃねえか」

遊星「…幽」

幽「…何をしに来た。

以前になんどここにいる？」

天保「細かい説明が必要か？」

幽「…遠慮しておく」

因みに、彼らがこんなにタイミングよく居る理由は天保の考えからだ。

彼らが家に帰ってこないのは、デュエルの特訓だと知った彼は、逆にいつ帰ってくるかを考えた。

天保の考えでは、彼らが帰ってくるのは、性格的・時間的に、決戦直前

あるいは、重要な戦いの直後だと考えた。

そして、ハッキング経由で星界の三極神の持ち主であるドラガンとブレイブのデュエルを知り、それを区切りと考え、実に連絡。

二人が帰ってきたら伝えてくれと。

家が近いため、窓越しから見張っていた実。

2台のDホイールが黒田家に止まったのを見て、暗くて顔が見えなかったが二人と確信した実は、計画通りに全員に連絡。

そして黒田家に一番近い実の家で見張りをしていたという、単純な考えだった。

天保曰く、「面倒なことを考えるより、単純な計画のほうが体力が残る」だそうだ。

すなわち、考えすぎは体に悪い、ということですね。

話がそれました。

幽「…もう一度聞く、何の用だ？」

天保「…これは俺の口より、他の奴らから聞いたほうがいいだろう」
そう言つて、天保が下がる。

逆に他の全員　隼人、綾香、望、実の4人が前に出る。

幽「…何の用だ？」

隼人「…決まつてるだろ。共に戦いに来たんだ」

綾香「…私たち…仲間でしょ？」

望「黒田さん…！」

実「…幽君、私たちだって…一緒に戦いたいんだよ！」

黙る幽。

少ししたら口を開いた。

幽「…、無理だ」

隼人「…どうしてだ…」

幽「…お前らには関係ない…」

実「…幽君…！」

幽「…じゃあな」

無視して背中を向ける幽。

だが、仲間は過去のようにその背中を見届けるだけではなかった。

隼人「…仕方ない」

その言葉を同時に、幽のデュエルディスクに何かがついた。

幽「…？なんだこれは？

ワイヤー？」

そのワイヤーは隼人のデュエルディスクとくっついている。

幽は『？』な顔だったが、そのワイヤーを見てリアクションを見せる人もいた。

元キン「おい！あのワイヤーはまさか！」

遊星「まさか…そんなことが…」

クロウ「ああ…鬼柳…、間違いねえよな…！」

3人が驚き、鬼柳に確認する。

満足「…間違いない、あれは…チームサティスアクション専用の…満足式ワイヤーだ…！」

満足式ワイヤー

それは、遊星達がまだサテライトに居た時代…サテライト統一のために使っていたワイヤーだ。

他のチームが使っていたヘボワイヤー（笑）とは違い、遊星がぶら下がっても切れない（実際切れていなかったし）、手錠部分には『満足』の文字が書かれていて（名前のつもり）、おまけにメタリック加工でかっこいい！（関係ない設定）すなわち、特別なワイヤーである。

逆に言えば、本来なら持っているのはチームサテイスアクション以外あり得ないはずだった。

当然、残っている満足式ワイヤーは一つもなく、サテライト統一ですべてのワイヤーを、爆殺してしまったため、本来残っているはずがない、レアな代物だ。

因みに、元々はメ蟹ツクこと不動遊星が日夜作っていたり。

元キン「何で貴様らがそのワイヤーを持っている！」

だが、隼人の代わりに天保が反応した。

天保「…流石は不動遊星のPCだ。世代が古くてもセキュリティよりも数百倍強固なPCだったよ。まったく、このデータを取るだけにどれだけ時間をかけたか…。」

それ以外のほとんどデータには入り込むことすらできなかったし…。」

彼が持っている紙には、満足式ワイヤーの設計図があった。

言わなくても、わかるところが彼が遊星のPCにハッキングし、このデータをこっそり貰っていた。

これは犯罪です、良い子は決して真似しないでね

遊星「くっ…！」

天保「あ、でもよ、流石に爆 殺はまずいからな、どっちかのLP
が0になれば外れるようになってるぜ」

ゆったり説明する天保。

隼人「…力を証明すればいいんだろ？」

幽「…ちっ」

懐からデッキをだし、セットする幽。

幽「…皆、すまない。」

少しだけ、デュエルをするぜ」

隼人「…、ようやく、やる気になったか」

亮「…幽兄…」

龍亞「…おいおい、どうするんだよ…！まさか、こんなことになる
なんて…」

クロウ「…いいのか、遊星？」

遊星「…ああ、仕方ないさ。」

こうでもしないと、彼らも引き下がってはくれないだろうか

らな
」

実「…幽君…隼人君…」

幽「…行くぞ！隼人！！」
隼人「来い！幽！！」

幽・隼人「デュエル！！！！」

幽LP8000 手札5 デッキ35
隼人LP8000 手札5 デッキ35

幽「俺の先攻だ、ドロー！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

幽「手札より『増援』発動、デッキより『終末の騎士』を手札に加え、召喚する！」

その効果でデッキより『レベルステイラー』を墓地へ送る「
手札6 - 5 デッキ34 - 33 - 32

遊星（おい、説明しろよ。

『増援』はデッキよりレベル4以下の戦士族モンスターを手札に加えるカードだ。『終末の騎士』のレベルは4で戦士族だから手札に加えたんだ。

『終末の騎士』の効果は召喚・反転召喚・特殊召喚時にデッキより闇属性モンスター1体を墓地へ送る効果だ。

どちらも有名カードで特に『増援』は制限カード、知っている人も多いと思うが、一応説明するべきだぞ…（

綾香「いきなり、2枚のデッキ圧縮！」

望「…比較的ありがちな展開だけど…早くも布石を打たれたね…」

幽「…ターンエンドだ」

1ターン目

幽LP8000 手札5 デッキ32 末騎士（A）

隼人LP8000 手札5 デッキ35

隼人「俺のターンだ！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

隼人「手札より、『ホルスの黒炎竜LV4』を召喚する！」手札6
- 5

元キン「…攻撃力1600か…、これで『終末の騎士』は倒せるな」

隼人「バトル！『ホルスの黒炎竜LV4』で『終末の騎士』に攻撃
！！　　ダーク・ブレス！！」

ホルス4 ATK1600 VS 末騎士 ATK1400

幽「…まさか『ホルスの黒炎竜LV4』で戦闘破壊してくるとは…」
LP8000 - 7800

隼人「そして、エンドフェイズに戦闘破壊した『ホルスの黒炎竜LV4』を墓地へ送り、デッキより『ホルスの黒炎竜LV6』を特殊召喚する！」デッキ34 - 33

2ターン目

幽LP7800 手札5 デッキ32

隼人LP8000 手札5 デッキ33 ホルス6(A)

幽「…俺のターンだな、ドロ」手札5 - 6 デッキ32 - 31

幽「…さて、この手札じゃ攻撃力2300のモンスターを止められないな…。」

次のターン、結構ライフアドの差をつけられそうな気がするが

…、まあ、いいか)

幽「モンスターをセット、ターンエンド」

3ターン目

幽LP7800 手札5 デッキ31 裏守

隼人LP8000 手札5 デッキ33 ホルス6(A)

龍亞「ちよつと！このままじゃ、幽が負けちゃうよ！」

龍可「…手札が悪いのかしら？」

元キン「違うな、俺は奴のデュエルを結構見てきたからわかるが、あのモンスターは、勝利への布石だろう」

隼人(…間違いなく『魔導雑貨商人』…、そして次のターンで『ダーク・クリエーター』を特殊召喚し、さらに墓地へ送られたモンスターを蘇生させる…ってわけだな。

さて…、わかっているても、墓地へ送られるモンスターによっては手痛い反撃を受ける…、どうしたものか…)

隼人「…ドロー！」手札5 - 6 デッキ33 - 32

綾香「…あのセットモンスター」

望「…『魔導雑貨商人』だよな？」

実「やっぱり二人もそう思うんだ…、幽君の基本戦術だからね…」

隼人「…よし！『ミラージュ・ドラゴン』召喚！」手札6 - 5

幽「ちっ、『ミラージュ・ドラゴン』…」

隼人「バトル！『ホルスの黒炎竜LV6』でセットモンスターに攻撃！
ダーク・フレイルム！」

ホルス6 ATK2300 VS 雑貨DEF700

幽「…『魔導雑貨商人』のモンスター効果！デッキよりカードをめくり、最初に出た魔法・罫カードを手札に加え、それ以外を墓地へ送る！

俺のデッキは上より『ダーク・アームド・ドラゴン』『ダーク・ホルス・ドラゴン』『終末の騎士』『魔王ディアボロス』『ダーク・シムルグ』『神の桎梏グレイプニル』『神の桎梏グレイプニル』を手札に加え、それ以外の5枚のモンスターを墓地へ送る」手札5 - 6 デッキ31 - 25

隼人「ちっ…『ダーク・ホルス・ドラゴン』が落ちたか…、まずいな…。

『ミラージュ・ドラゴン』でダイレクトアタック！ 幻

影の吐息！」

ミラージュ ATK1600 VS 直接

幽「…ちっ」LP7800 - 6200

隼人「エンドフェイズ、戦闘破壊した『ホルスの黒炎竜LV6』のモンスター効果！このカードを墓地へ送り、デッキより『ホルスの黒炎竜LV8』を特殊召喚する！」デッキ32-31

4ターン目

幽LP6200 手札6 デッキ25
隼人LP8000 手札5 デッキ31 ホルス8(A) ミラー
ジユ(A)

綾香「…簡易型だけどホルススロットクの完成ね…」

望「でも、バトルフェイズ限定じゃ少し厳しいかもね…」

天保「…だが、返しのターンに『ダーク・クリエーター』を召喚されたら一気に崩れる…、ハンドアドも若干不利なんだ、この状況を崩されると厳しいぞ…」

実「……」

遊星「…このデュエル、どう見る？」

元キン「ふん、あの男がそこらの高校生に負けるわけがないだろう！」

クロウ「だが、隼人も相当の実力だ、まだわからないぜ」

満足「…俺も、この状況で勝敗を判断するのは早いと思う」

亮「…幽兄は神の力を使いこなしている、負けるとは思えないな…」
龍亞「だけどさ、神のカードなんて出したら、あの人たちを傷つけることになるんじゃない？」

龍可「そうだよね…、幽さん、どうするんだろう？」

隼人「…さて、すでに逆転の一手は手札に揃っているんだろ？」

来いよ、お前の全力で！俺が打ち砕いてやる！」

幽「…行くぞ！俺のターン！！！」

始まった、仲間同士のデュエル

どちらも違う形と言えど、自分の信じる形で仲間を護る二人に勝利の女神は微笑むのか？

第1章クライマックス！

第16話
E
N
D

第16話 プライド（後書き）

遊星「おい」

中の人「ん？」

遊星「次回予告しろよ」

中の人「……………」

遊星「……とりあえず、無計画な投稿はやめたほうがいい」

中の人「……すみません」

中の人「次回予告！遊戯王第16話『激戦』！

一進一退を続ける二人、その戦いを動かす1枚が！

キーカードは『未来融合』フューチャー・フュージョン！

楽しみに待っていてください！」

第17話 激戦（前書き）

はじめに謝罪。

あれ？今回の題名は『運命の2ターン』では？と思う人もいるかもしれません。

非常に申し訳ありませんが、デュエルの区切り上、変更させていた
だきました。

本当に申し訳ありません。

では、待っている人も少ないかもしれませんが第17話『激戦』を
お楽しみ下さい！

第17話 激戦

4ターン目

幽LP6200 手札6 デッキ25

隼人LP8000 手札5 デッキ31 ホルス8(A) ミラー

ジユ(A)

幽「行くぞ、俺のターンだ！」手札6 - 7 デッキ25 - 24

綾香「…手札…7枚…！」

望「だけど…、ボードアドは氷炎さんのほうが上だよ！」

天保「…だが、黒田には墓地アドがある…、ボードアドはあっさり
逆転されそうだな」

幽「俺は墓地の闇の闇属性モンスターが7体なので、手札の『ダーク・クリエイター』を特殊召喚する！」手札7 - 6

満足「…『ダーク・クリエイター』…、墓地の闇属性モンスターが5体以上の時、手札から特殊召喚出来るモンスターだな」

遊星「そして、1ターンに一度、墓地の闇属性モンスターをゲームから除外し、墓地の闇属性モンスター1体を特殊召喚するモンスターだ、すでに『ダーク・ホルス・ドラゴン』が落ちている幽はこれで2300と3000のモンスターの特殊召喚は決定したな」

幽「『ダーク・クリエイター』のモンスター効果、墓地の『魔王デ

イアポロス』を除外して、『ダーク・ホルス・ドラゴン』を蘇生させる！」

隼人「くっ…、やはり呼んできたか…！」

幽「さらに、墓地の『レベルステイラー』のモンスター効果！自分の場のレベル5以上のモンスター1体のレベルを1つ下げ、このモンスターを墓地から特殊召喚できる！俺は『ダーク・クリエーター』のレベルを7に下げ、特殊召喚する！」
クリエーターLv8-7

綾香「黒ちゃんの得意モンスター…『レベルステイラー』…！」
望「…まだ黒田さんは通常召喚を行っていない…」
実「狙いはシンクロ召喚か…、アドバンス召喚…！」

幽「俺は『レベルステイラー』をリリース！現れる、『ダーク・パーシアス』！」

「『ダーク・パーシアス』の攻撃力は墓地の闇属性モンスターの数×100ポイントアップする。俺の墓地の闇属性は5体なので『ダーク・パーシアス』の攻撃力は500ポイントアップする！」
手札6-5

パーシアス ATK1900-2400

龍亞「おおー！攻撃力2000以上のモンスターが3体も！」
元キン「ふん！中々のパワーだな！」

幽「バトルフェイズに入る、『ダーク・ホルス・ドラゴン』で『ホルスの黒炎竜Lv8』に攻撃！
ダークネス・ギガフレイム！
！！」

隼人「…向かい打て、『ホルスの黒炎竜Lv8』！
ブラック・

メガフレ임!!!」

闇ホルスATK3000 VS ホルス8ATK3000

幽「墓地の闇属性モンスターの増加により『ダーク・パーシアス』の攻撃力は変化する」

パーシアスATK2400 - 2500

隼人「苦勞して進化させたモンスターを……!」

幽「……残念だったな……、『ダーク・クリエーター』で『ミラージユ・ドラゴン』に攻撃! 地獄の雷!」

クリエーターATK2300 VS ミラージユATK1600

隼人「くっ……」LP8000 - 7300

幽「そして、『ダーク・パーシアス』でダイレクトアタック!

ダークネス・スラッシュ!」

パーシアスATK2500 VS 直接

隼人「一気に逆転されたか……!」LP7300 - 4800

幽「『ダーク・パーシアス』は戦闘ダメージを与えたとき、墓地の闇属性モンスターをゲームから除外することで、デッキからカードを1枚ドロウ出来る。俺は『ダーク・アームド・ドラゴン』を除外して、1枚をドロウする!」手札5 - 6 デッキ24 - 23

隼人「だが、これで闇属性が1体減った!『ダーク・パーシアス』の攻撃力は100ポイントダウンする!」

パーシアスATK2500 - 2400

幽「俺は……カードを1枚セットして、ターンエンドだ」

隼人（……『神の桎梏グレイプニル』か?）

5ターン目

幽LP6200 手札5 デッキ23 クリエイター(A・LV7)
パシマス(A:2400) セット
隼人LP4800 手札5 デッキ31

綾香「…ハンドアドと同じ、でもボードアド・墓地アド・ライフアドで負けている…」。

いきなり不利な状況に立たされたね…」

天保「…大丈夫だ、隼人がこの状況を考えていないわけがない」

望「たしかにそうだけど、流石に厳しくないかな？」

天保「まあ、見てろって」

隼人「…俺のターンだ！」手札5 - 6 デッキ31 - 30

隼人(まさか、いきなり上級モンスターを展開してくるとは…)。

だが、俺も防御線を張っていないわけじゃない…。それに対策も準備しているしな…!)

隼人「カードを2枚セット、モンスターをセットして、ターンエンドだ」

6ターン目

幽LP6200 手札5 デッキ23 クリエイター(A・LV7)
パシマス(A:2400) セット
隼人LP4800 手札3 デッキ30 裏守 セット2

実「ちよつと天保君！隼人君、全然対策出来てないよ！」

天保「…まずは、墓地アドからつてことだ」

実「…え？」

元キン「決まったな、この勝負」

クロウ「そうだな、次のターン『神の柩楛グレイプニル』で『極星
霊デッキアールヴ』をサーチして『極神皇ロキ』を召喚すれば、相
手の罫を無効にできる。

その上、『ダーク・ホルス・ドラゴン』まで特殊召喚すれ
ば、3体の合計攻撃力は7600。壁モンスター1体でどうこうで
きるレベルじゃねえからな」

遊星「…だが、まだこの勝負は続く気がするんだ」

元キン「遊星？」

幽「俺のターンだ、ドロ」手札5 - 6 デッキ23 - 22

幽「リバースカード、『神の柩楛グレイプニル』発動！このカード
の効果により、デッキより【極星】のモンスター 『極星霊デ
ッキアールヴ』を手札に加える！」手札6 - 7 デッキ22 - 21

実「…『極星霊デッキアールヴ』…！」

綾香「しかも、また手札が7枚に…」

幽「俺は墓地の『レベルステイラー』の効果を使う！『ダーク・
クリエイター』のレベルをさらに1下げて、『レベルステイラー』
蘇生！」

クリエイターLv7 - 6

隼人「…この戦術は…！」

幽「『レベルステイラー』をリリースして『極星霊デックアールヴ』をアドバンス召喚！」

再び『レベルステイラー』の効果で次は『ダーク・パーシアス』のレベルを4に下げ、特殊召喚！」手札7 - 6

龍可「…『レベルステイラー』と『ダーク・パーシアス』、そして『極星霊デックアールヴ』…、合計レベル10…！」

龍亞「相変わらず簡単にレベル10のシンクロをするなあ…！」

幽「すまない…、お前らにわかってもらうにはこうするしかないんだ。

…レベル1『レベルステイラー』とレベル4『ダーク・パーシアス』の2体にレベル5『極星霊デックアールヴ』をチューニング！

世界を闇に沈めた暗黒の神よ、すべてを掌握し王として再び玉座を黒く染めよ！シンクロ召喚 降臨せよ！『極神皇ロキ』！！！」

天保「…これが、星界の三極神ねえ…、流石、尋常じゃない威圧感だ」

実「…、なんか…前と違う…っ」

綾香「たしかに…なんか、とても苦しいし…」

望「なんだろう…、恐怖すら感じる…」

遊星「…出たか、『極神皇ロキ』…」
龍亞「す…すごい…、いつ見ても…」
龍可「うん…」

幽（…本物の神のカード…、使っている俺だってすごい威圧感なんだ…、あつちはやばいんだろうな…）

隼人「…神のカード…！逃げ出したくなるくらいの威圧だな…！」

幽「…逃げ出してくれるとうれしいんだがな…」

隼人「…嫌だね、こんなの想定内だし」

幽「…『ダーク・クリエイター』の効果発動、『終末の騎士』を外し、再び『ダーク・ホルス・ドラゴン』を特殊召喚する！

…これが最後のバトルフェイズだ！『極神皇ロキ』でセットモンスターを攻撃！！
ヴァニティ・バレット！！！！

ロキ ATK 3300 VS 仮面竜 DEF 1100

幽「…『仮面竜』…だと…」

隼人「…そう簡単には終わらないぜ！『仮面竜』は戦闘破壊されたとき、デッキより攻撃力1500以下のドラゴン族モンスター1体を特殊召喚できる！2体目の『仮面竜』を守備表示で特殊召喚！」
デッキ30 - 29

幽（…隼人の狙いは『仮面竜』からキーカードを呼び出すこと…、だが俺のモンスターの攻撃は残り2回…、適当に攻撃していたらキーカードの特殊召喚を許してしまう…）

幽「『ダーク・ホルス・ドラゴン』で『仮面竜』に攻撃！
イクネス・ギガフレイム！！」

闇ホルス ATK 3000 VS 仮面竜 DEF 1100

隼人「ならば、3体目の『仮面竜』を特殊召喚する！」デッキ29
- 28

幽（ここで出てくるのが…キーカードだから…っ）

幽「…攻撃はしない…」

隼人「…そうか」

幽「これで俺はターンエンドだ」

7ターン目

幽 LP 6200 手札6 デッキ21 クリエイター（A・LV7）

ロキ（A） 闇ホルス（A）

隼人 LP 4800 手札3 デッキ28 仮面竜（D） セット2

綾香「…受け切ったね…、あのモンスター達の猛攻を…」

実「だっ…だけど…、不利なことには変わりないよ…」

天保「そんなことはない、隼人はしっかりと布石を残しておいたさ」

望「…氷炎さん…！」

隼人「行くぞ！俺のターン！！」手札3 - 4 デッキ28 - 27

隼人「トランプ発動！『針虫の巣窟』！」
幽「…！」

龍亞「…『針虫の巣窟』??」

龍可「遊星？あのカードつて？」

遊星「…デッキの上からカードを5枚墓地へ送るカードだ」

龍亞「それで？」

遊星「…それだけだ」

龍亞「え？そんなカード何の意味が？」

元キン「俺もわからん、たしかに墓地は肥えるが奴のデッキは【ホルスの黒炎竜】と見た。墓地肥やしに意味があるとは思えん」

満足「それでも満足するしかねえだろ」

クロウ「…いや、言葉が繋がってないぞ」

幽（…『氷炎の双竜』…、あのカードの効果で墓地に水属性をためるつもりか…）

隼人「…デッキの上からカードを5枚墓地へ送る…『青氷の白夜竜』
『スクリーチ』『死者転生』『ヴォルカニック・バレット』『ハリ
ケーン』…この5枚を墓地へ送る！」デッキ27-22

遊星「…なるほど…そういうことか」

クロウ「どういうことだ？遊星？」

遊星「彼のデッキは【ホルス】も使っているが…本当の切り札は…」

隼人「俺は墓地の『青氷の白夜竜』『スクリーチ』『仮面竜』の3

体をゲームから除外し

混じること無き二つが生み出した産物よ！その常識を覆す咆哮で敵をかき消せ！
出でよ！我が切り札
『氷炎の双竜』

！！！！」手札4-3

元キン「『氷炎の双竜』！くっ、奴のデッキは『フロフレホルス』だったのか！」

龍可「『フロフレホルス』？」

遊星「水属性モンスターと炎属性モンスターにドラゴン族を多く採用し、『氷炎の双竜』とサポートカードを共有するデッキだ。特に除去に弱い『氷炎の双竜』を魔法・罠カードから守るため、『ホルスの黒炎竜』や『ミラージユ・ドラゴン』などのドラゴン族も使っているデッキだ」

龍可「なるほど…、難しいデッキを使っているのね…」

隼人「墓地の『ヴォルカニック・バレット』の効果！1ターンに一度LP500をコストにデッキから『ヴォルカニック・バレット』1枚を手札に加える！」手札3-4 デッキ22-21 LP4800-4300

幽「ちっ…、手札コストを確保したか…」

隼人「俺は『氷炎の双竜』の効果発動！手札の『ヴォルカニック・バレット』をコストに、フィールド上のモンスター1体を破壊する！
『極神皇ロキ』を破壊！」手札4-3

幽「…」

実「！なんで『極神皇ロキ』を破壊するの！」

天保「…この状況なら普通のはずだが？」

綾香「いえ、『極神皇ロキ』は相手によって破壊されたエンドフェイズに墓地の【極星霊】のチューナーを除外して、自身を特殊召喚する効果があるから、普通だったら別のモンスターを破壊するはず

…」
天保「…なら隼人が狙っているのは…」

幽「悪手だな、お前だって『極神皇口キ』の効果は知っているはずだが？」

隼人「そうだな、だけど今はそのこと以上に、攻める！」

現れる『デブリ・ドラゴン』！！！！

『デブリ・ドラゴン』の効果！召喚に成功したとき、俺の墓地の攻撃力500以下のモンスター1体の効果を無効にし、特殊召喚する！『ヴォルカニック・バレット』蘇生！」手札3-2

綾香「チューナーモンスター…、でも『デブリ・ドラゴン』でシンクロ召喚するならドラゴン族シンクロモンスターでなければいけないはず…」

天保「そうだ、だからするんだよ。シンクロ召喚をな」

望「レベル5…？いや…、レベル7のシンクロ召喚…？」

隼人「俺はレベル6『氷炎の双竜』にレベル4『デブリ・ドラゴン』をチューニング！！」

三つ首の龍！今生け贄を喰らいて、大群を殲滅する真の力を我らに見せつけよ！シンクロ召喚！ 焼き尽くせ！『トライデ

ント・ドラギオン』！！！！」

幽「…『トライデント・ドラギオン』…！高難易度のモンスターを召喚してきたな…」

隼人「俺は『トライデント・ドラギオン』の効果を発動！シンクロ召喚成功時に俺のフィールド上のカード2枚まで破壊し、その数だけ攻撃回数を増やす！」

龍亞「嘘だろ！攻撃力3000の3回攻撃！？」

龍可「だけど、自分のカードを破壊してまで…、使いこなすのが難しいカードね…」

遊星「…見事な戦術だ。『デブリ・ドラゴン』で『トライデント・ドラギオン』で破壊するカードを増やす…、無駄のない戦術だ」

隼人「俺は『ヴォルカニック・バレット』『仮面竜』の2枚を破壊し、このターン『トライデント・ドラギオン』は3回の攻撃を可能とする！」

幽「だが、『ダーク・ホルス・ドラゴン』の攻撃力は3000、相打ちでは連続攻撃も無駄になるぞ」

隼人「些細な問題だ！バトルフェイズ、『トライデント・ドラギオン』で『ダーク・クリエイター』に攻撃！ トライデント・ポルケーノ！！」

トライデントATK3000 VS クリエイターATK2300

幽「ちつ…」LP6200-5500

隼人「『トライデント・ドラギオン』2回目の攻撃！『ダーク・ホルス・ドラゴン』を破壊せよ！ トライデント・セカンド・

ポルケーノ！！」

トライデントATK3000 VS 闇ホルスATK3000

幽「迎撃しろ！ ダークネス・ギガ」

隼人「ダメージステップ時、『収縮』発動！」手札2-1

幽「！？」

隼人「このカードの効果でフィールド上のモンスター 『ダ

ク・ホルス・ドラゴン』の攻撃力を半分にする！」

トライデントATK3000 VS 闇ホルスATK3000-1

500

幽「く…くそっ…！」 LP5500 - 4000

隼人「…『トライデント・ドラギオン』…3回目の攻撃…!!」

トライデント・エンド・ボルケーノ…!!」

トライデント ATK3000 VS 直接

幽「ぐあああああつ！」 LP4000 - 1000

隼人「どうだ！」

幽「…やっぱり隼人はすごいな…」

だが、俺も負けるわけには行かないんでね！」

隼人（…俺の手札は『メタモルポット』…、『ヴォルカニック・バレット』の手札を使うかどうか…）

ハンドアドのために『メタモルポット』の効果処理後に発動すれば…、賭けだが、攻めるにはこうするしかない…!!）

隼人「…ターンエンドだ」

幽「このエンドフェイズに『極神皇ロキ』は『極星霊デッキアールヴ』を除外することで墓地より特殊召喚される！」

そして『極神皇ロキ』の効果で墓地の『神の柩桔グレイプニル』を回収！」

8ターン目

幽 LP1000 手札7 デッキ21 ロキ(A)

隼人LP4300 手札1 デッキ21 トライデント(A) セ
ット

クロウ「…このデュエル、幽は負けるかもな…」

元キン「クロウ?」

クロウ「あいつの…隼人のデュエルは今までとは違う。」

気迫「…勝ちたい…そう思う気持ちだが、神と対等にぶつかり合う力になっている」

元キン「…デュエルは気持ちだけではどうにもならん」

クロウ「そうだ…俺もそう思ってる。だけど…あいつは気持ちだけでどうにかしようとしている…。その尋常じゃない気迫で…!

現に幽の残りLPは1000、次の逆転で勝負は決する…」

元キン「…気持でどうにかできる…か。」

それは…このデュエルを見ていればわかることだ」

幽「…俺のターンだ!」手札7-8 デッキ21-20

幽(…ブレイブ…、あなたのカードを借りる…!)

幽「出でよ! 『Mare of the Nordic A

lfar』!」手札8-7

隼人「…な!」

天保「…日本未発売カード…」

実「嘘!そんなカードあるの!?」

綾香「うん、それなりに種類はあるとは聞いてたけど…、まさか黒ちゃんが持っているなんて…!」

幽「『Mare of the Nordic Alfarr』…、このモンスターでシンクロ召喚する場合、他のモンスターは手札の【極星】2体でなければならぬ！」

隼人「手札でのシンクロ召喚だと！そんなことが…！」

天保（…）「エキセントリック・ボーイ」と似た効果か…）

幽「行くぞ！俺は手札のレベル4『極星霊リョースアールヴ』とレベル3『極星獣タングリスニ』の2体にレベル2の『Mare of the Nordic Alfarr』をチューニング！！！」

未来の兵器の元帥よ、暗黒の力を指揮し、光の軍制に打ち勝て！シンクロ召喚！
統治せよ！『A・O・Jフィールド・マーシャル』！！」手札7-5

隼人「…2体目の上級モンスター…！」

望「黒田さん、流石に強くなってる…、上級モンスターの展開力がすごい…」

幽「今度こそ終わりだ！『極神皇ロキ』で」

隼人「まだまだ！まだ終わらない！メインフェイズ終了時に『和睦の使者』発動！このターンの戦闘破壊と戦闘ダメージを無しにする！」

龍亞「…『極神皇ロキ』相手にあんなに粘るなんて…！」

龍可「本当ね、でもそろそろ限界なんじゃ…？」

満足「…そろそろ動く…」

龍亞「え？」

満足「隼人という男…、次のターンで切り札を出す…！」

龍可「…鬼柳さん？」

満足「…あの男は粘っているんじゃない、待っているんだ」

幽「…流石に粘るな…、俺はカードを2枚セットして、ターンエンドだ」

9ターン目

幽LP1000 手札3 デッキ20 ロキ(A) マーシャル(A)

A) セット2

隼人LP4300 手札1 デッキ21 トライデント(A)

隼人「…ドロー！」手札1 - 2 デッキ21 - 20

隼人「バトル！『トライデント・ドラギオン』で『A・O・Jフィールド・マーシャル』に攻撃！！ トライデント・ボルケーノ

！！！」

幽「…

なんだかんだ言っつて、似たもの同士だな…。『和睦の使者』発動！」

隼人「…何っ！」

幽「…わかっているな、このカードの効果で俺のモンスターの戦闘破壊とダメージを無効にする」

隼人「…！」

隼人「…手札は『メタモルポット』と『アドバンスドロー』…、戦線維持をするためには『アドバンスドロー』を発動しないのが得策だが…。」

「…どうする…、どうすれば勝てるんだ…。」

実「…隼人君？」

綾香「考えてるね…隼人…。」

天保「この状況じゃ、一つの間違いが敗北を招く。悩むのを当然だろっ…。」

望「…本当に勝てるのかな…？」

綾香「私たちが信じないと、勝てる戦いも勝てなくなっちゃうって…！」

望「そうだね！信じよう！氷炎さんを！」

隼人「…そうだ、信じるんだ…。起死回生のカードを…、引き当てるんだ！」

隼人「『トライデント・ドラギオン』をリリースし、『アドバンスドロー』を発動！」手札2-1

幽「なっ…！攻撃力3000をリリースだと!？」

元キン「何イ!!攻撃力3000ものモンスターをリリースだと!」
龍亞「いくら2枚ドロー出来ても攻撃力3000をリリースするなんて…！」

遊星「…賭けだな、2枚のドローで起死回生するつもりだな」

隼人「…『アドバンスドロー』の効果でデッキから2枚をドロー!

!」手札1-3 デッキ20-18

隼人（…このカードは！）

幽「…表情が変わった？」

隼人「…やっぱり、俺たちは似たもの同士だな」

幽「…どういふことだ？」

隼人「…俺は…手札より…永続魔法を発動する！

発動せよ！『未来融合　フューチャー・フュージョン』！』

手札3 - 2

第17話END

第17話 激戦（後書き）

過去、現在、そして未来

氷炎隼人と黒田幽の現在の戦い。

彼らの過去、そして隼人が『未来融合 フューチャー・フュージョ
ン』にかける想い。

その心を胸にぶつかり合う仲間。

その戦いの結末は？

次回、遊戯王第18話『運命の2ターン』

戦いの運命を握るのは隼人の切り札『F・G・D』、そして幽の切
り札『極神皇口キ』

第18話 運命の2ターン（前書き）

ホセ「歴史は我々が修正した」

・・・原稿にミス発覚。本当に申し訳ありません。

まさかの、というミスが連発しました；

本当に申し訳ありません（――）

16話・17話の変更部分を掲載します。

16話：『魔道雑貨商人』で落ちたカードの内1枚『極星霊デッキ
アールヴ』を『ダーク・シムルグ』に変更（理由：足りなくなった
ため）

17話：『針虫の巣窟』で落ちたカードの内1枚『死者蘇生』を『
死者転生』に変更（理由：後書きに掲載）

後先考えないミス、本当に申し訳ありません。

では、18話「運命の2ターン」をお楽しみください。

第18話 運命の2ターン

未来融合 フューチャー・フュージョン

氷炎隼人が使った彼の切り札

彼がそのカードにかける想い

その思いを知るためには少しばかり過去へと遡る

* * * * *
* * * * *
* * * * *

あれは…俺が高校1年生の時だった

隼人「バトル！『氷炎の双竜』でダイレクトアタック！
スバレット！！」
カオ

もぶ「うわあああああ！！」LP400-0

隼人「残念だったな！お前程度じゃ、俺には勝てないぜ！」
もぶ「くそーっ！」

俺は連戦連勝だった。上級生すら俺には勝てなかった。
小学校からの腐れ縁だった『天保神太郎』、彼以外に負けることは
無かった。

ベタな言い方をすると、学校で、氷炎隼人の名を知らない者はいな
かった、そんな感じだ。
それくらい、俺は強かった。

奴が現れる前は

月1回の定期試験…
4月の定期試験は2位。流石だったな。

本来なら1位の天保と戦うらしいがあいつは今回の試験は欠席。世
界大会だそうな。

だから、俺の相手は3位の奴…。

そう、その男が…『黒田幽』だった。

幽「……」

隼人「残念だが、お前の勝利はない。定期試験の結果が少し悪くな
ると思うがかんべんしてくれよ」

幽「……すごい自信だな。」

まあ、俺も負ける気はないがな

隼人「……！面白い……。」

その自信、叩き崩してやるよ！

幽「……それはこっちのセリフだ！」

幽・隼人「デュエル！！」

綾香「ねえ、5位さん。あのデュエルどう見る？」

望「…どうでしょう？ライフアドは大分離れてるけど…、あの【ダークモンスター】の人も諦めていないよね」

現時点4位の水面綾香・5位の如月望の二人が話している。

二人のデュエルは幽と隼人のデュエルの前だ。

勝者は望。『大天使クリスティア』でフィールドを完全制圧していたため、攻め手を失い綾香の惨敗だった。

別の試験会場から来た実は…

実「すごっ！幽君をあそこまで押ししているなんて！」

彼女は全166人中62位。なので、別の会場でデュエルをしていた。

結果は敗北。時間ができたので、幽のデュエルを見に来ていた。

隼人「『氷炎の双竜』で『ダーク・シムルグ』に攻撃！
カオスバレット！！

ダメージステップ時に『収縮』発動！これで『ダーク・シム

ルグ』の攻撃力を半分にする！」

双竜 ATK 2300 VS ダムルグ ATK 2700 - 1350

幽「ちつ…！」 LP 1000 - 50

隼人「この状況で勝てると思っているのか！ターンエンドだ！」

7ターン目

幽 LP 50 手札 2 デッキ 13

隼人 LP 7500 手札 1 デッキ 21 双竜 (A)

幽「俺のターンだ！」 手札 2 - 3 デッキ 13 - 12

幽「『闇の誘惑』発動、デッキから2枚をドロ―し、手札の『ダーク・ボルテニス』をゲームから除外。

そして俺は手札より『未来融合 フューチャー・フュージョン』発動！」 手札 3 - 2 デッキ 12 - 10

隼人「何！？お前の墓地は肥えているはずだ！なんでそのカードを！」

幽「…たしかに、墓地肥やしとしては意味をなさない。

だがな、このカードは本来融合カードだからな、その通りの使い方をさせてもらうぜ。

俺は『F・G・D』を選択し、融合素材によって決められたモンスター 『ダーク・アームド・ドラゴン』 『ダーク・ホルス・ドラゴン』 『魔王ディアボロス』 『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』 『ヘル・ドラゴン』の5体を墓地へ送り…2ターン後の未来に『F・G・D』を融合召喚をする！」 デッキ 10 - 5

隼人「だがな！融合召喚できるのは2ターン後だけ！それまで粘れると思うか！」

幽「ああ、その通りだ。これは俺とお前の勝敗を分ける…運命の2ターンってわけだ」

隼人「…！ふざけた真似を！」

幽「…俺は、カードを1枚セットして、ターンエンドだ」

8ターン目

幽LP50 手札1 デッキ5 セット 未来融合(0)

隼人LP7500 手札1 デッキ21 双竜(A)

隼人「俺のターン！」手札1-2 デッキ21-20

隼人「このスタンバイフェイズに『黄泉ガエル』の効果！俺の場に魔法・罫カードが存在しないときこのカードを墓地から特殊召喚する！」

隼人「『デブリ・ドラゴン』を召喚！このカードの召喚に成功したとき、墓地の攻撃力500以下のモンスター1体を効果を無効にして特殊召喚する！蘇れ！ 『ヴォルカニック・バレット』！」
手札2-1

幽「…レベル6のシンクロ召喚か」

隼人「レベル1『黄泉ガエル』と『ヴォルカニック・バレット』にレベル4『デブリ・ドラゴン』をチューニング！」

鎖で新たな力を繋ぐ架け橋となれ！シンクロ召喚！

繋げ！『C・ドラゴン』！」

隼人「バトル！『C・ドラゴン』でダイレクトアタック！
チ
エーン・ブラスト！！」

幽「『攻撃の無力化』発動！このターンのバトルフェイズを終了す
る」

隼人「くそっ…！」

隼人（…だが、次のターンは逃げられないぜ…！）

隼人「カードを1枚セット、ターンエンド！」

8ターン目

幽LP50 手札1 デッキ5 未来融合(0)

隼人LP7500 手札0 デッキ21 双竜(A) CD(A)

セット

幽（『黄泉ガエル』が居るのにモンスターをセットした？）

幽「…俺のターン！」手札1-2 デッキ5-4

幽「カードを2枚セットして…ターンエンドだ」

9ターン目

幽LP50 手札0 デッキ4 未来融合(1) セット2

隼人LP7500 手札0 デッキ21 双竜(A) CD(A)

セット

綾香「…バツク2枚…」

望「うーん、攻めきるのは厳しいかもね…」

隼人「バツク2枚ね…、だが俺は止められない！

俺のターン！」手札0-1 デツキ21-20

隼人「カードをセット！そしてもう1枚のリバースカードを発動！

『リミット・リバーズ』！俺の墓地の攻撃力1000以下の
モンスター1体を蘇生させる！『デブリ・ドラゴン』蘇生！」手札
1-0

幽「…チューナーモンスターか…！」

隼人「レベル6『氷炎の双竜』にレベル4『デブリ・ドラゴン』を
チューニング！

三つ首の龍！今生け贄を喰らいて、大群を殲滅する真の力を
我らに見せつけよ！シンクロ召喚！ 焼き尽くせ！『トライデ

ント・ドラギオン』…！」

幽「…『トライデント・ドラギオン』…！」

隼人「『トライデント・ドラギオン』はシンクロ召喚成功時に俺の
フィールド上のカード2枚まで破壊し、その数だけ攻撃回数を増や
す！セットカードと『リミット・リバーズ』を破壊し、3回の攻撃
を可能とする！

『トライデント・ドラギオン』で3連続ダイレクトアタック
だ！ トライデント・エンド・ボルケーノ…！」

幽「…残念だが…、一度目の攻撃は『ネクロ・ガードナー』の効果で防ぐ！このモンスターをゲームから除外し、モンスターの攻撃1回を無効にする！

速攻魔法『異次元からの埋葬』発動！ゲームから除外された『ネクロ・ガードナー』『ゾンビ・キャリア』『ネクロ・デイフェンダー』の3体を墓地へ戻す！

そして『ネクロ・ガードナー』の効果で戦闘を無効！

隼人「…！」

幽「…3回目の攻撃に…罨発動！『ドレイン・シールド』！相手の攻撃を無効にし、攻撃モンスターの攻撃力だけLPを回復する！」
LP50 - 3050

隼人「く…くそ…っ！『C・ドラゴン』でダイレクトアタック！

チェイン・ブラスト！」

C D A T K 2 5 0 0 V S 直接

幽「…残念だったな、俺のLPは残っている」LP3050 - 550
隼人「残念なのはお前だ！『C・ドラゴン』は戦闘ダメージを与えたとき、相手のデッキから3枚、墓地へ送る！」

幽「…！」デッキ4 - 1

隼人「仮にお前が『F・G・D』を召喚出来ても、7500のLPを1ターンで削れるはずがない！諦めるんだな！」

幽「…まだまだ、まだ俺には最後の1枚を残っている！」

隼人「…ちっ！ターンエンド！」

10ターン目

幽LP550 手札0 デッキ1 未来融合(1)
隼人LP7500 手札0 デッキ21 双竜(A) CD(A)

幽「俺のターン!!!」手札0-1 デッキ1-0

幽(…来たか!)

幽「『未来融合 フューチャー・フュージョン』の発動から2回目のスタンバイフェイズ!よって、俺は5体のドラゴン族を融合する!

炎・水・風・地・闇、5つの属性エレメントより生まれし、神を超す最強の邪龍よ!万物の王に君臨し、世界の均衡を保つため、5つの属性エレメントの真の力を開放せよ!融合召喚!
世界を束ねよ!『F・G・D』!!!」

隼人「…『F・G・D』…!」

綾香「まさか…、本当に2ターン耐えるなんて…!」

望「すごいなあ、あの人。『F・G・D』を召喚しちゃったよ」

隼人「…っ、だが!お前のデッキは0!このターンで勝負をつけなければお前の負けだ!」

幽「…そうだな…、だが、勝負はついた…」

装備魔法、『巨大化』発動！俺のLPのほうが相手のLPより少ない場合、装備モンスターの攻撃力を2倍にする！」

隼人「何だとおお！！」

FGDATK5000-10000

幽「俺の勝ちだ！」F・G・D』で『C・ドラゴン』に攻撃！！

究極の咆哮 ゴット・オブ・エレメント！！！！」

FGDATK10000 VS CDATK2500

隼人「くそおおおおおおおお！！！！」LP7500-0

初めて負けた俺。

俺は自分が情けなくなって、即座にその場を後にした。

隼人「…なんだ、笑いに来たのか」

俺が一人でいると、先ほど戦った、黒田幽が来た。

幽「…あんだ」

隼人「…なんだ」

幽「…さっきのデュエル…、いや、あんたの今までのデュエルで思ったんだが…このカードを使ってみたらどうだ？」

手渡される2枚のカード。

隼人「…なんのつもりだ」

幽「深い理由はない、ただ、あんたは強いから、使いこなせる気がしてな」

隼人「お世辞は良い」

幽「…あんたはまだ強くなれる。俺と一緒に強くなるっ」

隼人「……」

自分を負かした男、俺と天保は次元が違う強さ。だから、あいつは『一緒に強くなるっ』とは言ってくれなかった。

いや、俺は誰かと一緒に強くなるなんて考えたこと無かった。

だけど、この男は言ってくれた。その言葉は俺が一番求めていた言葉だったのかもしれない。

隼人「…ああ、ありがとう」

黒田幽は俺の世界を変えてくれた男。
俺と一緒に強くなる、今では当たり前だったが2年前には考えもつかなかったことを。

その時、幽がくれたカード 『未来融合 フューチャー・フュージョン』と『F・G・D』は、あいつが俺を救ってくれた証。

* * * * *
* * * * *

9ターン目途中

幽LP1000 手札3 デッキ20 ロキ(A) マーシャル(A)
セット

隼人LP4300 手札2 デッキ20 (発動：未来融合)

隼人「…だからこそ救う。一人孤独に戦おうとしているお前を！」
幽「……隼人」

隼人「『未来融合 フューチャー・フュージョン』はエクストラデッキの融合モンスター1体を選択し、そのモンスターによって決められた融合素材モンスター1組をデッキより墓地へ送り、2ターン後のスタンバイフェイズに選択した融合モンスターを融合召喚扱いで融合召喚するカード！」

俺が選択するのは当然『F・G・D』！デッキより『氷炎の双竜』2体と『ブリザード・ドラゴン』2体『タイラント・ドラゴン』の5体を墓地へ送る！」デッキ18-13

幽「…『未来融合 フューチャー・フュージョン』…！」

隼人「わかつているな？『F・G・D』の召喚が、俺たちの戦いの勝敗をわける…運命の2ターンってわけだ」

幽「…そうだな、だがな、それまで粘れると思つなよ」

隼人「……」

俺はモンスターをセット、カードをセットして、ターンエンドだ」

10ターン目

幽LP1000 手札3 デッキ20 ロキ(A) マーシャル(A)

A) セット

隼人LP4300 手札0 デッキ13 裏守 セット 未来融合

(0)

綾香「…あの時と同じ状況ね、『未来融合　フューチャー・フュー
ジョン』で『F・G・D』を呼ぶこの2ターン…」
望「うん、あの時とは立場が逆だけど」
実「…じゃあ、この2ターンを耐え抜けば…？」
綾香「…隼人が勝てるかもね」

幽「…デジャヴー、だな…」。

俺のターンだ！」手札3 - 4　デッキ20 - 19

幽「リバースカード、『神の桎梏グレイプニル』発動！デッキより
【極星】と名のついたモンスター1体を手札に加える！　『極

星霊デックアールヴ』を手札に加える！」手札4 - 5　デッキ19
- 18

幽「墓地の『レベルステイラー』の効果！自分フィールド上のレ
ベル5以上のモンスター1体のレベルを1下げて、『レベルステイ
ラー』を墓地より特殊召喚する！俺は『極神皇ロキ』のレベルを
10から9に下げ、『レベルステイラー』を蘇生！」
ロキLv10 - 9

隼人「くっ…、まだ展開してくるのかよ…！」

幽「残念だが、2ターンも待たせる気はない！『レベルステイラ
ー』をリリースし、『極星霊デックアールヴ』をアドバンス召喚！

『極星霊デックアールヴ』は召喚に成功したとき、墓地の【極

【星】のモンスター1体を回収することができる、『Mare of the Nordic Alfarr』を手札に加える!」手札5
- 4 - 5

遊星「流石だ、幽は既に『極星霊デッキアールヴ』の効果を使いこなしている」

クロウ「これで再び手札にチューナーモンスターがあるからシンクロ召喚を行えるぜ!」

元キン「この状況を打破するのはほぼ不可能だな」

幽「俺は再度『レベルステイラー』の効果で『極神皇ロキ』のレベルを下げた使用し、自身を特殊召喚する!

レベル1『レベルステイラー』にレベル5『極星霊デッキアールヴ』をチューニング!

屈指の戦士よ、今こそ力を発揮し、その槍で敵を打ち砕け
シンクロ召喚、貫け『大地の騎士 ガイヤナイト』!」

龍亞「うわ…! 上級モンスターが3体も…!」

龍可「すごい展開力…、幽さん、本気ね…」

幽「バトル! 『極神皇ロキ』でセットモンスターに攻撃!」
アニテイ・バレット!」

隼人「トラップカード発動!」

幽「甘い! 『極神皇ロキ』には1ターンに一度、バトルフェイズの魔法・罠発動を無効にする効果を持つ!」

隼人「そう! だが、それはスペルスピードの関係上、カウンター罠は無効にできない!」

俺は『攻撃の無力化』を発動させてもらおう!」

幽「何だと!？」

天保「上手い、『攻撃の無力化』はカウンター罠、これなら『極神皇ロキ』の効果をチエーンできない」

実「なるほど!『極神皇ロキ』の効果のスペルスピードは2で、『攻撃の無力化』のスペルスピードは3だからか!」

幽「ちつ…、俺はカードを1枚セットして、ターンエンド!」

11ターン目

幽LP1000 手札4 デッキ18 ロキ(A) マーシャル)

A) ガイヤナイト(A) セット

隼人LP4300 手札0 デッキ13 裏守 未来融合(0)

隼人「行くぞ!俺のターン!」手札0-1 デッキ13-12

隼人(『未来融合 フューチャー・フュージョン』1ターン目…!

だが、俺は粘るだけじゃないぜ!)

隼人「俺はカードを1枚セットして、『メタモルポット』を反転召喚する!」

幽「『メタモルポット』だと!？」

隼人「『メタモルポット』のモンスター効果で互いに手札をすべて捨て、デッキからカードを5枚ドローする!」

幽「くつ…、折角のアドバンテージ差を一気に崩すとはな…!」

幽 手札4-5 デッキ18-13 隼人 手札1-0-5 デ

隼人（よし！まだ、俺にも運は残っている！）

隼人「俺は墓地の『ヴォルカニック・バレット』の効果を使う！」
幽「くつ、まだ残っていたのか！」

隼人「LPを500支払い、デッキより『ヴォルカニック・バレット』1体を手札に加える！」手札5-6 デッキ7-6 LP43
00-3800

隼人「手札より『名推理』を発動！相手はレベルを1つ宣言し、俺はデッキの上から通常召喚可能なモンスターが出るまでめぐり、そのモンスターのレベルが相手の宣言したレベルと同じ場合は墓地へ送り、違う場合は俺の場に特殊召喚する！」手札6-5

幽「…こんな状況で『名推理』とはな…」

幽（…あいつのデッキに多いレベルは…4か6…）

だが、残りデッキは6枚だ、むしろデッキに残っているモンスターを考えるべきか…。

『青氷の白夜竜』に『黄泉ガエル』、【ホルスの黒炎竜】…、
厄介なのはやはり『青氷の白夜竜』…）

幽「…レベル8を宣言する」

隼人「わかった…、俺はデッキよりカードをめくるぜ。

1枚目、『ホルスの黒炎竜LV8』、通常召喚出来ないため
墓地だ。

2枚目、『神の宣告』…、墓地だ。

3枚目…

レベル3モンスター『仮面竜』、残念だがはずれだ」

幽「…っ！」

隼人「よって、俺は『仮面竜』を特殊召喚する！」デッキ6-3

隼人「レベル8…、おそらく『青氷の白夜竜』と読んだんだろうが、甘かったな！」

俺は『メタモルポット』と『仮面竜』をリリース！」

幽「2体リリース…！まさか…！」

隼人「現れる！『青氷の白夜竜』！！」手札5-4

隼人「そして手札より『異次元からの埋葬』を発動！ゲームから除外された『青氷の白夜竜』、『スクリーチ』、『仮面竜』を墓地へ戻す！」手札4-3

幽「除外から墓地へ…、まさか…！」

隼人「行くぞ！『死者蘇生』を発動！墓地に存在する『青氷の白夜竜』を俺の場に特殊召喚する！」手札3-2

元キン「馬鹿な！1ターンで攻撃力3000以上のモンスターを2体召喚しただと！」

クロウ「畜生！インチキ効果も大概にしゃがれ！」

遊星「…だが、幽の場には『極神皇口キ』…攻撃力3300…！」

幽「ちつ…、流石に予想外だな…」

隼人「舐められちゃ困るね！」

さあ、バトルフェイズだ！『青氷の白夜竜』で『A・O・J
フィールド・マーシャル』に攻撃！！ 氷結のプリエスト・スト
リーム！！！！」

青氷 ATK3000 VS フィールド ATK2900

幽「く…っ！！」 LP1000 - 900

隼人「もう1体の『青氷の白夜竜』で『大地の騎士 ガイヤナイト』
に攻撃！！ 氷結のプリエスト・ストリーム！！！！」

青氷 ATK3000 VS ガイヤナイト ATK2600

幽「ぐああ…っ！！」 LP900 - 500

隼人「どうだ！これで俺はターンエン…」

幽「エンドフェイズに『極星宝レーヴァテイン』発動！このターン
戦闘破壊したモンスターを選択し、そのモンスターを破壊する」

隼人「その効果にチェインして『青氷の白夜竜』の効果！このカー
ドを対象にする魔法・罫カードの発動と効果を無効にし、破壊する
！」

幽「それは無理だ、『極星宝レーヴァテイン』にはカードをチェ
インすることはできない！」

隼人「何っ！」

幽「これにより、このターン戦闘破壊したモンスター 『青氷
の白夜竜』を選択し、破壊する！」

隼人「くっ…！！」

だが『青氷の白夜竜』はもう1体残っている！」

12ターン目

幽 LP500 手札5 デッキ13 ロキ(A)
隼人 LP3800 手札2 デッキ3 青氷(A) 未来融合(1)

幽「…俺のターン！」手札5 - 6 デッキ13 - 12

隼人「『鳳翼の爆風』！手札1枚をコストにフィールド上のカード1枚をデッキトップに戻す！」

幽「何だと！」

隼人「俺は手札の『スピリット・ドラゴン』を捨て、『極神皇ロキ』をデッキトップに戻す！」手札2 - 1

幽「く…！」

実「すごい！これなら『極神皇ロキ』の自己再生効果も封じることができる！」

天保「…だが、手札6枚…。再度シンクロ召喚されないかが心配だ…」

綾香「…そうか、エクストラデッキに戻ったからか。別に破壊されたわけじゃないんだっただ」

望「…でも、流石に…」

幽「『Mare of the Nordic Alfar』を召喚する！」手札6 - 5

実「…！嘘…」

綾香「まさか、すぐに…『極神皇ロキ』を…？」

隼人「く…、そのモンスターは…」

幽「『Mare of the Nordic Alfarr』はシンク口召喚の素材は手札の【極星】2体でなければならぬ…。

俺は手札の『極星霊リヨースアールヴ』2体にレベル2『Mare of the Nordic Alfarr』をチューニング
！！！！

世界を闇に沈めた暗黒の神よ、すべてを掌握し王として再び
玉座を黒く染めよ！シンク口召喚！！

再臨せよ！『極神皇口
キ』！！」手札5-3

隼人「まさか…、こんなに早く…！」

実「…本当に出てきた…、『極神皇口キ』…」

幽「…バトル！『極神皇口キ』で『青氷の白夜竜』に攻撃！！

ヴァニテイ・バレット！！！！」

口キATK3300 VS 青氷ATK3000

幽「LPが…減ったか…」

隼人「な…何を言ってる…」

…つ、ぐああああああああ！！」LP3800-3500

本物の神、その力を制御しきれていない幽。
その結果は、神の一撃で相手の命を奪ってしまうほどの威力にまで
上がっていた。

実「隼人君！」

綾香「隼人！」

望「氷炎さん！」

隼人「…っ、なんで急に痛みが現実に…！」

幽「…これは俺が前に使っていた偽物とは違う…、本物の神…」

隼人「…本物…、って…」

すると、しばらく黙っていた天保が言った。

天保「…成程、昨日のチームラグナロクとのデュエルでその力を貰
ってきたか」

幽「ご名答。みんなが前に見た神よりも威圧感が重いのもそのため
だ。

どうする？まだ、続けるか？」

隼人「…まだ…、まだやれる！」

隼人（…あと、1ターンだ。後1ターンで…、俺の勝ちが…）

幽「…カードを2枚セットして、ターンエンド」

13ターン目

幽LP500 手札1 デッキ12 ロキ(A) セット2
隼人LP3800 手札1 デッキ3 未来融合(1)

隼人「…ラストターンだ…、俺のターン!!!」手札1-2 デッキ
3-2

龍亞「『未来融合 フューチャー・フュージョン』…」

龍可「発動…、2ターン目…」

隼人「炎・水・風・地・闇、5つの属性エレメントより生まれし、神を越す最強の邪龍よ!万物の王に君臨し、世界の均衡を保つため、5つの属性エレメントの真の力を開放せよ!融合召喚! 世界を束ねよ!」F・

G・D『!!!!』

幽「…『F・G・D』…!」

隼人「…これで最後だ。『F・G・D』の攻撃!!!!」

ゴット・オブ・エレメント!!!!!!」

幽（そうだ、俺は今までこいつらと一緒に高校生活を歩んできた。

俺はこいつらが居なければ、強くなれなかった。

今回だって、実のかたきで強くなった…、仲間を巻き沿いにし
たくなって…、そのために俺は強くなったんだ。

そう…、俺は支えが 仲間という支えが居なければ…、今
の俺はいなかった。

相手の気持ちも考えずに…、突き放してしまった…。そんなこ
とできるはずなかったのに…。

…本当にごめん。

そして、こんな俺のために…一緒に戦うと言ってくれて…

本当に…ありがとう（

……仲間に対する、最後の態度……、本当に許してほしい。

俺は……、お前たちに……

死んでほしくないんだ

幽「…ダメージステップ、『禁じられた聖杯』発動…。

これにより『F・G・D』の戦闘破壊耐性を無効にし、攻撃力を400上昇させる」

隼人「…幽？」

幽「…皆、本当に…すまない…。俺のためにこんなつらいことをさせて…。」

……。
だけど…、ついてきたら…本当に…皆…死ぬかもしれないんだ

だから…、絶対に連れてはいけない！

『禁じられた聖杯』にチェーンしてトラップ発動！『極星宝メ
ギンギョルズ』！」

遊星「…あのカードは！」

幽「このカードの効果は俺の場の【極星】か【極神】1体を選択し、
その攻撃力をターン終了時まで2倍にする！」

隼人「!?!」

天保「…攻撃力6600か…」

綾香「…嘘…、『F・G・D』を上回った…」

望「これが…、黒田さんの本気…」

実「…幽…君…」

F・G・DATK5000 - 5400 VS 極神皇口キATK3
300 - 6600

幽「…おそろく、この一撃で…、意識を失うほどの痛みを受けるだろう。」

「だけど、俺についてきたら痛いでは済まないかもしれない。」

「死を覚悟する戦いになるだろう…。」

「だけど、みんなの気持ちは受け取った…、だから、必ず戻ってくるからな…！」

綾香「……………」

望「…黒田さん」

天保「…黒田…」

実「……………」

幽「迎撃せよ、『極神皇口キ』！
オオオオオオ！！」

ヴァニティ・バレットオ

隼人「ぐわあああああああああああつ！！」LP380
0-2600

破壊される『F・G・D』、大きな爆発で空気が揺れる。
何が起きたのかと、周りの住人もその二人のデュエルを窓越しから
見る。

煙が晴れると、『F・G・D』は消え、隼人が一人で立っていた。

だが、すぐに

膝をつき

力なく、倒れた。

第 1 8 話
E
N
D

第18話 運命の2ターン（後書き）

修正について。

『青氷の白夜竜』は魔法・畏カードの対象時、そのカードの発動を無効にし、破壊する効果があります。

元々、『D・D・R』での蘇生を予定していたが、装備魔法である『D・D・R』は蘇生した瞬間、『青氷の白夜竜』の効果で無効、破壊されてしまうので、『死者蘇生』に変更。
本当に申し訳ありません。

次回予告

第19話『護るため』

T o b e c o n t i n u e d

第19話 護るため(前書き)

足りなくなつた『極星霊デッキアールヴ』は足りていた…

歴史修正の意味は無かつたのか：orz

4話に続いたデュエルもついに終結です。

お楽しみいただけたらうれしいと思います。

第19話 護るため

黒田家前

龍亞「…幽…」

龍可「こんな形で…、勝負がつくなんて」

クロウ「幽…、お前らしくない勝ち方だな」

そう言う3人を無視して幽が勝利宣言をする。

幽「俺の勝ちだ。それともまだ動けるとでもいうのか？」

倒れた隼人は動かない。

そこに4人が歩み寄る。

綾香「黒ちゃん…、なんでこんなことをするの？」

望「そうだよ、私たちは何もしていないのに…」

幽「…言っただろう、もし俺についてこれば死ぬかもしれないんだ

ぞ…？

「少なくとも隼人はすぐに目を覚ます。大した怪我じゃない。実…でも、少なくとも幽君はこんな人じゃなかった！」

幽「…前とは違う、俺の心も、事情も、な。」

「これが、お前らだけじゃない、俺のためでもある。」

もし、大切な仲間を失ったら…、俺は…」

綾香「違う！私たちのためなら一緒に連れて行って！」

私たちは、大切な仲間を孤独で戦わせ、傷つけることのほうが悲しい！」

望「そうだって！黒田さんが私たちを大事に思っているように、私たちも黒田さんの事が大事なんだよ！」

幽「……」

幽「…迷惑なんだよ」

実「…え？」

幽「お前ら力が無いくせに、護るほうの気持ちも考えろ！」

あのゴーストよりもずっと強い連中と戦い続けて、一度も負けない保証があるのか！

辛いんだよ、弱い人がいるとそれを護るためにより大きな負担がかけられる。

そして、それを護れなかったりしたら、俺たちは泣くことしかできない、自分を責めることしかできない！

そんな苦勞をするくらいなら、お前らなんて連れて行かないほうがいいんだよ！」

綾香「…っ」

望「…そこまで言うかな…、普通…」

実「…私たちとの信頼関係は…あなたにとっての私たちはそんなものだったの…！」

幽「……」

実「ねえ！答えてよ！私たちとの…、友情はその程度なの!？」

幽「…」

…ああ、そうだ」

その言葉に膝をつき、涙を流す実。

それを見て、悲しみを通り越し、怒りの顔すら見せる綾香と望。

実「…この…、嘘つき…」

幽「…そうだ、俺は嘘つきで偽善者だ。

そうやって、お前らが俺を遠ざければ遠ざけるほど、俺がお前らを護らなくて済む」

実「…」

実（違う、幽君は心の底からそうは思っていない。

私たちを…護るために…わざと…。

それだけ辛い戦いに…一人で行こうとしているなんて…)

実「…幽君…私は…」

あなたの事を信頼してるから…

だから、絶対に帰ってきて！

本当はついていきたいけれど、力の無い私たちじゃだめだから…

自分の心に嘘をつき、実はそう言おうとした。

だが、それは言えなかった。

天保「おい、黒田」

黙っていた天保がついに口を開けた。

幽「…今さらなんだ」

天保「お前は心の底から俺たちを敬遠することができるのか？」

幽「何が言いたい」

天保「…まさかその程度の演技で俺を騙せるとでも？」

幽「…どうだとしても、俺はこの戦いに勝った。」

お前らを連れて行く気はない」

その言葉を天保があざ笑う。

天保「…勝った？おいおい、まだ隼人のLPは残っているんだぞ？」

幽「…そうだな、ならばターンを進めない奴に対し、最後の一撃をお見舞いしようか？」

天保「やれるものならな、その攻撃で下手したら隼人は死ぬんだろ？」

幽「…っ」

天保「それに、満足式ワイヤーはちょっとやそつとの力じゃ切れな
いぜ？」

睨み合う二人。

幽が先に動いた。

幽「…なら、お望み通り…攻撃してやるよ…！」

『極神皇ロキ』でダイレクトアタ

実「待つて…！」

天保「…！」

幽「…実？」

実「…私が…私が…」

私とそのデュエルを受け継ぐ！」

天保「…な！」

綾香「実ちゃん!？」

望「…受け継ぐって…」

実「…逃げてちゃだめなんだ。

幽君だって、死ぬかもしれない戦いに逃げずに向き合おうとする。

私たちはだって、一緒に戦うんだったら、相手が本物の神でも、私は絶対に逃げない！」

実（そう、本当に心の底から幽君を護りたいと思うのなら、私はどんなことを言われても引かない。

言われたから引くのは自分が戦うことを避けている。戦いから逃げている証拠。

だから、私は逃げない。彼を護るためにこの命をささげる覚悟だっ
て見せるんだ！）

綾香「…そうだ、私たちは…神の威圧に…その力に恐怖してたんだ
…」

望「うん…、そんなんじゃない、黒田さんに力が無いって言われても言い
返せないよね」

幽「…わかった…が、残りデッキは少なく、モンスターも居ない。

その状況で勝てると思っっているのか？」
実「…でも私は勝つ！」

隼人のデュエルディスクを外し、実がセツトする
隼人が倒れている横で強い眼で立っている実。

綾香「実ちゃん、勝てるの？」

実「…わからない…。でも私はこれ以上逃げたくないから…」

望「わかった！応援するよ！だから頑張って！」

実「ありがとう！二人とも！」

幽「……そうか、

なら、提案だ。ハンデとして、デッキを自分の物を使用しろ」

驚く実。当然、綾香・望・天保も驚いている。

実「…どういう事？」

幽「その自信を完膚なきまで叩き潰してやる。」

そうすれば、二度と一緒に戦おうなんて思わなくなるだろうし
な」

実「…それでいいの？」

幽「構わない。どうせこの戦いの勝敗は決しているからな」

実「…お言葉に甘えて、デッキを変えさせてもらおうよ」

残り2枚の隼人のデッキと手札を隼人の腰についているデッキケースにしまう。

実「墓地は？出来ればそのままがいいんだけど」

幽「…好きにしろ」

実「…ありがとう、じゃあそのままにさせてもらいます」

そう言って、自分のデッキをデュエルディスクにセットして2枚をドロ―する実。

幽「…手加減はしない」

実「勿論、本気の幽君を倒さないと意味ないんだから！」

幽・実「デュエル！！！！」

綾香「…実ちゃん」

望「実さん、勝てるよね…?」

天保「…現実的に考えると、デッキ回復で有利に見えるかもしれないが、他のアドバンテージは全く変わっていない。

ハンドアドが若干有利でも、ボードアドはかなり不利…、自己再生効果持ちの『極神皇ロキ』が存在するからな。

唯一、幽のLPは残り500でデッキは12枚。攻撃か防御、どちらかに特化すれば勝つことはできるはずだ」

綾香「…そう考えると攻撃力3800以上のモンスターを出すか、『極神皇ロキ』の攻撃を耐え続けるか…」

望「大丈夫。今の実さんならやってくれるよ」

龍亞「…なんか意外な展開だね」

元キン「そうだな、まさかデュエルがこんな変則的な形で続くとは」

龍可「ねえ、クロウ。あの女性はどれくらい強いのか?」

クロウ「ん? たしか知識はかなりあるが、実技は30位くらいだった気がするぜ」

龍可「じゃあ、幽さんに比べて随分と弱いってこと?」

クロウ「数字的には、だがな。」

満足「遊星のように、周りの期待や心で変わる人だったら違ってたことか」

クロウ「…そうだな。」

亮「お前だったらわかるか?」

亮「…どうだろう、学年が違っし、わからないかな」

クロウ「…そうか」

14ターン目途中

幽LP500 手札1 デッキ12 ロキ(A:6600)

実LP2300 手札2 デッキ38

実「…バトルフェイズ中だけど、モンスターが居ないからメインフェイズ2に移行します。

私は、モンスターをセットして、カードをセットしてターンエンド！」

14ターン目

幽LP500 手札1 デッキ12 ロキ(A)

実LP2300 手札0 デッキ38 裏守 セット

綾香「…始まったね」

天保「とりあえず、モンスターをドロウしてよかったか。

下手したら即ダイレクトアタックで終わりだったからな」

幽「…俺のターン！」手札1-2 デッキ12-11

幽「『クリッター』を召喚！」手札2 - 1

幽（…ここで『極神皇ロキ』から攻撃したらこのターンで勝負をつけることはできない。

だが、あのモンスターの守備力が1500以上の場合、『クリッター』から攻撃したら、即俺の負け…。

『メタモルポット』と考えたら『クリッター』で攻撃すれば俺の勝ち。だが、通常モンスターでも『大木炭18』のような高守備力のモンスターの場合もある…。

確実に勝つのなら『極神皇ロキ』から攻撃するべきだが…。

…待て、そんなアニメみたいな展開があるわけないんだ。モンスターの守備力が1500以上なんて運のいい展開があるわけがない）

幽「バトル！『クリッター』でセットモンスターに攻撃！ 悪

魔の三連爪！」

元キン「BA KANA！ここで守備力1500以上のモンスターだった場合自滅だぞ！」

遊星「…勝ちを急いだようだな」

実「…私のセットしたモンスターは…『サイコ・カッパー』！守備力1000！」

幽「…ちっ」

クリッター ATK1000 VS 河童 DEF1000

幽「ならば『極神皇ロキ』でその河童に攻撃！ ヴァニティ・

バレット！…！」

ロキ ATK 3300 VS 河童 DEF 1000

幽「俺のターンは終…」

実「メインフェイズ2終了時に永続罫『人海戦術』発動！各ターンエンドフェイズに戦闘破壊されたレベル2以下の通常モンスターの数だけ、デッキから通常モンスターを特殊召喚できる！

そしてエンドフェイズ！戦闘破壊されたのは1体なので、デッキより『大木炭18』を守備表示で特殊召喚します！」

幽「ちつ、モンスターを残したか」

15ターン目

幽 LP 500 手札1 デッキ11 ロキ(A) クリッター(A)
実 LP 2300 手札0 デッキ37 炭(D) 人海

546

天保「上手いな。これなら、デッキ切れまで粘ることができるかもしれないな」

綾香「うん、でも3体以上の展開をされたら厳しいんじゃないかな…?」

実「…私のターン！」手札0 - 1 デッキ37 - 36

実（…幽君はさっきの隼人君との戦いで消耗しきっているはず。

今のうちに防御を固める…）

実「私はモンスターをセットしてターンエンド！」

16ターン目

幽LP500 手札1 デッキ11 ロキ(A) クリッター(A)
実LP2300 手札0 デッキ36 炭(D) 裏守 人海

龍亞「やっぱり動かないね…」

龍可「うん、ここからは消耗戦。モンスターが途切れない相手のほうが有利よ」

元キン「ふん！雑魚モンスター程度、パワーでねじ伏せてやればいいんだ！」

満足「…しかし、遊星。レベル2以下の通常モンスター…、お前なら何かわかるだろう？」

遊星「そうだな…、彼女の切り札はおそらく…『ジャンク・ウォリアー』…」

クロウ「…たしかそうだ。俺はあいつの実技授業はやったことがないからよくは知らないがな」

幽「…俺のターン！」手札1-2 デッキ11-10

幽(…守備力2100にセットモンスター…、セットモンスターの守備力が分からない今は危ない橋を渡るのはやめておいたほうがいいか…)

幽「まずは『レベルステイラー』のモンスター効果発動！場のレベル5以上のモンスターのレベルを1つ下げ、このカードを墓地から特殊召喚する！『極神皇ロキ』のレベルを1つ下げ、『レベルステイラー』を特殊召喚！」
ロキLv10-9

実「…『レベルステイラー』…幽君のデッキの主力カード…」

幽「…俺は『極星霊ドヴェルグ』を通常召喚！このモンスターの召喚に成功したとき、俺はもう一度だけ【極星】モンスターを通常召喚できる！」

「『レベルステイラー』をリリースし、『極星霊デッキアールヴ』をアドバンス召喚！」

召喚に成功した『極星霊デッキアールヴ』のモンスター効果！
『極星霊デッキアールヴ』は召喚に成功したとき、墓地の【極星霊】と名のついたモンスターを手札に加える！もう1体の『極星霊デッキアールヴ』を手札に加える！」手札2-1-2

龍亞「……」

龍可「すごい動き……」

クロウ「これで手札にチューナー、次のターンのシンクロ召喚も決定した」

幽「再び墓地の『レベルステイラー』の効果発動！場の『極神皇ロキ』のレベルを1つ下げ、墓地よりこのカードを特殊召喚する！
そしてレベル1『レベルステイラー』・レベル1『極星霊ドヴェルグ』・レベル3『クリッター』の3体にレベル5『極星霊デッキアールヴ』をチューニング！」

光に対する殺戮兵器 今、決戦の地に降り立つ！圧倒的な力

で光を打ち消せ！シンクロ召喚！
無に帰せ！『A・O・J
デ
イサイシブ・アームズ』！！！！
ロキLv9 - 8

実「攻撃力3300…！」

幽「先にフィールド上から墓地へ送られた『極星霊ドヴェルグ』と『クリッター』のモンスター効果。

『極星霊ドヴェルグ』は墓地の【極星宝】を、『クリッター』はデッキの攻撃力1500以下のモンスターを手札に加える！

俺は墓地より『極星宝メギンギョルズ』、デッキより…何でも
いいか『ユベル』を手札に加える「手札2 - 4 デッキ10 - 9

龍可「すごい！シンクロ召喚をした上に、手札を4枚まで増やした
！」

亮「本気だな、幽兄…」

幽「バトル！『極神皇ロキ』で『大木炭18』に攻撃！
ヴァ
ニテイ・バレット！」

ロキATK3300 VS 炭DEF2100

幽「続けて『A・O・Jデイスイシブ・アームズ』でセットモンス
ターに攻撃！！ アルティメット・ライト・ブレイク！！」

デイスイシブATK3300 VS 弾圧される民DEF2000

幽「カードを1枚セットして、ターンエンド」

実「エンドフェイズに『人海戦術』の効果でデッキより『弾圧され
る民』と『大木炭18』を守備表示で特殊召喚！」

17ターン目

幽LP500 手札3 デッキ9 ロキ(A) デイサイシブ(A)

セット

実LP2300 手札0 デッキ34 炭(D) 民(D) 人海

天保「あのリバーズカード…」

綾香「多分、『極星宝メギンギョルズ』だよな？」

天保「だが、特に問題はない。攻撃力3800以上のモンスターを召喚したら『A・O・J』デイサイシブ・アームズ』に攻撃すればいいからな」

実「くっ…私のターン！」手札0 - 1 デッキ34 - 33

実「手札より『馬の骨の対価』発動！場の効果モンスター以外のモンスター1体を墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドロ！『弾圧される民』を墓地へ送り、2枚をドロします！」手札1 - 2

デッキ33 - 31

幽「手札補充…」

実「…！」

私はモンスターをセットして、ターンエンドです」

18ターン目

幽LP500 手札3 デッキ9 ロキ(A) デイサイシブ(A)

セット

実LP2300 手札1 デッキ31 炭(D) 裏守 人海

遊星「…厳しいな、この状況」

元キン「…どういう事だ」

遊星「残りデッキは9枚。このままではデッキ切れで負ける。

だがらと言って、低攻撃力モンスターを召喚すると残り少ないLPを危険にさらすことになる」

元キン「たしかに、あの女のディフェンスタクティクスには目を見張るものがある。

だが、あの男ならやってくれるだろう」

遊星「……」

幽「…俺のターン！」手札3 - 4 デッキ9 - 8

幽（残りデッキはわずか…手札で召喚できる最高攻撃力のモンスターはレベル6の『大地の騎士 ガイヤナイト』…。俺の手札に、防御線はないからな…、ここは危ない橋を渡るか…）

幽「手札より、『闇の誘惑』を発動！デッキから2枚をドロ―し、手札の『ユベル』をゲームから除外する！」デッキ8 - 6

龍亞「やばいよ！残りデッキが6枚じゃん！」

龍可「このままじゃ、デッキ切れで負けてしまうわ！」

満足「だが、それを考慮しても、少しでも展開をしておきたいんだろっ」

幽「…このカードは……。」

俺はたとえ、嘘つき、裏切り者と言われても…、皆を護りたい。

俺のその心を1枚のカードにかける…)

幽「俺は手札より『おろかな埋葬』を発動、デッキより…2枚目の『レベルステイラー』を墓地へ送る！」手札4 - 3 デッキ6 - 5

実「2枚目の『レベルステイラー』!？」

天保「…これで『レベルステイラー』によるリリース確保がほぼし放題になったな…」

幽「墓地の2体の『レベルステイラー』の効果を使い、『極神皇ロキ』のレベルを2つ下げ、2体の『レベルステイラー』を特殊召喚!

そして、2体の『レベルステイラー』をリリース!『ダーク・

ホルス・ドラゴン』をアドバンス召喚!」手札3 - 2 ロキLv8

- 6

クロウ「おいおい、攻撃力3000級の大型モンスターが3体つて、やることが汚ねえぞ!」

遊星「……」

クロウ「ん?遊星、何か言いたそうだな?」

遊星「…何でもない」

幽「バトル!『極神皇ロキ』で『大木炭18』に攻撃! ヴァ

ニティ・バレット!」

ロキ ATK3300 VS 炭 DEF2100

実「…ちゃっかり、さっきと同じ言葉言ってる…」

幽「…『A・O・Jディサイシブ・アームズ』で攻撃！！
ア
ルティメット・ライト・ブレイク！！！」

ディサイシブATK3300 VS 魂を呼ぶ者DEF1000

幽「…『魂を呼ぶ者』？」

実「私はこのモンスターのリバース効果を使うわ！自分の墓地のレベル3以下の通常モンスター1体を特殊召喚することができる！『サイコ・カッパ』を蘇生！」

幽「小賢しい、『ダーク・ホルス・ドラゴン』で攻撃！！
ダ

ークネス・メガフレ임！！」

闇ホルスATK3000 VS 河童DEF1000

幽（…そして…、このカードをセットすれば…）

幽「カードを1枚セットして、ターンエンド」

実「…『人海戦術』の効果で…」

実（…私は…、次のターンで勝負に出る！）

実「私はデッキより2体の『海皇の長槍兵』を守備表示で特殊召喚
！」

19ターン目

幽LP500 手札1 デッキ5 ロキ(A) ディサイシブ(A)

闇ホルス(A) セット2

実LP2300 手札1 デッキ29 長槍(D)×2 人海

幽「…『海皇の長槍兵』…、攻めてくるつもりか…」

実「行くよ！幽君！私たちの合わせた力を見せてあげる！

私のターン！！！」手札1 - 2 デッキ29 - 28

実「来て、『ジャンク・シンクロン』！」手札2 - 1

遊星「…『ジャンク・シンクロン』！」

龍亞「まさか、遊星と同じ『ジャンク・ウォリアー』を！？」

元キン「まずいぞ！『ジャンク・ウォリアー』にはレベル2以下のモンスターの攻撃力を自身の攻撃力に加える効果がある！このままでは幽の敗北だぞ！」

実「私は『ジャンク・シンクロン』の効果で墓地のレベル2以下のモンスターの効果を無効にし、守備表示で特殊召喚します！『サイコ・カップ』を蘇生！」

綾香「合計レベル5！」

望「これで『ジャンク・ウォリアー』を特殊召喚すれば！」

実「私は…レベル2の『サイコ・カップ』にレベル3『ジャンク・シンクロン』をチューニング！！！」

幽「…来るか…！」

実「弱き力を集わせる戦士よ！今こそ沢山の仲間の力を借りて悪を滅ぼして！シンクロ召喚！
集え！『ジャンク・ウオリアー』
！！！！」

亮「幽兄！」

クロウ「おい！このままじゃ負けちまうぞ！」

実「私は『ジャンク・ウオリアー』の効果を発動！シンクロ召喚成功時に私のフィールドのレベル2以下のモンスターの攻撃力を得る！
私の場には『海皇の長槍兵』2体が居る！よって攻撃力を2800ポイントアップし、5100になる！」

幽「…そうだ。そうやって、俺たちは今まで力を合わせてきた。

そして、今回もそうしようとする、その気持ちは嬉しい…、だが…

俺は…裏切る。たとえその気持ちを踏みにじって、それで人を傷つけることになっても…」

実「…え…、何を…？」

幽「その効果にチェインして、永続罫を発動する！」

信頼する友を護るため、裏切り、離れ、孤独で戦う意思を示せ
！！
発動せよ！『調律師の陰謀』！！」

遊星「何ッ！」

クロウ「『調律師の陰謀』だつて！？」

満足「…このタイミングで発動するのか…」

龍亞「ねえ、あのカードつて？」

元キン「…相手のシンクロモンスターの特召召喚成功時、そのモンスターのコントロールを得るカード…！」

龍可「じゃあ…『ジャンク・ウォリアー』は…」

亮「そう…文字通り…、裏切るんだ…」

力を合わせる『ジャンク・ウォリアー』を自分自身…黒田幽に
例え、その仲間を…裏切る。まさしく、今の幽兄と実さんたちの関
係と同じだよ」

綾香「…最後の希望が…」

望「…途絶えた…」

天保「しかし、『奈落の落とし穴』のような優秀カードではなく、
またマイナーな…」

あいつらしい…といえばあいつらしいな」

実「…嘘…。ここまでしても…、幽君に勝てないなんて…、幽君の

心に届かないなんて…」

幽「…ターンエンドか？」

実「…うん」

20ターン目

幽LP500 手札1 デッキ5 ロキ(A) デイサイシブ(A)

闇ホルス(A) ウォリアー(A) 陰謀 セット

実LP2300 手札1 デッキ28 長槍(D)×2 人海

天保「終わったか」

綾香「…もう…無理だよね…。ここまで裏切られたら…」

望「…そうかも…しれないよね…」

幽「…俺のターン…」手札1-2 デッキ5-4

幽(…一応、何かあった時の対策だけは…しておくか)

幽「手札の『極星霊デッキアールヴ』をコストに『ライトニング・ボルテックス』発動。

相手のフィールド上の表側表示モンスターすべてを破壊する」

手札2-0

実「…っ、希望を全部…」

幽「…許して欲しいとは言わない。恨んでくれても良い。ここを去ってくれるなら…。」

『ダーク・ホルス・ドラゴン』でダイレクトアタック！
ダークネス・メガフレーム！！」

綾香「実ちゃん……」

亮「……これで……終わりだな」

クロウ「……頑張ったほうだが、所詮心だけでは限界があったな」
元キン「そうだな、必要な物は力。それがよくわかった戦いだっ
たな」

幽「……希望はあるか？最後の手札に」

実「…………」

幽「その様子だと……無いようだな」

実「…………」

実「手札の…『バトルフェーダー』を特殊召喚し、相手の直接攻撃を無効、このターンのバトルフェイズを終了させるよ…」手札1 - 0
幽「…何？」

遊星「……………」

元キン「…『バトルフェーダー』…」

クロウ「あいつ…、この状況を繋ぎやがった…」

龍亞「…嘘だろ…」

龍可「あれだけ裏切られても…、諦めないなんて…」

満足「…満足させてくれるじゃねえか…」

亮「…なんで…、ここまで粘ることができんだ…。」

幽兄は手加減をしていないのに、なんで…。」

幽「…だが、所詮は延命措置に過ぎない。

ターンエンドだ」

21ターン目

幽LP500 手札0 デッキ3 ロキ(A) デイサイシブ(A)

闇ホルス(A) ウォリアー(A) 陰謀 セット

実LP2300 手札1 デッキ28 フェーダー(D) 人海

綾香「…実ちゃん…、もう諦めて…。」

望「これ以上は実さん自身にも負担が…。」

実「…だめ…、私はどれだけ裏切られても…絶対に逃げたくないから…。」

私は本当の最後まで諦めない！諦めたくない！！」

天保（…心で強くなる。まさか、ここまで強くなる人までいるとは…。）

実「…私のターン！」手札0 - 1 デッキ28 - 27

実「手札より…『貪欲な壺』を発動します！墓地のモンスター5体をデッキに戻し、その後に2枚をドロウする！」

…私は墓地の5体のカード…『トライデント・ドラギオン』、
『F・G・D』、そして『氷炎の双竜』3体をデッキに戻します！
手札1 - 0 デッキ27 - 30

綾香「あれは…」

望「…氷炎さんのカード…」

天保「…あれが、本当の最後の希望になるかどうか…」

実「…私は2枚のカードをドロー！」手札0 - 2 デッキ30 - 28

幽「この瞬間『ダーク・ホルス・ドラゴン』のモンスター効果発動。
相手は魔法カードを発動した場合、俺の墓地のレベル4の闇属性モ
ンスター1体を蘇生させる。

『終末の騎士』を守備表示で蘇生し、そのモンスター効果を使
う！デッキより闇属性モンスター1体を墓地へ送る。『ネクロ・ガ
ードナー』を墓地へ」デッキ4 - 3

実「…『ネクロ・ガードナー』…！」

「…私諦めない！手札より『トライワイトゾーン』発動
！このカードの効果で私の墓地のレベル2以下の通常モンスター2
体を特殊召喚！『海皇の長槍兵』2体を守備表示で特殊召喚しま
す！」手札2 - 1

幽「またかよ…」

実「まだです！私は『海皇の長槍兵』を墓地へ送り、『馬の骨の対
価』発動！デッキからカードを2枚ドローします！」手札1 - 2
デッキ28 - 26

龍亞「すげえ…、どんどん手札を補充してる…」

遊星「…このドロローが二人の命運を分ける…」

実「私は手札より『戦士の生還』を発動します！墓地に存在する戦士族モンスター1体を手札に戻す！私は当然『ジャンク・シンクロン』を手札に戻します！

私はどれだけ裏切られても、幽君の事を想っているから！何回も力を合わせようとする！再び力を貸して、『ジャンク・シンクロン』！

『ジャンク・シンクロン』の召喚に成功したため、私の墓地のレベル2以下のモンスターを効果無効にして、守備表示で特殊召喚します！
『海皇の長槍兵』復活！」手札2-1

幽「…まさか…、2体目を召喚してくるのか…」
実「そう！何度でも私は幽君に力を貸そうとする！その力の現しを見せてあげる！

レベル2『海皇の長槍兵』にレベル3『ジャンク・シンクロン』をチューニング！！

弱き力を集わせる戦士よ！今こそ沢山の仲間の力を借りて悪を滅ぼして！シンク口召喚！
集え！『ジャンク・ウォリアー』

！！！！

『ジャンク・ウォリアー』のモンスター効果で『海皇の長槍兵』の攻撃力1400を得て、攻撃力を3700まで上昇させます！」
ウォリアー ATK 2300 - 3700

幽「…まさか…、あの手札0の絶望的な状況から…」

亮「すごい…、実さん、本当にすごい…」

実「『ジャンク・ウォリアー』で『ダーク・ホルス・ドラゴン』に攻撃！ スクラップ・フィスト！！」
幽「…っ、墓地の『ネクロ・ガードナー』の効果！墓地のこのカードをゲームから除外し、相手の攻撃を一度だけ無効にする！」
実「くっ…、私はカードを1枚セットして…、ターンエンドです」

22ターン目

幽LP500 手札0 デッキ4 ロキ(A) デイサイシブ(A)
闇ホルス(A) ウォリアー(A) 陰謀 末騎士(D) セット
実LP2300 手札0 デッキ26 フェーダー(D) ウォリアー(A:3700) 長槍兵(D) 人海 セット

幽「俺のターンだ！」手札0 - 1 デッキ4 - 3

幽「終わりだ！『極神皇ロキ』で『ジャンク・ウォリアー』に攻撃！！
ヴァニティ・バレット！！！！」

龍亞「攻撃力の低いモンスターで攻撃…？」

満足「いや、違うぜ。あのリバースカードだ」

龍可「え？鬼柳さん、わかるの？」

クロウ「あのリバースカードは…ずっと前のターンに『極星霊ドヴエルグ』の効果で回収され、セットされた…」

龍亞「『極星宝メギンギョルズ』…」

満足「しかも、『極神皇ロキ』には1ターンに一度、バトルフェイ

ズの魔法・罾カードの無効効果もある」
クロウ「…あのリバーズカードが『攻撃の無力化』でもなければ幽
の勝ちだろうよ」

ロキ ATK 3300 VS ウォリアー ATK 3700

幽「これで終わりだ！トラップ発動！ 『極星宝メギンギョル
ズ』！！

このカードの効果で俺の場の【極星】か【極神】の攻撃力をタ
ーン終了時まで2倍にする！」

実「この程度じゃ終わらない！！いや、終わらせない！

リバーズカードオープン！ カウンター罾『神の宣告』！

LP半分を代償に相手の魔法・罾・モンスターの召喚・特殊召
喚のいずれかを無効にし、破壊する！」LP 2300 - 1150

遊星「ここで『神の宣告』…」

元キン「やはり狙いはカウンター罾だったか…」

クロウ「だけど、まさか『極星宝メギンギョルズ』そのものを無効
にしてくるなんてな…」

実「『極星宝メギンギョルズ』の効果が無効にされたため、攻撃力
に増減の無いままダメージ計算に入る！」

ロキ ATK 3300 VS ウォリアー ATK 3700

幽「ぐっ…、『極神皇ロキ』が…！」 LP 500 - 100

綾香「やった！残り LP 100だよ！あと少しだよ！」

望「本当に最後まで諦めなかったら…、ここまで活路が…」。

頑張って実さん！」

天保「…だが、本当に攻めきれるか？」

幽（…だが、俺も最後まで諦める気はない…）

幽「すべてのモンスターを準備表示に変更…」。

カードを1枚セットして、エンドフェイズに『極神皇ロキ』の効果。

墓地の【極星霊】のチューナー 『極星霊デッキアールヴ』

をゲームから除外し、墓地のこのカードを特殊召喚する。

その後、墓地の罨カード1枚を手札に加える、俺は『極星宝メ

ギンギョルズ』を手札に加える」

23ターン目

幽 LP 100 手札1 デッキ3 ロキ(D) デイサイシブ(D)

闇ホルス(D) ウォリアー(D) 陰謀 末騎士(D) セット

実 LP 1150 手札0 デッキ26 フェーダー(D) ウォリ

アー(A:3700) 長槍兵(D) 人海

実「私の…私のターン！」 手札0 - 1 デッキ26 - 25

実「手札より『マジック・プランター』を發動します！場の永続罫
：『人海戦術』を墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドロ―！」
手札1 - 2 デッキ25 - 23

幽（動くか？

…だが、どれだけ動いても俺は負けない…）

実「：『ジャンク・シンクロン』を召喚！」手札2 - 1

綾香「ここで…」

望「：『ジャンク・シンクロン』を…」

天保「：成程…、あのモンスターか…」

実「『ジャンク・シンクロン』の効果で墓地の『海皇の長槍兵』を
特殊召喚します！」

遊星「成程…、ここで出すか」

元キン「：遊星？」

クロウ「『ジャンク・ウォリアー』か？それとも…」

実「私はレベル1『バトルフェーダー』とレベル2『海皇の長槍兵』
2体に、レベル3『ジャンク・シンクロン』をチューニング！」

龍亞「合計レベル8…、そっとう事か！」

実「仲間の力を拳に変え、絶望の中で殻に閉じこもる仲間を助けだ
す力となって！シンクロ召喚！ 壊せ！『ジャンク・デスト

ロイヤール！！」

綾香「…『ジャンク・デストロイヤー』…攻撃力2600」

天保「あのモンスターのシンクロ召喚時、シンクロ素材に使用したチューナー以外のモンスターの数だけフィールド上のカードを破壊できる…」。

今回は3体をシンクロ素材としたため、3枚のカードを破壊できるってわけだ」

望「すごい！これなら一気に形勢を逆転できる！」

幽「…っ、『ジャンク・デストロイヤー』だと…！」

実「『ジャンク・デストロイヤー』の効果で幽君の場の『A・O・J・デイサイシブ・アームズ』と『調律師の陰謀』とセットカードを破壊！」

幽「…『調律師の陰謀』が破壊されたので『ジャンク・ウォリアー』のコントロールが戻る…」

実「…戻ってきたね…、どれだけ裏切っても仲間は裏切れないんだよ」

幽「…ぐっ、だが、この状況ではまだ勝負は付けられない、次のターンで俺の勝ちだ！」

元キン「その通りだ、あの状況だったらモンスターを少しでも多く破壊しておくべきだったんだ」

クロウ「だけど、破壊されたリバーズカードは『聖なるバリア ミラーフォース』だけ。リバーズカードを破壊しておかなければ、攻撃しても破壊されていたぜ」

龍亞「まさか、手札のカードが『死者蘇生』とか？」

満足「いや、そうだとっても『ダーク・ホルス・ドラゴン』の効果

で壁モンスターが増えることになる。

どっちにしてもこのターンじゃ、勝負は終わらせれない」

龍可「じゃあ、なんでこんなことを…」

幽「さあ、どうする？周りの連中が言うとおり、手札が『死者蘇生』でも勝負は付けられない」

実「その通りだね、私の力でこの戦いを終わらせるのは無理だよ」

幽「…次のターンで『極神皇口キ』の攻撃を受けなくなったらサレンダーを許すが？」

実「私は…、後ろに居る仲間のために負けられない。

そうやって、私はずっと支えられてきた。これからも…」。

幽君だって同じだよ？支えられるものがあって、同時に誰かを支えてずっと生きてきたんだよ？」

綾香「…実ちゃん…」

望「そうだね、私たちが実さんの、そして黒田さんの支えになる、そういう気持ちでここにきてるんだからね…」

天保「…孤独なんて、嬉しくないしな」

幽「…そうやって、お前は仲間の力を借りて、戦い続けてきたが、今その力だけでは足りていない。

確かに、仲間との支えは大事だ。だが、支える気持ちがあっても、俺が抱えている問題は、お前たちには重すぎるから…」

実「大丈夫だよ？私たちには…、私たちの力を合わせれば幽君を支

えられえる！

それを今から証明する！仲間力でこの状況を勝利する！」
幽「……………」

実「私は…」

墓地の水属性『弾圧される民』2体と炎属性『大木炭18』を
ゲームから除外する！」

遊星「何！」

亮「この召喚方法…『氷炎の双竜』…」

龍亞「この状況で、上級モンスターを…」

龍可「召喚するなんて…」

満足「…満足させてくれるじゃねえか…」

元キン「…心が起こす奇跡…」

クロウ「この戦いでよくわかったな、戦いには力だけでなく、心も
必要だつてことだ」

実「小さな灯が、今ここに大きな力となる！仲間の心を支えるため、
私に力を貸して！ 『氷炎の双竜』！！」

幽「…『氷炎の双竜』…、まさか隼人のカードを…」

綾香「…すごい、実ちゃん…、本当に奇跡を起こした…！」

望「こんなすごい奇跡を…実さんの心が戦いの命運さえ左右させた
！」

実「…行くよ！バトルフェイズ！『ジャンク・ウォリアー』で『極
神皇ロキ』に攻撃！ スクラップ・フィスト…！」

ウォリアー ATK3700 VS ロキ DEF3000

実「次に『ジャンク・ウォリアー』で『ダーク・ホルス・ドラゴン』
に攻撃！ スクラップ・フィスト！！」
ウォリアー ATK 2300 VS 闇ホルス DEF 1800

実「『ジャンク・デストロイヤー』！『終末の騎士』に攻撃！
デストロイ・ナツクル！！」
デストロイヤー ATK 2600 VS 末騎士 DEF 1200

龍亞「モンスター全滅……」
龍可「そして、まだ『氷炎の双竜』の攻撃が残っている」
亮「…勝負がついたな…、意外な結末で……」

実「仲間の力でこの戦いに決着をつける！『氷炎の双竜』で幽君に
ダイレクトアタック！！ カオスバレット！！！！」
双竜 ATK 2300 VS 直接

幽「……」 LP 1000 - 0

綾香「…実ちゃん！」

望「やった！すごいよ！実さん！」

勝負が終わり、真っ先に綾香と望が実に近寄る。

実「うん…」

天保「…これで一件落着か？」

隼人を肩に背負いながら天保も言う。

隼人「…そう…みたいだな…」

天保「…目を覚ましたか」

隼人「…まだ、体が痛いけどな、思ったより大丈夫だ」

遊星「……」

元キン「ふん、あの男もまだまだだな！」

クロウ「そう言うなよ、ジャック」

満足「…だが、満足するデュエルを見せてもらったぜ」

龍亞「幽！」

龍可「幽さん！大丈夫！？」

敗北し、黙っている幽に近寄る双子。

幽「…すまない…、俺は負けた」

龍亞「…だけど…」

幽「…ちよっと一人にしてくれ」

そう言つて一人で家に入つていく幽。

龍可「…あ」

亮「…本当に兄が身勝手ですいません。

兄の気が落ち着いたら今後どうするか連絡するので、準備してもらつて申し訳ないけど、今日は解散でお願いします」

遊星「…わかつた、では、俺たちは一度戻る」

亮「すいません、本当に」

遊星「気にするな。それに…」

もしかしたら彼らの力が必要だったから、こつこつ結果になつたのかもしれないしな」

亮「…そうかもしれませんがね。

それじゃ、また後程」

そう言つて、背中を向ける亮。

家に入る前に勝利を喜んでいる人たちの元へ向かった。

実「…亮君」

亮「…兄は今あんな感じですから、連絡は後程させます」

綾香「…私たちも各自の家に戻つても大丈夫？」

亮「ええ、問題ないです」

亮「…ああ、そうだ。一つだけ。

兄に勝つてくれてありがとうございます。

これで兄自身も、納得する結果になったと思います」

望「…それって…」

亮「…心のどこかでは、仲間に頼りたいって思っていたんですよ」

隼人「…素直になればいいのによ」

亮「母親似です。頑固な所は…」

亮は苦笑しながら、背を向け、自分の家に入つていった。

元キン「俺達も戻ろう」

クロウ「…そうだな、今はあいつもそつとしておいたほうがいいかもしれないしな」

満足「しかし、あれだけの人数、連れて行こうと思ったらDホイールがクラッシュすると思うが…」

クロウ「…苦労しそうだな…」

そうやって、チーム5D'sの面々もDホイールを走らせ、その場を後にした。

隼人「…俺達も…、ここで解散するか？」

綾香「そうだね、隼人も少し辛そうだし」

隼人「…まあ、自分では歩けるが、今日はさつさと寝るか」

実「…まだ朝だよ」

望「本当だ、9時10分…、って結構デュエルしてたねー」

天保「そうだな、それだけすごいデュエルだったが」

実「…それじゃあ、私は疲れたから、先に帰るね…」

隼人「…俺達も帰るかな、デュエルの経過でも聞きながら」

綾香「さて、私も帰って、デッキ調整をしておかないと！

実ちゃんにも負けられないからね！」

望「そうですね…、大変になりそうだけど、仲間が居ればどうにかなるよね」

天保「…じゃあ、また後日…だな」

実「うん、それまでしっかり休養しておきます」

綾香「黒ちゃんのために、負ける戦いはできないからね！」

望「そうだね、期待を裏切らないようにしないと」

隼人「…ここからが俺たちの…戦いだからな」

そう言って、それぞれが自分の想いを胸に帰路へついた

第19話 END

第19話 護るため（後書き）

仲間を想い、護るための戦いが決着し

それぞれがそれぞれの想いを胸に

戦いの目的、戦いで得たい物、それを自分の心の中で呟く

大切なものを護るため、大切なものを救うため

戦いの準備をしていく

第20話『想い』

第1章完結の物語

一つの終着点が戦いへの幕開けになる瞬間を

第20話 想い（前書き）

第1章完結の物語です。

外伝を挟んだ後、第2章に突入したいと思います。

では、デュエルパートの無い第1章完結編、お楽しみください。

第20話 想い

亮「どう？負けた感想は？」

幽「……」

黒田家

3時間ほど部屋に閉じこもっていた幽が部屋から出てきたところだ。二人は昼食を食べながら、話をしているところだ。

幽「……」。

…お前は気づいていたのか？俺に気持ちに…」

亮「…まあ、兄弟だしね。」

全く、頑固なんだからさ。しかも折り紙つきの「

幽「お互い様だ、下手したらお前のほうが頑固だろう」

亮「いやいや、それはない。」

あの戦いを見て、改めて頑固というか、素直じゃないというか

…」

幽「…見ていただけのくせに…、痛い目見るか？」

若干、血管が浮き出ている。弄りすぎたかな？と後悔する亮。

亮「…実さんに、少しは心を動かされた？」

幽「……」

眼をそむけて、再び部屋に戻る幽。

亮「……、だいぶ動かされたようだな……」

一人、取り残された亮も戦いの事を思い出す。

亮（…俺も、あの人の戦いには心を動かされるものがあった。

デッキを信じるとか、相手を信じるとか、そういうのじゃない。

…自分自身を信じたい。そう思っている気がした）

自分のデッキに目を向ける亮。

亮（デッキは答えてくれるとか、カードを信じていれば…とか、そういう気持ちじゃない…。

俺は…俺自身を信じるんだ。俺自身の血…。

サイバー流の継承者としての誇り…、ルーンの瞳を持つ者の誇り…。

俺に力を与えてくれた過去の丸藤亮…、今のドラガン…、彼らの誇りのために…、そして自分自身の誇りのために…、負けるわけにはいかない…！）

エクストラデッキを見る亮。

『極神皇トール』と『サイバー・エンド・ドラゴン』

亮（…勝つ、俺の誇りをかけて…。

真実の告げる者

ミスターT…トルーマンに

隼人「…そんなデュエルだったのか…」

天保「心でどうにかなる、なんて綺麗事を実現する、そんな奴もいるってことだ。

まあ、流石の俺も驚いたが」

隼人がデュエルの経過を聞きながら、二人で、喫茶店で昼食をとっている。

隼人「…俺のカードを使って…ね。

悔しいけど、俺もまだまだってことだ」

天保「そうだな。頑張って勝てよな…あれくらい…」

隼人「ぐ…、露骨に言われると若干悲しくなる…」

悔しい顔をする隼人。

それを、笑う天保。

隼人「…そういうえば、お前は来るのか？」

天保「まあな、この戦い、どのような結果で終わっても第3者が未来に伝えていかなければならない。」

俺は…今回の戦いの結末を絶対に伝えていかなければならない」

隼人「…仲間意識はないのか？」

天保「あるさ、だからこそ、お前らの仲間として戦い、結末を見なければならぬ」

隼人「…そんな考えを…、お前らしいといえはお前らしいな」

天保「それに俺が全力出したら、お前らの出番がなくなるだろ？」

隼人「すごい自信だな、すごいを通り越して呆れるわ」

天保「褒め言葉として受け取っておくよ」

「お待たせしました」をコーヒーと紅茶が来る。

隼人の紅茶は『レッドアイズ・ティー』小サイズ。1杯800円だ。

天保のコーヒーは『究極竜珈琲』…1杯4500円…。

隼人「おい…、1杯4500円って…コーヒーだぞ？」

天保「…この味が好きでな」

隼人「…財布は？」

天保「大丈夫だ。この前の大会優勝賞金がある程度出ているからな」

隼人「……」

天保「俺が『流星紅茶』奢ってやろうか？」

隼人「…俺は庶民派だ」

因みにレッドアイズ・ティー⇨真紅眼の黒竜(2400円)
小サイズ⇨黒龍の雛(800円)

究極竜珈琲⇨青眼の究極竜(4500円)

流星紅茶⇨メテオ・ブラック・ドラゴン(3500円)だ。

他にもローズ・サンドウィッチセット(2400円)や喫茶店にはないが星屑冷麺(2500円)というのもある。

残念だが、『ブラック・マジシャン』をモチーフにしたものはいまだ開発されていない。

隼人「…作者、話がそれすぎだ」

あ、申し訳ない。

隼人「…大丈夫だ、俺達なら勝てる…」

天保「何だつて…?」

隼人「…何でもない、独り言だ」

隼人(俺に…運命のきりひらく方法を教えてくれた黒田幽…。

今、あいつは神という枷で自分の運命を…見失うかもしれない戦いをしようとしている。

次は俺だ。あいつが運命を見失い、壊れるのを絶対に避ける…。

そのための力。俺たちの未来を神のカード如きに崩させはしない…)

天保（…俺達なら勝てる…ね。

所詮、俺たちは筋書きの決まった世界でもがいているに過ぎない。

この戦いの結末も決まっている。

そして、同時にその筋書きを崩す者もいる…

もし、敗北の未来が待っているなら。こいつらが…そして、俺自身はその筋書きを崩すことができる人物かどうか…。

俺の役割はそれを見届けるだけだ）

綾香「…結局、私たちは隼人や実ちゃんにすべてを委ねる事しか出来なかつたんだよね」

望「…そうだね、生徒会でずっと仲間だと思っていたんだけど…。

もしかしたら、私たちのほうが黒田さんの事を信じ切ってないかもしれないかもしれないね」

途中まで同じ帰路の二人。そこまでゆっくりと話しながら歩いている二人。

綾香「…隼人も実ちゃんもデュエルですべてを伝えきったけど、私
たちは…何もできていなかったよね」

望「私たちには中途半端な力を中途半端な心しかない。

このまま行ってもいいのかな…？」

綾香「…いや、それは違う。私たちは必要だよ、彼らにとって」

望「…綾香さん」

綾香「生徒会では生徒会長…黒田幽にしか出来ない事、そして副会
長の私自身にしか出来ない事も…当然、会計の望にしか出来ない事
も、書記の隼人にしか出来ない事も…ね」

望「…そうだったね。私が間違ってた。

流石副会長さん、言うことが違うね〜！」

綾香「…ふざけすぎ、全く…」

その二人の目の前に、二人別々の帰路につく道が現れた。

綾香「…それじゃあ、今日はここで」

望「また…、次は決戦の日に…」

二人はその道で別れ、別々の想いを胸に帰宅した。

綾香（…副会長は、まさしく『副』…。会長の代わり…。

その私の役目は…、会長。あなたの代わりになれるようにする…。

護るのでもなく、彼が居なくなつたとき、その周りの人のすべての人の心を開いた穴を…私が埋める…。

心だけじゃない…、その戦いで戦力、そしてその後すべての行動…。

私自身ももつと強くなる…、彼と同じくらい…。

黒ちゃん…、あなたと肩を並べられるくらいに強くなる…。心も…、力も…）

望（私の役割…。なんだろう？

生徒会会計。でも、私は何をしたらいいんだろう？

…わからない…。

でも、私が今できることをするのが私の一番の役割。

わからないなら作ればいい…。私自身の役割を…。

生徒会を影から支え、常に最高の状態で戦える環境を作る。

そうやって、私は大切な仲間たちを支え続ける…）

昼から少し時間がたち、午後7時になった。

実「……うーん……、よく寝た……」。

つて、ふにゃ！もゆ、ひいちぢいひゃなひいひゃあ〜」

オンドウル語を話す実。

あの戦いの後、昼食も食べずにすぐに寝てしまった実。

そして、気が付いたら8時間近く寝てしまっていた。

実「ほえ？……なんでこんなに寝てるんだっけ……？」

誰もいないのに、勝手に話に出す実。

おまけに寝ぼけている。

だが、すぐに思い出す。幽とのデュエルを。

実「……そっか、勝ったんだった。あたしたち……」

実（…これでよかったのかな。今考えると本当にすごい戦いだつた。下手したら、『極神皇ロキ』の攻撃を受けて死んでいたのかも…）

…怖い。本当に、あんな戦いばかりやりたくない…。
だけど…それ以上に…）

そう思い、実は部屋を出た。

幽（…『極神皇ロキ』…）

一人、部屋にこもっている幽はずっとテツキを眺めていた。

幽（…あのデュエルが鮮明に蘇る…）

私たちだって、一緒に戦うんだつたら、相手が本物の神でも、私は絶対に逃げない！

幽（…逃げていたのは俺だったんだ。失うのが怖かった、護れないのが怖かった。）

何が護るほうの気持ちになれ、だ。そんなこと言えねえな）

私は本当の最後まで諦めない！諦めたくない！
私たちの力を合わせれば幽君を支えられる！
仲間の心を支えるため、私に力を貸して！

『氷炎の双竜』！！

幽（…そうだ、忘れていた、一番大切なことを…）。

俺一人の力なら、俺は隼人にも実にも勝っていた。

だが、力を合わせることによって、新しい奇跡が、多くの希望が生まれる…。

やがて、希望や奇跡が大きくなり、それがより大きな力に打ち勝つ…。

俺は…何でも自分でできると過信していた。とても大きな間違いをしていたんだ。

それを気づかせてくれたのは…、ずっと一緒に居た実…。

俺はもう恐れない、仲間を失うことを…。そのための力。

…共に戦う、互いを強い意志同士で結び合い、より大きな力で豪を倒す…！（）

見ていたデッキをケースにしまう。

幽「…俺の力よ、仲間との結束でより大きな力を…」

その時だった。

全く空気の読めない軽快な音でインターホンが鳴った。

しばらくして、亮がドアを叩いた。

幽「どうした？」

亮「…実さん。玄関前で待ってる」

幽「…！」

幽「…実、ごめん、待たせた」

実「ううん、待ってないよ」

玄関前で向き合う二人。

幽「…どうした？」

実「少し話したくて…、いいかな？」

幽「…家に上がるか？」
実「いや、大丈夫」

少し黙ると急に実が優に抱きつく。

幽「…え…っ、ちょ…実…？」
実「…っぐ…怖い…のっ、…あたし…」

その顔は涙に濡れていた。

幽「…戦うことが、か？」
実「…違っ…ひくっ…違っの…」

幽君が…離れて…しまっんじゃ…ないかって…」

幽「……………」
実「すごく怖い…、裏切られるのも…死なれるのも…」

幽「…実」
実「だけ…どっ、…っやっ…、幽君に抱きついていれば…、ずっ
と一緒に居られる…」。

幽「…っやっ…、実感できるから…」
幽「……………」

幽（そうか、俺の心を動かした少女はこんなに細く、弱いんだ。
そう…、俺も…この俺の体に顔を当てて泣いている少女も、誰
かのために戦える。誰かのために頑張れる）

幽が実を抱きしめる。

幽「実…、大丈夫…。」

「俺は消えない。絶対に、抱きしめなくてもずっと一緒に居るよ」
実「…幽君…。」

あたし…幽君の事が…」

実が消えそうな声で言う。
抱きしめたまま聞く。

亮「甘すぎるよ、ご両人。おかげで血を吐きそうだ」

これまた空気が読めない声がする。

当然、その声は亮のもの。

沈黙した空気が流れる。

幽「……」

実「……えーっと」

自分たちの姿を見られて、顔を真っ赤にする二人。

実「……幽君、ごめんね！変なことしちゃって！」

我が返ったように、急に離れる実。

幽「…いや、こっちこ」実「夜遅くにごめん！それじゃあ、また明日！」

…また…明日な」

幽が話している状況に割り込んで話し、そそくさとその場を去る実。

その場には取り残された幽と傍観者の亮。

幽「…亮」

亮「ん？」

亮は逃げる準備をした。

幽「…ありがとな」

亮「…え？」

素で言ってしまう亮。

幽「…何でもない」

顔をそむける幽。

亮「幽兄」

幽「ん？」

亮「あの告白の、答えは？」

幽「…普通聞く？しかも、好き、なんて言われてないのに…」

亮「流れる的に、ね。」

それに二人とも顔真っ赤だったし」

幽「…そうだな。」

正直に言っと、好いている」

亮「正直に言っと？」

幽「…だけど、俺は実の告白を受け取らなかっただろうよ」

亮「…！」

それはなんで？」

幽「俺は今回の戦いで仲間を護って戦うと誓った。」

だが、仲間とは実だけじゃない。隼人だって、綾香だって、望だって、天保は…仲間だけど…守られる立場になりそうだな…、もちろんお前だって、俺が護らなくちゃいけないんだ。

だから、あそこで…、もし…告白を受理したら…、もしかしたら俺は彼女を護るために、他の護るべき仲間を見捨てるかもしれないんだ」

亮「…仲間内に優劣をつけるのを恐れているのか」

幽「…告白を聞きたくなかった。だから、それを止めてくれた亮に

『ありがとう』って言ったんだよ」

亮「…そう」

テーブルの椅子に座る幽。

幽「…もし、戻ってくれたら、俺のほうから告白するかな」

亮「…死亡フラグだよ、それ」

幽「ふっ…、そんなフラグ、ぶち壊してやるよ」

亮「フラグブレイカー、期待してるよ」

幽「…ああ」

幽「こんな話は終わりだ。

明日の時間だが、同じでいいか？」

急に立ち上がり、言い出す幽。

だが、急な変化にもすっかりと反応する亮。

亮「構わないよ」

そして、一つの質問をする亮。

亮「護れる自信は？」

幽「……ある…とりたいんだが、まだこれはわからない」

亮「そうか」

幽「…だが、大丈夫だ。少なくとも心では負けない…。絶対に、な」
亮「…それを聞いて安心した」

幽「それじゃあ、他の人たちに連絡する」
亮「…よろしく」

クロウ「…わかった、それじゃあまた明日な」

遊星家、幽からの連絡を待っているチーム5D'sの面々。

遊星「…いつ集合になった？」

クロウ「明日の8時だ。今日と全く同じ条件だな」

遊星「…そうか」

その時、珍しく、言いにくそうに話をし始めた。

元キン「遊星、すまないが…」

遊星「どうした？」

元キン「…これなんだが…」

1枚のチラシを見せる。

それは遊星達にとって見覚えのあるチラシだった。

クロウ「…これって」

龍亞「何？何のチラシ？」

興味津々にチラシを見てくる。

元キン「…俺の…バイトだ…」

現在ニートであるジャックにとっての初めてバイト。

彼にとっては、この初めてのバイトが、キングになるくらい重要な

ことなのだ。

クロウ「おいおい、ジャック！いくらなんでも、こんなくだらな
ことのためにあいつらとの戦いの戦線を離脱するのか!？」

龍亞「そうだよ！バイトなんてまた探せばいいじゃん！」

文句をいう男二人。

敗けずにジャックも言い返す。

元キン「お前らに働けない者が初めて手に職をつけたときのこと
分かるのか！」

クロウ「でも、ダメだろ！」

遊星「待て、クロウ。ジャックの気持ちも考えるんだ」

クロウ「おい、遊星！なんでお前が賛同してるんだよ！」

遊星「ジャックが今まで働けなかったのも事実。」

あいつにとっては重要なことなんだ」

元キン「そうだ！その通りだ！」

クロウ「…たしかにそうだが…」

納得しないクロウ。

遊星「仲間で常に戦うことは大切だ。

だが、仲間の成長のために、互いの事を信頼して別々の道を
歩むのも大切じゃないか？」

クロウ「遊星らしくないな。絆に執着していたお前がそんなこと
言ってるなんて」

遊星「意外か？俺はむしろ仲間だからこそ、絆があるからこそ、今回の件についてはジャックには離脱してでもバイトしてもらいたいと思う」

遊星がクロウの耳元で囁く。

遊星「…それに、ジャックはこれを逃したら次がない、という可能性もあるからな」
クロウ「…遊星。」

ちっ、わかったよ。たしかに遊星のいう事も一理ある」

ヒソヒソ話終了。

元キン「…？」

遊星「それに俺たちは絆に頼りすぎている部分もある。

もしかしたら、それが枷となり自分たちの未来を見失ってしまつ可能性もある」

クロウ「……………」

龍可「…遊星」

遊星「俺たちの絆は永遠のものにしていかなければならない。だが、俺たちはそれぞれの未来のためにいつかは別々の道を歩むことになる。

その時、今まで肩を並べ、共に戦ってきた仲間がそばに居な

いと戦えなくなるのではなく、遠くで頑張っている仲間の事を考え、自分の未来を自分自身で決めていく必要がある」

元キン「…いつかは離れ、仲間に頼らず生きていく力を身につけなければならぬ。」

遊星はそこまで考えていたとは…」

クロウ「そうだな、俺たちはいつの間には一緒に居ることが当たり前になっていて、ってわけだ」

遊星「だから、今回の戦いは、俺達が遠くにいても、絆を忘れずに戦えるようになるための試練の一つだ」

龍亞「わかったよ、遊星！」

龍可「私たち、頑張ってみる！」

クロウ「俺もだ！ジャックが居なくても、チーム5D'sの一員として恥じない戦いをしてくるぜ！」

元キン「ふん！初めに言っておくが、負けたら許さんぞ！」

クロウ「ああ！？お前は来ないくせにいちいち偉そうにするんじゃないよ！」

大体、お前が働かないのが悪いんだろ！」

元キン「何イイ！！そもそも世間がこの俺を認めないのが悪いんだ！」

ぎゃいぎゃい言いあいが始まった。

その横でどこからともなく出てきた鬼柳が遊星に話しかける。

満足「遊星、話は終わったか？」

遊星「鬼柳、今までどこに行ってたんだ？」

満足「さっきの話には俺は参加しないほうがいいかと思ってな」

遊星「…そんなことは無いんだが…」

満足「…それに、シリアスな話に俺の入る余地がなかったんだ。

それだけ満足した話だったってことだ」

遊星「……、そういえば、お前もジャックのバイトについていくとか言っただけじゃなかったか？」

満足「ああ、俺もジャックの手伝いをしに行くから、今回の戦いは離脱する」

遊星「…そうか」

満足「それに、チームサティスアクションが集まったら、どんな敵でも満足できねえからな」

遊星「……言われてみればそうだな」

満足「さて、と俺はもう行くぜ。」

ジャック、時間だ」

子供じみた口げんかをしているジャックに言い放つ鬼柳。

元キン「ん？もう、こんな時間か」

さっきの喧嘩が嘘のように、鮮やかに準備を始める…

持ち物はデッキとDホイールだけなので準備も何もないのだが。

元キン「…行ってくる」

満足「俺も満足させてもらうために、ジャックについて行くぜ」
クロウ「ったく、これでクビになったらタダじゃおかねえからな！」
龍亞「ジャック、鬼柳！頑張って働いてきてね！」
龍可「戦いは私たちに任せて！」

元キン「…遊星、任せたぞ」

遊星「ああ、行って来い、ジャック！鬼柳！」

そう言って、Dホイールを走らせ、夜の闇に消えていく二人。

遊星「…今日はもう遅い、龍亞と龍可は、今日はジャックと鬼柳（元ブルーノ）の部屋を使ってくれ」

時計を見ると、既に午後10時を回っている。

龍亞「うん、ありがとう！」

龍可「それじゃあ、二人ともお休みなさい！」

そう言って、階段を上がっていく二人。

クロウ「…なあ、遊星」

遊星「どうした？」

クロウ「さっきの話だけだよ、お前自身はどうなんだ？」

遊星「…どういう事だ？」

クロウ「お前らしくない、仲間に頼らずに戦うなんて言葉」

遊星「そうか？」

クロウ「…単刀直入に聞く。お前はアキが居なくなったことで、自分の心に開いた穴をふさげていないんだろ？」

遊星「……」

クロウ「お前自身が、仲間がいないと戦えない状態になっている。

それが分かっているから、珍しくあんなお前らしくない事を言ったんだろ？」

遊星「…俺は……」

クロウ「それに、ブルーノ…いや、正確にはアンチノミーか、あいつが居なくなった時もお前は特に落ち込んでいたしな」

遊星「…ばれているか、全部」
クロウ「そりゃな、多分みんな気がついてるだろうぜ。」

 「だけど、俺たちのリーダーでも心の弱い部分がある、そんなことわかりきってるからな」

遊星「…すまない、心配をかけて」

クロウ「仕方ねえよ、誰だって弱いところがある」

遊星「…ああ、ありがとう」

クロウ「さて、俺たちは明日の戦いのためにもう少し特訓するか？」

遊星「クロウ？いきなり何をいう？」

クロウ「今のアキは、幽の話を聞くと、サイコパワーが復活したらしいからな。」

すなわち、俺が知らない、昔のアキなんだろ。

それを救えるのは、遊星、お前だけだ」

遊星「…クロウ」

クロウ「そら、アキが強いのはお前もよくわかってるだろ！

確実に勝てるためにデッキの微調整を怠らない！デュエリ

ストの基本だ！」

遊星「…ありがとう、クロウ」

そう言って、彼らは夜の闇の中、デュエルの特訓をするのであった。

一人、十六夜はカードを見ている。
デッキの中の1枚のカード 『デブリ・ドラゴン』を。

十六夜（…このカードは何？）

そのカードを見るたびに体験した覚えのない記憶が十六夜の頭に映し出される。

本当に優しい蟹頭の男性。

それに対し、笑顔で話す自分。

十六夜（…何、この記憶は…）

十六夜「何なんだッ！この記憶は！！」

大声を出す十六夜。

怒りがこみ上げ、近くにある花瓶を殴り、叩き割る（！！？）。

デイバイン「…どうしたんだ？アキ」

十六夜「…デイバイン」

変な髪形の男が入ってくる。

十六夜「…私の記憶に、妙なものが…」

デイバイン「…不安定なんだ。今のアキは。

ただ、アキは私たちの邪魔者だけを倒せばいいんだ」

十六夜「…わかったわ、デイバイン」

次の日

時間が8時を告げた。

幽「…昨日もそうだったが、早くないか？」

遊星「些細な問題だ」

隼人「5分前行動って言葉を知らないのか？」

既に全員集まってい居る。当然、ジャックと鬼柳は除いて。

幽「あれ？元キングと鬼柳さんは？」

どっかから「元キングだとおおおおお！」とか聞こえたが気にしない。

遊星「…彼らにも言ったが、話すとき長くなる。今度は話す」
幽「…そうか…」

次に目に入ったのは…

幽「天保、お前、Dホイールの免許持っていたのか？」

天保「おう、俺は大体何でもできるからな」

彼は、体の大きさに合わないBIGなDホイールに乗っている。

天保「…しかし、Dホイールで突っ込まれるのが多すぎる。

俺が乗れるのがそんなに驚きか？」

幽「…すまない」

遊星「…問題がある」

幽「ん？」

3人がDホイール、2人がデュエルボード、残りの6人が歩き。

遊星「これはどう考えても、問題だろう」

龍亞「6人がそれぞれのDホイールに乗れば問題ないんじゃない？」

遊星「…俺は問題ない…、がクロウのDホイールはクラッシュしちゃうんだ」

クロウ「…ここ最近、荷物運びやなぜかダメージが現実になるデュエルとか、人運びで限界なんだ…」

遊星「我慢してくれ、女性二人が乗ればギリギリ平気だろ」

クロウ「…多分体重は、（女性2）＞（男性1）だと…」

後ろの女性3人と目の前の龍可の視線が痛い。

クロウ「…ああ、何とか大丈夫だ」

流石、苦勞人クロウ。彼がこの戦いの一番の被害者かもしれない。

相談の結果、ブラックバードには綾香と望。遊星号には幽と実。神号（彼の名前に、そして大きさに）には亮と隼人が乗り込む。

遊星「大丈夫か？クロウ」

クロウ「ちつとも…（4人の目線が突き刺さる、…特に後ろに乗っている二人）」

クロウ「…へ…平気だ」

遊星「…神太郎だったか？そっちは平気か？」

天保「結構ギリかな、もう3人の体重合計は200近くあるからな」

幽「…申し訳ない。人数が増えてしまって」

遊星「大丈夫だ、特に気にすることは無い」

遊星「さあ、準備はいいか？」

クロウ「俺は大丈夫だぜ」

天保「いつでもいいぞ」

龍亞「よっしゃ、俺もいつでも行けるぜ！」

龍可「私も大丈夫です」

幽（…俺は絶対に誰も死なせはしない…！そして俺自身も必ず…）

亮（勝つ！俺自身、俺の祖先、俺に力をくれた者の誇りを護るために）

隼人（幽…、次は俺がお前の運命のために同じ道を行んでやる！）

綾香（私は、黒ちゃんに負担をかけないように必死に戦う…、それが私自身の…このメンバーでの最大の役割だから！）

望（私の役割、それはみんなが全力を出せるようにサポートすること…、脇役でもいいから、私自身はこの戦いでみんなの支えになる！）

実（…誰にも居なくなつて欲しくない。これを私の心の中だけじゃなくて、意思として、実行するんだ！）

天保（俺は、この戦いの結末を見届けなければならない。例え、敗北で終わったとしても…）

遊星（…アキ、お前に何が起きたかはわからない。だけど、俺は絶対にお前を今まで通り、優しい十六夜アキに戻して見せる！）

クロウ（…学校の連中、そしてチーム5D'sの仲間。俺にはどこちも消えてほしくない奴らだ。絶対に負けねえ！）

龍亞（…俺は今まで遊星達に頼ってきた。でも、いつかは俺と龍可だけで、どこかへ旅立つときも来る。俺はそのために力をここでつけたい！）

龍可（…誰かに支えられてきた私が今度は仲間を支えられる人になりたい…。龍亞だけじゃない、皆を支えられる力を…）

遊星「行くぞ！みんな！！！！！！」

クロウ「おっしゃ！」

天保「ついに始まったか…」

龍亞「行こうぜ！龍亞！」

龍可「うん！」

隼人「絶対にみんなが無事に帰るぜ！」

亮「色々あつたけど、これからが本当の戦いだ！」

綾香「絶対に敗けないんだから！」

望「そうだよ！誰一人欠けちゃいけないんだから！」

幽「…実」

実「…幽君、頑張ろうね」

幽「…わかった」

幽「さあ！これからが本当の戦いだ！…！」

第20話
E
N
D

第20話 想い（後書き）

遊戯王5D・sの神の戦争、…今は遊戯王3G・sですね。
いかがでしたか？

いまだお気に入り登録も少なく、マイナーな小説だと思います。
でも、わずかに楽しみにしてくれている人もいますので、こちらも頑張りたいと思います。

こちらとしては、まだまだ未熟な部分があるのが、非常に反省すべきところだと思っています。

ぜひ、これからも、遊戯王3G・sをよろしくお願いします。

第1章 END

次回予告

今回は第1章『アカデミア編』の不明な点、突っ込みどころを一通り、紹介したいと思います。
後、申し訳ない謝罪もあります。
楽しみに待っていてください。

外伝 夫婦と返答（前書き）

外伝第一弾、第10話〜20話の色々な疑問を幽と実、著者（ステイラーの精霊）が解決していきます。

完全ネタな気がしますが、お楽しみください。

外伝 夫婦と返答

幽「…戦いの予定だが、仕方ない仕事もある」
実「え…？ここは…？」

不動遊星のDホイールに乗っていた二人はいつの間にか一つの部屋に居た。

幽「ここは別に変哲も無い部屋。さっきも言ったが、俺たちは特別な仕事で呼ばれたんだ」
実「ふーん…」

興味のなさそうな声を出す実。

幽（…興味の無い返答…、俺は二人きりでちょっと嬉しいんだけど…
！いやいやいや、これは仕事だし、えっと、仕方ないよな、うん。
あー、でも同じ部屋だし、ちょっと位話しても…、って何考えてるんだ！俺エエ！）

実（あわわわわ…、同じ部屋って…、何でこんなことしてるんだよ
！！

超嬉しい！顔がニヤケそう！意識飛びそう！

いや、でもお仕事なんだ！そんな不純な事考えちゃダメ！
でも、お仕事だし…、将来婚約…って、何考えてるのよー！私
（イイ！）

二人そろって同じような妄想（？）としている所に、小さい虫が飛
んできた。

幽「ん？何だこれ？」

実は未だぼーっと妄想している。

実（…私って料理上手だったっけ…、うーん、もっと練習しないと
だめか…

いや、上手といったら幽君と一緒に寝）

????「おい、妄想やめろよ…」。

しかも、話に変な方向に行ってるって、R18突入はNG
だぞ

急に聞こえる声。

幽「この虫から声が聞けるな。」

…てんとう虫…いや、『レベルステイラー』…?」

実「ふえ！なんで私が妄想してるってわかったの！

そもそも、変なこと妄想してないよ！ちよっと、ベッドの事を

…」

幽「…ん?」

実「嫌あああ！なんて事言わせるのよおおおお！！」

バアアアアン！と幽を引っ叩き、飛んでいる『レベルステイラー』を叩き潰す実。

イザコザ解決に5分経過…

レベルステイラー「…まあ、とにかくだ」
幽「…すげえ、痛い」
実「……恥ずかしい」

急に部屋に出てきた椅子に座る二人。
その周辺を『レベルステイラー』が飛んでいる。

レベルステイラー「さて、今回のお前らの仕事はこれ、前は俺
がやったけどな。」

ああ、後俺のことは以下『レ』と略すからよ
ろしく」

幽と実には渡される紙。

幽「…気になること一つ」

レ「どうした？」

幽「…あんた誰？」

レ「…見てわかるだろ、『レベルステイラー』の精…ブッ」

ハエのように潰される。

レ「…この物語の著者だ。だが、実際の姿を見せるわけにはいかな
い。」

顔とかバレたら、大変だからな」

実「…あの、著者さん…」

レ「何だ？」

実「小説だから、文字だから見えないよ？さすがに実名はまずいけ
ど…、偽名使えばいいんだし…」

沈黙が流れる。

レ「…まずは、前半の謝罪、第4話の謝罪だ」

実「急に!？」

幽「誤魔化したな」

レ「それじゃあ、まずは第4話の謝罪だ」

実「はい、えつと、この物語のデュエルについてです」

幽「いかなる理由があっても真似はいけなくて、著者」

レ「…知らなかったとは、言い訳しません。」

小説を書き始めて少し経過したら、架空デュエルも見始めた著者…。

そこで出会ったある架空デュエルで第4話ラストターン（帰還からのユベル3の展開）の部分がそっくりだ」

幽「どう考えても真似だ」

レ「…すまない、いい展開だったが、これは書き直そうと思っている」

幽「それが良い、流石にやばいだろ」

レ「せめての謝罪として、その人の架空デュエルでも宣伝するか…」

実「はい、えつと…」とある戦符の決闘魔物』という動画です！遊

戯王DMと』とある魔術の禁書目録』とのコラボ動画です」
レ「個人的に楽しめるから、一度見ることをお勧めします」

レ「さて、ここから、普通の意味不明な点を解消していくか」
幽「ああ、そうだな」

実「えっと、それじゃあ第10話『不意打ち』です！」

・『破壊指輪』の引き分け…？

レ「11話のフラグ、一応ね」

幽「ああ、俺のデッキに入れてる、って伝えたりもりだ」

・話すことがないならデュエルで満足するしかねえ！

レ「満足しようぜ！」

幽「あんた、鬼柳好きだからな」

・亮君、包丁怖い

レ「そうだな、怖い」

幽「俺たちはリアルファイトも結構する気あるからな」

レ「…おい、デュエルしろよ」

・ミスターT復活劇？

レ「こいつは闇から生まれる奴だったよな？」

幽「GXの設定では、だが」

レ「アポリアに過去にあった『絶望』の闇からこいつが生まれた、
ってことで」

幽「詳しい話は、おそらく掘り下げる」

・アンティカードは？

レ「想像するのが一番だ」

幽「…そうだな」

実「…でも、実際は何のカードの予定なの？」

レ「…『極神聖天オードイン』だ、因みにダメー」

幽「あれは驚いた」

レ「すでに本物は豪の手に渡っていたから、このカードを安心して
渡せたんだ」

幽「…そうだったのか」

・Tさん、【機皇】！？

レ「さつきも言ったが、死んだアポリアの闇から生まれたからな、

【機皇】を使用するんだ」

幽「まあ、別に掘り下げるつもり無いからな、言っても良いだろう」

・アステリスク…、扱いがw

レ「仕方ない、あいつ使いにくい」

幽「もう少し強くても…」

・フォートレスはデッキに何枚？

レ「1枚」

幽「ピン!？」

レ「他はシンクロとか」

・安心と信頼のガード・ブロック

レ「2枚目は非常に申し訳ない」

幽「…たしかにな、いいカードだが、今の環境じゃ、だめだな」

・困ったときの壺

レ「お互いに使っな」

幽「便利だから、いいだろ」

・モンスター・ジュウゴレンダア!

レ「流石、サイバー流、何でもおっけー」

実「えっと、以上ですね」

レ「反省はガード・ブロックニレンダアかな」

幽「まあ、デュエルの出来としては中々だと思ったな」

実「それじゃあ、次は第11話『黒薔薇の魔女』です!」

・ロンファ、ガチカードWWW

レ「S女王は、使用カードが少なすぎる」

幽「まあな、因みにこのときのロンファは準制限だから、2積みしてるのを突っ込まないでくれ」

・エネミーコントローラー

レ「社長限定…」

幽「月の書制限だから、文句言わないで」

・遊星、せつかちすぎ…

幽「十六夜が絡むところなるんだな」

レ「お前ら二人と同じだな」

実「黙ってっ!」

・おじさああああん!

レ「後ほど、掘り下げるし」

・引き分け…？

レ「負けさせてもよかったな」

幽「…だな、負けたほうがよかった」

レ「前々に言い訳したが原因は『ドツペル・ゲイナー』だ、非常に申し訳ない」

実「以上ですね」

レ「やはり引き分けはミスだった」

幽「それ以外は中々かな？」

レ「因みに、この話はなぜか人気の話だ。やっぱり題名があれだからか？」

幽「多分な」

実「それじゃあ、次は第12話『戦いのための戦い』です！」

・誤字

レ「龍亞を今まで、流亞だと思っていたんだ、本当に申し訳ない…」
幽「まあ、指摘してくれた人に感謝だな」

・アブソリュート・パワーアアアアフオオオオオオス！！！！

レ「元キングの攻撃！」

幽「なんというネタ。扱いが酷い」

レ「まあ、第2章から彼のデュエルも見れるから」

・苦勞人クロウ

レ「遊星のパシリ、元キンの子守、セキリュティの仕事、彼は大変だ」

幽「過勞死はしないだろうが」

・M A T T E !

レ「カップラーメンはチーム満足のポリシーだと思う」

幽「多分鬼柳さんも食べているんだろうな」

・最強双子

レ「異常に強い二人」

幽「特に龍可、ロックとLP回復は酷い」

レ「バインドも無制限だし、化けそうな奴だ」

幽「因みに『エレキリン』は獣っぽい（実際は雷）し、ダイレクトアタツカだからデツキに入れてる」

実「第12話は終わり、デュエルは第13話に続くんだよね」

レ「そうだな、タッグは基本長くなるしな」

実「それじゃ、第13話『双子の強さ』です、どうぞー！」

・魔法の筒

レ「ミラフォオクラスのガチカード」
幽「LPの都合上」

・フェアリーさんのアニメと違う異常な仕事率

レ「うん、アニメで使われなさすぎ、効果とか」

幽「しかし、あのモンスターのLP回復は厄介だった…」

・バイス・バーサーカーだと？

レ「元キンのカードだったっけ？」

幽「しかし、よく考えたらかなりデイスアドなカードだな…」

・装備カードをサイバー流積み込み

レ「なんてチート装備」

幽「6400の2回攻撃、しかもサルベージ効果付き」

・ブラック・ホール…

レ「かなりのガチカード」

幽「ノーコストで自分のモンスターを破壊したかった」

・最後のデュエル…

レ「とりあえず、彼らの性格上ね…」
幽「ああ、負けたのは残念だったが」

実「この話は全部ですね」

幽「しかし、双子が無茶苦茶強い」
レ「確かに」

実「それじゃあ、次第14話の『極神の壁』です！」

・最初が空気の生徒会+

実「空気のヒロインなんてヤダ…」
幽「これは俺が悪い」

・天保の神スキル

レ「名前、神太郎だしな」
幽「こいつの天才っぷりは異常」

・ B A K A N A A A A A A A ! !

レ「ジャックは基本やられ役」
幽「彼がまじめにデュエルするのは2章終盤だ、待っていてくれ」

・亮「やっぱり、『元キング』だからな……」
元キン「アブソリュート・パワアアアアアアアアオオオオオオオス！」

！！」

レ「2回目」

幽「最早日常だな」

・遊星が手札事故だと!？

レ「流石に勝てない、主人公補正があっても」

幽「そりゃ、あのデッキだし……」

・安定のバイスリゾネーター

レ「元キンのチートドロ」

幽「たしかに、初手のこれ率は異常」

・バイス・ドラゴン……

レ「これも元キンのカード」

幽「いいだろ、闇属性だし」

・なーんてな

レ「ブレイブさん、まじすごいつす」

幽「たしかに、デュエルで『なーんてな』なんて言葉使えそうに

ないし」

レ「『それはどうかな？』と同じくらい使いたい言葉」

・ダムド

レ「ついに出たか、闇属性トップラスのガチカード」

幽「基本、墓地送りだからな」

実「最近のデュエルは長いね…」

レ「個人的にかなり良いデュエル」

幽「こっちは死にそうだったが」

実「それじゃあ、第15話『認める者』です！」

・そろそろステイラー過労死

レ「ああ、だが、最後のデュエルよりはマシ」

幽「しかし、この小説のステイラー率は異常」

・ブレイブさん、キャラ違う？

レ「確かに、wkwkな男になっている」

幽「だが、十代みたいにwkwkしているブレイブが想像しやすいんだが…」

・除外され放題ツール

レ「手玉に取りすぎ」

幽「しかし、この小説、過労死するモンスターが多そうだな」

・まさかの英語版

レ「Mare of the Nordic Alfarrだな」

幽「このカードだけ日本語版でないのかな…？」

・亮君チートドロ

レ「まさか手札3枚から5枚つて、チートとさほど変わらない」

幽「うん、流石に融合カードを多用すると手札必要だからな…」

実「長いね…」

幽「ああ…、疲れたんだが」

レ「あと少しだ、頑張れ！」

実「えーっと、それじゃあ第16話『プライド』！どうぞ！」

・5D・sのカップラーメン

レ「キング流石」

幽「こいつ、キング時代の主食もカップラーメンじゃないか、って

言うくらい好きだよな」

レ「庶民なんだよ、キングだけど」

・苦勞人クロウ

レ「これは酷い」

幽「仕事の直後にすぐに駆り出されているからな」

・アブソリュート・パワーアアアアフオオオオオオオス!!!!

レ「もう良いつて」

幽「テンプレだな」

・12歳の少女に頭を下げる20歳・21歳・16歳

レ「うん、こいつらバカだろ」

幽「わかりきっていることだ」

・昨日も明日も人間デリバリー

レ「ダグナー編のフラグがここまで続くとは……」

幽「最早苦勞人ってレベルじゃないぞ……」

・天保さん、ハッキング!?

レ「蟹2世」

幽「正確には、困ったときのくだな」

・満足式ワイヤー

レ「古代の産物」

幽「普通ありえない」

・幽君、バレバレな戦術

レ「安定の魔道雑貨商人」

幽「仕方ない、これが俺の基本戦術なんだ」

実「ここからしばらくデュエル話なんですよね…」

レ「何でこんなに長くなった…」

実「…とりあえず、第17話『激戦』どうぞ！」

・ステイラー過労死

レ「たしか、16-19話だけで、9回くらいだった気がする」

幽「……ごめんなさい」

・ドラギオンの召喚率

レ「こんなに簡単に出来る？普通」
幽「…使っている人に聞きたい」

実「このあたりはシリアスな展開が続いてるから、突っ込むところが少ないですね」

レ「このデュエルは1章のシメとしては理想なんだが、修正しすぎたのは反省している」

幽「そうだな、確かに良いデュエルだが、修正が多かった」

実「それじゃあ、第18話『運命の2ターン』です！」

・過去へと遡る…

レ「ベタ」

幽「ベタだな」

実「少ないっ！」

レ「よく考えたら2ターンだけだったし」

実「それじゃ、第19話『護るため』です！どうぞー！」

・まさかの余裕発言

レ「ハンデとしてデッキ変更させるなんて、普通ありえない」
幽「まあ、実が戦うんなら自分のデッキを使わせたいだろ？」

・ B A K A N A !

レ「キングいじりはもういいか」

幽「ああ、いつでもどこでも出番のある男だな」

・そろそろ本格的にステイラーが…

レ「ああ、いい加減使いすぎだろう」

幽「…便利なんだ」

・永続罨に台詞!?

レ「演出上だ」

幽「ああ、俺がこのカードにかける想いを…ブツブツ」

レ「はい、マジで返答しない」

・よく考えたら周りのフラグ…

レ「どう考えても幽負けフラグ」

幽「ああ、明らかだったが、仕方ないだろ」

・豆腐メンタル、黒田幽

レ「ゲオレンダアさんの血筋、流石なメンタル」

幽「…恥ずかしい限りだ」

実「1章、ラストデュエルでした！」

レ「このデュエルの原稿はかなり苦労した」

幽「因みに次回予告は手抜きじゃない」

レ「演出上だな、なんかシリアスな雰囲気を出したかった」

実「えつと、それじゃあ次が最後です！第20話『想い』です！どうぞ！」

・コーヒーの次は紅茶

レ「当初はブラック・マジシャン・ティーにしようと考えたんだが」

幽「気がついたらレッドアイズだった」

レ「デュエルの社会現象がすげえ……」

・もゆ、ひいちぢいひやなひいひやあゝ

レ「なんていったんだ？」

実「えつと、もう7時じゃないかー、って言ったんです！」

・まさかの告白シーン

実「……」（赤面）

幽「……」（赤面）

レ「コメントしないと、盛り上がらないよ」

・亮「甘すぎるよ、ご両人。おかげで血を吐きそうだ」

レ「弟、空気読めないけど、g-jなコメだ」

・電話管理人、クロウ

レ「もうすぐ死ぬぞ」

幽「本当、苦労人のレベルじゃねえ……」

・キング戦線離脱！？後満足も！？

レ「フラグ、後々わかる」

幽「もちろん、この二人の出番が無いのは困る」

・蟹頭

レ「アキさん、記憶無いからな」

幽「でも、蟹頭は酷い」

・困ったときの天保さん

レ「Dホイールまで乗れるとは……」

幽「流石だよな、こいつ」

・女の子を気遣うデリバリーが無いクロウ

レ「女性に体重の話は禁句」

幽「うん……」

実「あの……」

レ「……若干、目線が痛い」

・最早死にレベルの苦勞人

レ「最初から最後までクロウの仕事率は異常」

幽「遊星のパシリ、元キンの子守、生徒会の見張り、そして俺の乗り物」

レ「これは酷い」

実「終わったー！疲れたー！」

幽「ああ、お疲れ様」

レ「これで著者の疑問も減ったはずだ」

実「ほとんど突っ込みばかりだった気がするよ」

レ「大丈夫だ、問題ない」

実「それじゃあ、今回は以上です！次の外伝まで！」

幽「ああ、次の外伝の内容は後書きに記してある、楽しみにしててくれ」

レ「それでは、読者の皆様、楽しみに待っていてください」

外伝 END

外伝 夫婦と返答（後書き）

幽「それじゃあ、次回予告だ！」

実「次回は色々な裏話！」

幽「主な物を一部、『オリキャラの個人データ』『物語の裏話』『デツキレシピ紹介』等だ」

実「ねえ、個人情報って事は…、体重とか…」

幽「…載っているだろうが、文句は俺に言っな」

実「…今のうちに痩せておこうかな…」

幽「（汗）」

とっ、とりあえず、次回の外伝を楽しみに待っていてくれ！」

外伝 舞台の裏側へ（前書き）

異常に長くなった外伝その2です。

本当に長くなりました。すいません。

では、外伝その2、色々な裏話をお楽しみください。

外伝 舞台の裏側へ

レベルステイラー」さて、第2回外伝、色々裏情報の時間です。

解説はわたくし、レベルステイラーこと著者がお送りします。

ああ、以後は『レ』と省略するのでよろしく

お願いします」

紙を見る虫。

レ「じゃあ、最初はオリジナルキャラの色々な設定をあらわにしていきます。

最初は本編の主人公なのに負けてばかりな、黒田幽からです！」

黒田^{くろだ} 幽^{ゆう} 18歳 性別：男

身長：168? 体重：60kg

物語上の位置

主人公。アカデミア3年生で生徒会長。

性格

わかりやすく言えば、遊星に似ている。

仲間を大切に思い、冷静だがすぐにカッとなる。

遊星と違うのは、自分の気持ちに正直になれない事、すなわち頑固。だが、一つの事を貫き通す部分で評価され、生徒会長に推薦された。人に気持ちを伝えるのは若干苦手だが、周りの仲間に恵まれていて、友人関係は好かったりする。後、それなりに豆腐メンタル。

外見

外見的雰囲気は「黒髪のバクラ」。ただ、あんなに顔芸＋はっちゃけてはいない。眼は細い、社長や元キンの眼つばい。体つきは普通。筋肉質ではないが、ヒョロヒョロでもない。生徒会長なので、チャラい格好もしていない。制服も真面目に着て、ネクタイもしっかりと。

因みに制服は龍亞や十六夜の制服と同じデザイン。

使用デッキ

【ダークモンスター＋極神皇ロキ】

墓地肥やしを主軸とし、墓地アドバンテージを利用し、ダークモンスターでボードアドバンテージを得ていくデッキ。

『極神皇ロキ』が入ってからは、『レベルスティーラー』を本格的に活用し始め、それによる上級モンスターの展開を得意とする。

ブレイブにカードを貰ってからは、ダークモンスターで高レベルモンスターの展開、『レベルスティーラー』でリリース確保、『極星霊デッキアールヴ』でチューナーを手札に加え、毎ターンシンクロ召喚する戦術を軸としている。

戦歴は物語内で完全描写されたデュエルの場合、8戦5勝2敗1引。勝率は62.5%。

それ以外だと、氷炎隼人には3連敗中。二人の戦績は165戦80

勝83敗2引。

黒田亮相手には1012戦501勝498敗13引。高島実とは205戦155勝49敗1引。

亮とはしょっちゅうデュエルしている。そう考えると1000戦は少ないかもしれない。

切り札は『レベルステイラー』『ユベル・Das Extrem er Trauring Drachen』『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン』『極神皇ロキ』。

関係ない裏設定

・好き嫌いは全くない。旨くても不味くても文句ひとつ言わず食べる屈強の舌の持ち主。

・弟の黒田亮には喧嘩で勝てない。ただ、勉学では勝っている。

・『オネスト』を使われると機嫌が悪くなる。

・幼馴染の高島実は小学校で知り合い、それ以来ずっと同じ学校である。

・家では、基本洗濯と掃除、外務を担当する。

・『レベルステイラー』をコレクションしている。

・鈍感ではなく、敏感。異性意識はあるが、想いは一途な人。

・SでもMでもなく、異性とのウンタラに興味はない。だが、ふっ切れるとやばそうな男。

・暗い所大好き。お化け屋敷は子供のころから入れた。

・両目とも1.0。メガネは着用していない。

・てんとう虫は絶対に殺さない。

名前の由来

当初は『黒田 遊』だったが、雰囲気上、そしてデッキの都合上『幽』の漢字を採用。

黒田の苗字はデッキ内容が閻属性なので。

レ「うん、こんなものかな？」

幽「…こんな情報、どこで調べた？」

レ「俺、著者だし」

幽「…あつそ」

レ「…どっかいったか、それじゃあ次は弟の黒田亮だ！」

黒田 亮 くろくた じやう 16歳 性別：男

身長：173? 体重：62kg

物語上の位置

主人公の良き理解者。立場で言うクロウみたいな。

デュエルアカデミアの1年生代表。順位も1位で優秀な人物。

性格

アニメの丸藤亮とは違い、場の中心になって盛り上げる、どっちかという吹雪に似ている。

ただ、デュエルで本気を出すと、性格はヘルカイザーそのものにな

る。

幽と同じ冷静、彼とは違いメンタル面もしっかりしていて、兄とは違い性格面では非常に優秀。

人をいじるのが好き。その性格が仇となって、たまに揉め事を起こす。

外見

丸藤亮に似ている。髪色は黒っぽい青、すなわち藍色。

制服も綺麗に着ている。

だが、丸藤亮のようなクールな顔つきではなく、ニコニコしていて優しいような顔つき。

当然、デュエルで本気を出すと、顔もヘルカイザーになる。

因みに身体は黒田幽よりも若干細い、筋肉は黒田幽のほうがある。

使用デッキ

【サイバー・ドラゴン+サイバー・ダーク+極神皇トール】

兄弟なので黒田幽と似ていて、墓地肥やしを主軸とした戦術をとる。墓地アドを利用した融合を主軸とする。同時に手札融合のためにハンドアドを稼いだり、手札交換、墓地回収等の戦術も多用する。

融合やシンクロにより、高攻撃力で高レベルのモンスターを大量展開し、『レベルステイラー』で戦線維持とさらなる展開を得意とする。

ドラガンにカードを貰っても基本戦術は変えず、凡庸性の高い【極星宝】を少し投入しただけ。

作中で完全描写されたデュエルの戦歴は5戦4勝1敗。勝率は80%。

兄とはよくデュエルしている、その戦歴は上に書いてある。

切り札は『サイバー・エンド・ドラゴン』『キメラテック・オーバ

『ドラゴン』 『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』 『極神皇
トール』。

関係のない裏設定

- ・トマトジュースが嫌い、理由は「赤いから」。カミューラ（吸血鬼）血（赤い液体）のトラウマ？
- ・攻撃するとき、伸ばす癖がある、後テンションが上がる。
- ・高島実とは仲が良い。兄ほどではないが。
- ・家では、食事とその後片付け、食品の買い物、会計を担当している。
- ・容姿、印象が良いためもてる。が、本人はあんまり気にしていない。
- ・いついかなる時でも攻め重視。
- ・暗い所でも、表情一つ変えない。好きではなく、普通。
- ・視力はどちらも悪い（0.3ほど）、コンタクト着用。
- ・基本腕を組んでいる。

名前の由来

兄と同じ苗字、そして『丸藤亮』と同じ名前、簡単。

レ「さて、主人公の金魚のフンである、黒田亮の登場です！」

亮「…俺、フン扱い!？」

レ「兄にべつたり」

亮「黙れ、グオレンダするぞ」

レ「次は、主人公のライバル、氷炎隼人です！どうぞ！」

氷炎こえん 隼人はやと 18歳 性別：男

身長：181? 体重：69kg

物語上の位置

主人公のライバル。立場で言うジャック。

アカデミア3年生で書記。本人は自覚がない。成績は2位。

性格

適当な部分があるし、ちゃらちゃらした今どきの高校生な所もある。

そんな性格なので、浅く広い友人関係がある。

黒田幽とは真逆の性格のため、互いの全く違う性格に興味を持ち、

友好関係を築いている。

だが、熱血な所もあり、一度決めたことのためなら無理や無茶は当たり前前。

他にも、かなり負けず嫌い。

成績もよく、黒田幽とも親しく、本人とは真逆の性格だったため、

先生と黒田幽の推薦を受け、生徒会に入る。

外見

性格の真逆、髪も整っていて、眼鏡で真面目そうな雰囲気を受ける。そのギャップで自分とは逆のタイプの天保とはよくつるんでいる。

だが、服には性格が出ていて、ネクタイやズボンは若干だらしが無い。黒田幽の悩みの種。

目つきも暗い印象を受けるため、外見（服以外）インキャラである。そんな外見のため、皆が強気で話しかけてくるが、ギャップに驚かされる人が後を絶たない。

身体はそれなりにガッチリ。

使用デッキ

【ホルスの黒炎竜＋氷炎の双竜（ドラゴン族軸）】
通称【フロフレホルス】。ドラゴン族のサポートカードを【ホルスの黒炎竜】と『氷炎の双竜』で共有し、魔法封じ、モンスター除去の優秀効果でアドバンテージを取っていくデッキ。

墓地肥やしを多用し、墓地で効果の得る炎属性『ヴォルカニック・バレット』や墓地のモンスターを蘇生させるドラゴン族『デブリ・ドラゴン』等でボードアド、ハンドアドを得ていく。

他にも『氷炎の双竜』で除外した上級モンスターを大量帰還させるトリッキーな戦術も使い、墓地からの蘇生に難のある『タイラント・ドラゴン』や除外で得たボードアドを攻撃に変換する『トライデント・ドラギオン』を使用し、連続攻撃をしていく。

全体的に重量級だが、それで回るのは自身のデッキ構築や戦術にも他の人に比べ優秀な部分がある。（補正とか言ったらダメ）

作中での勝率は2戦2勝。戦った回数が少ないが敗北もない。

主人公である黒田幽とも多くのデュエルをしているが隼人のほうが勝率が良い。

切り札は『氷炎の双竜』『青氷の白夜竜』『トライデント・ドラギオン』、そして黒田幽から貰った『未来融合 フューチャー・フュージョン』と『F・G・D』。

関係のない裏設定

- ・ 熱い食べ物も冷たすぎる食べ物も好きではない。
- ・ 『王宮のお触れ』はデッキにいられているがほとんど使う機会がない。
- ・ 腐れ縁の天保神太郎とは小学校からの仲間。
- ・ 成績は非常に優秀で最初に黒田幽に敗けて3位になってすぐに2位に戻り、その座を一度も明け渡していない。
- ・ 元々は別デッキを使用予定だった。詳しくは名前の由来で。
- ・ 家族構成は3人。両親と自分の3人。
- ・ 初めてのレアカードは『トライデント・ドラギオン』。
- ・ 異性には外見が微妙で好かれない。だが、仲のいい人からは付き合いやすい性格でかなり好感度はある。
- ・ どちらかといえばSな人。だが、友人関係がしっかりしている人だけに。
- ・ 視力は測定不能なほど悪い。常時眼鏡。
- ・ 本人の名言『切り札とは主役ではなく、最高の脇役だ』、切り札が『氷炎の双竜』であるのもこのためかもしれない。

名前の由来

名前の隼人が直感。苗字は実は元々閃光。実際、元々使用デッキは【ライトロード】だった。

だが、中堅デッキだったし、元々嫌だったため【フロフレホルス】に変更、それに伴い苗字もデッキから氷炎にした。

レ、ギャグに走りやすいライバルポジ、氷炎隼人でした！」

隼人「まあ、『全速前進DA』とか、『万条目サンダー』とか、『MA TTE!』とか、『シャークさんのマジックコンボだ!』とか…、アニメのライバルはネタになってるのが多いが…」
レ「大丈夫、お前はネタには走らない」
隼人「…そうか?不安なんだが…、いつの間にか語尾が『〜だな』とか言ってるやないかいが…」
レ「それ、隼人違い。あの隼人も結構いい人だけだな」

レ「さて、次は今作のメインヒロイン、高島実の紹介だ!」

高島実 たかしま みのり 18歳 性別:女

身長:159? 体重:「わあああ!これは内緒!」

物語上の位置

メインヒロイン。ポジは言うまでもない。

アカデミア3年生で、成績は上がってきているが中の上。

性格

典型的な元気少女。特に深い考えもしない、純粋な性格。

誰とでも付き合え、誰からも恨まれない、広いが深い、理想な友好関係を持つ。

ただの無知とか優しいだけでなく、自分の心の芯はしっかりしている。

反面、寂しがりな部分もあり、人から裏切られると、心が折れやすい。人と接しやすい性格だったが、学歴に若干難があり、生徒会には入れず。それを少し悔しがっている。

外見

ショートカットの茶色染みた髪。常に笑顔を絶やさない、性格通り、優しそうな外見。顔は若干大きな目、そのせいか幼い印象を受ける。体つきは胸が少しあるが全体的に幼い印象を受ける。制服は比較的真面目、スカートもしっかり長い。

使用デッキ

【ジャンク・ウォリアー】

【通常モンスター】を主軸とし、レベル2以下の長所である『人海戦術』の使用で、レベル2以下のモンスターをフィールドに残し続け、『サウザント・エナジー』や『ジャンク・ウォリアー』で爆発的な攻撃力を得る戦術。

他にもレベル2以下で優秀な攻撃力や効果を持つモンスターも採用している。

通常モンスターのサポートカードも多用する、コンボ性の強いデッキ。

他にも大量展開も得意とし、『魔の試着部屋』や『地獄の暴走召喚』等も使用し、ある程度の速効性もある。

作中では2戦1勝1敗。1勝は幽と隼人の戦いを受け継いだもので正直、成績は良いとはいえない。

切り札は『海皇の長槍兵』、『人海戦術』、『ジャンク・ウォリアー』、『ジャンク・デストロイヤー』、他の【ジャンク】モンスターも採

用している。

関係のない裏設定

- ・嫌いな食べ物はマヨネーズ、本人曰く「油は女性の天敵！」だそうだ。
- ・『ジャンク・ウォリアー』の存在を知ったのは、遊星がフォーチュンカップで戦っているのを見て。
- ・相性の良い『ジャンク・ウォリアー』をデッキに入れてから実技試験の実力を少しずつ上げている。
- ・デッキには何があっても『オネスト』だけは入れない。
- ・黒田幽とは小学校で知り合う。意識をし始めたのは中学校1年生の時から。
- ・通常モンスター大好き。
- ・スリーサイズを聞いたら怒られた。
- ・護ってあげたい女の子ダントツNo.1。そのため、学校の男子からはヒロイン的扱いを受ける。
- ・彼女に何か不純な思いを抱いた人は誰にも気づかれずに黒田幽に裁きの鉄槌を下されたりしている。
- ・だが、本人は剣道初段。普通に戦うと氷炎隼人よりも強い。
- ・恋愛は客観的アドバイスなら、だれにも負けなくらい的確なアドバイスをしてくれる。だが、自分事になると慌てる。
- ・視力は1.2ほど。眼鏡はいらない。

名前の由来

苗字は直感。実は彼女の名前は「高島 望」の予定でしたが、普通に間違っていました。

因みに遊星のように『どんなカードにも必要とされる力がある』と

いつものを名前に込めての望…、にしたつもりでした。
間違えたので、流れて「高島 実」に。

レ「はい、メインヒロインの実さんでした！」
実「紹介してくれてありがとうございます！」
レ「しかし、なんでいろいろ教えてくれないんですか？」
実「そんなこと聞くあなたと油は女性の天敵だよ！」
レ「スイマセン」

レ「次は、生徒会副会長水面綾香の紹介だっ！」

水面 みなも 綾香 あやか 18歳 性別：女
身長：161? 体重：48kg

物語上の位置

主人公の生徒会での理解者、クロウポジと龍亞ポジの中間くらい？
アカデミア生徒会副会長。学歴も女子最高で3位。

性格

女性っぽい所もあるが、男勝りな性格の部分もある。だから、本来
女性に聞いたら怒られるようなことを普通に答える。
真面目で、騒げる性格で、友人関係もしっかりしている。

性格が生徒会で一番安定していて、黒田幽曰く「綾香のほうが会長に向いている」だそうだ。
現実、生徒会で行事をするとき、優柔不断な黒田幽を彼女が引つ張っている。

そんな真面目な性格、女子の代表という部分が評価され、先生から生徒会に推薦され、生徒会に入る。

外見

青色の髪を伸ばしている。長さだと、天上院明日香くらい。色は早乙女レイよりも明るい青色。

長い髪や体つきから大人っぽい。制服を着ていないと大人に見えるかもしれない。

眼は男と思うような眼をすることもあるが、顔のサイズに合っている、普通の眼。

容姿は、女性の敵だ！と言われるくらい美人。

制服は真面目に来ているが、本人は少し嫌がっている。

使用デッキ

【リチュア】

解説することもない、純粋な【リチュア】。儀式と主軸とし、サーチャサルベージを繰り返し、アドバンテージを得ていく。

シンクロ全盛期なのにシンクロを使わない。開発途上のエクシース召喚を好んで使う。

『フィッシュ・ボーク・ガンナー』禁止でシンクロ使えなくなったわけではない。

詳しくはWikiを見たほうが早いかもしれない…（妥協した）
作中では1戦1勝。出番が少なかったので仕方ない。

切り札も言うまでもなく『リチュアの儀水鏡』と、それで儀式召喚

できる『イビリチュア・ガストクラーケ』『イビリチュア・ソウル
オーガ』『イリビチュア・テトラオーグル』。1章では出てきてい
ないが当然『イビリチュア・マインドオーガス』も使用する。

関係ない裏設定

- ・飲み水には非常にうるさい。これは本当に厳選している。
- ・他人と変わったことをするのが好き、デッキにシンクロではなく
エクシーズだったり、儀式召喚を主軸にしているのはこのためかも
しれない。
- ・髪が長い人を見ると切りたくなる。自分は例外。
- ・2年生の時に黒田幽に勝利、それ以来3位のまま。
- ・スリーサイズを聞いたら答えてくれた。公表はしないけど。
- ・氷炎隼人とは中学が同じ。もっと仲の良い如月望は高校で知り合
った。
- ・身体は男性が驚くほど。だけど、性格は男勝り。
- ・護ってあげたい女性最下位。というか0票だったそつだ。
- ・因みに喧嘩は強い。男共よりも強いです。
- ・外見は女性っぽいのもてるのだが、その性格に驚く人が後を絶
たず。氷炎隼人と逆。
- ・恋愛事はなぜか熟知。ぶっちゃけ、お姉さんキャラのような気が
する。
- ・視力は2.0。すごい良い。

名前の由来

水属性デッキを使わせるつもりだったので苗字である『水面』はす
ぐ決まった。名前は悩んだ末に、直感。

レ「さあ、著者曰く『お姉さんキャラ』な水面綾香さんでした！」
綾香「お姉さんって…、一応みんなと年齢同じなんだけど…」
レ「まあ、でも大人っぽいのは事実じゃん？」
綾香「しかし、私の紹介って普通だよね」
レ「仕方ない。そういう人なんだ」

レ「次、水面綾香の親友の如月望です！どうぞー！」

如月望 きつらい 望 のぞみ 18歳 性別：女

身長：170？ 体重：40kg台

物語上の位置

主人公の理解者、目立たないため、副会長とか書記の陰に隠れがち。
ポジでいうと…、誰だろう？ブルーノ？

アカデミア3年生で生徒会会計。実力は4位。

性格

おしとやかな人。ほのぼのとしていて、口調もゆったりしている。
だが、何を考えているかわからないこともある。
友人関係は水面綾香と似ている。結構な時間、二人でいる。
実際は結構騒ぐ人で、生徒会の中だと少なくとも黒田幽よりは話している。

外では目立たず、騒がず、他の人のために気をつけている部分がある。

ある。
そんな性格なので、水面綾香の推薦を受け、生徒会の裏方、会計の仕事に入った。

外見

髪はセミロングで、黒色の髪。顔は目が細い、そして色白。体つきは細い、女性らしくはしているが、若干胸と不釣り合いな気もしている。

顔つきは、綾香と横に比べると目立てない。だけど、結構もてる。制服はネクタイをしていない、これまた黒田幽の悩みの種になっている。

使用デッキ

【天空の聖域 + 死皇帝の陵墓（上級モンスター軸天使）】

LPの回復力に長ける【天空の聖域】とLPの消費に激しい【死皇帝の陵墓】を軸とした【上級モンスター軸天使族】。

【天空の聖域】環境下でLP回復をできる『ホーリー・ジユラル』や、ライフアドだけでなくハンドアドも得られる『天空騎士パーシアス』等で、ライフアドを確保していく。

また、フィールド魔法を護るために【宣告者パーミッション】の要素も含んでいる。ハンドアドを稼ぐのは『光神テテユス』や『天空騎士パーシアス』。

ライフアドの差を利用し『死皇帝の陵墓』や『神の居城 ヴァルハラ』等で上級モンスターを展開、そのままゲームエンドに持ち込むのが得意戦術。

色々詰め込みすぎだが、結構まわっている。補正はNGワード。因みに【代行者】の要素は含んでいない。相性は良いのだが、詰め込み量がやばいことになるので。

戦歴は1戦1勝。2章の活躍に期待。

切り札は『天空騎士パーシアス』とその派生『天空勇士ネオパーシアス』、『神聖騎士パーシアス』。他にも有名な上級天使である『アテナ』、『大天使クリスティア』、『ライフアードで莫大な攻撃力を得る』、『エンシエント・ホーリー・ワイバーン』など。

関係ない裏設定

・嫌いな食べ物はないが、この体型を維持するため！と言って、あんまり食べない。

・とにかく、ぼーっとしている。昼休みとかは昼寝もしている。

・スリーサイズは「極秘ですよー」と言っただけで教えてもらえなかった、スレンダーな体つき。

・基本誰にでも「さん付け」、だが、高島実からは「さん付けはやめて！」と言われて「実ちゃん」と呼んでいる。

・黒田幽相手に無理にでも『オネスト』を使おうとする変わった一面もある。

・反面『ダーク・パーシアス』は嫌い。よって、黒田幽とは相性が悪い。

・水面綾香とは実力もほぼ変わらない、が若干学力で負けているため中々3位になれない。

・黒田幽には2年生の終盤で勝利。これで晴れて4位になって以来、順位の変動はない。

・本人は基本、「自分は生徒会」とは言わない。裏方大好きな女性。
・中学までは目立たず、高校では水面綾香のそばで目立たない、可愛いのだが、異性との関係はあまりない。

・というか、本人がそういうのに興味がないだけ。まず、男女の差の意識があんまりない。

・暗い所苦手、つくづく黒田幽とは相性が悪い。

- ・ だけど、そんな二人でも普通に話す。
- ・ 視力は0.5ほど。コンタクトを着用。

名前の由来

「高島 実」の紹介でも言ったが、本来の名前は「如月 実」。「ライフを少しずつ実らせる」という意味を込めて。元々のデッキは「アテナバーン」。だが、名前のミスからデッキを変更。理由は「アテナ」って意外に人気だから少しだけやめたかった。

レ「三沢じゃない、空気っぽい女性、如月望でした！」

望「うん、空気じゃないよ、目立つ気がないだけ、あんな目立ちたいけど目立ってない男とは違うんだよー」

レ「そうですね、たしかにそうです」

望「だけどさー、私と綾香さん、後天保さんって、少し目立たないよね？」

レ「大丈夫、2章で出番あるから」

望「（台本を見て）…嘘ついてませんか？」

レ「……」

レ「最後は、困ったときの天保神太郎です、どうぞ！」

天保 てんぽう 神太郎 しんたろう 18歳 性別：男

身長：178? 体重：63kg

物語上の位置

困ったときの、で有名な人。ポジは主人公という部分を除けば、完全遊星。

アカデミア3年生、世界レベルの実力を持つ男。学年順位はテストを受けたときは1位。

性格

性格を読まれないようにしているため、思考は全く分からない。表面上な性格は、面倒くさがりや、適当人。これは一応、本心らしい。

クラスともあんまり打ち解けない、よって友人関係は狭い。生徒会の人物とその周辺の人のみを信頼している。

親が居ないため、すべて自分一人でやっている。よって、かなり大人。

他の人に比べ、性格が大人のため、精神も強く、冷静。普通の大人より大人っぽい。

生徒会会長へ勧誘されたが、自分の生活の都合上、拒否。彼が黒田幽と推薦した。

外見

髪の毛は黒だがぼつさばさ。若干無精ひげも生えている。

制服はだらしが無い。不良の模範とはまさに彼である。

流石にタバコはやっていない。彼曰く「そんなことに金が使えるか」だそう。

肉体改造クラスの筋肉、だが、服を着ているためわからない。

使用デッキ

【?????】

彼のデッキは未だ解明されず。

一部の使用カードは『ライトロード・パラディン ジェイン』『戦士の生還』『融合』『正統なる決闘』など。

戦歴は0戦のため、不明。だが、大会で優勝できるほどの実力。下手したら主人公よりも強い。

関係のない裏設定

- ・ 嫌いな食べ物はないもの、一人暮らしなのにリッチな男。
- ・ とにかくすごい。各種運動系の大会で全国クラス、学力も全国一桁、メ蟹ツクと同じくらい、機械も得意。おまけに蟹極拳まで出来る。
- ・ 唯一苦手なものは動物愛護、とにかく生物には嫌われている。
- ・ 小学校で氷炎隼人と知り合う、あんまり話していないがかなり仲が良い。
- ・ 中学校は水面綾香と同じだが、ほとんど話していない。知り合い程度。
- ・ 恋愛なんてしている余裕がない男。
- ・ 視力は2.0以上。人では見えないレベルのものを確認できる。流石にプランクトンレベルは無理だが。
- ・ とにかく、無駄でもなんでも極めるのが好き。

名前の由来

苗字の「天保」は直感、因みに歴史の「天保の改革」から。

名前には「神」の字を入れたかった、理由は元々予定ではデッキが【スキルドレイン】だったため。
『神獣王バルバロス』や『神禽王アレクツール』等を使うため、どうしても名前に「神」の字が居れたかった。
しかし、『スキルドレイン』は小説だと完全無双のため原稿を書くときのことを考えると断念。

レ「三沢ポジ、天保神太郎でした！」

天保「大丈夫だ、2章から空気じゃない」

レ「まあ、そうだが」

天保「しかし、俺の紹介だけ少ない気がする」

レ「気にするな、些細な問題だ」

天保「誤魔化すな」

レ「さて、次は台詞紹介です！1章で出てきた召喚時、台詞のあるカードの台詞をすべて紹介していきますと思います」

黒田 幽

極神皇口キ（第1話）

世界を闇に沈めた暗黒の神よ、すべてを掌握し王として再び玉座を

黒く染めよ！シンクロ召喚

降臨せよ！『極神皇ロキ』！

コメント：ロキは北米神話ではラグナロクの原因。よって、こんな感じで「気まぐれ」ではなく、主人公らしく「闇」や「反逆」をイメージする台詞にしました。

大地の騎士 ガイヤナイト（第1話）

屈指の戦士よ、今こそ力を発揮し、その槍で敵を打ち砕け シンクロ召喚、貫け『大地の騎士 ガイヤナイト』

コメント：「今こそ力を発揮し」とは、『ゴヨウ・ガーディアン』の禁止から。

ユベル - Das Extremier Trauring Drachen（第4話）

歪みし愛の心を持つ悪魔よ、痛みという名の愛を相手に刻み、絶望を与えよ！ 絶望の魔龍 『ユベル - Das Extremier Trauring Drachen』！

コメント：アニメのユベルから。

究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン（第11話）

一筋の虹と暗き闇の世界、ここに交わりて最強の輝きと絶対的な暗黒の象徴を召喚せよ！！ 七色の輝きと共に現れよ！！『究極宝玉神レインボー・ダーク・ドラゴン！！！！』

コメント：特になし、イメージ通り。

スクラップ・デスデーモン（第11話）

鋼の悪魔が今ここに降臨、最強の力で敵を薙ぎ払え！シンクロ召喚！
叩き潰せ！『スクラップ・デスデーモン』！！

コメント：「最強の力」レベル7の縛りの無いシンクロモンスターで最高の攻撃力。

A・O・Jライト・ゲイザー（第13話）

光を見る者よ！僅かな光すら探し出し、すべての光を吸収せよ！シンクロ召喚！
光の観察者、『A・O・Jライト・ゲイザー』！

コメント：Wikiの伝承から。

A・O・Jカタストル（第14話）

光を無にする力を持つ未来の殺戮兵器よ！その力で希望の光さえ消し飛ばせ！
シンクロ召喚！
光を消せ！『A・O・Jカタストル』！！

コメント：まあ、A・O・Jはなにかと光メタだし、こんな感じの台詞。

A・O・Jデイサイシブ・アームズ（第15話）

光に対する殺戮兵器 今、決戦の地に降り立つ！圧倒的な力で光を打ち消せ！シンクロ召喚！
無に帰せ！『A・O・Jデイサイシブ・アームズ』！！！！

コメント：A・O・Jの切り札。

A・O・Jフィールド・マーシャル（第17話）

未来の兵器の元帥よ、暗黒の力を指揮し、光の軍制に打ち勝て！シンクロ召喚！
統治せよ！『A・O・Jフィールド・マーシャル』！！

コメント：A・O・Jのリーダー。

F・G・D（第18話）

炎・水・風・地・闇、5つの属性エレメントより生まれし、神を越す最強の邪龍よ！万物の王に君臨し、世界の均衡を保つため、5つの属性エレメントの真の力を開放せよ！融合召喚！
世界を束ねよ！『F・G・D』！！！！

コメント：神を越す〃オベリスクより強いし、万物の王〃OCG界、最高の攻撃力。

調律師の陰謀（第19話）

信頼する友を護るため、裏切り、離れ、孤独で戦う意思を示せ！！
発動せよ！『調律師の陰謀』！！

コメント：19話の雰囲気から。

レ、全体的に闇属性の多い黒田幽、というか凡庸除き全部闇属性。

とにかく光属性が嫌いそうです」

黒田 亮

極神皇トール（第8話）

星界の巨人よ、古の支配を打ち砕くその鎚で裁きの鉄槌を下せ！！

シンクロ召喚！ 降臨せよ！『極神皇トール』！！！！

コメント：ドラガンの台詞を少しだけ変化させたもの。特に捻りはない。

サイバー・エンド・ドラゴン（第6話）

サイバー流究極の竜よ！神を越す絶対的な力で、万物を無にせよ！

融合召喚！ 最強の象徴！『サイバー・エンド・ドラゴン』！

！！

コメント：神を越す…というかオベリスクと同じ、たばこの箱扱いオベリスク。

キメラテック・オーバー・ドラゴン（第6話）

私の勝利のために サイバー・ドラゴンよ、その力を収束せよ

！ 融合召喚！絶対的な力 『キメラテック・オーバー・ドラ

ゴン』！！！！！！

コメント：まあ、このモンスターだし、絶対的な力が似合う。

鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン（第6話）

暗黒に染まったサイバー流よ、その元凶の力を今こそ示せ！ 融合召喚！
対をなす切り札！ 『鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン』！！！！

コメント：サイバー流と対をなす切り札っぽい台詞。

A・O・Jカタストル（第8話）

光を無にする力を持つ未来の殺戮兵器で敵に絶望を見せよ！
シンク口召喚！ 打ち消せ！ 『A・O・Jカタストル』！！

コメント：黒田幽の派生。 ああ、でも先に召喚したのはこっちでしたね。

キメラテック・フォートレス・ドラゴン（第8話）

今宵、サイバー流最後の力を開放せよ！すべての機械をその身に宿し、破壊の衝動のままに敵を蹴散らせ！！
融合召喚！ 『キメラテック・フォートレス・ドラゴン』！！！！

コメント：最後Ⅱアニメで出てきた最後のサイバー流モンスターだし、あの戦いは感動した。

サイバー・ツイン・ドラゴン（第8話）

サイバー流の力、ここに垣間見せる！2つの口より放たれる咆哮で敵を粉碎せよ！
融合召喚！最強への布石！ 『サイバー・ツイ

ン・ドラゴン』！

コメント：ぶっちゃけサイバーエンドより便利。

A・O・Jデイサイシブ・アームズ（第13話）

光に対する殺戮兵器よ、決戦の時はきた！絶対的な力を駆使して敵の首謀者を叩き潰せ！シンクロ召喚！
無に帰せ！『A・O・Jデイサイシブ・アームズ』！！！

コメント：同じく幽の派生。

レ「彼は機械族が多い、やっぱりツール以外は機械族ですね」

氷炎 隼人

氷炎の双竜（第6話）

混じること無き二つが生み出した産物よ！その常識を覆す咆哮で敵をかき消せ！
出でよ！我が切り札
『氷炎の双竜』！！！！

コメント：炎と水が混ざるなんて非常識！

トライデント・ドラギオン（第6話）

三つ首の龍！今生け贄を喰らいて、大群を殲滅する真の力を我らに見せつけよ！シンクロ召喚！
焼き尽くせ！『トライデント・ドラギオン』！！！！

コメント：連続攻撃だし。

C・ドラゴン（第17話）

鎖で新たなる力を繋ぐ架け橋となれ！シンクロ召喚！

繋げ！

『C・ドラゴン』！

コメント：鎖だから。ん？他の【C】は使う気ありませんよ。

F・G・D（第18話）

炎・水・風・地・闇、5つの属性エレメントより生まれし、神を超す最強の邪

龍よ！万物の王に君臨し、世界の均衡を保つため、5つの属性エレメントの真の力を開放せよ！融合召喚！

世界を束ねよ！『F・G・D』

！！！！

コメント：幽と同じ。

レ「逆に彼は少ないですね『タイラント・ドラゴン』とか『青氷の白夜竜』とかあってもいいのに」

水面 綾香

イビリチュア・ガストクラーケ（第7話）

狂気に満ちた漆黒の魔女よ、呪われた身体の恐怖を海を荒らす者に

存分に示せ！
降臨せよ！『イビリチュア・ガストクラーケ』
！！！！

コメント：呪われた身体Ⅱイカ類の触腕があるため。

イビリチュア・メロウガイスト（第7話）

美しき人魚の幽霊よ！邪悪なる力を使い、この海域に嵐を巻き起こせ！
エクシーズ召喚！
制圧せよ！『イビリチュア・メロウガイスト』！！

コメント：メロウⅡ人魚 ガイストⅡ幽霊。まあ、ベタですね。そもそもエクシーズの台詞を一つに固定するのは好きじゃない。

イビリチュア・テトラオーグル（第7話）

儀式の呪いで姿形を失いし魔女よ！ヴァイロン観測者と邪悪の力を示せ！イビリチュア

君臨せよ！『イビリチュア・テトラオーグル』！！

コメント：Wiki曰く姿形が変化した『リチュア・ノエリア』に『ヴァイロン・テトラ』が装備されているため。

イビリチュア・ソウルオーガ（第7話）

邪悪の儀式の生贄となった最強の魔物！万物を海に沈める津波を呼び、敵を押し流せ！！
邪悪の産物：『イビリチュア・ソウルオーガ』！！！！

コメント：雰囲気から（おい

レ「全体的に「邪悪」とかが多い。まあ、モンスターのカテゴリ上仕方ない」

如月 望

天空勇士ネオパーシアス（第7話）

天空の聖域の力を得た天空騎士よ、真の姿を開放し、その勇姿を見せつけよ！
聖域の覇者「天空勇士ネオパーシアス」！！！！

コメント：そのまんま。

神聖騎士パーシアス（第7話）

天空の騎士が同調し、正義の名のもとに復讐を誓う！神聖なる力を奮いて、悪を打ち滅ぼせ！
シンクロ召喚！裁け！「神聖騎士パーシアス」！！！！

コメント：英語名の「Avengeing」＝復讐から。

レ「パーシアスを「天空の騎士」と表現している台詞ですね」

高島 実

アームズ・エイド（第3話）

同調して生まれた拳よ、今こそ仲間に力を貸して！シンクロ召喚！
来て！『アームズ・エイド』！

コメント：力を貸す＝装備カード。

ジャンク・ウォリアー（第3話）

弱き力を集わせる戦士よ！今こそ沢山の仲間の力を借りて悪を滅ぼして！シンクロ召喚！
集え！『ジャンク・ウォリアー』！！！！

コメント：集いし、な遊星の台詞も少しだけ入れてみて、後はモンスター効果から。

ジャンク・デストロイヤー（第19話）

仲間の力を拳に変え、絶望の中で殻に閉じこもる仲間を助けたす力となって！シンクロ召喚！
壊せ！『ジャンク・デストロイヤー』！！

コメント：19話の雰囲気から。後、モンスター効果から。

氷炎の双竜（第19話）

小さな灯が、今ここに大きな力となる！仲間の心を支えるため、私に力を貸して！
『氷炎の双竜』！！

コメント：完全19話の雰囲気から。

レ「感情台詞が多い実さん。今後も使うけど、大丈夫かな？」

クロウ・ホーガン

ブラックフェザー・ドラゴン（第5話）

黒き疾風よ！秘めたる想いをその翼に現出せよ！シンクロ召喚！

舞い上がれ『ブラックフェザー・ドラゴン』！！！！

コメント：特になし、ここからはオリジナルじゃないし。

B F - アームズ・ウイング（第5話）

漆黒の力！大いなる翼に宿りて、神風を巻きおこせ！シンクロ召喚！吹きすさべ 『 B F - アームズ・ウイング 』！！

コメント：特になし

B F アーマード・ウイング（第9話）

黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ！ シンクロ召喚！ 『

B F アーマード・ウイング』！

コメント：シンクロ召喚、の後を考えようと思ったが、変だと思ったからやめました。

B F 孤高のシルバー・ウィンド（第9話）

吹き荒べ嵐よ！鋼鉄の意思と光の速さを得て、その姿を昇華せよ！

シンクロ召喚！ 『 B F 孤高のシルバー・ウィンド 』！！！！

コメント：この台詞は好き、1回しか出てきてないけど。

クロノス先生

古代の機械究極巨人（第5話）

古の力を均衡する最強の巨人よ、すべての破壊のために究極の拳を開放せよ！YUGO召喚！ 『古代の機械究極巨人』！！！！

コメント：YUGO召喚は、クロノス先生っぽく。

ゴースト

デスカイザードラゴン（第1話）

腐敗した龍よ！絶望の姿とともにすべての死を超越せよ！シンクロ召喚！絶望の力『デスカイザードラゴン』！

コメント：すべての死を超越！！蘇生効果をイメージ。

蘇りし魔王 ハデス（第1話）

冥界の魔王よ！死してなおその悪夢を敵に見せつけよ！シンクロ召喚！悪夢の象徴、『蘇りし魔王 ハデス』！

コメント：まあ、冥界の王だし、本来は。

ダークエンド・ドラゴン（第1話）

絶対的な闇よ！その忌み嫌われし力を解き放て！シンクロ召喚！漆黒の龍！『ダークエンド・ドラゴン』！

コメント：墓地送りは嫌われる。コダロスも然り。

レ「クロウ」ゴーストまでは、特にいう事ないかな」

ミスターT

機皇帝ワイゼル（第10話）

生命を支配し3つの絶望の力の欠片を見せよ！

現れる、『機

皇帝ワイゼル』！！！！

コメント：生命^{ワイゼル}人。詳しくはWikiで見ればわかる。

機皇神マシニクル（第10話）

3つの絶望、^{スキエルグランエカイゼル}天・地・人を今ここに束ねる！無限の力を得て、希望無き世界を見せる！ 『機皇神マシニクル』！！！！

コメント：アポリア（下っ端+キチアーノ+ホセ）が使っていたので。束ねるといふ表現を使ってみました。

レ「アステリスクは素で忘れていました。すいません」

十六夜 アキ

ブラック・ローズ・ドラゴン（第11話）

冷たい炎が世界のすべてを包み込む…漆黒の花よ、開け！シンクロ
召喚！
現れる『ブラック・ローズ・ドラゴン』！！！！

コメント：アキさんの名台詞。

スプレンドイット・ローズ（第11話）

聖なる森に潜みし華麗なる棘の狩人よ、戒めの鞭を持ちて今こそ姿
を現せ！シンクロ召喚！
現れる、『スプレンドイット・ロ
ーズ』！！

コメント：特になし

ヘル・ブランブル（第11話）

その花を見たものは後悔するほど美しい女王よ、この世界で、その
美しき姿を薔薇のように咲かせよ！シンクロ召喚！
現れる、『ヘル・ブランブル』！！

コメント：これは作るのが難しかった、あんまり気に入らない。

龍可

エンシエント・フェアリー・ドラゴン（第13話）

聖なる守護の光、今交わりて永久の命となる！シンクロ召喚！

降誕せよ！『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』！！

コメント：アニメで龍可は1回だけしか…

龍亞

パワー・ツール・ドラゴン（第13話）

世界の平和を守るため、勇気と力をドッキング！シンクロ召喚！

愛と正義の使者、『パワー・ツール・ドラゴン』！！

コメント：大人になったら変えてほしい台詞。

ライフ・ストリーム・ドラゴン（第13話）

世界の未来を守るため、勇気と力がレボリューション！シンクロ召喚！

！！ 進化せよ！ 『ライフ・ストリーム・ドラゴン』！

コメント：上に同じ。

ドラガン

極神皇トール（第14話）

星界の扉開くとき、古の戦神いくはがみがその魔鎚を振り上げん。大地を揺る

がし轟く雷鳴とともに現れよ！シンクロ召喚！

光臨せよ！

『極神皇トール』！！！！

コメント：亮のほうよりかっこいい台詞。

ブレイブ

極神皇ロキ（第14話）

星界より生まれし気まぐれなる神よ。絶対的な力を我らに示し世界を笑え！シンクロ召喚！

光臨せよ！『極神皇ロキ』！！！！

コメント：かっこいいけど、自分のロキのイメージとは違う。

レ「以上だな、結構多いな、特に黒田兄弟は。」

さて、次のデュエルデータは『レベルスティーラー』の召喚回数だ！

皆さんはこれを過労死と呼べるか！？」

レベルスティーラー召喚回数（ ）内はその後フィールドを離れた方法と回数）

第1話：2回（リリース1：シンクロ1）

第4話：2回（リリース1：シンクロ1）

第8話：2回（シンクロ2）

第9話：2回（リリース1：シンクロ1）
第10話：1回（シンクロ1）
第11話：3回（リリース1：シンクロ2）
第12話？第13話：2回（シンクロ1：戦闘破壊1）
第14話？第15話：3回（リリース1：シンクロ1：除外1）
第16話？第19話：9回（リリース6：シンクロ3）
総合：26回（リリース11：シンクロ13：戦闘破壊1：除外1）

レ「著者はこの程度wと笑っています。さて、第2章での、過労死亡率はどのように!?」

最後のおまけはデッキ紹介です！今回はゴースト5人衆のデッキ紹介をしたいと思います！

因みにゴーストの使用デッキは1章では【シンクロアンデ】、ネクロフェイス】【メタビート】【アームド・ドラゴン】【フルバーン】の5種類！

このデッキの制限規定は2011年3月～9月です、よって『ハリケーン』Maxです。あらかじめご承知ください」

【シンクロアンデ】

シンクロ主軸ではなく、アンデットワールド軸のアンデット族。相手のモンスターのコントロールを得ていくデッキ。

デッキ 40枚
モンスター 24
下級モンスター 16
ゾンビキャリア 1
ゾンビマスター 3
ゴブリンゾンビ 3
ピラミッド・タートル 3

魂を削る死霊	2
闇竜の黒騎士	3
馬頭鬼	1
上級モンスター	5
龍骨鬼	1
邪神機 獄炎	2
地獄の門番イル・ブラッド	2
最上級モンスター	3
真紅眼の不死竜	3
魔法	1 2
アンデット・ワールド	3
生者の書 - 禁断の呪術	3
死者蘇生	1
おろかな埋葬	1
一族の結束	3
手札抹殺	1
罨	4
聖なるバリア ミラーフォース	1
炸裂装甲	3
エクストラ 一応	1 5
蘇りし魔王 ハデス	3
デスカイザードラゴン	3
アンデット・スカル・デーモン	3
C・ドラゴン	3
ギガンテック・ファイター	2

ダークエンド・ドラゴン 1

コメント：かませデッキ。本来のシンクロアンデよりもどう考えても弱い。以前に除去カード入れようよ。と突っ込みたくなる。

【ネクロフェイス】

コンボ性を重視した除外によるLP回復でデッキ切れを狙うデッキ。

デッキ 45枚

モンスター 12

ネクロフェイス 1

ニードルワーム 3

メタモルポット 1

魂を削る死霊 2

酒呑童子 2

次元合成師 2

紅蓮魔獣 ダ・イーザ 2

魔法 19

魂吸収 3

D・D・R 2

闇の誘惑 1

封印の黄金櫃 3

ダブル・サイクロン 2

サイクロン 1

異次元からの埋葬 1

月の書 1

太陽の書 2

天よりの宝札 1

精神操作 1

手札抹殺 1

罨 1 3

マクロコスモス 3

闇次元の解放 3

死霊の巣 2

聖なるバリア ミラーフォース 1

次元幽閉 1

奈落の落とし穴 1

D・Dダイナマイト 2

コメント：デッキ破壊に特化していないデッキ破壊。どっちかという、勝ち筋の多い次元デッキ？

【フルバーン】

ダメージに特化したデッキ。とにかく効果ダメージで速攻を狙う。

デッキ 40枚

モンスター 11

連弾の魔術師 3

メタモルポット 1

ファイヤー・トルーパー 3

デス・コアラ 3

マシユマロン 1

魔法 19

悪夢の拷問部屋 3

デス・メテオ 3

ミスフォーチュン 3

ご隠居の猛毒薬 3

連鎖爆撃 2
火炎地獄 3
昼夜の大火事 2

罨 10

魔法の筒 2

デイメンジョン・ウォール 3

仕込みマシンガン 3

停戦協定 1

自業自得 1

コメント：純粹フルバーン。

【アームド・ドラゴン】

相手の行動を制限しつつ、ゆっくりとアームド・ドラゴンを進化させていくデッキ。

デッキ 40枚

モンスター 20

下級モンスター 13

アームド・ドラゴンLV3 3

仮面竜 3

ドラゴン・フライ 3

メタモルポット 1

ライトロード・ハンター ライコウ 2

深淵の暗殺者 1

上級モンスター 3

アームド・ドラゴンLV5 3

最上級モンスター 4
アームド・ドラゴンLV7 2
アームド・ドラゴンLV10 2

魔法 11
レベルアップ! 3
マジック・プランター 3
スター・ブラスト 2
レベルダウン!? 1
死者蘇生 1

罨 10
聖なるバリア ミラーフォース 1
和睦の使者 2
生贄封じの仮面 2
次元幽閉 2
リビングデットの呼び声 1
スクリーン・オブ・レッド 2

コメント：ロックを軸においたアームド・ドラゴン。生贄封じの仮面が浮かないように。

【メタビート】

不器用に各種メタを積み込んだデッキ。どのデッキにも戦える。意外に強い。

デッキ 40枚
モンスター 18
下級モンスター 15

ライオウ 3
王虎ワンフー 3
異次元の女戦士 2
スナイプ・ストーカー 2
黒光りするG 2
デス・ヴォンバット 3
最上級モンスター 3
神獣王バルバロス 3
魔法 1 3
強者の苦痛 3
死者蘇生 1
収縮 3
禁じられた聖杯 3
ハリケーン 1
サイクロン 2
罨 9
ド레인シールド 2
聖なるバリア ミラーフォース 1
次元幽閉 2
魔法の筒 2
サンダー・ブレイク 2

コメント：まだマシなガチ。召喚無効系を入れていないのはかませ扱い。

レ「辻褃合わせデッキでした！このデッキ使って負けても文句は聞
きません！」

再び紙を見る虫。

レ「これでようやく裏話は終わったぜ。みんな、最後まで読んでく
れてありがとう！」

さて、最後の外伝の次回予告は後書きに記してあるぜ、次の奴
はさっさと書き上げたいと思う！それじゃあ、次の外伝まで！」

外伝2 END

外伝 舞台の裏側へ（後書き）

次回予告

外伝その3

始まる第2章『神の戦争』

その戦いの一部を垣間見せる

楽しみに待っていてください！

第2章『神の戦争』 予告

遂に始まった父親、黒田豪との決着をつけるための戦い。

だが、立ちはだかるのは神だけではなかった。

武藤遊戯と遊城十代の時代に活躍したデュエリストのデッキ、そして、そのデッキの持ち主の「頭脳」

「現れる！ 『ヴォルカニック・デビル』！！！！」

「行け！雑魚共！ 『おジャマ・デルタ・ハリケーン』発動！
！」

「見せてやる、これがサイコ流の切り札だ！ 『人造人間サイ

「コ・ロード」召喚！！」

「これが我ら兄弟の力だ！出でよ、守護神！」「ゲート・ガーディアン」！！！！」

「七色の輝きとともに現れる！
ラゴン」！！！！」
『究極宝玉神レインボー・ド

そして、その世界には存在しないはずの力
プラネット

「これが私の華麗なる切り札
VENUS」！！」
『The splendid

「現れる！冷たき暴君！
TUNE」！！」
『The tyrant NEP

「これが私の切り札だ！
」！！」
『The big SATURN

そして、再び立ちふさがる
十六夜アキ、そして対立する男

「冷たい炎が世界のすべてを包み込む…漆黒の花よ、開け！シンク
口召喚！
現れる『ブラック・ローズ・ドラゴン』！！！！」

そして、闇のゲームに破れ、闇になった者たちの復活

「我が勝利のために起動せよ！！」 『ラーの翼神竜』！！！！」

「見せてやるぜ、この世の物とも知れぬ恐るべき戦術をな！出でよ！
『闇の支配者 ゾーク』！！！！」

「運命の怒りは頂点を極めた！ 愚かな虫けらと化け物に鉄槌を下すためここに降臨する！この3本の柱が生贄となり、23番目の究極のアルカナ 『アルカナフォーSEX-THE LIGHT RULER』 が召喚される！」

「逆巻け、我が復讐の黒炎！シンクロ召喚！ 来い！『メンタルスフィア・デーモン』！！！！」

そして、暗黒の象徴 オレイカルコス

甘くは無い現実。

一人、また、一人、消えていく仲間たち

「…嘘、まさか…、隼人が…望が…実ちゃんが…」

「龍亞…、龍可…。お願い…、お願いだから…目を開けて…」

「クロウ…、クロウオオオオオオオ！！！」

「天保…、どこへ行ったんだ…、天保おおおおお！！！」

そして、黒田幽に来る…誘惑

「…取引をしないか？お前の大事なものを代償に」

そして、実は…

「…あなたを誰にも渡したくない、あたしだけのものになりたい。
だから、幽君…一緒に…」

第2章 『神の戦争』

戦いの中で交差する想い

多くを仲間失い、多くの心を手に入れる。

今ここに

三幻神 『オベリスクの巨神兵』 『オシリスの天空竜』 『ラーの翼神竜』

三幻魔 『幻魔皇ラビエル』 『降雷皇ラモン』 『神炎皇ウリア』

三極神 『極神皇トール』 『極神皇ロキ』 『極神聖天オーディン』

三邪神 『邪神イレイザー』 『邪神ドレットルート』 『邪神アバター』

十二の神の最大の戦争が始まる。

第2章『神の戦争』 予告（後書き）

幽「…久しぶりにまともな次回予告だな」

亮「そうだね、遂に2章が始まるからね！」

幽「それじゃあ、遊戯王第21話の予告だ！」

亮「遂に始まった戦い、その戦いの初戦を飾る人物は！」

幽「第21話『仲間を信じて進む道』！」

亮「記念すべき初戦のキーカードは『シューティング・スター・ド

ラゴン』と『ジャンク・デストロイヤー』だ！」

幽「ぜひともお楽しみに！」

アンケート「オリジナルキャラ募集」(12月4日更新)(前書き)

一時的に締め切ります。

ですが、投稿自体はまだまだ良いです。

じゃんじゃん、言ってください。

締め切り理由：人数の増加のため、3章の物語のため(人数が増えすぎると、出番が疎らになり、目立つ場所が作れなくなる)

アンケート「オリジナルキャラ募集」(12月4日更新)

投稿されたキャラ

【氏名】 檻斑希空

【年齢】 18歳

【職業】 高校生

【物語上の位置】 機械に詳しいという共通性で天保君のクラスメイト兼友人

【外見】 黒髪。右顔面が包帯に巻かれています。左手の義手にデュエルディスクが収納されています。

【使用デッキ】 【Xセイバー】

【備考】 語尾が「ー」に伸びます。包帯の下の右目は機械の義眼です

コメント：投稿してくれたのは「曲流」さんです。

このキャラは「曲流」さんの小説の主人公だそうです！

3章以降では是非とも頑張ってもらいたいと思います！

…唯一、使いたくないと思う理由：、主が【Xセイバー】について何も知らない！

流石に戦士族です。とか、ガムトスによるハンデスループ。については知っているが。

とりあえず、「曲流」さん！ありがとうございました！

設定変更：無し

【氏名】 守條 天麻

【年齢】 17

【職業】 学生

【性別】 男

【性格】 お人よしフラグメイカー＋フラグクラツシャー

【物語上の位置】 不幸少年で主人公のクラスメイト兼友人

【外見】 黒髪のとあるの一方通行

【使用デッキ】 【カオスビート】

【備考】 くでせうとか変な口調。地味にリアルでもデュエルでも強いでもあたまは・・・

コメント：投稿してくれたのは「とーる」さんです。

設定についてはどっかで見たこと…？なんて思う人も居るかもしれませんが。

デッキについては【カオスビート】にしました。多分チート開闢は出ません。

おそらく3章に入る前に禁止だろうし(え

新ストラクでカオスがさらに強化されるようなので、楽しみです。

「とーる」さん、ありがとうございました！

設定の変更：年齢17歳(高校2年生)・クラスメイト設定削除

【氏名】 さかざき 逆崎・H・へカーテ陽果ひか

【年齢】 18歳

【職業】 高校生

【物語上の位置】 学校一の情報通(クラスではほぼ空気)

【外見】 白髪のショートカットで赤目(所謂、アルビノ)アカデミア制服はTPOを考えず年がら年中長袖。

【性格】 疑心暗鬼になりやすい(だから他の人より有利になるために情報を集めている)

一途で恋愛ゲームではヤンデレになりやすい感じですよ。

【使用デッキ】 【リボルバー軸ギャンブル】

【備考】 言葉使いが変。例「それはどうかな？リバースカードオープン、”聖なるバリアミラーフォース”！」が「否逆転、裏札開！」聖なるバリアミラーフォース”」になります。

因みに、兄がいます（3歳年上で名前は逆崎・G・ハク）
ガルテア

コメント：投稿してくれたのは「E・N・D」さんです。

「E・N・D」さんの小説でも登場（予定）だそうです。
デッキについては【リボルバー軸ギャンブル】に。

バーローの出番が増えますね、亮君ともお友達になれそう（笑）

言葉遣いはかなり難題になりそう。そこはK I A Iでやります！

「E・N・D」さん、ありがとうございました！

追記：女性らしいです。オドロイタ。

設定の変更：デッキ 【ギャンブルビート】 …もしかしたら言葉遣いを普通にするかも。

【氏名】 難波 周平

【年齢】 18

【職業】 高校生

【物語上の位置】 クラスメイト 変態？

【外見】 黒髪で普通の顔

【使用デッキ】 【通常モンスター】（『モリンフェン』軸）

【備考】 ただのバカただし『モリンフェン』を使う場合、絶対唯一モリンフェン教（実践的モリンフェン様派）にしてください。あと

は逸材様の好きな設定をお願いします。

コメント：投稿してくれたのは「とーる」さんです。

本人曰くネタ。必ず出るとは思っていたが…（汗）

デッキについてはいうまでも無い。

…出番はあるのだろうか？

設定の変更：年齢17歳（高校2年生）・クラスメイト設定削除

【氏名】 アルファード・パーシバル

【性別】 男

【年齢】 16

【職業】 アカデミア生

【物語上の位置】 留学生、世界大会決勝の天保の対戦相手

【外見】 短めの銀髪で碧眼

【性格】 常に冷静沈着でたいていのことではうるたえない。

【使用デッキ】 【ジエムナイト】及び【セイクリッド】

【備考】

日本語ベラベラなアメリカ人留学生。

頭脳面では天才。

運動能力は並。

天保のことを「ミスタ・テンポー」と呼び、他の人は年上や女性には「さん」づけ、同年代には君づけで呼ぶ。【セイクリッド】は本格的なエクシーズ導入へのテストシリーズで一般にはまだ出回っていない。天保と戦った際には【ジエムナイト】だった。世界大会での戦いからテスターに選ばれた。

シンクロ全盛期であるこの時代においてシンクロを使わない理由は、「より策を巡らす必要があるデッキで戦った方が楽しいですから」

だそうだ。

コメント：投稿してくれたのは「爽蒼」さんでした。

年齢は高校1年生、なのに珍しく天保君関係。

彼の人気度は異常。すごすぎる。

エクシーズの裏設定（笑）を使ってくれたキャラ。目から鱗です。

細かい設定も考えていただきありがとございました。

設定の変更：無し

「氏名」 空野そらの光ひかる

「年齢」 18

「職業」 学生

「性別」 男

「性格」 お調子者で自由人

「外見」 Angel Beats!の日向秀樹を黒髪にしたかんじ

「物語上の位置」 天保の友人 クラスメイト

「使用デッキ」 ヴァルハラビート

「備考」 とにかく面白い事に目がなく、大体的場合騒ぎの中心にはこいつがいる。

よろしくお願いします。

コメント：投稿してくれたのは「アルカイナ」さんです。

何で天保君が…、彼の人気度は異常。

うん、やっぱり名前が神なだけありますね（

デッキについてはおそらく決定です。

設定の変更：無し

「名前」 あさぎぬ 朝絹 りん 凜

「年齢」 17歳（2年生）

「性別」 女

「性格」 ミステリアスで落ち着きがある

「職業」 学生（情報屋）

「外見」 べるぜバブの邦枝葵を茶髪にしたかんじ

「物語上の位置」 情報屋

「使用デッキ」 ワイト

「備考」 情報屋をやっているため敵が多く自分の身を守る為合気道を習っている

コメント：投稿してくれたのは「アルカイナ」さんです。

初の女性キャラ、自分は今までずっと男ばかりだった
ほうが不自然。

デッキについては【ワイト】を採用。バーンは嫌いな
ので。

ゴースト？ナンノコトヤラ。

情報屋の設定が「E・N・D」さん投稿の逆崎クンと同
じなので、その設定のみ、少し保留にしますが、今のところは設定
はこのままです。

設定の変更：無し

因みにとーるさん公認のネタキャラ（とーるさん、ごめんなさい！）以外の6名は安定した出番があると思います。

年齢変更の設定は本意でしたが、物語の都合上、どうしても必要だったので、ご了承ください。

以上、逸材でした。

まだまだ、募集はしているので、感想や活動報告のコメントで色々言ってください。

よろしく願いします。

おまけ：オリキャラの年齢層

3年生（幽達と同じ）

・檻斑 希空（名前の読み方教えてください）：曲流さん

・逆崎 H・陽果：E・N・Dさん

・空野 光：アルカイナさん

2年生

・守條 天麻：とーるさん

・難波 周平：とーるさん

・朝絹 凜：アルカイナさん

1年生（亮と同じ）

・アルファード・パーシバル：爽蒼さん

主人公キャラと同じ年齢層ではない2年生方々でも、しっかりと出

番はありますので大丈夫です。

そして、これは（仮）なので、設定の変更も多数行われます。
予めご承知ください。

追記：オリキャラ登場は3章からです。

2章終了は80話前後を予定しています。

…それまで続けられるかはノーコメント。

仮に訳有りで途中で、小説を打ち切りにする場合、外伝として、オリキャラを中心とした学園生活を書きます。

…因みに主は辞めるつもりはありませんので、大丈夫ですが、現実の都合もあるので、そこはご承知ください。

第2章 人物紹介（前書き）

まあ、一応第2章で登場人物が少しずつ変わるので。

おもに敵陣、味方は1章でほぼ固定です。

随時更新していきます。

当然、物語でも重要な敵は更新はしませんが。

第2章 人物紹介

オリキヤラ：主人公サイド

黒田 幽くろだ ゆゆう

18歳。使用デッキ【ダークモンスター＋極神皇ロキ】

黒田 亮くろだ りょう

16歳。使用デッキ【サイバー流＋極神皇トール】

氷炎 隼人こえん はやと

18歳。使用デッキ【ドラゴン族軸フロフレホルス】

高島 実たかしまみのり

18歳。使用デッキ【ジャンク・ウォリアー】

水面 綾香みなも あやか

18歳。使用デッキ【リチュア】

如月 望きさらぎのぞみ

18歳。使用デッキ【天使族】

天保 神太郎てんぽう しんたろう

18歳。使用デッキ【不明】、戦士系のデッキ

原作：主人公サイド

不動 遊星ふどう ゆうせい

20歳。使用デッキ【ローレベルシンクロ】

クロウ・ホーガン

19歳。使用デッキ【BF】

龍亞るあ

13歳。使用デッキ【D】
ディフォーマー

龍可るか

13歳。使用デッキ【ロック+ライフ回復】

ジャック・アトラス

21歳。使用デッキ【ドラゴン族+リゾネーター+ゴーレム】

現在、バイト中で主人公サイドとはとは行動していない

鬼柳きりゅう 京介きょうすけ

22歳。＼（、＼）＼デュエツ！使用デッキ【インフェルニティ】

ジャックの保護者？として、ジャックとともに行動中。

オリキヤラ：敵サイド

黒田くろだ 豪ごう

44歳。使用デッキ【不明】

原作：敵サイド

十六夜じゅうろくや アキ

18歳。使用デッキ【植物族】

ミスターT（アポリアの闇から生まれた）

使用デッキ【機皇】

ゴースト（量産型）

使用デッキ【シンクロアンデ】【ネクロフェイス】【アームド・ドラゴン】【フルバーン】【メタビート】

ゴースト（古のデュエリストの脳を持つゴースト）

使用デッキ【ヴォルカニック】（オブライエン）他は未登場

第21話 仲間を信じて進む道（前書き）

《挿絵挿入しています。右上の挿絵挿入を『する』にしてください》

題名騙しとはまさにこのこと。

遅れてすいませんでした。逸材です。

ようやく第2章の始まりです。

楽しんでいただけるとうれしいです。

第21話 仲間を信じて進む道

とある廃工場

外見こそ、ただの工場だが、その工場は

クロウ「…あれが、ゴーストの製造工場か？」
遊星「地図だと、間違いないな…」

そのゴーストの製造工場の近くの林で見ながらというベタすぎる展開の中、遊星とクロウが言う。

幽「…間違いない、よく見たら入り口の扉の奥に人影…、多分ゴーストが居る」

龍亞「…なんで見えるの？」

幽「暗い所に居る人とかは良く見えるんだ」

妙な設定だな、と呟く龍亞。それは言っではいけない。

実「…遂に…、始まるんだね…」

幽「ああ、ここからが本当の戦いだ」

これまたベタな言葉をいう。

隼人「それで、どうやって乗り込むんだ？」

「ごもつともな質問をいう隼人。」

綾香「……………一気に乗り込む？」

龍可「……………難しそうですね……………」

望「……………」

亮「……………」

黙る一行。

天保「… 囧だな」

幽「ん？」

天保「Dホイールに乗ってド派手に乗り込めば必ず入口は手薄になる。」

「ベタな展開だがそれが一番だろう」

隼人「だけど、ベタすぎないか？」

「敵がそれについて行かないかもしれない」

天保「それについては問題ない。」

不動が囧になれば嫌でもゴーストはついて行くだろうからな」

クロウ「!？」

龍亞「おい！遊星を囧にするってどういう事だよ!」

反発する男達。

幽「…天保、なぜ不動遊星なんだ？」

遊星「確かに、それは俺自身も知りたい」

天保「…まずはDホイールに乗って扉を突き破る必要がある。

その時点で、囧はDホイールに乗れる不動とクロウ、俺の3人に限られる」

遊星（…そういえば、彼は俺の事を「不動」って呼んでいるな、少し慣れないな…）

そんな遊星の疑問を無視して淡々と続ける天保。

天保「そして、相手はゴーストだ。そのゴーストを引き付けるのは、一度戦いの経験があり、ゴーストに危険視されている不動がクロウに限られる」

クロウ「たしかによ、言われてみたら簡単なことだがよ」

龍亞「でも、なんで遊星なんだ？」

天保は答えない。

だが、その眼は理由を知っている、だが話さない、そんな感じの眼だった。

天保「…物語の始まりは、いつも同じ…、そういう気がするだけだ」

龍可「…？」

龍亞「どういう事…？」

疑問ある言葉を残し、何も言わない天保。

遊星「…わかった、俺が行こう」

クロウ「遊星!？」

遊星「彼の言う事は一理ある。どうせ、俺かクロウが行くなら、幽達と長い時間居るクロウに任せるのがいいだろう」
クロウ「遊星…。」

わかった、お前がそれで良いなら

幽「…どういう意図だ？天保」

黙って聞いていた幽が聞く。

天保「…さっき言った通り、本当にそれだけだ」

幽「…そうか」

その横で、遊星がDホイールに乗り、準備をしている。

クロウ「なあ、天保。俺たちのDホイールはどうするんだ？」

天保「かさばるから、適当に置いておけばいいだろう」

クロウ「それで大丈夫なのか？」

天保「…中に入り組んでいる可能性もある。

正面突入する不動はともかく、俺たちは極力身軽のほうがいいだろう」

クロウ「…わかった」

若干不満そうなクロウだが、納得する。

その時、遊星の準備が終わる。

横では声援を送っている。

龍亞「遊星！頑張つて！」

龍可「私たちも頑張るから！」

綾香「こっちはこれだけの人数が居るので、任せてください！」

望「怪我しないでくださいねー」

遊星「ああ、行ってくる！」

そう言って、自分たちを隠していた葉っぱを突き破り、そして扉も突き破り、遊星がDホイールを走らせる。

そして思惑通り、ゴーストは遊星を追う。
当然のごとく、入り口が手薄になる。

天保「じゃあ、乗り込むか」

その言葉で一行は廃工場に入っていく

ゴ1「待て！不動遊星！！！」

遊星「……………」

先に侵入した遊星は4体のゴーストに追い掛け回されていた。

ゴ2「貴様だけで侵入してきたのは失敗だったな！殺してやるう！」

ゴ3「死ね！不動遊星！」

ゴ4「逃げてても無駄だ！さっさと楽にしてやる！」

口々に小物臭のする言葉を吐くゴーストたち。

だが、全く追いつける様子がない。

遊星（…丁度いい、たまには遊ばせてもらっか…）

そう思い、スピードを落とす遊星。

それに伴い、ゴーストもスピードを落とし、遊星を囲むように止ま

る。

ゴ1「ふん！諦めたのか！」

ゴ2「ならば今すぐ殺してやろう！」

ゴ3「死ね！不動遊星！」

ゴ4「これが貴様の最期だ！」

これまた超小物臭がする言葉を吐く。

遊星がため息をつく。

そして、一言。

遊星「おい」

たったその一言。

その一言でこの工場の空気が凍りつく。

ゴーストは機械で感情がないのにも拘らず、その一言で動けなくなるほどの恐怖を覚えた。

そして、遊星がもう一言。

> i 3 3 1 6 1 | 4 2 0 9 <

遊星「デュエルしろよ」

幽「…っ！！」

亮「…何だ…？」

隼人「…ぐっ…！」

実「…怖っ…、何…！」

別行動していたはずの人物たち。

綾香「…今、すごい寒気がしたんだけど…」

望「ですよ…、何でしょう…今の…」

クロウ「…わからねえ…、まさか敵か？」

龍亞「…まさか…、こんな…」

龍可「そんなはず…ないよね…？」

天保「…すごい…、殺気つてレベルじゃないな…。

今のはなんだ…？」

天保まで驚く、なんとという蟹男。

無事侵入し、ゴーストに会うこともなく、歩いていたにも拘らず、
とっさに足を止めてしまおう一回。

クロウ「…と…とりあえず、進もうぜ…」

亮「…そうですね…、進みましょう…」

さっきの「おい、デュエルしろよ」のオーラから立ち直り、再び進み始める。

そして、先ほどのゴーストたちは…

ゴ 4
ゴ 3
ゴ 2
ゴ 1
「
…
」
「
…
」
「
…
」
「
…
」

黙っていた。

それほどのオーラが不動遊星にはあった。

…もっともオーラなんてものがあるかどうかなのだが。

遊星「どうした？もう一度言っぞ。

おい、デュエルしろよ」

やっぱり黙っているゴースト。

遊星「……………」

2分後、ようやく立ち直ったゴーストが言う。

ゴ1「…良いだろう…、デュエルだ…」

ゴ2「デュエルで貴様を葬ってやるっ…」

ゴ3「死ぬ…、不動遊星…」

ゴ4「ここを、貴様の墓場に…してやるっ」

だが、元気がない。

遊星「…4人まとめてかかってこい！」

そう言つて（一人勝手に）走り出す遊星。
テンションが高すぎる。

それに遅れて、遊星の後を追うゴースト4人。

遊星・ゴ1・ゴ2・ゴ3・ゴ4「……ライディングデュエル！
！アクセラレーション！！」「……」

（やっぱりspは存在しません、あらかじめご承知ください。
ターンはゴ1 - 遊星 - ゴ2 - 遊星 - ゴ3 - 遊星 - ゴ4 - 遊星 - ゴ1
- 遊星…という順になります。
ルールはTFルールです。遊星VSゴースト4人です。）

遊星LP8000 手札5 デッキ35

ゴ1 手札5 デッキ35

ゴ2 手札5 デッキ35

ゴ3 手札5 デッキ40

ゴ4 手札5 デッキ35 LP8000

遊星「少し遊びたいんだ。先攻はくれてやる」

ゴ1「舐めた真似を!!!私の先攻だ!ドロー!!!」手札5 - 6
デッキ35 - 34

ゴ1「『アームド・ドラゴンLV3』を召喚!そして手札より『レベルアップ』発動!

『レベルアップ』で私の『アームド・ドラゴンLV3』は『アームド・ドラゴンLV5』へ進化する!」手札6 - 4 デッキ34 - 33

【アームド・ドラゴンLV3 3 風ノドラゴン ATK/12
00 DEF/900】

【アームド・ドラゴンLV5 5 風ノドラゴン ATK/24
00 DEF/1700】

遊星「……」

ゴ「これで私のターンは終了だ!」

1ターン目終了

遊星 手札5 デッキ35 LP8000

ゴ1 手札4 デッキ33
ゴ2 手札5 デッキ35
ゴ3 手札5 デッキ40
ゴ4 手札5 デッキ35 LP8000
アームド5

遊星「俺のターン！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

遊星「自分フィールド上にモンスターが存在しないとき、手札の『ジャンク・フォアード』は特殊召喚できる！」手札6 - 5

【ジャンク・フォアード 3 地/戦士 ATK/900 DE
F/1500】

遊星「そして、手札の『ボルト・ヘッジホッグ』をコストに手札の『ワン・フォー・ワン』を発動する！デッキは手札からレベル1モンスター1体を特殊召喚する！俺は『チューニング・サポーター』を守備表示で特殊召喚！」手札5 - 3 デッキ34 - 33

【チューニング・サポーター 1 光/機械 ATK/100
DEF/300】

遊星「そして手札よりチューナーモンスター、『ドリル・シンクロン』を通常召喚！」手札3 - 2

【ドリル・シンクロン 3 地/機械 チューナー ATK/8
00 DEF/300】

ゴ1「1ターンで3体のモンスターだと！」

ゴ2「しかし、貴様のエースである『スターダスト・ドラゴン』はレベル8だ！今の状態では呼べない！」

遊星「…『チューニング・サポーター』はシンクロ素材にするとき、レベル2として扱うことができる！」

ゴ3「ということは…合計レベル8だとっ！？」

遊星「行くぞ！レベル2『チューニング・サポーター』とレベル3『ジャンク・フォアード』にレベル3『ドリル・シンクロン』をチューニング！！！」

【ドリル・シンクロン 3】 + 【ジャンク・フォアード 3】
+ 【チューニング・サポーター 1 - 2】 = 8

遊星「集いし願いが、新たに輝く星となる！光さす道となれ！」

シンクロ召喚！飛翔せよ！『スターダスト・ドラゴン』！！！」

【スターダスト・ドラゴン 8 風/ドラゴン ATK/250
0 DEF/2000】

ゴ1「くっ…、来たか…『スターダスト・ドラゴン』！！！」

ゴ2「まさか、1ターンで召喚してくるとは…！」

遊星「『チューニング・サポーター』の効果！このカードがシンクロ素材として墓地へ送られたとき、デッキからカードを1枚ドロースする！」手札2 - 3 デッキ333 - 32

遊星「『スターダスト・ドラゴン』で『アームド・ドラゴンLV5』

に攻撃！！ 響け！ シューティング・ソニック！！！！」

スターダスト ATK 2500 VS アームド5 ATK 2400

ゴ1「ぐおおおおつ！！」 LP 8000 - 7900

遊星「俺はカードを1枚セットして、ターンエンド！」

2ターン目終了

遊星 手札 2 デッキ 32 LP 8000

スターダスト(A) セット

ゴ1 手札 4 デッキ 33

ゴ2 手札 5 デッキ 35

ゴ3 手札 5 デッキ 40

ゴ4 手札 5 デッキ 35 LP 7900

ゴ2「次は私だ！私のターン！」 手札 5 - 6 デッキ 35 - 34

ゴ2「…手札に『ゾンビキャリア』か…、ならばこのカードで墓地に送るだけだ！」

ゴ2「私は『手札抹殺』を発動！互いの手札をすべて捨て、同じ枚数だけカードをドローする！」

遊星「……」

遊星 デッキ 32 - 29 ゴ2 手札 6 - 5 デッキ 34 - 29

ゴ「そして『ゾンビマスター』を召喚し、効果を発動する！」

手札のモンスター1枚をコストに、墓地のアンデット族モンスター1体を蘇生させる！

この効果で私は『魂を削る死霊』をコストに『ゾンビキャリア』を蘇生させる！」手札5 - 3

【ゾンビマスター 4 闇/アンデット ATK/1800 DEF/0】

【ゾンビキャリア 2 闇/アンデット チューナー ATK/400 DEF/200】

遊星「…チューナーモンスターか」

ゴ2「私はレベル4の『ゾンビマスター』にレベル2の『ゾンビキャリア』をチューニング……！」

【ゾンビキャリア 2】 + 【ゾンビマスター 4】 = 6

ゴ2「冥界の魔王よ！死してなおその悪夢を敵に見せつけよ！シンクロ召喚！悪夢の象徴、『蘇りし魔王 ハデス』！」

【蘇りし魔王 ハデス 6 闇/アンデット ATK/2450 DEF/0】

ゴ2「まだだ！貴様のエースをこのターンで闇の葬ってやろう！手札1枚をデッキトップに戻し、墓地の『ゾンビキャリア』は特殊召喚できる！『ゾンビキャリア』復活！」手札3 - 2 デッキ29 - 30

【ゾンビキャリア 2 闇ノアンデット チューナー ATK / 400 DEF / 200】(自身の効果で蘇生)

遊星「合計レベル8…、さらなるシンクロ召喚か…」

ゴ2「その通り、見せてやろう！私の切り札を！レベル6の『蘇りし魔王 ハデス』にレベル2の『ゾンビキャリア』をチューニング！！」

【ゾンビキャリア 2】+【蘇りし魔王 ハデス 6】= 8

ゴ2「絶対的な闇よ！その忌み嫌われし力を解き放て！シンクロ召喚！漆黒の龍！『ダークエンド・ドラゴン』！」

【ダークエンド・ドラゴン 8 闇ノドラゴン ATK / 260 0 DEF / 2100】

ゴ2「『ダークエンド・ドラゴン』のモンスター効果！このモンスターの攻撃力と守備力を500下げることにより、相手フィールド上のモンスター1体を墓地へ送る！」

遊星「くっ…、なんだとっ！」

ゴ2「消える！『スターダスト・ドラゴン』！」

【ダークエンド・ドラゴン 8 闇ノドラゴン ATK / 260 0 - 2100 DEF / 2100 - 1600】

ゴ2「このままバトルだ！『ダークエンド・ドラゴン』でダイレク

トアタック!!　　ダーク・フォッグ!!」

遊星「トラップ発動!『くず鉄のかかし』!相手の攻撃宣言時、その攻撃を無効にする!」

ゴ2「何っ!?

だが、貴様のエースは葬った!ターンエンドだ!」

3ターン目終了

遊星 手札2 デッキ32 LP8000

セット(かかし)

ゴ1 手札4 デッキ33

ゴ2 手札2 デッキ30

ゴ3 手札5 デッキ40

ゴ4 手札5 デッキ35 LP7900

ダークエンド(A:2100)

遊星「:俺のターン!」手札2・3 デッキ32・31

遊星「相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しないとき、『アンノウン・シンクロン』は手札から特殊召喚できる!」手札3・2

【アンノウン・シンクロン 1 闇/機械 チューナー ATK
/0 DEF/0】

ゴ2「またチューナーモンスターだと!?」

遊星「…そして俺は手札より『ロードランナー』を召喚！」手札2

- 1

【ロードランナー 1 地/鳥獣 ATK/300 DEF/300】

遊星「俺はレベル1『ロードランナー』にレベル1『アンノウン・シンクロン』をチューニング！」

ゴ2「シンクロチューナーを呼ぶつもりか!？」

【アンノウン・シンクロン 1】 + 【ロードランナー 1】 = 2

遊星「集いし願いが、新たな速度の地平へ誘う!光さす道となれ!シンクロ召喚! 希望の力、シンクロチューナー!『フォーミユラ・シンクロン』!！」

【フォーミユラ・シンクロン 2 光/機械 チューナー AT K/200 DEF/1500】

遊星「『フォーミユラ・シンクロン』はシンクロ召喚に成功したとき、デッキからカードを1枚ドロウすることができる!」手札1 - 2 デッキ31 - 30

ゴ2「くっ…、だが!貴様の『スターダスト・ドラゴン』は既に墓地だ!アクセルシンクロはできないはずだ!」

遊星「残念だが、『スターダスト・ドラゴン』の輝きは不滅だ!手札より『星屑のきらめき』を発動!

このカードは墓地のドラゴン族モンスター1体を選択し、そのモンスターのレベルと同じになるように、墓地のモンスターをゲ

ームから除外し、選択したモンスターを墓地から特殊召喚する！」
手札2 - 1

ゴ2「な…んだと…」

遊星「俺は墓地の『スターダスト・ドラゴン』を選択し、レベル3
『ドリル・シンクロン』、レベル3『ジャンク・フォアード』、レ
ベル1『ロードランナー』、レベル1『アンウン・シンクロン』
の4体をゲームから除外する！」

【ドリル・シンクロン 3】 + 【ジャンク・フォアード 3】
+ 【ロードランナー 1】 + 【アンウン・シンクロン 1】
|| 8

遊星「集いし願いが、新たに輝く星となる！光さす道となれ！

シンクロ召喚！蘇れ！『スターダスト・ドラゴン』！！」

【スターダスト・ドラゴン 8 風ノドラゴン ATK/250
0 DEF/2000】

ゴ2「くっ…、この状況は…」

ゴ3「まずい！アクセルシンクロをするつもりか！」

遊星「行くぞ！！クリアマインド！！！！！！」

その言葉と同時に、遊星のDホイールのスピードが急上昇する。

風を切るかのような速度で走る遊星。

遊星「レベル8シンクロモンスター『スターダスト・ドラゴン』に、レベル2シンクロチューナー『フォーミュラ・シンクロン』をチューニング!!!」

【フォーミュラ・シンクロン 2】 + 【スターダスト・ドラゴン
8】 = 10

遊星「集いし夢の結晶が、新たな進化の扉を開く！光さす道となれ！

アクセルシンクロオオオオオオオオオオ!!!」

その言葉で遊星の姿が消える。

だが、ベタすぎるので「消えた!？」とは言わせません。

ゴーストたちの後ろから現れ、その横を通りすぎる。

そこには『スターダスト・ドラゴン』ではない、ドラゴンが居た。

遊星「 生来せよ! 『シューティング・スター・ドラゴン』!

!...!」

【シューティング・スター・ドラゴン 10 風ノドラゴン A
TK/3300 DEF/2500】

ゴ3「くっ…出てきたか、『シューティング・スター・ドラゴン』
…！」

遊星「『シューティング・スター・ドラゴン』のモンスター効果！
デッキの上からカードを5枚めくり、その中にあるチューナーの数
だけ攻撃できる…！」

ゴ2「最大5回の攻撃…！」

私たちのLPは7900…、この状況で奴が4枚以上のチュー
ナーをドローしたら…！」

遊星「行くぞ！まず1枚目！ チューナーモンスター『異次元
の精霊』！」

続けて2枚目をめくる遊星。

遊星「2枚目！ チューナーモンスター『ブライ・シンクロン』
！」

ゴ2「ぐ…まさか…、このまま5枚連続ではないだろうな…！」

遊星「3枚目！ …くっ、『調和の宝札』だ」

遊星「4枚目！ チューナーモンスター『エフェクト・ヴェー
ラー』…！」

遊星「そして5枚目！！！！」

ゴ2「…どうだ…！？」

ゴ3「この状況をしのげれば…！」

遊星「……」。

トラップカード『スターライト・ロード』。

だが、このターン『シューティング・スター・ドラゴン』は3回の攻撃ができる！！」

ゴ2「くっ…、それでも3回の攻撃か…！」

遊星「行け！『シューティング・スター・ドラゴン』！！ スターダスト・ミラージュ！！！」

『シューティング・スター・ドラゴン』が幻影のように3つに分かれる。

その幻影の1つは『ダークエンド・ドラゴン』に2つはゴーストに向かっていく。

シューティング ATK 3300 VS ダークエンド ATK 2100

直接×2 (計： - 7800)

ゴ達「ぐおおおおおおおおお！！！！ LP 7900 - 1000

遊星「ターンエンドだ」

4ターン目終了

遊星 手札1 デッキ30 LP8000

シューティング(A) セット(かし)

ゴ1 手札4 デッキ33

ゴ2 手札2 デッキ30

ゴ3 手札5 デッキ40

ゴ4 手札5 デッキ35 LP1000

ゴ3「ぐっ…、私のターン!!」手札5 - 6 デッキ40 - 39

ゴ3「…このカードならば!」

ゴ3「…くっくっくっ」

遊星「……」

「どうした?おかしくなつたか?」という定番の言葉を言わない遊星。

だが、お構いなしに続けるゴースト。

ゴ3「残念だったな。貴様の『シューティング・スター・ドラゴン』はこのターンで消えてもらおう!」

遊星「何だと!?!」

ゴ3「私は手札より『精神操作』を発動する！相手フィールド上のモンスター1体のコントロールを得る！これで『シューティング・スター・ドラゴン』のコントロールを得る！！」手札6 - 5
遊星「コントロールを得るだと！

だが、『精神操作』でコントロールを得ても、攻撃はおろか、リリースすらできない！」

ゴ3「甘い…、甘いな！不動遊星！

私は手札とフィールドのすべてのカードをゲームから除外し、『天よりの宝札』を発動する！！」手札5 - 0

遊星「何！『天よりの宝札』だって！？」

ゴ3「破壊できず、リリースもできないなら除外してしまえばいいんだ！

私は『天よりの宝札』の効果でデッキから2枚ドロー！！」

手札0 - 2 デッキ34 - 32

遊星「くっ…、『シューティング・スター・ドラゴン』…」

ゴ3「くっくっくっ…、私はカードを1枚セットして、モンスターをセット！ターンエンド！」

4ターン目終了

遊星 手札1 デッキ30 LP8000

セット（かかし）

ゴ1 手札4 デッキ33

ゴ2 手札2 デッキ30

ゴ3 手札0 デッキ32

ゴ4 手札5 デッキ35 LP100
裏守 セット1

ゴ3 (…セットモンスターは『魂を削る死霊』、そして『聖なるバリア ミラーフォース』…。

この防御を不動遊星と言えど、『スターダスト・ドラゴン』無しで切り抜けるわけがない！

次の私の仲間のデッキは【メタビート】…、これで不動遊星は終わりだ…！)

遊星「…俺のターン！！」手札1 - 2 デッキ30 - 29

遊星「『ジャンク・シンクロン』を召喚！」手札2 - 1

【ジャンク・シンクロン 3 闇/戦士 ATK/1300 D
EF/500】

遊星「『ジャンク・シンクロン』は召喚に成功したとき、墓地に存在するレベル2以下のモンスター1体を守備表示で特殊召喚できる！

俺は『手札抹殺』で墓地へ送られた『スピード・ウォリアー』を特殊召喚する！」

【スピード・ウォリアー 2 風/戦士 ATK/900 DE
F/400】

遊星「さらに墓地の『ボルト・ヘッジホッグ』は俺の場にチューナーが存在するとき、墓地から特殊召喚出来る！」

【ボルト・ヘッジホッグ 2 地/機械 ATK/800 DE
F/800】(自身の効果)

遊星「まだだ！俺の場にチューナーが存在するとき、手札の『ブリスト・ウォリアー』を特殊召喚出来る！」手札1-0

【ブリスト・ウォリアー 1 炎/戦士 ATK/300 DE
F/200】

ゴ3「何！たった手札2枚から4体のモンスターを召喚しただと！」

ゴ2「しかも、合計レベルは8だ。まさか…！」

遊星「レベル1『ブリスト・ウォリアー』、レベル2『ボルト・ヘッジホッグ』、レベル2『スピード・ウォリアー』の3体にレベル3『ジャンク・シンクロン』をチューニング！！」

【ジャンク・シンクロン 3】+【スピード・ウォリアー 2】
+【ボルト・ヘッジホッグ 2】+【ブリスト・ウォリアー 1】

遊星「集いし闘志が怒号の魔神を呼び覚ます！光さす道となれ！シンクロ召喚！ 粉碎せよ、『ジャンク・デストロイヤー』！！」

【ジャンク・デストロイヤー 8 地/戦士 ATK/2600
DEF/2500】

遊星「『ジャンク・デストロイヤー』はシンクロ召喚に成功したと

き、チューナー以外のモンスターの数までフィールド上のカードを破壊できる！」

ゴ3「何イ！！貴様がシンクロ素材にしたのは……」

遊星「『スピード・ウォリアー』、『ボルト・ヘッジホッグ』、『ブリスト・ウォリアー』の3体だ！よって俺は貴様のフィールドの裏側のモンスターとセットカードを破壊する！
タイダル・エナジー！！！」

『ジャンク・デストロイヤー』が拳を放ち、ゴーストのフィールド上のカードを破壊する。

遊星「これでお前を守るものは無くなった！『ジャンク・デストロイヤー』でダイレクトアタック！！
デストロイ・ナックル！！！」

ジャンデスATK2600 VS 直接

ゴ達「ぐわああああああ！！！」LP100-0

クラッシュするゴースト4人。

だが、遊星はそれに見向きもせず、Dホイールを走らせる。

遊星(…待っている、アキ!)

一方、幽達は一つの大部屋に差し掛かった。

幽「…何だ？この都合の良い部屋は？」

亮「どう考えても狙っているよね」

口々に言うその部屋とは…

彼らは10人。それに対し、通路は9つ。

龍亞と龍可を二人で行動させるとしたら、丁度良い通路の数。

実「…こういうのって、普通は分かれて進むものなんだよね？」

隼人「だけど、普通はそれが狙いだろう。」

で、別れたところを叩く、って感じだな」

綾香「それでも敵は残念なことに一人に対しても勝てない、っていうのがベタな展開だよな？」

望「うんうん」

そう、それが普通の展開。

クロウ「…だが、冷静に考えたらゴーストが物理的に解決することも視野に入れなくちゃいけないんだ。」

ここは、別れないほうがいいだろう」

龍亞「物理的に？」

クロウ「暴力ってことだ。デュエルじゃなくてな。リアルファイトってことだよ」

(遊星「おい、デュエルしろよ」)

龍可「…たしかに、そのほうが私たちが倒せるのは确实だし…」

皆がうーんと悩んでいると、困ったときの、である天保が言う。

天保「気持ちはわかるがやめたほうがいいだろう」

クロウ「は？さっきまでの話を聞いてなかったのか！」

天保「…冷静になれ」

クロウ「ぐぐぐ…」

天保「…まず、この通路についてだが、この際数が都合いいことより、注目すべきところがある」

綾香「…どういう事？」

天保「この通路の細さだ」

天保の言うとおり、通路は細かった。

その細さは龍亞や龍可はともかく、他の人たちだと、進むのがようやく、というような細さだった。

亮「確かに細いね、でもそれは関係ない気がするんだけど」

天保「確かに、進むことはできる。」

だが、一つの道を10人で進もうと考えると、どうしても1列で進む必要がある」

隼人「確かに…」

天保「そうならば、最後尾の人が拉致される、人質に取られる、とかされたらどうしようもない。」

リアルファイトするにしても、人質が取られたらお手上げだし、狭い通路で10人も居たら邪魔なだけだ。

通路に入るの一人…、せめて二人だ」

幽「そうだな、冷静になればそうだ」

望「…でも、本当にリアルファイトなんてされたらどうするの?」

天保「それについては問題ない。「おい、デュエルしろよ」って言うっておけば問題ないだろう」

まあ、「奴をデュエルで拘束せよ!」なんて世界だし。

龍亞「だけど、そうだったら9つしかない通路を」

天保「そこは、お前ら双子は小柄だからな。動きやすいだろうし、二人で行くことだ」

全部言う前に、天保が言う。

龍可「…でも、言われてみればそうだよな…」

龍亞「龍可!？」

龍可「…それに10VS1なんてデュエルもやりにくいだろうし…」

龍亞「まあ、たしかにそうだよな」

幽「…いざというときのために、リアルファイト対策に一部の人を2人行動させてもいいか?」

天保「…まあ、10人行動よりはマシだろう。」

俺は一人で行きたいんだがな」

隼人「まあ、仲間だ仲間だ、って、常に行動するのも大切だが、信

じて別々の道を進むのも大切なことだしな」

そうやっていろいろ決まっていたが…

クロウ「おい、俺は納得してねーぞ」

幽「…クロウ？」

天保のほうへ歩いて行き、その胸ぐらをつかむクロウ。

天保「…何だ？」

クロウ「…てめえ、いったい何が目的だ！」

綾香「ちょっと！クロウ！どうしたの、急に！」

だが、その言葉には答えないクロウ。

クロウ「てめえの行動はどう考えてもおかしい！」

最初は遊星を別行動に、そして次は俺たち全員を別行動にさせようとしている！

そして、その別行動を促すかのようにこの部屋の扉の数は9つだぞ！」

天保「…俺が敵についている、と言いたいのか？」

クロウ「…そう思われても仕方ねえ行動をしているんだよ、お前は！」

天保「……………」

睨み合っている二人。

幽「…天保？」

天保「……………」。

俺が敵だろうと、味方だろうと、ここで少数に分かれるのは間違っではないと思うが？」

クロウ「…そんな言い訳で納得すると思ってるのか？」

クロウの手をやりわり外す天保。

そして、背中を向け、歩きながら言っ。

天保「…確かに、10人で行動することにもメリットはある。

だがな、互いを信頼して、必ず目的地に着くと信じて、別々の道を進むことも必要なことだ」

クロウ「……………」

天保「納得していないのはわかる。

だから、誰もが納得する言い訳をしてやるっ」

そう言って、再びクロウに向き直る天保。

天保「戦いにおいて、今のように悩んだ時に、誰の指示に従う？」

…それは古来よりずっと決まっている」

クロウ「…成程な、そういう事が…」

天保の言いたいことが解ったクロウ。
デュエルディスクを構える。

望「クロウさん…？」

天保「その通り、古来より従うべき人物に必要な技能は『知識』ではない、人々を従わせる」

デュエルディスクを構える天保。

幽「…まさか…」

天保「『強さ』だ。

行くぞ、クロウ・ホーガン。どちらが正しいか…、それを決める戦いをな！」

クロウ「負けても、文句言っんじゃねえぞ！」

第21話
E N D

天保・クロウ「デュエル!!!!!!」

第21話 仲間を信じて進む道（後書き）

龍可「…まさか、二人が戦うことになるなんて…！」

龍亞「クローウー！頑張れー！」

龍可「ちよつと、龍亞！天保さんだつて、敵じゃないんだよ！」

龍亞「でもよー！俺、あいつのこと嫌いだし！」

龍可「龍亞！失礼でしょ！」

龍亞「いいでしょ！別にー！」

龍可「もう…。」

とりあえず…、次回予告ね」

龍亞「おつと、そうだった！」

次回！遊戯王第22話『天保、明かされる力』！」

龍可「まさかの仲間同士の対決…、どちらが正しいか、譲れない戦いが始まる！」

龍亞「次回のキーカードは『ギガンテック・ファイターノバスター』だよ！お楽しみに！！！」

第22話 天保、明かされる力（前書き）

遅くなりました。半分無理やり時間を作って投稿。

次回からはデュエルパートが完成していますが、やっぱり遅くなりそうです。

もうしばしお待ちください。

追記：11月3日『黒羽の宝札』のミス、発動ターンは特殊召喚できませんでした。すいませんでした。

第22話 天保、明かされる力

天保LP8000 手札5 デッキ35

クロウLP8000 手札5 デッキ35

綾香「ちょ…ちょっと、二人とも！」

龍可「こんな場所で争わないでください！」

既にデュエルが始まったのだが、止めに入る二人。

隼人「…二人とも、止めても無駄だろうよ。」

少なくとも天保はデュエル始めると周りが見えなくなる人だから」

天保と仲の良い隼人が言う。

幽「それにクロウも性格からして、そう簡単にこの戦いをやめないだろうからな。」

…諦めよう」

幽までこう言ったので、素直に下がる二人。

亮「…隼人先輩、天保先輩ってどれくらい強いんですか？」

龍可「あ、それ、俺も気になる」

唯一一年生で、本人のデュエルを見ていない亮が質問をする。

隼人「…カード効果を完全に記憶している知識、カードのシナジーやコンボを最大限引き出すデッキ構築とプレイング、そしてピンポイントでカードを引ける運…。」

あいつにはどれも人間離れした力がある…。」

亮「……まさか…、そんな完璧な人間が居るわけが…。」

隼人「…見ていればわかる」

天保「あんたとは、一度デュエルしてみたかったんだよな」

クロウ「こつちもだぜ！アカデミア最強の実力を見せてみる！」

天保「言われなくてもな！俺の先攻だ！ドロー！」手札5 - 6
デッキ35 - 34

クロウ「…俺のデッキはばれている。」

だが、俺は奴のデッキを俺は知らない…。」

もし、あいつが裏切り者なら奴のデッキをここで知っておけば次の時に戦いを有利に運べる…！)

天保「『ライトロード・パラディン ジェイン』を召喚する！」手札6 - 5

【ライトロード・パラディン ジェイン 4 光/戦士 ATK

／1800 DEF／1200】

クロウ「…【ライトロード】か…、かなり早いデッキだな…！」

天保「…俺はカードを1枚セットして、エンドフェイズに『ライトロード・パラディン ジェイン』のモンスター効果を発動、デッキの上から2枚のカードを墓地へ送る」デッキ34 - 32

龍亞「…自分で自分のデッキを破壊するカードを…？」

幽「…【ライトロード】の特徴は、墓地を肥やし、墓地アドバンテージを存分に使用して、高速で勝負を決める。

もつとも、『ライトロード・パラディン ジェイン』はかなり優秀なアタッカーだから、あの1枚だけで【ライトロード】と決めつけるのは良くないがな」

龍亞「…なるほど…」

1ターン目

天保LP8000 手札4 デッキ32 ジェイン(A) セット

クロウLP8000 手札5 デッキ35

クロウ「行くぜ！俺のターンだ！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

クロウ「手札より永続魔法『黒い旋風』を発動！このカードは俺が【BF】を通常召喚したときにデッキからその【BF】より攻撃力の低い【BF】1体を手札に加える効果を持つぜ！」手札6 - 5

幽「…安定の初手旋風…、制限なのに…」

スルー推奨。

クロウ「そして俺は『BF - 蒼炎のシユラ』を召喚するぜ！」手札
5 - 4

【BF - 蒼炎のシユラ 4 闇/鳥獣 ATK/1800 DEF/1200】

天保「…『BF - 蒼炎のシユラ』の攻撃力は1800か…」
クロウ「そして『BF - 蒼炎のシユラ』が召喚されたので『黒い旋風』の効果発動！

デツキより攻撃力1300の『BF - 疾風のゲイル』を手札に加えるぜ！」手札4 - 5 デツキ34 - 33

亮「…早いな…、たしか『BF - 疾風のゲイル』はクロウの場に【BF】が存在すれば手札から特殊召喚できる…！」

クロウ「その通りだぜ！」『BF - 疾風のゲイル』は俺の場に『BF - 疾風のゲイル』以外の【BF】が存在するとき、手札から特殊召喚できる！」手札5 - 4

【BF - 疾風のゲイル 3 闇/鳥獣 チューナー ATK/1300 DEF/400】

クロウ「そして、俺は『BF - 疾風のゲイル』の効果を発動！1ターンに一度、相手のモンスター1体の攻撃力と守備力を半分にする！当然、対象は『ライトロード・パラディン ジェイン』だぜ！」

【ライトロード・パラディン ジェイン 4 光/戦士 ATK/1800 - 900 DEF/1200 - 600】

クロウ「バトルだ！『BF - 蒼炎のシユラ』で『ライトロード・パラディン ジェイン』に攻撃！ バード・スラッシュ！」

天保「…甘い戦術だ。その程度で攻撃が通ると思っているのか？」

クロウ「な…っ！」

天保「フォトナイス『光子化』発動、相手の攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力を次の俺のエンドフェイズまで光属性のモンスター1体に加える」

クロウ「くっ…、攻撃無効系罠だったか…！」

天保「『BF - 蒼炎のシユラ』の攻撃力は1800、その数値を『ライトロード・パラディン ジェイン』に加える」

【ライトロード・パラディン ジェイン 4 光/戦士 ATK / 900 - 2700 DEF / 600】

龍亞「うわっ！一気に攻撃力が3000近くまで上がった！」

綾香「『BF - 疾風のゲイル』の攻撃力は1300…、攻撃はできないわね…」

クロウ「ちっ！ならば、メインフェイズ2にシンクロ召喚を行うぜ！レベル4『BF - 蒼炎のシユラ』にレベル3『BF - 疾風のゲイル』をチューニング！」

【BF - 蒼炎のシユラ 4】 + 【BF - 疾風のゲイル 3】
7

クロウ「黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ！ シンクロ召喚！『BF - アーマード・ウイング』！」

【BF - アーマード・ウイング 7 闇/鳥獣 ATK / 250】

0 DEF/1500】

天保「…攻撃力2500、その上に戦闘破壊耐性モンスターか…」
クロウ「さあ、かかってきやがれ！ターンエンド！」

2ターン目

天保LP8000 手札4 デッキ32 ジェイン(A:2700)
クロウLP8000 手札4 デッキ33 アーマード(A)旋風

幽「…隼人、このデュエル、どう思う？」

隼人「うーん、まだ、わからないかな…」

幽「…じゃあ、質問変更。天保は本気出すと思う？」

隼人「…少しは手を抜くんじゃないか？まあ、あいつの気分にもよるが」

幽「…そうか」

天保「俺のターンだ！」手札4 - 5 デッキ32 - 31

天保「『ライトロード・ウォリアー ガロス』を召喚！」手札5 - 4

【ライトロード・ウォリアー ガロス 4 光/戦士 ATK/
1850 DEF/1300】

天保「さて、ここからが俺の真骨頂だ。手札より永続魔法『一族の
結束』発動！

このカードは俺の墓地の元々の種族が1種類の時、俺の場の

墓地の種族と同じ種族のモンスターの攻撃力を800ポイントアップさせる！

俺の墓地には前のターンに『ライトロード・パラディン ジェイン』の効果で墓地へ送られた戦士族が居る！よって、俺の場の戦士族の攻撃力を800ポイントアップさせる！」手札4 - 3

【ライトロード・パラディン ジェイン 4 光/戦士 ATK / 2700 - 3500 DEF / 600】

【ライトロード・ウォリアー ガロス 4 光/戦士 ATK / 1850 - 2650 DEF / 1300】

クロウ「何い！レベル4で攻撃力3500だとおおお！インチキ効果も大」

天保「お前が言うな、その気になれば同じことができるのによ！

『ライトロード・パラディン ジェイン』で『BF - アーマード・ウィング』に攻撃！」

ジェイン ATK 3500 VS アーマード ATK 2500

クロウ「なっ！『BF - アーマード・ウィング』には戦闘破壊耐性だけでなく、戦闘ダメージを0にできるのに、なんで攻撃をしてくるんだ！」

天保「まあ、戦闘破壊できるからだな。『ライトロード・パラディン ジェイン』は攻撃するとき、ダメージステップの間、自身の攻撃力を300ポイントアップさせる。

そして、その効果にチェインして『禁じられた聖杯』発動。対象モンスターの攻撃力を400ポイントアップさせ、その効果を無効にする」手札3 - 2

クロウ「げっ！やっぱりそのカードかよ！」

ジェイン ATK 3500 - 3800 VS アーマード ATK 25

00 - 2900

クロウ「ぐあっ！」 LP8000 - 7100

天保「『ライトロード・ウォリアー ガロス』のダイレクトアタック！」

ガロス ATK2650 VS 直接

クロウ「ぐっ…、いきなりLPが半分まで削られたか…！」 LP7100 - 4450

天保「後はその厄介な永続魔法か…、『サイクロン』で割らせてもらおうか？」 手札2 - 1

クロウ「げっ…、『黒い旋風』まで破壊してくるなんて…！」

天保「エンドフェイズ、『ライトロード・パラディン ジェイン』のモンスター効果でデッキの上からカードを2枚墓地へ送る。

そして『ライトロード・ウォリアー ガロス』の効果は【ライトロード】の効果でデッキからカードが墓地へ落ちたとき、デッキの上からカードを2枚墓地へ送り、その中の【ライトロード】1枚につき、デッキからカードを1枚ドローする」デッキ31 - 29 - 27

『ライトロード・ウォリアー ガロス』の効果で墓地へ送られたカードを確認する。

天保「…『ライトロード・パラディン ジェイン』が1枚墓地へ送られたな。デッキからカードを1枚ドローする。

ついでに『光子化』の効果も切れ、『ライトロード・パラディン ジェイン』の攻撃力も戻るぜ」手札1 - 2 デッキ27 - 26

【ライトロード・パラディン ジェイン 4 光/戦士 ATK
/3500 - 1700 DEF/600】

3ターン目

天保LP8000 手札2 デッキ26 ジェイン(A:1700)

ガロス(A:2650) 結束

クロウLP4450 手札4 デッキ33

クロウ「ちっ…、強ええな…」

天保「褒め言葉として受け取っておく」

クロウ「マジで褒めてるんだけどな…、

俺のターンだ、ドロー！」手札4 - 5 デッキ33 - 32

クロウ(…今の俺の手札じゃあ厳しいな…、『BF - 極北のブリザード』と『BF - 月影のカルート』があるから『BF - アームズ・ウイング』を召喚すれば攻撃力3700まで対処できるが…。

奴のデッキはおそらく【戦士族】、パワーはないが強化系のカードやサーチによるサポートが優秀なデッキ、下手したら次のターンにシンクロ召喚や強化系カードで攻撃力2900以上の戦士族モンスターを呼ばれて『BF - アームズ・ウイング』を破壊されたら、残りの俺の手札は『BF - 鉄鎖のフェーン』『BF - 東雲のコチ』『アゲインスト・ウインド』…。そうなれば、俺に打つ手はなくなる…)

天保「…どうした？」

クロウ「…ちっ、考え中だ」

舌打ちをして、再び自分の手札を見るクロウ

クロウ「…仮に『ライトロード・ウォリアー ガロス』より攻撃力が低い『BF - アームズ・ウィング』を残したとしよう。奴ほどのデュエリストだ、確実に『BF - 月影のカルート』の存在に気付く。だから、『BF - 月影のカルート』によるカウンターはほぼ不可能…。

ならば…、俺が取る戦術は…！)

クロウ「さあて、戦術は決まったぜ！今から俺のトリッキーな戦術を披露してやるぜ！」

天保「…楽しみだ」

クロウ「俺は手札より『BF - 鉄鎖のフェーン』を攻撃表示で召喚！」手札5 - 4

【BF - 鉄鎖のフェーン 2 闇/鳥獣 ATK/500 DEF/800】

クロウ「そして手札より『アゲインスト・ウィンド』発動！墓地の【BF】と名のついたモンスター1体を手札に戻し、その攻撃力分のダメージを受ける！」

幽「ライフアドを捨ててまで墓地の【BF】を回収しに行った…！
実「それほど、この状況で重要な【BF】が…？」

亮「おそらく…、『BF - 疾風のゲイル』を手札に戻すつもりか…」

クロウ「俺は墓地の『BF - 疾風のゲイル』を手札に戻し、その攻撃力1300のダメージを受ける！」LP4450 - 3150

天保「ちっ、厄介なモンスターを戻したな」

クロウ「そして手札の『BF - 疾風のゲイル』は俺の場に『BF - 疾風のゲイル』以外の【BF】が存在するとき手札より特殊召喚できる！」手札4 - 3

【BF - 疾風のゲイル 3 闇/鳥獣 チューナー ATK/1300 DEF/400】

クロウ「『BF - 疾風のゲイル』の効果で『ライトロード・ウォリアー ガロス』の攻撃力と守備力を半分にする！」

【ライトロード・ウォリアー ガロス 4 光/戦士 ATK/2650 - 1325 DEF/1300 - 650】

クロウ「バトル！『BF - 鉄鎖のフェーン』の効果は相手に直接攻撃できる！よってダイレクトアタックだ！ ブラック・チェーン！」

フェーン ATK500 VS 直接

天保「…っ、まさかダイレクトアタッカーか…」LP8000 - 7500

クロウ「おっと、俺の目的はそれだけじゃねえぜ！『BF - 鉄鎖のフェーン』の効果は直接攻撃でダメージを与えたときに相手モンスター1体を守備表示にする！『ライトロード・パラディン ジェイン』を守備表示に変更する！」

望「そっか！攻撃力が1700でも『BF - 疾風のゲイル』の効果を受けているから守備力は600！」

綾香「だけど…、おかしい戦術ね…」

望「え？どついう事？」

隼人「綾香も感じたか、たしかにこの戦術は変だ」

綾香「…ダメージ覚悟なら戦闘破壊をトリガーにサーチができる『BF - 蒼炎のシユラ』を手札に加えたほうが良かったはず。」

それなら効果で『BF - 極北のブリザード』を呼べばそのままシンクロ召喚出来たからね」

隼人「…考えられるのは『BF - 疾風のゲイル』の効果を発動させたかった、って考えられる」

望「…それじゃあ、なんでわざわざ…?」

隼人「…流石にわからないな」

クロウ「そして『BF - 疾風のゲイル』で『ライトロード・パラディン ジェイン』に攻撃！ ブラックスクラッチー!!」

ゲイル ATK1300 VS ジェイン DEF650

クロウ「これで俺のターンは終了だぜ！」

4ターン目

天保 LP7500 手札2 デッキ26 ガロス(A:1325)

結束

クロウ LP3150 手札3 デッキ32 ゲイル(A) フェー
ン(A)

天保「…俺のターンだ」手札2 - 3 デッキ26 - 25

天保(…明らかに戦術が変だ、なぜ『アゲインスト・ウィンド』で『BF - 蒼炎のシユラ』を回収しなかった?)

考えられる可能性は…、『BF - 月影のカルト』。にしても攻撃力が低すぎる…。

…！なるほど、奴の狙いは『BF - 疾風のゲイル』を狙わせ
ることが…！そして『BF - 月影のカルート』でカウンターを狙っ
ている…。

そんな甘い戦術が通用しない事を教えてやるか…)

天保「お望み通り、狙ってやるよ、『BF - 疾風のゲイル』を！

手札より『不死武士』召喚！」手札3 - 2

【不死武士 3 闇/戦士 ATK/1200 - 2000 DE
F/600】

天保(…残念だが、今回はお前らの出番は無しだ。クロウは強いが、
本物の切り札を出すまでもない…。

今回は戦術隠しも兼ねてこつちを出すべきだからな)

天保「手札のモンスターをコストに『ワン・フォー・ワン』発動！
デッキよりレベル1モンスター1体を特殊召喚する！戦士族チユ
ナー『アタック・ゲイナー』を特殊召喚！」手札2 - 0 デッキ2
5 - 24

【アタック・ゲイナー 1 地/戦士 チューナー ATK/0
- 800 DEF/0】

天保「狙ってやるが、それなりの覚悟はしとけよ？

レベル4『ライトロード・ウォリアー ガロス』とレベル3

『不死武士』の2体にレベル1『アタック・ゲイナー』をチューニ
ング！」

【ライトロード・ウォリアー ガロス 4】 + 【不死武士 3】
+ 【アタック・ゲイナー 1】 = 8

龍亞「合計レベル8！何が出る！？」
隼人「…あいつの切り札だな…」

天保「鉄壁の鎧を身に纏う不死身の戦士、幾多の強者の魂をその身に宿し、現れよ！ シンクロ召喚！轟け！『ギガンテック・ファイター』！」

【ギガンテック・ファイター 8 闇/戦士 ATK/2800
DEF/1000】

天保「『ギガンテック・ファイター』の攻撃力は墓地の戦士族のモンスターの数×100だけ上昇する。俺の墓地には『ライトロード・パラディン ジェイン』2体と『ライトロード・ウォリアー ガロス』『不死武士』『アタック・ゲイナー』、後デッキから墓地へ送られたモンスターと『ワン・フォー・ワン』のコストで1体ずつ、計7体だ。

『一族の結束』の効果を含め、攻撃力は1500ポイントアップする！」

【ギガンテック・ファイター 8 闇/戦士 ATK/2800
- 4300 DEF/1000】

クロウ「な…っ！攻撃力4300!!」
幽「…化け物だ、流石天保の切り札だな…」

天保「あ、後『アタック・ゲイナー』はシンクロ素材になったとき

相手のモンスター1体の攻撃力を1000奪うからな、対象は『BF - 疾風のゲイル』にしておこう」

【BF - 疾風のゲイル 3 闇/鳥獣 チューナー ATK/1300 - 300 DEF/400】

龍亞「まずいよー！このままじゃクロウが負けちゃうってー！」

龍可「クロウ！」

クロウ「くっ…」

天保「…芝居は良い、どうせ手札に『BF - 月影のカルト』を持っているんだろっ？」

クロウ「…さあな」

天保「攻撃してみればわかる、『BF - 疾風のゲイル』に攻撃！」
ギガンテックATK4300 VS ゲイルATK300

クロウ「くっ、手札より『BF - 月影のカルト』を捨て、俺の場の【BF】の攻撃力を1400上昇させる！」手札3 - 2
ギガンテックATK4300 VS ゲイルATK300 - 1700

クロウ「ぐあああああつ！！」LP3150 - 550

龍亞「…怖ええ…！間一髪で耐えた…」

龍可「でも、攻撃力4300のモンスター相手にどうやって戦えば…」

天保「俺の切り札を召喚させて、返しのターンで『BF - 月影のカルト』を使い、それを倒す。」

どうせそんな所だろう、甘い戦術だ。

ターンエンドだ」

5ターン目

天保LP7500 手札0 デッキ24 ギガンテック(A:43

00) 結束

クロウLP550 手札2 デッキ32 フェーン(A)

クロウ「…俺のターンだ」手札2-3 デッキ32-31

だが、ドローをしても動かず、俯いたままのクロウ。

龍亞「…クロウ?」

クロウ「……」

幽「…どうしたんだ?」

クロウ「…くっくっくっ」

龍可「クロウ…、笑ってる？」

クロウ「…あーはっはっはっはっはっはっ！」

隼人「クロウ…、どうしたんだ？」

クロウ「…いやな、つい笑っちまってな…。

「こんなにも簡単に俺の畏に引っかけられてくれるなんてな！」

天保「…！」

綾香「…畏って…？」

望「…どういう事なの…？」

クロウ「俺の目的は、『BF - 疾風のゲイル』を狙わせたり『BF - 月影のカルート』を予想させることじゃねえ！…『BF - 鉄鎖のフェーン』を残すことだ！

俺は手札より『BF - 極北のブリザード』を召喚する！
手札3 - 2

【BF - 極北のブリザード 2 闇/鳥獣 チューナー ATK / 1300 DEF/0】

天保「…成程…、そういう事が…」

クロウ「流石だな！だが、今気がついても遅いぜ！俺は『BF - 極北のブリザード』の効果で墓地のレベル4以下の【BF】
『BF - 蒼炎のシユラ』を守備表示で特殊召喚する！」

【BF - 蒼炎のシユラ 4 闇/鳥獣 ATK/1800 DEF / 1200】

龍亞「すごい！これでクロウもレベル8のシンクロ召喚が行える！
龍可「だから、『BF - 鉄鎖のフェーン』を残したのね！」

天保「…まんまと騙されたな、流石トリックスターと言っただけあるな」

クロウ「褒め言葉ありがとうよ！行くぜ！レベル2『BF - 鉄鎖のフェーン』とレベル4『BF - 蒼炎のシユラ』の2体にレベル2『BF - 極北のブリザード』をチューニング！」

【BF - 鉄鎖のフェーン 2】 + 【BF - 蒼炎のシユラ 4】
+ 【BF - 極北のブリザード 2】 = 8

クロウ「吹き荒べ嵐よ！鋼鉄の意思と光の速さを得て、その姿を昇華せよ！
シンクロ召喚！『BF 孤高のシルバー・ウィンド』
！！！！」

【BF - 孤高のシルバー・ウィンド 8 闇/鳥獣 ATK/2800 DEF/2000】

龍亞「やった！『BF - 孤高のシルバー・ウィンド』はシンクロ召喚に成功したとき、『BF - 孤高のシルバー・ウィンド』の攻撃力以下の守備力を持つモンスターを2体まで破壊できる！」

龍可「これなら事実上戦闘破壊耐性がある『ギガンテック・ファイター』も対処できるわ！」

隼人「リバーカードもないから、破壊を避ける方法はないな！！」

クロウ「『BF - 孤高のシルバー・ウィンド』の効果で守備力1000の『ギガンテック・ファイター』を破壊するぜ！」

天保「っ！だが、その効果を使ったターンは攻撃できない！」

クロウ「わかってるぜ！ターンエンドだ！」

6ターン目

天保LP7500 手札0 デッキ24 結束

クロウLP550 手札2 デッキ31 シルバー・ウィンド(A)

幽「…ここでアド差がついた…、この勝負わからなくなってきたな」
亮「二人とも、一応、ここが敵陣だとわかってデュエルしているん

だろうか……」
幽「……さあ……？」

天保「俺のターンだ」手札0 - 1 デッキ24 - 23

天保「このスタンバイフェイズ、俺の場にモンスターが存在しないため、墓地の『不死武士』を守備表示で特殊召喚する」

【不死武士 3 闇/戦士 ATK/1200 - 2000 DE
F/600】

クロウ「ちっ、モンスターが途切れねえな……！」

天保「カードをセットして、ターンエンド」

7ターン目

天保LP7500 手札0 デッキ23 不死武士(D) セット
結束

クロウLP550 手札2 デッキ31 シルバー・ウィンド(A)

クロウ「俺のターン！ドロー！」手札2 - 3 デッキ31 - 30

クロウ「手札より『闇の誘惑』発動！手札の『BF - 陽炎のカーム』をゲームから除外し、デッキからカードを2枚ドロー！」デッキ3

0 - 28

クロウ（よし！これなら…！）

クロウ「俺は『BF - 東雲のコチ』を召喚！

そして、手札の『BF - 黒槍のブラスト』は俺の場に『BF - 黒槍のブラスト』以外の【BF】が存在するとき、手札から特殊召喚できる！」手札3 - 1

【BF - 東雲のコチ 4 闇/鳥獣 ATK/700 DEF/1500】

【BF - 黒槍のブラスト 4 闇/鳥獣 ATK/1700 DEF/800】

天保「ちっ…、またレベル8のシンクロ召喚か…」
クロウ「行くぜ！レベル4『BF - 黒槍のブラスト』にレベル4『BF - 東雲のコチ』をチューニング！」

8 【BF - 黒槍のブラスト 4】 + 【BF - 東雲のコチ 4】 =

クロウ「黒き疾風よ！秘めたる想いをその翼に現出せよ！シンクロ召喚！ 舞い上がれ『ブラックフェザー・ドラゴン』…！！」

【ブラックフェザー・ドラゴン 8 闇/ドラゴン ATK/2800 DEF/1600】

綾香「攻撃力2800が2体！」
望「流石に圧巻ですね…！」

クロウ「行くぜ！」BF - 孤高のシルバー・ウィンド』で『不死武士』に攻撃！ パーフェクト・ストーム！！」

シルバー・ウィンド ATK 2800 VS 不死武士 DEF 600

クロウ「『ブラックフェザー・ドラゴン』でダイレクトアタックだ！ ノーブル・ストリーム！！」

BFD ATK 2800 VS 直接

天保「ぐおっ…！」LP 7500 - 4700

クロウ「俺はカードを1枚セットしてターンエンドだ！」

8ターン目

天保 LP 4700 手札 0 デッキ 23 セット 結束

クロウ LP 550 手札 0 デッキ 30 シルバー・ウィンド (A)

BFD (A) セット

天保「……」

俺のターンだ」手札 0 - 1

天保「俺の場にモンスターが存在しないため『不死武士』を特殊召喚する」

クロウ「またか…」

天保「…『死者蘇生』発動！俺は墓地より『ギガンテック・ファイター』を特殊召喚する！」手札 1 - 0

隼人「『死者蘇生』だと！」

龍可「墓地の戦士族は『不死武士』が減っても6体…！」

綾香「…攻撃力は4200…！」

【ギガンテック・ファイター 8 闇/戦士 ATK/2800
- 4200 DEF/1000】

クロウ「ぐ…！」

天保「さあ！これで終わりだ！『ギガンテック・ファイター』で『ブラックフェザー・ドラゴン』に攻撃！」

クロウ「…ただ、まだ終わらねえ…！」BF - 孤高のシルバー・ウインド』をコストとしてリリースし、『ゴットバードアタック』発動！」

このカードは鳥獣族モンスターをリリースして発動できる畏カード！その効果でフィールド上のカード2枚を破壊する！

俺が選ぶのは『ギガンテック・ファイター』とお前の場に伏せられているカードだ！」

幽「…『ゴットバードアタック』だと…！」

亮「これで『ギガンテック・ファイター』を破壊されたら天保先輩は負ける…！」

天保「……流石だな…、俺をここまで追い込むなんてな。正直舐めていた」

クロウ「そうだな！だが、追い込むだけじゃねえ！次のターンで勝つてやるぜー！」

天保「『ギガンテック・ファイター』をコストとしてリリースし、『ゴットバードアタック』にチェインして伏せられたカードを発動するー！」

望「…このタイミングで？」

クロウ「なっ…！『ゴットバードアタック』が躲された…！」

天保「発動せよ！ 『バスター・モード』！！！」

実「『バスター・モード』！特別なシンクロモンスターを進化させる罠カード！」

隼人「…リリースエスケープか…！」

天保「…『バスター・モード』の効果でリリースした『ギガンテック・ファイター』の名前を含む【バスター】と名のついたモンスターをデッキから攻撃表示で特殊召喚する！」
クロウ「く…このタイミングで…！」

天保「蒼き鎧を身に纏い、不死身の力、今ここに激震する！
現れよ！『ギガンテック・ファイター／バスター』！！！！！」

【ギガンテック・ファイター／バスター 10 闇／戦士 AT
K / 3300 - 4100 DEF / 1500】

天保「…『ギガンテック・ファイター／バスター』には特殊召喚に成功したとき、デッキの戦士族モンスター2体を墓地へ送る効果を持つが、『ゴットバードアタック』にチェインして、チェイン2以

降で召喚したため、タイミングを逃す…。もつとも、この状況では無意味な効果だが。

『ギガンテック・ファイター/バスター』の効果、俺の墓地の戦士族の数×100だけ、相手のモンスターの攻撃力を下げる！」

クロウ「くっ…！お前の墓地には戦士族が7体…！
てことは…！」

【ブラックフェザー・ドラゴン 8 闇/戦士 ATK/280
0-2100 DEF/1600】

天保「終わりだ！『ギガンテック・ファイター/バスター』で『ブラックフェザー・ドラゴン』に攻撃…！！」

ギガンテック/ATK4100 VS BFDATK2100

クロウ「ぐああああああつ…！！」LP550-0

膝をつき、露骨に悔しがるクロウ。

クロウ「…畜生…！」

天保「…それなりに楽しい戦いだっただけだ。」

さて、約束通り、ここからは別行動だな」

天保が皆に言う。

だが、言われている皆の顔はひきつっている。

天保「…どうした？」

隼人「…そりゃ、あれだけ派手に戦っていればバレるよな…」

天保「…成程…」

天保が理解したように後ろに振り向く。

ゴ1「貴様ら、ここで遊んでいたとはな、好都合！」

ゴ2「ここでまとめて葬ってやろう！」

ワーキヤー言うゴースト達。

天保とクロウのデュエルに気づき、ゴーストの大群がここまで来たことは言うまでもない。

天保「…遊びすぎだな、仕方ない」

デュエルディスクは再び構える天保。

幽「…そうだな、止めればよかったが…、やるか…」

天保「いや、反省として俺とクロウだけで殺るから気にするな」

亮（…漢字が怖い）

背中を向けたまま天保が言う。

幽「…良いのか？」

天保「さつきも言ったが反省の意味を込めてな。

気にするな、俺はLPが1000000VS100でも負けない自信があるからよ」

亮「…ソナバカナ」

隼人「…じゃあ、俺たちは先に行くか」

幽「…わかった」

そんな話をしているとorzから立ち直ったクロウが天保の横に立つ。

クロウ「ちっ、不本意だが、てめえと肩を並べて戦ってやるぜ！」

天保「…そりゃどうも」

ゴーストに対峙するクロウと天保に背中を向け、それぞれが別々の道に入っていく。

幽「…ここからは、一人か」

実「幽君、頑張ろうね」

幽「…勿論」

綾香「全く、波乱の開戦ね…、後さき考えない人たちには困ったわね…」

望「そんなこと言ったって、始まらないですよー」

隼人「…そうだが、仕方ないって」

綾香「まあ、少しくらいスリルがある日常を味わいたいと思っ
たから、丁度いいか」

亮「…二人は一緒の道に入るのか？」

龍亞「勿論！龍可は俺が護ってやるんだ！」

龍可「龍亞に護られなくても私だって出来るわよ！」

龍亞「そんなこと言われると自身が無くなるだろー！」

亮「…大丈夫だよな…」

遂に始まった神の戦争。

波乱の開戦となったこの戦い。

それぞれの運命が動き出す。

第22話 END

第22話 天保、明かされる力（後書き）

レベルステイラー（主）「ついに始まった戦い。それぞれが一人で進んだ道には、古のデュエリストの頭脳を持つゴーストが立ち上がる！次回、遊戯王第23話『古のデュエリスト』！キーカードは『ヴォルカニック・デビル』だ！お楽しみに！」

ジャック「…なんでお前が？」

レ「だって、皆走ってるし」

満足「…お前じゃ満足できねえぜ」

レ「（。。。）」

第23話 古のデュエリスト（前書き）

逸材です。だいぶ遅れました。

いつものごとく忙しいので許してください。

ちなみに今回から「現在の各人の状況」とおまけとして「気分でオ
リジナルカード」をまえがき、あとがきに追加しました。

では、第23話、お楽しみください。

現状

幽・亮・隼人・実・綾香・望・龍亞・龍可 進行中

天保・クロウ ゴーストと戦闘中

遊星 囿として進行中

第23話 古のデュエリスト

9つの道の内、7つの道にそれぞれの人が進んでいった。

当然、それぞれの道に立ちほだかる強敵が存在する。

綾香「…うーん、警戒してるんだけど、本当に何も無いなあ…」

一番左の道を進んだ綾香はぼーっとしながら歩いている。

そりゃ、敵陣の真ん中に一人で歩いているわけで、普通は誰か来て
もいいのに、誰も来ないのだ。

綾香「…ん？」

一つの影が見える。

綾香「…意外ね、まさかそんな目立つ立ち方しているなんて」

通路を進んでいると、1体のゴーストが仁王立ちしていた。

ゴ「……」

綾香「…何か話したらどう？」

何も話さないゴースト。

だが、腰につけていた黄色のデュエルディスクを黙って構える。

綾香「…！」

ゴ「俺の目的はボスの役割を完璧に遂行すること。貴様と話す理由はない」

綾香「…こつちもあんたと話す理由はないわね」

そう言っつてデュエルディスクを構える綾香。

綾香（…しかし、私が前に出会ったゴーストと明らかに違うなあ…。

デュエルディスクだって色が違うし、口調も違う…、声も違う…、オマケに一人称も…）

ゴ・綾香「デュエル！！」

綾香 LP8000 手札5 デッキ35
GLP8000 手札5 デッキ35

綾香「私の先攻よ！ドロー！」手札5 - 6

綾香（…相手のデッキは黒ちゃんとかから聞いてきたデッキの種類とは違うと思って戦わないと…）

綾香「モンスターをセットしてターンエンドよ！」

1ターン目

綾香 LP8000 手札5 デッキ34 裏守

GLP8000 手札5 デッキ35

ゴ「俺のターン！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

ゴ「俺は『ヴォルカニック・ロケット』を召喚！その効果でデッキより【ブレイズ・キャノン】と名のついたカードを手札に加える」
手札6 - 5

【ヴォルカニック・ロケット 4 炎/炎 ATK/1900
DEF/1400】

綾香「…【ヴォルカニック】ね…」

ゴ「この効果で『ブレイズ・キャノン・トライデント』を手札に加える」手札5 - 6 デッキ34 - 33

ゴ「バトル！『ヴォルカニック・ロケット』で壁モンスターに攻撃！
ブレイズ・ブラスト！」

ロケット ATK 1900 VS エリアル DEF 1800

綾香「私は『リチュア・エリアル』のモンスター効果を使っわ！デッキより【リチュア】と名のついたモンスター『ヴィジョン・リチュア』を手札に加える！」手札 5 - 6 デッキ 34 - 33

ゴ「ターンエンド」

2ターン目

綾香 LP 8000 手札 6 デッキ 33

ゴ LP 8000 手札 6 デッキ 33 ロケット (A)

綾香「私のターン！」手札 6 - 7 デッキ 33 - 32

綾香「手札の『シャドウ・リチュア』の効果で、自身を手札から捨てて発動！

デッキに存在する【リチュア】と名のついた儀式魔法1枚を手札に加える！この効果で、『リチュアの儀水鏡』を手札に加える！」デッキ 32 - 31

ゴ「…儀式召喚主体のデッキか」

綾香「行くわよ！手札より『リチュア・ビースト』召喚！このモンスター召喚に成功したとき、墓地のレベル4以下の【リチュア】1体を守備表示で特殊召喚する！

この効果で『リチュア・エリアル』を守備表示で特殊召喚！」手札 7 - 6

【リチュア・ビースト 4 水/獣 ATK/1500 DEF/1300】

【リチュア・エリアル 4 水/魔法使い ATK/1000 DEF/1800】

綾香「そして、手札より『リチュアの儀水鏡』を発動！場と手札から、儀式モンスターと同じレベルになるようにリリースをして、手札の儀式モンスター1体を特殊召喚する！

『リチュア・ビースト』と『リチュア・エリアル』をリリース！」手札6 - 5

【リチュア・ビースト 4】 + 【リチュア・エリアル 4】 = 8

綾香「邪悪の儀式の生贄となった最強の魔物！万物を海に沈める津波を呼び、敵を押し流せ！！ 邪悪の産物：『イビリチュア・ソウルオーガ』！！！」手札5 - 4

【イビリチュア・ソウルオーガ 8 水/水 ATK/2800 DEF/2800】

ゴ「攻撃力2800か」

綾香「…全然驚いていないようね…」。

バトル！『イビリチュア・ソウルオーガ』で『ヴォルカニック・ロケット』に攻撃！！ 邪悪激流葬！！！」

ソウルオーガATK2800 VS ロケットATK1900

ゴ「……っ」LP8000 - 7100

綾香（…相手の顔に苦しみ…、やっぱり闇のゲーム…）

綾香「ターンエンドよ」

3ターン目

綾香LP8000 手札4 デッキ31 ソウルオーガ（A）

ゴLP7100 手札6 デッキ33

ゴ「俺のターン」手札6 - 7 デッキ33 - 32

ゴ「永続魔法『ブレイズ・キャノン』。

そして、『ブレイズ・キャノン』の墓地へ送り、『ブレイズ・キャノン・トライデント』を発動！」手札7 - 5

綾香「いきなり『ブレイズ・キャノン・トライデント』を発動するなんて…！」

ゴ「永続魔法『悪夢の拷問部屋』、相手に『悪夢の拷問部屋』以外で効果ダメージを与えるたびに相手に300ポイントのダメージを与える」手札5 - 4

綾香「くっ…！」

ゴ「俺は『ブレイズ・キャノン・トライデント』の効果を発動、手札の炎族モンスター1体を墓地へ送り、相手モンスターを破壊、そして500ポイントのダメージを与える。

ただし、この効果を使用したターン、攻撃宣言はできない」手札4 - 3

そう言つて、手札を1枚墓地へ送るゴースト。

すると、『ブレイズ・キャノン・トライデント』が動き出し、『イ

ピリチュア・ソウルオーガ』に向く。

ゴ「ファイヤー！」

妙な掛け声と共に『ブレイズ・キャノン・トライデント』から球

『ヴォルカニック・バレット』が発射される。

綾香「…っ、熱っっ！！」LP8000 - 7500

ゴ「『悪夢の拷問部屋』の効果で300ポイントのダメージを与える」

綾香「うっ…！」LP7500 - 7200

ゴ「そして、『ヴォルカニック・エッジ』を召喚」手札3 - 2

【ヴォルカニック・エッジ 4 炎/炎 ATK/1800 D
EF/1200】

綾香「…！そのモンスターは…！」

ゴ「『ヴォルカニック・エッジ』のモンスター効果、このモンスターの攻撃を放棄し、相手に500ポイントのダメージを与える」

綾香「うあああああっ！」LP7200 - 6700

ゴ「さらに、『悪夢の拷問部屋』で300のダメージを与える」
綾香「う…っぐああ…っ…」LP6700 - 6400

ゴ「さらに、墓地の『ヴォルカニック・バレット』の効果LPを500支払い、デッキより、『ヴォルカニック・バレット』1体を手札に加える」手札2 - 3 デッキ32 - 31 LP7100 - 6600

綾香「また…、手札に炎族モンスターが…！」

ゴ「カードを2枚セットして、ターンエンド」

4ターン目

綾香LP6400 手札4 デッキ31

ゴLP6600 手札1 デッキ31 エッジ(A) トライデン

ト 悪夢 セット2

綾香「…まだ…、まだよ！私のターン！」手札4・5 デッキ31

- 30

綾香（よし…、この手札なら…！）

綾香「墓地の『リチュアの儀水鏡』の効果発動！」

ゴ「…墓地からの魔法発動だと…！」

ベタな台詞だ、はNGワード。

綾香「墓地のこのカードをデッキに戻し、私の墓地の儀式モンスター1体を手札に戻す！」

この効果で『イビリチュア・ソウルオーガ』を手札に戻す！」

手札5・6 デッキ30・31

ゴ「くっ…、再び儀式召喚の準備を…！」

綾香「手札より『リチュアの儀水鏡』発動！手札より『ヴィジョン・リチュア』をリリースするわ！『ヴィジョン・リチュア』はこのモンスター1体で水属性儀式モンスターの召喚のためのリリースにすることができる！」手札6・4

ゴ「何だと!？」

綾香「邪悪の儀式の生贄となった最強の魔物！万物を海に沈める津波を呼び、敵を押し流せ！！」
その邪悪、闇のように舞い戻れ
！『イビリチュア・ソウルオーガ』！！！！」手札4 - 3

【イビリチュア・ソウルオーガ 8 水/水 ATK/2800
DEF/2800】

ゴ「…再びそのモンスターか…」

綾香「まだよ！『サルベージ』発動！私の墓地の攻撃力1500以下の水属性モンスターを2体、手札に戻す！この効果で墓地の『シヤドウ・リチュア』と『ヴェイジョン・リチュア』を手札に戻す！」
手札3 - 4

ゴ「…そのモンスターは…」

綾香「気づいたようね！手札より『シヤドウ・リチュア』を捨て、効果発動！デッキより『リチュアの儀水鏡』を手札に加えるわ！

そして、『リチュア・アビス』召喚！」手札4 - 3 デッキ
31 - 30

【リチュア・アビス 2 水/魚 ATK/800 DEF/500】

綾香「『リチュア・アビス』の効果発動！召喚・反転召喚・特殊召喚に成功したとき、デッキより守備力1000以下の【リチュア】を手札に加える！

この効果で私は『イビリチュア・ガストクラーケ』を手札に加えるわ！」手札3 - 4 デッキ30 - 29
ゴ「儀式モンスターのサーチだと！？」

綾香「手札より『リチュアの儀水鏡』を再び発動！同じく手札の『

ヴィジョン・リチュア』は水属性儀式モンスターのリリースをこのモンスター1体で代用できる！」手札4-2

綾香「狂気に満ちた漆黒の魔女よ、呪われた身体の恐怖を海を荒らす者に存分に示せ！ 降臨せよ！『イビリチュア・ガストクラ

ーケ』！！！」手札2-1

【イビリチュア・ガストクラーク 6 水/水 ATK/240
0 DEF/1000】

綾香「『イビリチュア・ガストクラーク』のモンスター効果！相手の手札をランダムに2枚まで確認し、その中から1枚をデッキに戻す！

さあ、あなたの『ヴォルカニック・バレット』を戻しなさい
！」

ゴ「…無意味なことを」手札1-0 デッキ31-32

綾香（そうかもしれないけど…、嫌がらせよ、それに手札に加えるにも一応LP500必要だからね…）

綾香「さあ、バトルよ！『イビリチュア・ソウルオーガ』で『ヴォルカニック・エッジ』に攻撃！ 邪悪激流葬！！！」

ソウルオーガ ATK2800 VS エッジ ATK1800

ゴ「ぐっ…！！」LP6600-5600

綾香「『イビリチュア・ガストクラーク』でダイレクトアタック！

邪悪粉碎術！！！」

ゴ「リバーズカード、『ファイヤー・ウォール』！相手の攻撃宣言時、自分の墓地の炎族モンスターをゲームから除外し、そのモンスターの攻撃を無効にする。

俺は墓地の『ヴォルカニック・エッジ』をゲームから除外、ダイレクトアタックを無効にする」

綾香「くっ…、『リチュア・アビス』で攻撃！ 流水津波！」

ゴ「墓地の『ヴォルカニック・ロケット』を除外、戦闘を無効にする」

綾香「ダメージを通せなかったか…。

メインフェイズ2に永続魔法『強欲なカケラ』発動！このカードの効果で私は通常のドロウをするたびにこのカードに強欲カウンターを置き、2個以上の強欲カウンターが乗ったカードを墓地へ送ることでデッキからカードを2枚ドロウすることができるわ！

私はこのカードを発動して、ターンエンド！」

5ターン目

綾香LP6400 手札0 デッキ29 ソウルオーガ(A) ガ
ストクラーケ(A) アビス(A) カケラ(0)
ゴLP5600 手札0 デッキ32 トライデント 悪夢 ウォ
ール セット

ゴ「俺のターン！」手札0 - 1 デッキ32 - 31

綾香（手札は1枚…、相手もコンボが完成しているけど、この状況なら私のほうが有利…！）

ゴ「『ファイヤー・ウォール』の維持コストとして、LPを500
支払う」LP5600-5100

綾香（…残してきたわね、まあ、当たり前かもしれないけど…）

ゴ「リバーズカードオープン、『凡人の施し』！」

綾香「くっ！ここでドロー加速をするなんて…！」

ゴ「デッキからカードを2枚ドローし、その後手札の通常モンスター1体をゲームから除外する。

俺は2枚をドローし、手札の『ヴォルカニク・ラット』をゲームから除外する」手札1-3-2 デッキ31-29

綾香（くっ…、炎族モンスターを引き当てられたかな…！）

ゴ「『ブレイズ・キャノン・トライデント』の効果発動、『ヴォルカニク・バクシヨット』を墓地へ送り、『イビリチュア・ソウルオーガ』を破壊する」手札2-1

綾香「…！」

ゴ「ファイヤー！」

やはり情けない掛け声と共に、『ヴォルカニク・バクシヨット』が発射され、『イビリチュア・ソウルオーガ』を破壊する。

綾香「…っ、うあああああ！」LP6400-5900-5600
ゴ「『ヴォルカニク・バクシヨット』は墓地へ送られたとき相手に500のダメージを与えるが、『ブレイズ・キャノン』と名のついたカードの効果で墓地へ送られたとき、隠された効果を発揮する」

綾香「…隠された…効果…？」

ゴ「デッキに存在する2体の『ヴォルカニク・バクシヨット』を墓地へ送り、相手フィールド上のモンスターをすべて破壊する」
綾香「なっ…！」

デッキから2枚の『ヴォルカニック・バックショット』を墓地へ送るゴースト。

ゴ デッキ29 - 27

ゴ「やれ！『ヴォルカニック・バックショット』！相手モンスターをすべて破壊しろ！」

再び『ヴォルカニック・バックショット』2体が球として『ブレイズ・キャノン・トライデント』に装着され、発射される。

綾香「きゃあああああああああつ！」LP5600 - 5100

- 4600

ゴ「『ヴォルカニック・バックショット』の効果ダメージで『悪夢の拷問部屋』の効果発動、さらに600の追加ダメージを受ける！」

綾香「うぐっ…うあ…あつ…」LP4600 - 4300 - 4000

連続の効果ダメージに思わず膝をつく綾香。

だが、ゴーストは容赦なく攻撃を続けていく。

ゴ「『ヴォルカニック・エッジ』召喚、この効果で攻撃を放棄し、相手に500ポイントのダメージを与える。

当然、効果ダメージなので『悪夢の拷問部屋』の追加ダメージ

300の受けてもらう」手札1 - 0

綾香「あ…あああ…うああつ…」LP4000 - 3500 - 3200

ゴ「ターンエンド」

6ターン目

綾香 LP3200 手札0 デッキ29 カケラ(0)
ゴLP5100 手札0 デッキ27 エッジ(A) トライデン
ト 悪夢 ウォール

綾香「…うつ…」

ゴ「立て、俺が受けた命は、敵をデュエルで抹殺しろ、という命。逃げるのは勿論、サレンダーも許さん」

綾香「…誰が…、サレンダーなんて…！」

私の…ターン…っ！

通常のドローをしたため、『強欲なカケラ』に強欲カウンターを置くわ…！」手札0 - 1 デッキ29 - 28 カケラ0 - 1

綾香（…この状況で…！まだ…、戦える…！）

綾香「墓地の『リチュアの儀水鏡』の効果発動！このカードをデッキに戻し、墓地の『イビリチュア・ソウルオーガ』を手札に戻す！」手札1 - 2 デッキ28 - 29

ゴ「…また、そのカードか」

綾香「飽きると思うけど、我慢しなさいよね！もう1枚の『リチュアの儀水鏡』の効果で『イビリチュア・ガストクラーケ』を手札に戻すわ！」手札2 - 3 デッキ29 - 30

ゴ「ふん、儀式魔法が手札にあるとでも言うのか？」

綾香「…無いわよ…。」

でも…、『強欲なウツボ』を…発動！」手札3 - 2

ゴ「…くっ…、一気に手札を入れ替えるか…！」

綾香「『強欲なウツボ』の効果で手札の水属性モンスター2体をデ

ツキに戻し、シャッフル後、3枚をドロ―する！」手札2 - 0 - 3
デッキ30 - 32 - 29

綾香（…この手札なら…！）

綾香「…私は…『メタモルポット』を通常召喚するわ！」手札3 - 2
ゴ「な…『メタモルポット』だと！？まるで意味わからんぞ！」

綾香「あんたに解られなくても結構！」

手札より儀式魔法『リチュアに伝わりし禁断の秘術』を発動
！「手札2 - 1

ゴ「…今までの儀式魔法と違うだと…？」

綾香「禁断に秘術の代償は儀式召喚したモンスターは攻撃力が半分
になり、そしてこのターンバトルフェイズを行えないわ。」

「だけど、この秘術により、儀式の供物をあんたの場からも選
択できる！」

ゴ「何！俺の場のモンスターを儀式召喚のための生け贄にするだと
！」

綾香「行くわよ！『リチュアに伝わりし禁断の秘術』の効果で『メ
タモルポット』と『ヴォルカニック・エッジ』をリリースする！」

【メタモルポット 2】+【ヴォルカニック・エッジ 4】
6 〓

綾香「リチュアの魔術師、邪悪の儀式により醜き姿に変えられた恨
みを力に変え、敵のすべてを奪え！ 降臨せよ！『イビリチ
ユア・マインドオーガス』！」手札1 - 0

【イビリチュア・マインドオーガス 6 水/水 ATK/25
00 - 1250 DEF/2000】

綾香「『イビリチユア・マインドオーガス』は儀式召喚に成功したとき、互いの墓地から5枚のカードを選択し、デッキに戻す！」
ゴ「何だと!？」

綾香「私のはあなたの墓地の『ヴォルカニック・バレット』『ヴォルカニック・エッジ』そして、『ヴォルカニック・バックシヨット』3体をデッキに戻す！」

ゴ「くつ…! 『ファイヤー・ウォール』のコストが…!」デッキ2
7 - 3 2

綾香「これで私はターンエンドよ!」

7ターン目

綾香LP3200 手札0 デッキ29 マインドオーガス(D)
カケラ(1)

ゴLP5100 手札0 デッキ32 トライデント 悪夢 ウォール

ゴ「くつ…、俺のターン!」手札0 - 1 デッキ32 - 3 1

ゴ「…Mission Complete」

綾香「え…?」

ゴ「スタンバイフェイズ、『ファイヤー・ウォール』のコストを払わず、このカードを破壊する」

綾香「自ら、『ファイヤー・ウォール』を破壊した…？」

ゴ「…俺は場の『ブレイズ・キャノン・トライデント』を墓地へ送り手札のモンスターを特殊召喚する！」

綾香「な…、まさかつ！」

ゴ「すべてを焼き尽くす魔人よ、ブレイズ・キャノンに封じ込められた力を開放し、敗北という名の地獄を見せよ！
現れる！」

ヴォルカニック・デビル『！！！！』手札1-0

【ヴォルカニック・デビル 8 炎/炎 ATK/3000 D
EF/1800】

綾香「嘘…っ！ここで、攻撃力3000のモンスター…！」

綾香（…まずい、【リチュア】は上級モンスターの攻撃力が低いのが弱点…！

アレを対処するには相手のカードをデッキに戻すことができる『イビリチュア・ソウルオーガ』のみ…。

だけど、私の手札は0…、しかも墓地には『イビリチュア・ソウルオーガ』は勿論、儀式モンスターを回収できる『リチュアの儀式鏡』すら無い…。

…攻撃で倒せる可能性はあるけど、正直今のハンドアドじゃ…）

ゴ「バトル！『ヴォルカニック・デビル』
ヴォルカニック・キャノン！！！！」

綾香（…このままじゃ…、負ける…っ！）

デビルATK3000 VS マインドオーガスDEF2000

綾香「っ…！」

ゴ「ターンエンドだ」

8ターン目

綾香LP3200 手札0 デッキ29 カケラ(1)

GLP5100 手札0 デッキ31 デビル(A) 悪夢

綾香「私のターン！」手札0 - 1 デッキ29 - 28

綾香「私が通常のドローを行ったので、『強欲なカケラ』に強欲力ウンターを乗せる！」カケラ1 - 2

綾香「そして、2つの強欲カウンターが乗ったこのカードを墓地へ送り、さらに2枚をドロー！」手札1 - 3 デッキ28 - 26

綾香「…この状況を打破できる可能性が…、このターンさえしければ…」

綾香「…モンスターをセットして、ターンエンドよ」

9ターン目

綾香LP3200 手札2 デッキ26 裏守

ゴLP5100 手札0 デッキ31 デビル(A) 悪夢

ゴ「俺のターン」手札0 - 1 デッキ31 - 30

ゴ「『ジャンク・アタック』発動、『ヴォルカニック・デビル』に
装備。

装備モンスターは相手のモンスターを戦闘で破壊し、墓地へ送
ったとき、破壊したモンスターの元々の攻撃力の半分のダメージを
相手に与える」手札1 - 0

綾香「…とことんダメージにこだわるのね…」

ゴ「バトル！『ヴォルカニック・デビル』でセットモンスターに攻
撃！ ヴォルカニック・キャノン！！」

デビル ATK3000 VS エリアル DEF1800

綾香「『リチュア・エリアル』のリバース効果で、『ヴィジョン・
リチュア』を手札に加えるわ！」手札2 - 3 デッキ26 - 25

ゴ「『ジャンク・アタック』の効果、破壊した『リチュア・エリ
アル』は攻撃力1000、よってその半分の500のダメージを与
える」

綾香「くっ…、うわあああああ！」LP3200 - 2700

ゴ「『悪夢の拷問部屋』の効果、300のダメージだ」

綾香「う…うぐああ…っ」LP2700 - 2400

ゴ「…ターンエンドだ」

10ターン目

綾香 LP2400 手札3 デッキ25

GLP5100 手札0 デッキ30 デビル(A) + ジャンク
悪夢

綾香「…私のターン…」手札3 - 4 デッキ25 - 24

綾香(…この手札なら…!あのモンスターを倒すことが…)

綾香「手札より『貪欲な壺』を発動!デッキより『リチュア・ピースト』『リチュア・アビス』『イビリチュア・マインドオーガス』『シャドウ・リチュア』『ヴィジョン・リチュア』の5体をデッキに戻し、2枚をドロー!」手札4 - 5 デッキ24 - 29 - 27
ゴ「…手札補充か」

綾香「さつき手札に加えた『ヴィジョン・リチュア』を捨て効果発動!デッキより【リチュア】と名のついた儀式モンスター1体を手札に加える!」イビリチュア・テトラオーグル』を手札に加える!」
デッキ27 - 26

ゴ「だが、儀式モンスター程度で『ヴォルカニック・デビル』の攻撃力3000を超えられるとは思えんな」

綾香「…手札より『リチュアの儀水鏡』発動するわ!手札の『イビリチュア・マインドオーガス』をリリースをする!」手札5 - 3

【イビリチュア・マインドオーガス 6】 6

綾香「儀式の呪いで姿形を失いし魔女よ!観測者^{ヴァイロン}と邪悪^{イビリチュア}の力を示せ!
君臨せよ!」イビリチュア・テトラオーグル』!」手札3 - 2

【イビリチュア・テトラオーグル 6 水/水 ATK/260
0 DEF/2100】

綾香「まだよ！『リチュア・ビースト』を通常召喚し、効果により、墓地より『リチュア・エリアル』を守備表示で特殊召喚！」

【リチュア・ビースト 4 水/獣 ATK/1500 DEF/1300】

【リチュア・エリアル 4 水/魔法使い ATK/1000 DEF/1800】

綾香「そして、レベル4の『リチュア・エリアル』と『リチュア・ビースト』をオーバーレイ！」

【リチュア・ビースト 4】+【リチュア・エリアル 4】
ランク4

綾香「美しき人魚の幽霊よ！邪悪なる力を使い、この海域に嵐を巻き起こせ！ エクシーズ召喚！ 制圧せよ！『イビリチュア・メロウガイスト』！！」

【イビリチュア・メロウガイスト ランク4 水/水 ATK/2100 DEF/1600】

ゴ「…攻撃力2600と2100、しかも片方はエクシーズモンスター…」。

だが、この状況では攻撃力3000の『ヴォルカニック・デビル』の敵じゃない」

綾香「そうね、だけど私の手札は後1枚残っている」

ゴ「…、その1枚で逆転できるとでも…？そんな奇跡があると思っ
て…」

綾香「…私はこんな場所で負けるわけにはいかないのよ。そのためなら、奇跡でも何でも無理やり起こしてやるわ！」

手札より『リチュアル・ウェポン』を発動!!」手札1 - 0
ゴ「装備魔法だど!?!」

綾香「『リチュアル・ウェポン』はレベル6以下の儀式モンスターに装備し、その攻撃力を1500ポイントアップさせる!」

ゴ「なんだと!?!」

【イビリチュア・テトラオーグル 6 水/水 ATK/260
0 - 4100 DEF/2100】

ゴ「攻撃力…4100だと!?!」

綾香「バトルよ!」イビリチュア・テトラオーグル』で『ヴォルカニック・デビル』に攻撃! 邪悪閃光波!!!」

テトラATK4100 VS デビルATK3000

ゴ「ぐつ…、『ヴォルカニック・デビル』が倒されるとは…!」LP5100 - 4000

綾香「『イビリチュア・メロウガイスト』でダイレクトアタック!

邪悪槍鋭断!!!」

メロウATK2100 VS 直接

ゴ「ぐわあああああ!」LP4000 - 1900

綾香「形勢逆転よ!ターンエンド!」

11ターン目

綾香LP2400 手札0 デッキ26 テトラ(A:4100)

+リチュアル メロウ(A:2100) 素材2

GLP1900 手札0 デッキ30 悪夢

ゴ「く…、俺のターン…！」手札0 - 1 デッキ30 - 29

ゴ(…今は守勢に入るしか生き延びる方法はないな…)

ゴ「カードを1枚セットして、ターンエンド」

12ターン目

綾香LP2400 手札0 デッキ26 テトラ(A:4100)

+リチュアル メロウ(A:2100) 素材2

GLP1900 手札0 デッキ29 セット 悪夢

綾香「私のターン！」手札0 - 1 デッキ26 - 25

綾香「何を仕掛けているかわからないけど、これで終わりよ！

『リチュア・エミリア』召喚！手札1 - 0

【リチュア・エミリア 水/魔法使い スピリット ATK/16
00 DEF/800】

ゴ「…スピリットモンスターか」

綾香「『リチュア・エミリア』は召喚したときに他の【リチュア】が存在していれば、このターンの罠カードの効果が無効にするわ！これであんたの伏せカードは無意味よ！」

ゴ「何だと!？」

綾香「これで終わりよ!『イビリチュア・テトラオーグル』でダイレクトアタック! 邪悪閃光波!!!」

テトラATK4100 VS 直接

ゴ「…Mission failure…」LP1900-0

綾香「…ふう…、疲れた…」

勝負が終わり、安堵の声を出す綾香。

ゴーストはいつものごとく倒れたまま動かない。

綾香「…かなり疲れたわ、少しゆっくり行こうかな…」

そう言って、再び歩き出す綾香であった。

綾香（…しかし、さっきのゴースト、明らかに違った…。

何だったんだろう、本当に疑問だわ…）

第23話 E N D

第23話 古のデュエリスト（後書き）

元キン「さあ！次の予告だ！」

満足「…投稿が遅いのは満足できねえぜ…」

レベルステイラー「スイマセン」

元キン「ええい！どうせ、著者は遅いままだ！そんなことイチイチ謝るのは時間の無駄だ！」

アブソリュート・パワーアアアフオオオオス！！！！」

レベルステイラー「2400の戦闘ダメージだな…」

満足「…早くするぞ、読者が満足できないだろうが」

元キン「おおう、そうだったな」

満足「次回、遊戯王第24話『守護神兄弟』」

元キン「龍亞と龍可に立ちふさがるのは、あの兄弟！兄弟の絆を競う戦いが始まる！」

満足「キーカードはなんと…、『ゲート・ガーディアン』だ。いかにあのモンスターの召喚をするか…、その方法を見て満足できるかわからないが…、楽しみにしていてくれ」

おまけ

幽「…なんだ、このコーナーは？」

レ「うんね、最近小説を読んでいると思うのがオリカについてなんだよね」

幽「で？」

レ「この小説では、オリカでないじゃん？」

幽「…『オリシスの天空竜』除くがな…」

レ「そこで、なんとなく著者はオリカ紹介を考えたんだそうな」

幽「やりたいだけだろ」

レ「その何が悪い！というわけで、オリカ第1弾！キングも喜ぶ

カードの登場だ！」
幽「…(汗)」

《ビック・リゾネーター》

ランク3 闇/悪魔 ATK/0 DEF/?

「リゾネーター」と名のついたレベル3チューナーモンスター×2
このモンスターの守備力はこのカードのエクシーズ素材×1000
となる。

このモンスターは自分のコントロールするカードの効果では破壊され
ない。

1ターンに一度、墓地の「リゾネーター」と名のついたチューナー
モンスター1体を選択して発動できる。

選択したモンスターをこのカードのエクシーズ素材としてこのカー
ドに重ねることができる。

1ターンに一度、このカードのエクシーズ素材を1枚選択して発動
できる。

選択したエクシーズ素材を自分又は相手フィールド上に表側守備表
示で特殊召喚できる。

はい、キング御用達【リゾネーター】のエクシーズです。

【リゾネーター】にはレベル3が多く、破壊耐性「ダーク・リゾネ
ーター」、「クロック・リゾネーター」、多少だが強化できる「フレ
ア・リゾネーター」、特殊召喚できる「クリエイト・リゾネーター」
が居るので、ぜひともランク3を！と思って、考えたモンスターで
した。

守備力は2000当たり固定でもよかったです、自身のエクシ
ーズ素材を増やす効果を持っているので守備力も変動するようにし
ました。

破壊耐性はシグナーの龍で味方にまで被害を及ぼす『レッド・デーモンズ・ドラゴン』、『ブラック・ローズ・ドラゴン』、特にレモンの効果耐性の意味を込めて追加。
優秀だけど相手の破壊耐性にないため、『地割れ』で即死です。
そして、自身の効果でエクシーズ素材を増やすことができる効果を持ちます。

この効果でレベル1『バリア・リゾネーター』及びレベル2『フォース・リゾネーター』も素材とすることはできません。
そして、1ターンに一度、チューナーを特殊召喚出来る効果を持つ。これで実質、墓地の【リゾネーター】を特殊召喚出来る効果を持っています。

また、『破壊神の系譜』と『レッド・デーモンズ・ドラゴン』のコンボの手助け？も可能で、相手フィールド上に特殊召喚して、破壊系譜 追加攻撃も可能。

他にも『ニトロ・ウオリアー』とのコンボも可能です。
シンクロ、エクシーズ、リリース、壁、と不器用ながら何でもできます。

だけど、耐性が薄いので、そこまで強くないかも。
ぶっちゃけ、ネタのつもりです。

オリカ第1弾でした、最後まで読んでいただき、ありがとうございました。
ました。

…因みに小説には出ません。

第24話 守護神兄弟（前書き）

みんな、大好き！

【ゲート・ガーディアン】の登場です。

ロマンデッキの素晴らしさをぜひとも見てください。

現状

幽・亮・隼人・実・望・龍亞・龍可 進行中

天保・クロウ ゴーストと戦闘中

綾香 ゴースト（オブライエン）と戦闘中

遊星 囿として進行中

第24話 守護神兄弟

綾香がゴーストと対峙する少し前

狭い道を抜け、少し広くなった通路を龍亞と龍可は二人で歩いていった。

龍亞「あーあ、何にも出ないよなー」

龍可「別にいいでしょ。何もなければ」

龍亞「そうだけどさー」

グチグチ言う龍亞。

男の子は静かなのが嫌いなのかな？

(遊星がこつちを見たような気がした)

龍可「…ん？」

龍亞「どうしたの？龍可？」

龍可「龍亞、あれ…、デュエル場じゃない？」

龍可が見るその先には、広い部屋にデュエル場があった。
しかも、かなりの旧型。

龍可「…たしか、あれは本当にずっと前、何かの大会で使われたものだと思うわ」

龍亞「ふーん」

龍亞「で、なんでそんなものがここに？」

龍可「うーん、デュエルするためだと思っけど…。」

当たり前である。

二人が目の前に現れた妙なデュエル場にうーん、と頭を抱えていると、

急に後方からハモった声が聞こえた。

？「フハハハハハハハハハハハハハハハハ！」

ならば我らが教えてやるうーん！「！」

龍亞「え？」

龍可「なっ…何!？」

すると二人の横をバック転しながら通る二つの影…もといゴースト。あれ？ゴーストってこんなに運動神経良いっけ？というのはスルー！。

空中で高速10回転という人間では不可能な技をして（もっともゴーストは人間ではないが）、着地するゴースト。

その後の行動はいちいち行動に突っ込むのが面倒なため、省略します。

見たい人は「遊戯王DM 第19話」で検索してみてください。

迷・宮「「我ら、地下ダンジョンの番人。

迷宮兄弟！！！！」

（迷：迷宮兄弟兄・燈の服 宮：迷宮兄弟弟・緑の服）

龍亞「……………」

龍可「…えーっと…」

思いつきり引いている。

迷「おやおや、この地下迷宮に迷い人とは珍しい」

宮「いやいや、迷い人なくば、迷宮に非ず」

迷「迷い人達よ！我にどうか正しき道を！」

宮「正しき道を！」

迷「ならば！！」

宮「その答え！」

迷・宮「「デュエルに勝利して得よ！！！！」

おい、ちょっと待て。

DMの栄光を語りたいたいのわかるが、ここは地下迷宮じゃない。

迷・宮「「ぬううううなにいいいい！！！！！！」

はい、黙れ。

迷「気を取りなおして…

あの扉のどちらかは正しき道に」

だ・か・ら、道一つだけだろうが、馬鹿共。

そもそも、俺の作者特権であの旧型デュエルフィールドを設置して
やっただけマシだと思え、このハゲ兄弟が。

迷「…なお、このデュエル2対2の変則マッチとする」

宮「デュエリスト2名、前に出よ」

中々の精神力だ、流石というべきか？

…他の連中はまだ静かだったが、こいつらだけは本当に面倒だ…。

龍亞「…2名と言つても」

龍可「…私たちしかないし…」

迷宮兄弟は既にデュエル場に居るため龍亞と龍可がそれぞれ、デュエル場につく。

デュエルディスクからデッキを外し、デッキをフィールドにセットする。

迷「フッフ、貴様らも双子か」

宮「面白い！ならば、我らが兄弟と」

迷「どちらのチームワークが上か」

宮「勝負！」

龍亞・龍可・迷・宮「「「デュエル!!!」」」

ターンプレイヤーには をつけます。

ターンは迷 龍亞 宮 龍可で1サイクルとします。

…因みに迷宮がウンタラとか、変な設定はありません。

00 迷 手札5 デッキ35 宮 手札5 デッキ35 LP80

8000 龍亞 手札5 デッキ35 龍可 手札5 デッキ35 LP

迷「私の先攻!ドロー!」手札5 - 6 デッキ35 - 34

迷「私はモンスターをセットし、カードを1枚セット。
ターンエンドだ」

1ターン目

00 迷 手札4 デッキ34 宮 手札5 デッキ35 LP80

裏守 セット

8000 龍亞 手札5 デッキ35 龍可 手札5 デッキ35 LP

龍亞「行くぜ！俺のターン、ドロー！」手札5・6 デッキ35・34

龍亞「俺は『D・ボードン』を召喚するぜ！」手札6・5

【D・ボードン 3 地/機械 ATK/500 DEF/1800】

龍亞「俺の【D】は表示形式で効果が変わるんだ！

『D・ボードン』は攻撃表示の時、俺の場の【D】はダイレクトアタックできる！

よって、ダイレクトアタックだ！ ローラー・タックル

！」

ボードンATK500 VS 直接

迷「ぐおおっ！」LP8000・7500

宮「くっ…、まだデュエルは始まったばかりだ！この程度のダメーシでいい気になるな！」

龍亞「…良い気にはなっていないけど…。

俺はカードを1枚セットして、ターンエンドだ！」

2ターン目

迷 手札4 デッキ34 宮 手札5 デッキ35 LP8000

裏守 セット

龍亞 手札4 デッキ34 龍可 手札5 デッキ35 LP
8000

ボードン(A) セット

宮「私のターン！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

宮「兄よ！力を借りるぞ！」

迷「おうよ！弟よ！」

宮「我は『ライトロード・ハンター ライコウ』を反転召喚する！

このモンスターのリバース効果は、場のカードを1枚、破壊することができ、その後デッキの上から3枚のカードを墓地へ送る！

『D・ボードン』を破壊し、我はデッキの上から3枚のカードを墓地へ送る！」デッキ34 - 31

【ライトロード・ハンター ライコウ 2 光/獣 ATK/200 DEF/100】

龍亞「っ…！【ライトロード】のモンスターかよ！」

龍亞（しかも、セットカードは『ディフォーム』…。俺の場に【D】が居なければ使えない…！）

宮「そして我は『創世者の化身』を通常召喚！」手札6 - 5

【創世者の化身 4 光/戦士 ATK/1600 DEF/1500】

宮「『創世者の化身』の効果！このカードを生け贄に捧げ、手札の『サ・クリエーター創世者』を特殊召喚する！現れる！『創世者』！！」手札5 - 4

【創世者 8 光/雷 ATK/2300 DEF/3000】

龍亞「こ…攻撃力2300!?!」

龍可「でも…、なんで守備表示なの?」

迷「フッフ、これは我らが神」

宮「『ゲート・ガーディアン』を呼ぶための踏み台にすぎぬ」

迷「我らが神の召喚を確実にするには、2300程度のダメージに目を眩ます壁として展開するのが当たり前」

宮「さあ!我らが神の力の欠片を見せてやろう!我は『創世者』の効果を発動する!

手札を1枚捨て、墓地のモンスター1体を選択!我が選択するのは…『雷魔神 サンガ』!」手札4-3

龍亞「な…!そんなモンスターいつ墓地へ送ったんだ!」

龍可「…くつ、『ライトロード・ハンター ライコウ』ね…」

宮「行くぞ!『創世者』の効果で選択した『雷魔神 サンガ』を場に特殊召喚する!」

迷「出ですよ!『雷魔神 サンガ』!」

【雷魔神 サンガ 7 光/雷 ATK/2600 DEF/2200】

宮「行け!『雷魔神 サンガ』!哀れな迷い人に裁きの雷を与えよ

! 雷衝弾!」

サンガATK2600 VS 直接

龍亞「うわあああああああ!」LP8000-5400

龍可「龍亞ーっ!」

宮「そして『ライトロード・ハンター ライコウ』の攻撃！
咆哮！」

ライコウ ATK 200 VS 直接

龍亞「っ…」 LP 5400 - 5200

宮「そして我は兄が伏せたカード、『生け贄人形』を発動。我の場の『ライトロード・ハンター ライコウ』を生け贄に手札のレベル7のモンスターを特殊召喚する！」

龍亞「ま…まさか…！」

迷「その通り、我らの神の分身のレベルはすべて7！」

宮「出ですよ！ 『風魔神 ヒューガ』！！」手札3 - 2

龍可「1ターンで上級モンスターが3体…！」

龍亞「ごっ…ごめん…、龍可…！」

龍可「仕方ないわ、龍亞のせいじゃないわ」

龍亞「…ありがとう」

宮「ほう…、この状況で諦めないか。

我のターンは終了だ」

3ターン目

迷 手札4 デッキ34 宮 手札2 デッキ31 LP80

00

サンガ(A) ヒューガ(A) 創世者(D)

龍亞 手札4 デッキ34 龍可 手札5 デッキ35 LP

5200

セツト

龍可「行くわよ！私のターン！」手札5-6 デッキ35-34

龍可（…なるほど、前のターンに龍亞は『デイフォーム』があるから『D・ボードン』で攻撃したのね…。

それを簡単に対策されてしまった…、流石に強いわね）

龍可「私は『サンライト・ユニコーン』を召喚！このモンスターは1ターンに一度、デッキの一番上のカードを確認し、そのカードが装備カードの場合は手札に加え、それ以外のカードはデッキの一番下へ戻すわ！」手札6-5

【サンライト・ユニコーン 4 光/獣 ATK/1800 D
EF/1000】

デッキトップを確認し、顔をしかめる龍可。

龍可「私のデッキの一番上のカードは『死者蘇生』よ。よってデッキの一番下に戻すわ…」

龍可（…装備魔法で対処できなかったか…、ならこの状況で戦線を維持する方法は…）

龍可「『二重召喚』発動！このターン私は2回目の通常召喚が可能になるわ！

そして、『二重召喚』にチェーンして『非常食』を発動！」

手札5-3

迷「ぬわにいいい！？」

宮「お主…、やるようだな！」

いちいちリアクションがでかい迷宫兄弟だった。

龍可「『非常食』の効果で『二重召喚』とセットカード…『デイフ
オーム』の2枚を墓地へ送り、1枚につき1000のLPを回復す
るわ！」LP5200-7200

龍可「そして、『二重召喚』の効果で『カオスエンドマスター』を
通常召喚！」手札3-2

【カオスエンドマスター 3 光/戦士 ATK/1500 D
EF/1000】

龍可「レベル4『サンライト・ユニコーン』にレベル3『カオスエ
ンドマスター』をチューニング！」

迷「くっ、貴様！シンクロ召喚を行うつもりか！」

宮「容易くシンクロ召喚を許してしまったか！」

【サンライト・ユニコーン 4】+【カオスエンドマスター
3】=7

龍可「聖なる守護の光、今交わりて永久の命となる！シンクロ召喚
！ 降誕せよ！『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』！
！」

【エンシエント・フェアリー・ドラゴン 7 光/ドラゴン A
TK/2100 DEF/3000】

龍亞「やった！『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』の守備力は3000だからこの状況なら戦闘では破壊されないぜ！」

龍可（でも…、『ゲート・ガーディアン』が出てくると『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』さえ意味をなさない…）

龍可「龍亞、後は任せたわよ！私はこれでターンエンド！」

4ターン目

迷 手札4 デッキ34 宮 手札2 デッキ31 LP80

00

サンガ（A） ヒューガ（A） 創世者（D）

龍亞 手札4 デッキ34 龍可 手札2 デッキ34 LP

7200

フェアリー（D）

迷「私のターン！」手札4 - 5 デッキ34 - 33

迷「私はカードを2枚セットしてターンを終了する。

任せたぞ、弟よ

宮「わかったぞ、兄よ」

5ターン目

迷 手札3 デッキ33 宮 手札2 デッキ31 LP80

00

サンガ(A) ヒューガ(A) 創世者(D) セット2
龍亞 手札4 デッキ34 龍可 手札2 デッキ34 LP
7200
フェアリー(D)

龍亞「行くぜ！俺のターンだ！」手札4 - 5 デッキ34 - 33

龍亞「来い！『D・スコープン』！」

攻撃表示の『D・スコープン』は1ターンに一度、手札のレベル4の【D】1体を特殊召喚できる！

俺は手札より『D・ビデオン』を特殊召喚する！」手札5 - 4 - 3

【D・スコープン 3 光/機械 チューナー ATK/800
DEF/1400】

【D・ビデオン 4 光/機械 ATK/1000 DEF/1
000】

迷「ぬうううなあああにいいいい！！！」

宮「再びシンクロ召喚を行うというのかあああ！！！」

…「いっつらつぜえ…」

龍亞「レベル4『D・ビデオン』にレベル3『D・スコープン』を
チューニング！！！」

【D・ビデオン 4】+【D・スコープン 3】= 7

龍亞「世界の平和を守るため、勇気と力をドッキング！シンクロ召

喚！ 愛と正義の使者、『パワー・ツール・ドラゴン』！！」

【パワー・ツール・ドラゴン 7 地/機械 ATK/2300
DEF/2500】

龍亞「『パワー・ツール・ドラゴン』のモンスター効果！ パワー・サーチ！！

1ターンに一度、デッキから3枚の装備魔法を選択し、相手がランダムに1枚選択し、そのカードを手札に加え、それ以外の2枚をデッキに戻す！

俺はデッキより『魔道師の力』『団結の力』2枚を選択する！！」

宮「くっ…、兄…」

迷「わかっておる…、我は真ん中のカードを選ぶ！」

龍亞「…じゃあそれ以外のカードはデッキに戻すよ」手札3 - 4
デッキ333 - 32

龍亞「俺はカードを1枚セットし、『魔道師の力』と『メテオ・ストライク』を『パワー・ツール・ドラゴン』に装備！

『魔道師の力』は俺の場の魔法・罠カードの枚数×500ポイント、装備モンスターの攻撃力と守備力を上げる！

そして、『メテオ・ストライク』は装備モンスターに貫通効果を付与する！」手札4 - 1

【パワー・ツール・ドラゴン 7 地/機械 ATK/2300
- 3800 DEF/2500 - 4000】

迷「攻撃力3800だとおおおおおおう！！」

宮「くっ…、我らが神の化身の攻撃力を超えるだ！」

龍亞「バトルだ！『パワー・ツール・ドラゴン』で『雷魔神 サンガ』に」

龍可「龍亞！待って！」

龍亞「龍可！どうしたんだ！」

龍可「『雷魔神 サンガ』には攻撃しちゃいけないわ！なぜなら」

だが、助言する龍可に対し、迷宮兄弟が口をはさむ。

迷「タツグデュエルにおいて、助言は禁止事項！」

宮「それ以上の言葉は敗北を意味する！」

龍可「…っ…」

龍亞「…龍可…」

龍亞（…龍可はなんで攻撃するなって言っただろう…？）

『雷魔神 サンガ』に攻撃しちゃいけない理由…、多分モンスター効果だ。

リバーズカードは仮に攻撃反応系だとしても『パワー・ツール・ドラゴン』の効果で破壊を免れる…。

なら…、なんで攻撃しちゃいけないんだろう…？

龍可を見る龍亞。

その眼はやはり何かを訴えているようだった。

龍亞（…何も問題はなかったんだ）

龍亞「俺は『パワー・ツール・ドラゴン』で『創世者』を攻撃する！
クラフティ・ブレイク！！！！」

迷「何だと!？」

宮「くっ…、危険を予知して対象を変えてきたか…！」

パワーツール ATK 3800 VS 創世者 DEF 3000

迷「ぬうおああああ!」 LP 8000 - 7200

龍可「龍亞!」

龍亞「へへっ…、龍可が攻撃を躊躇したんだ、何かあるとは思っただぜ。

俺はこれでターンエンド!」

6ターン目

迷 手札3 デッキ33 宮 手札2 デッキ31 LP7200

サンガ(A) ヒューガ(A) セット2

龍亞 手札1 デッキ32 龍可 手札2 デッキ34 LP7200

パワーツール(A:3800) + 魔道師(+1500) + メテオ
フェアリー(D) セット

迷「くっ…」

宮「兄よ!あとは我に任せる!」

迷「わかった!任せるぞ!弟よ!」

宮「私のターン!」手札2 - 3 デッキ31 - 30

宮「我は兄が伏せた『手札抹殺』を発動！

互いに手札をすべて捨て、デッキから同じ枚数だけドロウする！」

龍亞（くっ…『D・ライトン』が…、次のターンの『ライフ・ストリ・ム・ドラゴン』のシンクロ召喚が封じられた…！）

宮 デッキ30 - 27 龍亞 デッキ32 - 31

宮「我は『死者蘇生』を発動する！先ほど『手札抹殺』で墓地へ捨てた『水魔神 スーガ』を特殊召喚する！」手札3 - 2

【水魔神 スーガ 7 水/水 ATK/2500 DEF/2400】

龍亞「なっ…！」

龍可「3体の…モンスターが揃った…！」

迷「弟よ！怯むでないぞ！」

宮「おう！」

その言葉で宮のほう（弟）が手札の1枚のカードを掲げる。

宮「雷・水・風の三魔神よ、今こそその力を合体させ復活の雄たけびを上げよ！」

迷「これが我ら兄弟の力だ！出でよ、守護神！」

迷・宮「『ゲート・ガーディアン』……!」手札2 - 1

【ゲート・ガーディアン 11 闇/戦士 ATK/3750
DEF/3400】

龍亞「攻撃力…3750…!」

龍可「だけど…、龍亞の『パワー・ツール・ドラゴン』のほうが攻撃力は高いわ!」

迷「ハツハツハツ、残念だったな!」

宮「お主らが迷宮を抜ける前に!」

迷「最強の門番、『ゲート・ガーディアン』を召喚することができ
たわ!」

宮「お主らは門に辿り着くことなく!」

迷「合体魔人に!」

迷・宮「『葬り去られるさだめ!』!」

まあ、迷宮じゃないけど、折角の決めシーンだし、口は出さないで
おじつ。

龍亞「いちいちハモってる…」

龍可「うん…、流石に（別に意味で）圧巻ね…」

（内を心の中で言う龍可。

まあ、苦勞して出して『パワー・ツール・ドラゴン』より攻撃力が
低いんじゃないあ…。

迷「弟よ! 奴らに我らの合体の力を見せつけてやるのだ!」

宮「わかったぞ! 兄よ!」

我は『ゲート・ガーディアン』で『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』を攻撃するー!!」

迷・宮「『魔神衝撃波!!!』」

いちいちハモるな、うざいから。

ガーディアン ATK 3750 VS フェアリー DEF 3000

龍可「『エンシエント・フェアリー・ドラゴン』が!」

宮「ハッハッハッ! 貴様らに勝機はない!

カードを1枚セットして、ターンエンドだ!」

7ターン目

迷 手札3 デッキ33 宮 手札0 デッキ27 LP7200

ガーディアン(A) セット2

龍亞 手札1 デッキ32 龍可 手札2 デッキ34 LP7200

パワーツール(A:3800) + 魔道師(+1500) + メテオ
セット

龍可「私のターン!」手札2 - 3 デッキ34 - 33

龍可「『パワー・ツール・ドラゴン』の効果発動! パワー・

サーチ!」

その効果でデッキから3枚の装備魔法を選択するわ！」

デッキを見ようとすると、そこに宮(弟)が割って入る。

宮「それは不可能だ！永続トラップ『スキルドレイン』！！

1000LPを支払い、フィールド上で発動するモンスター効果を無効にする！」LP7200-6200

龍可「っ…！」

龍亞「げっ！『ゲート・ガーディアン』は召喚後にモンスター効果はないから無効にされないじゃん！

そんなの卑怯だぞ！」

迷「これが我らの！」

宮「守護神の力ぞ！」

龍可「私は手札より『一角獣のホーン』を発動！『パワー・ツール・ドラゴン』の攻撃力・守備力を700ポイントアップ！

そして『魔道師の力』の効果でさらに500ポイントアップ

させる！」手札3-2

【パワー・ツール・ドラゴン 7 地/機械 ATK/3800
-5000 DEF/4000-5200】

龍可「『パワー・ツール・ドラゴン』で『ゲート・ガーディアン』に攻撃！
クラフティ・ブレイク！」

宮「甘いわ！兄が伏せたトラップを発動する！『あまのじゃくの呪い』！」

龍可「…『あまのじゃくの呪い』…？」

【パワー・ツール・ドラゴン 7 地/機械 ATK/5000

- 2300 - 0 DEF / 5200 - 2500 - 0】

龍可「『パワー・ツール・ドラゴン』の攻撃力と守備力が0に！」
迷「『あまのじゃくの呪い』はこのターンの終了時まで攻撃力及び
守備力の増減を逆にする！」

宮「すなわち、装備魔法で攻撃力・守備力共に2700アップして
いた貴様らのモンスターは元の攻撃力・守備力から！」

迷「アップしていた数値、2700を！」

迷・宮「奪い、攻撃力と守備力を0にするのだ！ワッハッハッハ
ッハッ！！！」

D A M A R E !

宮「向かい打て！」

迷・宮「魔神衝撃波！！！」

パワー・ツール ATK0 VS ガーディアン ATK3750

龍可「嫌あああああああつ！！」 LP7200 - 3450

龍亞「龍可あああああ！！！」

倒れそうになる龍可を支えに行こうとデュエル場を離れ、龍可の元
へ向かおうとする龍亞。

迷「待て！このデュエルでは、デュエル場を離れた者は敗北とみな
す！」

宮「どちらかがそこを離れた時点で貴様らの敗北だ！」

龍亞「…っ！」

龍可「…龍亞…、私は…平気だから…」。

…『一角獣のホーン』が墓地へ送られたので…、その効果で
デッキの…一番上に戻る…」デッキ33 - 34
龍亞「っ…！デッキロツクが…」

龍可「…カードを1枚伏せて…、モンスターをセツト。

…ターンエンド…」

8ターン目

迷 手札3 デッキ33 宮 手札0 デッキ27 LP62
00

ガーディアン(A) スキドレ

龍亞 手札1 デッキ32 龍可 手札0 デッキ34 LP
3450

裏守 セツト2

迷「私のターンだ！」手札3 - 4 デッキ33 - 32

迷「我は手札の『フォース』をコストに『二重魔法』を発動する！

相手の墓地の魔法カード1枚を手札に加える！ 『メテオ・

ストライク』を戴く！」手札4 - 2 - 3

龍亞「貫通効果…！」

迷「『メテオ・ストライク』を『ゲート・ガーディアン』に装備し、
その攻撃に貫通効果を与える！

これで終わりだ！守備モンスターを消し飛ばせ！」手札3 - 2

迷・宮「魔神衝撃波!!!」
龍亞「やめろおおおおおお!!!」

龍可「っ!!!『ドレインシールド』!攻撃を無効にし、その攻撃力
分回復するわ!」LP3450-7200

迷「何だと!？」

宮「くっ、所詮延命処置に過ぎない!」

迷「我はカードを2枚セットしてターンエンド!」

9ターン目

迷 手札0 デッキ32 宮 手札0 デッキ27 LP62
00

ガーディアン(A)+メテオ スキドレ セット2

龍亞 手札1 デッキ32 龍可 手札0 デッキ34 LP

7200

裏守 セット

龍亞（次の龍可のドローは『一角獣のホーン』…。

ここで、俺が勝負を決めなきゃ…、負ける…！）

龍亞「俺の…ターン！！！」手札1 - 2 デッキ32 - 31

龍亞（…『ジャンク・アタック』。…遊星から貰ったカード…。

遊星、俺…、頑張るよ…！）

龍亞「まず、俺はセットカードの『大嵐』を発動し、魔法・罫カードをすべて破壊する！」

宮「何いい！！！」

迷「くっ…！『万能地雷グレイモア』と『闇の幻影』が…っ！」

龍亞「俺はカードを1枚セット！そして龍可がセットした『メタモルポット』を反転召喚！」

リバーズ効果で互いに手札をすべて捨て、デッキからカードを5枚ドローする！」

迷「くっ…！ここで手札補充か！」

【メタモルポット 2 地/岩石 ATK/700 DEF/600】

龍亞 手札1 - 5 デッキ31 - 26 迷 手札0 - 5 デッキ

龍亞「俺は『メタモルポット』をリリースし、『ガジェット・トレーラー』をアドバンス召喚!!」手札5 - 4

【ガジェット・トレーラー 6 地/機械 ATK/1300 DEF/0】

迷「攻撃力1300?」

宮「その程度では『ゲート・ガーディアン』を倒すことなど」

迷・宮「到底出来ぬ!!」

龍亞「いちいちハモリやがって!煩いんだよ!

『ガジェット・トレーラー』のモンスター効果!手札の【D】を任意の枚数墓地へ送り、1体につき攻撃力を800ポイントアップさせる!

俺は手札の『D・モバホン』と『D・リモコン』を墓地へ送り、『ガジェット・トレーラー』の攻撃力を1600ポイントアップさせる!」手札4 - 2

【ガジェット・トレーラー 6 地/機械 ATK/1300 - 2900 DEF/0】

龍亞「速攻魔法『百機夜工』!発動時、墓地の【D】すべてをゲムから除外!

そして、俺の場の機械族モンスター1体の攻撃力をエンドフェイズまで除外したモンスターの数の200倍だけアップさせる!

俺の墓地には『D・ボードン』『D・スコープン』『D・ビデオン』『D・モバホン』『D・リモコン』以外に『手札抹殺』で墓地へ送られた『D・ライトン』とさっきの『メタモルポット』で

墓地へ送られた『D・チャツカン』の合計7体が居た！

よって、場の機械族『ガジエツト・トレーラー』の攻撃力をさらに1400ポイントアップ！！」手札2-1

【ガジエツト・トレーラー 6 地/機械 ATK/2900 -
4300 DEF/0】

迷「何iiiiiiiiiiii！！！！」

宮「攻撃力4300だとおおおおお！！！！」

龍可「やった！これで『ゲート・ガーディアン』を倒せる！」

龍亞「そしてリバースカードオープン！『ジャンク・アタック』！
『ガジエツト・トレーラー』に装備する！

装備モンスターが戦闘で相手モンスターを破壊し墓地へ送ったとき、破壊したモンスターの元々の攻撃力の半分のダメージを相手に与える！」

迷「何iiiiiiiiiiii！！！！」（2回目）

宮「『ゲート・ガーディアン』の攻撃力は3750…、その半分ということとは…」

迷・宮「1825のダメージだとおおおおお！！！！」

龍亞「行くぞ！『ガジエツト・トレーラー』で『ゲート・ガーディアン』に攻撃！！」 ガジエツティング・キャノン！！！！

トレーラーATK4300 VS ガーディアンATK3750

迷「くっ…、まずいぞ、弟よ！！」

宮「問題ない、兄よ！」

我が次のターンで蘇生カードを引けば『ゲート・ガーディアン』を呼び戻せる！」

龍亞「次のターンなんて来ないさ!」リミッター解除! 発動!

機械族モンスターすべての攻撃力を2倍にする!

迷・宮「ぬうううううあにiiiiiiii! ! ! !」

【ガジェット・トレーラー 6 地/機械 ATK4300 - 8
600 DEF/0】

トレーラー ATK8600 VS ガーディアン ATK3750

迷・宮「ぬわあああああああ! ! ! !」LP6200 -
1350

龍亞「これで最後だ!」ジャンク・アタック! の効果発動! その効
果で1825のダメージを与える!

迷・宮「ぬわあああああああ! ! ! !」LP1350 - 0

全く同じタイミングで倒れる二人。

龍可「…龍亞」

龍亞「龍可！大丈夫!？」

倒れそうな龍可と支える龍亞。

龍可「平気よ。

それよりも、ありがとう。今回は私が足を引っ張っちゃった

ね

龍亞「そんなことないよ！お互い様だって！」

龍可「…ありがとう」

龍亞「ありがとう、はっきり言うなって！」

ほら！ゆっくり休憩して！休んだら行くよ!！」

そう言つと、（地べたに）龍可を座らせた。

龍可「ありがとう…」、龍亞「

第24話
E
N
D

第24話 守護神兄弟（後書き）

元キン「さあ、俺たちの仕事だ！」

鬼柳「…1回あたりいくらだ？」

元キン「3000円だ！！！！！」

レベルステイラー「高けえ…、いい仕事だな」

元キン「次回！遊戯王第25話！『サイバー流とサイコ流』！！」

鬼柳「因縁とも呼べる二つの流派の戦い…、満足されてくれる関係じゃねえか…」

レベルステイラー「次回のキーカードはサイコ流切り札の『人造人間 サイコ・ロード』です！お楽しみに！」

おまけ

元キン「残業手当は出るのか！」

レベルステイラー「知らん」

鬼柳「それじゃあ、満足できねえぜ…」

《鉄壁の守護神》

永続罨

このカードは自分フィールド上に元々の名前が『ゲート・ガーディアン』が存在するときのみ、発動できる。

このカードが表側表示で存在するとき、相手はバトルフェイズを行

うことができず、『ゲート・ガーディアン』は魔法・罾・モンスター効果を受けない。

はい、『ゲート・ガーディアン』が泣いて喜ぶ罾カードの登場です。ただ、『フロントム・オブ・カオス』でコピーなんてセコイ方法はさせません。

折角なので新しい表現を入れようと思い、『一族の結束』と同じ「元々の」 という表現を追加。

これで、『フロントム・オブ・カオス』でのコピーでは、意味を成しません。

ですが、一度発動できれば『ゲート・ガーディアン』はかなりの耐性を得ます。

もつとも『ゲート・ガーディアン』は『なので、これを直接除去してしまえば良い訳ですが。

現環境、『サイクロン』のサイバー流積み込み状態なので、破壊されるのは時間の問題。

カウンター罾でのパーミッション軸にすれば楽にはなりますが、そうなると『ゲート・ガーディアン』の召喚自体が困難。

まあ、ロマンカードですね。

因みに、『ゲート・ガーディアン』が居なくても、前半の効果である、攻撃宣言を封じる効果は適用されます。

理由として、『ゲート・ガーディアン』って3体のモンスターからできていて、1体破壊されても平気。ぶっちゃけ、居なくても平気という、超理論で、勝手に決めつけた。

少しでも…、という救済処置。

…まあ、このカードだけ、という状況は『王宮のお触れ』等で無効にして、その際に『ゲート・ガーディアン』を破壊する以外、方法はないんですが…。

ロマンカードのつもりだけど、どう考えても弱い。もう少し強くするべきだったかもしれない。

おまけとして発表。元々の効果は、『ゲート・ガーディアン』が居ないと効果適用されなかったが、ノーコストで『神の宣告』、『炸裂装甲』、『天罰』、を1ターンに3回(三魔神だし)まで発動できるというかなりのチートだった。

流石にこれではまずいだろうと思いい、弱体化したら弱くなりすぎた。まだまだ救済されない【ゲート・ガーディアン】でした。

追記：予告しておいた『ゲート・ガーディアン』デッキリ紹介は後日投稿します。

しばらくお待ちください。

外伝 「ゲート・ガーディアン」紹介（前書き）

こんにちは、逸材です。

前の話、第24話『守護神兄弟』楽しんでいただけましたか？

今回の外伝は、24話でゴースト…、迷宮兄弟が使用したデッキ【ゲート・ガーディアン】を使いたいあなたへ、デッキ構築のご紹介とやらをします。

では、本編へドウゾー。

外伝 「ゲート・ガーディアン」 紹介

1. 《ゲート・ガーディアン》とは？

ゲームボーイ「デュエルモンスターズII 闇界決闘記」決闘者伝説 in TOKYO DOMEの会場来場者に配布されたプロモカードとして初登場した闇属性・戦士族の特殊召喚モンスター。後にPREMIUM PACK 3でレプリカとして一般発売された。(引用：遊戯王wiki)
現在は、一応絶版なのだろうか？

その能力は第24話でもしっかり見ていると思うし、wikiで確認も出来るが、一応ここに記しておく。

《ゲート・ガーディアン》

11 闇/戦士 ATK/3750 DEF/3400

このカードは通常召喚できない。

自分フィールド上に存在する「雷魔神・サンガ」「風魔神・ヒューガ」「水魔神・スーガ」をそれぞれ1体ずつリリースした場合に特殊召喚する事ができる。

そして、召喚のため、必要になるモンスター《雷魔神・サンガ》《風魔神・ヒューガ》《水魔神・スーガ》のステータスは以下のとおり。

《雷魔神・サンガ》 7 光/雷 ATK/2600 DEF/

2200

《風魔神・ヒューガ》 7 風/魔法使い ATK/2400 D

EF/2200

《水魔神・スーガ》 7 水/水 ATK/2500 DEF/2400

効果(3体とも共通)

このカードが相手のターンで攻撃された場合、そのダメージ計算時に発動することができる。

その攻撃モンスター1体の攻撃力を0にする。

この効果はこのカードがフィールド上に表側表示で存在する限り1度しか使用できない。

考察

Wikiにも書かれているが《雷魔神・サンガ》《風魔神・ヒューガ》《水魔神・スーガ》(以下、三魔神と略す)はレベル7でリリースは2体。

戦闘破壊については少し耐性があるが、除去には弱い。

これを3体揃えるだけで一苦労なのは間違いない。

その上、この3体をリリースして攻撃力3750って、何?と叫びたくなるのも無理は無い。

《偉大魔獣 ガーゼット》と《合成魔獣 ガーゼット》で十分だろう。

よって、この時点でデッキはファンデッキになる。

そのようなデッキが嫌いな方は「戻る」ボタンでお戻りください。

2. どうやって《ゲート・ガーディアン》を召喚する?

召喚のためには、三魔神をフィールドに出す必要がある。

そのための方法として、いくつか方法を紹介したいと思う。
Wikiにも載っているため、無視してもかまいません。

1 . 普通に出す。

コンボも何も無く、通常召喚と特殊召喚を軸に出す。

2 . 《ファントム・オブ・カオス》を使い、名前をコピーする。

《混沌幻魔 アーミタイル》にも使用される方法。

だが、あちらは融合モンスターでデッキ圧迫しない上に《E・HE
ROプリズマー》の恩恵を得られる。

もう、考察すればするほど悲しくなるが、それは気にしない。

3 . 大量展開で出す。

Wikiでは、《異次元からの帰還》と《デスカイザー・ドラゴン
ノバスター》+《アンデットワールド》が挙げられている。

∴これ以外何かあったっけ？

3 . どういうデッキ構築にする？

何よりの利点として、デッキ構築をする際、上記の3つの召喚方法
をデッキに組み込む際に互いのシナジーがあることだろう。

1 . の普通に出す、について、軸は二つあり、【手札軸】と【蘇生
軸】の二つが考えられるが、シナジーはしていたりする。

手札軸で必要なカードは以下のとおり。

《死皇帝の陵墓》：2000のLPが必要だが、デイスアドが少な
く三魔神を召喚できる。

《生け贄人形》：言わずと知れた、レベル7サポートカード。

蘇生軸で必要なカードは以下のとおり。

《創世者》：三魔神を簡単に蘇生出来る数少ないカード。
《異次元からの帰還》：除外からドーン
《デスカイザー・ドラゴンノバスター》+《アンデットワールド》：
墓地からドーン

《死皇帝の陵墓》と《創世者》のシナジーは良い。

【アンデット族】は特殊召喚が容易で《ゾンビ・マスター》でのリリース確保、《アンデットワールド》があれば、《生者の書 - 禁断の呪術》での蘇生も狙える。

よって、複数のギミックをデッキに採用でき、色々な方法で召喚できるのが、このデッキの最大の利点になる。

利点としてメタが張りづらく、特殊召喚メタでも《死皇帝の陵墓》、墓地メタでも《異次元からの帰還》や《D・D・R》と中々メタられない。

最大のメタは《ライオウ》だが、これは複数《死皇帝の陵墓》を積んでいれば以外に対策出来ることもある。

唯一の弱点は大量展開で何もせずに押し切られること、常に召喚のためには手札を大量に消費することなので、《神の警告》《奈落の落とし穴》は天敵。

後者は致命的過ぎる弱点、だから、ネタだー、って言われているのだが。

以上のことを踏まえて、デッキ構築をしていく。

最初はモンスターから。

まずは、墓地肥やしが重要になる。

手札軸だと《死皇帝の陵墓》と《生け贄人形》が無いとその時点で終わりなので、サーチが出来るとは言えこの二つにだけ頼るのは厳しい。

墓地肥やしをすれば《創世者》による蘇生、皆大好きファンカスコ

ピーが可能になるため有利になる。

墓地肥やしについては《ライトロード・ハンター ライコウ》が最有力候補。

後は《魔道雑貨商人》《ライトロード・パラディン ジェイン》《カードガンナー》など。

そして、それに相性の良く、リリースが確保できる《ダンディライオン》《グローアップ・バルブ》《ゾンビキャリア》など。

で、それを蘇生出来る《デブリ・ドラゴン》を採用すれば戦線維持は十分出来る。

唯一の弱点は、やはり、「このまま攻めたら勝てるんだけど……」で結局三魔神の採用が無意味な気がするくらい。

だが、それはロマンだよ！

シンクロが嫌な人でも《ダンディライオン》や《カードガンナー》が採用できるのがいい良いところ。

【アンデット族】ギミックを入れるならば、上記以外にも《ゾンビマスター》《ゴブリン・ゾンビ》《馬鬼頭》《ピラミッド・タートル》も良い。

どのモンスターもレベル4のため《デスカイザー・ドラゴン》を楽に召喚できるのも利点。

墓地肥やしギミック以外には、戦闘破壊耐性モンスターや《創世者》のサポートである《創世者の化身》や、手札に《死皇帝の陵墓》と《生け贄人形》が無く召喚できない三魔神や《創世者》、墓地に居てほしいモンスターをコストに出来る《モンタージュ・ドラゴン》《スナイプストーリーカー》等も挙げられる。

光属性も多いので《オネスト》を入れて、相手に一泡吹かせても良い。事故率は高くなるが。

次にキーカードである三魔神と《ゲート・ガーディアン》、《創世者》や《ファントム・オブ・カオス》の枚数。

《創世者》はサポートさえあれば、かなりの強さを発揮するので3枚積んでも問題ないと思う。

仮に手札に2枚来ても《創世者の化身》さえあれば、一気に守備力3000が2体並ぶことになる。

だが、3枚の場合、《創世者》のサポートも考えに入れる必要があるため《アンデットワールド》はリリースを阻害するため【アンデット族】との共存が厳しくなる。《創世者の化身》もある程度いれておく必要がある。

また、《ファントム・オブ・カオス》は《地獄の暴走召喚》で展開しない場合、三魔神の除外はむやみに出来ないため、3枚は厳しい部分がある。

だが、《ゲート・ガーディアン》や《創世者》をコピーすることが出来るためデメリットばかりではない。

《創世者》は除外すれば、《D・D・R》での帰還が可能になるため帰還ギミックも採用できる。

【アンデット族】なら、《創世者》はデッキに入れる必要は無い。蘇生手段はいくらでもあるので。《アンデットワールド》などのサポートカードを増やすべき。

しかし、《ファントム・オブ・カオス》はかなり微妙なところ。《アンデットワールド》下で、《ゾンビ・マスター》による蘇生で《地獄の暴走召喚》の発動条件を満たせる。

反面、《ファントム・オブ・カオス》の効果で除外すると《デスクアイザー・ドラゴン/バスター》の効果の邪魔をしてしまうため、高度なプレイングが必要になる。

主役の三魔神と《ゲート・ガーディアン》は3枚は無理。

事故が目に見えている。

使ってみてバランスを考えてみる必要があるが、2枚が一番よいと思う。

これは、個人で変わってくるのでやはり、一概に決め付けるのは良くないと思う。

魔法カードについて。

これも型によって大きく変わってきます。

フィールド魔法は《創世者》を主軸なら《死皇帝の陵墓》、《デスカイザー・ドラゴンノバスター》を主軸（【アンデット族】なら《アンデットワールド》）。

両方の採用の場合、《ゾンビ・マスター》や《創世者》からの《ファントム・オブ・カオス》蘇生で《地獄の暴走召喚》という軸になるが、コンボ重視でありお勧めできない。

フィールド魔法はどちらかに固定したほうが良い。

どの軸にも必須カードとして、《おろかな埋葬》《死者蘇生》【ライトロード】を採用するならば《光の援軍》、《大嵐》《サイクロン》などの妨害対策。

フィールド魔法を採用するなら《テラ・フォーミング》、《ファントム・オブ・カオス》軸にするなら《地獄の暴走召喚》が必須。

手札の三魔神の召喚補助として《生け贄人形》、墓地送りとして《手札抹殺》《手札断殺》《ライトニング・ボルテックス》も考えられる。

サーチ手段や除外手段で《封印の黄金櫃》も良い。

いきなりの特殊召喚もしいので《強欲で謙虚な壺》、墓地が肥えやすいので《貪欲な壺》も良い。

《死皇帝の陵墓》とは相性は悪いが、《我が身を盾に》も優秀。

《ゲート・ガーディアン》や《創世神》が墓地へ落ちたときのために《死者転生》もかなりの活躍をしてくれる。

また、《戦士の生還》でもいいが、他の戦士族が若干乏しいので微妙。

《ゲート・ガーディアン》は闇属性・戦士族と優秀な種族だが、サポートカードを採用するほどデッキに余裕はないはず。

【アンデット族】ならば、数多くのサポートがあるのでWikiを参考にしたほうが早い。

挙げておくなり、《生者の書 - 禁断の呪術》は《アンデットワールド》下ならば、《死者蘇生》になるため、上級モンスターを蘇生を軸とするこのデッキには重宝する。

《フロントム・オブ・カオス》軸なら、《地獄の暴走召喚》は勿論、蘇生カードとして、《冥界流傀儡術》がかなり使い勝手が良い。

詳しくはWikiで書かれているので参考にするといいかもしれない。

関係ないが、《ゲート・ガーディアン》は《アンティ勝負》で出せば【ユベル】か【Sin】でなければ負けない。

もっとも、相手の邪魔をしている暇があるなら少しでも回さないといけないデッキなので採用は微妙。

デッキの回転率を上げるために、《大嵐》《サイクロン》などの除去カード以外は極力、手札交換や墓地回収、デッキ圧縮を優先していきたい。

畏カードについて

デッキの回転はほとんど魔法カードに任せるため、少数でよい。ただし、【アンデット族】軸なら当たり前だが、《バスター・モード》は必須。

これは、基本自分の好み。お勧めとしては《神の宣告》《魔宮の賄賂》などの優秀なカウンター罠。

他には蘇生カードの《リビングデットの呼び声》《リミット・リバーズ》、添えるカードで有名な《聖なるバリアー・ミラーフォース》などだろうか。

個人的には《神の宣告》は《死皇帝の陵墓》と相性悪いので微妙な気はする。

後は、《奈落の落とし穴》など、アドが取りやすいカードを採用したい。

デッキ回転率を下げないようにしたい。

また、採用枚数を減らすなら《王宮のお触れ》も良い。《リビングデットの呼び声》を邪魔しないように発動すべし。

後は除外からドーン としたいならば、《異次元からの帰還》を。制限なのでこのギミックだけに頼るのは危険だが。

4・デッキの回し方は？

序盤

言うまでもなし、どのデッキも墓地肥やしから始めるべし。

とにかく序盤で少しでもアド差をつけておかないと、アドが取れない終盤で辛いため《ライトロード・ハンター ライコウ》や《カードガンナー》で上手くアドを取っていききたい。

戦闘は《ライトロード・パラディン ジェイン》に任せておけばよ

い。《ライオウ》も破壊できるため、活躍はしてくれる。防御面は戦闘破壊耐性モンスターに丸投げ。

序盤からいきなり《創世者》を召喚するかは好み。

戦闘破壊はされないだろうが、効果破壊は普通にされるため、そこは相手に合わせるのが良い。

因みに主は普通にドーン と出して《裁きの龍》に吹き飛ばされることが多いです。

後は《氷結界の龍 ブリユーナク》とか《マスター・ヒュペリオン》とか。

【アンデット族】でも序盤は墓地肥やしをしつつ、戦線維持をしつつ、《バスター・モード》や《ゾンビキャリア》をサーチするとよい。

《フロントム・オブ・カオス》軸も、言うまでもない。男は黙って墓地肥やし。

中盤

ここで《ゲート・ガーディアン》を召喚したいところ。

アドを気にせず、一気に三魔神を揃えたい。

特に《死者蘇生》や《リビングデットの呼び声》《大嵐》などは使うタイミングを悩むだろうが、このデツキならこのタイミングで召喚の補助として一気に発動するのが良い。

一度呼び出せば、後は《創世者》で自由帰還可能なので、一度で良いので正規の方法で召喚しておきたい。

ただし、伏せ除去ができない場合、無効にされたときの対策だけは準備しないと、確実に負けます。

兎にも角にも、ペースを握るにとしては遅すぎる、攻め込むには早す

きる、この中盤に無理にでも召喚しておきたい。

因みに、ハンドアド差は《メタモルポット》で消せるため、問題はない。
制限頼りはどうかと思うが。

終盤

いくらネタモンスターでも攻撃力3750。おそらく除去はしてくるだろう。

そこで《創世者》や《生者の書 - 禁断の呪術》を使い、攻撃力3750を不死身のように使いまわせれば良い。

これを上回るのは、最高攻撃力5000を持つモンスター、召喚のために3体のリリースを必要とするモンスター、専用のギミックを必要とするモンスターののみ。

攻撃力突破される可能性として高く、採用が多そうなモンスターは、通常召喚可能なモンスターで最大攻撃力を持つ《獣神機王バルバロスUr》や《スカーレット・ノヴァ・ドラゴン》など。
すなわちアド差さえつけられれば、勝ちも見えてくる。

5・弱点

まずは、除去。

助かったことに(?) 現在トップの【代行天使】の除去カード《マスター・ヒュペリオン》の除去には墓地アドが必要で回数に制限がある。

終盤の場合、墓地アドがなくて除去できない!という可能性もある。
反面、終盤で最大の除去ができる【ライトロード】はほぼ勝ち目が

ない。

他にも言い出したらキリがない。ここはやはり《我が身の盾に》が欲しい所。

因みに《スキルドレイン》でもよい。

除去以外の弱点として、先ほど挙げた《ライオウ》だろう。

《ライトロード・パラディン ジェイン》が手札にない場合、何もできないまま負けることもある。

極力早く対処したい。

何より、最大の弱点として《ゲート・ガーディアン》の攻撃力自体を上回れること。

【Sin】【青眼の白龍】【宝玉神】【古代の機械】【サイバー・ドラゴン】【レインボー・ネオス】などにも勝利は厳しい。
装備魔法は《サイクロン》で除去すべし。

6・最後に

自分で書いていて悲しくなりました。

本気で勝ちに行くんだったら、お勧めはしません。

因みに主はこのデッキでの野試合では、？戦3勝です。

ムチャクチャ戦って、結果がこれだよ！悲しくなるよ！

勝利デッキは【ウィジャ盤】、素晴らしいデッキ回転で3ターン目で《ゲート・ガーディアン》の召喚に成功。鮮やかに勝利。

【メタビート】にも1勝だけ、《ならず者傭兵部隊》が厄介だったが、何とか勝利。

残り1回はまさかの【代行天使】、と言っても相手の手札事故、こつちも《ゲート・ガーディアン》を召喚せずに勝利。悲しい。

第25話 サイバ一流とサイコ流（前書き）

ギリギリセーフ（なのか？）w

と、ミスも含め、今週中に投稿すると言ったのにギリギリ（というか、日曜日はOutlet？）になってしまい、本当にすみませんでした。ミス修正をするうちに、「盛りあがらねえな」と思い、接戦にしたら、こんな時間になってしまいました。

ミスだらけの小説ですが、これからも応援よろしくお願いします。楽しみにしている、と言ってくれるだけでも著者のモチベはアップします。

では、第25話「サイバ一流とサイコ流」改をお楽しみください。

現状

幽・亮・隼人・実・望 進行中

天保・クロウ ゴーストと戦闘中

綾香・龍亞・龍可 ゴーストと戦闘 休憩

遊星 囿として進行中

第25話 サイバ一流とサイコ流

各地で激戦が繰り広げられている中、亮は一人黙って進んでいた。

亮 (……………)

亮 (……………)

亮 (……………)

おい、話せよ。

誰も居ないので話すも何もないのだが。

亮「…?」

通路が広くなり、デュエルできそうなスペースが現れる。

そこには、何か黒い物体があった。

亮「……ゴースト……？」

既に（デュエルに敗北して）動かないであろうゴーストが横たわっていた。

亮「いったい何が……？」

その瞬間、亮の頭部を狙って何かが放たれた。

亮「……っ！」

頭を左に動かし、間一髪で躲す亮。

亮「……次はなんだ？」

亮の頭に突き刺さるはずだった物　カードが地面に刺さっていた。

(カードが地面に刺さるの?という突っ込みはスルー)

亮「…《死のデッキ破壊ウイルス》…?」

《死のデッキ破壊ウイルス》…、制限になってほしいよね。(関係ないけど)

亮が後ろを見ると、マフラーを纏った男が立っていた。
ゴーストではないのは明らかだ。

亮「…ゴーストを殺したのはお前か?」
?「…そんな事はどうでも良い。」

俺の名は『猪爪 真』…。黒田亮、貴様にデュエルを申し込む!」

だが、その言葉に対し、亮が予想外な言葉を言う。

亮「…断る」

予想外の言葉のだったのだろうか、その言葉に黙っている猪爪。
だが、背中を向け歩き出そうとする亮に、たった一言だけ言う。

猪爪「…サイコ流」

亮「…！」

猪爪「過去に貴様らサイバー流に挑み、敗れた闇の流派の名だ」

亮「…それが？」

猪爪「俺はサイコ流の継承者だ」

亮「…看板を掛けて、戦おうとも言うのか？」

悪いが、そんな暇は…」

無視して、進もうとする亮だが、またも一言でその足を止められる。

猪爪「ここで逃げるなら、継承者自身がサイバー流の敗北を認めることになるんだが、それでいいんだな？」

亮「…っ…！」

猪爪「…せっかく、今までの継承者がサイバー流の看板を大きくしてきたのに、それをお前の身勝手な都合で崩すのか？」

亮「…挑発には乗る気はない」

猪爪「挑発じゃねえんだが…」

そう聞こえたのなら、お前自身がそう思っているんじゃないのか？」

亮「くっ…」

唇をかみしめる亮。

猪爪「もう一度だけ言うぜ。」

今この場でサイバー流とサイコ流の存続をかけた戦いを申し込む！」

亮（…少しだけ、自分の勝手な都合で動かせてもらうかな…）

亮「…良いだろう、そんなに表舞台に出たいなら相手をしてやる。
そして、二度と俺達サイバー流に戦いを挑む気にならないよう
にしてやるよ」

猪爪「…面白い！」

亮・猪爪「デュエル!!!」

亮LP8000 手札5 デッキ35

猪爪LP8000 手札5 デッキ35

亮「俺の先攻だ、ドロー！」手札5・6 デッキ35・34

亮「俺はモンスターをセット！」

カードを1枚セットして、ターンエンドだ！」

1ターン目

亮LP8000 手札4 デッキ34 裏守 セット

猪爪LP8000 手札5 デッキ35

猪爪「俺のターン!!」手札5-6 デッキ35-34

猪爪「俺は手札より《手札抹殺》を発動するぜ!

互いに手札をすべて捨て、同じ枚数だけデッキからカードを
ドローする!」手札6-5

亮(《大嵐》が墓地へ送られたか、少し厳しいな…。しかし、相手
の目的はなんだ?)

亮 デッキ34-30 猪爪 デッキ34-29

猪爪「俺は手札より《人造人間?サイコ・リターナー》を召喚!
手札5-4

【人造人間?サイコ・リターナー 3 闇/機械 ATK/60
0 DEF/1400】

亮「…サイコ流のモンスターか…」

猪爪「《人造人間?サイコ・リターナー》は直接攻撃ができる!

殺れ! サイバーエナジー・シヨット!!」

リターナーATK600 VS 直接

亮「…っ」LP8000-7400

亮(…痛みがない…。

今回の戦いとは本当に無関係なのかもしれないな…)

猪爪「俺はカードを2枚セットして、ターンエンドだ」

2ターン目

亮LP7400 手札4 デッキ30 裏守 セット

猪爪LP8000 手札2 デッキ29 リターナー(A) セット2

亮「俺のターンだ！」手札4 - 5 デッキ30 - 29

亮(…《極星獣グルファクシ》…！この状況なら…《極神皇トール》を呼べる…！)

亮「俺は《極星獣グルファクシ》を召喚する！」手札5 - 4

【極星獣グルファクシ 4 光/獣 チューナー ATK/1600 DEF/1000】

猪爪「【極星】だと！」

亮「さらに《リビングデットの呼び声》を発動！自分の墓地のモンスター1体を攻撃表示で特殊召喚する！

俺は《手札抹殺》で墓地へ送られた《ハウンド・ドラゴン》を特殊召喚する！」

【ハウンド・ドラゴン 3 闇/ドラゴン ATK/1700 DEF/300】

亮「そしてセットモンスターの《極星獣タンギリスニ》を反転召喚する！」

【極星獣タンギリスニ 3 地/獣 ATK/1200 DEF

／800】

猪爪「シンクロ召喚に頼るとは…！サイバー流も落ちぶれたな！」
亮「…残念だが、お前のように過去にだけ捕らわれる男とは違う。

人々が進化するようにデュエルもまた進化する。俺が、サイバ
ー流であるうがなんだろうが、常に進化し続けるデュエルをしなけ
ればならない！

俺はレベル3《極星獣タングリスニ》とレベル3《ハウンド・
ドラゴン》の2体に、レベル4《極星獣グルファクシ》をチューニ
ングー！」

【極星獣タングリスニ 3】+【ハウンド・ドラゴン 3】+

【極星獣グルファクシ 4】= 10

亮「星界の巨人よ、古の支配を打ち砕くその鎚で裁きの鉄槌を下せ
！！ シンクロ召喚！ 降臨せよ！《極神皇トール》！！
！！」

【極神皇トール 10 地/獣戦士 ATK/3500 DEF
/2800】

猪爪「ふん…、【極神】の力も継承していたとは聞いたが…、その
程度の力に頼らざる得ないとは、サイバー流もこの程度か！」
亮「好きなだけほざけ！」

《極神皇トール》で《人造人間？サイコ・リターナー》に攻撃
！ サンダアアアアア・パイルウウウウウウウ！！！！」

猪爪「トラップ発動！《アストラルバリア》！このカードの効果で
貴様の《極神皇トール》の攻撃をダイレクトアタックにすることが

できる！」

亮「何だと！なぜこの状況でそのカードを…！」

猪爪「そして、もう1枚のリバースカードも発動！《デスカウンター》！戦闘ダメージを与えたモンスターを破壊する！」

トール ATK 3500 VS 直接

猪爪「…っ！だが、《デスカウンター》の効果で《極神皇トール》を破壊！」 LP 8000 - 4500

亮「くっ…、エンドフェイズに墓地の《極神皇トール》の効果発動！墓地の《極星獣グルファクシ》をゲームから除外し、《極神皇トール》を蘇生！」

さらに、相手に800のダメージを与える！」

【極神皇トール 10 地/獣戦士 ATK/3500 DEF /2800】

猪爪「自己再生効果だと！ぐあぁっ！」 LP 4500 - 3700

3ターン目

亮 LP 7400 手札 4 デッキ 29 トール(A) リビング

猪爪 LP 3700 手札 2 デッキ 29 リターナー(A) デス

カ アストラル

猪爪「いくぜ！俺のターンだ！」 手札 2 - 3 デッキ 29 - 28

猪爪「《人造人間？サイコ・リターナー》でダイレクトアタック！

サイバーエナジー・ショット!!」
リターナー ATK600 VS 直接

亮「…！だが、お前の《デスカウンター》の効果で《人造人間？サイコ・リターナー》は破壊される！」 LP7400 - 6800

猪爪「《人造人間？サイコ・リターナー》は破壊され、墓地へ送られたときに俺の墓地の《人造人間？サイコ・ショット》を特殊召喚する！

出でよ！サイコ流の申し子！《人造人間？サイコ・ショット》!!」

【人造人間？サイコ・ショット 6 闇/機械 ATK/2400 DEF/1500】

亮「《人造人間？サイコ・ショット》…！《手札抹殺》で墓地へ送っていたか…。

だが、攻撃力は2400！《極神皇トール》より低い！」

猪爪「そんなことはどうでも良い！《人造人間？サイコ・ショット》で《極神皇トール》に攻撃！ サイバーエナジー・ショット!!」

ショット ATK2400 VS トール ATK3500

亮「…《リミッター解除》か…！」

猪爪「その通りだ！《リミッター解除》！俺の機械族の攻撃力を2倍にする！」 手札3 - 2

【人造人間？サイコ・ショット 6 闇/機械 ATK/2400 - 4800 DEF/1500】

ショット ATK4800 VS トール ATK3500

亮「ぐあああぁっ！」 LP 6800 - 5500

猪爪「カードを1枚セットし、モンスターを裏側守備表示で出す。

エンドフェイズに《人造人間？サイコ・シヨツカー》は《リミッター解除》の効果で破壊される」

4ターン目

亮 LP 5500 手札 4 デッキ 29 リビング

猪爪 LP 3700 手札 0 デッキ 27 裏守 デスカ アストラ
ル セット

亮「くっ…！俺のターンだ！！」 手札 4 - 5 デッキ 29 - 28

亮（《デスカウンター》の効果は適用している…。ここで戦闘ダメージを与えたら、また俺のモンスターが破壊される…。

が…、お前が思っているほどサイバー流は甘くない…！）

亮「手札より《サイバー・ダーク・キール》を召喚！」 手札 5 - 4

【サイバー・ダーク・キール 4 闇/機械 ATK/800
DEF/800】

猪爪「来たな！サイバー流のモンスター！」

亮「《サイバー・ダーク・キール》のモンスター効果！召喚に成功したとき墓地のレベル3以下のドラゴン族モンスターを装備し、そ

の攻撃力を得る！

墓地のレベル3ドラゴン族である、《ハウンド・ドラゴン》を
装備！

【サイバー・ダーク・キール 4 闇/機械 ATK/800 -
2500 DEF/800】

亮「《サイバー・ダーク・キール》でセットモンスターを攻撃！

ダーク・ウィップウウウ！！！！」

亮（さあ…、《アストラルバリア》の効果を使用してくるか…！

それをしてきたら…手札の《リミッター解除》を使用して…、
俺の勝ちだ…！）

猪爪「…《アストラルバリア》を使用しない」

亮「…!?」

キール ATK 2500 VS メタモル DEF 600

亮（…使つてこなかったか…、しかも《メタモルポット》…アド差
を潰されたか…）

猪爪「説明不要かもしれないが、《メタモルポット》の効果で互い
の手札をすべて捨て、5枚をドロウする」

亮 手札 4 - 5 デツキ 28 - 23 猪爪 手札 0 - 5 デツキ
27 - 22

亮「だが、《サイバー・ダーク・キール》の効果！相手モンスター
を破壊したとき、300のダメージを与える！」

猪爪「ふん…、この程度のダメージ…！」LP3700 - 3400

亮「…メインフェイズ2に俺はカードを1枚セットして、ターンエンドだ」

猪爪「おっと！お前のエンドフェイズに《リビングデットの呼び声》が発動！

墓地より蘇れ！《人造人間？サイコ・ショッカー》！！」

【人造人間？サイコ・ショッカー 6 闇/機械 ATK/2400 DEF/1500】

亮「…っ！またかよ…！」

猪爪「どうせ、貴様が伏せているのは攻撃反応系のトラップ！

そんな戦術はサイコ流には無意味だ！」

5ターン目

亮LP5500 手札4 デッキ23 キール(A:2500) +

ハウンド リビング セット

猪爪LP3400 手札5 デッキ22 ショッカー(A) リビ

ング デスカ アストラル

猪爪「俺のターンだ！！」手札5 - 6 デッキ22 - 21

猪爪「さあ！いくぜ！黒田亮！サイコ流の切り札を見せてやる！」
亮「サイコ流の切り札だと…！」

猪爪「俺はフィールド上の《人造人間？サイコ・シヨツカー》を墓地へ送る！！

見せてやる、これがサイコ流の切り札だ！ 《人造人間

？サイコ・ロード》召喚！！」手札6-5

【人造人間？サイコ・ロード 8 闇/機械 ATK/2600
DEF/1600】

亮「《人造人間？サイコ・ロード》…、サイコ流の切り札か…！」

猪爪「《人造人間？サイコ・ロード》が場に存在するとき、互いに罠カードは使えない。

そして、1ターンに一度、フィールド上に表側表示で存在する罠カードをすべて破壊し、その数×300のダメージを相手に与える！！

俺たちの場には《アストラルバリア》《デスカウンター》《リビン
グデットの呼び声》が2枚！そのすべてを破壊し、合計1200の
ダメージを受ける！ ハイパー・トラップ・ディストラクショ
ン！！！！」

亮「ぐあああああつ！！LP5500-4300

猪爪「そして《ブレイク・ドロー》を《人造人間？サイコ・ロード
》に装備する！」手札5-4

亮「…だが、《サイバー・ダーク・キール》は装備モンスターを代
わりに破壊し、戦闘での破壊を無効にすることができる。

《ブレイク・ドロー》は戦闘破壊がトリガーだ、その効果は使
用できない！！」

猪爪「そんなことはわかっている！カードを1枚伏せ、手札より《
ダブル・サイクロン》発動！俺のセットカードと、貴様の装備魔法
扱いの《ハウンド・ドラゴン》を破壊する！」手札4-2

亮「…！」

【サイバー・ダーク・キール 4 闇/機械 ATK/2500
- 800 DEF/800】

猪爪「そして、俺のセットカードは《呪われた棺》！このカードの効果を発動する！」

亮「何っ！罨カードは《人造人間？サイコ・ロード》の効果で無効にされているはずだ！」

猪爪「残念だが、それはフィールド上での罨カードの発動と効果のみ！」

墓地で発動するカードまでは無効にはできない！」

亮「くっ…！」

(墓地からトラップだと！？)

猪爪「《呪われた棺》はカード効果で破壊され、墓地へ送られたとき、相手のフィールドのカードを1枚破壊できる効果が、相手の手札をランダムに1枚捨てる効果が発動する。

だが、それはお前が選ぶことができる。さあ、選びな！」

亮「…俺は手札をランダムに1枚捨てる…」手札4-3

猪爪「《人造人間？サイコ・ロード》で《サイバー・ダーク・キール》に攻撃！！ サイバーエナジー・インパクト…！」

ロードATK2600 VS キールATK800

亮「くっ…！」LP4300-2500

猪爪「この瞬間、《ブレイク・ドロ》の効果発動！デッキからカードを1枚ドロ！」手札2-3 デッキ21-20

猪爪「…！勝った！」

猪爪「手札2枚をコストに《魔法石の採掘》発動！墓地の《リミッター解除》を手札に加える！」

そして、カードを1枚セットして、ターンエンド！」「手札3

- 0 - 1 - 0

亮（…《リミッター解除》を仕掛けたか…）

6ターン目

亮LP2500 手札3 デッキ23 セット

猪爪LP3400 手札0 デッキ20 ロード(A)+ブレイク・

ドロー セット

亮「流石にやるな…、サイコ流」

猪爪「そうだ、俺は貴様らのように光を浴び続けて、生温くなった流派とは違う！」

常に、暗い世界で、いつか自分たちが光を浴びることができ
る日のために、ひたすら鍛錬してきた！

恵まれたお前たちとは違う！俺達が最強の流派にふさわしい
努力をしてきた！」

亮「…お前の言うとおり、俺たちは表舞台で光を浴び続けてきた。

だが、俺たちはその表舞台で、最強の流派として注目され続け
てきた！

多くの人が過去から今までずっと俺の祖先を尊敬のまなざしで
見て、その人たちの目標になるうと努力してきた！

俺自身も、もう、自分に期待を寄せてくれている人たちのため
に…、

今までずっと表舞台に居る事の出来るようにした、サイバー流の人々のために…、

そして、自分に力を与えてくれた人たちのために…！」

猪爪「…！俺達と、同じほどの努力をしてきたと…、光を浴びたお前たちは言うのか…！」

亮「勿論だ、努力し続けなければ、光を浴び続けることはできない」
猪爪「…だが、どれだけ努力しようと、俺はここでサイバー流に勝つ！」

亮「俺もここで敗北するわけにはいかない…！」

俺のターン…！！！」手札3 - 4 デッキ23 - 22

亮「…俺たちは、敵対こそしているが、似た者同士のような…」
猪爪「何…！」

亮「いくぞ！猪爪真！手札より《魔法石の採掘》発動！手札の《サイバー・ダーク・エッジ》《サイバー・ラーヴァ》の2枚をコストに、墓地の《リミッター解除》を手札に加える！」手札4 - 1 - 2
猪爪「貴様も《リミッター解除》を手札に加えるだと！」

亮「そして、手札より《サイバーダーク・インパクト！》発動！《メタモルポット》で墓地へ送られた《サイバー・ダーク・ホーン》と《サイバー・ダーク・キール》《サイバー・ダーク・エッジ》の3体をデッキに戻し、融合召喚する！」手札2 - 1 デッキ22 - 25

【サイバー・ダーク・キール】 + 【サイバー・ダーク・ホーン】 +
【サイバー・ダーク・エッジ】

亮「暗黒に染まったサイバー流よ、その元凶の力を今こそ示せ！
融合召喚！ 対をなす切り札！『鎧黒竜 サイバー・ダーク・

ドラゴン』……！」

【鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン 8 闇/機械 ATK
/1000 DEF/1000】

亮「《鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン》の攻撃力は俺の墓地
のモンスター1体につき100ポイントアップ！

墓地には、《手札抹殺》で3枚、《メタモルポット》で3枚、
《ハウンド・ドラゴン》《極神皇トール》《極星獣タングリスニ》
《サイバー・ラーヴァ》の合計10枚！

そして融合召喚した《鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン》
は俺の墓地のドラゴン族1体を装備し、その攻撃力を得る！

《ハウンド・ドラゴン》を装備し、攻撃力を1700アップさ
せる！」

【鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン 8 闇/機械 ATK
/1000 - 3600 DEF/1000】

猪爪「攻撃力3600……！」

亮「《鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン》で《人造人間？サイ
コ・ロード》に攻撃！ フル・ダークネス・バアアアストオ
オオオオオオ……！」

猪爪「くっ……、《リミッター解除》を発動する！

これにより、俺の《人造人間？サイコ・ロード》の攻撃力を
2倍にする！」

亮「チェーンして《リミッター解除》！同じく《鎧黒竜 サイバー・
ダーク・ドラゴン》の攻撃力を2倍にする！」手札1 - 0

【鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン 8 闇/機械 ATK

/ 3600 - 7200 DEF / 1000】

【人造人間？サイコ・ロード 8 闇/機械 ATK / 2600
- 5200 DEF / 1600】

サイバー・ダーク・ドラゴン ATK 7200 VS サイコ・ロ
ド ATK 5200

猪爪「ぐあつ…！《人造人間？サイコ・ロード》が倒された…！
これが…、サイバー流の力…！」 LP 3400 - 1400

亮「…このエンドフェイズ、《リミッター解除》の効果…。
《鎧黒竜 サイバー・ダーク・ドラゴン》を破壊する」

7ターン目

亮 LP 2500 手札 0 デッキ 21 セット

猪爪 LP 1400 手札 0 デッキ 20

猪爪「くっ…、だが、まだLPは残っている！」

亮「そうだ！サイコ流の最後の全力をぶつけてみる！」

猪爪「言われなくとも！俺のターンだ…！ドロー！」 手札 0 - 1
デッキ 20 - 19

猪爪「《死者蘇生》発動！《人造人間？サイコ・シヨツカー》を墓
地から特殊召喚！」 手札 1 - 0

【人造人間？サイコ・シヨッカー 6 闇/機械 ATK/24
00 DEF/1500】

猪爪「人造人間？サイコ・シヨッカー」でダイレクトアタック！

サイバーエナジー・シヨック！！！！」

シヨッカー ATK2400 VS 直接

亮「ぐあ…あつ！」 LP2500 - 100

猪爪「ターンエンド！」

8ターン目

亮 LP100 手札0 デッキ21 セット

猪爪 LP1400 手札0 デッキ19 シヨッカー(A)

亮「俺のターンだ！」 手札0 - 1 デッキ21 - 20

亮（…モンスターじゃない…！

…賭けに出るしかない…！）

亮「カードをセット、ターンエンドだ」

9ターン目

亮 LP100 手札0 デッキ20 セット2

猪爪LP1400 手札0 デッキ19 ショッカー(A)

猪爪「…俺のターン！」手札0 - 1 デッキ19 - 18

猪爪(カードを伏せた、この状況じゃ使えない事を知っているはずのあいつが…。)

間違いない…、あのカードは速攻魔法…!

俺の手札は…)

猪爪「…攻撃はしない！カードを1枚セットして、ターンエンド！」

亮「!?!」

亮(…この状況で攻撃をしないで…?)

俺のセットカードを読んだとでも言うのか…)

10ターン目

亮LP100 手札0 デッキ20 セット2

猪爪LP1400 手札0 デッキ18 ショッカー(A) セット

亮「…っ!

俺のターン…!」手札0 - 1 デッキ20 - 19

亮(…あの伏せカードはなんだ…?)

攻撃反応系ではないはずだ。《人造人間?サイコ・ショッカー

》が居るからな…。

手札は…《サイバー・ドラゴン》…！)

亮「相手フィールド上のみモンスターが存在するとき、《サイバー・ドラゴン》は手札から特殊召喚できる！」手札1-0

【サイバー・ドラゴン 5 光/機械 ATK/2100 DE
F/1600】

猪爪「ここで、《サイバー・ドラゴン》だと!？」

亮「…だが、何か引つかかる…。なんで《人造人間?サイコ・ショッカー》が居るのに、伏せカードを出した?

速攻魔法か?…だが、この状況で出せる速攻魔法は少ないはず

…。
攻撃力上昇系なら前のターンで使っていれば相手は勝っていた

…。
…この絶対的状況で、今のあいつなら…、このデュエルで互いに実力を知りきった俺達なら…、十分考えられる…)

亮「…!バトルフェイズに入る!」

猪爪(?!?)《キメラテック・フォートレス・ドラゴン》を召喚しないだと!?

そして、攻撃…、やはり…、あのセットカードは…!)

亮「《サイバー・ドラゴン》で《人造人間?サイコ・ショッカー》に攻撃!
エヴォリユーション・バアアアアストオオオオオオオオオ!!!」

サイバーD ATK2100 VS ショッカー ATK2400

亮「リバーズカード発動！《禁じられた聖杯》！！」

猪爪「やはり…！そのカードだったか！」

亮「…そっちもこのカードを読んでいたか…」

《サイバー・ドラゴン》の効果が無効にし、その攻撃力を400ポイントアップさせる！」

【サイバー・ドラゴン 5 光/機械 ATK/2100 - 2500 DEF/1600】

サイバード ATK2500 VS ショッカー ATK2400

猪爪「ぐあああああつ！」 LP1400 - 1300

亮「これで俺はターンエンドだ！」

11ターン目

亮LP100 手札0 デッキ20 サイバード(A) セット

猪爪LP1300 手札0 デッキ18 セット

猪爪「…くっ…、俺のターンだ！」手札0 - 1 デッキ18 - 17

猪爪（…！）

猪爪「俺は《人造人間 サイコ・リターナー》を召喚する！」手札1 - 0

【人造人間 サイコ・リターナー 3 闇/機械 ATK/60 DEF/1400】

亮「…ここでダイレクトアタッカー…！」

猪爪「バトル！《人造人間 サイコ・リターナー》でダイレクトアタック！！ サイバーエナジー・インパクト！！」

亮「…見事だ、こんな感動的な展開…、本当は勝たせてやりたいんだが…」

猪爪「わかっている。お前のセットカードは…《人造人間？サイコ・シヨッカー》で封じられていた、攻撃反応系カード！

だが、《人造人間 サイコ・リターナー》は墓地へ送られたら《人造人間？サイコ・シヨッカー》を蘇生させる！この状況でなら、セットカードが《聖なるバリア ミラー・フォース》でも俺の勝ちだ！」

亮「…残念だが、その読みは間違っている！

《魔法の筒》を発動！」

猪爪「なっ…！」

亮「《人造人間 サイコ・リターナー》の攻撃を無効にし、その攻撃力分のダメージを与える！」

猪爪「ぐうううううっ！！」LP1300-700

猪爪「くっ…、ターンエンドっ！」

12ターン目

亮 LP100 手札0 デッキ20 サイバード(A)
猪爪 LP700 手札0 デッキ17 リターナー(A) セット

亮「俺のターン!!」手札0 - 1 デッキ20 - 19

亮「俺の勝ちだ!《サイバードラゴン》で《人造人間サイコ・リターナー》に攻撃!! エヴォリューション・バアアアアストオオオオオオ!!」

サイバード ATK2100 VS リターナー ATK600

猪爪「お前もこの切羽詰った状況で判断ミスをしたな!

リバースカードオープン!《聖なるバリア ミラー・フォース》
!!!」

亮「なっ…、《聖なるバリア ミラー・フォース》だと!?!」

猪爪「このカードの効果でお前の攻撃表示の《サイバードラゴン》を破壊するぜ!」

亮「っ…、しまった…っ!」

亮(まずい、一気に不利な状況になった…!)

相手にはダイレクトアタッカー、しかも俺の1枚の手札は罠力

ード…！

だが、まだ、諦める場所じゃない…！)

亮「俺はカードを1枚セットして、ターンエンド…！」

13ターン目

亮LP100 手札0 デッキ19 セット

猪爪LP700 手札0 デッキ17 リターナー(A)

猪爪「俺のターン…！」手札0 - 1 デッキ17 - 16

猪爪(奴のセットカード…、攻撃反応系だとしたら…)

この状況、俺の勝ちだ！)

猪爪「《ブラック・ホール》を発動！フィールド上のすべてのモンスターを破壊する！」手札1 - 0

亮「なっ…、ここで《ブラック・ホール》だと！なぜ…、自分のモンスターしかないのに…！」

…そうか！《人造人間 サイコ・リターナー》は墓地へ送られたとき、《人造人間？サイコ・ショッカー》する効果がある、それが狙い…！」

猪爪「その通り、お前のセットカードが畏カードなら、俺の勝ちだぜ！」

亮「くっ…」。

チエーンして発動！《針虫の巣窟》…！」

猪爪「ちっ、フリーチエーンだったか！」

だが、そのカードを発動したところで、何の意味がある！

そのカードの効果はデッキの上からカードを5枚墓地へ送るだけだ！」

亮「その通りだ、だが、お前も知っているはずだ！」

墓地へ送られたときに、効果が発動するカードがその中にあれば、その効果が発動する！」

猪爪「なっ…、まさかそれを狙って…！」

亮「いくぞ！まず1枚目！ ……《オーバー・ロード・フュージ

ヨン》」デッキ19 - 18

ちっ、と舌打ちをするが、続けてデッキのカードを墓地へ送る亮。

亮「2枚目！ ……《サイバー・ダーク・キール》」デッキ18

- 17

亮「3枚目！ ……くっ、《死者蘇生》」デッキ17 - 16

猪爪「…あと…2枚…！」

亮「…4枚目！ ……《極星獣グルファクシ》」デッキ16 -

15

4枚目までで、目的のカードが落ちていないためか、悔しがる亮。

猪爪「ここまでで落ちていない！奇跡なんて起こるわけがねえんだ！」

亮「ちっ…、だが…、もう1枚…もう1枚残っている！」

5枚目…！！！！」

猪爪「くっ…何のカードだ！」

亮「……」

カードを確認し……

微笑んだ。

亮「5枚目は…《ネクロ・ガードナー》…！」
デッキ15 - 14

猪爪「な…何だと!？」

亮「さあ、起こらない奇跡が起きた！

《針虫の巣窟》の処理が終了し、《ブラック・ホール》の処理になる！」

猪爪「くっ…《人造人間？サイコ・リターナー》を破壊し、墓地に存在する《人造人間？サイコ・ショッカー》を攻撃表示で特殊召喚する！」

【人造人間？サイコ・ショッカー 6 闇/機械 ATK/2400 DEF/1500】

猪爪「《人造人間？サイコ・ショッカー》でダイレクトアタック！

サイバーエナジー・ショック！！」

亮「墓地の《ネクロ・ガードナー》の効果発動！このカードをゲムから除外し、相手の攻撃を一度だけ無効にする！」

猪爪「くっ…！《人造人間？サイコ・リターナー》の効果で特殊召喚した《人造人間？サイコ・ショッカー》はこのエンドフェイズに破壊される…」

14ターン目

亮LP100 手札0 デッキ14

猪爪LP700 手札0 デッキ16

亮「…これがサイバー流とサイコ流の戦いの終幕！

俺のターン！！！！」手札0 - 1 デッキ14 - 13

猪爪「くっ…！ドローしたカードは…！」

亮「

《プロト・サイバー・ドラゴン》を召喚する！」

【プロト・サイバー・ドラゴン 3 光/機械 ATK/110
0 DEF/600】

猪爪「…くっ…、俺の…サイコ流の…負け…か…」

亮「《プロト・サイバー・ドラゴン》でダイレクトアタック…！！

エヴォリション・プロト・バアアストオオオオオ！

！！」

プロトサイバーATK1100 VS 直接

猪爪「く…くそっ…！」LP700-0

猪爪「…負けた、か」

地面に倒れこみ、一人呟く猪爪。

猪爪「…俺は負けたが、必ずお前に追いつく。

その時まで、最強の看板を下ろすんじゃねえぞ！サイバー流
！！」

亮「…勿論、そのつもりだ」

亮（…サイコ流…。

この男なら…、俺たちの助けになってくれるかもしれないな…）

亮「…ところで、一つ頼みがあるんだが」

その場を去ろうとする猪爪に亮が言う。

猪爪「…悪いが、俺はお前を認めているが、それでも敵だ。

それに、お前ほどの奴が頼むことを今の俺ができるとも思わない」

亮「……………」

猪爪「…次までには、お前以上に強くなって、その時に、そのお願いとやらを聞いてやる」

亮「……………わかった」

猪爪「…じゃあな」

亮「…ああ」

そう言って、猪爪は出口へ、亮はより奥へ進んでいった。

第25話 サイバ一流とサイコ流（後書き）

元キン「…あの猪爪という男」

満足「ん？」

元キン「どっから入ったんだ？」

満足「…さあな」

レ「おい、次回予告しろよ」

元キン「おおう、そうだったな」

満足「次回遊戯王第26話『プラネットシリーズ』」

元キン「この世界には存在しない、『プラネットシリーズ』の力が解放されるぞ！」

レ「次回のキーカードは『The splendid VENUS』
『…!』」

元キン「100年後の投稿を長々と待つが良い!」

レ「…そんな遅くないよ…多分」

満足「遅いと満足できねえぜ…」

おまけ

元キン「このコーナーでも残業手当が出るそうぞ！」

満足「いくらなんだ？」

元キン「2000円だ！」

満足「高すぎて逆に満足できねえぜ…」

《オーロラ・バトン》

通常罫

手札が0枚の場合、発動できる。

デッキからカードを2枚ドロ―し、その後、手札を1枚捨てる。

同一チェーン上に《オーロラ・バトン》が発動している場合、このカードは発動できない。

アニメオリジナル《オーロラ・ドロ―》と《Sp・エンジェル・バトン》を足して2で割った感じ。

《オーロラ・ドロ―》（アポリア使用：アニメオリジナル）

通常魔法

手札がこのカードだけの場合発動できる。

デッキからカードを2枚ドロ―する。

《Sp・エンジェル・バトン》（遊星使用：アニメオリジナル）

スピードスペル

スピードカウンターが2つ（ゲーム版では、7個だったり4個だったりする）以上あるとき発動できる。

デッキからカードを2枚ドロ―し、その後、手札を1枚捨てる。

強力なカードだが、手札0と通常罫の二つのデメリットがある。

ガン伏せから、3枚同時発動できないようにも規制している。

速効性を無くせば、手札交換も別に悪くはないだろうと思ひ、こんな感じになった。

ノーコスト手札交換は中々強力だが、発動条件の割にはあんまりアドが取れていない…？とか思つかもしれないが、《強欲な壺》以上の禁止の1枚《天使の施し》と同格にすると、それはそれで壊れる。単純ながら、中々使いにくい1枚。

手札0と言ったら、【インフェルニティ】だが、使っている皆様は入れるのか問いたい。
それ以外だと、やはり【暗黒界】【魔轟神】が妥当。

第26話 プラネット(前書き)

Q・何でこんなに投稿が早いのです？

A・キングだからだ!!!

頑張りました。ちょっとミスがあるかもしれませんが…。
あんまりおもしろくないんですけどね…。
では、26話をお楽しみください。

現状

幽・隼人・実・望 進行中

天保・クロウ ゴーストと戦闘中

綾香・龍亞・龍可 ゴーストと戦闘 休憩

亮 猪爪真と戦闘 進行中

遊星 囹として進行中

第26話 プラネット

それぞれが、過去に名を挙げたデュエリストの頭脳を持ったゴーストと戦っているが、それと同時に、この世界には無いはずの力も、少しずつ、形を見せ始めていた。

望「…えーっと……」

望が、ゴーストと対峙しているが、その顔が引きつっている。そして、固まっている。

望「…あのー、もう一度聞いてもいいですか？

わざわざゴーストとなのに名前まで教えてもらったのに…、すいませんけど…」

対峙しているゴーストに対し、恭しく？話しかける。
なぜ、彼女が、こんなに固まっているか？
その答えは当たり前だが、ゴーストにある。

ゴ「…もう一度言うわヨ、ワタシの名前は「レジー・マツケージ」
よ。

マツク、って呼んで頂戴」

そりゃ、外見機械、世間的性別は男であろうゴーストから、こんな
話し方で、女性の声が聞こえたら誰だって固まってしまっただろう。

望「…ゴーストじゃないんですか…？」

マツク「ええ、そうね。」

正確に言うなら、ワタシ…いえ、ワタシ達は、このつまりら
ない体に脳を移植された過去の人間よ」

望「…え？」

マツク「…さすがに驚くわよね。」

まあ、脳、と言うよりは、異世界で拾われた小さな闇、と
言うべきなのかしら」

望「…よくわからないんですけど…」

マツク「…わからなくて結構よ。こんな話されて分かる人なんてそ
う居ないわ」

望（ですよねー…）

マツク「さて、お話は終わり、ここからが本題よ」

そう言って、デュエルディスクを構えるマツク。

マツク「この体には、ご丁寧にくっつかデータがインプットされて
いるのよね」

望「…?」

マツク「その一つとして、ここへ来た敵を抹殺することなのよ」

望「…ご丁寧にデュエルで?」

マツク「この体は固いけど、動きにくいのよね、実戦には向かないわ。」

反面、デュエルなら、闇の力でダメージは実際のものになるし…、楽なのよね」

望「…逃げると言ったらどうしますか?」

マツク「大丈夫よ、この通路の周辺のシャッターを閉じて、逃げられないようにするだけ」

望「…もとより、ふとした疑問で聞いただけなので、逃げるつもりはないですよ」

そう言つて、同じくデュエルディスクを構える望。

マツク「お話はもう良いの?」

望「はい、構いませんよ」

それでは、始めましょうか」

望・マツク「デュエル!!!」

望LP8000 手札5 デッキ35

マツクLP8000 手札5 デッキ35

望「私の先攻です、ドロー」手札5 - 6 デッキ35 - 34

望「…《天空の使者 ゼラディアス》を手札から捨てて効果を発動します。

デッキより《天空の聖域》を手札に加えます」デッキ34 - 33

マック「…【天使族】のデッキね…」

望「フィールド魔法《天空の聖域》を発動します。これで天使族の戦闘が発生するダメージは0になります。

私はモンスターを守備表示でセットし、ターン終了です」

1ターン目

望LP8000 手札4 デッキ33 裏守

マックLP8000 手札5 デッキ35

F 天空の聖域

マック「ワタシのターン！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

マック「残念ネ、あなたとワタシのデッキの相性は悪いみたいよ」
望「え…」

マック「ワタシは《ジェルエンデュオ》を攻撃表示で召喚！」

望「…あなたも【天使族】…！」

【ジェルエンデュオ 4 光/天使 ATK/1700 DEF
/0】

マック「バトル！《ジェルエンデュオ》でセットモンスターに攻撃！
ミニマム・ジャツジメント！！」

ジェル ATK1700 VS ホーリー DEF2000

望「私のセットモンスターは《ホーリー・ジェラル》です。よって、戦闘では破壊されません！」

マック「だけど、ワタシのモンスターも天使族よ、あなたの《天空の聖域》の効果でダメージを受けないわ。

メインフェイズ2、カードを2枚セットして、ターンエン

ド

2ターン目

望 LP8000 手札4 デッキ33 ホーリー(D)

マック LP8000 手札3 デッキ34 ジェラル(A) セット2

F 天空の聖域

望「私のターンです。ドロー！」手札4 - 5 デッキ33 - 32

望「2体目の《ホーリー・ジェラル》を召喚します」手札5 - 4

【ホーリー・ジェラル 4 光/天使 ATK/1000 DE
F/2000】

望「手札より《ライトニング・チューン》を発動します。

この効果で私のフィールドのレベル4以下の光属性である《ホーリー・ジェラル》をチューナーとして扱います」手札4 - 3

【ホーリー・ジェラル 4 光/天使 光/天使 チューナ
I ATK/1000 DEF/2000】

マック「：チューナー？」

ああ、なるほど、未来の召喚方法、シンクロ召喚に必要な
モンスターだったわね」

望「：私はレベル4《ホーリー・ジェラル》にレベル4でチューナ
ーとなった《ホーリー・ジェラル》をチューニング！

天空の騎士が同調し、正義の名のもとに復讐を誓う！神聖なる
力を奮いて、悪を打ち滅ぼせ！ シンクロ召喚！裁け！《神
聖騎士パーシアス》！！！！」

【神聖騎士パーシアス 8 光/天使 ATK/2600 DE
F/2100】

望「《ホーリー・ジェラル》は《天空の聖域》が存在するとき、戦
闘以外の方法で墓地へ送られたら、LPを1000回復します。

2体が墓地へ送られたので2000のLPを回復します」LP
8000-10000
マック「LPが10000!？」

だけど、折角上級モンスターを召喚したけど、あなたの《
天空の聖域》で天使族による戦闘ダメージは0よ！どうするつもり
？」

望「：こうするつもりです。」

私はフィールド魔法を1枚セット！」手札3 - 2

マック「え…？」

望「フィールド魔法ゾーンは1か所。そこにフィールド魔法を再度発動、セットする場合は、前にあったフィールド魔法は破壊されるわ。」

「これを利用すれば、少ない損失で《天空の聖域》の効果を消すことができます！」

マック「…やるわね…」

望「《神聖騎士パーシアス》の効果！1ターンに一度、相手の表側表示のモンスター1体の表示形式を変更します。」

《ジェルエンデュオ》を守備表示に変更します」

マック「…！なぜ…、そんなことを…？」

望「バトルフェイズです！《神聖騎士パーシアス》で《ジェルエンデュオ》に攻撃！　ホーリー・エンジェル・スラッシュ！！」

神パーシアス ATK 2600　VS　ジェルDEF 0

マック「…くうううっ！なんで、戦闘ダメージを…っ！」LP 8
000 - 5400

望「《神聖騎士パーシアス》には貫通効果が備わっています。」

そして、ダメージを受けたら《ジェルエンデュオ》は自身の効果で破壊されるんですよ？」

マック「…その通りよ」

望「メインフェイズ2に私はカードを1枚セットして、ターンエンドです」

マック「このエンドフェイズに、《リビングデットの呼び声》を発動！」

墓地の《ジェルエンデュオ》を攻撃表示で特殊召喚する！」

【ジェルエンデュオ 4 光/天使 ATK/1700 DEF
/0】

望「…そのモンスター残しちゃったか…」

3ターン目

望LP10000 手札1 デッキ32 神パーシアス(A) セ
ット

マックLP5400 手札3 デッキ34 ジェル(A) リビン
グ セット

F ????

マック「やるわね…ワタシのターン！」手札3 - 4 デッキ34 -
33

マック「…さあ、見せてあげるわ。ワタシの華麗なる…切り札を！」
望「…こんなに早く切り札を!？」

マック「《ジェルエンデュオ》は光属性・天使族モンスターを生け
贄召喚する場合、1体で2体分の生け贄となる！」

望「…やっぱり、その効果で最上級モンスターを呼ぶつもり…」

マック「《ジェルエンデュオ》をリリース！」

これが私の華麗なる切り札…

《The splendid

VENUS《！！》手札4-3

【The splendid VENUS 8 光/天使 ATK
K/2800 DEF/2400】

望「…《The splendid VENUS》…？

そんなモンスター…見たこと無い…っ！

マック「…このカードは、『プラネットシリーズ』と呼ばれる、世界に1枚しかないカードよ」

望「…プラネット…？」

マック「それぞれが惑星の力を得ている。

このカードは『VENUS』…金星の力を得ているわ。

さあ、私の切り札の力にひれ伏すが良い！

《The splendid VENUS》で《神聖騎士
パーシアス》に攻撃！！ ホーリー・フェザー・シャワー！

！！！！

望「くっ…！！トラップ発動！《ドレインシールド》！相手の攻撃を無効にし、その攻撃力だけ私のLPを回復します！」

マック「甘いわ、《王宮のお触れ》を発動！互いのこのカード以外のフィールドの罠カードの効果を無効にするわ」

望「なっ…！！」

VENUS ATK2800 VS 神パーシアスATK2600

望「っ…あっ…！！」LP10000-9800

マック「メインフェイズ2にカードを1枚セットして、ターンエンド」

4ターン目

望LP9800 手札1 デッキ32

マックLP5400 手札2 デッキ33 VENUS(A) リ

ピング お触れ セット

F ????

望「…私のターンです！」手札1 - 2 デッキ32 - 31

望（…ライフアドの差はある…。本来なら中々良い状況なんだけど…。

セットされたフィールド魔法は《天空の聖域》だし…。

だけど、相手も【天使族】、迂闊に発動したら戦闘ダメージを与えられない…。

それ以外のアドは差がかなりついてて…、正直厳しい状況…)

望「…《死者蘇生》を発動！墓地から《神聖騎士パーシアス》を攻撃表示で特殊召喚します！」手札2 - 1

【神聖騎士パーシアス 8 光/天使 ATK/2600 DE
F/2100】

望（《王宮のお触れ》があるから、セットカードは無視！

それに、《The splendid VENUS》の守備力は2400…、ギリギリ《神聖騎士パーシアス》で対処できる…！)

望「《神聖騎士パーシアス》の効果発動です。《The splendid VENUS》を守備表示に変更します！

《神聖騎士パーシアス》で《The splendid VENUS》

S《に攻撃！！　　ホーリー・ナイト・スラッシュ！！》
マック「リバーカードオープン！《聖なるバリア　ミラーフォ
ース》！」

望「だけど、あなた自身の《王宮のお触れ》の効果で《聖なるバリ
ア　ミラーフォース》の効果は無効になります！」

マック「…残念ね！良い考えだけど、無知が敗北へとつながったよ
うね！

《The splendid VENUS》が存在する限り、私の
魔法・罠カードは無効にされない！」

望「じゃあ…、それって…」
マック「気づいたようね、《王宮のお触れ》で罠を封じられるのは
あなただけなのよ！

《聖なるバリア　ミラーフォース》の効果でああなたの攻
撃表示のモンスターをすべて破壊する！」

望「くっ…、そんな…っ！」

望（…場がから空き…！

だけど、このまま相手にターンを渡すわけには行かない…！）

望「《光の護封剣》を発動します！

これでああなたは3ターンの間、攻撃できません！

これで私はターンエンドです！」

5ターン目

望LP9800　手札0　デッキ31　護封剣（0）

マックLP5400　手札2　デッキ33　VENUS（D）　リ

ビング　お触れ

F ????

マツク「防戦一方ね、ワタシのターン！」手札2 - 3 デッキ33
- 32

マツク「まずは、《The splendid VENUS》を攻撃表示に変更。

そして、ワタシは《リビングゲットの呼び声》をコストに《マジック・プランター》を発動！デッキからさらにカードを2枚ドロ―！
手札3 - 4 デッキ32 - 30

マツク「そして《ワタポン》は魔法・罠・モンスター効果で手札に加わったとき、特殊召喚ができる！」手札4 - 3

【ワタポン 1 光/天使 ATK/200 DEF/300】

望（…《ワタポン》…、こんな状況でも癒される…）
わかるよ、でも戦い中に顔をニヤけさせない。

マツク「そして私は《ワタポン》を生け贄に《天魔神 インヴェシル》を召喚！」手札3 - 2

望「…へ？」

癒されていた顔から元に戻る望。

【天魔神 インヴェシル 6 地/天使 ATK/2200 D
EF/1600】（光・天使をリリース）

マツク「フフフ、この状況が呑み込めたようね。

《王宮のお触れ》は互いの罠、そして光属性・天使族を生

け贄に召喚した《天魔神 インヴィシル》は互いの魔法を無効にするわ」

望「…！《The splendid VENUS》には…」

マック「そう！《The splendid VENUS》は私の魔法・罠カードの効果を無効にされない効果がある！

このフィールドにより、あなただけの魔法・罠を完全に封じたわ！」

望「っ…そんな…！」

マック「当然《光の護封剣》も無効になるわ！よって、ワタシのモンスターも攻撃が可能！」

《The splendid VENUS》でダイレクト

アタック！！ ホーリー・フェザー・シャワー！！」

VENUS ATK2800 VS 直接

望「うわああああああああつ！！」LP9800 - 7000

マック「《天魔神 インヴィシル》でダイレクトアタック！！

愚者の裁き！！」

インヴィシル ATK2200 VS 直接

望「ぐあ… ああうっ…」LP7000 - 4800

マック「フッフ、もう諦めたらどう？」

ワタシはこれでターンエンドよ」

(剣：1ターン目)

6ターン目

望LP4800 手札0 デッキ31 護封剣(1)
マックLP5400 手札2 デッキ30 VENUS(A) イ
ンヴェシル(A:天使贄) お触れ
F ????

望「…諦めないですよ、絶対…っ！」

私のターン!」手札0-1 デッキ31-30

望(よし!次のターンまで粘れば…!)

望「モンスターをセットして、ターンエンドです」

7ターン目

望LP4800 手札0 デッキ30 裏守 護封剣(1)
マックLP5400 手札2 デッキ30 VENUS(A) イ
ンヴェシル(A:天使贄) お触れ
F ????

マック「あら、もう少し抵抗を見せてくれても良いのに。

ワタシのターン!」手札2-3 デッキ30-29

マック「《天魔神 インヴェシル》でセットモンスターに攻撃!

愚者の裁き!」

インヴェシルATK2200 VS メタモルDEF600

望「…《メタモルポット》のリバーズ効果で互いに手札をすべて捨て、デッキからカードを5枚ドロウします！」

マック「あら、さっきのドロウで引くなんて運がいいわね」

望 手札0 - 5 デッキ30 - 25 マック 手札3 - 5 デッキ29 - 24

マック「ならば…、《The splendid VENUS》でダイレクトアタック！ ホーリー・フェザー・シャワー！！」

VENUS ATK2800 VS 直接

望「うあっ…あああああああっ！！！」LP4800 - 2000

マック「ピンポイントで《メタモルポット》をドロウして、アド差をなくすのは見事だけど、ワタシにアドを与えたのは間違いだったわね！

《ジェルエンデュオ》を召喚！」手札5 - 4

【ジェルエンデュオ 4 光/天使 ATK/1700 DEF/0】

望「くっ…、また上級モンスターを展開するつもり…？」

マック「残念だけど、その通りよ！

《二重召喚》を発動し、このターンもう一度通常召喚を行うことができる！」手札4 - 3

望「嘘…、このターンで早くも展開を…！」

マック「《ジェルエンデュオ》を生け贄に捧げ

現れる！美しき女神、《アテナ》！！」手札3 - 2

【アテナ 7 光/天使 ATK/2600 DEF/800】

望「な…っ！この状況で…《アテナ》を…っ」
マツク「やはり【天使族】だからご存知のようね。

《アテナ》の効果！ワタシの場の天使族を墓地へ送り、ワタシの墓地の天使族1体を特殊召喚する！この効果で、フィールドの《The splendid VENUS》を墓地へ送り、再び《The splendid VENUS》を特殊召喚する！」

【The splendid VENUS 8 光/天使 AT
K/2800 DEF/2400】

マツク「そして、《アテナ》の効果発動！天使族の召喚・反転召喚・特殊召喚に成功したとき、相手のLPに600のダメージを与える！」

望「あつ…あああああつ…！」 LP2000 - 1400

マツク「これでワタシのターンは終了よ」

(剣：2ターン目)

8ターン目

望LP1400 手札5 デッキ25 護封剣(2)

マツクLP5400 手札2 デッキ25 VENUS(A) イ

ンヴィシル(A：天使贄) アテナ(A) お触れ

F ????

望「…私のターンです！」 手札5 - 6 デッキ25 - 24

マック「さあ、見せて頂戴、この状況をどうやって打破するのかを！」

望「…《天魔神 インヴェシル》で魔法、《王宮のお触れ》で罫が封じられてて…、しかも私のデッキの主力である天使族を召喚したら《アテナ》でダメージを受ける…。

…考えるんだ、ここで諦めて考えることをやめたら本当に負けだし。

しかも、命までかかっているんだから、絶対に負けられない…！)

望「…いきますよ！」

私はセットしたフィールド魔法、《天空の聖域》を発動！」

マック「アラ、そのカードを伏せていたのね。でも、《天魔神 インヴェシル》の効果であなたの魔法の効果は無効になるわ」

望「でも、効果が無効になっても、その存在を打ち消すことはできません！」

6 - 5 手札より《天空の使者 ゼラディアス》を召喚します！」手札

【天空の使者 ゼラディアス 4 光/天使 ATK/2100 DEF/800】

マック「そういう事ね、《天空の使者 ゼラディアス》は《天空の聖域》が無いと、破壊されてしまう。だから、無意味でも《天空の聖域》を発動したのネ。

でも、《アテナ》が居ることを忘れてはいけないわよ。効果により600のダメージを受けなさい！」

望「うああああ… ああっ！」 LP1400 - 800

マック「それにダメージを受けてまで召喚したモンスターも攻撃力2100、どうするつもりなのかしら？」

望「…っ！ 《天空の使者 ゼラディアス》で《天魔神 インヴェシル》に攻撃！！ スカイ・ランス！！」

ゼラディアス ATK2100 VS インヴェシル ATK2200

マック「くっ、攻撃力の低いモンスターで攻撃してくるといことは…」

望「そうです！ 私は手札の《オネスト》を墓地に送って効果を発動！

私の光属性のモンスターが戦闘を行う際、手札のこのカードを墓地へ送り、戦闘するモンスターの攻撃力を私のモンスターの攻撃力に加えます！

この効果で、《天魔神 インヴェシル》の攻撃力2200を《天空の使者 ゼラディアス》に加えます！」 手札5 - 4

【天空の使者 ゼラディアス 4 光/天使 ATK/2100 - 4300 DEF/800】

ゼラディアス ATK4300 VS インヴェシル ATK2200

マック「くうっ…っ！！」 LP5400 - 3300

望「そして、《天魔神 インヴェシル》が消えたことにより、《光の護封剣》の効果が復活し、あなたの攻撃を残り1ターン封じます！

カードを2枚セットして、ターンエンドです！」

9ターン目

望LP800 手札2 デッキ24 ゼラディアス(A) 護封剣
(2) セット2
マックLP3300 手札2 デッキ25 VENUS(A) ア
テナ(A) お触れ
F 天空の聖域

マック「…《光の護封剣》ね…、その程度でワタシの攻撃を封じたつもり?」

望「えっ…!」

マック「ワタシのターン!」手札2 - 3 デッキ25 - 24

マック「《ワタポン》を召喚!」手札3 - 2

【ワタポン 1 光/天使 ATK/200 DEF/300】

マック「《アテナ》の効果で600のダメージを与えるわ!」

望「うあああああああ!!!」LP800 - 200

望「くっ…、あと1回で…LPが尽きる…!」

マック「その通りよ!これであなたは終わり!《アテナ》の効果で、コストとして《ワタポン》を墓地へ送り、墓地の《天魔神 インヴイシル》を蘇生させるわ!」

望「…!まだです!《アテナ》の蘇生効果にチェーンして、《光の収集》を手札全てをコストに発動します!」手札2 - 0

マック「甘いわ!ワタシのフィールドの《王宮のお触れ》で畏の効果は無効になる!《光の収集》で光属性モンスターを手札に戻すつ

もりだったのでしょうか、無効にされては何も意味を成さないわ
！」
望「…！」

マツク「蘇りなさい！ 《天魔神 インヴェシル》！！」

【天魔神 インヴェシル 6 地/天使 ATK/2200 D
EF/1600】

マツク「《アテナ》の効果で600のバースタダメージ！これで終わ
りよー！」

望「く…っ…！」

まだ終わりません！

《光の収集》で墓地へ送った《ダメージ・イーター》の効果で《ア
テナ》のバースタ効果にチェインして発動します！」

マツク「何ですって！？墓地からのモンスター効果！？」

望「《ダメージ・イーター》は墓地に存在するとき真価を発揮しま
す！」

このカードをゲームから除外して、相手の効果ダメージを無効

にし、その数値だけ私のLPを回復します！

《アテナ》のダメージ600を無効にして、LPを600回復します！」LP200-800

マック「くっ…予想外だったわね…。このダメージを防ぐだなんて…！」

「ただ、このターンのエンドフェイズにあなたが発動した《光の護封剣》の効果は失われ、破壊されるわ！」

望「それもさせません！《非常食》をメインフェイズ2終了時に発動します！」

「このカードの効果で《天空の聖域》と《光の護封剣》を墓地へ送り、2000LPを回復します！」LP800-2800

マック「くっ、でも《天空の聖域》が無くなったことで《天空の使者》ゼラディアス《も破壊されるわ！」

9ターン目

望LP2800 手札0 デッキ24

マックLP3300 手札2 デッキ24 VENUS(A) イ

ンヴェシル(A) アテナ(A) お触れ

望「私のターンです！」手札0-1 デッキ24-23

望「《貪欲な壺》を発動します！」手札1-0

マック「ここでドロースースのカードをドロースるなんて…！」

望「墓地の《神聖騎士パーシアス》《ホーリー・ジェラル》《天空の使者》ゼラディアス《2枚、《メタモルポット》の合計5枚をデ

ツキに戻して、シャッフルします！

そして、2枚をドロ―！」手札0 - 2 デッキ23 - 27 - 25

望(…一か八か…！)

望「私は《ミスティック・パイパー》を召喚します！」手札2 - 1

【ミスティック・パイパー 1 光/魔法使い ATK/0 D
EF/0】

望「《ミスティック・パイパー》の効果自身をリリースして発動します！

デッキからカードを1枚ドロ―し、そのカードを互いに確認し、そのカードがレベル1モンスターだった場合、もう1枚ドロ―します！」手札1 - 2 デッキ25 - 24

ドロ―したカードを確認する望。

マック「さあ、何のカードをドロ―したの？」

望「 《ハネワタ》、レベル1のモンスターです！よって、もう1枚ドロ―します！」手札2 - 3 デッキ24 - 23

望「手札の《ハネワタ》は手札のこのカードを墓地へ送り、このターンの効果ダメージを0にします！」手札3 - 2
マック「折角、LPを2800まで増やしたのに、わざわざ《アテナ》の効果ダメージを0にするの？」

望「いえ、私の本当の狙いは、手札に眠った切り札を召喚することです！」

そして、今、その召喚条件が揃いました！」

マック「……！なんですって！」

望「墓地の天使族モンスターは《ハネワタ》《オネスト》《ホーリー・ジェラル》そして、《光の収集》で捨てられた《天空騎士パシアス》の4体です！その場合、手札から特殊召喚出来るモンスターが居ます！」

頂点の天使よ！神々しき輝きで、この場の生命を服従させよ！

《大天使クリスティア》！！」手札2 - 1

【大天使クリスティア 8 光/天使 ATK/2800 DE
F/2300】

マック「……そのモンスターは！」

望「このモンスターが自身の効果で特殊召喚に成功したとき、私の墓地の天使族1体を手札に加えます！《オネスト》を手札に戻します！」手札1 - 2

マック「くっ……！そんな、この状況で《オネスト》を……！」

望「そして手札より装備魔法《ダグラの剣》を発動します！」

このカードは天使族にのみ装備可能で、その攻撃力を500ポイントアップさせます！」手札2 - 1

【大天使クリスティア 8 光/天使 ATK/2800 - 33
00 DEF/2300】

マック「…っ！この状況で…、逆転…？」

望「これで私の勝ちです！《大天使クリスティア》で《The splendid VENUS》に攻撃！！
アーク・ジャツ
ジメント！！！」

クリスティア ATK 3300 VS VENUS ATK 2800

望「手札の《オネスト》の効果発動！光属性モンスターの戦闘時、相手の攻撃力を自身の攻撃力に加えます！」

【大天使クリスティア 8 光/天使 ATK/3300 - 61
00 DEF/2300】

クリスティア ATK 6100 VS VENUS ATK 2800

マック「うあああああああああつ！！！！」 LP 3300 - 0

女性っぽい声（外見を見てみると、妙な音に聞こえる）で悲鳴をあげて、倒れるゴースト。

望「…あんまり悪い人じゃなかったんだけどなあ…」

申し訳なさそうにゴーストを見る望。

望（……プラネットシリーズのカード…）

デュエルディスクに置かれているカードの中、理由はわからないが、たった1枚、《The splendid VENUS》が、とにかく目立つ。

望（…あんな強力なカード…、他にもあるのかな…）。

にしても、今回は疲れたなあ…、まあ、休んでいる暇じゃないんだけど…）

そして、望は

第26話
E
N
D

第26話 プラネット（後書き）

次回予告

レ「とにかく思うのは強さは一般的にクリスティア>VENUSだ
と思うんだ」

満足「そんなOCGで比べちゃ満足できねえぜ…」

元キン「その通りだ!!!」

満足「それにそれを言ったら読者から『レモンwww』って笑われることになる」

元キン「そんなふざけた笑い方をする奴はこのジャック・アトラスの絶対的なパワーでねじ伏せてやる!!!」

レ「…レモンファンの皆様、すまない…」

元キン「次回予告だ！遊戯王第27話『孤独の力、集いし力』!!!」
満足「それぞれが目標とする力の形が激突する。

勝つのは、一つの強い力が、多数の弱い力が…」

レ「キーカードは2枚目のプラネット、《The tyrant
NEPTUNE》!!!」

頑張って早く執筆するので待っていてください！」

おまけ

満足「このコーナーはまだ続くのか？」

元キン「そのようなんだが…」

満足「どうかしたのか？」

元キン「著者は記憶障害と思うくらい記憶が悪いんだ。

だから、いつも良いカードを考えてもすぐに忘れてしまっ
んだ！」

満足「…適当に考えたカードじゃ、満足できねえぜ…」

《サイバネティック・フュージョン》

通常魔法

ライフを半分払う。

自分の墓地に存在する《サイバー・ドラゴン》3枚をゲームから除
外し、エクストラデッキに存在する《サイバー・エンド・ドラゴン
》1体を特殊召喚する。

この特殊召喚は融合召喚扱いとする。

アニメオリジナル《サイバネティック・フュージョン・サポート》
を修正したもの。

《サイバネティック・フュージョン・サポート》（使用者：丸藤亮）
速攻魔法

ライフを半分払って発動する。

このターン、機械族融合モンスターを召喚する場合、自分の墓地の
モンスターを融合素材とすることができる。

（詳しくは覚えていません、大体雰囲気？でお願いします）

《パワーボンド》で【未来オーバー】と同じ動きができ、攻撃力が

それ以上に上昇するし、テキストを見るとそのターン中有効で、機械族なので、色々コンボがありそうな気がしたので、《サイバー・エンド・ドラゴン》専用のサポートカードに変更。

膨大なライフを消費し、手札1枚から攻撃力4000で貫通持ちを出すチートカード。

Sinサイバーエンドは、フィールド魔法がないとダメ、攻撃制限とデメリットがあるが、召喚条件が軽い、スキドレでなんとかなら、と一長一短である。

サイバーダークの専用融合があるのに、サイバーエンドが無いとは何事だ！と思い、こんな感じの融合魔法になりました。

特に捻りはない。OCGになってもそれなりに出番がある程度だと思ふ。

ただ巨大化ワンキルが出来るので、それはそれで凶悪な気がする。因みに《プロト・サイバー・ドラゴン》は融合素材にできません。

コンボとしてはLP半分なので《異次元からの帰還》が良いと思う。《サイバー・ドラゴン》を手札に戻せる《救援光》もLPアドが厳しいかもしれないが良い。

《魔力儉約術》でチート化する。

そう考えると少し強すぎるかな・・・？

第27話 孤独の力、集いし力（前書き）

オシリスとマアトとホルアクティのOCG化だそうですね。

すごいテンションあがりました。

特にホルアクティは笑えない。ロマンカードすぎるwww
しかし、まずい状況になりました。

神のリリースのためにレベステが使われて環境トップになり、次の制限でレベステが制限になってしまっ！！

何妄想してるの？とか言わないでくださいね。

では、短い第27話です。28話から少しずつ面白くなってくると
思いますので、楽しみにしてください。

現状

幽・隼人・実・望 進行中

天保・クロウ ゴーストと戦闘中

綾香・龍亞・龍可 ゴーストと戦闘 休憩

望 ゴーストと戦闘 進行中

亮 猪爪真と戦闘 進行中

遊星 囿として進行中

第27話 孤独の力、集いし力

新たなる脅威として立ちはだかった『プラネットシリーズ』

それぞれが戦いの中で奥地に進んで行く中、この人物に、プラネットの脅威が降りかかる

実「ふえつくしゅっ！」

…誰か噂でも…してるのかな…」

クシャミ「噂っていうのはどんな根拠があって、言われているんだろっか？」

一度調べてみたいものである。

実「…ゴースト…か…」

自分が前に戦った事を思い出す。

実「…次は…、勝てるのかな…、ゴーストに…」

そう呟くと

？「残念だがそれは無理だな、お嬢ちゃん！」

実「！誰！？」

誰かは言わなくてもわかるが、実が進むはずの通路に先にゴーストが居た。

実「…っ、ゴースト…！」

ゴ「おいおい、そんな無粋な呼び方は止してくれよ！」

俺にも『ジエームズ・クロコダイル・クック』っていう名前があるんだぜ！」

実「…ゴーストですよ…？ゴーストにも名前があるんですか？」

ゴ「ふん、この姿は仮の姿なんだよ！」

実際は「よ」

遊星「おい、説明しろよ」

すいません、でも、26話と同じことをグダグダと言うのもあれじ

やないですか？
というわけで、箇条書きです！

デュエリストの頭脳を持つゴーストとは？

- ・一部のゴーストには、デュエリストの意思が埋め込まれている
- ・その意思是、その人の小さな闇から取り出したもの
- ・声は変わる
- ・外見は変わらない
- ・一応、ゴースト（仮の姿）にデータがインプットされていて、その一つとして敵をデュエルで抹殺する指令が出ている
- ・ゴーストの体は重いため、リアルファイトでは分が悪いためデュエルで抹殺するようにしている
- ・攻撃力0だが、守備力は8000（LP）
- ・逃げる場合はシャッターを閉める
- ・とにかくデュエル脳

説明し忘れていましたが、この時代の知識はあります。
シンクロやエクシーズも知ってるよ！（前の話で説明しなかったのはミス）

実「…守備力8000…！」

ジム「そこは驚く内容じゃない！」

実「…リアルファイトで進めたら進みたかったから…」

おい、デュエルしろよ。

しかも、お前、味方だろ。

ジム「…残念だが、そんなことはさせる気はない！」

実「…わかりました。」

力づくでもそこを通らせてもらいます!」
ジム「面白い!その力を見せてもらおう!」

実・ジム「デュエル!!!」

実LP8000 手札5 デッキ35
ジムLP8000 手札5 デッキ35

実「あたしが先攻を貰います!ドロー!」手札5・6 デッキ35
- 3 4

実「モンスターを裏側守備表示で召喚して、カードを1枚セットしてターンエンドです!」

1ターン目

実LP8000 手札4 デッキ34 裏守 セット

ジムLP8000 手札5 デッキ35

ジム「俺のターン！ドロー！」手札5 - 6 デッキ35 - 34

ジム「俺は手札から《古のルール》を発動する！」手札6 - 5

実「な…、いきなり上級モンスターを出すつもり!？」

ジム「その通りだ!」

《古のルール》の効果で手札のレベル5以上の通常モンスター1体を特殊召喚する!

現れる!《ゴギガ・ガガギゴ》!」手札5 - 4

【ゴギガ・ガガギゴ 8 水/爬虫類 ATK/2950 DE
F/2800】

実「わずか1ターンで…攻撃力2950!？」

ジム「この程度で驚くのは早いぜ!

手札より《ライオ・アリゲーター》を召喚!」手札4 - 3

【ライオ・アリゲーター 4 水/爬虫類 ATK/1900
DEF/200】

ジム「《ライオ・アリゲーター》には、このカード以外の爬虫類族が存在するとき、俺の爬虫類族モンスターに貫通効果を与える!」
実「な…いきなり攻撃力2950の貫通!？」

ジム「これが爬虫類のパワーだ！くらえ！！」

《ゴギガ・ガガゴ》よ！セットモンスターを叩き潰せ！！

崩壊の拳！！」

ゴギガ ATK 2950 VS 河童 DEF 1000

実「うああああああああああ！！」LP 8000 - 6050

ジム「《ライオ・アリゲーター》でダイレクトアタック！！

太古の進撃！！」

ライオ ATK 1900 VS 直接

実「きゃあああつ！！」LP 6050 - 4150

実「…《人海戦術》を発動します…！」

あたしのレベル2以下の通常モンスターが戦闘で破壊されたターンのエンドフェイズにデッキのレベル2以下の通常モンスターを破壊された数だけ特殊召喚出来ます…！！」

ジム「ふん、雑魚をいくら呼び出しても何もできないぜ！

さあ、ターンエンドだ、存分に雑魚を呼び出しな！」

実「…あなたみたいに、個々の力に頼る人には、小さい力の強さが分からないでしょうね！

あたしはデッキより《海皇の長槍兵》を守備表示で特殊召喚します！」デッキ34 - 33

【海皇の長槍兵 2 水/海竜 ATK/1400 DEF/0】

実LP4150 手札4 デッキ33 海皇(D) 人海
ジムLP8000 手札3 デッキ34 ゴギガ(A) ライオ(A)

実「くっ…、この程度…っ！」

あたしのターンです！」手札4 - 5 デッキ33 - 32

実「《増援》を發動します！デッキのレベル4以下の戦士族モンスター1体を手札に加えます！」

デッキより、《ジャンク・シンクロン》を手札に加えます！」

デッキ32 - 31

ジム「レベル3のモンスターを加えて、何をするつもりだ！」

実「手札より《ジャンク・シンクロン》を攻撃表示で召喚！」手札5 - 4

【ジャンク・シンクロン 3 闇/機械 チューナー ATK/1300 DEF/500】

ジム「ちっ、そのモンスターはシンクロ召喚に必要なチューナーだったか！」

実「《ジャンク・シンクロン》は召喚に成功したとき、墓地のレベル2以下のモンスターの効果を無効にし、守備表示で特殊召喚します！」

この効果で《サイコ・カップ》を蘇生させます！」

【サイコ・カップ 2 水/水 ATK/400 DEF/1000】

実「レベル2の《サイコ・カッパー》にレベル3の《ジャンク・シンクロン》をチューニング!!」

【サイコ・カッパー 2】+【ジャンク・シンクロン 3】
5 〓

実「弱き力を集わせる戦士よ!今こそ沢山の仲間の力を借りて悪を滅ぼして!シンクロ召喚! 集え!《ジャンク・ウォリアー》
!...!」

【ジャンク・ウォリアー 5 闇/戦士 ATK/2300 D
EF/1300】

実「《ジャンク・ウォリアー》はシンクロ召喚に成功したとき、あたしの場のレベル2以下のモンスターの攻撃力をこのカードの攻撃力に加えます!

《海皇の長槍兵》の攻撃力は1400!よって、《ジャンク・ウォリアー》の攻撃力を1400ポイントアップ!」

【ジャンク・ウォリアー 5 闇/戦士 ATK/2300 - 3
700 DEF/1300】

ジム「何だと!攻撃力3700!?!」

実「《ジャンク・ウォリアー》で《ゴギガ・ガガギゴ》に攻撃!
スクラップ・フィスト!!!」

ウォリアー ATK3700 VS ゴギガ ATK2950

ジム「ぐはああっ!」 LP8000 - 7250

実「あたしはカードを1枚セットして、ターンエンドです！」

3ターン目

実LP4150 手札3 デッキ31 ウォリアー(A:3700)

海皇(D) 人海 セット

ジムLP7250 手札3 デッキ34 ライオ(A)

ジム「ちっ、俺のターン!!!」手札3 - 4 デッキ34 - 33

ジム「結束なんてくだらない力、叩き潰してやる!《ライオ・アリゲーター》で《海皇の長槍兵》に攻撃する! 太古の進撃!」

実「トラップ発動!《ジェネレーション・チェンジ》!あたしの場のモンスター1体を破壊し、同名モンスターをデッキから手札に加えます!

《海皇の長槍兵》を破壊し、デッキより2体目の《海皇の長槍兵》を手札に加えます!」手札3 - 4 デッキ31 - 30
ジム「なっ...!攻撃をかわされただど!?

ちっ、メインフェイズ2に俺は《ライオ・アリゲーター》を生け贄に捧げ、《スパウン・アリゲーター》を召喚!」手札4 - 3

【スパウン・アリゲーター 5 水/爬虫類 ATK/2200 DEF/1000】

ジム「《スパウン・アリゲーター》は爬虫類族モンスターを生け贄にして召喚に成功したとき、そのエンドフェイズに生け贄に使用し

たモンスター1体を墓地から特殊召喚できる！

カードを2枚セットして、このエンドフェイズに墓地の《ライオ・アリゲーター》を守備表示で特殊召喚して、ターンエンドだ！

【ライオ・アリゲーター 4 水/爬虫類 ATK/1900 DEF/200】

4ターン目

実LP4150 手札4 デッキ30 ウォリアー(A:3700)
人海

ジムLP7250 手札1 デッキ33 ライオ(D) スパウン
(A) セット2

実「あたしのターンです！」手札4-5 デッキ30-29

実「《海皇の長槍兵》を再び召喚します！」手札5-4

【海皇の長槍兵 2 水/海竜 ATK/1400 DEF/0】

実「そして装備魔法《守護神の矛》を《海皇の長槍兵》に装備します！

この装備魔法の効果で装備モンスターと同名モンスターが墓地に存在するとき、その枚数×900ポイントの攻撃力を得ます！

墓地には《ジェネレーション・チェンジ》の効果で《海皇の長槍兵》が1体居ます！

よって、攻撃力を900ポイントアップ！」手札4-3

【海皇の長槍兵 2 水/海竜 ATK/1400 - 2300
DEF/0】

実「バトルです！《ジャンク・ウォリアー》で
ジム「甘いぜ！《威嚇する咆哮》を発動！発動ターン、相手は攻撃
宣言を行えない！」

実「…！くっ…、ターンエンドです」

5ターン目

実LP4150 手札3 デッキ29 ウォリアー(A:3700)

海皇+守護神(A:2300) 人海

ジムLP7250 手札1 デッキ33 ライオ(D) スパウン

(A) セット

ジム「くっ…、貴様が言う力なんて、結束なんて、この俺は認めない！

力とは、他者を蹴落とし、自分の思うがままに使う事の出来る、そんな事を言う！」

実「違います！人を守れず、何が力ですか！

そんな自己満足では、いずれあなたの言う偽りの力でその身を滅ぼすことになります！」

ジム「黙れ！貴様のように、『一緒に成長しよう』なんて言いそうな思考をしている奴に…、力のために貪欲になれない奴に、自分の欲望に素直になれない奴に、この俺は負けない！！

俺のターンだ！！」手札1 - 2 デッキ33 - 32

ジム「トラップ発動！《無謀な欲張り》！デッキからカードを2枚
ドロ―し、その後2ターンの間のドロ―フェイズをスキップする！」
デッキ2 - 4 デッキ32 - 30

実「…そんなデメリットを冒してまで…、本当に…力に貪欲に…！」

ジム「俺は手札から《スネーク・レイン》を発動！手札を1枚捨て、
デッキの爬虫類族4体を墓地へ送る！

俺はデッキより《ゴギガ・ガガギゴ》2体と、《スパウン・ア
リゲーター》《ギガ・ガガギゴ》の4体を墓地へ送る！！」手札4
- 2 デッキ30 - 26

実「な…、デッキから4体ものモンスターを墓地へ！？」

ジム「そして俺は《継承の印》を発動！

墓地に同名モンスターが3体存在するとき、その内1体を俺
の場に特殊召喚し、このカードを装備する！

俺の墓地には《ゴギガ・ガガギゴ》が3体存在する！よって、
墓地の《ゴギガ・ガガギゴ》を特殊召喚！」手札2 - 1

【ゴギガ・ガガギゴ 8 水/爬虫類 ATK/2950 DE
F/2800】

ジム「そして、俺は…、フィールドの《ライオ・アリゲーター》と
《スパウン・アリゲーター》を生け贄に捧げ

現れる！冷たき暴君！
《The tyrant NEPTUNE》！！」手札1-0

【The tyrant NEPTUNE 10 水/爬虫類
ATK/0 DEF/0】

実「な：《The tyrant NEPTUNE》：？」

ジム「これが俺の切り札！プラネットシリーズの1枚、《The tyrant NEPTUNE》だ！

《The tyrant NEPTUNE》は生け贄にしたモンスターの攻撃力と守備力のそれぞれの合計をこのカードの攻撃力と守備力に加え、さらに生け贄に捧げたモンスター1体を選択し、その効果と名前を得る！

《ライオ・アリゲーター》は攻撃力1900守備力200、
《スパウン・アリゲーター》は攻撃力2200守備力1000。さらに、俺は墓地の《ライオ・アリゲーター》の効果を《The tyrant NEPTUNE》に吸収させる！」

【The tyrant NEPTUNE ライオ・アリゲーター
10 水/爬虫類 ATK/0-4100 DEF/0-1200】

実「…攻撃力4100!？」

ジム「全てを踏み台にした暴君の力を思い知れ！《The tyrant

ant NEPTUNE》で《ジャンク・ウォリアー》に攻撃！！
Sickle of ruin！！！！

NEPTUNE ATK4100 VS ウォリアーATK3700

実「きゃああああつ！！」LP4150 - 3750

ジム「続けて《ゴギガ・ガガギゴ》で《海皇の長槍兵》に攻撃する！！
崩壊の拳！！！！」

ゴギガATK2950 VS 海皇ATK2300

実「うああああ…ああつ！！」LP3750 - 3300

ジム「貴様が信じる結束なんぞこの程度！さあ、諦めるんだな！

ターンエンド！！！！」

実「…まだ…です。《人海戦術》の効果を発動して、デッキから3
体目の《海皇の長槍兵》を攻撃表示で特殊召喚します」デッキ29

- 28

【海皇の長槍兵 2 水/海竜 ATK/1400 DEF/0】

ジム「ふん、無駄に粘るとは、可愛くない女だ」

実「…可愛くなくて結構です」

ジム「…生意気な、次のターンで叩き潰してやる！！」

6ターン目

実LP3300 手札3 デッキ28 海皇(A) 人海

ジムLP7250 手札0 デッキ26 NEPTUNE(A:4

100) ゴギガ(A) + 継承

実「…あなたが言う力なんて…、何も…、何も…意味がないじゃないですか！」

ジム「意味なんてなくても、この俺自身が楽に生きるための力があれば良いのさ！」

実「そんな力あたしは認めない！孤独の力なんて絶対に認めません！」

ジム「ふん！適当に吠えておけ！どうせ次のターンで終わる！」

実「終わらせません！あたしのターン！！！」手札3 - 4 デツキ
28 - 27

実「…手札より《戦士の生還》を発動します！」

墓地の戦士族モンスター1体を手札に加えます！《ジャンク・シンクロン》を手札に戻します！

そして、手札に戻した《ジャンク・シンクロン》を召喚！」

【ジャンク・シンクロン 3 闇/機械 チューナー ATK/1300 DEF/500】

ジム「まさか…、またシンクロ召喚を行うつもりか!?!」

実「そうです！小さな力でもそれが集えばどんな強い力でも倒せませす！」

《ジャンク・シンクロン》の効果で墓地の《サイコ・カッパー》を守備表示で特殊召喚！！！」

【サイコ・カッパー 2 水/水 ATK/400 DEF/1000】

実「そしてあたしは、手札の《ソニック・ウォリアー》と《ウィー

ド》をコストに《魔法石の採掘》を発動します！

墓地の魔法カード 《守護神の矛》を手札に戻します！

手札3 - 1

ジム「ちっ…、またそのカードか…！」

実「そして、墓地の《ソニック・ウォリアー》の効果が発動します！」

ジム「何だと!？」

実「このカードが墓地へ送られたとき、あたしの場のレベル2以下のモンスターの攻撃力を500ポイントアップさせます！」

【サイコ・カッパー 2 水/水 ATK/400 - 900 DEF/1000】

【海皇の長槍兵 2 水/海竜 ATK/1400 - 1900 DEF/0】

実「そして、装備魔法《守護神の矛》を《海皇の長槍兵》に装備！

攻撃力を1800ポイントアップさせます！」

【海皇の長槍兵 2 水/海竜 ATK/1900 - 3700 DEF/0】

ジム「攻撃力3700だと!？」

だが、まだ《The tyrant NEPTUNE》の攻撃力には届かない！」

実「…そんなことはありませんよ、あたしには弱い力を集わせる切り札が居ます！」

レベル2《サイコ・カッパー》にレベル3《ジャンク・シンクロン》をチューニング!!」

【サイコ・カッパー 2】 + 【ジャンク・シンクロン 3】 = 5

実「弱き力を集わせる戦士よ！今こそ沢山の仲間の力を借りて悪を滅ぼして！シンクロ召喚！ 集え！《ジャンク・ウォリアー》！……！」

【ジャンク・ウォリアー 5 闇/戦士 ATK/2300 DEF/1300】

実「《ジャンク・ウォリアー》の効果でレベル2以下の《海皇の長槍兵》の攻撃力 3700を加えます！」

【ジャンク・ウォリアー 5 闇/戦士 ATK/2300 DEF/1300】

実「これがあたしの信じる力！

行け！《ジャンク・ウォリアー》！《The tyrant NEPTUNE》に攻撃！！ スクラップ・フィスト！！」
ウォリアー ATK600 VS NEPTUNE ATK4100

ジム「ぐあああああああ！！」

馬鹿な！《The tyrant NEPTUNE》が倒されただと……！」 LP7250 - 5350

実「《海皇の長槍兵》で《ゴギガ・ガガゴ》に攻撃！！ ウェーブ・ランス！！」

海皇 ATK3700 VS ゴギガ ATK2950

ジム「く……くそおおっ！！」 LP5350 - 4600

実「…これであたしのターンは終了です！」

7ターン目

実LP3300 手札0 デッキ27 ウォリアー(A:6000)
海皇(A:3700)+守護神 人海
ジムLP4600 手札0 デッキ30

ジム「ちっ…、俺が…、そんなちっぽけな力に負けるはずがない!!

俺の
「

実「…このターンのドローフェイズは《無謀な欲張り》でドロー出
来ません!

これが、あなたが一人、力に貪欲になった代償です!」

ジム「ちっ…!」

8ターン目

実LP3300 手札0 デッキ27 ウォリアー(A:6000)
海皇(A:3700)+守護神 人海
ジムLP4600 手札0 デッキ30

実「あたしのターンです!」手札0 - 1 デッキ27 - 26

実「《ジャンク・ウォリアー》でダイレクトアタック!!」

スクラップ・フィスト!!!」
ウォリアー ATK6000 VS 直接

ジム「ぐあああああああああああああ!!!」 LP460
0-0

実「…孤独の力なんて…あたしは欲しくない…」

倒れたゴースト、墓地の中でも目立つ《The tyrant
EPTUNE》のカードを見て、そう呟く実。

実「…辛いけど、多分幽君は軽く倒してるだろうから…」。

早く、追いつかないと……」

そう言って、さらに奥へ進む実だった。

？（…プラネット…《The tyrant NEPTUNE》が
敗れたか、予想外だったな…。

だが、この力の意思是…（

実が去った直後、倒れたゴーストの墓地から《The tyran
t NEPTUNE》を抜き取られた。

第27話
E
N
D

第27話 孤独の力、集いし力（後書き）

補足

レ「まず、高島実の一人称だな」

満足「ああ、登場当初は『あたし』、VS幽の時は『私』になってたんだつたな」

元キン「これはどういう事だ！著者ああああ！！」

レ「これは完全ミスだ。実の一人称は『あたし』固定だ」

元キン「次に、実のデッキが、かなり遊星なんだが…」

満足「…確かに、満足できねえぜ…」

レ「そして、ベターな、最後のシーン。

まあ、フラグはs

元キン「ネタバレは良くないぞ」

レ「…すいません」

満足「まあ、他の補足だな」

元キン「言い忘れていたことだが、ゴーストにはシンクロの情報やエクシーズの情報が完全インプットされているからな。

というか、ほぼすべてのカード情報がインプットされている」

満足「著者の忘れて満足できない疑問を抱いてすまなかった」

次回予告

レ「次回、遊戯王第28話『万丈目サンダー！』…、って題名ネタ

バレじゃないか！」

満足「ゴーストの大群から逃げているクロウと天保の前に出てきた新たな2体のゴースト！」

レ「待て待て！もう次の対戦わかつちやつただろ！ネタバレ良くない！」

元キン「次回のキーカードは」

レ「わかった！題名考えた俺が悪かった！言わなくてもわかるだろう！これ以上のネタバレも良くない！」

それじゃあ、おまけだ！」

元キン「……（サツ）」

ジャックがカンペを見せる。

『次回のキーカードは《おジャマ・キング》だ！楽しみに待っておけ！』

おまけ

元キン「シリーズ化するぞ！」

レ「何が！」

元キン「しばらくは現在OCG化していないプラネットシリーズをOCG化していくぞ！」

満足「そうじゃないと、満足できねえぜ……」

レ「いや、満足できるけど……」

《^ザThe ^{デュスピア}Duspair ^{ウラヌス}Uranus》

風ノ岩石 ATK/2900 DEF/2300

1ターンに一度、相手の表側表示で存在する魔法・罠カード1枚を持ち主の手札に戻すことができる。

この効果を使用したターンのエンドフェイズまで、このカードの攻撃力は1000ポイントアップする。

漫画版では弱かったので、大幅改良。

準制限の氷結界の犬を思い出す効果だが、継承ドーンとかできないように、「相手の表側の魔法・罠カード」にのみ対応。

自分のロックを自分のターンのみ崩すとか、いろいろ再利用とかはできない。

相手のロックを崩すことはできる。重力網は戻しても次のターンでセツトされて、その後のバトルフェイズに入って発動されたら無意味ですが。

攻撃力上昇は、漫画版連想。

悪くはないけど、微妙な感じ。岩石族っていうのも、種族シナジーが薄い。

何気にダークガイヤでは声がかかるかもしれない、が、アニメ版ジムの切り札(?)のガイヤプレートのほうが特殊召喚出来て良いという。

まあ、バランス取れているんじゃないでしょうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7715u/>

遊戯王3G's

2011年12月13日09時47分発行